

志知南浦遺跡発掘調査報告

2008（平成20）年3月

三重県埋蔵文化財センター



調査区と鈴鹿越えの山（東から）



調査区遠景（西から）



SK 120石刀（86）出土状況（西から）



SX 107出土状況（東から）



加工・解体痕跡のある動物骨（796・859・860・862・969・1037）



S E 58石仏（1299）出土状況（西から）

序

日本の伝統文化の代表でもある能や歌舞伎などの古典芸能には、『平家物語』に登場する平家方の武将、悪七兵衛景清を題材とする「景清物」という分野があります。志知南浦遺跡のある志知は、古くから景清館の伝承があった場所であり、発掘調査区の近辺には景清を顕彰する石碑も建てられています。

昭和26年、四日市市南富田善教寺の本尊の阿弥陀如来像の中から、多くの文書が発見されました。この文書は13世紀前半の藤原実重という人が行った様々な仏教的善行を記録したものでした。実重についても、志知近在に住んでいた人という説が有力です。

平家方の荒武者景清と熱心な信仰者実重は、一見全く反する立場の人のように見えますが、最近の研究では、この二人は縁者であったという説も出されています。発掘調査でも鎌倉時代ごろの多くの遺物が出土し、これらが景清や実重に関連するものであった可能性が出てまいりました。そればかりでなく、縄文時代晚期の墓や奈良・平安時代の多くの墨書き土器、室町・戦国時代の職人屋敷なども確認することができました。これらは、この地に生きた先人の叡智をわれわれに伝える貴重な文化財です。

本書で報告いたします様々な情報をもとに地域の歴史が構築されるとともに、先人の高い志を知るための一助になれば幸いです。

発掘調査にあたりましては、地元の方々をはじめ、関係各位から多大な御協力と御配慮をいただきました。文末ではありますが、皆様に心から御礼申し上げます。

平成20年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫

例　　言

- 1 本書は、三重県桑名市志知字十王堂ほかに所在する志知南浦遺跡の第1次・第2次発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の発掘調査は平成14年度（主）桑名大安線国補道路改築事業、平成15年度（主）桑名大安線緊急地方道路整備事業に伴う緊急発掘調査である。調査にかかる諸費用は、三重県県土整備部が負担した。
- 3 遺跡の名称は、第1次調査時には「南浦遺跡」、第2次調査時には「志知南浦遺跡」としており、原資料もその名称を使っている場合があるが、本書ではすべて「志知南浦遺跡」に統一した。
- 4 発掘調査体制は以下のとおりである。
 - ・平成14年度 第1次調査
- 調査主体　三重県教育委員会
- 調査担当　三重県埋蔵文化財センター
- 所長　吉水康夫
- 調査研究グループ　　グループリーダー 山田　猛
　　主事　服部芳人（現地調査担当）
　　総務グループ　　主事 石井善文（経理担当）
- 調査期間 平成14年7月29日～平成15年2月28日
- 調査面積 2,772m²（上層2,072m²、下層700m²）
- 調査受託 国際航業株式会社
- ・平成15年度 第2次調査
- 調査主体　三重県教育委員会
- 調査担当　三重県埋蔵文化財センター
- 所長　吉水康夫
- 調査研究Ⅰグループ　　グループリーダー 山田　猛
　　主事　水本龍治（現地調査担当）
　　臨時技術補助員　酒井巳紀子（　〃　）
　　総務グループ　　主事 石井善文（経理担当）
- 調査期間 平成15年9月26日～平成16年2月27日
- 調査面積 2,138m²
- 調査受託 国際航業株式会社
- 5 出土遺物の整理、報告書作成は平成16・18・19年度に行った。
- 6 発掘調査にあたっては、地元の方々を始め、桑名市教育委員会、県土整備部道路整備チームからの協力を得た。
- 7 報告書の作成にあたっては以下の方々のご指導を得た。（敬称略　五十音順）
　　伊藤裕偉、江原昭善、榎村寛之、小林　秀、城ヶ谷和宏、中野晴久、藤澤良祐、堀木真美子、渡邉博人
- 8 本書の編集は、竹田憲治・酒井巳紀子が行った。各項目の執筆者は目次および文末に記した。本文の執筆は酒井・竹田・水本の他、出土動物遺体に関しては、松井章・丸山真史氏、出土織維製品の保存処理に関しては、高妻洋成氏、銅帶の成分分析に関して井上美知子氏から原稿をいただいた。
- 9 本書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究Ⅰ課および支援研究課が行った。
- 10 本書に掲載した遺構写真の撮影は、発掘調査担当者及び調査作業受託機関が行い、遺物写真的撮影は酒井巳紀子が行った。
- 11 本書で報告した記録類及び出土遺物は三重県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　　例

〈地図類〉

- 1 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1/25,000地形図、桑名市都市計画図、四日市市都市計画図、員弁郡東員町都市計画図である。
- 2 これらの地図類は、国土地理院発行地形図を除き、国土調査法の日本測地系による座標第VI系（旧国土地標）で表現されているものであるため、平成14年4月から施行されている世界測地系・測地成果2000には対応していない。
- 3 掛図の方位は全て座標北で示している。なお、磁針方位は西偏6°50'（平成12年）である。

〈造構類〉

- 4 土層図は、層の区分を実線で、調査区壁面および採掘深度に相当する部分を一点鎖線で表現している。また、造構面や層位の大区分となる層については、他の土層線よりも太い線で表現した。
- 5 土層図の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社 1967年初版）を用いた。
- 6 当報告書での造構は、当遺跡全体で通番としている。
- 7 遺構図のうち、砂目のスクリーントーンで示した部分は、焼土の範囲である。
- 8 遺構等の断面図で、平面図の相当位置に矢印があるものは、立面図となっている。
- 9 遺構番号の頭には、見た目の性格によって、凡そ以下の略記号を付けている。
S B……掘立柱建物 S D……溝 S F……焼土 S K……土坑 S R……流路
S X……土器棺墓、墓 S Z……土器溜り、集石、不明造構など Pit……柱穴、小穴

〈遺物類〉

- 10 当報告での遺物実測図類は実物の1/4を基本としている。それ以外の縮尺のものについては、その都度指示している。
- 11 遺物実測図は、当遺跡で通番としている。
- 12 当報告書での用語は、「つき」は「杯」、「わん」は「椀」に統一している。
- 13 墨書き器の判読不能な箇所は□で示した。
- 14 遺物観察表は、以下の要領で記載している。
報告書番号…鉢図掲載番号である。
実測番号…実測段階の登録番号である。
器種…遺物の器種を表す。
器形…遺物の器形を表す。
グリッド…調査時に設定したグリッド名を示した。
遺構No…遺物の出土した造構や層名を記した。「P」は土器、「S」は石、「W」は木の、それぞれ取り上げの際の区分記号である。

法量(cm)…遺物の法量を示す。口径は口縁部径、底径は底部径、器高は遺物の高さを示す。

なお、数値はそれぞれの部位の最大径であり、内法や実測段階の「接地点」ではない。

調整…技法の特徴…主な特徴を内面（内：）・外面（外：）で示した。

胎土…小石等の混和材を除いた素地の緻密さを「密～粗」で区分した。

色調…その遺物の代表となる色調を記載した。施釉陶器は、胎土の色調を記載した。表記は、前掲『新版標準土色帖』に掲る。

残存度…ある部位を12分割した際の残存度を示し、四捨五入切り上げを記した。6/12は約半分、全体が残っているものは12/12と記した。口縁部と底部は残りが良い方を選択して記載した。

特記事項…遺物の特徴となる事項を記した。

樹種同定…樹種同定は以下の機関が行い、樹種同定報告書は埋蔵文化財センターにて保管している。

（財）元興寺文化財研究所…遺物番号385、388、572、760

（株）吉田生物研究所…遺物番号258、387、390、517～527、529、531～534、537～544、591、593、598、599、659、667、1010、1134、1208、1209、1316～1319、1322、1323、1367

〈写真図版〉

- 15 掛図と写真図版の遺物番号は、実測図報告書番号と対応している。
- 16 遺物の写真図版は、縮尺不同である。

本文目次

I 前言	(水本龍治)	1
1. 発掘調査に至る経過		1
2. 発掘調査の経過		1
3. 調査と記録の方法		1
4. 整理作業とその方法		2
5. 調査・遺物指導		4
6. 発掘調査の普及・公開		4
7. 文化財保護法などにかかる諸通知		4
II 位置と環境	(竹田憲治)	5
III 発掘調査の成果	(竹田憲治、酒井巳紀子)	8
1. 基本的層位	(竹田憲治)	8
2. 縄文時代の遺構と遺物	(酒井巳紀子)	8
3. 古代の遺構と遺物	(酒井巳紀子)	31
4. 中世の遺構と遺物	(竹田憲治)	49
(A) 中世前期		49
(B) 中世後期		99
5. 包含層出土の遺物	(酒井巳紀子、竹田憲治)	168
IV 自然科学分析	(丸山真史、松井章、高妻洋成、井上美知子)	229
1. 志知南浦遺跡から出土した動物遺存体	(丸山真史、松井章)	229
2. 炭化布片の強化処置	(高妻洋成)	245
3. 志知南浦遺跡出土鎧帶の分析	(井上美知子)	249
V 結語	(竹田憲治、酒井巳紀子)	255
1. 遺構の変遷	(竹田憲治)	255
2. 縄文時代の調査成果	(酒井巳紀子)	255
3. 古代の調査成果	(竹田憲治、酒井巳紀子)	260
4. 中世の調査成果	(竹田憲治)	263

挿図目次

第1図 調査区位置図、地区杭配置図	3	第41図 S B152・153・154・159	53
第2図 遺跡位置図	6	第42図 S B160・162・163・166	55
第3図 中世城郭現況図	6	第43図 S B164・175・176・177	56
第4図 遺跡地形図	9	第44図 S B178・179・181	57
第5図 下層遺構平面図	10	第45図 S B180・185・188・193	59
第6図 調査区西壁土層断面図、土層断面図模式図	11	第46図 S B192・196・197・295	60
第7図 調査区南壁土層断面図①	12	第47図 S B296・316	61
第8図 調査区南壁土層断面図②	13	第48図 S B317・320・322・324	63
第9図 土器棺墓実測図	16	第49図 S B318	64
第10図 土器滲り、土坑実測図	17	第50図 S B319	65
第11図 SK115	18	第51図 S B326・329・334	67
第12図 土坑、集石実測図	19	第52図 S B330・344・348	68
第13図 土器棺実測図	20	第53図 S B345	69
第14図 土器棺実測図	21	第54図 SA136・187・333・342・343	70
第15図 土器棺実測図	22	第55図 SK11・80・94・101・219・228	71
第16図 土器棺実測図	23	第56図 SK237・248・261	72
第17図 土器棺実測図	24	第57図 溝土層断面図作成箇所一覧	73
第18図 土器棺実測図	25	第58図 SD14・200・247・258・266・267・ 275・279・309	75
第19図 土器滲り出土遺物実測図	26	第59図 SD200・268遺物出土状況	76
第20図 土坑出土遺物実測図	27	第60図 SE59・83・202	77
第21図 土器滲り、土坑出土遺物実測図	28	第61図 SE240・280	79
第22図 土坑・Pit出土遺物実測図	29	第62図 SE269・288	81
第23図 遺構平面図①	31	第63図 SE270	82
第24図 遺構平面図②	32	第64図 SE270、SX8	83
第25図 遺構平面図③	33	第65図 挖立柱建物・柱列・土坑出土遺物実測図	84
第26図 遺構平面図④	34	第66図 土坑・溝出土遺物実測図	85
第27図 遺構平面図⑤	35	第67図 溝出土遺物実測図	86
第28図 SB141・142・150・157	37	第68図 溝出土遺物実測図	88
第29図 SB321・323・325	38	第69図 溝・井戸出土遺物実測図	89
第30図 SK229・230・231・244	39	第70図 井戸出土遺物実測図	91
第31図 溝土層断面図作成箇所一覧	40	第71図 井戸出土遺物実測図	92
第32図 SK259・233・245、SD204	41	第72図 井戸出土遺物実測図	93
第33図 挖立柱建物・土坑出土遺物実測図	42	第73図 井戸出土遺物実測図	94
第34図 溝出土遺物実測図	43	第74図 井戸出土遺物実測図	95
第35図 溝出土遺物実測図	44	第75図 井戸出土遺物実測図	96
第36図 溝出土遺物実測図	46	第76図 井戸出土遺物実測図	97
第37図 溝出土遺物実測図	47	第77図 井戸・墓出土遺物実測図	98
第38図 溝出土遺物実測図	48	第78図 SB140・148・167	100
第39図 SB137・138・139・143・144	50	第79図 SB151・158・161・168	101
第40図 SB145・146・147・149	51		

第 80 図	S B165・170・171・182	103
第 81 図	S B169・172・173・184	105
第 82 図	S B183・189・190	106
第 83 図	S B194・195・198	107
第 84 図	S B186・327・328・332	109
第 85 図	S B331・337・338	110
第 86 図	S B335・336	111
第 87 図	S B340・346	112
第 88 図	S B339・347	113
第 89 図	SA155・156・174・191・341	114
第 90 図	SK 5・10・19・45	116
第 91 図	SK20・23・26	117
第 92 図	SK61・70・72・79	118
第 93 図	SK73・92・98・102	120
第 94 図	SK74・75・76・81	121
第 95 図	SK222・249	122
第 96 図	SK262・289・314	123
第 97 図	溝土層断面図作成箇所一覧	124
第 98 図	SD 1・9・22・31・35	125
第 99 図	SD35・37・40・62	127
第100図	SD63・201・241・247・260・265・ 285	129
第101図	SD266・267・271・272・312、SR 216	131
第102図	SE38・42・56	132
第103図	SE58・77・78・217	133
第104図	SE82	134
第105図	SE294・297	135
第106図	S X218	136
第107図	掘立柱建物・柱列・土坑出土遺物実測図	138
第108図	土坑出土遺物実測図	139
第109図	土坑出土遺物実測図	140
第110図	土坑・大溝出土遺物実測図	142
第111図	大溝出土遺物実測図	143
第112図	大溝出土遺物実測図	145
第113図	大溝出土遺物実測図	146
第114図	大溝・火葬穴出土遺物実測図	147
第115図	溝出土遺物実測図	149
第116図	溝出土遺物実測図	150
第117図	溝出土遺物実測図	151
第118図	大溝出土遺物実測図	152
第119図	大溝出土遺物実測図	154
第120図	大溝出土遺物実測図	155
第121図	大溝出土遺物実測図	156
第122図	溝出土遺物実測図	157
第123図	溝出土遺物実測図	158
第124図	溝・流路出土遺物実測図	160
第125図	流路・溝・井戸出土遺物実測図	161
第126図	井戸出土遺物実測図	163
第127図	井戸出土遺物実測図	164
第128図	柱穴・小穴出土遺物実測図	165
第129図	包含層出土遺物実測図	169
第130図	包含層出土遺物実測図	170
第131図	包含層出土遺物実測図	171
第132図	包含層出土遺物実測図	172
第133図	包含層出土遺物実測図	173
第134図	包含層出土遺物実測図	174
第135図	包含層出土遺物実測図	175
第136図	包含層出土遺物実測図	176
第137図	哺乳類の種類別比率	229
第138図	ハマグリ殻高分布	230
第139図	動物遺存体実測図	233
第140図	中世Ⅰ期動物遺存体出土地点	234
第141図	中世Ⅲ期動物遺存体出土地点	235
第142図	中世Ⅳ期動物遺存体出土地点	236
第143図	炭化布の赤外線吸収スペクトル	247
第144図	黒色付着物のFT-IRスペクトル	250
第145図	遺構変遷図①	256
第146図	遺構変遷図②	257
第147図	遺構変遷図③	258
第148図	土器棺墓分類(案)	261
第149図	鉢の產地別比率	267
第150図	瀬戸美濃製品搬入状況	267
第151図	古瀬戸製品器種別割合	268
第152図	大窯製品器種別割合	268
第153図	石仏実測図	271

表目次

第 1 表	範囲確認調査結果一覧表	2
第 2 表	遺構一覧表①	178
第 3 表	遺構一覧表②	179
第 4 表	遺構一覧表③	180

第 5 表	遺構一覧表④	181
第 6 表	遺構一覧表⑤	182
第 7 表	遺構一覧表⑥	183
第 8 表	遺構一覧表⑦	184
第 9 表	出土遺物観察表①	185
第10表	出土遺物観察表②	186
第11表	出土遺物観察表③	187
第12表	出土遺物観察表④	188
第13表	出土遺物観察表⑤	189
第14表	出土遺物観察表⑥	190
第15表	出土遺物観察表⑦	191
第16表	出土遺物観察表⑧	192
第17表	出土遺物観察表⑨	193
第18表	出土遺物観察表⑩	194
第19表	出土遺物観察表⑪	195
第20表	出土遺物観察表⑫	196
第21表	出土遺物観察表⑬	197
第22表	出土遺物観察表⑭	198
第23表	出土遺物観察表⑮	199
第24表	出土遺物観察表⑯	200
第25表	出土遺物観察表⑰	201
第26表	出土遺物観察表⑱	202
第27表	出土遺物観察表⑲	203
第28表	出土遺物観察表⑳	204
第29表	出土遺物観察表㉑	205
第30表	出土遺物観察表㉒	206
第31表	出土遺物観察表㉓	207
第32表	出土遺物観察表㉔	208
第33表	出土遺物観察表㉕	209
第34表	出土遺物観察表㉖	210
第35表	出土遺物観察表㉗	211
第36表	出土遺物観察表㉘	212
第37表	出土遺物観察表㉙	213
第38表	出土遺物観察表㉚	214
第39表	出土遺物観察表㉛	215
第40表	出土遺物観察表㉜	216
第41表	出土遺物観察表㉝	217
第42表	出土遺物観察表㉞	218
第43表	出土遺物観察表㉟	219
第44表	出土遺物観察表㉟	220
第45表	出土遺物観察表㉟	221
第46表	出土遺物観察表㉟	222
第47表	出土遺物観察表㉟	223
第48表	出土遺物観察表㉟	224
第49表	出土遺物観察表㉟	225
第50表	出土遺物観察表㉟	226
第51表	出土遺物観察表㉟	227
第52表	出土遺物観察表㉟	228
第53表	遺構の年代	229
第54表	種名表	240
第55表	哺乳類の部位別集計表	240
第56表	鈎帶のXRF分析結果	249
第57表	山茶椀時期別・産地別集計表	265

写真目次

写真 1	平群神社	7
写真 2	平景清館石碑	7
写真 3	蓮敷寺跡	7
写真 4	坂井橋	7
写真 5	ウシ	241
写真 6	アカニシ①	242
写真 7	アカニシ②	243
写真 8	アカニシ③	244
写真 9	志知南浦遺跡出土炭化布片	246
写真10	炭化布片の実体顕微鏡写真	246
写真11	鈎帶上面および側面のXRF分析箇所	249
写真12	鈎帶下面のXRF分析箇所	249
写真13	紙の黒色付着物	250
写真14	蓮敷寺前石仏	272
写真15	八幡神社境内	272
写真16	八幡神社境内	272
写真17	阿下喜石仏	272
写真18	阿下喜石仏	272
写真19	阿下喜石仏	272
写真20	飯倉石仏	272
写真21	飯倉石仏	272

写真図版目次

卷頭写真 1 調査区と鈴鹿越えの山	写真図版26 S E83/S E202	写真図版57 出土遺物⑨
卷頭写真 2 調査区遠景	写真図版27 S E269・288	写真図版58 出土遺物⑩
卷頭写真 3 SK120石刀出土状況 /SX107出土状況	/S E269鹿角出土状況 写真図版28 S E288遺物出土状況	写真図版59 出土遺物⑪
卷頭写真 4 加工・解体痕跡のある 動物骨 /SE58石仏出土状況	/S E288曲物出土状況 写真図版29 S E270/S E270	写真図版60 出土遺物⑫
写真図版 1 調査前風景/調査区遠景	写真図版30 S D268出土状況/S X8	写真図版61 出土遺物⑬
写真図版 2 調査区遠景/調査区遠景	写真図版31 S B140、SK4 /S B148、SK12・13	写真図版62 出土遺物⑭
写真図版 3 調査区遠景	写真図版32 SK10土層断面 /SK20下駄出土状況	写真図版63 出土遺物⑮
写真図版 4 調査区遠景	写真図版33 SK72・79/S K249	写真図版64 出土遺物⑯
写真図版 5 土器棺墓集中 /土器棺墓集中	写真図版34 SD1土層断面 /SD22遺物出土状況	写真図版65 出土遺物⑰
写真図版 6 SX105/S X106	写真図版35 中世後期屋敷地/S D40	写真図版66 出土遺物⑱
写真図版 7 SX107/S X107	写真図版36 SD35曲物出土状況 /SD40出土状況	写真図版67 出土遺物⑲
写真図版 8 SX108/S X108	写真図版37 S E38/S E42	写真図版68 出土遺物⑳
写真図版 9 SX111/S X111	写真図版38 S E56/S E58 /SX109深鉢倒立状況	写真図版69 出土遺物㉑
写真図版10 SX109/S X109	写真図版39 S E82/S E82	写真図版70 出土遺物㉒
写真図版11 SX109埋土除去状況 /SX109深鉢倒立状況	写真図版40 S E82/S E82付近 写真図版41 S E217/S E217	写真図版71 出土遺物㉓
写真図版12 SX113/S X114	写真図版42 SE297/S X218	写真図版72 出土遺物㉔
写真図版13 SX129/S X129	写真図版43 S X218 /SK120石刀出土状況	写真図版73 出土遺物㉕
写真図版14 S Z130/S K115	写真図版44 出土遺物①	写真図版74 出土遺物㉖
写真図版15 SK120 /SK120石刀出土状況	写真図版45 出土遺物②	写真図版75 出土遺物㉗
写真図版16 SK124/S K231	写真図版46 出土遺物③	写真図版76 出土遺物㉘
写真図版17 区画全景/区画全景	写真図版47 出土遺物④	写真図版77 出土遺物㉙
写真図版18 区画全景/区画全景	写真図版48 出土遺物⑤	写真図版78 出土遺物㉚
写真図版19 区画全景 /山茶梅出土状況	写真図版49 出土遺物⑥	写真図版79 出土遺物㉛
写真図版20 SB164、SK24・25 /SK91	写真図版50 出土遺物⑦	写真図版80 出土遺物㉜
写真図版21 SB196、SK18 /SB296・334	写真図版51 出土遺物⑧	写真図版81 出土遺物㉝
写真図版22 SE59/S E59	写真図版52 出土遺物⑨	写真図版82 出土遺物㉞
写真図版23 SE59/S E83	写真図版53 出土遺物⑩	写真図版83 出土遺物㉟
写真図版24 SE83/S E83	写真図版54 出土遺物⑪	写真図版84 出土遺物㉟
写真図版25 SE83/S E83	写真図版55 出土遺物⑫	写真図版85 出土遺物㉟
	写真図版56 出土遺物㉟	写真図版86 出土遺物㉟
		写真図版87 出土遺物㉟
		写真図版88 動物遺存体①
		写真図版89 動物遺存体②
		写真図版90 動物遺存体③
		写真図版91 動物遺存体④
		写真図版92 動物遺存体⑤
		写真図版93 動物遺存体⑥
		写真図版94 道路完成後/道路完成後

I 前 言

1 発掘調査に至る経過

三重県教育委員会では、国及び県にかかる各種公共事業に関して、各開発部局の事業を照会し、埋蔵文化財の確認と保護に努めている。

こうした中で、三重県桑名市志知地内で、緊急地方道路整備事業にかかる県道桑名大安線の事業計画が明らかになってきた。

事業地内には、古代～中世の周知の遺跡である南浦遺跡（桑名市遺跡番号59）が存在していた。三重県埋蔵文化財センターでは、遺跡の状況を把握するため、平成9・10年度に路線内の分布調査を行い、遺跡の事業地内6,600m²に土師器や山茶椀が散布していることを確認した。

三重県教育委員会と三重県埋蔵文化財センターで

は、分布調査の結果をもとに県土整備部道路整備課と保護のための協議を行うとともに、遺跡の詳細を確認するため平成13年10月24日に、事業地内の6,600m²に10ヶ所（66m²）の調査坑を設定して範囲確認調査を行った。その結果、事業地内の5,000m²に古代から中世にかけての遺構が存在し、土師器・須恵器・灰釉陶器などが出土し、同時代の集落跡が存在することが確認された。

その結果をもとに、三重県教育委員会と三重県埋蔵文化財センターでは、開発部局と保護のための協議を行ったが、現状保存は困難であるとの結論に達し、事業地内の5,000m²に関して、記録保存のための発掘調査を行うことになった。

2 発掘調査の経過

①第1次調査

第1次調査は、平成14年7月29日から15年2月28日まで行った。

当初は記録保存が必要な面積5,000m²のうち、発掘調査が可能である4,210m²の調査を単年度で行う予定であったが、調査途中で下層700m²に绳文時代

晩期の遺構が存在することが確認されたため、この年度は2,772m²（下層700m²を含む）の発掘調査を行い、翌年度に繼續して調査を行うことになった。

②第2次調査

第2次調査は、平成15年9月26日から16年2月27日まで行った。調査面積は2,138m²である。

3 調査と記録の方法

①掘削の方法

範囲確認調査では、地表面下約35～60cmまで表土層があり、その下には遺物を多量に含む層が存在することが指摘されていた。また、調査区は西高東低の地形のため東部ほど各深度が大きくなっている。発掘調査ではその知見に従い、地表下約45～60cmまでを重機掘削し、人力掘削の前に調査区四方の壁沿いに土層確認及び排水のための溝を掘削した。この溝は重機で掘削し、人力で精査した。その後、重機掘削面から約10～25cmまで人力で削り込んだところを遺構検出面として精査した。

②地区設定

調査区内は、4m四方の枠目で切ることによって小地区（グリッド）を設定している。グリッド線は、

国土調査法の第VI系国土座標にあわせて、X=-104,680、Y=56,036を基点とし、北から南にA～Uのアルファベット（大文字）、西から東に1～53の数字を付与した。小地区の名称（地区名）は北西隅になる交点を用いた。

③出土遺物の取り上げ

出土遺物は、出土年月日と層位・遺構の区別を行い、小地区単位で取り上げている。それぞれの遺物には専用のラベルを現地で入れて洗浄などを行ったうえで、三重県埋蔵文化財センターに搬送した。

④遺構面図

遺構検出段階で、1/40の略測図を作成している。これは「遺構カード」として用いるものであり、遺構ごとの出土遺物や埋土の状況を記録している。遺

構カードはグリッド単位で作成している。

1/40の略測図を元に、さらに1/100の遺構配置図を作成している。これは、調査区全体の遺構配置を早い時期に認識する必要があると考えたためである。

発掘調査終了後に、正確な全体図を作成した。調査区の平面図は、1/20で手書き実測した。

また、個々の遺構で、遺物出土状況などが重要と

判断したものについては、1/10の個別実測図を作成した。土層図は、1/20で作成した。

⑤遺構写真

遺構関連の写真は、重要なものを4×5版ないしは6×7版（プローニー）で撮影し、細かな記録には35mm版で撮影した。それぞれのフィルムは、白黒とスライドを同時に作成している。

4 整理作業とその方法

①遺跡の名称

第1次調査は桑名市の周知の遺跡名である「南浦遺跡」という名称で行ったため、一部の資料には「南浦遺跡」として記録されているものがある。

第2次調査開始にあたり、県内には「南浦遺跡」と称する遺跡が複数あり、平成16年度には度会郡玉城町にて「南浦遺跡」の発掘調査が予定されていたため、混乱を避けるためそれぞれの頭に大字名をつけ、桑名市のものを「志知南浦遺跡」、玉城町のものを「佐田南浦遺跡」とした。

②遺物の整理

1次調査では、発掘調査現場で出土遺物の洗浄・注記作業を実施した後、当センターへ搬送して接合作業を実施した。また、2次調査では、発掘調査現場で出土遺物の洗浄作業のみ実施し、その後、当センターへ搬送して注記・接合作業を実施した。

発掘調査実施の翌平成16年度中に、発掘調査担当者が報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分した。報告書掲載遺物については、実測作業等を行った。未掲載遺物は袋詰めにし、整理箱に収納した後に、専用収蔵庫へ搬入した。報告書掲載遺物については、そ

れぞれ1枚ずつ専用のラベルを付加し、収蔵後の混亂を避けている。

当調査にかかる出土遺物は、整理の結果、報告書掲載分および参考資料としての手元保管分として68箱、報告書未掲載分83箱となった。（平成18年3月段階）、後者については、当センターが占有する取藏庫で保管し、前者は当センター内の収蔵庫で保管している。

③図版作成と遺物写真撮影

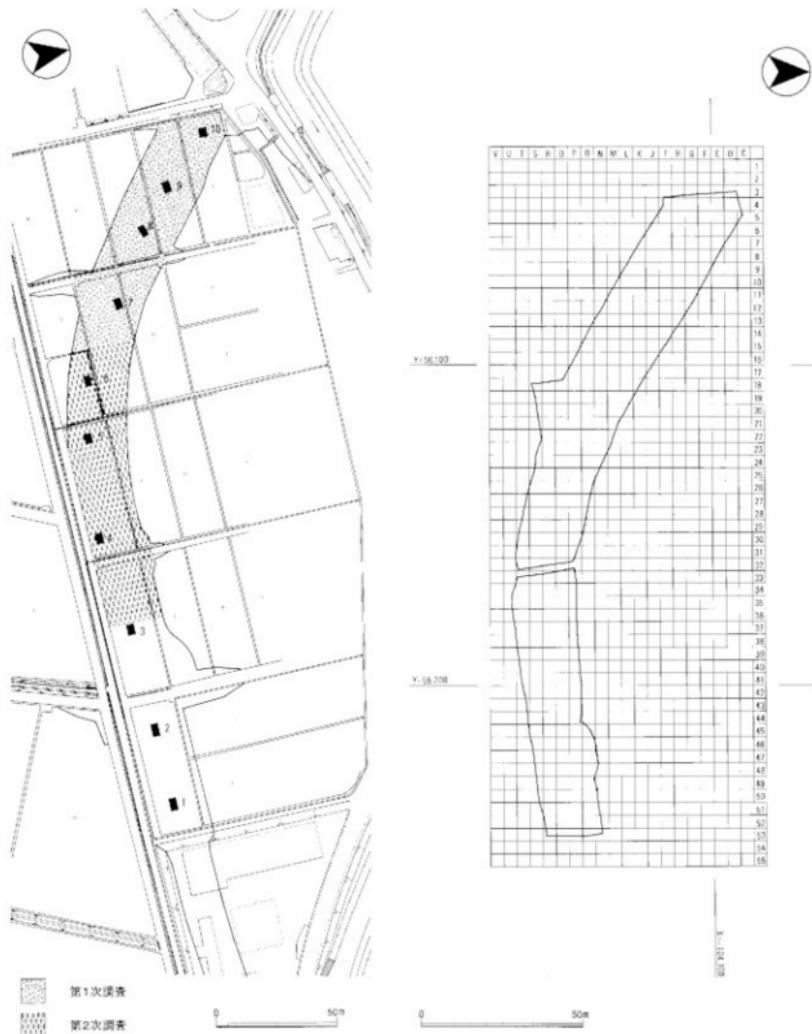
実測図等が完成した遺物類は、報告書作成のための観察や図版作成を行った。これらの遺物類は、報告書掲載順に収蔵し、報告書完成後の利活用に備えた。また、実測図そのものも、記録保存の一環として保存している。

報告書用に作成した版下類やトレース図類については、報告書完成後に廃棄した。

報告書掲載遺物は、報告書用の写真を4×5版ないしは6×9版（プローニー）で撮影した。遺物写真的撮影は、報告書掲載資料全てではなく、掲載資料のうちの主立ったものとした。

範囲確認坑 No.	遺物包含層 上面の深さ(cm)	遺構上面の深さ (cm)	遺構	遺物
1	—	—	—	—
2	—	—	—	—
3	—	—	—	—
4	45	80	ピット	土師器片
5	60	80	土坑	土師器片
6	—	75	溝	土師器片
7	55	75	土坑、ピット	土師器片
8	35	60	ピット	土師器片
9	40	55	ピット	土師器片、須恵器片、灰釉陶器片
10	40	60	ピット	土師器片

第1表 範囲確認調査結果一覧表



第1図 調査区位置図(1:2,000)、地区杭配配置図(1:1,500)

④記録類

発掘調査にかかる記録類には、調査関連図面（平面図・土層断面図など）、遺構カード（1/40縮尺）、

調査日誌、写真類がある。これらは、所定の番号を付与し、当センター収蔵庫で保管している。

5 調査・遺物指導

発掘調査及び整理作業中に、齊藤理・水谷芳春・宇佐美亜紀・石神教親（周辺環境）、大下明（石器）、堀木真美子（石材）、渡邊博人・城ヶ谷和広（須恵器）、伊藤裕偉（中世土師器）、藤澤良祐・中野晴久

（中世陶器）、榎村寛之・小林秀（墨書）、江原昭善（人骨・火葬穴）、松井章・丸山真史（動物遺体）、高妻洋成（遺物保存修復）の各氏のご教示を得た。

6 発掘調査の普及・公開

当該発掘調査にかかる普及・公開事業としては、下記のものを実施した。

・現地説明会（来所者約120名、平成14年12月21日。説明会資料として、「南浦遺跡発掘調査ニュース」を配布）、雨天のため屋外での遺構解説は行わず、出土遺物の解説を行う。

・桑名市教育委員会主催ふれあい歴史教室（参加者約50名、平成15年3月15日。歴史教室資料として、「南浦遺跡発掘調査ニュース」を配布して、スライド上映・遺物解説。）

・出前歴史教室講座（参加者、桑名市立久米小学校6年生104名、平成15年4月25日。講座資料として、「南浦遺跡発掘調査ニュース」を配布して、スライド上映・遺物解説。）

・遺跡見学会（参加者、桑名市立久米小学校6年生5名、平成15年11月14日。見学会資料として、「志知南浦遺跡の発掘調査」を配布して、遺構・遺物解説

と遺物接合体験。）

・現地説明会（来所者約75名、平成16年1月17日。説明会資料として、「志知南浦遺跡（二次）発掘調査ニュース」を配布）。雪のため屋外での遺構解説は行わず、出土遺物の解説を行う。

・遺跡見学会（参加者、桑名市立久米小学校6年生104名、平成16年1月21日。見学会資料として、「志知南浦遺跡（二次）発掘調査ニュース」を配布して、遺構・遺物解説。）

・遺跡見学会（参加者、桑名市立久米小学校6年生2名、平成16年2月4日。遺跡の写真取材。）

・三重県埋蔵文化財センター通信『みえ』第37号（平成16年3月31日発行）に、特集記事「鎌倉～戦国時代のお屋敷が広がる志知南浦遺跡」を掲載。

・朝日町教育委員会主催文化教養講座「身近な遺跡案内」（参加者約50名、平成16年12月11日。講座資料として「南浦遺跡」を配布。）

7 文化財保護法等にかかる諸通知

当遺跡発掘調査にかかる文化財保護法関係の諸通知は、以下により行っている。

①発掘通知（三重県文化財保護条例第48条第1項、県知事→県教育長）

・平成14年6月4日付け桑建第321号

②発掘調査の実施報告（文化財保護法第58条の2（現行99条）第1項、県埋蔵文化財センター所長→県教育長）

・平成14年7月24日付け教理第129号

・平成15年10月10日付け教理第172号

③文化財発見・認定通知（遺失物法、県教育長→桑名警察署長）

・平成15年3月10日付け教理第8—15号

・平成16年3月17日付け教理第7—15号

（水本）

II 位置と環境

志知南浦遺跡（1）は、員弁川の南岸の標高約18mの自然堤防上に立地する。現在は桑名市大字志知に所在する。遺跡範囲は東西約700m、南北約500mと広大で、字「南浦」のほか、「天王堂」・「十王堂」・「鎮守堂」・「若宮」・「熊田」・「若之田」・「六之坪」などを含んでいる。遺跡内には奈良時代から鎌倉時代の遺物が散布する。現在の地目は水田であるが、発掘調査地点は昭和20年代、調査地点南側は昭和60年代には場整備が行われており、それ以前には条里地割も残存し、微高地（煙地）と低湿地（水田）が混在していたと思われる。

旧石器～弥生時代 この時代の遺跡は、低地部ではあまり確認されていない。員弁川流域でも、この時代の遺跡は上流～中流域に集中する。主なものでは、繩文時代中期の遺物が出土した村前遺跡（2）、^① 晩期の土器棺墓が出土した山田遺跡（3）、^② 晩期の凸帯文土器が出土した宇賀遺跡（4）などがあげられる。
古墳時代 当遺跡に隣接して、志知遺跡がある。この遺跡では須恵器、土師器、古代の土馬のほか、「異形土器」が出土し、祭祀関連の遺跡とされる。遺跡内にある平群神社（写真1）には、ヤマタタケルの伝承も残されている。また、員弁川北岸には、前方後円墳の高塚古墳（5）、前方後円墳である1号墳を含む岡古墳群（6）がある。発掘調査が行われ横穴式石室が出土した宇賀新田古墳群（7）などもある。
奈良・平安時代 �ting 員弁川北岸には金堂・講堂・塔・門跡が確認され、山田寺式や川原寺式の瓦や埴仏が出土した額田庵寺（8）、山田庵寺（9）がある。七和窯跡群（10）では、平安時代を中心とした陶器が焼成されている。

前述の村前遺跡からは、多数の縁輪陶器が出土している。他に北岸には、西方庵寺（11）・七和庵寺（12）などの寺跡や、延喜式内社候補地の猪名部神社（13）・鳥取山田神社（14）・鳥取神社（15・16）・大谷神社（17）・星川神社（18）などがあり、古代員弁郡の中心地であったと考えられる。

員弁川南岸では、広山A・B遺跡（19）、西山遺跡（20）・新野遺跡（21）などで発掘調査が行われ

ている。広山A・B遺跡では丘陵上で平安時代の掘立柱建物が、西山遺跡・新野遺跡では、奈良時代から平安時代にかけての集落から多数の鉄鋤などが出土している。延喜式内社候補地も平群神社（22）・多奈門神社（23）などが存在している。平群神社では土師器・須恵器や土馬が出土している。

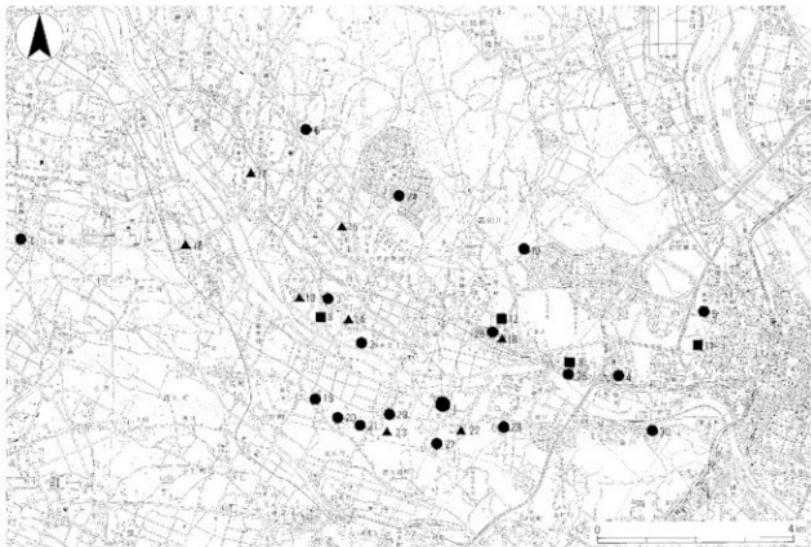
平安時代末～鎌倉時代 この時代になると、遺跡の数が飛躍的に増える。志知南浦遺跡内に含まれる「景清屋敷」（写真2）は、平安時代末の武将平景清の屋敷跡の伝承地である。

四日市市南富田町の善教寺にある阿弥陀如来立像の胎内には、13世紀前半の藤原実重が記した「作善日記」^③が納められていた。この日記には実重の員弁川流域の寺社への篤い信仰が記されているが、その中には志知南浦遺跡の南にある「へくり」（＝平群神社）や「しちのみとう」（志知の御堂）などが登場する。前述したように志知南浦遺跡内には寺社に関連する地名が多く残され、「蓮敬寺跡」の想定地（写真3）も存在する。これらのはずれかが「志知の御堂」であった可能性がある。

平景清・藤原実重について文献史学から、平景清（実際は藤原氏）と藤原実重は縁戚で、ともに員弁川流域に居住しており、その中でも志知付近に居住^④していた可能性が高いことが指摘されている。

室町～戦国時代 この時代になると、桑名の港と近江を結ぶ、「八風越」の往来が盛になる。この道は、桑名から員弁川をさかのぼり、坂井（写真4）・梅戸・田光を通り、八風峠で近江に抜けていたとされている。八風越で近江にもたらされたものには、伊勢湾岸や木曾川流域のものが多く含まれている。八風越以外にも、近江と伊勢とを結ぶ交通路は複数あり、天文13年（1544）に近江から尾張に向う連歌師の宗牧は鞍掛越にて伊勢に入っている。

山上に城館が多く造られるのもこの時期である。員弁郡には、「北方一揆」という中小領主層の連合があったが、中世城館の多くはこのような中小の領主層によるものと考えられている。員弁川北岸には、発掘調査が行われ、多数の建物跡や交趾三彩などが



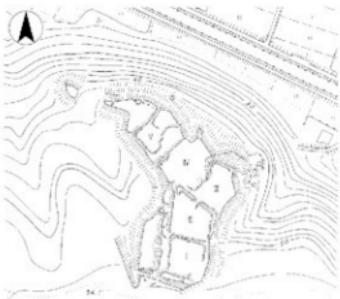
第2図 遺跡位置図(1:1,000,000)【国土地理院 1:50,000「桑名」】



志知城跡



島田城跡



中上城跡



桑部城跡

第3図 中世城郭現況図(1:4,000)

出土した山田城跡（24）や、額田城跡（25）・星川城跡（26）などがある。南岸でも志知城跡（27）、島田城跡（28）、中上城跡（29）や発掘調査が行われ戦国時代末の多くの遺物が出土した桑部城跡（30）などがある。

永禄末の織田信長の侵攻から小牧長久手の戦いに至るまで、北伊勢では諸勢力による戦乱が続く。天正初年の長島の一一向一揆では、木曾三川から員弁川流域の多くの城が戦場となった。また、小牧長久手の戦いに続く北伊勢の争乱では、長島・桑名を根拠とする織田信雄方と、それを南から攻撃する羽柴秀吉方が対峙した。この戦いの後、織田信雄は、豊臣政権の大名になり、検地や兵農分離を進め、中世的な在地構造から近世的な在地構造への転換がなされたと考えられている。
(竹田)

【参考文献】

- 『三重県の地名』(平凡社、1983年)
『三重の中世城館』(三重県教育委員会、1977年)
『桑名市遺跡地図』(桑名市教育委員会、1995年)
- 【註】
- ① 『村前遺跡現地説明会』(東員町教育委員会、1992年)
 - ② 『山田遺跡発掘調査報告』(東員町教育委員会、2001年)
 - ③ 『宇賀遺跡発掘調査報告書』(桑名市教育委員会、2001年)
 - ④ 『宇賀新田古墳群』(大安町教育委員会・三重大学人文学部考古学研究室、2003年)
 - ⑤ 『式内社調査報告』第7巻(皇學館大学出版部、1977年)
 - ⑥ 『一般国道475号東海環状自動車道埋蔵文化財発掘調査概報VII』(三重県埋蔵文化財センター、2001年)、『一般国道475号東海環状自動車道埋蔵文化財発掘調査概報VIII』(三重県埋蔵文化財センター、2002年)
 - ⑦ 『西山道路・新野道路』(東員町教育委員会、1976年)
 - ⑧ 前掲註⑤と同じ。
 - ⑨ 『善教寺文書』(『四日市市史』第16巻別冊、四日市市、1994年)
 - ⑩ 堀越光伸「藤原実重難惑」(『三重県史研究』第7号、1991年)、田中伸一「藤原実重の素性と信仰」(『研究紀要』第1号、四日市市立博物館、1993年)、石神教親「『作善日記』からみた多度」(『三重県史研究』第18号、三重県、2003年)
 - ⑪ 『歴史の道調査報告書』IV-2 (三重県教育委員会 1984年)
 - ⑫ 『東国日記』(『群書類從』第18輯下)
 - ⑬ 飯田良一「北伊勢の国人領主～十カ所人数、北方一揆を中心にして～」(『年報中世史研究』9、1984年)
 - ⑭ 『山田城跡』(東員町教育委員会、1984年)
 - ⑮ 伊藤徳也「桑名市城の城郭遺構」(『Mie history』vol.15 三重歴史文化研究会 2004年)
 - ⑯ 前掲註⑤と同じ。
 - ⑰ 伊藤徳也「北伊勢における中世城郭の現況」(『研究紀要』第6号 三重県埋蔵文化財センター、1997年)
 - ⑱ 『桑部城跡第2次発掘調査報告書』(桑名市教育委員会 1997年)



写真1 平群神社（北西から）



写真2 平景清館石碑（東から）



写真3 蓮敬寺跡（東から）



写真4 坂井橋（東から）

III 発掘調査の成果

1 基本的層位

発掘調査区の基本的層位は、第1層：耕作土（暗オリーブ色砂質土）、第2層：床土（灰オリーブ色砂質土）、第3層：中世遺物包含層（暗褐色土）、第4層：縄文時代遺物包含層（褐色土）、第5層：基盤層（褐色土）である。基本的に古代・中世の遺構

（上層）は第3層から、縄文時代晚期の遺構（下層）は第4層から掘削されている。上層の遺構検出は第4層上面で、下層の遺構検出は第5層上面で行った。上層の検出面の深さは現地表面から0.5m程下、下層は0.7m程下である。
(竹田)

2 縄文時代の遺構

（1）遺構

縄文時代の遺構は、小地区ではJ11区からR20区の範囲、上層遺構SD35とSD63の間にのみ存在する。前節の通り、遺構検出を第5層基盤層上面で行っているため、土器棺墓の掘形等は検出できなかつた。遺構の時期は、出土遺物から大半が五貫森（新）式期、SX106・108が馬見塚式期である。

① 土器棺墓

土器棺墓は、いずれも棺の掘形を検出できなかつたが、土器の出土状況から土器棺と判断した。確認できた土器棺墓は9基である。棺内から骨片などは出土していない。

S X105

埋設状況：横位

① ②

棺身：深鉢（1）

個体数：1個体

深鉢の底部のみが残存する。口縁部から体部上半は、上層遺構SD35（中世後期）に壊される。

S X106

埋設状況：横位

棺身：深鉢（2）

個体数：1個体

重複関係：SX129→SX106

他の遺構との前後関係がわかる土器棺墓である。棺の残りが良く、深鉢の形状を留めている。

S X107

埋設状況：横位

棺身：深鉢（3・4）と蓋（5）

個体数：2個体

S X108の西側で確認した。深鉢（3・4）は、同一個体である。3・4は、底部は残存していない。口縁部を打ち欠いた蓋（5）の頭部を4の口縁部が覆っている。

S X108

埋設状況：横位

棺身：蓋（7）

個体数：1個体（他に不明2個体）

S X107の東側で確認した。他に深鉢の体部片（6）や底部片（8）も出土したがこれらが棺の部材であったかどうかは不明である。

S X109

埋設状況：横位

棺身：深鉢（9・10・11）

個体数：3個体

深鉢（9）の底部は、上層遺構SD62（中世後期）に壊されている。深鉢（10）の口縁部に9の口縁部を重ねている。10は底部が欠損しており、そこに深鉢（11）の半身を重ねる。さらにその上に11の残りの半身を重ねている。

S X111

埋設状況：横位

棺身：深鉢（13）

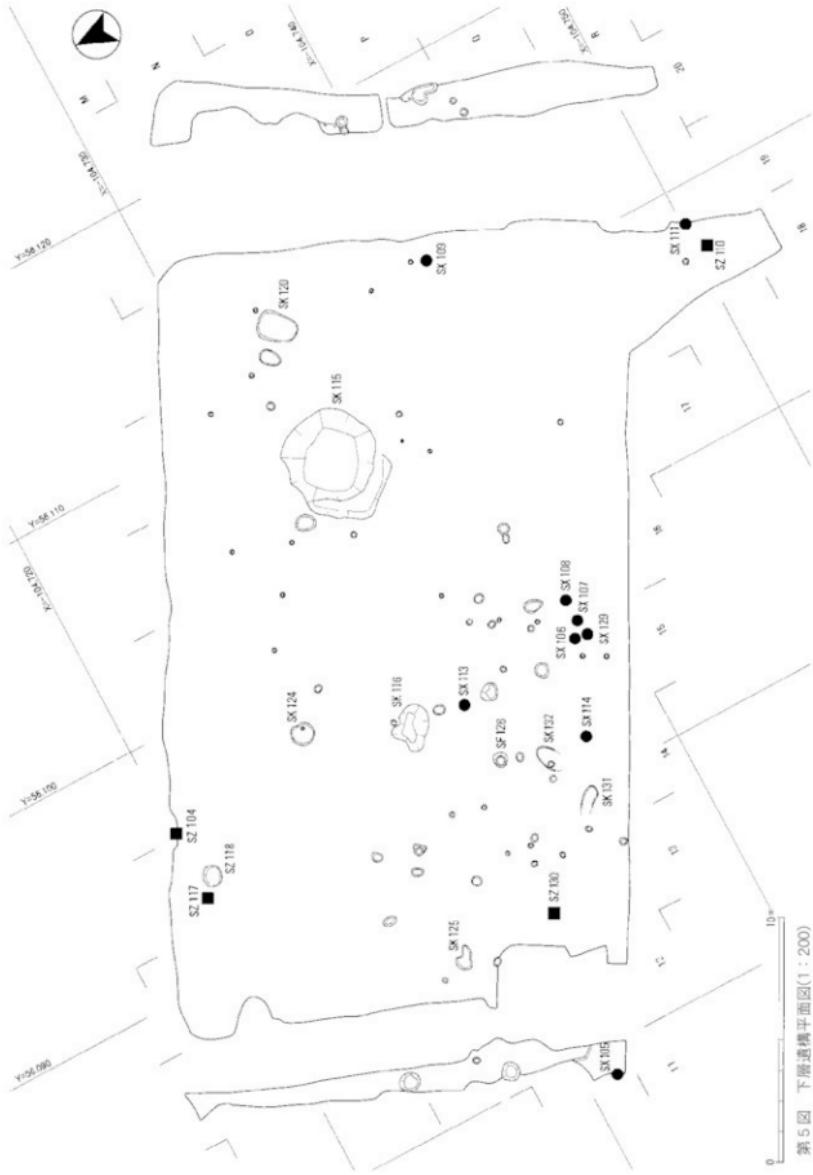
棺蓋：深鉢（12）

個体数：1個体

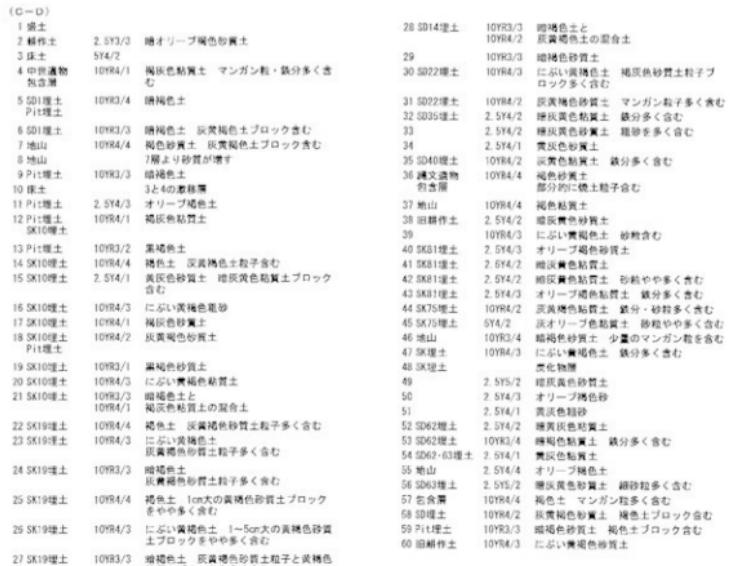
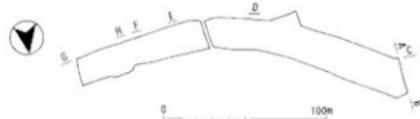
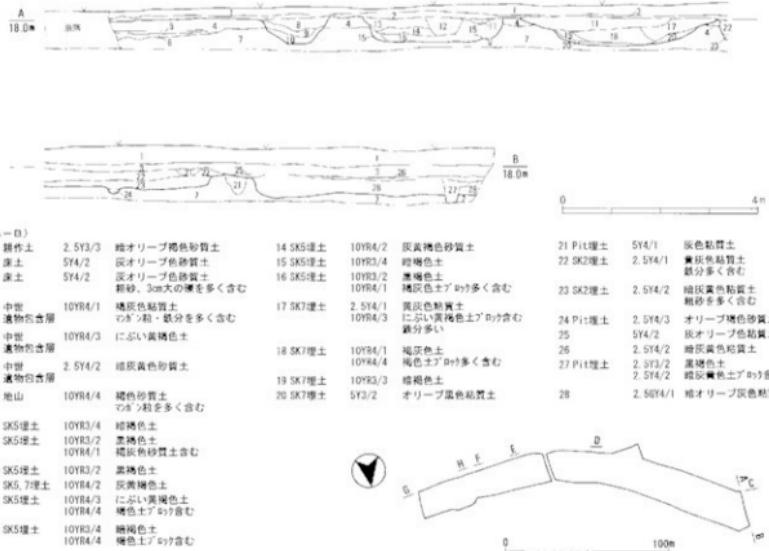
深鉢（13）は、底部のみが残存する。深鉢（12）は、口縁部を下向きに13の口縁部を覆っている。



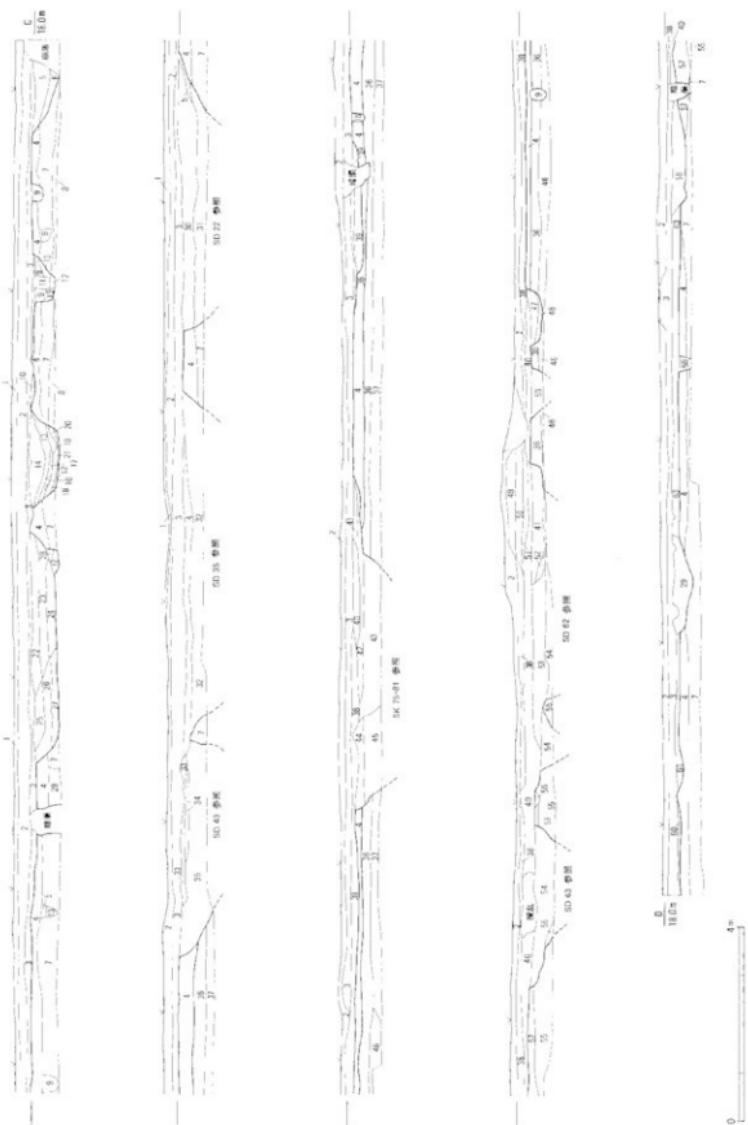
第4図 遺跡地形図(1:5,000)



第5圖 下層遺構平面圖(1：200)



第6図 調査区西壁土層断面図(1:100)、土層断面図模式図(1:3,000)



第7図 調査区南壁土層断面図① (1:100)



第8図 調査区南壁土層断面図② (1 : 100)

(G - H)			
1 10YR6/1	褐色土 【盛土】 5mm大の砂を多量に含む	31 10BG6/1	青灰色粘質土 10層より灰色粘土の混入が多い
2 10YR5/1	褐色灰色粘質土 【耕作土】 ワカシ粒がまだらに入る。	32 10BG6/1	青灰色粘質土 懸垂土にワカシ粒が混入する
3 10YR5/1	褐色灰色粘質土 1~3cm大の礫を少量含む	33 10BG6/1	青灰色粘質土 34層より赤褐色土ワカシ粒が少ない
4 2.5Y5/1	黄灰色粘質土 1mm以下の砂粒を多量に含む	34 10BG6/1	青灰色粘質土 41層より赤褐色土ワカシ粒が少ない 1mm以下の砂粒を多量に含む
5 7.5YR7/6	橙色粘質土 1~3mmの礫を少量含む 1mm以下の砂粒を多量に含む	35 10BG6/1	青灰色粘質土 赤褐色土ワカシ粒を多量に含む 1mm以下の砂粒を多量に含む
6 2.5Y5/1	黄灰色粘質土 1~3mmの礫を少量含む	36 5Y5/1	灰色粘質土 39層より1cm大の礫を多く含む
7 2.5Y5/1	黄灰色粘質土 6層よりワカシ粒の混入が多い	37 5Y5/1	灰色粘土 1mm以下の砂粒を多量に含む
8 2.5Y5/1	黄灰色粘質土 青灰色粘土が薄く混入する 1mm以下の砂粒を多量に含む	38 7.5Y5/3	灰オリーブ色粘質土 1~5mmのワカシ粒・1mm以下の砂粒を多量に含む
9 2.5Y5/1	黄灰色粘質土 8層よりワカシ粒を多く含む	39 5Y5/1	灰色粘質土 1mm以下の砂粒を多量に含む
10 10BG6/1	青灰色粘質土 [SD201 - SK215 - SD268埋土] 砂粒を多量に含む	40 2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土 3~7cm大の礫を多量に含む
11 10BG6/1	青灰色粘質土 1mm以下のワカシ粒を少量含む 1mm以下の砂粒を多量に含む	41 2.5Y6/2	灰黄色粘質土 1cmの黄褐色土ワカシ粒を斑点状に含む 1mm以下の砂粒を多量に含む
12 10BG6/1	青灰色粘質土 13 2.5Y5/1	42 5Y6/1	灰色粘質土 1~3cmのワカシ粒・1mm以下の砂粒を多量に含む
14 2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土 1~5mm大の礫・1mm以下の砂粒を多量に含む	43 2.5Y5/3	黄褐色粘質土 1~5cmのワカシ粒を少量含む
15 2.5Y5/1	黄灰色粘質土 1~3mmの礫を多量に含む	44 2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土 1~3cmのワカシ粒を多量に含む
16 10BG6/1	青灰色粘質土 3~5mmのワカシ粒・1mm以下の砂粒を多量に含む	45 2.5Y6/1	黄灰色粘質土 1mm以下の赤褐色土ワカシ粒を多量に含む
17 10BG6/1	青灰色粘質土 1~3cmのワカシ粒を多量に含む	46 2.5Y6/6	明黄褐色粘質土 1~5cmのワカシ粒・1cmのワカシ粒を多量に含む
18 2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土 1~3mmの礫・1mm以下の砂粒を多量に含む	47 2.5Y5/1	黄灰色粘質土 1cm以下の赤褐色土ワカシ粒を多量に含む
19 2.5Y5/1	黄灰色粘質土 1mm以下の砂粒を多量に含む	48 2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土 1mm大のワカシ粒・1~3cmのワカシ粒を多量に含む
20 2.5Y6/2	黄灰色土 1mm以下の砂粒を多量に含む	49 2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土 49層よりワカシ粒の混入が多い
21 10BG6/1	青灰色粘質土 3~5cmのワカシ粒を多く含む	50 5B5/1	青灰色粘質土 1~3cmのワカシ粒を多量に含む
22 10BG6/1	青灰色粘質土 1~3mmの礫を少量含む 1mm以下の砂粒を多量に含む	51 10YR5/1	褐灰色粘質土 0.5~1cmのワカシ粒・1mm以下の砂粒を多量に含む
23 2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土 1~3mmの砂粒を多量に含む	52 10YR4/2	灰黄褐色粘質土 5mm大のワカシ粒・黄褐色粒子を横棒状に多量に含む
24 2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土 3~10cmの砂粒を多量に含む	53 2.5Y5/3	黄褐色粘質土 5mmのワカシ粒を多量に含む
25 5Y6/1	灰色粘質土 1mm以下の砂粒・1~3cmのワカシ粒を多量に含む	54 10YR3/2	黑褐色土 ワカシ粒を多量に含む。1cm以下の礫を極少量含む
26 5Y6/1	灰色粘質土 1cmの礫を極少量含む。1mm以下の砂粒を多量に含む 明赤褐色粘質土	55 10YR3/2	黑褐色土 55層よりワカシ粒・ワカシ粒を多量に含む
27 5YR5/6	3~10cmの砂粒を多量に含む	56 10YR6/6	明黄褐色土 1mm以下の黄褐色粒子を多量に含む 1mm以下の砂粒を少量含む
28 2.5Y4/2	暗灰黄色粘質土 3~5mm大の礫を多量に含む 1mm以下の砂粒を少量含む	57 5B5/1	青灰色粘質土 1mm以下の砂粒を少量含む
29 5Y6/1	灰色粘質土 1mm以下の砂粒を多量に含む 暗灰黄色粘質土	58 10YR6/6	明黄褐色土 57層より黄褐色粒子を多量に含む
30 2.5Y5/2	1~3cm大のワカシ粒を多量に含む	59 10YR3/2	黑褐色土 ワカシ粒・ワカシ粒の隙間に砂粒を多量に含む
		60 10BG6/1	青灰色粘質土 青灰色粘土を多量に斑状に含む
		61 10BG6/1	青灰色粘質土 綠灰色粘土を斑状に含む

S X113

埋設状況：立位

棺身：深鉢（14）

個体数：1個体

深鉢（14）の体部下半が立位で出土した。底部はなく、打ち欠いたものもしくは欠損していた深鉢を埋設したと考えられる。上半は削平をうけている。

S X114

埋設状況：立位

棺身：深鉢（15）

個体数：1個体

深鉢（15）の底部が出土した。非常に残りが悪く、底部は完存するものの打ち欠きや穿孔は見られない。上部は削平をうけている。

S X129

埋設状況：横位

棺身：深鉢（16・17）

個体数：2個体

重複関係：S X129→S X106

深鉢（17）は、S X106により体部下半が壊されている。深鉢（16）の体部上半及び底部は残存していないかった。17の口縁部を覆うように16を重ねている。磨製石斧（18）が出土したが、混入遺物と考えられる。

②土器溜り

遺構の輪郭が不明瞭で、土器の集中が見られるものを土器溜りとして報告する。土器溜りの中には、土器片を組み合わせた土器棺墓が含まれているかもしれない。

S Z104

規模：0.5×0.25m

主要出土遺物：19

上層遺構S D36（中世後期）を掘削中に確認した。

深鉢がかたまって出土した。

S Z110

規模：0.5×0.5m

主要出土遺物：20・21

突帯をもつ深鉢がかたまって出土した。土器棺墓であった可能性がある。

S Z112

規模：1.4×1.2m

主要出土遺物：24～32、63・64

S X106の東側で確認した。10個体以上の深鉢や浅鉢、石鏃未製品が出土した。

S Z130

規模：0.8×0.4m

深鉢の底部片が出土した。

③集石

S Z117

規模：0.4×0.4m

直径4～10cmの大円礫が30数点集中していたので集石遺構とした。石は楕円形状に分布し、被熱した痕跡はない。

④土坑

S K115

規模：4.0×4.0m、深さ110cm

主要出土遺物：39～54、69～81

南西側がテラス状になる。埋土の第3層と4層の間に炭化物層があり、その上から多くの遺物が出土している。炭化物層を境に浅い土坑と深い土坑があつた可能性がある。土坑内からは、磨製石斧や磨石などの他に拳大程度の円礫が20点程出土した。いずれも被熱した痕跡は見られない。

S K116

規模：1.9×1.2～1.4m、深さ40cm

主要出土遺物：55、82～85

不整形の土坑で、上面には石がある。埋土からは、深鉢、チャート片や10～20cm程の円礫が20数点出土した。円礫には、被熱したものや煤が付着したもののがあった。

S K120

規模：1.65×0.9～1.15m、深さ5cm

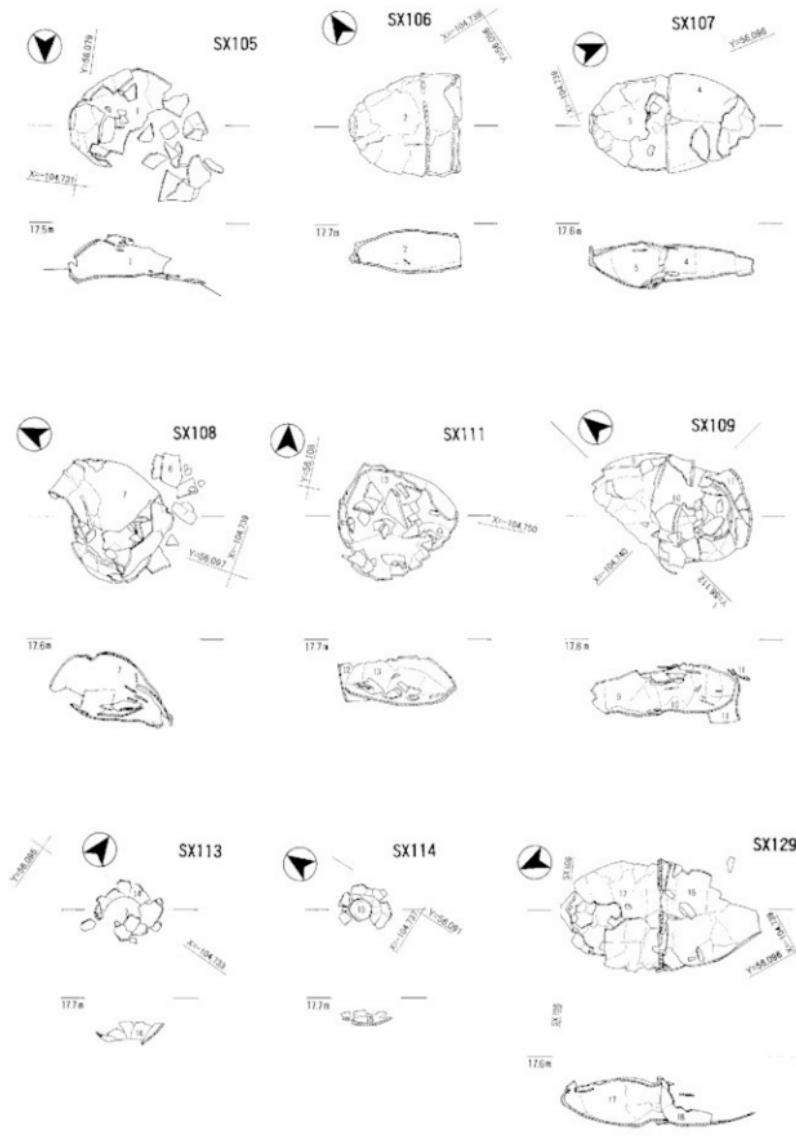
主要出土遺物：56・57、86・87

隅丸長方形の土坑で、深鉢、石刀が出土した。石刀を確認後、その下部を精査する過程で土坑を検出した。土坑は、上層（中世）の柱穴によって搅乱を受けていることから石刀は原位置を留めていないと考えられる。土坑内から拳大程度の円礫10数点が出土した。埋土は褐色砂質土である。

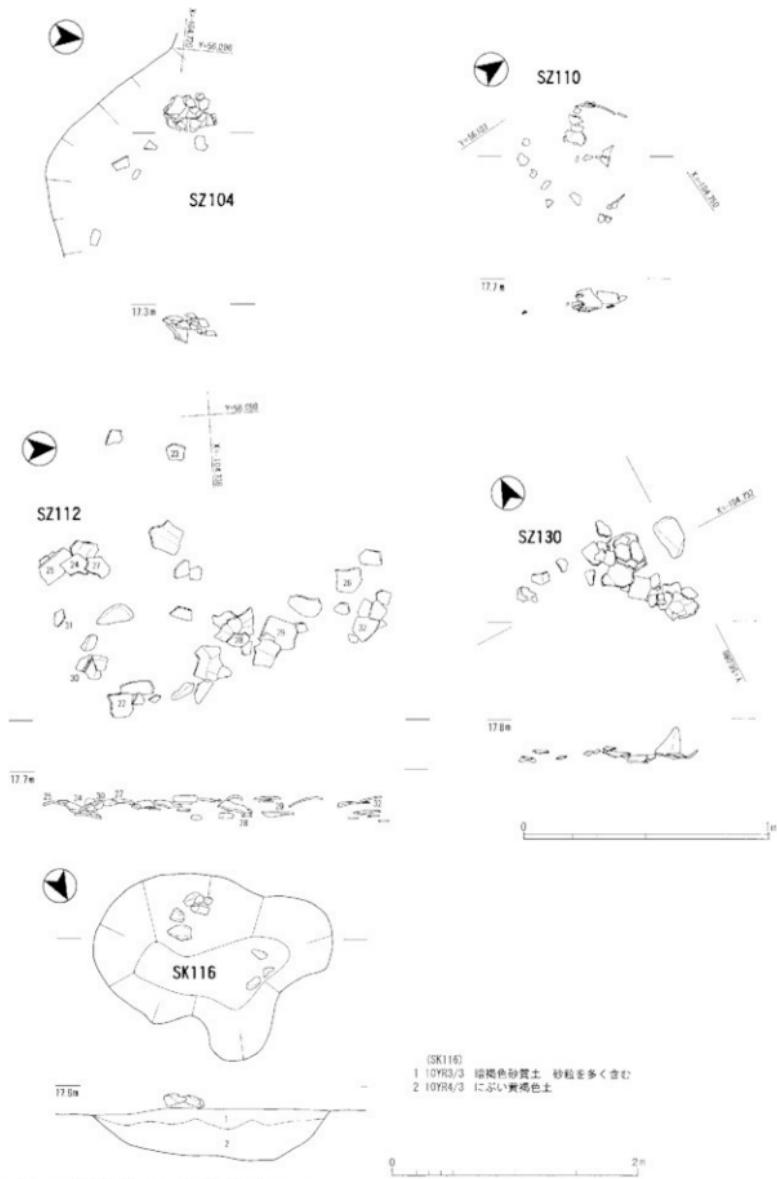
S K124

規模：0.9×0.9m、深さ20cm

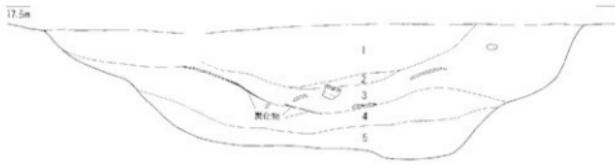
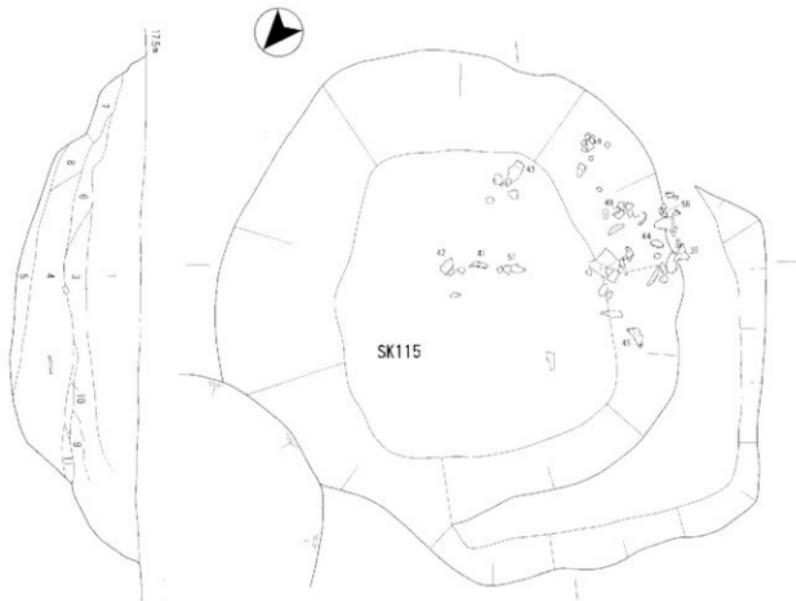
主要出土遺物：58・59、88



第9図 土器館墓実測図(1:20)



第10図 土器窯(1:20), 土坑実測図(1:40)



- (SK115)
 - 1 10YR4/6 褐色土。φ3mm以上の炭化物を稍量に含む。やや粘性有
 - 2 10YR4/4 暗灰色砂質土。褐色灰色砂質土を含む。φ2~5mmの炭化物を多く含む
 - 3 10YR4/4 暗色粘质土 φ3mmの大の炭化物を少量含む
 - 4 10YR4/4 暗色粘质土 3層に層状
 - 5 10YR4/2 灰黑色土。砂質を含む。φ2~5mmを少量含む。粘性有
 - 6 10YR3/3 墓褐色砂質土。暗灰色砂質土を含む。φ1~10mm大を多く含む
 - 7 10YR4/3 にぶい褐色砂質土
 - 8 10YR3/3 にぶい黃褐色砂質土。6層より粘性増す。φ1~10mmの炭化物を多く含む
 - 9 10YR4/3 にぶい黃褐色砂質土。φ1~3mmの大の炭化物を少量含む
 - 10 10YR4/4 黄色土。φ1~3mmの大の炭化物を少量含む。粘性有
 - 11 10YR4/2 茶黃褐色砂質土 φ1~3mmの大の炭化物を少量含む

第11図 SK115(1:40)

円形の土坑で、深鉢が出土した。土坑南側から拳大の円礎10数点が、北側から小礎が出土した。いずれも被熱した痕跡はない。埋土は灰黄褐色砂質土である。

SK125

規模： $1.0 \times 0.4 \sim 0.7m$ 、深さ20cm

主要出土遺物：60～62

不整形の土坑である。土坑内からは、10cm以下の円礎数点と浅鉢が出土した。埋土は暗灰黄色砂質土である。

⑤焼土

S F126

規模： $0.3 \times 0.3m$

形状は円形で、内側が被熱し、深い土坑状である。埋土は、外側が黄褐色砂質土、内側は褐色砂質土である。周囲では住居跡と想定される小柱穴を確認できなかった。

(2) 遺物

遺物の大部分は晩期の五貫森（新）式期に属し、馬見塚式期前半までの遺物を確認した。

遺物は、深鉢が大半を占め、浅鉢の割合が非常に少ない。浅鉢では、西日本磨研土器様式は確認していない。また、深鉢は、伊勢湾西岸に見られる二条突帯のものが少なく、器面調整も二枚貝の使用があり見られない。

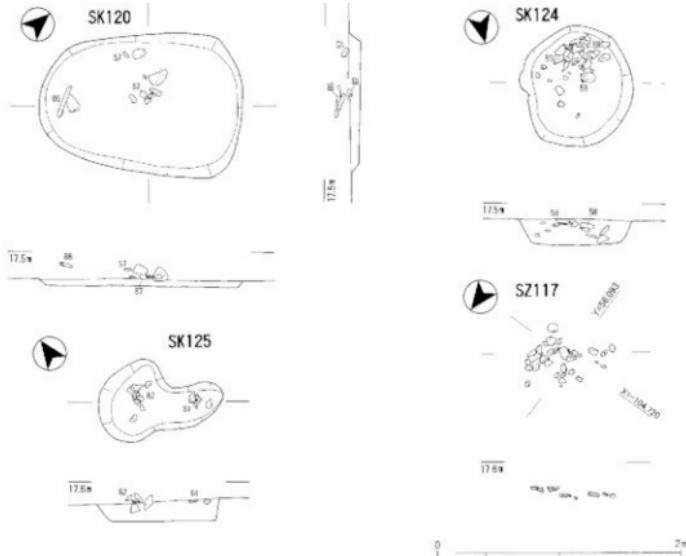
①土器棺墓出土遺物（1～18）

1はSX105から出土した深鉢である。口縁部下に一条の突帯が貼付けられ、ヘラ状工具による押圧を施す。頭部は沈線がめぐる。

2はSX106出土の深鉢で、二条の突帯が貼付けられ、横方向の工具による押圧を施す。

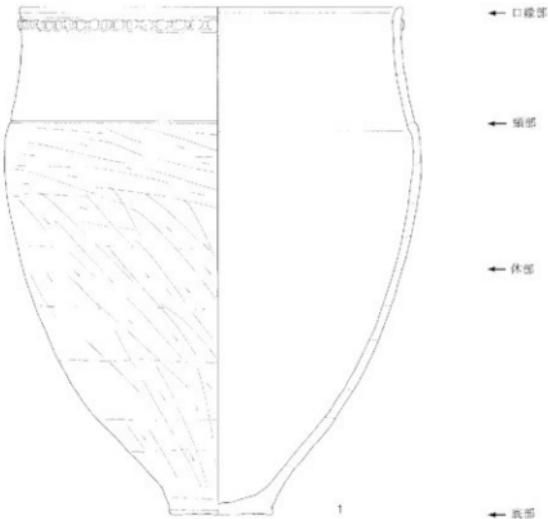
3～5はSX107出土。3・4は同一個体である。3・4は粗製の深鉢で、口縁端部に粘土紐を貼付けて肥厚させている。5は蓋で、頭部に沈線が施され、体部最大径より上部は横方向の、下部は縦方向のケズリが施される。

6～8はSX108出土。6は体部に条痕調整後、

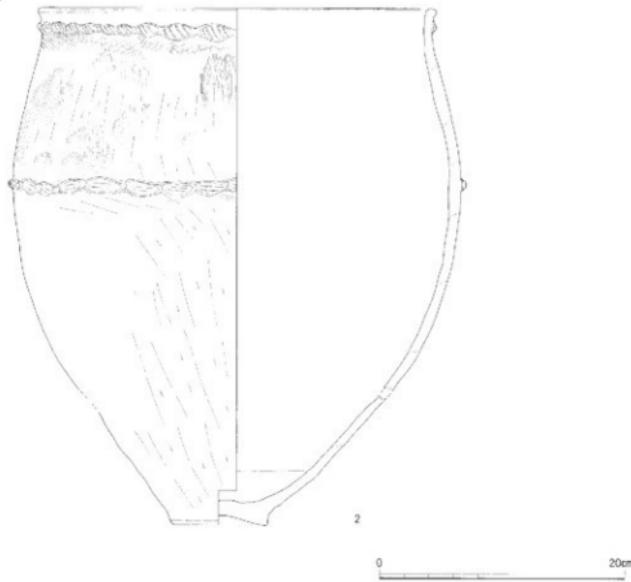


第12図 土坑・集石実測図(1:40)

SX105(1)



SX106(2)



第13図 土器棺実測図(1:4)

二枚貝による押圧を施した突帯を貼付けた深鉢である。突帯は口縁部下と頭部に突帯の付く二条突帯のタイプである。7は変容蓋で、口縁部の突帯は指による押圧が見られる。頭部には、素文の突帯が貼付けられる。8は底部片である。

9～11はS X109出土の深鉢。9は口縁部と頭部に、10・11の口縁部にはヘラ状工具の押圧による突帯が施される。体部はいずれもケズリで調整される。10は頭部に緩やかな沈線が、11の頭部には条痕が見られる。

12・13はS X111出土の深鉢。12は口縁部下に一条の突帯が付き、二枚貝による浅い押圧がされている。頭部には沈線が、それ以下には条痕による調整が施される。13は砲弾形で、口縁部下に一条の刻目突帯が貼付けられる。このような突帯は、伊勢湾西岸に見られる特徴の一つである。

14はS X113出土の深鉢体部、15はS X114出土の深鉢底部である。

16～18はS X129から出土した。16・17は深鉢。

16は口縁部下に一条突帯がつく。突帯は、下から上へヘラ状工具の押圧が見られる。頭部には明瞭な段を持つ沈線がある。17は口縁部に二枚貝による押圧を施した突帯があり、頭部には条痕、体部はケズリ^⑦が施される。18は東海系磨製石斧。石材はホルンフェルスである。

②土器溜り出土遺物（19～38、63～68）

19はS Z104出土の壺である。口縁部下に素文突帯を貼付け、沈線が入る。頭部は条痕後ミガキを施している。

20・21はS Z110出土遺物の深鉢である。20は素文突帯を貼付け、他はケズリ調整である。21は頭部に条痕を施した後、二枚貝による押圧を施した突帯を貼付けている。

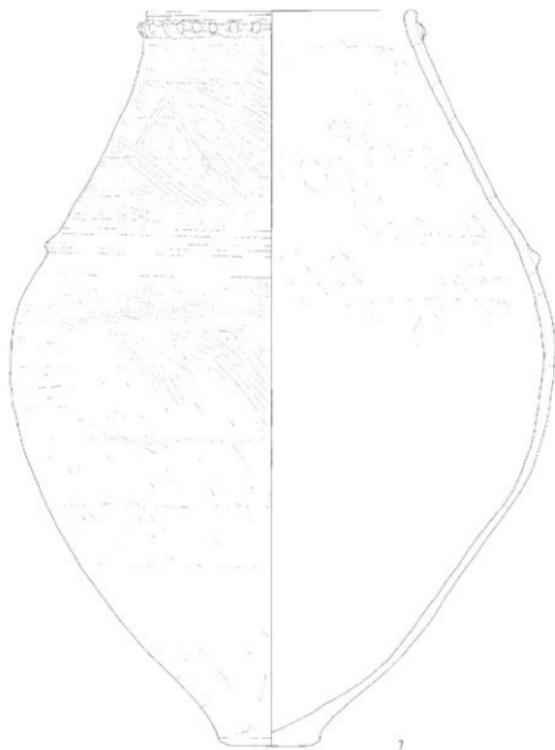
22～32、63・64はS Z112出土遺物。22～31は深鉢で、29は砲弾形をなす。32は浅鉢である。22・23、26～28は同一個体である。22・23は口縁部と頭部に二条の、24～31は口縁部に一条の突帯を施す。24の突帯にはヘラ状工具による押圧がある。

SX107(3～5)



第14図 土器棺実測図(1:4)

SX108(6~8)

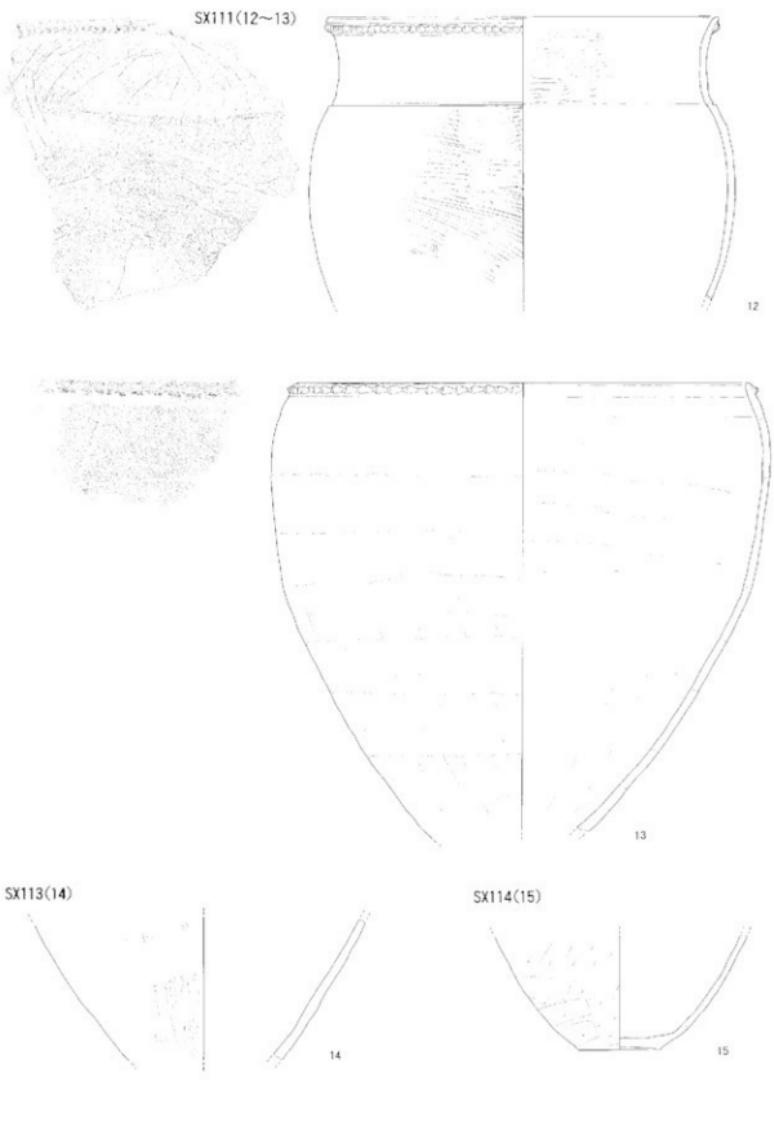


0 20cm

第15図 土器棺実測図(1:4)

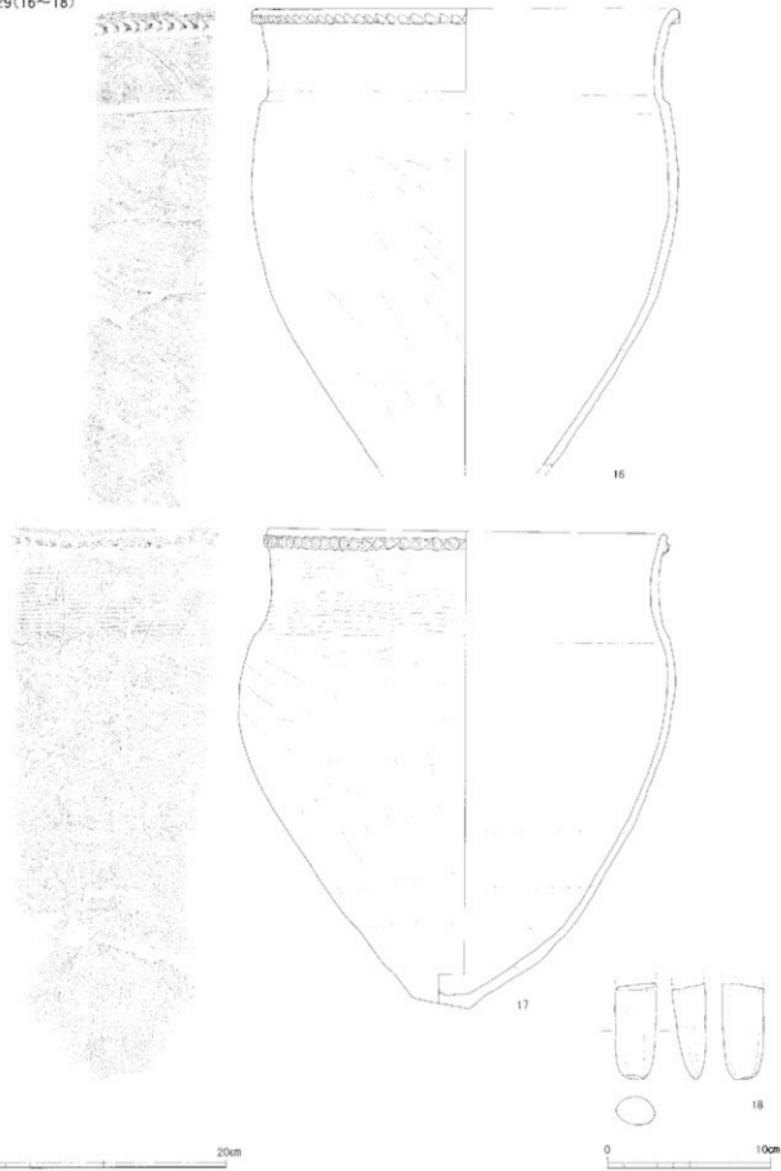


第16図 土器棺実測図(1:4)

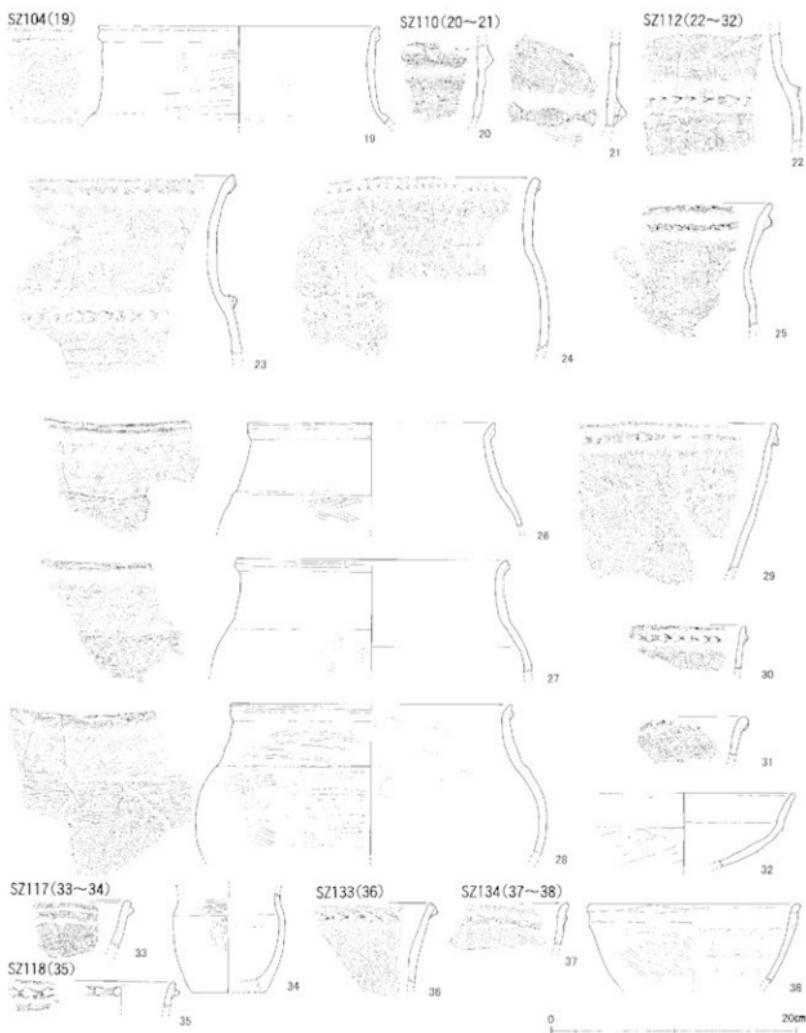


第17図 土器棺実測図(1:4)

SX129(16~18)



第18図 土器棺実測図(16・17=1:4, 18=1:3)

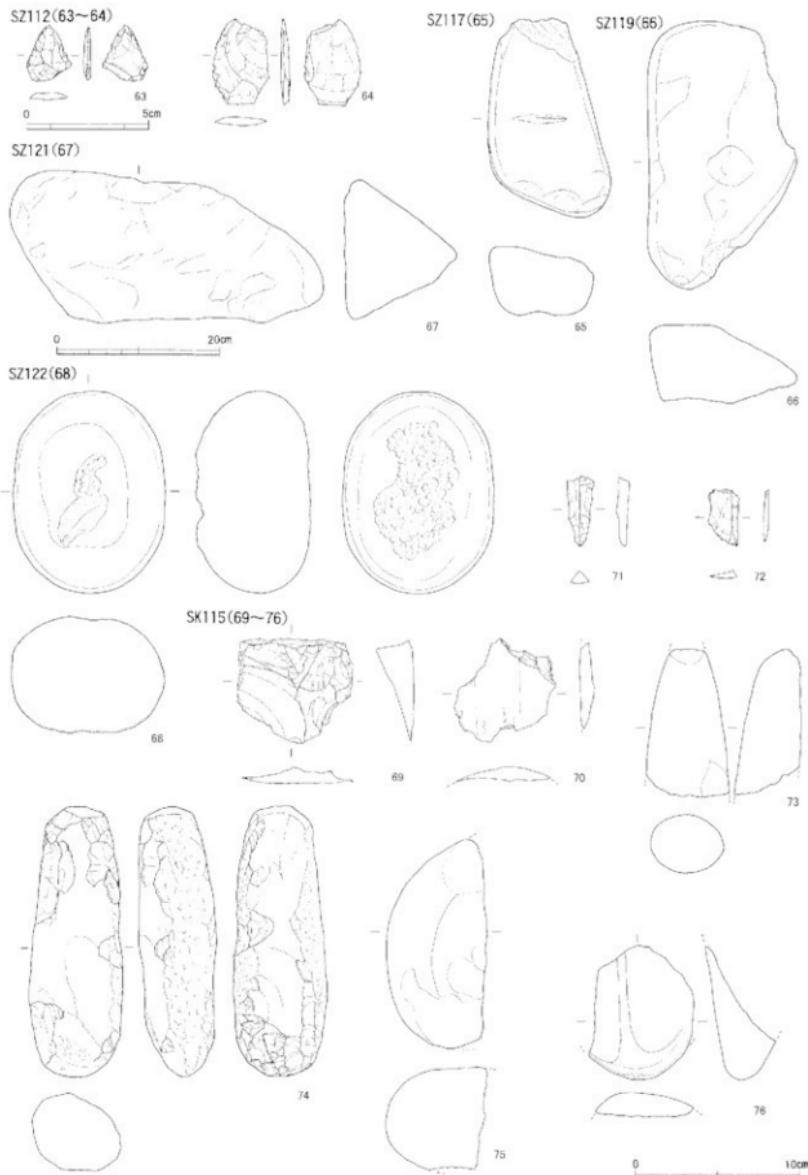


第19図 土器溜り出土遺物実測図(1:4)

SK115(39~54)

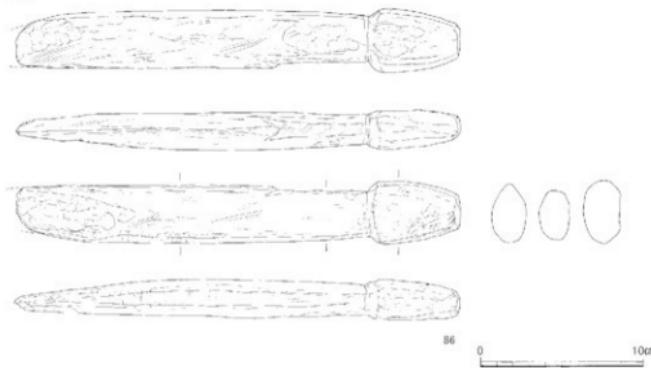


第20図 土坑出土遺物実測図(1:4)

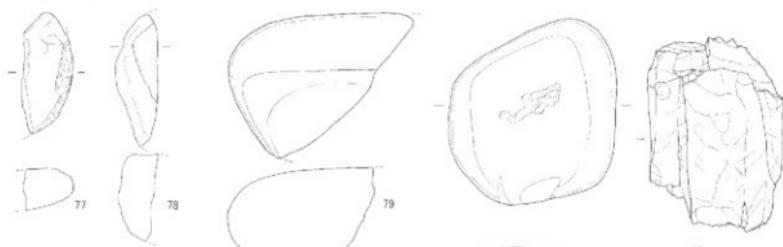


第21図 土器溜り・土坑出土遺物実測図(63・64・69~72=1:2, 65・66・68・73~76=1:3, 67=1:6)

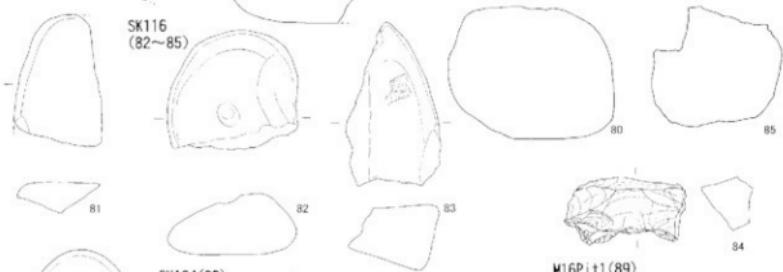
SK120(86~87)



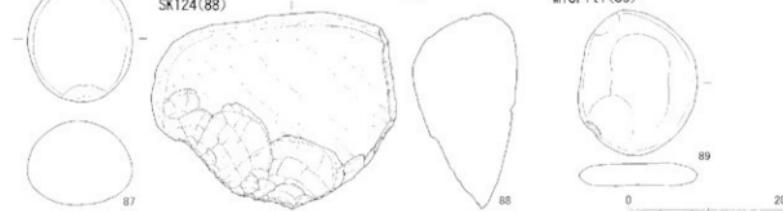
SK115(77~81)



SK116
(82~85)



SK124(88)



M16Pit1(89)

第22図 土坑・Pit出土遺物実測図(77~82・84~88=1:3, 83・89=1:6)

25～28の突帯は素文である。26～28は頭部に段を持ち、二枚貝による条痕が施される。63・64はサヌカイト製石器の未製品であろうか。

33・34、65はS Z 117出土遺物。33は素文突帯の深鉢、34は精製のミニチュア深鉢である。65は砂岩製敲石で、両面に使用痕がある。35はS Z 118出土の深鉢口縁部。66はS Z 119出土。礫器であろうか。石材は凝灰質砂岩製である。67はS Z 121出土。砂岩製の石皿か砥石であろう。

68はS Z 122出土の敲石もしくは凹石。凝灰質砂岩製で、両面両側縁に使用痕跡がある。36はS Z 133出土の深鉢で、口縁部に刻目突帯を持つ。37・38はS Z 134出土の深鉢である。38は口縁部外面のナデが雜である。

③土坑出土遺物（39～62、69～88）

S K 115出土遺物（39～54、69～81）

39～51・53は深鉢、54は浅鉢である。口縁部下の突帯はすべて一条で、40・43・49は素文突帯である。39・41・42・44・46の突帯にはヘラ状工具、47・48の突帯には二枚貝による押圧が施される。39～43・45は頭部に段を有し、39～43は頭部に条痕、体部にケズリが見られる。52は大西貝塚で出土しているような小型鉢であろうか。54はミガキ調整で補修孔がみられる。

69はU.F.、70・72は剥片、71は楔形石器である。73は乳棒状磨製石斧の基部、74は磨製石斧の未製品

で粗割段階のものである。75・76は磨石。75は片面のみを使用している。77は敲石、78は石皿片、79は石皿か磨石片である。片面のみを使用している。80は台石で中央に敲打痕が見られ、81は器種不明である。石材は、69・71・72がサヌカイト、70がホルンフェルス、73・74・78がハイアロクラスタイルト、75～77・79が凝灰質砂岩、80・81が砂岩である。

55、82～85はS K 116出土遺物。55は深鉢で、一条の突帯がつく。82は敲石であろうか。83は石皿か砥石で、ともに凝灰質砂岩製である。84・85はチャートの石材である。56・57、86・87はS K 120出土遺物である。56は深鉢で、口縁部下に一条の突帯がある。86は石刀で、やや内反りしている。柄～柄頭は、荒削段階で割りすぎたものを研磨したと思われる。鋒は割れた後研磨している。石材は片麻岩である。87は砂岩製で磨石であろうか。58・59・88はS K 124出土遺物である。58・59は深鉢で、58は一条のヘラ状工具で押圧をした突帯がつく。88は花崗岩製の礫器であろうか。60～62はS K 125出土遺物。60は深鉢の頭部片であろうか。62は浅鉢で、内面のナデが雜に仕上げられている。外側はケズリ調整が見られる。

④ピット出土遺物（89）

89は砂岩製の石皿で、片面に使用痕跡があり、砥石として使用されたのかもしれない。（酒井）

【参考文献】

- ・「麻生田大橋遺跡発掘調査報告」豊川市教育委員会
1993年
- ・「牛牧遺跡」財団法人愛知県教育サービスセンター、愛

【註】

- ① 植身、植蓋については、第V章第2節にて詳しく述べる。
- ② 口径より器高が大きいものを深鉢、口径より器高が小さいものを浅鉢とする。
- ③ 中村健二氏は、晩期の土器植基は、土器を割り、その破片を蓋にしたり、植本体に使用したりする例が非常に多いと指摘している。これを参考に土器植の使用方法を検討した。
- 中村健二「縄文晩期土器植基の調査方法について—近畿地方の場合—」（『研究紀要』第9号 財団法人滋賀県文化財保護協会 1996年）
- ④ 前述③参照
- ⑤ 泉拓良「西日本磨研土器様式」（『縄文土器大観』4 後

知県埋蔵文化財センター 2001年

・「新編一宮市史」一宮市 1970年

なわ、大下明氏・樋木真美子氏には遺物を実見していたとき、指導を受けた。

期 晩期 縄文 小学館 1989年）

⑥ 北勢地方を含む。

鈴木克彦「伊勢湾沿岸地方における凸帶文深鉢の様相—伊勢地方からの視点—」（『三重県史研究』第6号 1990年）

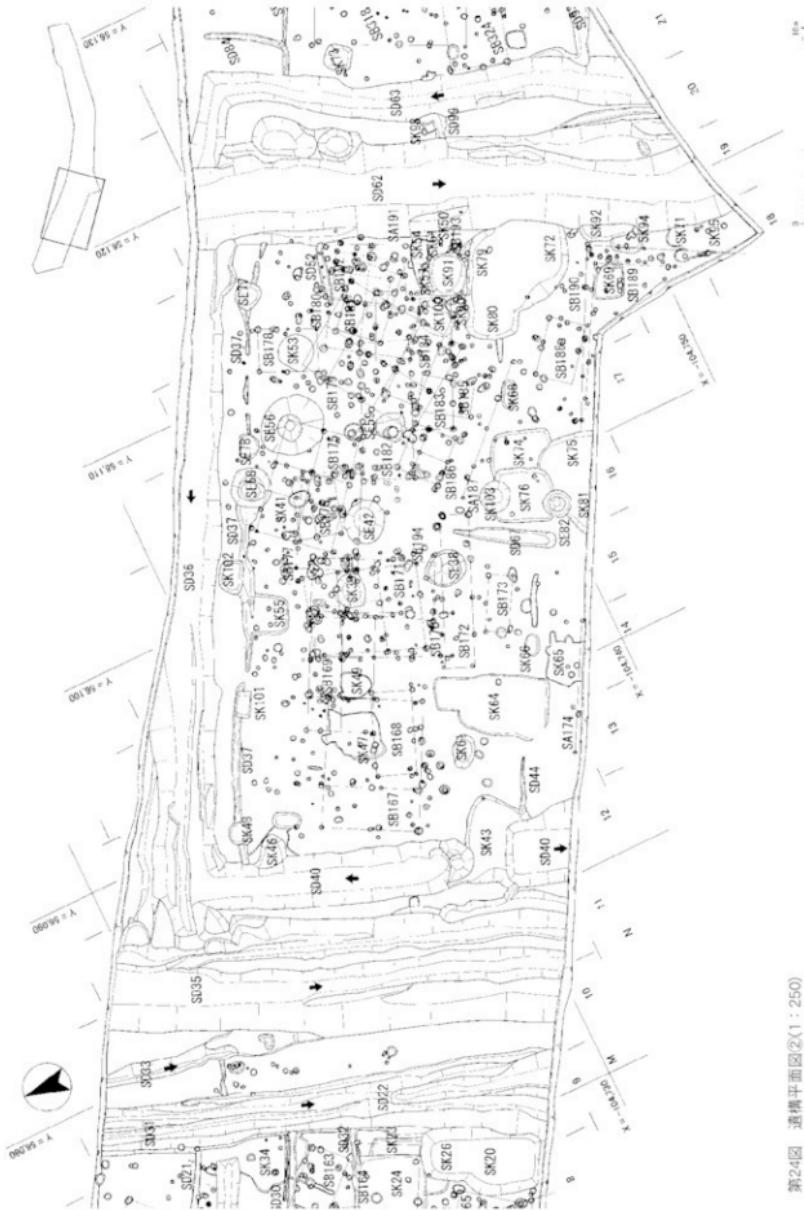
⑦ 鈴木道之助「石斧」（『図録・石器入門事典（縄文）』柏書房 1991年）

⑧ 『大西貝塚』豊橋市教育委員会、半呂地区遺跡調査会 1995年

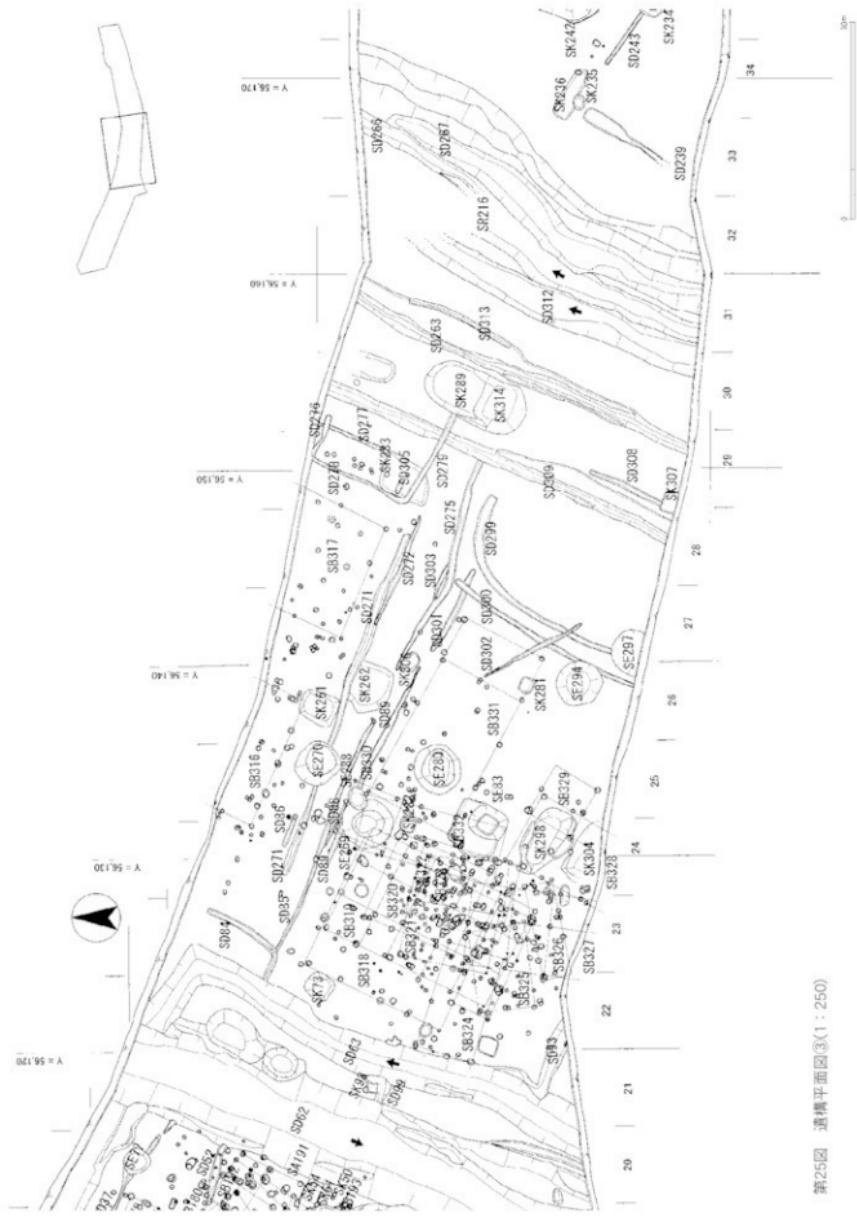
⑨ 石刀の部分名称は、以下を参照した。

野村崇「石劍・石刀」（『縄文文化の研究』第9巻 縄文人の精神文化 雄山閣出版 1988年）



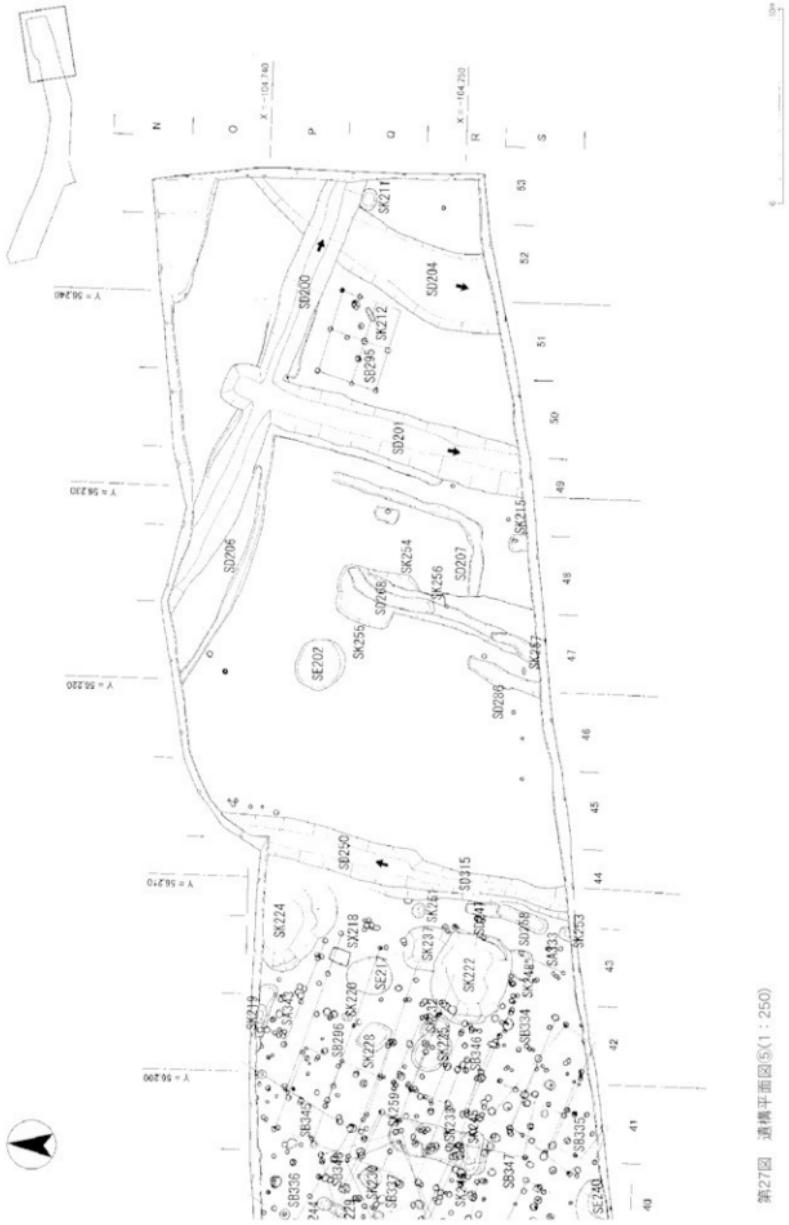


第24図 通構平面図(1:250)





第26圖 遺構平面圖(1:250)



第27図 連繩平面図(1:250)

3 古代の遺構と遺物

(1) 遺構

古代の遺構は、切り合い関係と出土遺物を基本に時期を決定している。出土遺物の時期は、概ね8世紀から9世紀前半である。

①掘立柱建物

掘立柱建物を7棟確認した。掘立柱建物は、建物方向から、 7° 、 13° 、 28° 、 38° の4方向に分かれ。なお、建物方向はすべて座標北を基準に東西への振れの大きさを図面上で計測し、表示した。

S B 1 4 1

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方向：N 38° E 面積：11.5m²

重複関係：S B 141（古代）→S K 2・5（中世IV）

調査区の西側で検出した。S B 142と建物方向がほぼ同じで、柱穴から須恵器小片が出土している。

S B 1 4 2

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間以上、梁行2間

建物方向：N 37° E 面積：12.0m²以上

重複関係：S B 142（古代）→S B 143（中世I）

→S B 144（中世IかII）

→S B 142（古代）→S D 15（中世III）

柱痕は径30cm程度で、掘形は方形である。埋土から8世紀後半の須恵器長頸瓶（90）が出土している。

S B 1 5 0

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方向：N 28° E 面積：21.3m²

重複関係：S B 150（古代）→S B 151（中世IIIかIV）

→S B 150（古代）→S B 152（中世I）

S B 157と建物方向が同じである。柱穴から土師器長胴甕が出土している。

S B 1 5 7

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方向：N 28° E 面積：8.2m²

重複関係：S B 157（古代）→S D 14（中世II）

小規模な建物で、S B 150と建物方向が同じである。柱穴から8世紀後半の須恵器杯蓋が出土した。

S B 3 2 1

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方向：N 13° E 面積：14.3m²

重複関係：なし

桁行、梁行ともに不揃いである。柱穴から土師器長胴甕が出土したので古代の遺構とした。

S B 3 2 3

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方向：N 7° E 面積：13.2m²

重複関係：S B 323（古代）→S B 319（中世I）

柱穴は小さく、浅い。しかし、埋土から土師器裏小片、須恵器小片が出土したので古代の遺構とした。

S B 3 2 5

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方向：N 7° W 面積：13.0m²

重複関係：なし

柱穴は小さい。建物方向がS B 323と一致し、埋土から土師器裏の小片が出土したので古代の遺構とした。

②土坑

土坑は、小地区39～41に集中する。時期は、出土遺物から概ね8世紀前半～9世紀前半である。

S K 2 2 9

形状：梢円形か

規模：0.9以上×0.6m 深さ22cm

重複関係：S K 229（古代）→S K 244（古代）

主要出土遺物：91～93

埋土中の最新の遺物は、古代の志摩式製塙土器である。

S K 2 3 0

形状：円形

規模：径1.0m 深さ30cm

主要出土遺物：94・95

南端は擾乱を受けている。

SK231

形状：橢円形

規模：3.1×2.6m 深さ85cm

主要出土遺物：96～125

橢円形の深い土坑である。埋土に直径15cmほど
の円窓を含む。遺物の大半は、第7層から出土し、

埋土中の最新遺物は9世紀前半の須恵器盤である。

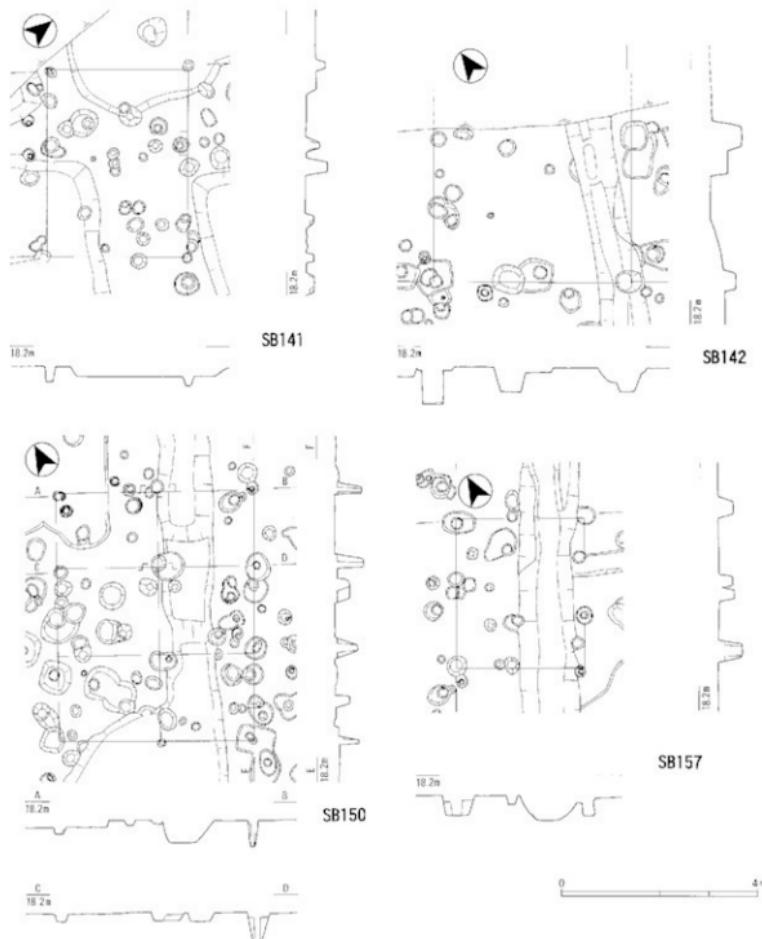
SK244

形状：橢円形

規模：0.8×0.6m 深さ27cm

重複関係：SK229（古代）→SK244（古代）

主要出土遺物：131



第28図 S B 141・142・150・157(1 : 100)

埋土中の遺物は須恵器杯（131）1点のみである。

S K 2 3 3 • 2 4 5 • 2 5 9

[S K 2 3 3]

形状：楕円形？

規模：2.3以上×1.7m 深さ15cm

[S K 2 4 5]

形状：楕円形

規模：1.7×1.1m 深さ50cm

[S K 2 5 9]

形状：楕円形？

規模：1.3以上×1.7m 深さ5cm

重複関係：S K 246（古代）→S K 245（古代）

→S K 233（古代）→S K 259（古代）

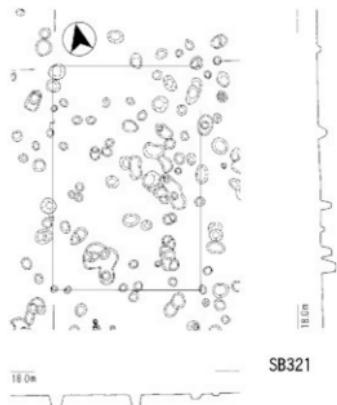
主要出土遺物：126～130

土坑や柱穴が複雑に重複し、深さも様々である。

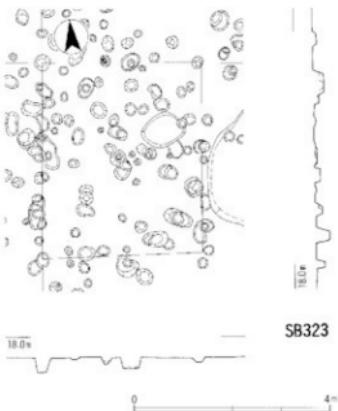
調査時に、第10・13・14層出土遺物をS K 233として取上げている。埋土から土師器甕が出土している。これらの土坑は、埋土が似ており、遺物の時期や器種も似ている。調査時は、別遺構として取り扱ったが、一連の遺構と思われる。

③溝

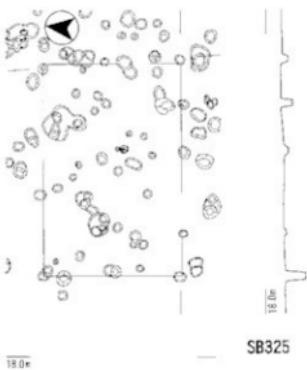
S D 3 3



S B 321

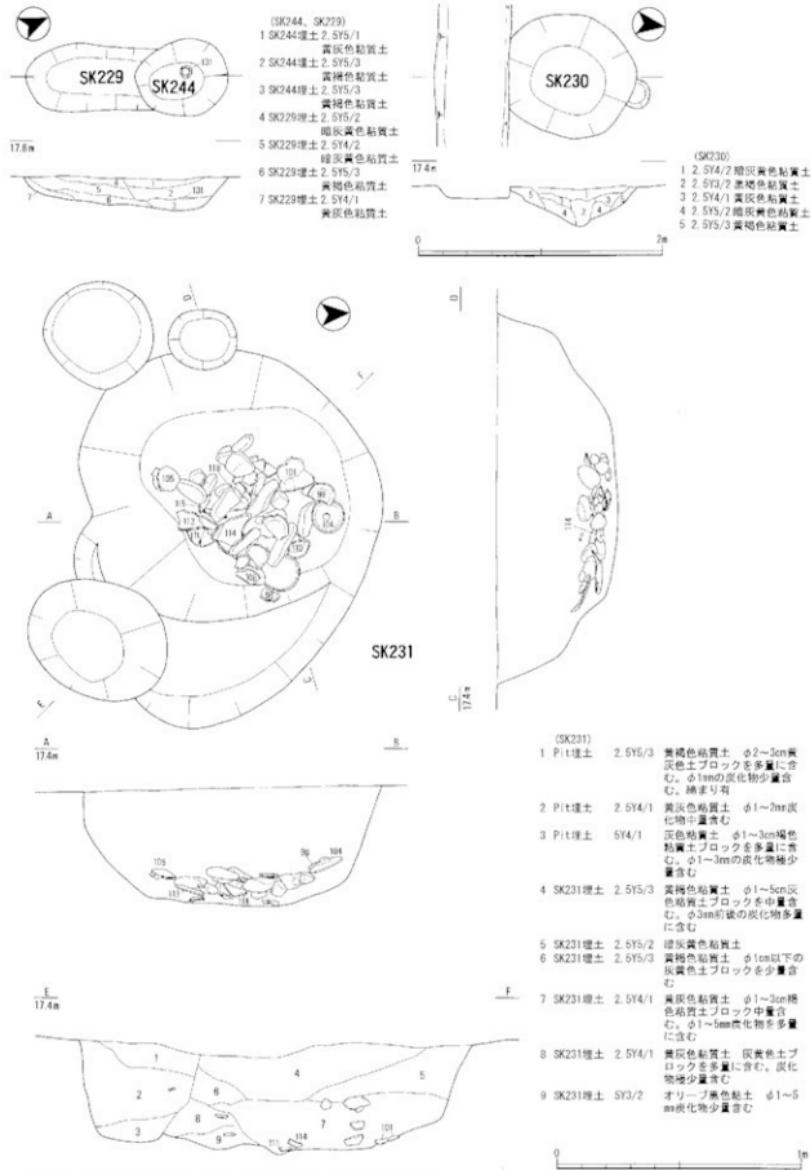


S B 323



S B 325

第29図 S B 321・323・325(1: 100)



第30図 SK229・230・231・244(1:40, SK231=1:20)

断面形状：箱状？

長さ：10m以上 幅：0.6～1.4m 深さ20～30cm

流れ：北→南

主要出土遺物：132～139

重複関係：SD33（古代）→SD35（中世Ⅲ）

溝の方向はN 8° Eで、SB323と方向が同じである。溝の流れは、底の高低差から北から南へ流れていると考えられる。埋土中の最新の遺物は、K-14型式の灰釉陶器椀（136）である。

SD204

断面形状：箱状

長さ：12.7m以上 幅：3.1～5.0m 深さ120cm

流れ：北→南

主要出土遺物：140～257

重複関係：SD204（古代）→SD200（中世Ⅲ）→

SD201（中世Ⅲ）→SD206（中世Ⅲ）

屈曲している溝である。土層断面の観察から、掘り直しをしていることが確認できる。調査時に、遺物を上・中・下層と分層して取上げたが、各層に8～9世紀の遺物が混在している。埋土からは、16点の墨書き器や鎧帶等が出土している。埋土中の最新の遺物は9世紀の須恵器杯である。

（2）遺物

①掘立柱建物出土遺物（90）

90はSB142出土遺物で、8世紀後半の猿投産の須恵器長頸瓶である。

②土坑出土遺物（91～131）

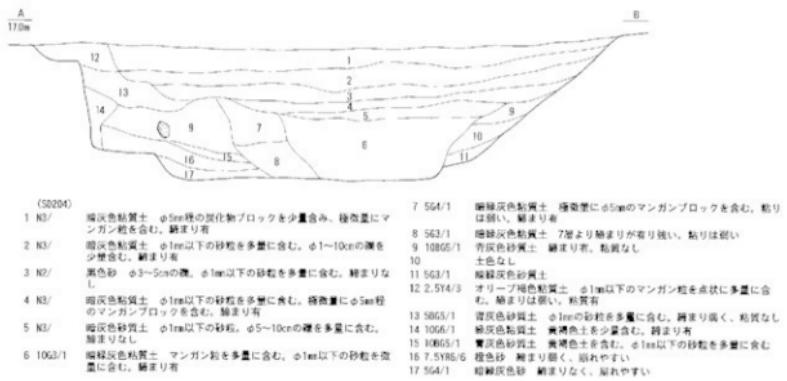
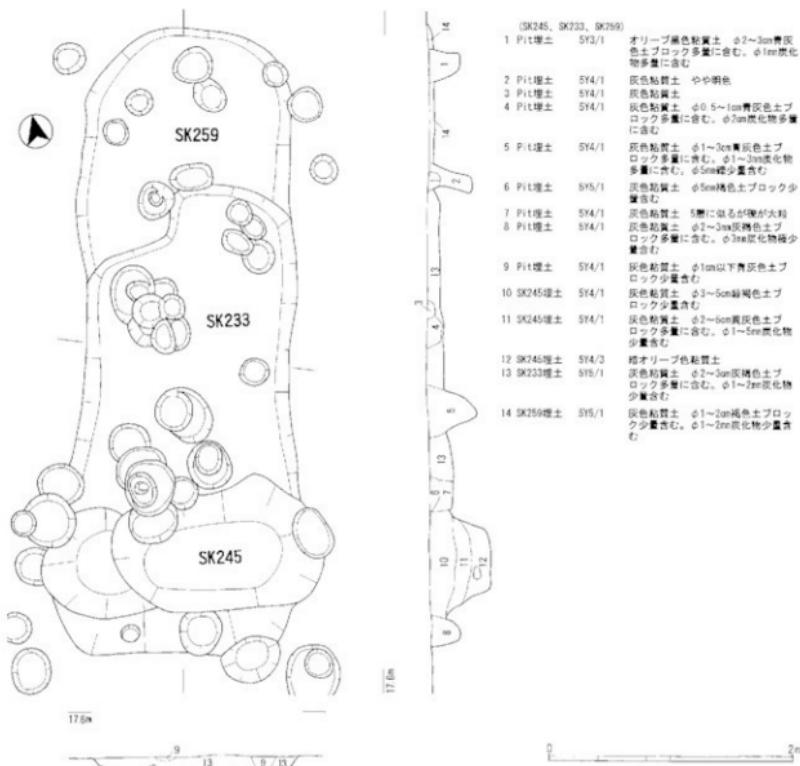
91～93はSK229出土遺物である。91は土師器甕で、口縁端部を摘み上げている。92・93は猿投産の須恵器杯で、92は外面底部にヘラ記号がある。93は8世紀前半のものである。94・95はSK230出土遺物で、須恵器杯である。95は黒斑があり、酸化焰焼成で焼かれている。

SK231出土遺物（96～125）

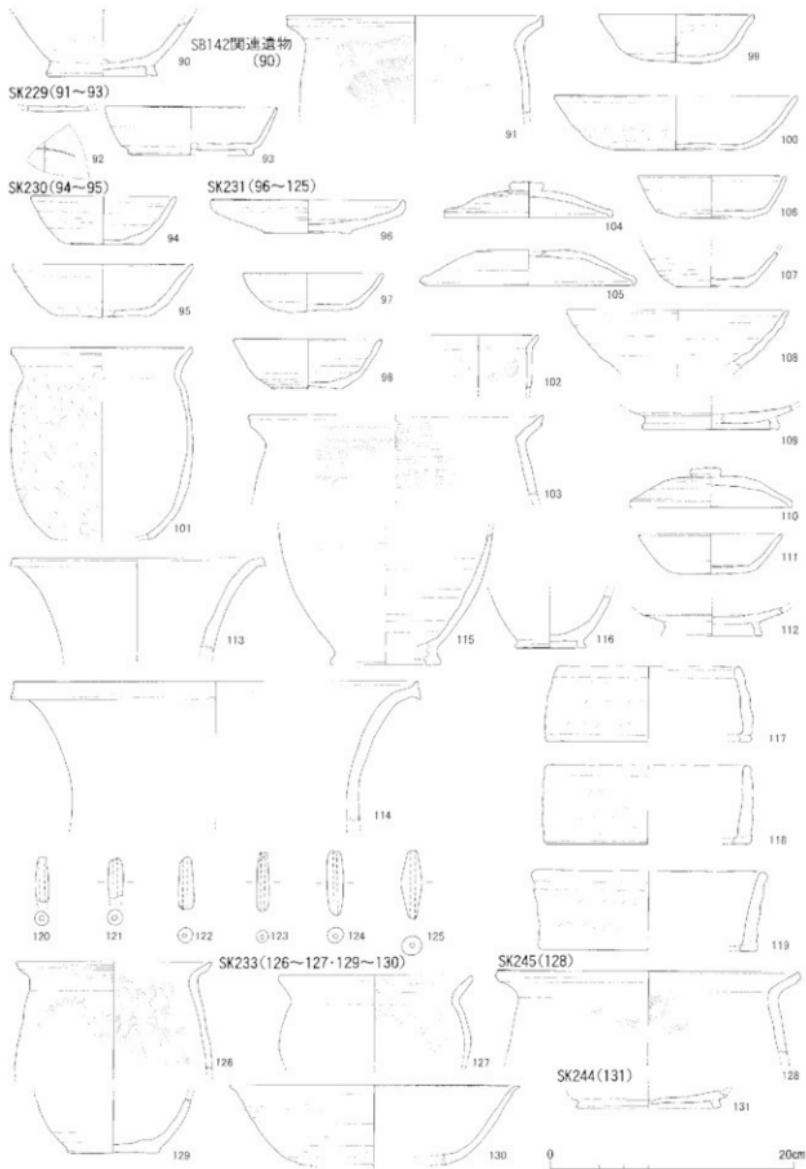
土師器 97・99～100は杯である。97は底部がオサエ・ナデで仕上げられ、粗雑である。99は器壁が厚く、内面を板ナデで仕上げている。100は大型品で、暗文が入るタイプのものである。101～103は甕で、いずれも口縁端部をやや丸くおさめ、外面に強めのヨコナデを施している。101は体部をケズリ調



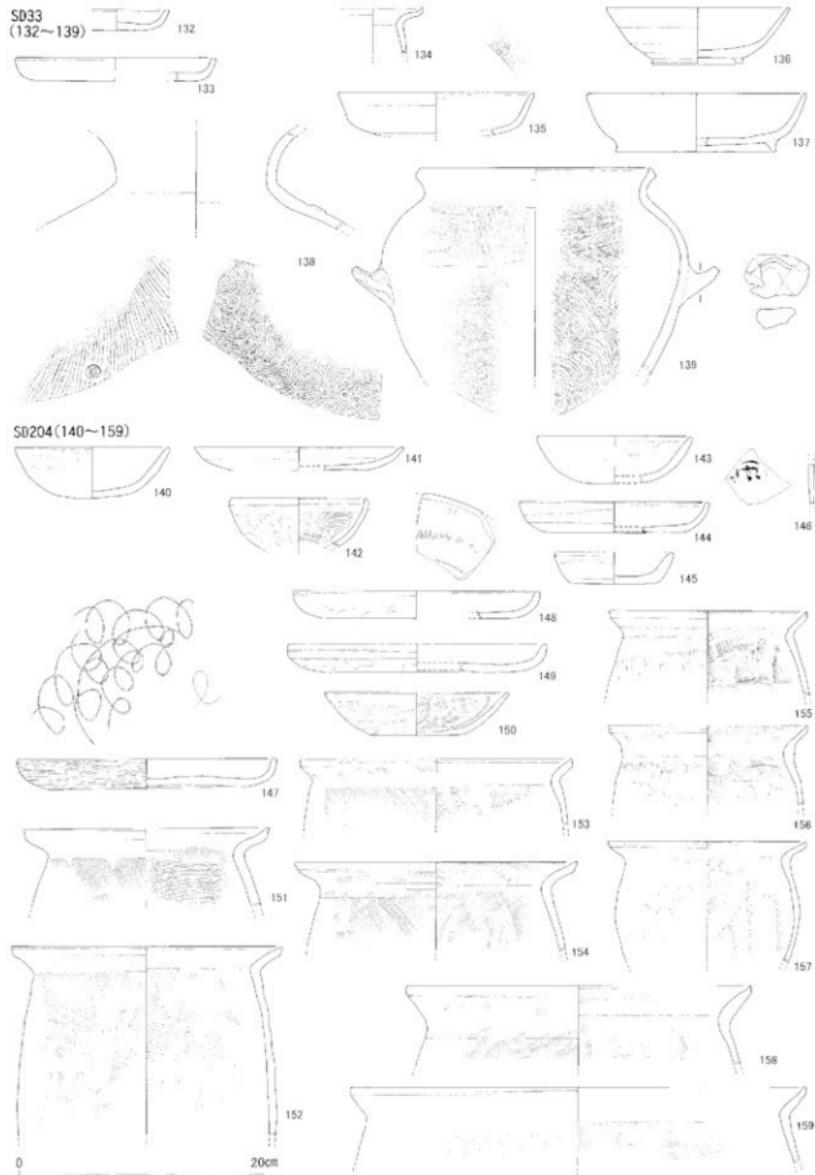
第31図 溝土層断面図作成箇所一覧(1:1,000)



第32図 S K259・233・245, S D204(1:40)

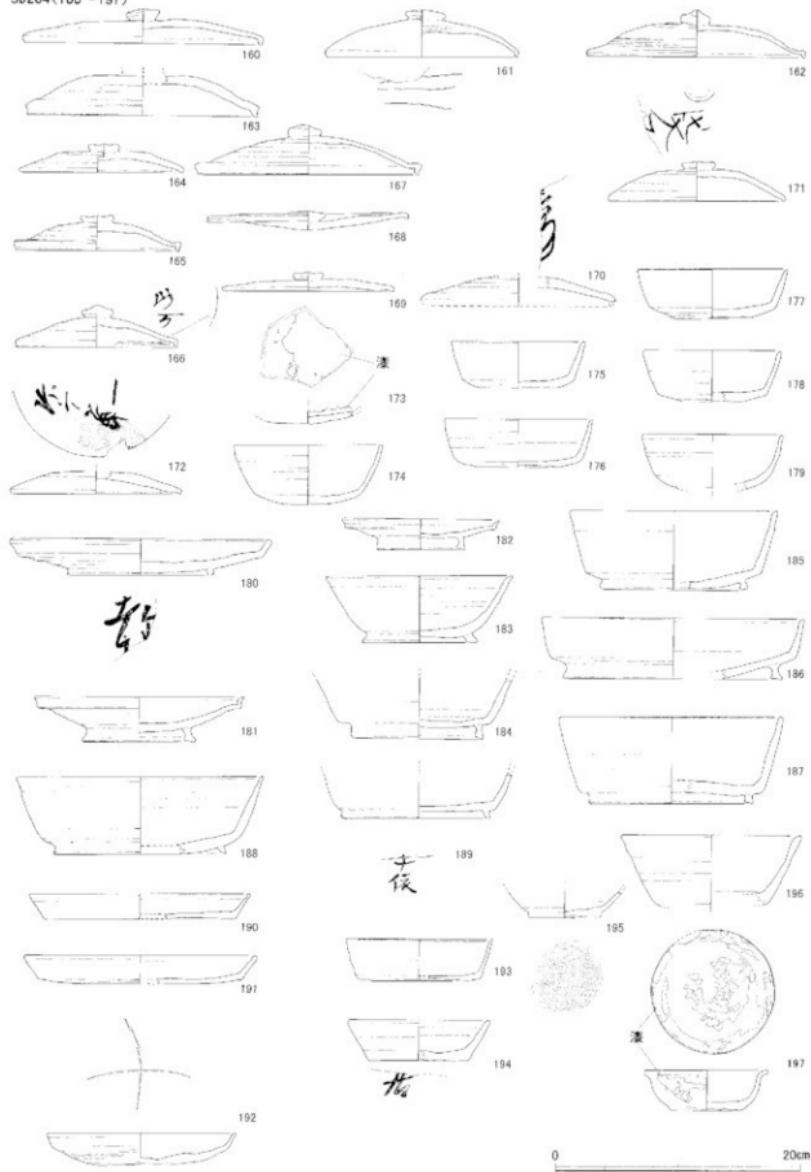


第33図 挖立柱建物・土坑出土遺物実測図(1:4)



第34図 溝出土遺物実測図(1:4)

SD204(160~197)



第35図 溝出土遺物実測図(1:4)

整し、わずかに残る底部は平底を呈す。濃尾地方で見られるものようである。103は長胴甕であろう。須恵器 96・98・104~111は杯である。96・98は、酸化焰焼成のものである。96は底部に糸切痕が見られ、体部は粘土紐接合箇所で割れている。104・106~109は猿投産で8世紀後半、105はNN-32型式、111は美濃須衛産で8世紀代のものである。108は高台が付くタイプであろう。110は胎土が均質で、美濃須衛産の可能性がある。111は胎土が灰白色で、滑らかな仕上りになっている。112は9世紀前半の盤である。113・114は甕である。113は口縁端部の厚みがほぼ均一で、同時期の甕でありあまりみない形状になっている。114は口縁端部が上下に延び、猿投産で8世紀後半のものである。115・116は猿投産の長頸瓶で8世紀後半、116はミニチュアである。

土製品 117~119は志摩式製塙土器、120~125は土鍤である。

126~130はSK233・245出土の土師器である。126~128は甕で、127・128は外縁の風化が著しい。128は口縁端部を摘み上げている。長胴甕であろう。129は須恵器甕である。底部は糸切で、面の立ち上がりが緩く、ナデ調整が雄である。130は土師器椀である。131はSK244出土遺物である。131は須恵器杯の底部で、体部を打ち欠いている。

③溝出土遺物（132~257）

132~139はSD33出土遺物で、132~134・137は土師器、135・138・139は須恵器である。132・133は皿、134は甕、137は杯で、いずれも風化が著しい。135は杯、138・139は美濃須衛産甕で、7世紀後半~8世紀前半のものである。138は頭部下に円形の粘土貼付けがある。139は把手付広口甕である。136は灰釉陶器椀で、K-14型式である。
SD204出土遺物（140~257）

S D 204から大量の遺物が出土している。遺物には時期幅があり、8世紀後半を中心と8世紀前半~10世紀前半のものまである。

土師器 140は杯、141・144・147~149は皿、142・143は椀である。142は内面を刷毛目、外縁をケズリ調整している。143は粗製の椀である。144は内面に煤が、145は内面と外縁端部に漆が付着している。146は墨書がみられる。147・148

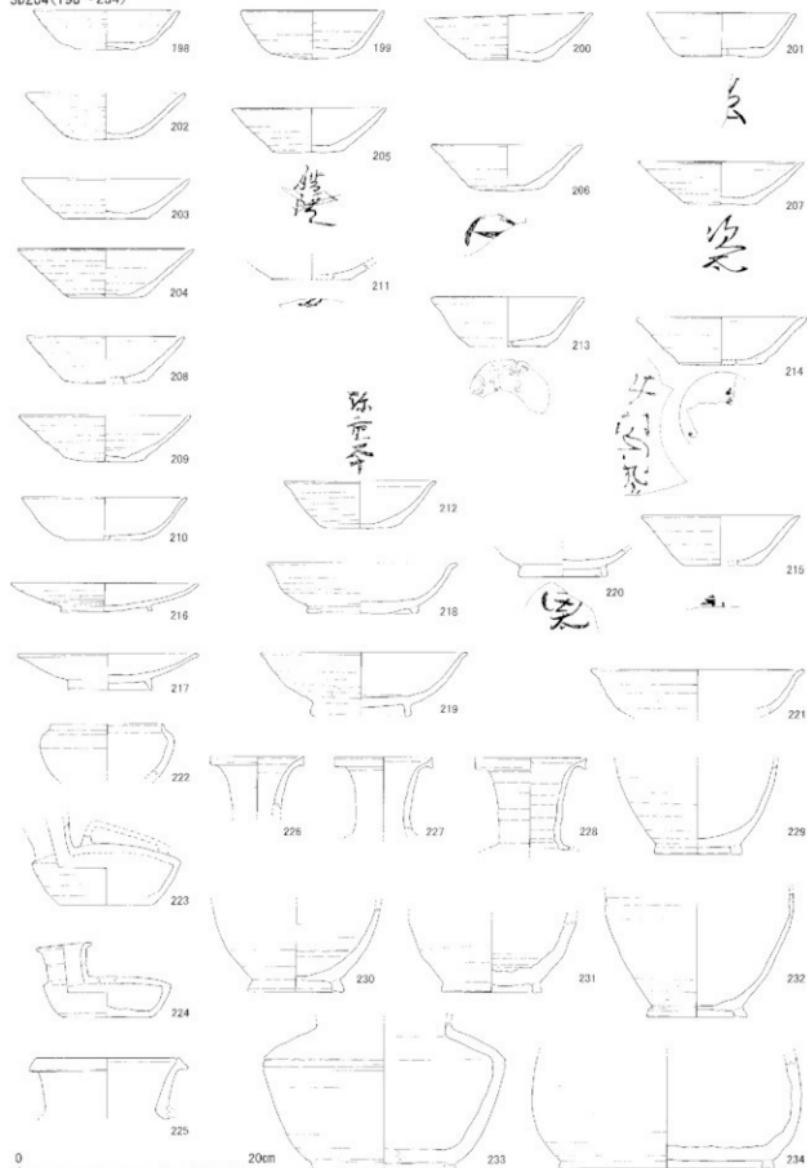
は暗文土師器で、147は内面に螺旋状暗文を施している。150は黒色土器椀で、口縁部内面に沈線が入る。151~159は甕、口縁部を強くヨコナデするものとしないものがある。

須恵器 160~172は杯蓋である。160~162・165~167は猿投産で、160・161はC-2~I-25型式、162はNN-32型式、165・167はO-10型式、166は8世紀後半のものである。161は内面に3本のヘラ記号がある。163は器壁が分厚く、内面に煤が付着している。164・169は口縁端部を丸くおさめている。166・170~172は外縁に墨書がある。
171は「戊口」、172は「卯（道か道）口十」であろうか。

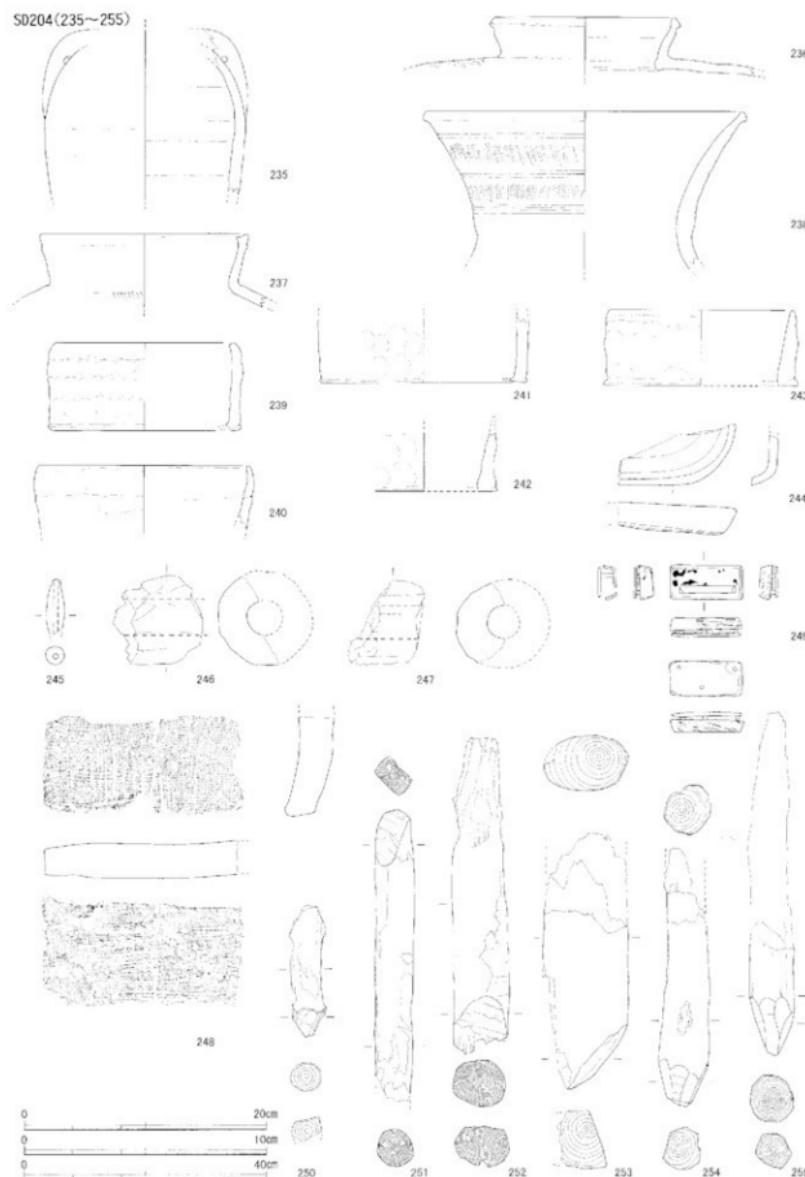
173~179は杯である。174~178は猿投産で、174はI-41型式、175・176・178は8世紀後半、177はO-10型式である。173は胎土が橙色を呈し、内面に漆が厚く付いている。179は生焼け、灰白色をしている。180~182は猿投産の盤で8世紀後半。180は口縁部を丸くおさめ、底部に墨書で「教」とある。182はIG-78型式のものである。183~196は杯である。183~188は猿投産で8世紀後半のものである。189は美濃須衛産で8世紀後半~9世紀前葉、同時期の杯より精製品である。そして、底部に墨書があり「口依」とある。190・191は内面口縁部に沈線が入る。192は内面に「十」とヘラ記号がある。193はNN-32型式で、194は底部に「居」と墨書がある。195は底部からの立ち上がりが緩く、器壁が薄いため椀になるのかもしれない。197は底部をヘラ切りし、内外面に漆が付着する。

198~215は杯で、198は猿投産、199~201~207・215は美濃須衛産で、199は8世紀前半、198・202~204・215は9世紀前半、201は8世紀後半~9世紀、210は9世紀後半~10世紀のものである。201・205~207・211~215は墨書がある。198・213は底部を糸切りし、199~209・211・214は底部がヘラ切りである。200は器壁が厚いものの、胎土・形状は美濃須衛のものと同じである。205は「勝口」とある。206は「○」に「一」とあり、記号のようである。207は「次太」、212は「弥市本」と内面に書いてある。213は底部に墨書があり「口竹」とある。214は底部と外縁体部に墨書があるものの判読が難しい。

SD204(198~234)



第36図 溝出土遺物実測図(1:4)



第37図 溝出土遺物実測図(235~248=1:4, 249=1:2, 250~255=1:8)

222は8世紀後半の短頭壺で、生焼けである。223・224は猿投産の平瓶で、223は8世紀後半、224は9世紀前半のものである。223は口縁部、把手が欠落している。224は小型で頭部に沈線が入る。225は猿投産の横瓶で8世紀後半のものである。226～228は長頭瓶で、いわゆる原始灰釉にあたる。いずれも猿投産で8世紀後半のものである。226～228は撫肩のタイプの口縁～頭部で、229～232の底部も撫肩のタイプであろう。233は短い口縁がつくと考えられ、底部内面の全部に灰かぶりが見られる。また、底部外面に剥離痕があり、高台がつき、器種は不明である。234は胴部～底部で、外面が釉重れしている。K-90型式で、胴部のカーブがきついものの短頭壺もしくは大型水注のようなものと考えられる。235は双耳瓶で、O-10型式である。236は横瓶で、猿投産の7世紀末のもの。237は9世紀前半の壺の口縁部で、きめ細かい胎土が美濃須衛のも

のに似ている。しかし、美濃須衛ならば、適応する器種が見当たらない。238は甕で7世紀末である。244は8世紀後半の陶甕で、内面がよく磨かれている。

灰釉陶器 216・217は灰釉陶器甕で、216はK-14型式、217はK-90型式。217は形状が灰釉陶器であるが胎土は須恵器のようである。218～220は灰釉陶器甕で、218はK-14型式、219・220はK-90型式。220は底部に「田太」の墨書がある。221は碗であろう。

その他 239～243は志摩式製塩土器である。245は土錘、246・247は輪羽口で、247は羽口の先端部分である。248は平底で、内外面とも布目がある。249は鉢帶である。鉢が3ヶ所、底部から打たれている。外表面及び鉢に黒色物質が残り、黒色物質は漆の可能性が高い。250～255は杭で、大きさにばらつきがある。256・257は砾石で、四方が磨かれている。257の凹み部分は、あまり磨られていない。(酒井)

【参考文献】

古代の遺物の型式、年代観は下記の文献による。以下、本書ではこれを用いる。
＊須恵器・灰釉陶器=『須恵器生産の出現から消滅－猿投・瀬西窯場の再構築－』第1・2分冊 古代土器研究会 2000年、『愛知古窯跡群分布調査報告(Ⅲ)』(尾北地区・

【註】

- ① 山中敏史「II-5 建物遺構の区分」(『古代の宮庭跡 1 道構編』独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所、2003年)
② 溝の流れは、道構実測図及び土層断面図から溝の底の高

三河地区』愛知県教育委員会 1983年

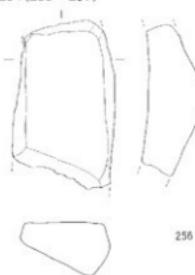
*土器器=『斎宮跡発掘調査報告 I 内院地区的調査 本文編』斎宮歴史博物館 2001年、『鏡と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会 1996年

なお、城ヶ谷和広氏・竹内英昭氏・渡邊博人氏には遺物を実見していただき、指導を受けた。

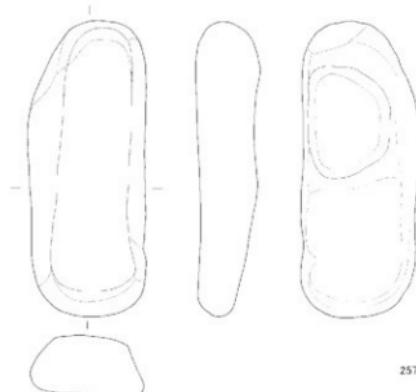
さを標高で表し、その高低差で流れの方向を判断した。
③ 墨書きある土器については、榎村寛之氏・小林秀氏に実見していただき、指導を受けた。

④ 詳細は第IV章を参照されたい。

S0204(256～257)



256



257

第38図 溝出土遺物実測図(1:4)

4 中世の遺構と遺物

中世の遺構は、出土遺物（特に陶器）、遺構の切り合いによる前後関係、建物の方位から四期に区分した。おおまかに述べると、Ⅰ期の遺構からは山茶椀第3型式から7型式（11～13世紀）、Ⅱ期の遺構からは山茶椀第8型式から古瀬戸中期（14世紀）、Ⅲ期の遺構からは古瀬戸後期から大窯第1段階（15～16世紀前葉）、Ⅳ期の遺構からは大窯第2段階から登窯4小窯の陶器あるいはそれらと併行する（16世紀中葉～17世紀中葉）遺物が出土する。また便宜上、Ⅰ期とⅡ期を「中世前期」、Ⅲ期とⅣ期を「中世後期」とする。

(A) 中世前期

(1) 遺構

①掘立柱建物

この時期の掘立柱建物を47棟確認した。掘立柱建物には建物の方位が、条里地割に近い一群と条里地割とは全く異なる一群がある。中世前期とした建物の多くは、柱穴出土の遺物により時期を決定した。柱穴への遺物の混入の可能性も排除できておらず（特に第5～7型式の山茶椀がⅡ期の遺構に混入することが多いと思われる）、実際にはⅡ期の建物の多くがⅠ期の建物として把握されていると思われる。

S B 1 3 7

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行3間以上、梁行2間

建物方位：N33° E

面積：12.2m²以上

重複関係：S B 139（中世I）→S B 137（中世I）

調査区の北西隅で検出した。一応総柱の建物とする。柱穴から無釉陶器椀（以下、山茶椀と呼称する）の小片が出土している。

S B 1 3 8

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N35° E

面積：8.1m²

重複関係：S B 138（中世I）→S K 6（中世I）

調査区の北西隅で検出した。柱穴が同じ時期の土坑S K 6を切る。柱穴から山茶椀の小片が出土した。

S B 1 3 9

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N43° W

面積：19.8m²

重複関係：S B 139（中世I）→S B 137（中世I）

S B 139（中世I）→S K 2（中世IV）

調査区の北西隅で検出した。柱穴がやや大きい。中世I期の建物S B 137と重複するが、両者の前後関係は前述の通りである。

S B 1 4 3

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N25° E

面積：5.5m²

重複関係：S B 142（古代）→S B 143（中世I）→S B 144（中世IかII）

小規模な建物であるが、柱穴は大きい。柱穴は一見古代の建物のもののように見えるが、柱穴から第4型式の山茶椀が出土しているので、中世I期の遺構とした。8世紀後半の建物S B 142、やや新しい時期の建物S B 144と重複するが、三者の前後関係は前述の通りである。

S B 1 4 4

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N29° E

面積：8.1m²

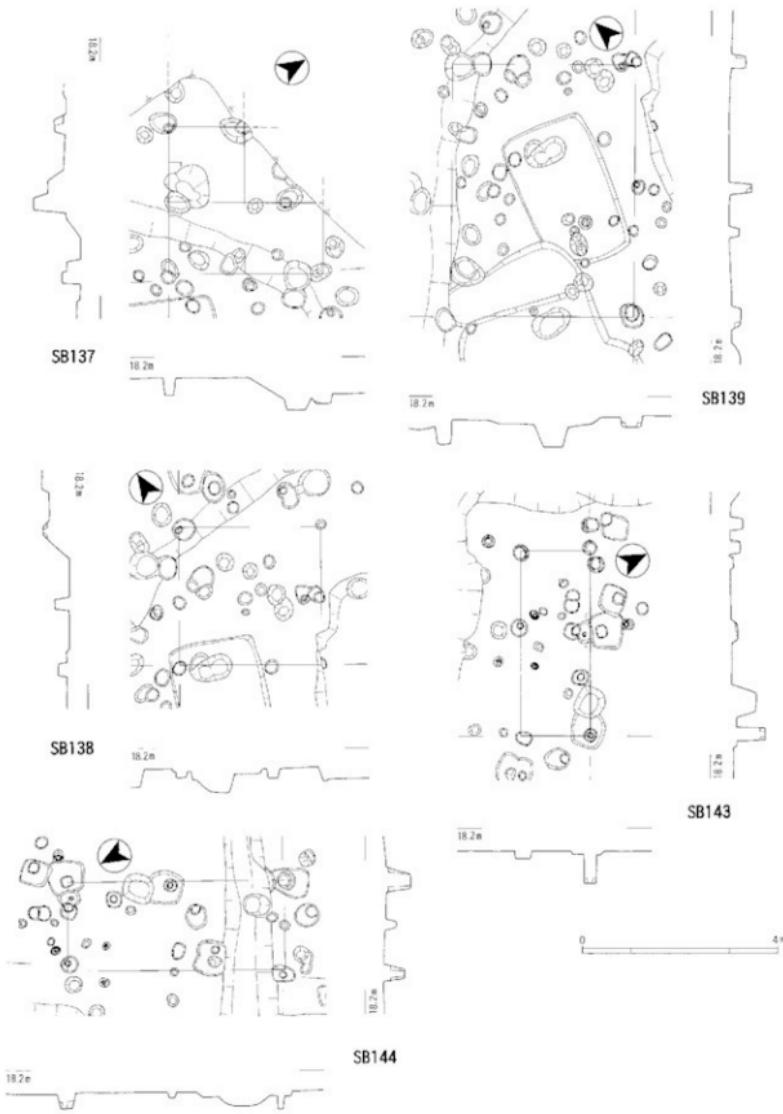
重複関係：S B 142（古代）→S B 143（中世I）→S B 144（中世IかII）

S B 143と形状が似た建物である。北側の柱穴が大きいがこれは重複する古代の掘立柱建物S B 142のものである。建物の時期は中世II期にまで下る可能性もある。

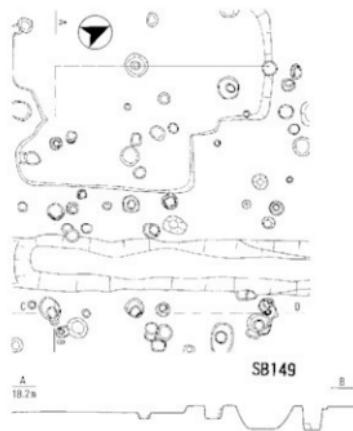
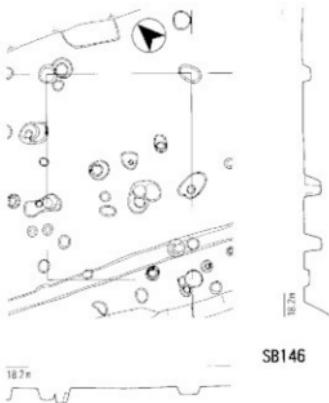
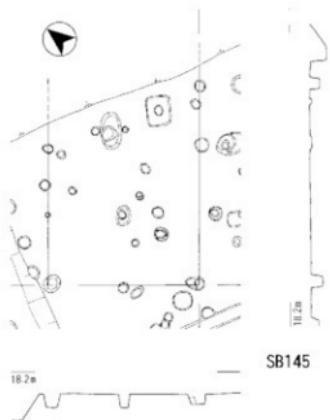
S B 1 4 5

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間以上、梁行2間



第39図 S B 137・138・139・143・144(1 : 100)



第40図 S B 145・146・147・149(1 : 100)

建物方位：N39° W

面積：12.7m²以上

重複関係：なし

桁行が調査区外にまで伸びるが、隣接するSB146と同じ形状になる可能性もある。柱穴からの出土遺物はないが、中世Ⅰ期の建物SB152、SB188と方位が一致するのでこの時期の遺構とした。

SB146

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N44° W

面積：12.8m²

重複関係：SB146（中世Ⅰ）→SD21（中世Ⅰ）

隣接するSB145と似る。中世Ⅰ期の溝SD21に切られる。

SB147

建物型式：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N19° E

面積：6.8m²

重複関係：SB147（中世Ⅰ）→SB148（中世Ⅲ）

SB147（中世Ⅰ）→SK12（中世Ⅲ）

小規模な建物である。柱穴から白楓片が出土し、中世Ⅰ期の建物SB345と建物方位が一致する。

SB149

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N25° E

面積：22.4m²

重複関係：SB149（中世Ⅰ）→SK13（中世Ⅱ）

→SK12（中世Ⅲ）

柱穴からの出土遺物はすべて古代のものであるが、中世Ⅰ期の建物であるSB143、SB193などとほぼ方位が一致するので、一応同時期の建物とした。

SB152

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行4間、梁行2間

建物方位：N39° W

面積：14.0m²

重複関係：SB150（古代）→SB152（中世Ⅰ）

SB154（中世Ⅰ）→SB152→SK11

（中世Ⅰ）

桁行が長い建物である。西側の側柱は明瞭ではない。柱穴出土の遺物は大半が古代のものであるが、中世Ⅰ期の建物SB154を切り、柱穴から山茶楓の小片が1点のみ出土しているので、一応この時期の遺構とした。

SB153

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N33° W

面積：11.5m²

重複関係：SK11（中世Ⅰ）→SB153（中世Ⅰ）

この建物も桁行が長い。西側の側柱は明瞭ではない。中世Ⅰ期の土坑SK11を切る。柱穴から第4型式の山茶楓が出土している。

SB154

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行3間

建物方位：N5° E

面積：22.4m²

重複関係：SB154（中世Ⅰ）→SB152（中世Ⅰ）

→SK11（中世Ⅰ）

比較的柱穴が大きい。東側の側柱は不明瞭である。中世Ⅰ期の建物SB152に切られる。柱穴から土師器皿が出土している。

SB159

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N44° E

面積：19.8m²

重複関係：SB197・SK18（中世Ⅰ）→SB159

（中世Ⅰ）→SD14（中世Ⅱ）

SK18を建物内土坑とする中世Ⅰ期の建物SB197を切る。柱穴から山茶楓の小片が出土している。

SB160

建物遺構：総柱建物

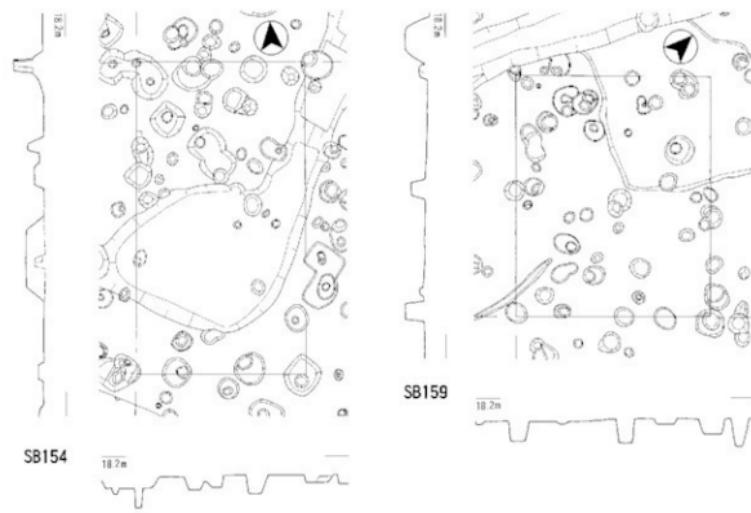
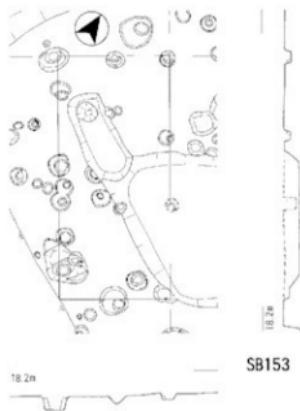
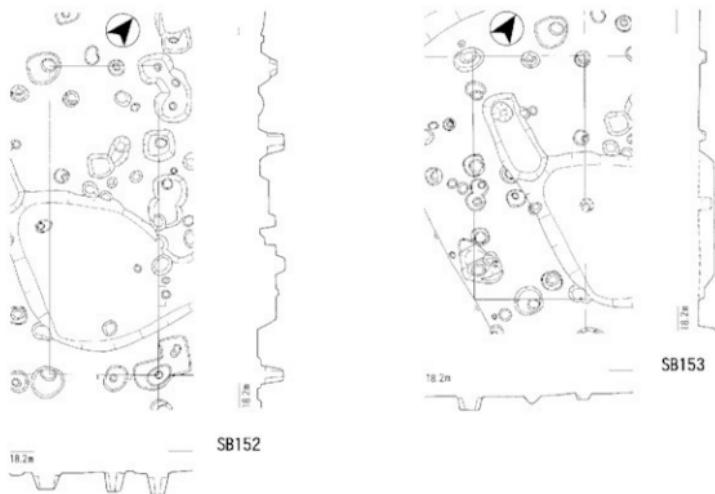
平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N39° E

面積：35.1m²

重複関係：SB197・SK18（中世Ⅰ）→SD14

（中世Ⅱ）→SB160（中世Ⅱ）



第41図 S B 152・153・154・159(1 : 100)

S K 18を建物内土坑とする中世Ⅰ期の建物 S B 197と、中世Ⅱ期の溝 S D 14を切る。建物の時期は中世Ⅱ期の可能性が高い。

S B 1 6 2

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行3間

建物方位：N22° E

面積：30.9m²

重複関係：S B 162（中世Ⅰ）→S D 14（中世Ⅱ）

柱穴の残りが悪いが、庇を持つ建物と考えられる。中世Ⅰ期の建物 S B 316、S B 317と方位が一致する。柱穴から第6型式の山茶椀が出土した。

S B 1 6 3

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行1間

建物方位：N43° W

面積：11.6m²

重複関係：S B 163（中世Ⅰ）→S D 27（中世Ⅰ）

桁行が長い建物である。中世Ⅰ期の溝 S D 27に切られる。中世Ⅰ期の建物 S B 139と方位が一致する。柱穴から第7型式の山茶椀が出土した。

S B 1 6 4

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行1間、梁行1間

建物方位：N29° E

面積：12.5m²

重複関係：S B 164・S K 24・25（中世Ⅰ）→

S K 23・26（中世Ⅲ）

内部に方形の土坑 S K 24・25を持つ。西側の柱筋の内側に柱穴列があるが、これは建物に付随するものである可能性がある。建物内土坑の前後関係は S K 25→24である。S K 24の埋土から第7型式の山茶椀が出土した。

S B 1 6 6

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行1間以上、梁行2間

建物方位：N10° E

面積：7.3m²以上

重複関係：S B 166（中世Ⅰ）→S B 165（中世ⅢかIV）

桁行が調査区外にのびる。柱穴から第7型式の山

茶椀が出土している。

S B 1 7 5

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N38° E

面積：23.2m²

重複関係：S B 175（中世Ⅱ）→S B 56（中世Ⅲ）

やや大型の建物である。柱穴から第8型式の山茶椀が出土している。中世Ⅲ期の井戸 S E 56に切られる。

S B 1 7 6

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N16° E

面積：6.9m²

重複関係：なし

小規模な建物であるが柱穴はやや大ぶりである。柱穴からの出土遺物はないが、中世Ⅰ期の建物 S B 295、S B 322と方位が一致するためこの時期の遺構とした。

S B 1 7 7

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N29° E

面積：15.0m²

重複関係：S K 39（古代）→S B 177（中世ⅠかⅡ）

柱穴から第2段階か第3段階の南伊勢系鍋の体部片が出土しているので中世Ⅱ期に下る可能性がある。

S B 1 7 8

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N29° E

面積：4.2m²

重複関係：なし

内部に円形の土坑 S K 53を持つ。土坑の埋土からは、第7型式の山茶椀が出土している。

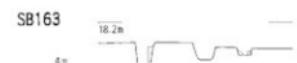
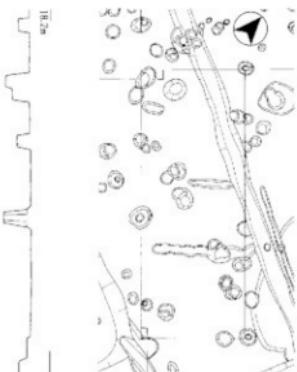
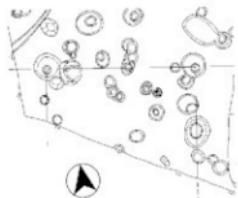
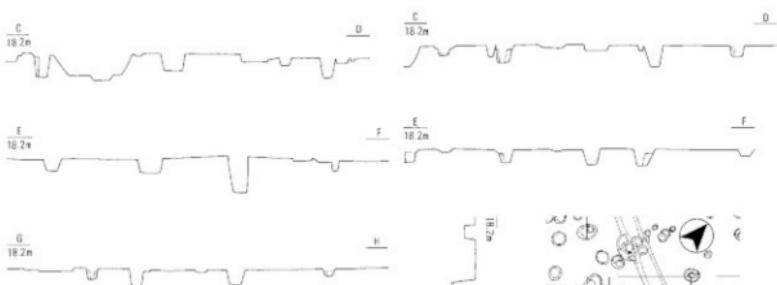
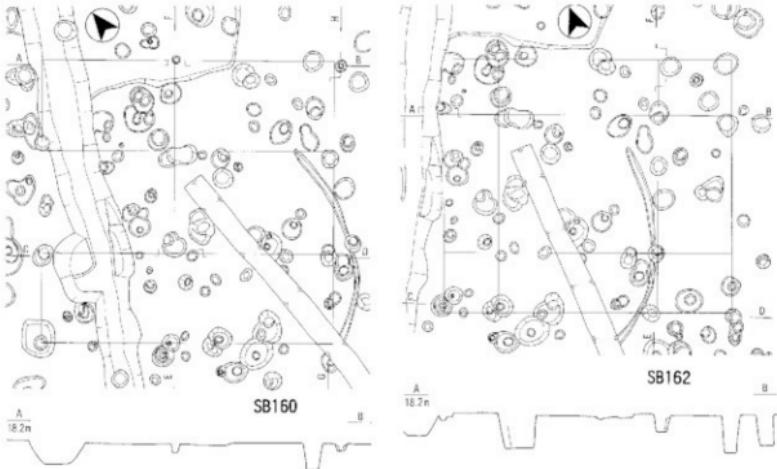
S B 1 7 9

建物遺構：総柱建物

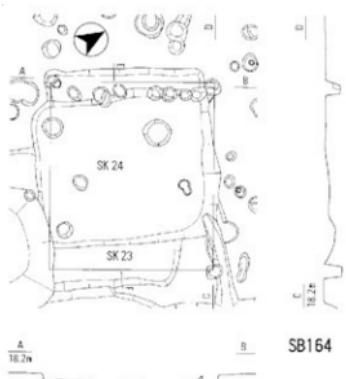
平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N33° W

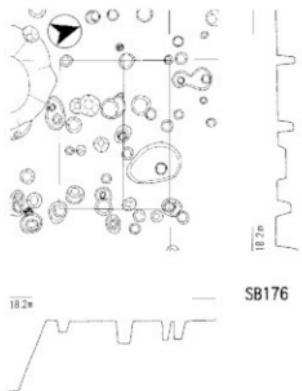
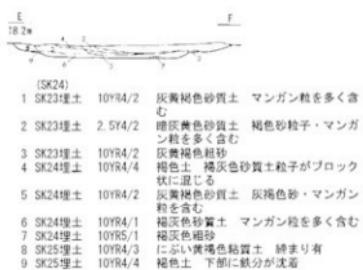
面積：34.0m²



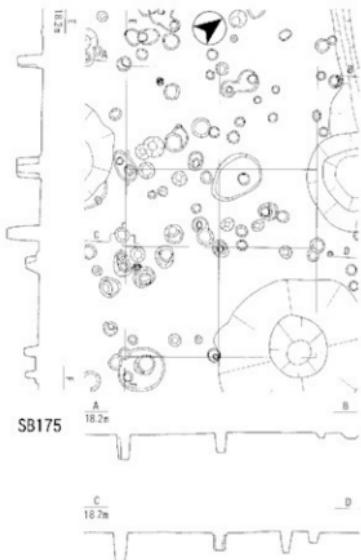
第42図 S B 160・162・163・166(1 : 100)



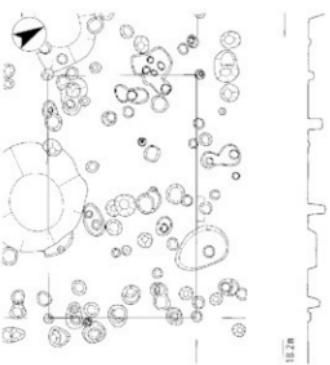
SB164



SB176

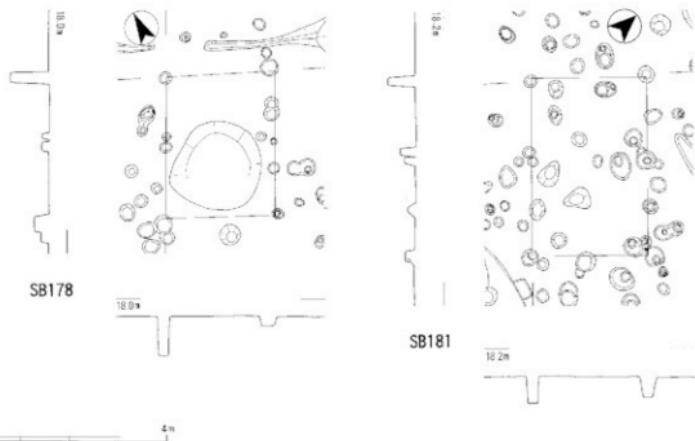
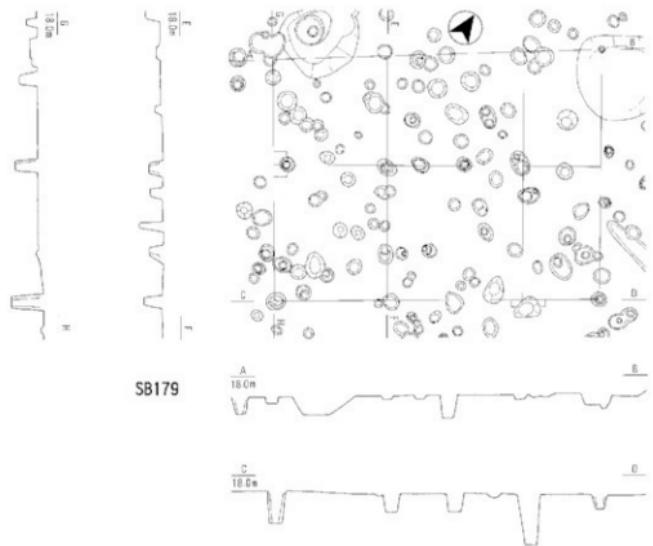


SB175



SB177

第43図 S B 164・175・176・177(1 : 100)



第44図 SB 178・179・181(1:100)

重複関係：S B178・SK53（中世I）→S B179

（中世I）

S K100→S B179（中世I）

やや大型の建物である。SK53を建物内土坑とするS B178を切る。

S B180

建物造構：総柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N34° E

面積：22.1m²

重複関係：S B180（中世I）→S K54（中世IIIかIV）

柱穴から山茶楓の小片が出土しているため、この時期の造構とした。

S B181

建物造構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N44° E

面積：8.8m²

重複関係：なし

小規模な建物である。柱穴からは縄文土器しか出土していないが、中世I期の建物S B159と方位が一致するのでこの時期の造構とした。

S B185

建物造構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N35° E

面積：5.3m²

重複関係：なし

この建物も小規模である。柱穴からは縄文土器しか出土していないが、中世I期の建物S B138と方位が一致するのでこの時期の造構とした。

S B188

建物造構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N39° W

面積：6.0m²

重複関係：なし

この建物も小規模である。柱穴からの出土遺物はないが、中世I期の建物S B145、S B152と方位が一致するのでこの時期の造構とした。

S B192

建物造構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N35° W

面積：4.3m²

重複関係：S B192（中世I）→S D52（中世IIIかIV）

この建物も小規模である。柱穴からは縄文土器しか出土していないが、中世I期の建物S B153、179と方位が一致するのでこの時期の造構とした。

S B193

建物造構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N24° E

面積：6.2m²

重複関係：S B193・SK91（中世I）→S K54→

S K51→S K50（中世IV）

桁行2間の小規模な建物である。埋土に第7型式の山茶楓を含むSK91はこの建物の建物内土坑と考えられる。SK91の底面には藁状の植物が炭化して堆積していた。土坑の用途を示す材料になると思われる。

S B196

建物造構：側柱建物

平面規模：桁行4間、梁行1間

建物方位：N28° E

面積：19.5m²

重複関係：S B197・SK18（中世I）→S B196

（中世I）→S D27（中世I）→S D14

（中世II）

S B196（中世I）→S B158（中世III

かIV）

桁行4間の細長い建物。第6型式の山茶楓を埋土に含むSK18（S B197の建物内土坑）を切り、第7型式の山茶楓を埋土に含む溝S D27に切られる。

S B197

建物造構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

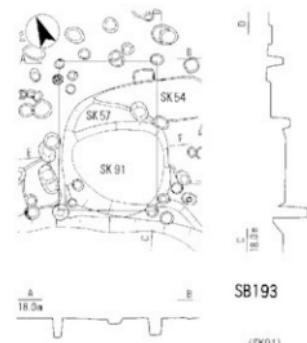
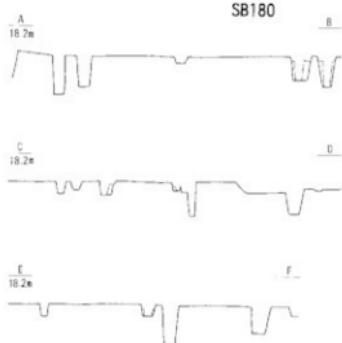
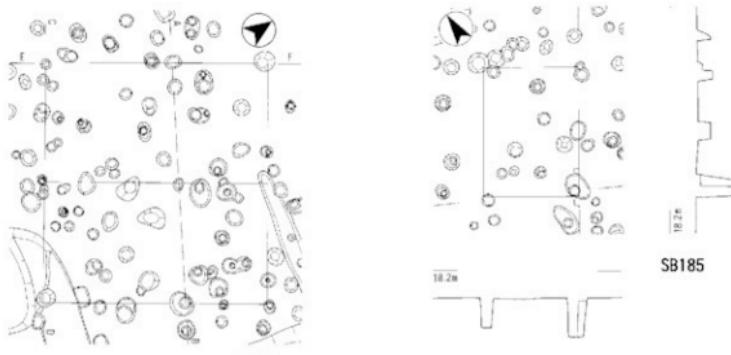
建物方位：N18° E

面積：15.6m²

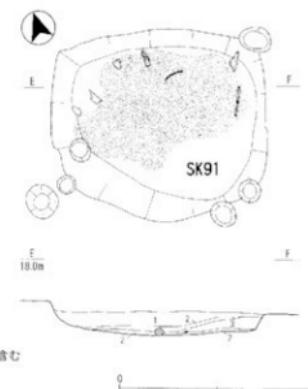
重複関係：S B197・SK18（中世I）→S B159

（中世I）→S D14（中世II）

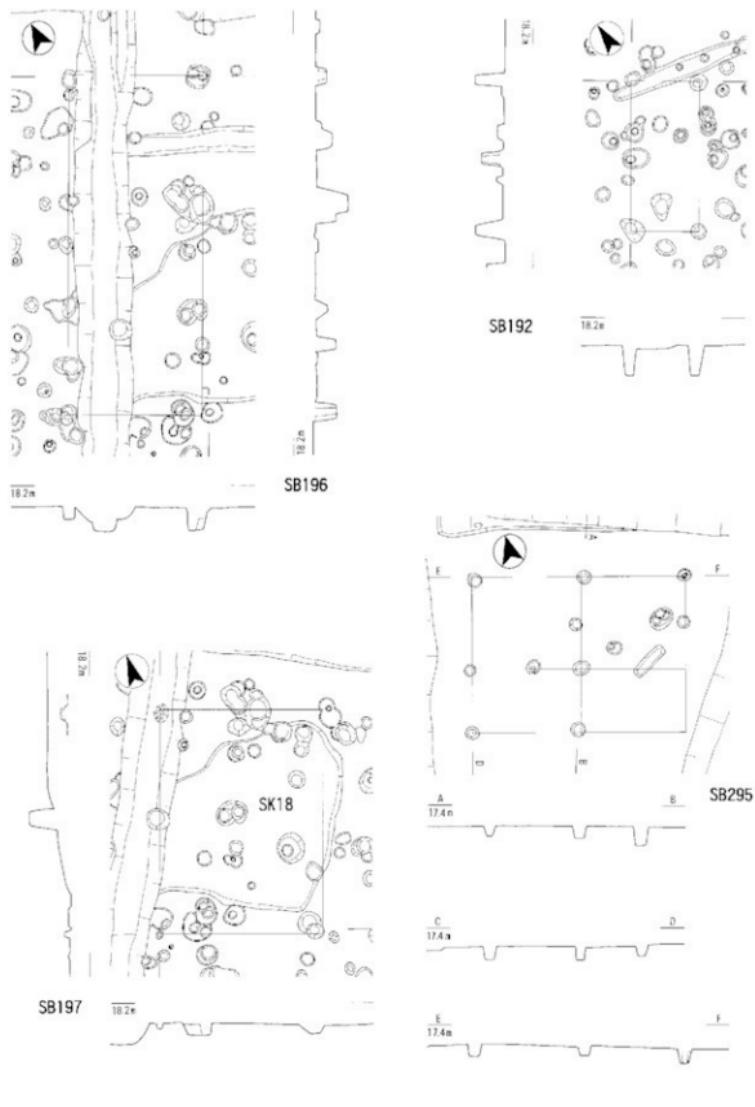
第6型式の山茶楓を埋土に含む土坑SK18は、建



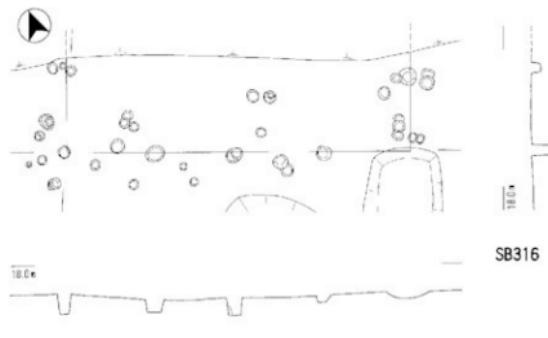
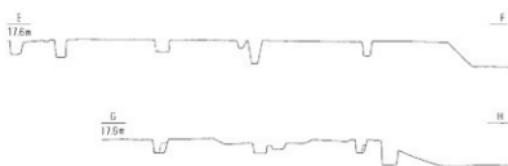
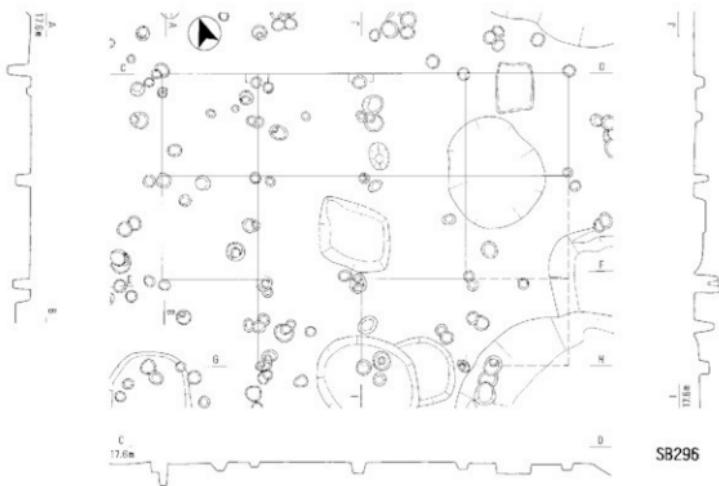
- (SK91)
- 1 10Y3/1 オリーブ褐色粘質土 鉄分を含む
 - 2 ワラ状の植物堆積層
 - 3 10Y5/2 オリーブ灰色粘質土



第45図 S B 180・185・188・193(1: 100, SK91=1: 50)



第46図 S B 192・196・197・295(1 : 100)



第47図 S B296・316(1 : 100)

物内土坑と思われる。

S B 2 9 5

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N17° E

面積：14.1m²

重複関係：なし

調査区の最も東で検出した。柱穴から第4・5型式の山茶椀、南伊勢系の土師器鍋の小片が出土したので中世I期の建物とした。

S B 2 9 6

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行3間、梁行3間

建物方位：N18° E

面積：46.8m²

重複関係：S B296（中世I）→S B345（中世I）

S B296（中世I）→S E217（中世III）
→SK222（中世IV）

比較的規模の大きな建物である。柱穴から第6型式の山茶椀・陶器小皿、土師器皿・鍋が出土しているので中世I期の遺構とした。

S B 3 1 6

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行4間、梁行2間以上

建物方位：N23° E

面積：12.0m²以上

重複関係：S B316（中世I）→SK261（中世I？）

梁行が調査区外にのびている。柱穴から第5型式の山茶椀が出土しているので中世I期の遺構とした。

S B 3 1 7

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間以上

建物方位：N23° E

面積：15.1m²

重複関係：なし

梁行が調査区外にのびている。柱穴から第7型式の山茶椀が出土しているので中世I期の遺構とした。

S B 3 1 8

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行4間、梁行4間

建物方位：N27° E

面積：67.2m²

重複関係：S B318→S B326（中世I）

大型の掘立柱建物である。3間×3間の身舎の南に1間分の庇が付属する。柱穴から第6型式の山茶椀・陶器小皿が出土したので中世I期の遺構とした。

建物内部の柱穴を抽出することができなかったが、総柱の建物である可能性も残る。

前後関係は不明であるが、重複するS B319と同じ性格の建物と思われる。

S B 3 1 9

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行5間、梁行3間

建物方位：N27° E

面積：51.9m²

重複関係：S B323（古代）→S B319（中世I）

S B318とともに、この屋敷地では大型の建物である。柱穴から第5・6型式の山茶椀、第1段階b型式の南伊勢系土師器鍋が出土したのでこの時期の遺構とした。

S B 3 2 0

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N26° E

面積：24.3m²

重複関係：S K282（中世I）→S B320（中世IかII）

柱穴からの遺物はないが、埋土に第7型式の山茶椀を含む土坑SK282を切るので、中世I期かII期の遺構と思われる。

S B 3 2 2

建物遺構：側柱建物

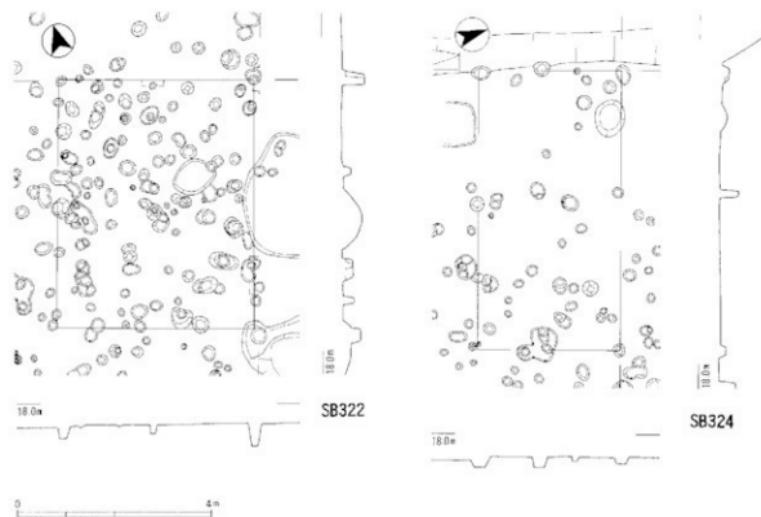
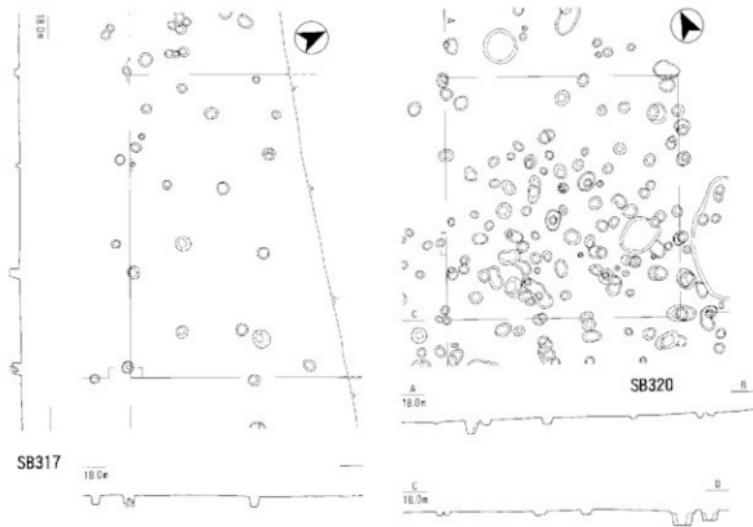
平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N17° E

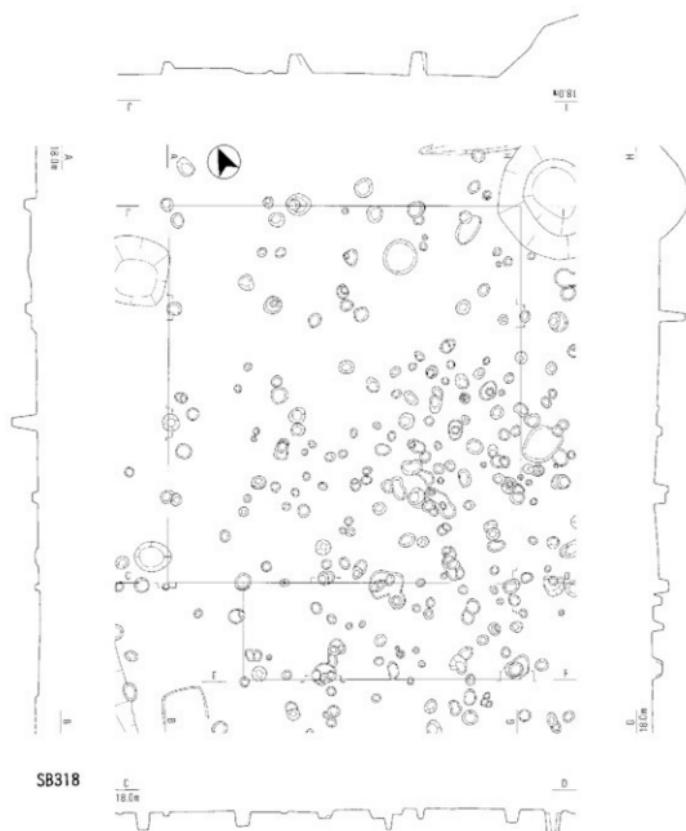
面積：20.2m²

重複関係：S B322（中世I）→S E83（中世II）
S B322→SK298（中世III）

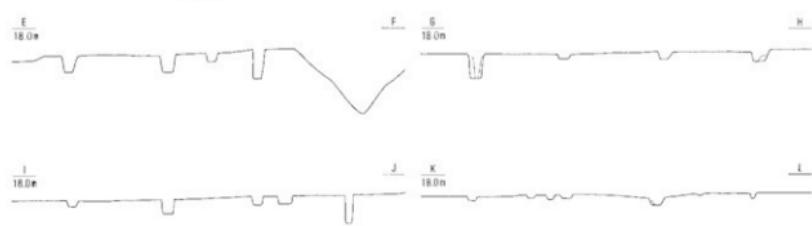
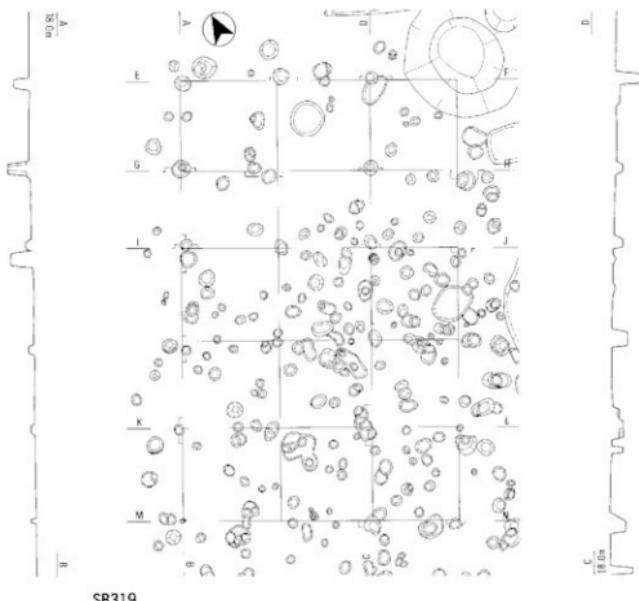
埋土に第8型式の常滑製品の甕を含む中世II期の井戸S E83に切れ、柱穴から第1段階b型式の南伊勢系土師器鍋が出土しているので中世I期の遺構とした。



第48図 S B 317・320・322・324(1:100)



第49図 S.B318(1 : 100)



第50図 S B319(1 : 100)

S B 3 2 4

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N18° E

面積：16.8m²

重複関係：S B324（中世I）→S D63（中世IV）

桁行の柱筋が明瞭ではない。中世I期の建物S B318を切り、柱穴から第7型式の山茶椀が出土しているので、中世I期の遺構とした。

S B 3 2 6

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行1間

建物方位：N11° W

面積：7.2m²

重複関係：S B318（中世I）→S B326（中世I）

梁行1間の細長い建物である。中世I期の建物S B318を切り、柱穴から第6型式の山茶椀が出土しているので、中世I期の遺構とした。

S B 3 2 9

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N30° E

面積：7.0m²

重複関係：S B329（中世I）→S K298（中世III）

小規模な建物である。柱穴から第6型式の山茶椀、柱状高台の土師器が出土しているので、中世I期の遺構とした。

S B 3 3 0

建物遺構：井戸覆屋

平面規模：桁行1間、梁行1間

建物方位：N24° E

面積：7.8m²

重複関係：S D89（中世I）→S B330・S E269
(中世I)

井戸S E269の覆屋。S E269出土遺物には古瀬戸後期のものも少量含まれるが、ほとんどの遺物が第7型式以前の山茶椀・陶器小皿なので、一応中世I期の遺構とした。

S B 3 3 4

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行4間以上、梁行3間

建物方位：N20° E

面積：42.8m²以上

重複関係：S B334（中世I）→S B347（中世III）
→S B346（中世III）→S B335（中世IIIかIV）

桁行が調査区外にのびる。柱穴から第7型式の陶器小皿が出土したので、中世I期の遺構とした。ただし、S B346と建物の規模などが似ているため、近接する時期（中世IIかIII）の遺構である可能性がある。

S B 3 4 4

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行1間

建物方位：N26° W

面積：23.0m²

重複関係：S B344（中世I）→S B345（中世I）
S B344→S A342（中世I）

梁行1間の細長い建物である。柱穴から土師器皿が出土している。

S B 3 4 5

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行4間、梁行2間

建物方位：N19° E

面積：40.0m²

重複関係：S B296（中世I）→S B345（中世I）
S B344（中世I）→S B345
S B348（中世I）→S B345

周辺の中世I期の建物の中では最も新しい。柱穴から第7型式の陶器小皿が出土したので中世I期の遺構とした。

S B 3 4 8

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

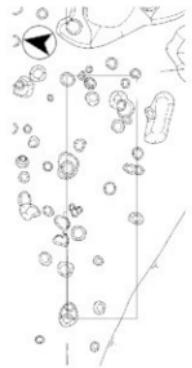
建物方位：N18° W

面積：22.8m²

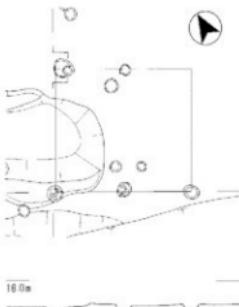
重複関係：S B348（中世I）→S B345（中世I）
東西桁行の柱穴が明瞭ではないが一応、建物とした。柱穴から片口鉢の小片が出土している。

②柱列

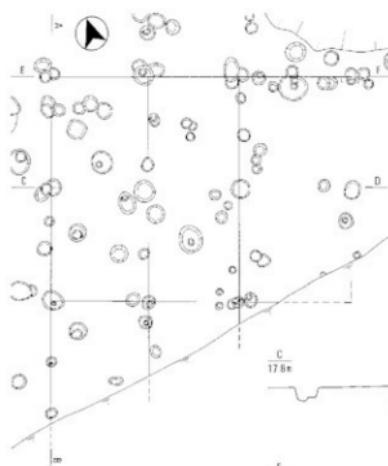
この時期の柱列を5条確認した。これらのうちのいくつかは調査区外にのびる掘立柱建物の一部かも



SB326



SB329



SB334

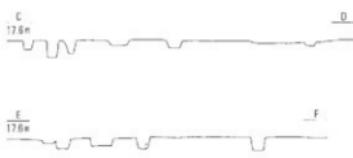
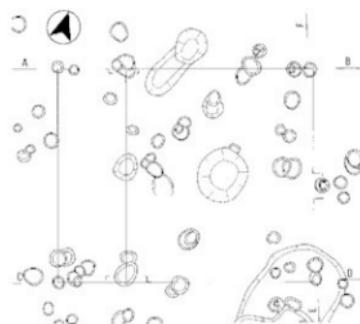


0 4m

第51図 SB326・329・334(1:100)



0 4m



第52図 S B 330・344・348(1 : 100)

しない。

S A 1 3 6

5間の柱列。柱穴は比較的大きく柱間は不揃いである。中世Ⅰ期とした建物S B149と方位が一致し、柱穴から第6型式の山茶椀が出土したので、この時期の遺構とした。調査区外にのびる掘立柱建物の一部かもしれない。

S A 1 8 7

4間の柱列。柱間はやや揃う。柱穴から陶器小皿が出土したので中世前期の遺構とした。

S A 3 3 3

3間の柱列。埋土に第7型式の山茶椀を含む土坑SK248を切る。一応中世前期の柱列とした。

S A 3 4 2

4間の柱列。中世Ⅰ期の建物S B344を切り、柱穴から山茶椀が出土した。一応中世Ⅰ期の遺構とし

ておく。

S A 3 4 3

3間の柱列。中世Ⅰ期の建物S B296に付属する遺構である可能性がある。柱穴から第6型式の山茶椀が出土した。

③土坑

S K 1 1

形状：不定形

規模：3.2×3.2m 深さ：33cm

重複関係：S X 8（中世Ⅰ）→S K11（中世Ⅰ）

S B154（古代）→S B152（古代）→

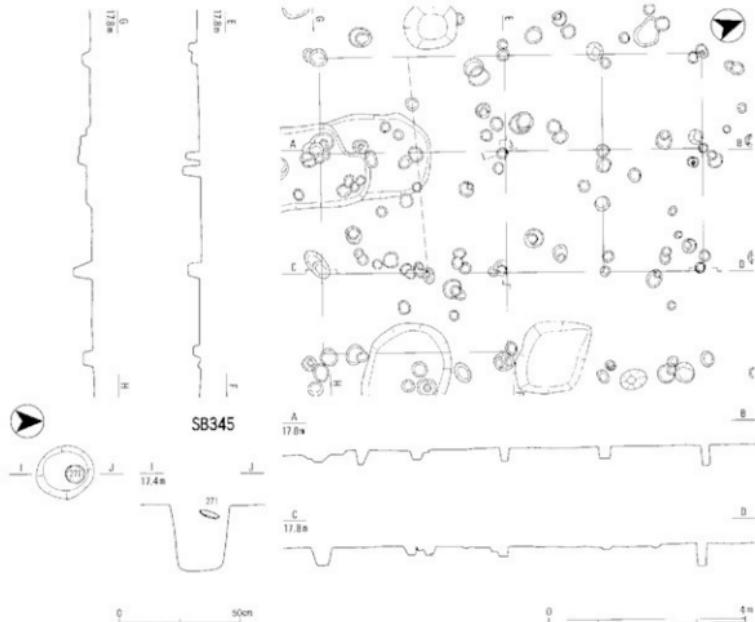
S K11（中世Ⅰ）

S K11（中世Ⅰ）→S B153（中世Ⅰ）

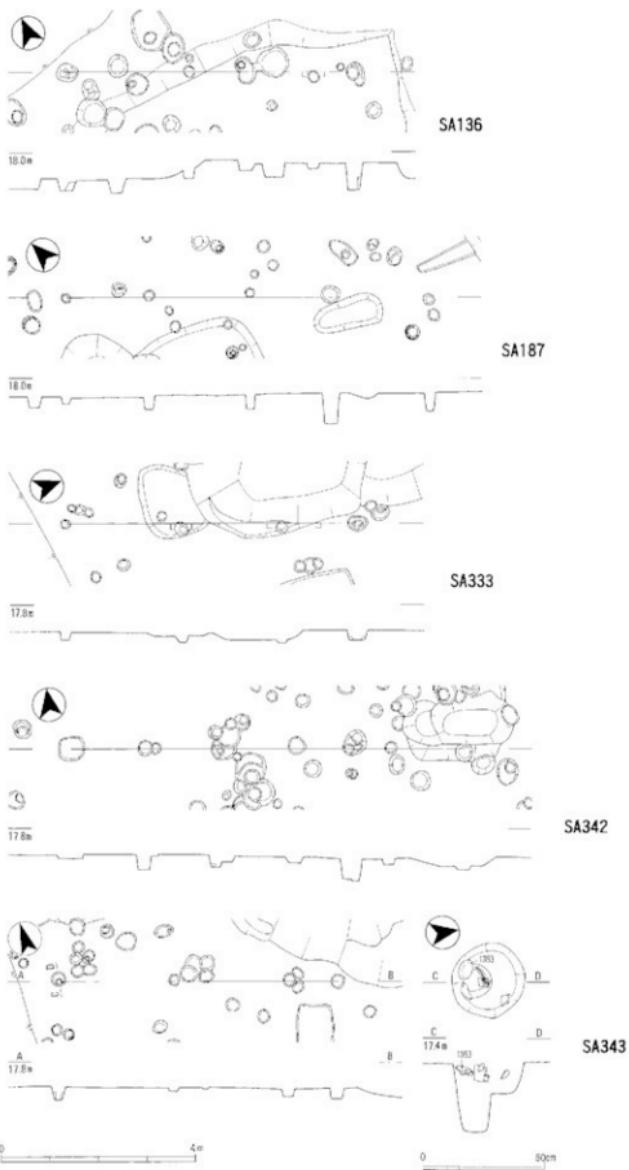
S K11（中世Ⅰ）→S B195（中世Ⅲ）

主要出土遺物：279～281

中世Ⅰ期の墓S X 8を切る。埋土には古代の土師



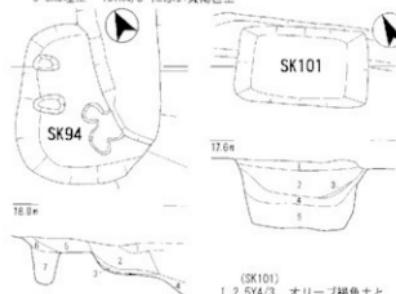
第53図 S B345(1:100, Pit=1:20)



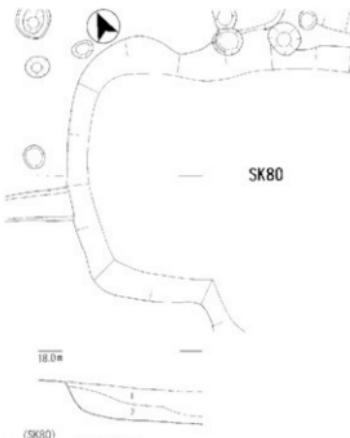
第54図 SA 136・187・333・342・343(1 : 100, Pit=1 : 20)



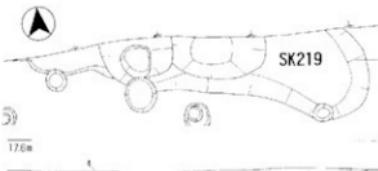
(SK11)
 1 10YR4/4 褐色土 締まり有
 2 SK11埋土 10YR5/3 にぶい黄褐色土 締まり有
 3 SK11埋土 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 黒褐色土を含む
 4 SK8埋土 10Y4/4 黄褐色土と10Y4/4褐色土の混合土
 5 SK8埋土 2.5Y3/2 黑褐色土と10Y4/2灰黃褐色土の混合土
 褐色土ブロックを含む
 6 SK8埋土 10Y4/3 にぶい黄褐色土



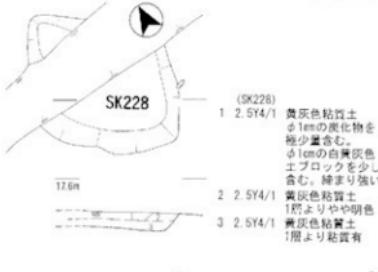
(SK94)
 1 10Y4/3 にぶい黄褐色土 マンガニ
 2 10Y4/4 褐色土とにぶい黄褐色土
 3 10Y4/1 褐色砂質土
 4 5Y3/2 オリーブ黒色粘質土
 5 2.5Y3/4 オリーブ褐色土
 6 5Y4/2 黑オリーブ色砂質土
 7 2.5Y4/1 黄灰色粘質土
 ※ 1~3 SK92埋土 4 SD62埋土,
 5~6 SK94埋土 7 Pit埋土.



(SK80)
 1 2.5Y7/1 灰白色砂質土
 2 2.5Y7/1 灰白色砂質土と10YR7/8黄橙色砂質土との斑土



(SK219)
 1 Pit埋土 5Y4/1 灰色粘質土 φ3cm前後の赤灰色粘質土ブロックを多量含む。φ1~5mm炭化物の少量含む
 2 Pit埋土 7.5Y4/1 灰色粘質土 φ1~5mm炭化物少量含む
 3 Pit埋土 7.5Y4/1 灰色粘質土 φ2~5mm灰黃色粘質土ブロック少量含む。締まり弱い
 4 SK219埋土 2.5Y5/1 黄灰色粘質土 φ3cm前後赤紫色ブロックを多量含む。φ1~5mm炭化物多量に含む
 5 SK219埋土 7.5Y3/2 オリーブ黒色粘質土 φ3~5mm灰黑色粘質土ブロックを少量含む。φ1~5mm炭化物多量に含む
 6 SK219埋土 2.5Y5/2 鮎黃灰色粘質土 灰黄色ブロックを多量に含む



(SK228)
 1 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 φ1mmの炭化物を極少量含む。
 2 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 1層よりや明色
 3 2.5Y4/1 黄灰色粘質土 1層より粘質有

第55図 S K 11・80・94・101・219・228(1:50)

器、須恵器、灰釉陶器を含むが、最新の遺物は第6型式の山茶椀である。

SK 8 0

形状：不定形

規模： $2.6 \times 1.2m$ 以上 深さ：35cm

重複関係：SK 80（中世I）→ S B 193・SK 91

（中世I）→ SK 79（中世III）→ SD 62

（中世III）→ SK 72（中世III）

中世I期の建物S B 193の建物内土坑SK 91に切られる。埋土中の最新遺物は第7型式の山茶椀である。

SK 9 4

形状：楕円形

規模： $1.6 \times 1.3m$ 以上 深さ：12cm

重複関係：SK 94（中世I）→ SK 92（中世III）→

SD 62（中世III）

中世III期の土坑SK 92に切られる。埋土中の最新遺物は第6型式の山茶椀である。

SK 1 0 1

形状：長方形

規模： $1.4 \times 0.8m$ 深さ：65cm

重複関係：なし

長方形の深い土坑である。他の造構との重複がなく、出土遺物もないが、一応この時期の造構とした。

SK 2 1 9

形状：不定形

規模： $3.5 \times 0.9m$ 以上 深さ：35cm

重複関係：なし

埋土には古代の土器を多く含む。埋土中の最新遺物は第4型式の山茶椀である。

SK 2 2 8

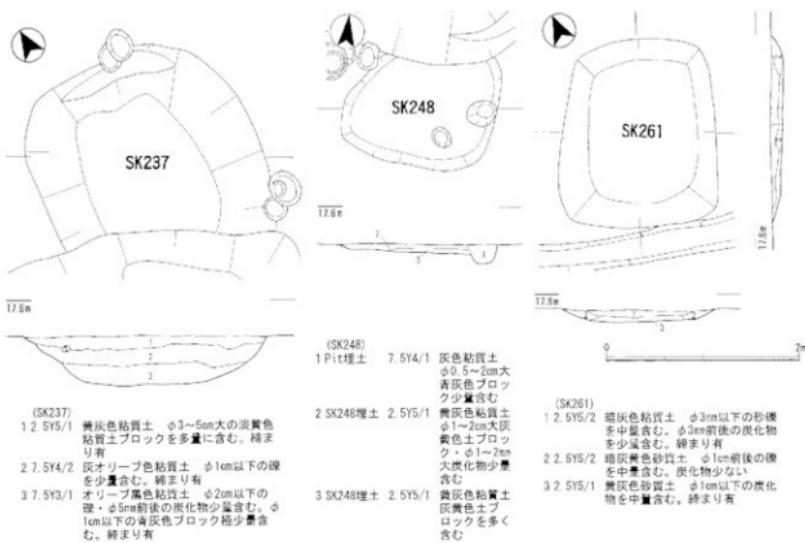
形状：方形

規模： $1.4 \times 1.1m$ 深さ：18cm

重複関係：なし

主要出土遺物：298

方形の土坑である。埋土中の最新遺物は第6型式



第56図 SK 237・248・261(1:50)

の山茶椀である。

SK 237

形状：楕円形

規模：2.3×1.9m以上 深さ：50cm

重複関係：SK 237（中世I）→SK 222（中世III）

主要出土遺物：304

やや深い楕円形の土坑。埋土中の最新遺物は第6型式の山茶椀である。

SK 248

形状：楕円形

規模：1.5×1.1m以上 深さ：10cm

重複関係：SK 248（中世I）→SA 333（中世IかII）→SK 222（中世III）

楕円形の浅い土坑。埋土中の最新遺物は第7型式の山茶椀である。

SK 261

形状：長方形

規模：2.0×1.6m 深さ：12cm

重複関係：SB 316（中世I）→SK 261（中世I）

方形の浅い土坑。中世I期の掘立柱建物SB 316を切る。埋土中の最新遺物は第6型式の山茶椀である。

④溝

SD 14

長さ：22.5m以上 幅：1.2m 深さ：46cm

流れ：南→北

重複関係：SB 157（古代）→SD 14（中世II）

SB 159（古代）→SD 14（中世II）

SB 162（中世I）→SD 14（中世II）

SB 196（中世I）→SD 14（中世II）

SB 197・SK 18（中世I）→SD 14

SD 27（中世I）→SD 14

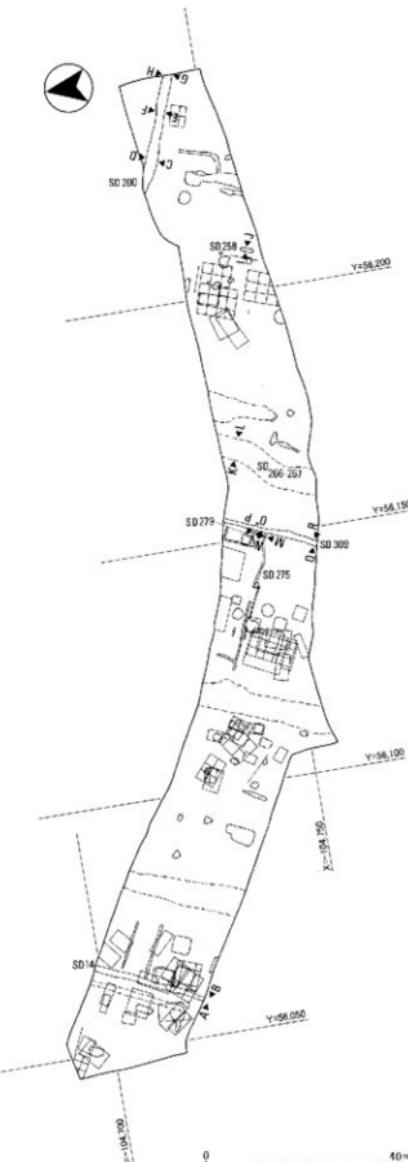
SD 14（中世II）→SD 9（中世III）

SD 14（中世II）→SA 155（中世IV）

SD 14（中世II）→SA 156（中世IIIかIV）

SD 14（中世II）→SB 160（中世II）

調査区を南北に走る区画溝。多くの遺構と重複する。溝底に粘質土が堆積する。溝底のレベル差から南から北に流れていると推定できる。埋土中の最新遺物は第8型式の山茶椀である。



第57図 溝土層断面図作成箇所一覧(1:1,000)

S D 2 0 0

断面形状：U字状

長さ：22.7m以上 幅：2.1m 深さ：60~90cm

流れ：西→東

重複関係：S D 204（古代）→S D 200（中世Ⅰ）→
S D 201（中世Ⅲ）→S D 206（中世Ⅲ）

調査区を東西に走る区画溝。古代から中世前期の多くの遺物を含む。溝中には古代の遺物がある程度まとまって出土しており、その状況を図示した。溝底のレベル差から西から南に流れていたと推定できるが、埋土のほとんどは粘質土で、流れは緩やかであったと推定できる。埋土中の最新遺物は第7型式の山茶椀である。

S D 2 5 8

長さ：2.8m 幅0.5m 深さ：10cm

重複関係：S D 258（中世Ⅱ）→S D 247（中世Ⅲ）

短く小規模な溝で、埋土は粘質である。埋土中の最新遺物は第8型式の山茶椀である。中世Ⅲ期の溝S D 247と重複する。

S D 2 6 6 · 2 6 7

断面形状：逆台形

長さ：SD266=7m以上、SD267=18m以上

幅：SD266=1.2m、SD267=1.8m以上

深さ：SD266=90cm、SD267=96cm

流れ：南→北

重複関係：S D 267（中世Ⅱ）→S D 266（中世Ⅱ）

中世Ⅳ期に埋没する流路S R 216の下層。いずれも南から北に流れる。S D 266の埋土は溝底に砂質土、その上に小礫・砂が混じる粘質土であり、流水が確認できる。S D 267の埋土は溝底が砂を含む粘質土、その上に炭化物や植物遺体を含む層があり、滲水していた状況が確認できる。埋土中の最新遺物は第8型式の山茶椀である。

S D 2 6 8

長さ：10.3m以上 幅1.5~2.7m 深さ10~20cm

調査区を南北に走る溝状造構。複数の造構が重複していると思われる。比較的まとまった遺物が出土している。埋土中の最新遺物は第7型式の山茶椀である。

S D 2 7 5

長さ：11.7m 幅0.3m 深さ15cm

重複関係：S K 306（中世Ⅰ）→S D 275（中世Ⅰ）

→S D 309（中世Ⅰ）→S D 279（中世

I ?）→S K 289（中世Ⅳ）

S D 303→S D 275（中世Ⅰ）

調査区を東西に走る小溝。S D 85・89・273などは、この溝と形状が似ており、同様の性格を持つものと思われる。埋土の上層には砂質土、底近くには粘質土が堆積し、流水していた状況が確認できる。埋土からは山茶椀の小片が出土している。

S D 2 7 8 · 2 7 9

長さ：10.5m 幅0.3m 深さ15cm

重複関係：S D 277→S D 276（中世I ?）→S D

278（中世I ?）→S K 283（中世Ⅱ）

S K 306（中世Ⅰ）→S D 275（中世Ⅰ）

→S D 309（中世Ⅰ）→S D 279（中世

I ?）→S K 289（中世Ⅱ）

直角に折れ曲がる2本の溝。多くの造構と重複する。それらとの前後関係から、中世Ⅰ期でも末ごろの造構と思われる。埋土は砂質。

S D 3 0 9

長さ：19.0m 幅：0.8~1.2m 深さ：1.0m

流れ：南→北

重複関係：S K 306（中世Ⅰ）→S D 275（中世Ⅰ）

→S D 309（中世Ⅰ）→S D 279（中世

I ?）→S K 289（中世Ⅳ）

調査区を南北に走る区画溝。埋土上層には砂質土、底近くには粘質土があり、流水していた状況が確認できる。埋土中の最新遺物が第7型式の山茶椀であったため、中世Ⅰ期の造構としたが、中世Ⅳ期の溝S D 263と平行するので、造構の時期は中世Ⅳ期まで下る可能性がある。

⑤井戸

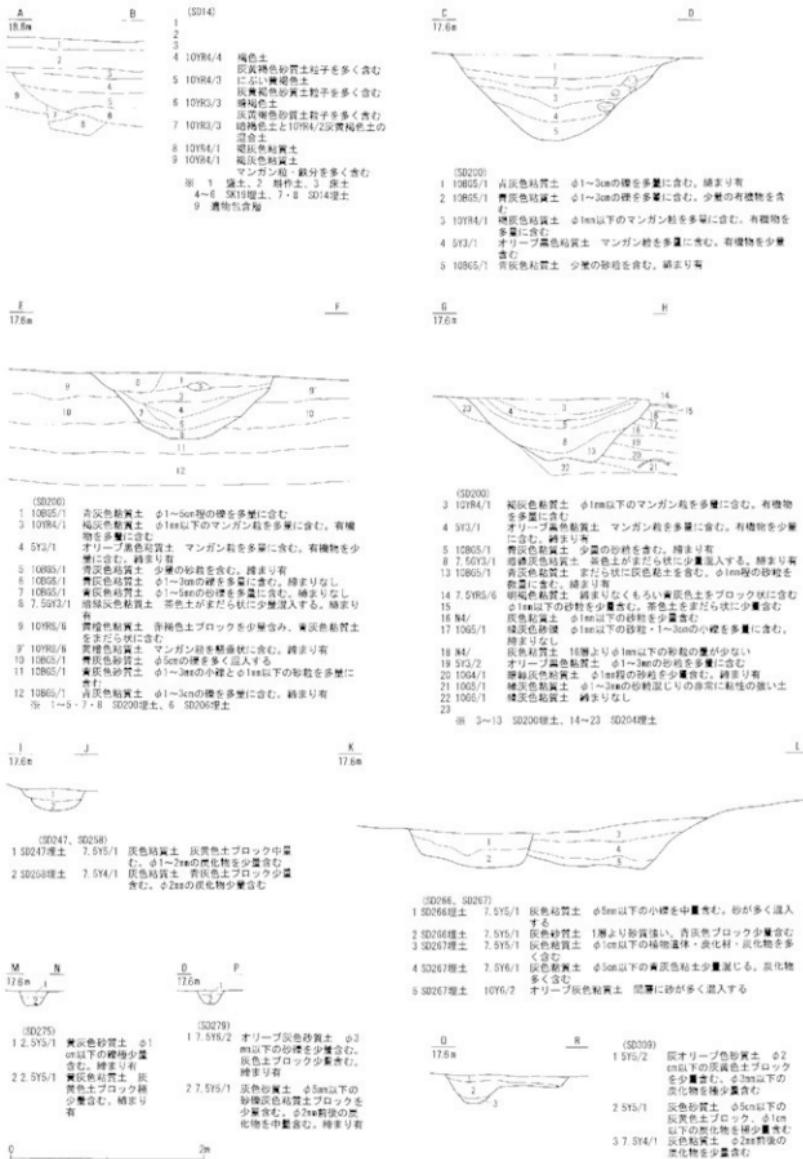
中世前期の井戸は8基ある。この時期の井戸は素掘りもしくは縦板と曲物を組み合わせた形態である。なお、素掘りとした井戸や曲物のみが据えられた井戸の中には、廃棄時に部材が抜き取られているものも含まれている。

S E 5 9

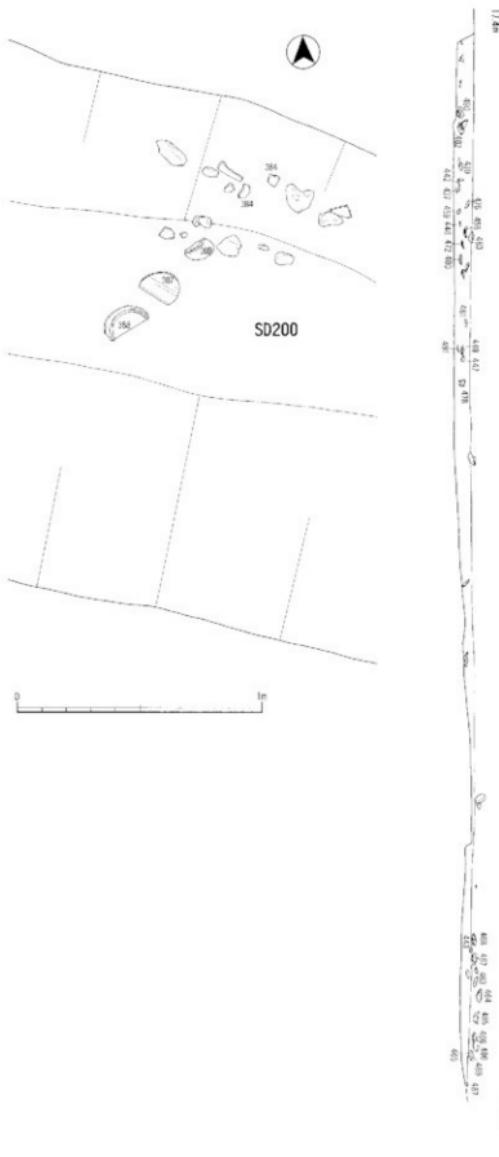
形態：縦板+曲物

掘形形状：楕円形

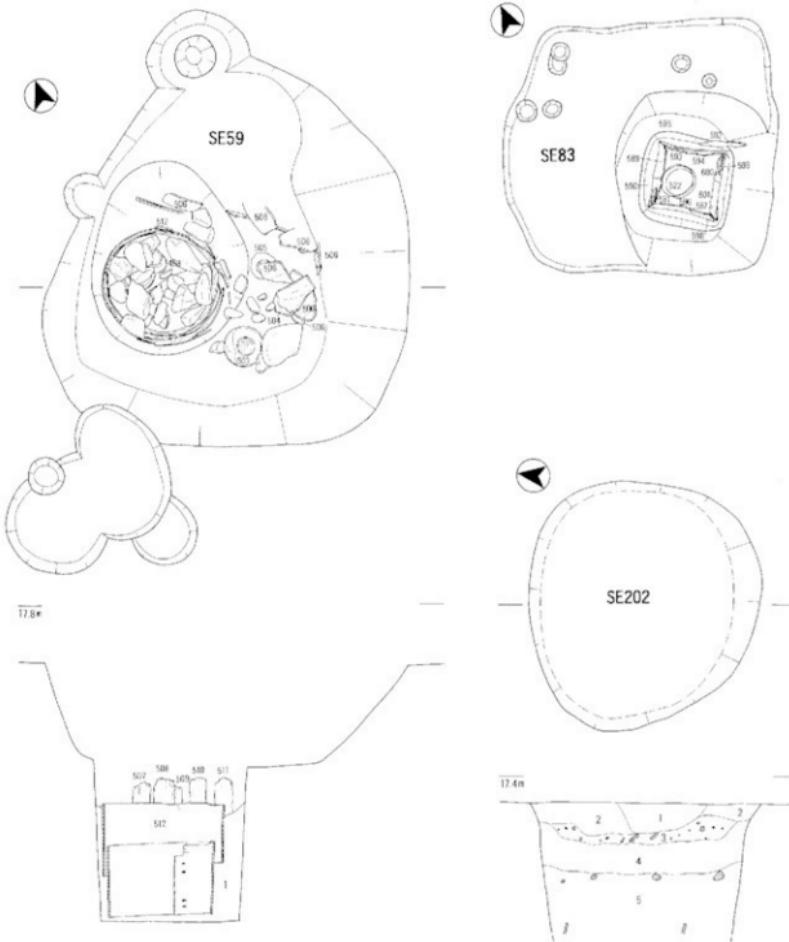
掘形規模：不明



第58図 S D14・200・247・258・266・267・275・279・309(1:50)



第59圖 S.D.200(1:20) : 268遺物出土狀況(1:50)



(SE59)

- | | | |
|---------|----------------|---|
| (SE202) | | |
| 1 | 投糞 | 嫌煙排水 |
| 2 | SE202埋土 5BG4/1 | 青灰色粘土質土
の深さを多くに含む。
マンガンブロックを多くに含む。 |
| 3 | SE202埋土 5BG4/1 | 青灰色粘土質土
の深さを多くに含む。
約5cmのマンガントロクリッドを少量化する。 |
| 4 | SE202埋土 10G2/1 | 緑葉色粘土質土
をばらばらにする。 |
| 5 | SE202埋土 10G2/1 | 緑黒色粘土質土
を少し含む。 |

第60図 S E 59(1:20)・83・202(1:50)

A horizontal number line representing the interval from 0 to 2π . The origin is marked with 0. Tick marks are present at $\frac{\pi}{4}$, $\frac{\pi}{2}$, and $\frac{3\pi}{4}$.

直径：1.4～1.6m 深さ：1.05m

重複関係：S E 59（中世 I）→ S B 183（中世 IIIか IV）

方形に縦板を組み、その下に 2段の曲物（512・513）を据えている。埋土には礫を多く含む。残存する縦板は少なく、抜き取られている可能性がある。埋土中の最新遺物は第 6 型式の山茶椀である。

S E 8 3

形態：縦板+曲物

掘形形状：方形

掘形規模：1.9×1.6m

直径：0.9m 深さ：2.0m

重複関係：S B 322（中世 I）→ S E 83（中世 II）

方形に縦板を組み、その下に曲物（522）を据えている。崩落の恐れがあったので掘削を途中で取りやめ、平面の確認と遺物の採集のみを行った。埋土中の最新遺物は第 7 型式か第 8 型式の常滑製品の裏である。

S E 2 0 2

形態：不明

掘形形状：円形

掘形規模：直径2.6m

直径：不明 深さ：1.3m以上

重複関係：なし

円形の掘形のみを検出した。崩落の恐れがあったので、1.3mより深い部分は未掘である。他の類例から見ると、調査できた部分は部材の抜き取り穴のかもしれない。埋土中の最新遺物は第 6 型式の山茶椀である。

S E 2 4 0

形態：不明

掘形形状：円形

掘形規模：直径2.9m

直径：不明 深さ：1.3m以上

重複関係：なし

主要出土遺物：571～576

円形の掘形のみを検出した。崩落の恐れがあったので、1.3mより深い部分は未掘である。他の類例から見ると、調査できた部分は部材の抜き取り穴のかもしれない。埋土の第 1 層は、「息抜き」の痕跡かも知れない。埋土中の最新遺物は第 7 型式の山茶椀である。

S E 2 8 0

形態：曲物

掘形形状：円形

掘形規模：直径2.4m

直径：不明 深さ：2 m

重複関係：なし

円形の掘形を掘り、底に曲物（534）を据えている。上部の縦板などは抜き取られている可能性がある。埋土中の最新遺物は第 6 型式の山茶椀である。

S E 2 6 9

形態：素掘？

掘形形状：円形

規模：直径2.6m

深さ：1.9m

重複関係：S E 269（中世 I）→ S E 288（中世 I）

→ S B 332（中世 IIIか IV）

S E 269→ S E 288→ S D 89（中世 I）

縦板や曲物が出土しておらず、構造は不明である。すべて抜き取られている可能性もある。埋土から鹿角（636）が出土した。鹿角には切断痕や加工痕があり、鹿角製品の原材として持ち込まれた可能性がある。僅かながら古瀬戸後期の遺物も出土しているが、これらは混入遺物である可能性がある。混入遺物以外での埋土中の最新遺物は第 7 型式の山茶椀である。

S E 2 8 8

形態：曲物

掘形形状：楕円形

掘形規模：1.2m×0.9m

深さ：1.1m

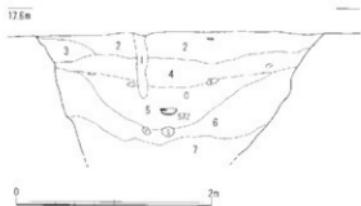
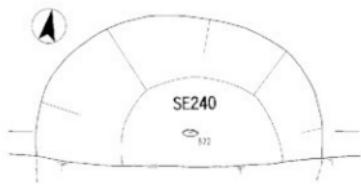
重複関係：S E 269（中世 I）→ S E 288（中世 I）

→ S B 332（中世 IIIか IV）

S E 269→ S E 288→ S D 89（中世 I）

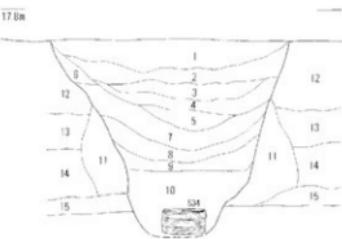
楕円形の掘形を掘り、底に曲物（542）を据えている。上部の縦板などは抜き取られている可能性がある。曲物の直上からは山茶椀（586・588）が出土した。埋土中の最新遺物は第 6 型式の山茶椀であるが、埋土に第 7 型式の山茶椀を含む S E 269を切っているので、これより新しい時期の遺構と考えられる。

S E 2 7 0



(SE240)

- 1 2.5Y4/3 淡黄色砂
2 5Y6/2 灰オリーブ色砂質土 $\phi 3\text{cm}$ 以下の礫中量含む。
 $\phi 3\text{cm}$ 前後の灰黃色土ブロックを土層下部に少量含む
灰オリーブ色砂質土
3 5Y5/1 灰色粘質土 $\phi 2\text{cm}$ 以下の礫種少量含む。 $\phi 3\sim 5\text{cm}$
の青灰色土ブロック少量含む
4 7.5Y5/1 灰色粘質土 $\phi 10\text{cm}$ 前後の礫点在
5 10Y4/1 灰色粘質土 $\phi 10\text{cm}$ 前後の礫点在
6 7.5G73/1 明緑灰色土 $\phi 3\sim 10\text{cm}$ 暗灰黃色土ブロックをマー
ブル状に多く含む
7 5G4/1 灰オリーブ色粘質土 $\phi 3\sim 10\text{cm}$ 大の6層暗灰色土
ブロック少量含む。 $\phi 5\text{cm}$ より易質強い



(SE280)

- 1 拠取堆土 2.5Y6/2 灰黄色粘質土 $\phi 2\text{cm}$ 前の炭化物を極
少量含む。 $\phi 3\text{cm}$ 以下の黄褐色土ブロッ
クを多く含む
2 拠取堆土 2.5Y5/1 黄灰色粘質土、1層と同様であるが、黄
褐色土ブロックを多量に含む
3 拠取堆土 7.5Y4/1 灰色粘質土、 $\phi 10\text{cm}$ 以下の青灰色土ブ
ロックを多量に含む
4 拠取堆土 7.5Y4/1 灰色粘質土、 $\phi 10\text{cm}$ 以下の青灰色土ブ
ロックを少量に含む
5 拠取堆土 7.5Y4/1 灰色粘質土、4層と同様であるが、★灰
色土ブロックを多量に含む
6 拠取堆土 2.5Y6/1 黄灰色粘質土、 $\phi 3\text{cm}$ 以下黄褐色土ブ
ロックを極少量含む
7 拠取埋土 7.5Y4/1 灰色粘質土、層状に堆積する暗灰色土ブ
ロックを多く含む
8 拠取堆土 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質土、縦状に堆積する暗
灰色土ブロックを少量含む
9 拠取埋土 7.5Y3/2 オリーブ黒色粘質土、 $\phi 10\text{cm}$ 以下の青灰
色土ブロックを少し含む
10 拠取堆土 10G6/1 青灰色粘質土、 $\phi 1\text{cm}$ 以下の砂粒を極少
量含む
11 摂形堆土 10G6/1 鉛灰色粘質土、黄褐色土ブロックを少量
含む
12 2.5I6/6 明黄褐色土、黄褐色土ブロックを多量に
含む
13 2.5Y7/4 淡黄色粘質土、黄褐色土ブロックを多量
に含む
14 7.5Y7/1 灰白色粘質土、 $\phi 1\sim 1.5\text{cm}$ の黄褐色土ブ
ロックを少量含む
15 10Y6/1 灰色粘質土、 $\phi 1\text{cm}$ 以下の砂粒を多量に
含む。縦まりなし

第61図 S E 240・280(150)

形態：縦板+横棟+曲物

掘形形状：円形

掘形規模：2.3m×2.1m

横棟一辺：0.8m 深さ：1.9m

重複関係：S E 270（中世I）→ S D 271（中世III）

→ S K 262（中世IV）

方形に縦板を組み、その下に曲物を据えている。縦板の上部は抜き取られている可能性が高い。湧水のため曲物付近の土層確認は不能であった。埋土中の最新遺物は第6型式の山茶椀である。

⑥墓

S X 8

長軸1.9m、短軸0.8mの略梢円形の土坑墓である。埋土から第7型式の山茶椀が出土している。ほぼ同時期の溝S D 11に切られる。

S X 41

梢円形の土坑墓かと思われる。埋土から第9型式の山茶椀が出土している。土師器羽釜と思われる遺物も出土しているが、混入遺物と判断し、中世前期のものとした。

（2）遺物

①掘立柱建物・柱列関連遺物

（258～262・264～276・1006）

木製品 258はS B 139、259はS B 296の柱である。258の樹種はクリである。

土器類 260はS B 164の建物内土坑S K 24から出土した青磁椀。261・262はS B 178の建物内土坑S K 53から出土した。261は藤澤良祐氏の編年の渥美型第5型式の陶器小皿。262は白磁椀。264～268はS B 193の建物内土坑S K 91から出土した。265は土師器皿。

264は尾張型第6型式の陶器小皿。266は尾張型第6型式の山茶椀。267は尾張型第5型式の山茶椀。268は火打錙。269はS B 196の柱穴から出土した南伊勢系の土師器鍋。（仮）A段階のものと思われる。270はS B 319の柱穴から出土した尾張型第5型式の山茶椀。271～273はS B 345の柱穴から出土した。271・272は土師器の小皿。口縁部のヨコナデが強い。273は尾張型第6型式の山茶椀。底部外間に炭化物が付着する。274はS B 348の柱穴か

ら出土した尾張型第7型式の陶器小皿。

275はS A 342の柱穴から出土した尾張型第6型式の陶器小皿。276はS A 343の柱穴から出土した土師器の鍋。

金属製品 1706はS B 175の柱穴から出土した鉄釘である。

②土坑出土遺物（263・277～321）

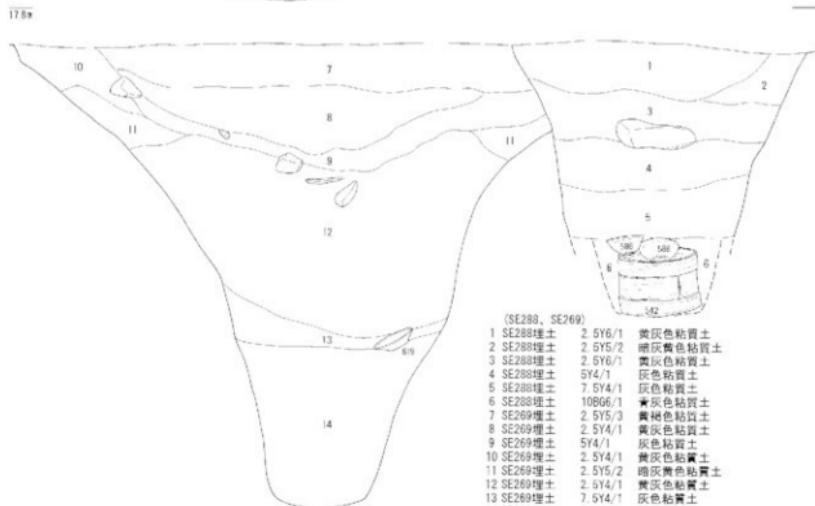
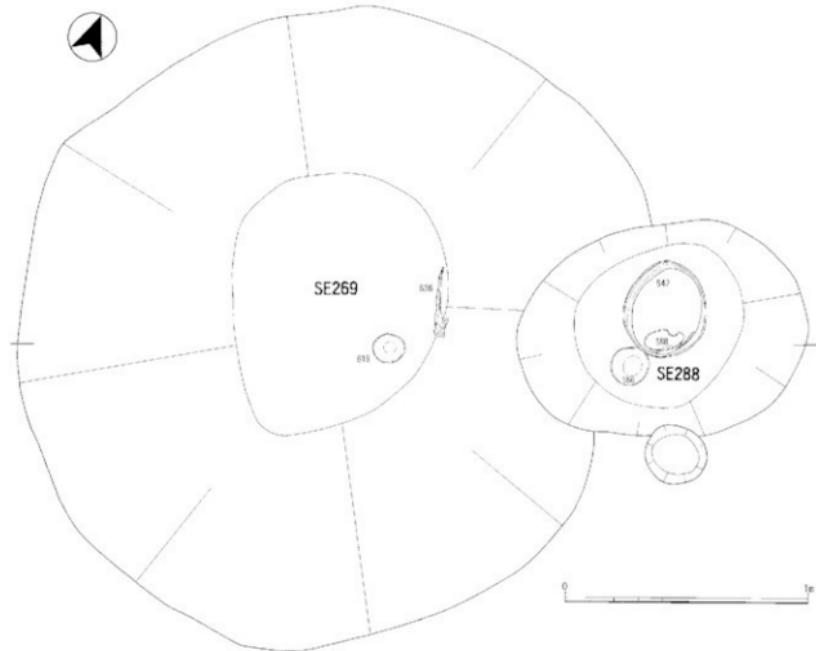
263はS K 57から出土した南伊勢系の土師器鍋。伊藤裕偉氏の編年の第1段階b型式。277・278はS K 6から出土した土師器の小皿・皿。279～281はS K 11から出土した。279は陶器小皿。280は山茶椀でいずれも尾張型第6型式のもの、281は渥美型第5型式の山茶椀である。279の底部外面には「三」の墨書きがある。281は硯として転用されていたか。

282～289はS K 18から出土した。282は白磁の皿。283は尾張型、284・285は渥美型の山茶椀。第5型式のものである。285の内面には炭化物が付着する。286は尾張型第5型式の片口鉢。287は白磁椀、288は土鍤。289は古代の製塗器。混入遺物か。290はS K 46から出土した尾張型第3型式の小椀。291はS K 103から出土した渥美型第4型式の山茶椀。

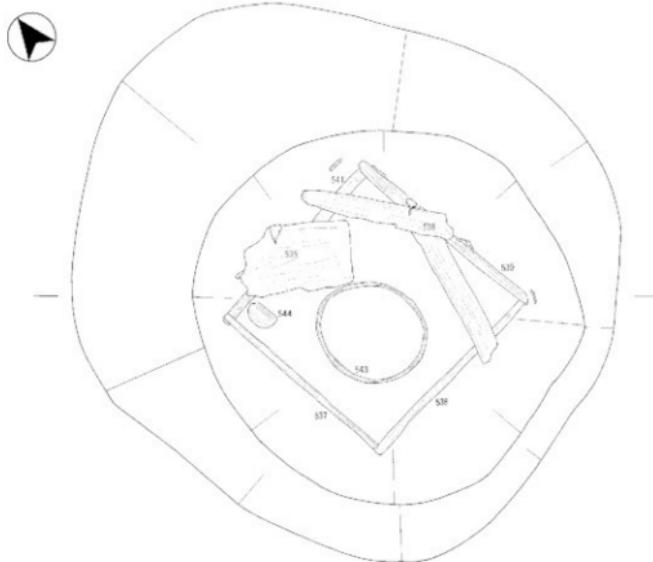
292～297はS K 219から出土した。292は土師器小皿、293はロクロ土師器。294は尾張型第6型式の陶器小皿。295は清郷型鍋。296・297は尾張型第5型式の山茶椀。298はS K 228出土の渥美型第6型式の山茶椀。

299～303はS K 236から出土した。299・300はやや大ぶりの土師器皿。301は清郷型鍋。302は常滑製品の甕。中野晴久氏の編年の第5～第6型式のものである。303は龍泉窯系の青磁椀。底部内面に「金玉満堂」の印刻がある。横田・森田分類のI-5d類のものである。304はS K 237から出土した尾張型第6型式の陶器小皿。305・306はS K 242から出土した。305は土師器の皿。306は渥美型第5型式の山茶椀。307はS K 306から出土した南伊勢系の土師器鍋。第2段階～第3段階のものと思われる。

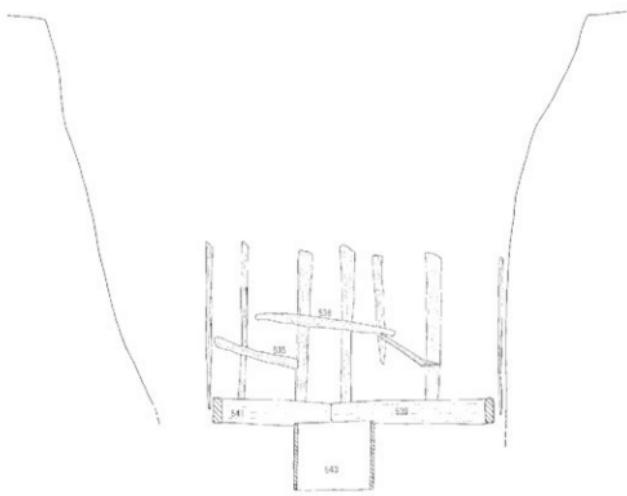
308～321はS K 256から出土した。308～314は土師器の小皿。いずれも口縁端部が強くヨコナデさ



第62図 S E 269・288(1:20)

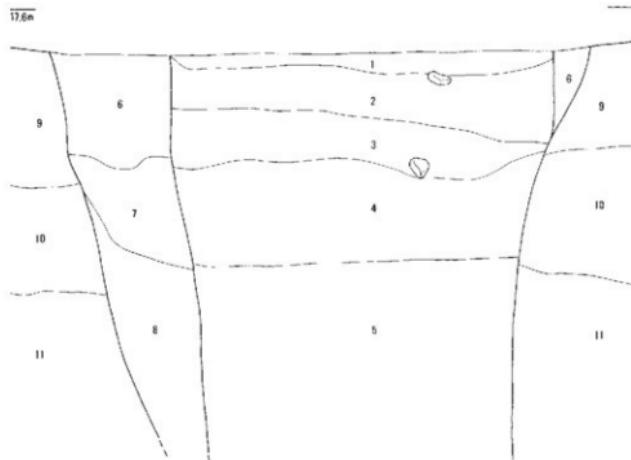


17.0m



0 1m

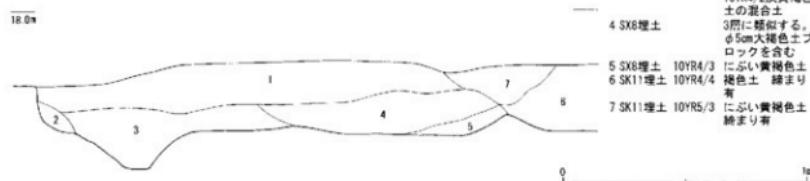
第63図 S E 270(1:20)



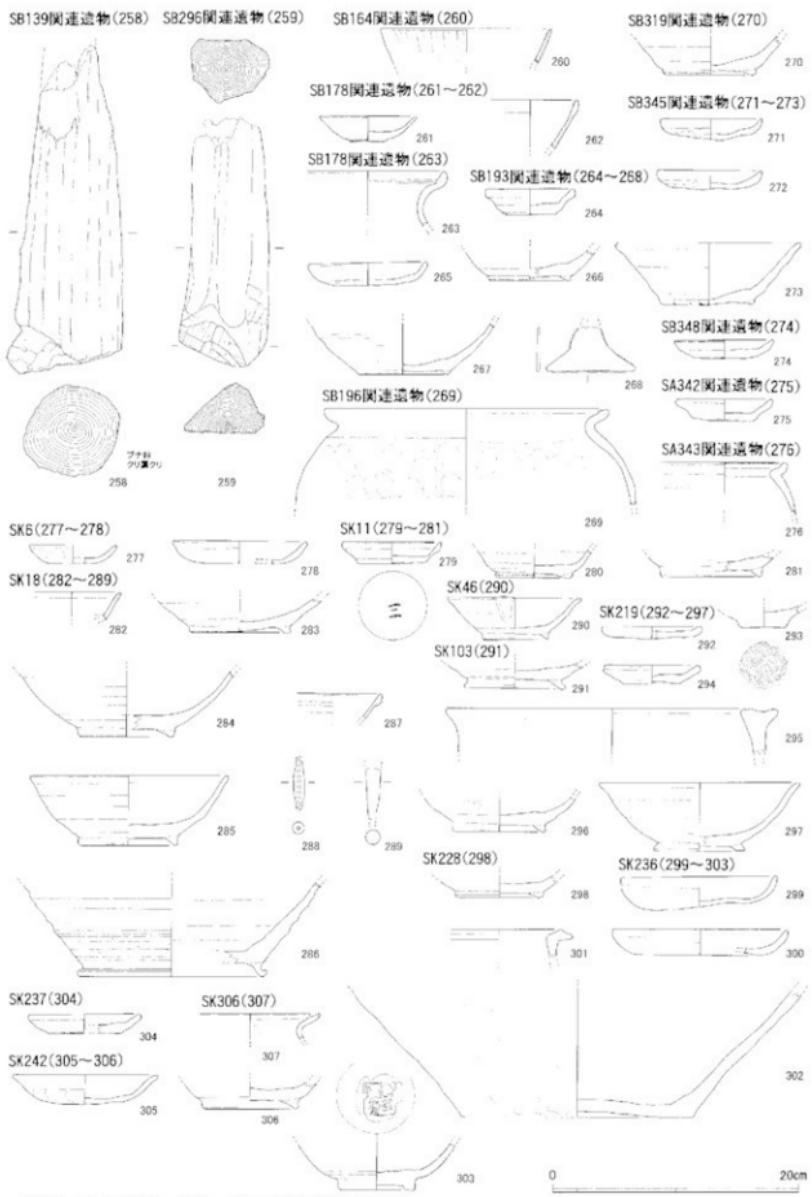
- | | | | | |
|----|--------|---------|------------------|---|
| 1 | 井戸仲接抜引 | 2 5/4/2 | 暗赤色粘質土
φ5mm以下 | 暗赤色化物を少量含む。 |
| 2 | 井戸仲接抜引 | 2 5/4/1 | 暗赤色粘質土
φ5mm以下 | φ5mm以下の暗赤色ニッコツを中量含む。
φ2mm以下の化物を少量含む。 |
| 3 | 井戸仲接抜引 | 5/4/1 | 暗赤色粘質土
φ3mm以下 | φ3mm以下の暗赤色ニッコツを少量含む。 |
| 4 | 井戸仲接抜引 | 5/4/1 | 暗赤色粘質土
φ3mm以下 | φ3mm以下の暗赤色ニッコツを中量含む。
φ2mm以下の化物を中量含む。 |
| 5 | 井戸仲接抜引 | 10/6/1 | 暗赤色粘質土
φ3mm以下 | φ3mm以下の砂粒を多量に含む。
有機物が多量に混入する。 |
| 6 | 癪瘤埋土 | 2 5/4/1 | 暗赤色粘質土
φ3mm以下 | 暗赤色ニッコツの集合層 |
| 7 | 癪瘤埋土 | 5/4/1 | 暗赤色粘質土
φ3mm以下 | 暗赤色ニッコツを多量含む |
| 8 | 癪瘤埋土 | 5/6/1 | 暗赤色粘質土
φ1-3mm | 暗赤色ニッコツを多量含む |
| 9 | | 5/6/1 | 暗赤色粘質土
φ1-3mm | 暗赤色ニッコツを多量含む |
| 10 | | 5/7/1 | 暗赤色粘質土
φ1-3mm | 暗赤色ニッコツを少量含む |
| 11 | | 5/6/1 | 暗赤色粘質土
φ1mm以下 | 砂粒を多量に含む。
特異臭り有る |



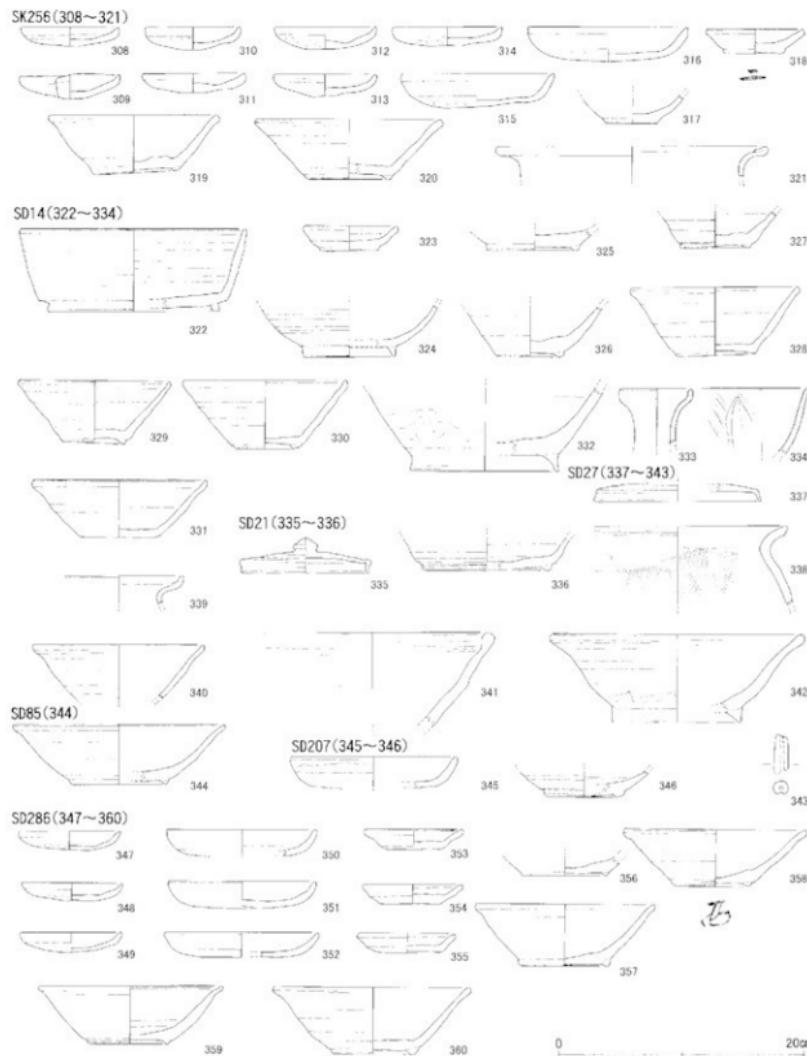
- | | |
|-------------|---------|
| (SX8, SK11) | |
| 1 SX8埋土 | 10YR4/2 |
| 2 SX8埋土 | 10YR4/4 |
| 3 SX8埋土 | 2.5/3.2 |
| 4 SX8埋土 | |
| 5 SX8埋土 | 10YR4/3 |
| 6 SK11埋土 | 10YR4/4 |
| 7 SK11埋土 | 10YR5/3 |



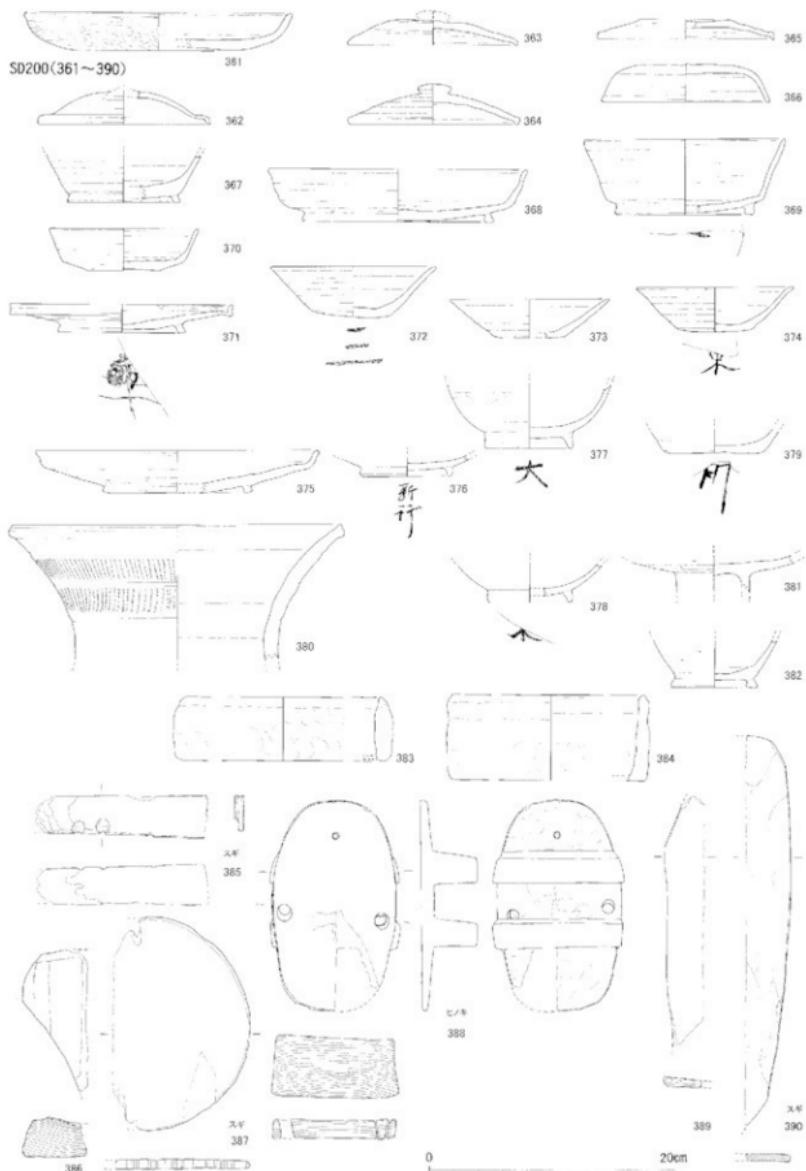
第64图 S E270, SX8(1:20)



第65図 掘立柱建物・柱列・土坑出土遺物実測図(1:4)



第66図 土坑・溝出土遺物実測図(1:4)



第67図 溝出土遺物実測図(1:4)

れる。315・316は土師器皿。いずれも橙色で大ぶりである。317はロクロ土師器。318は尾張型第6型式の陶器小皿。底部外面に「二」の墨書がある。319は尾張型第6型式、320はおなじく第7型式の山茶椀。321は南伊勢系の土師器鍋。第1段階のものと思われる。

③溝出土遺物（322～494）

322～334はSD14から出土した。322は8世紀後半の須恵器杯。混入遺物と思われる。323は尾張型第6型式の陶器小皿。山茶椀で図示したものはすべて尾張型である。時期幅は広く、第3型式（324）、第5型式（325）、第6型式（326）、第7型式（327～330）、第8型式（331）のものがある。332は片口鉢。尾張型第6型式に近い。333は古瀬戸前Ⅱ期の水注、334は龍泉窯系の青磁碗。鎌蓮弁文のもので、I～5b類のものである。

335・336はいずれも中世前期の溝SD21に混入していた古代の須恵器。335は猿投産N-N-32型式の壺の蓋。8世紀中ごろのものである。337～343はSD27から出土した。337・338は混入遺物。337は焼成不良の須恵器の蓋か。338は土師器の甕。339は南伊勢系の土師器鍋。第1段階b型式のものと思われる。340は尾張型第7～第8型式の山茶椀。341は第6型式の片口鉢。知多産のものか。342は尾張型第6型式の鉢。常滑産のものか。343は土鍤。344はSD85から出土した。尾張型第6型式の山茶椀。345・346はSD207から出土した。345は大ぶりの皿。346はII類の白磁皿か。

347～360はSD286から出土した。347～349は土師器の小皿。350～352は土師器の皿。353～355は尾張型第6型式の陶器小皿。354の内面には重ね焼き時の痕跡が残る。356～360は尾張型第6型式の山茶椀。358の底部外面には花押とも思える墨書がある。359の内面にはほぼ全面に黒漆が付着する。SD200出土遺物（361～434）

S D 200からは大量の遺物が出土している。遺物の時期にはかなりの幅があり、7世紀代のものから中世前期のものまでがある。

古代の混入遺物（361～384） 361～384は混入遺物である。361は土師器の皿。精製品で、外面にはヘラミガキ、ヘラケズギが施される。内面の暗文は

不明瞭である。7世紀末～8世紀前半のものか。362～366は須恵器の蓋。362は猿投産で8世紀後半のものである。364は9世紀前半のもの。產地は美濃須衛産か。366の胎土は368・375・380・381などに似る。367～375は須恵器杯。368～370は猿投産で8世紀後半のもの、369の底部外面には明瞭な墨書があるが、欠損のため判読できない。371は猿投産O-10型式（8世紀後半）。「歎」？の墨書がある。372～374は須恵器の楕形の杯。372の底部外面には「三」の墨書が、374の底部外面には「東」？の墨書がある。372・374は美濃須衛産か。いずれも9世紀前半のものである。375は須恵器の大型の杯。猿投産N-N-32型式のものに近い。379は須恵器の杯か。底部外面には「門」？の墨書がある。380は猿投産の7世紀末の須恵器甕。381は須恵器の脚付盤。8世紀後半のものか。382は須恵器の長頸瓶。猿投産で8世紀後半のものか。

376～378は灰釉陶器。376はK-90もしくはO-53型式の椀。底部外面に「新所」の墨書がある。377は東濃産の深椀。底部外面に墨痕がある。H-72型式併行期のものか。378はO-53型式の椀。底部外面に墨書がある。文字の上半部は欠損しているが「東」かもしれない。

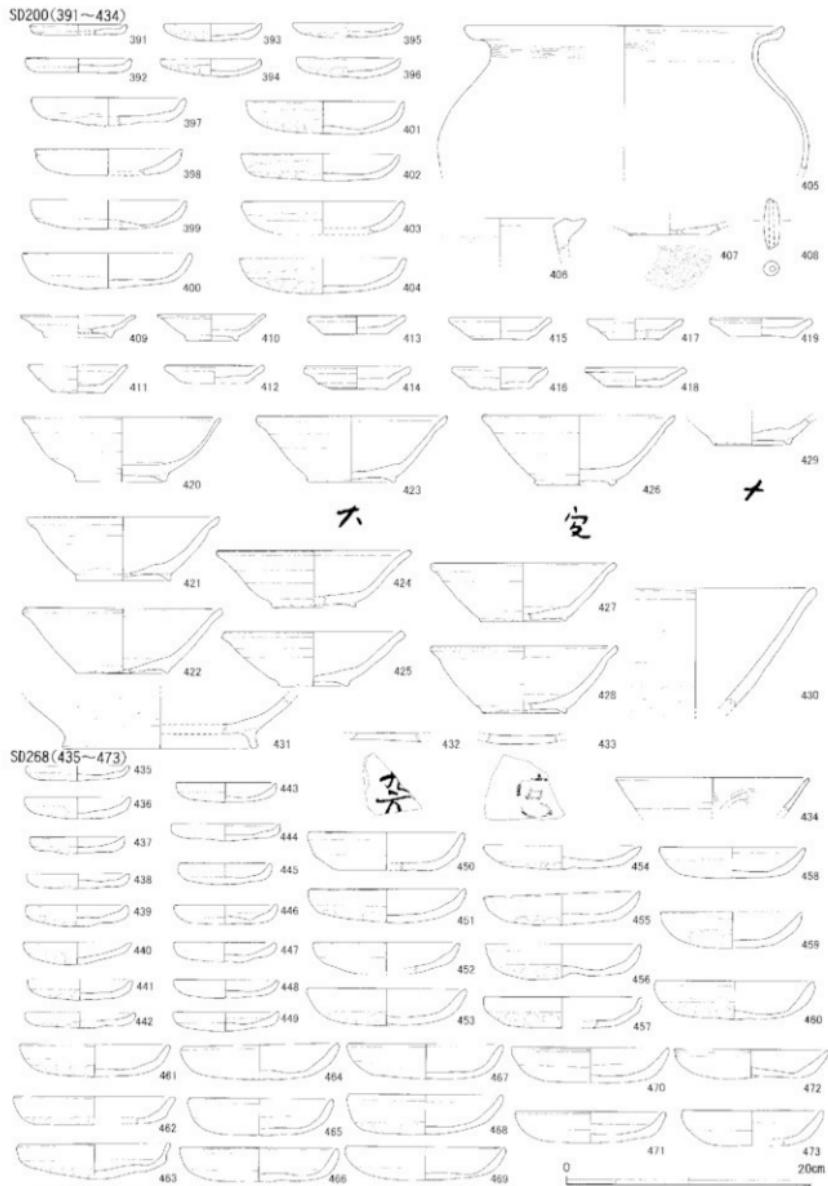
383・384は志摩式製塙土器。

木製品（385～390） 385は片面に2ヶ所の窪みがあり、漆が付着する。387は曲物の底か。388は下駄。

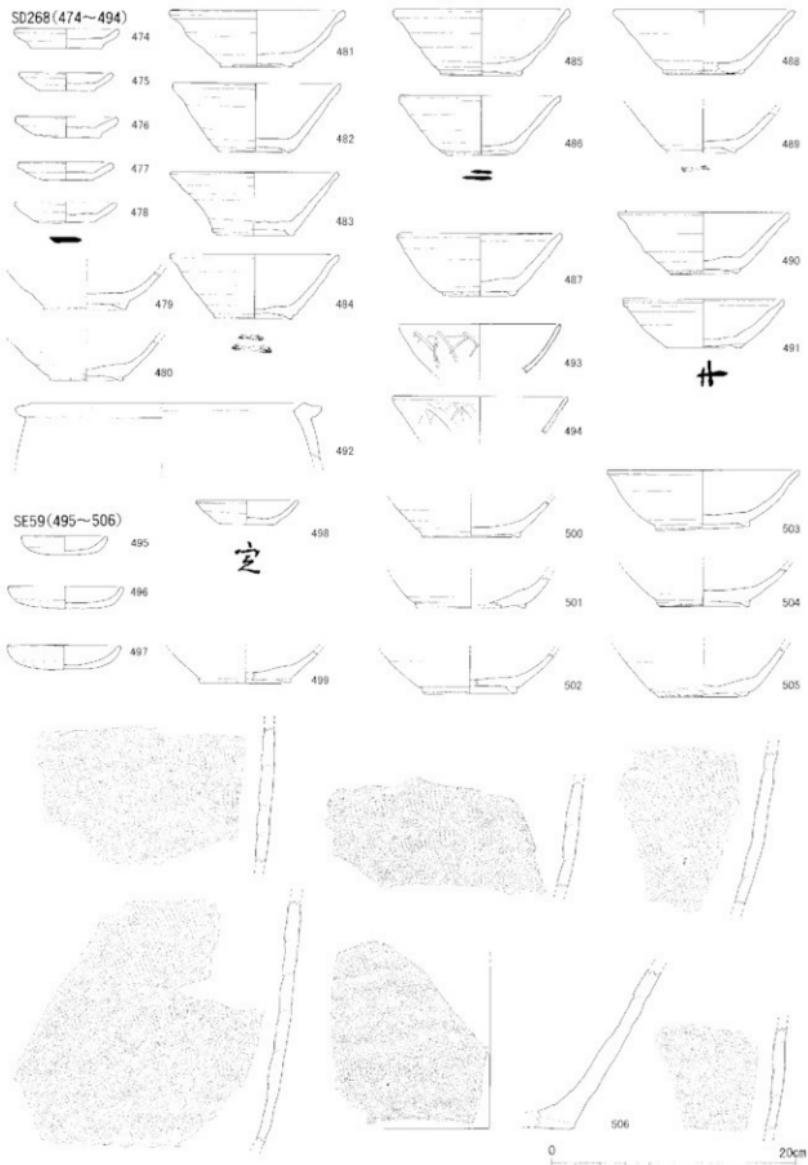
土師器（391～408） 391～396は小皿。口縁端部のヨコナデが強く、外に面をもつものが多い。397～404は皿。398の口縁部の製作技法は小皿に似る。405は南伊勢系の鍋。第1段階b型式のものである。406は清郷型鍋。407はロクロ土師器の皿。底部に穿孔がある。408は土鍤。

陶器（409～431） 409・410は第4型式の小椀。410は涅美型か。411～419は陶器小皿。いずれも尾張型で、第5型式（411）、第6型式（412～419）のものがある。

420～429は山茶椀。いずれも尾張型で第3型式（420）と第6型式（421～429）のものがある。426には「定」、このほか423・429にも不明瞭ながら墨書がある。430・431は片口鉢。431は尾張型



第68図 溝出土遺物実測図(1:4)



第69図 溝・井戸出土遺物実測図(1:4)

5型式、430は尾張型6型式のものである。

磁器 (434) 434は龍泉窯系の青磁碗。内面に文様がある。I～2～4類のものである。

その他 (432・433) 墨書がある破片を図示した。所属時期は古代かもしれない。432には須恵器か灰釉陶器片。「九方」？の墨書がある。433は土師器片。判読できないものの墨書がある。

SD268出土遺物 (435～494)

発掘調査時にはSK254・255・257、SD268としていた遺構から出土したものの一括してSD268出土遺物として報告する。

土師器 (435～473・492) 435～449は小皿。器壁が厚いものが多い。450～473は皿。全体として大ぶりなものが目立つ。463は胎土が白色で、口縁部が直立ぎみに立ち上がる。492は清郷型鍋。

陶器 (474～491) 474～478は陶器小皿。いずれも尾張型で、第6型式 (474～476・478)、第7型式 (477) のものがある。478の底部外面には「一」の墨書がある。

479～491は山茶椀。いずれも尾張型で、第6型式 (479～482・485・488～491)、第7型式 (483・484・486・487) のものがある。480～487、490の産地は瀬戸と思われる。486には「二」？、489には「一」、491には「廿」の墨書がある。484にも墨痕があるが全く判読できない。

磁器 (493・494) 493・494とも龍泉窯系の青磁碗。不明瞭な蓮弁が残る。I～5類のものであろう。

③井戸出土遺物 (495～636・1707)

SE59出土遺物 (495～513・1707)

土師器 (495～497) 小皿 (495) と皿 (496・497) がある。

陶器 (498～506) 498は尾張型第5型式の陶器小皿。底部外面に「定」の墨書が極めて明瞭に残る。499～505は山茶椀。尾張型第5型式 (499～503)、第6型式 (504・505) のものがある。501の底部は焼成後に穿孔されている。506は常滑製品の甕。1b型式のものである。

木製品 (507～513) 507～511は井戸の縦板。残存が悪い。512・513は曲物。512は残存がよく、描やケビキの状況がよく観察できる。

金属製品 (1707) 1707は鉄釘である。

SE83出土遺物 (514～522、545～563、589～601)

木製品 (514～522、589～601) 514～517は井戸の横桟。いずれも膚がよく残る。工具の痕跡もある。517の樹種はスギである。518・520・521も横桟の部材か。519は板材。両側に一ヶ所ずつ穴があけられる。522は曲物。これも残存がよく、描やケビキの状況がよく観察できる。589～601は縦板。幅広のものが多い。599は脣近くに膚穴があけられる。

土師器 (545・546) 545は南伊勢系の第2段階a型式の鍋である。546は小皿。

陶器 (547～561) 547～551は陶器小皿。いずれも尾張型で第6型式 (547～550)、第7型式 (551) のものがある。552は尾張型第6型式の片口鉢である。553～560は山茶椀。いずれも尾張型で、第6型式 (553～557・560)、第7型式 (558)、第8型式 (559) のものがある。554～557・560の底部外面には墨書がある。判読が困難なものが多いが、554は「十」、555は「廿」か「井」、557は「〇」、560は「升」か。561は常滑製品の甕。第7型式の新しい段階か、第8型式のものである。

磁器 (562・563) 562は龍泉窯系の青磁小椀、563青磁碗。いずれも1類の範疇に含まれるものか。

SE202出土遺物 (523～532、564～570)

木製品 (523～532) 523～527は横桟。523には工具痕跡が残る。528・530は薄い板材。529・531・532は縦板。532には膚穴がある。531には擦痕らしい傷跡がある。

古代の混入遺物 (564) 564は百代寺式の灰釉陶器の椀である。

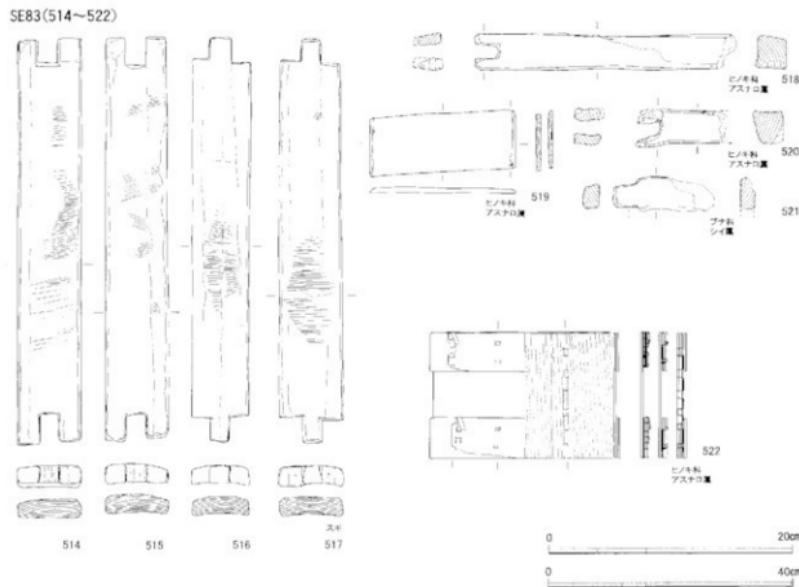
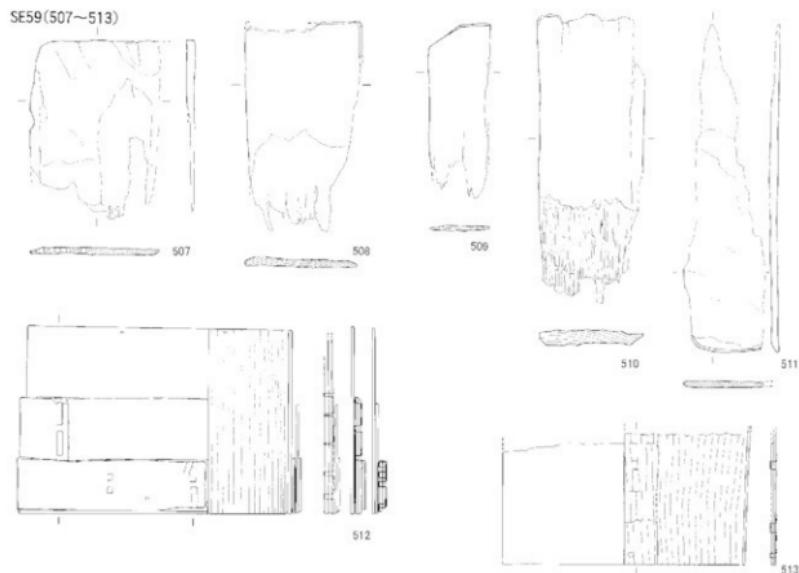
土師器 (565・566) いずれも大ぶりの皿である。

陶器 (567～570) 567は渥美型第5型式の山茶椀。568・569は尾張型第6型式の山茶椀。570も山茶椀。底部外面に墨痕がある。

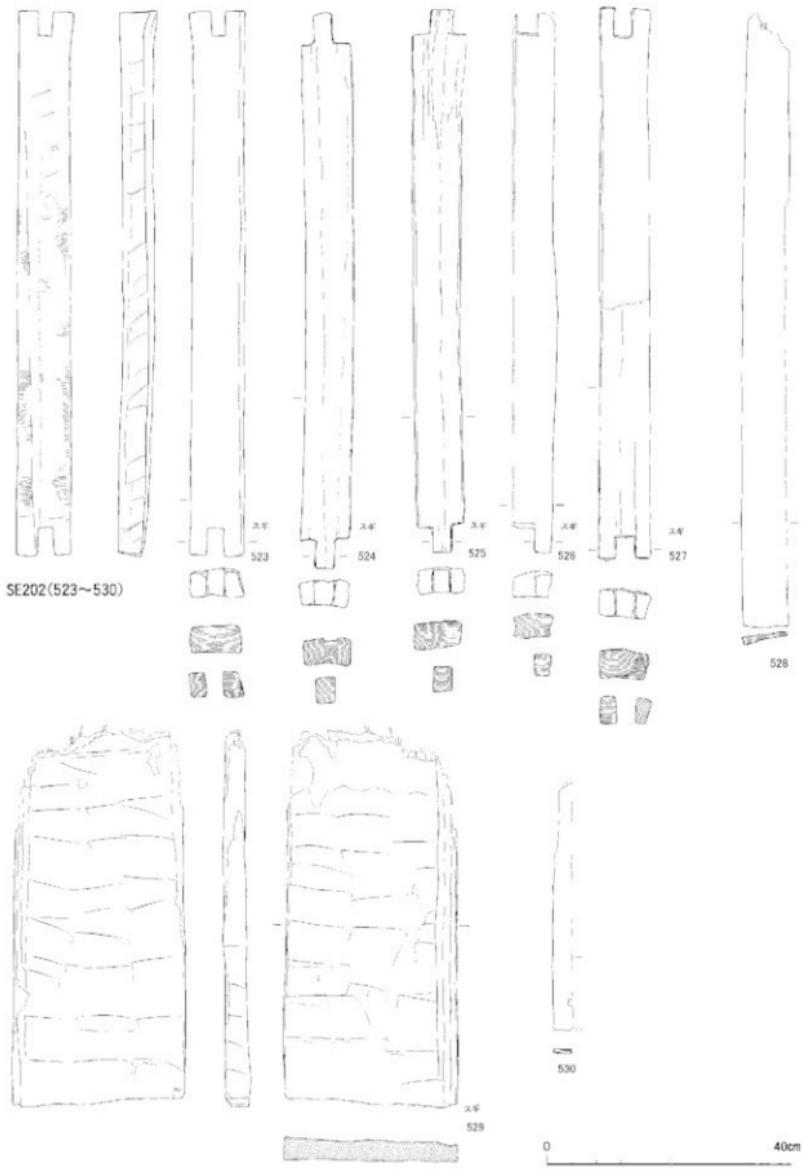
SE240出土遺物 (571～576)

571は土師器皿。他のものと比較すると器壁が厚い。572は漆器の椀。573・574は尾張型第6型式の陶器小皿。575は中国製褐釉陶器の盤。13世紀のものと思われる。576は龍泉窯系の青磁碗。蓮弁文があり、I～5類のものと思われる。

SE269出土遺物 (602～636)

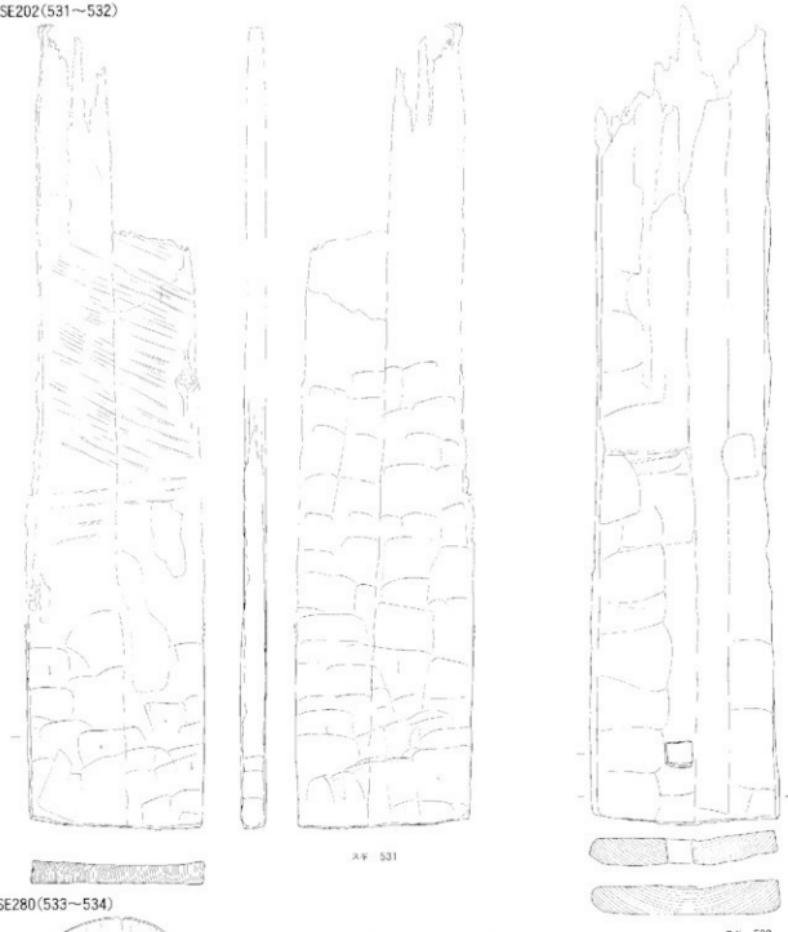


第70図 井戸出土遺物実測図(507~511=1:4, 512~522=1:8)



第71図 井戸出土遺物実測図(1:8)

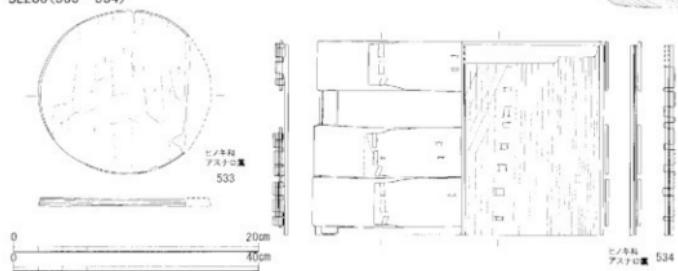
SE202(531~532)



スケ 531

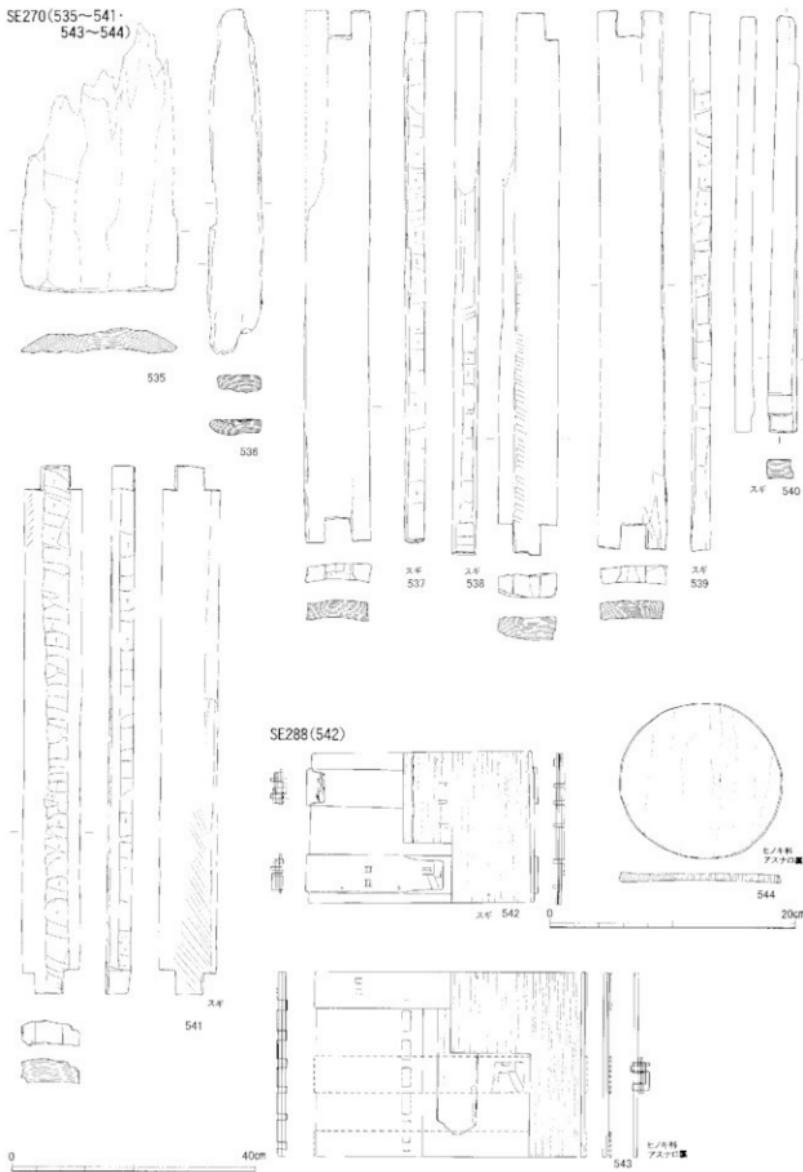
スケ 532

SE280(533~534)

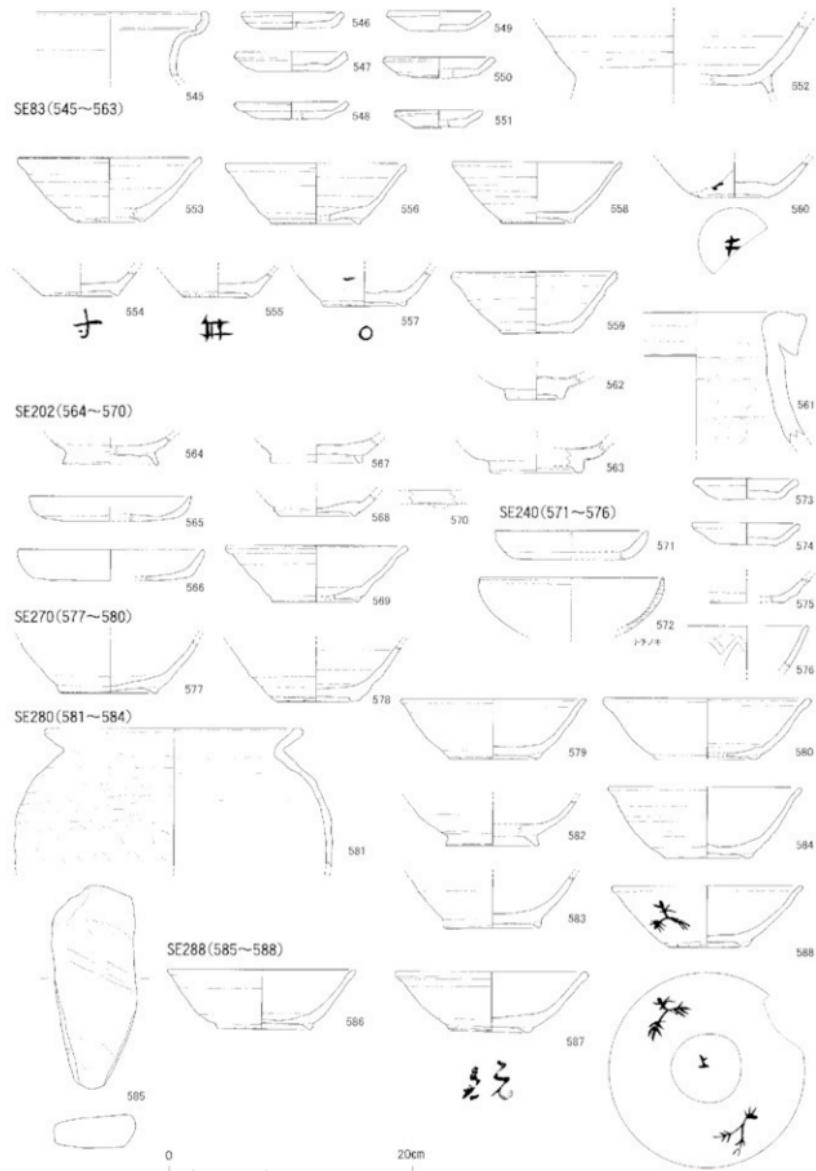


ビキリ
アストロ ■ 534

第72図 井戸出土遺物実測図(533=1:4, 531・532・534=1:8)

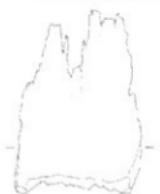


第73図 井戸出土遺物実測図(544=1:4, 535~543=1:8)



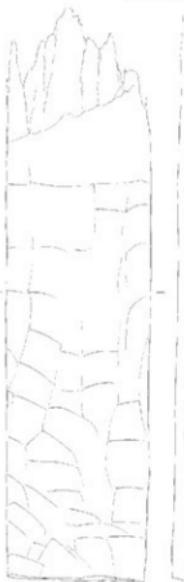
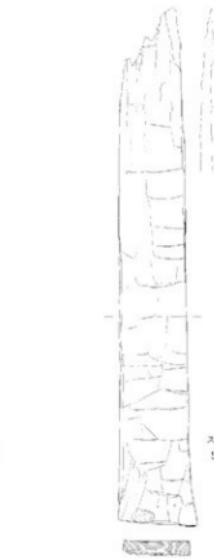
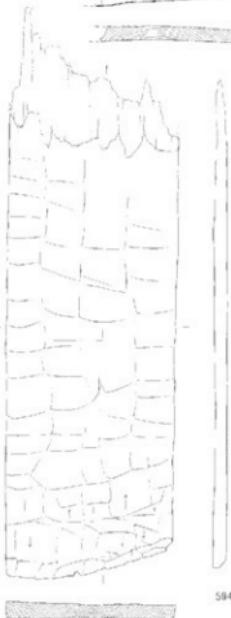
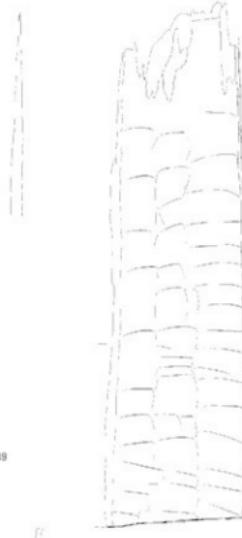
第74図 井戸出土遺物実測図(1:4)

SE83(589~595)



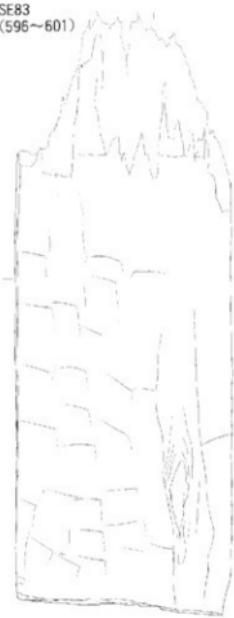
0

50cm

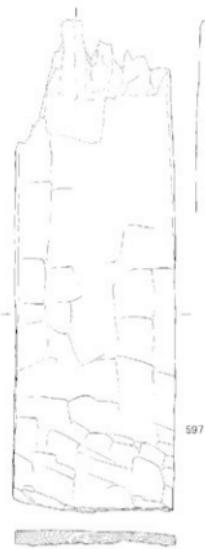


第75図 井戸出土遺物実測図(1:10)

SE83
(596~601)



596



597



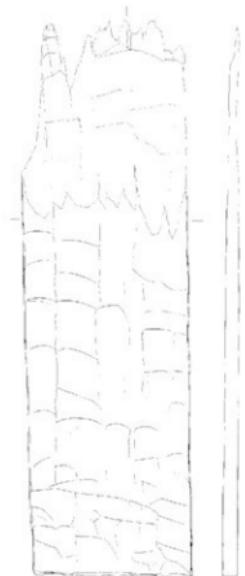
598



599



600

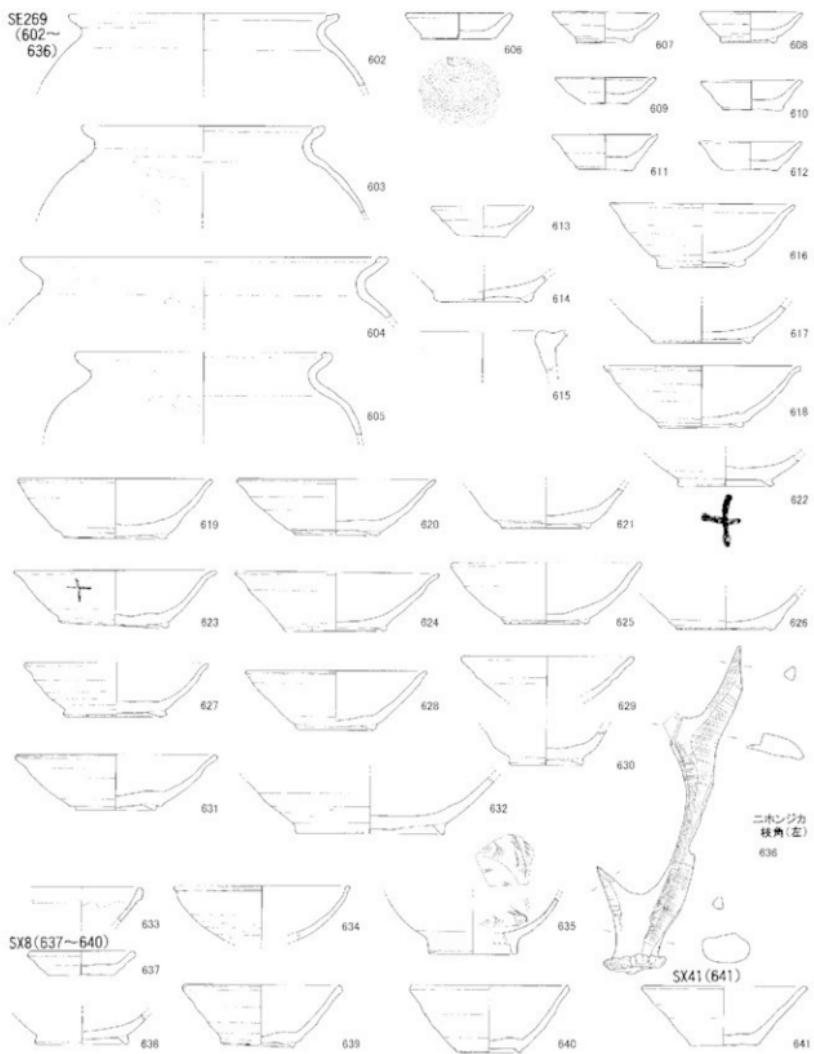


601

0

50cm

第76図 井戸出土遺物実測図(1:10)



0 20cm

第77図 井戸・墓出土遺物実測図(1:4)

質・量ともに充実した遺物が出土している。

土師器（602～606・615） すべて南伊勢系の鍋。第1段階a型式のものである。606はロクロ土師器の小皿。内面に炭化物が付着する。615は清郷型鍋。

陶器（607～632） 濡美型のものが一定量を占めることが特徴である。607・608は尾張型第4型式（609～613）は陶器小皿。尾張型第5型式（609・613）、濡美型第5型式（610～612）のものがある。614・616～631は山茶椀。濡美型第5型式（614・617～620）、尾張型第5型式（616・621～627）、濡美型第6型式（628）、尾張型第6型式（629～631）がある。622の内面には炭化物が、623の底部内面には重ね焼きの痕跡が付着する。体部外面には「十」の墨書がある。632は濡美型第5型式の片口鉢。

磁器（633～635） 633～635は白磁碗。633はIV類、634はV-1類、635はV-4・b類のものと思われる。

動物遺存体（636） 摩擦・切断痕跡がある鹿の角がある。これについては、第IV章に詳細を記す。

S.E.270出土遺物（535～541・543・544、577～580）

木製品（535～541・543・544） 537～539・541は横桟。538・541には工具痕跡が残る。543は曲物。ケビキや蘆の装着状況が良好に観察できる。544は曲物の底板。

陶器（577～580） すべて尾張型第6型式の山茶椀である。

S.E.280出土遺物（533・534、581～584）

533は曲物の底、534は曲物。581は南伊勢系の土師器鍋。仮A段階のものか。582～584は山茶椀。尾張型第3型式（582）、濡美型第5型式（583）、尾張型第6型式（584）がある。

S.E.288出土遺物（542、585～588）

542は曲物。585は砥石か。586は尾張型第5型式、587は尾張型第7型式、588は尾張型第6型式の山茶椀。587の底部外面には仮名文字らしき墨書き（「久ん者た」？）がある。588には体部外面に樹木か草花らしき墨画が、底部外面には「上」の墨書がある。

④墓出土遺物（637～641）

637～640はS.X.8から出土した。637は尾張型第6型式の陶器小皿、639・640は尾張型第7型式の山茶椀。638は尾張型第3型式の山茶椀。混入遺物であろう。

641はS.X.41から出土した第9型式の山茶椀。

(B) 中世後期

(1) 遺構

①掘立柱建物

この時期の掘立柱建物を34棟確認した。掘立柱建物の方位は基本的に条里地割と一致する。建物の時期は柱穴の切り合いと柱穴出土遺物で決定したが、Ⅲ期とⅣ期を峻別することは困難であった。

S.B.14.0

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N30° E

面積：19.8m²

重複関係：なし

細長い建物である。建物に沿うように長方形の土坑SK4がある。SK4の埋土中の最新遺物は登窯第1小期か第2小期の擂鉢である。

S.B.14.8

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行3間

建物方位：N25° E

面積：26.0m²

重複関係：S.B.14.7（中世I）→S.B.14.8（中世III）

建物の内部に方形の土坑SK12・13がある。SK12・13の埋土中の最新遺物は第10型式の常滑製品の壺である。

S.B.15.1

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行4間、梁行1間

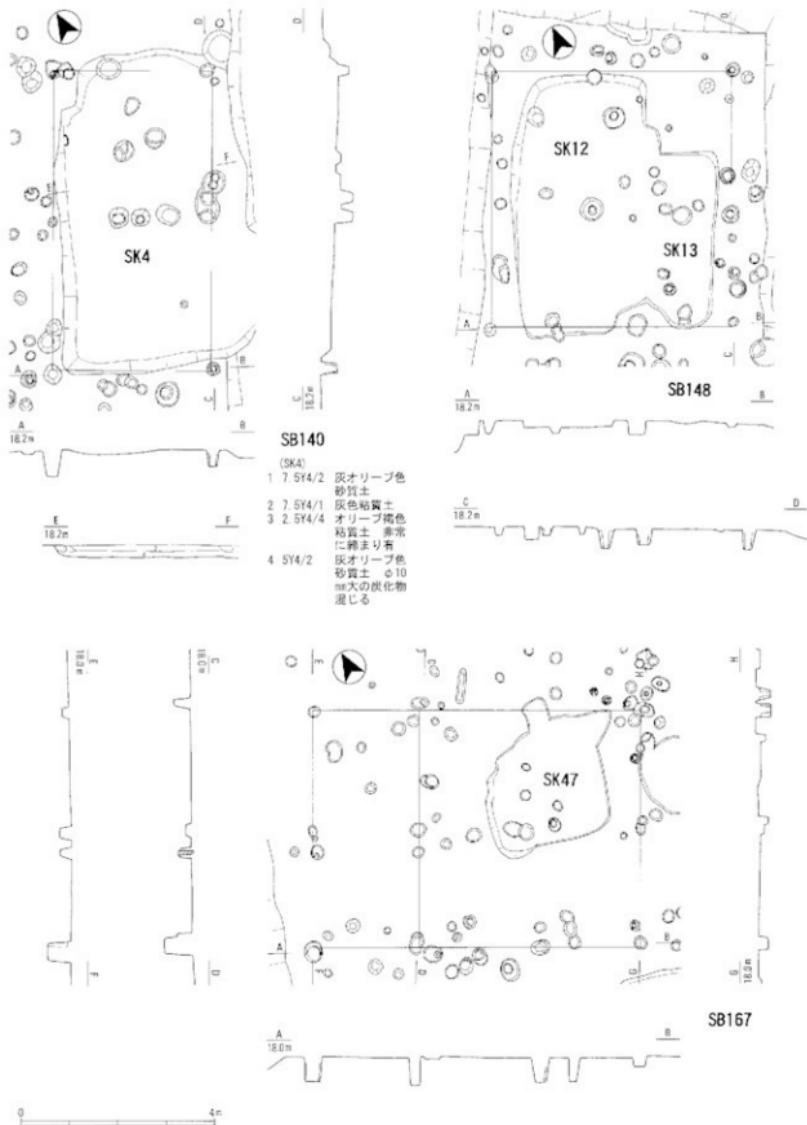
建物方位：N32° E

面積：8.5m²

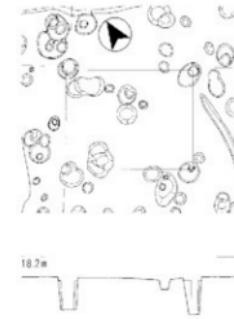
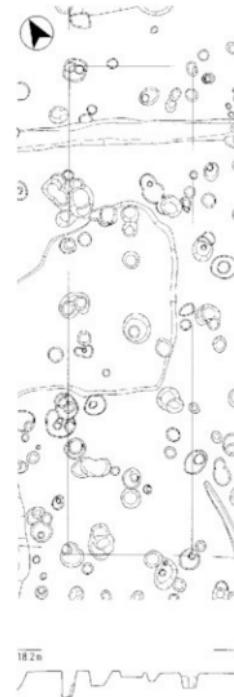
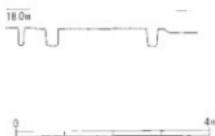
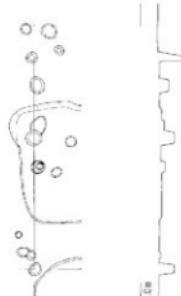
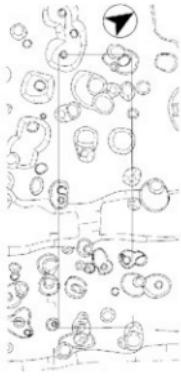
重複関係：S.B.15.0（古代）→S.B.15.1（中世IIIかIV）

S.D.15（中世III）→S.B.15.1

細長い建物である。柱穴からは古代や中世前期の遺物のみしか出土していないが、中世III期の溝SD



第78図 S B 140・148・167(1 : 100)



第79図 S B 151・158・161・168(1 : 100)

15を切っているので中世Ⅲ期かⅣ期の遺構とした。

S B 1 5 8

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行4間、梁行1間

建物方位：N29° E

面積：26.1m²

重複関係：S B196（中世Ⅰ）→S B158（中世Ⅲ）

→S B161（中世Ⅲ）

細長い建物である。柱穴から古瀬戸後Ⅳ期新段階の灰釉平椀が出土しているので中世Ⅲ期の遺構とした。

S B 1 6 1

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行1間、梁行1間

建物方位：N32° E

面積：5.3m²

重複関係：S B158（中世Ⅲ）→S B161（中世Ⅲ）

1間×1間の狭小な建物である。柱穴から古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿が出土しているので、中世Ⅲ期の遺構とした。

S B 1 6 5

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行1間、梁行1間

建物方位：N35° E

面積：9.8m²

重複関係：S B166（中世Ⅰ）→S B165（中世ⅢかⅣ）

柱穴から出土している遺物はほとんどが古代の遺物であるが、常滑製品の片口鉢の小片が出土しているためこの時期の遺構とした。

S B 1 6 7

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N29° E

面積：32.7m²

重複関係：S B167（中世Ⅳ）→S B169（中世Ⅳ）

2間×2間の建物に1間分の庇が付く建物である。SK-47は建物内土坑の可能性がある。中世Ⅳ期の建物S B190と方位が一致するので、中世Ⅳ期の遺構とした。

S B 1 6 8

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N22° E

面積：8.7m²

重複関係：なし

柱穴から古瀬戸後Ⅳ期新段階の灰釉平椀が出土しているので中世Ⅲ期の遺構とした。

S B 1 6 9

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N28° E

面積：20.1m²

重複関係：S B167（中世Ⅳ）→S B169（中世Ⅳ）

S B171（中世ⅢかⅣ）→S B169→S B

170（中世Ⅳ）

S B194（中世ⅢかⅣ）→S B169→S B170

多くの遺構と重複している。柱穴が中世Ⅳ期の建物S B167を切っているので、この時期の遺構とした。

S B 1 7 0

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行1間

建物方位：N26° E

面積：15.6m²

重複関係：S B171（中世ⅢかⅣ）→S B194（中世ⅢかⅣ）→S B169（中世Ⅳ）→S B

170（中世Ⅳ）

細長い建物である。柱穴が中世Ⅳ期の建物S B169を切っているので、この時期の遺構とした。

S B 1 7 1

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

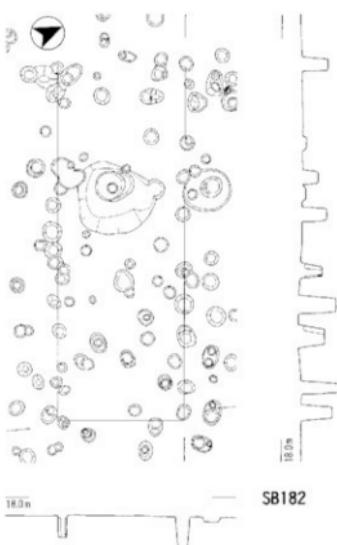
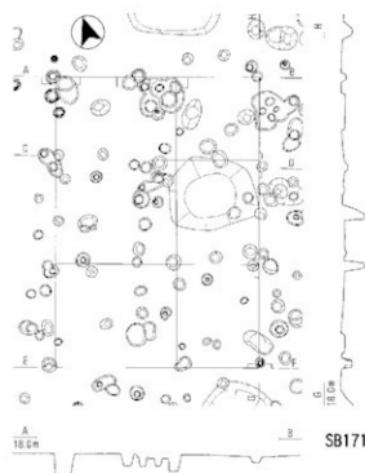
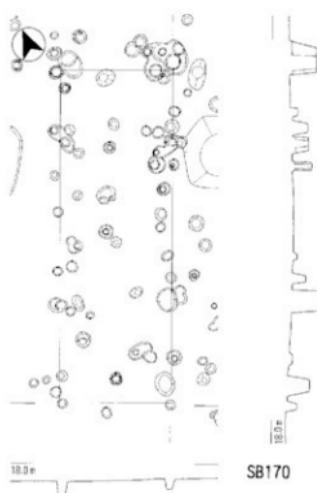
建物方位：N20° E

面積：24.8m²

重複関係：S B171（中世ⅢかⅣ）→S B169→S B170（中世Ⅳ）

柱穴からの出土遺物は縄文土器のみであるが、中世ⅢかⅣ期の建物S B198と建物の方位が一致しているので、この時期の遺構とした。

S B 1 7 2



第80図 S B 165・170・171・182(1 : 100)

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行4間、梁行1間

建物方位：N26° E

面積：11.8m²

重複関係：なし

梁行が1.5mしかない細長い建物である。柱穴から古瀬戸後I期かII期の灰釉花瓶が出土しているので中世III期の遺構とした。

S B 1 7 3

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N28° E

面積：3.9m²

重複関係：なし

狭小な建物である。中世IV期の建物S B 169と方位が一致するので、一応中世IV期の遺構としておく。

S B 1 8 2

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行4間、梁行1間

建物方位：N24° E

面積：18.5m²

重複関係：なし

細長い建物である。柱穴からの遺物は縄文土器のみであるが、一応中世後期の遺構とした。

S B 1 8 3

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N25° E

面積：28.4m²

重複関係：S B 186（中世III）→S B 183（中世IIIかIV）

S E 59（中世I）→S B 183

柱穴からの出土遺物は古代のものばかりであるが、中世III期の建物S B 186を切るため、この時代の遺構とした。

S B 1 8 4

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行1間

建物方位：N42° W

面積：7.8m²

重複関係：S K 100→S K 90（中世III）→S B 184

（中世III）

細長い建物である。中世III期の建物S B 186と方位が一致するのでこの時期の遺構とした。

S B 1 8 6

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N42° W

面積：5.8m²

重複関係：S B 186（中世III）→S B 183（中世IIIかIV）

小規模な総柱建物である。柱穴から古瀬戸後IV期新段階か大窯第1段階の擂鉢が出土しているのでこの時期の遺構とした。

S B 1 8 9

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行3間以上

建物方位：N29° E

面積：25.73m²以上

重複関係：なし

大規模な掘立柱建物であり区画内の主屋である可能性が高い。S K 69は建物内土坑の可能性がある。大溝SD 62との距離があまりに近いので、より新しい中世IV期の遺構とした。

S B 1 9 0

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行4間、梁行3間以上

建物方位：N29° E

面積：55.4m²以上

重複関係：なし

この掘立柱建物も大規模で、S B 189との前後関係は不明であるがいずれも区画内の主屋である可能性が高い。大溝SD 62との距離があまりに近いので、より新しい中世IV期の遺構とした。

S B 1 9 4

建物遺構：側柱建物

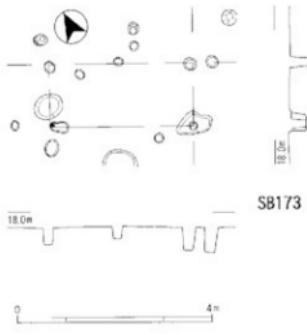
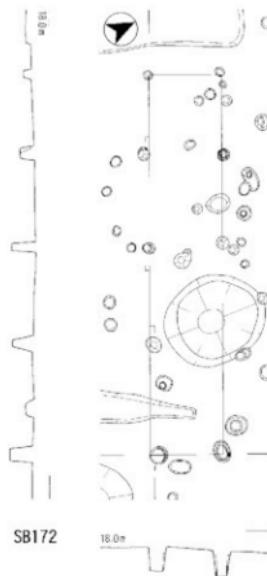
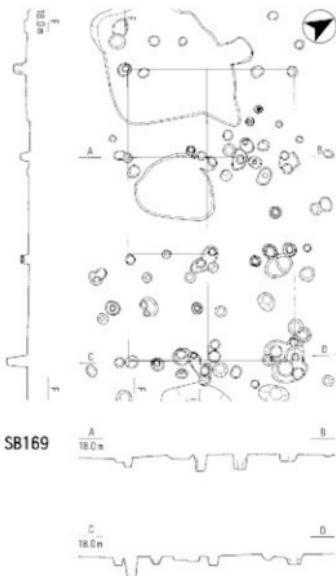
平面規模：桁行3間、梁行1間

建物方位：N32° E

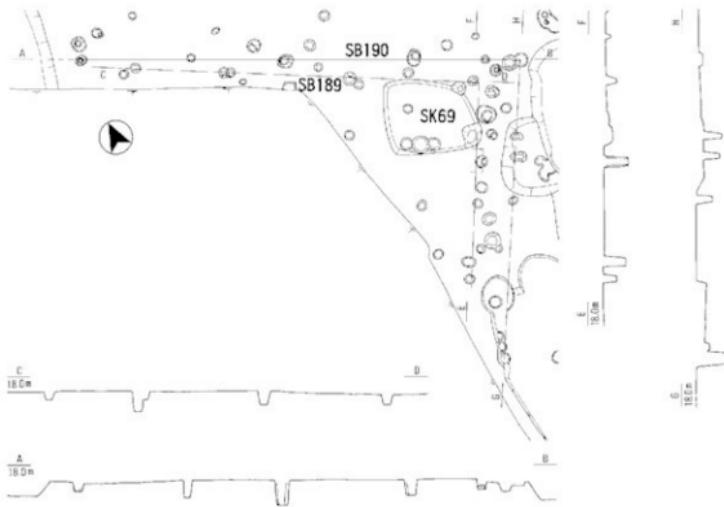
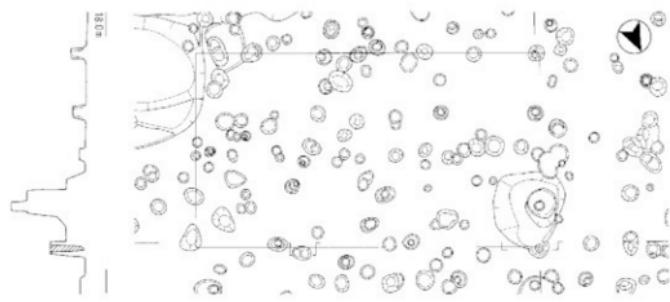
面積：18.1m²

重複関係：S B 194（中世IIIかIV）→S B 169（中世IV）→S B 170（中世IV）

中世IV期の建物S B 169に切られ、柱穴から土師

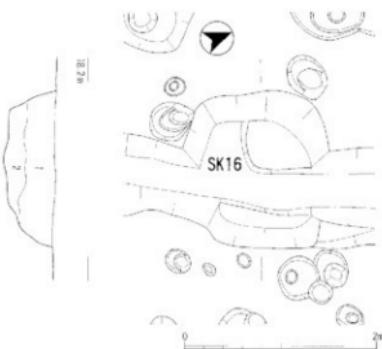
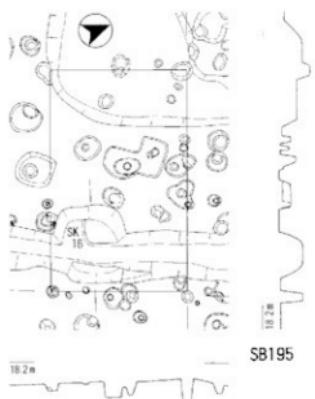


第81図 S B 169・172・173・184(1 : 100)

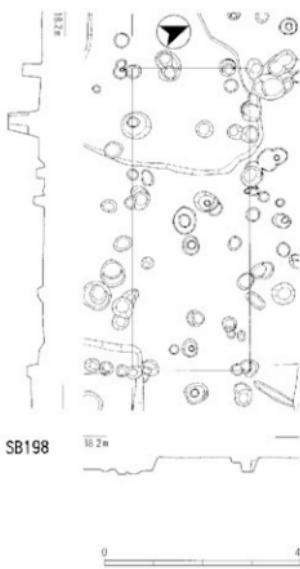
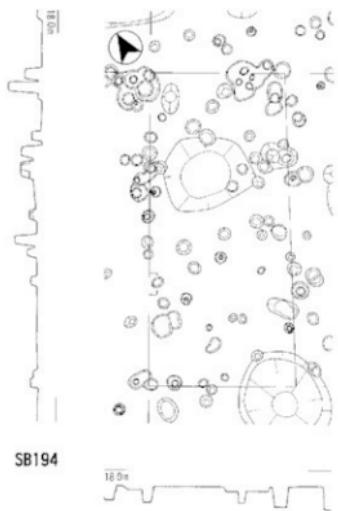


0 4m

第82図 S B 183・189・190(1 : 100)



(SK16)
1 10YR4/2 灰黄褐色粉質土 マンガン粒を多量に含む
2 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色土



第83図 S B 194・195・198(1:100, SK16=1:50)

器羽釜が出土しているので、中世後期の遺構とした。

S B 1 9 5

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N22° E

面積：13.0m²

重複関係：S K11（中世I）→S B195（中世III）

S D 1 5 （中世III）→S B 1 9 5

中世III期の溝S D15を切り、柱穴から古瀬戸後IV

期新段階の天目茶碗が出土したので、中世III期の遺構とした。

S B 1 9 8

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行1間

建物方位：N21° E

面積：14.9m²

重複関係：なし

柱穴から中世後期の土師器羽釜が出土しているので中世III期かIV期の遺構とした。

S B 3 2 7

建物遺構：総柱建物

平面規模：桁行4間以上、梁行2間

建物方位：N 9° E

面積：17.6m²以上

重複関係：なし

柱穴から中世後期の土師器茶釜が出土したので、中世III期かIV期の遺構とした。

S B 3 2 8

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間以上、梁行1間

建物方位：N30° E

面積：18.1m²以上

重複関係：S B 322（中世I）→S B 328・SK 298（中世III）

S B 329（中世I）→S B 328・SK 298

古瀬戸後IV期新段階か大室第1段階の擂鉢や第10

型式古段階の常滑製品の甕を埋土に含むSK298は建物内土坑の可能性がある。S B 331と方位が一致する。

S B 3 3 1

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N30° E

面積：44.0m²

重複関係：なし

大規模な建物で区画の主屋になる可能性がある。

3間×2間の建物の東に1間の庇が付く。中世III期の掘立柱建物S B 331と方位が一致する。

S B 3 3 2

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行5間、梁行1間

建物方位：N11° E

面積：21.9m²

重複関係：S E 269（中世I）→S E 288（中世I）

→S B 332（中世IIIかIV）

柱穴が非常に小さく、柱間もバラバラである。一応、中世III期かIV期の建物とする。

S B 3 3 5

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間以上、梁行3間

建物方位：N38° E

面積：28.4m²以上

重複関係：S B 334（中世I）→S B 347（中世III）

→S B 346（中世III）→S B 335（中世IIIかIV）

柱穴から出土している遺物はすべて古代の遺物であるが、中世III期の建物であるS B 346を切っているので中世III期かIV期の遺構とした。

S B 3 3 6

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間以上、梁行3間

建物方位：N31° E

面積：29.2m²以上

重複関係：なし

柱穴から中世後期のものと思われる尾張系の内耳鍋が出土しているので、中世III期かIV期の遺構とした。

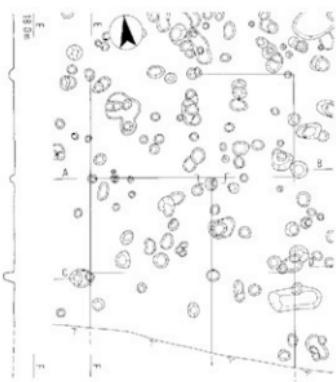
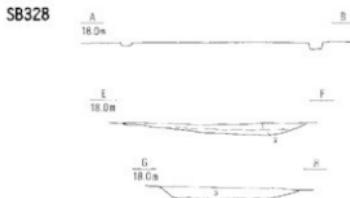
S B 3 3 7

建物遺構：側柱建物

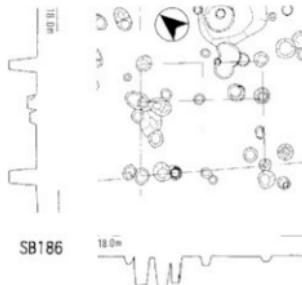
平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N23° E

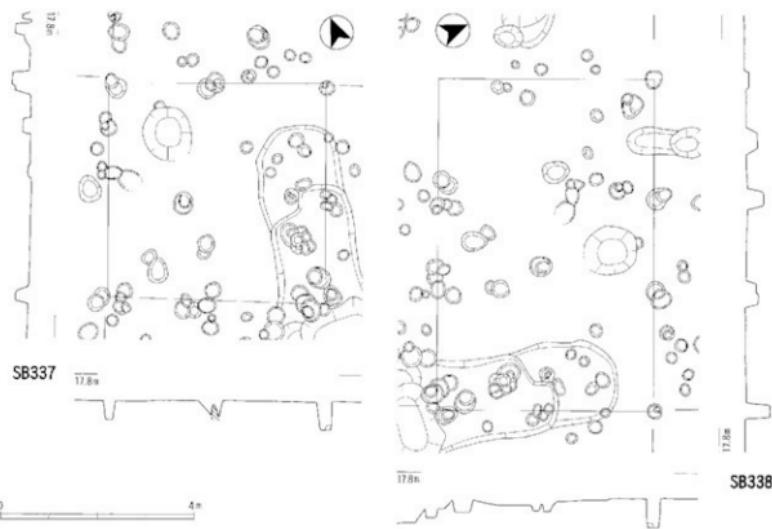
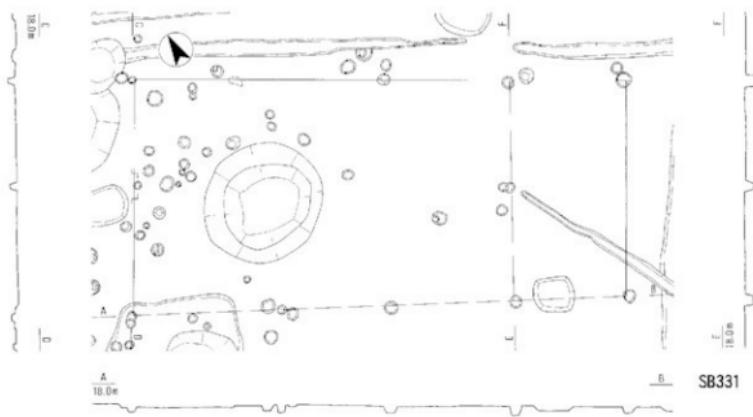
面積：20.7m²



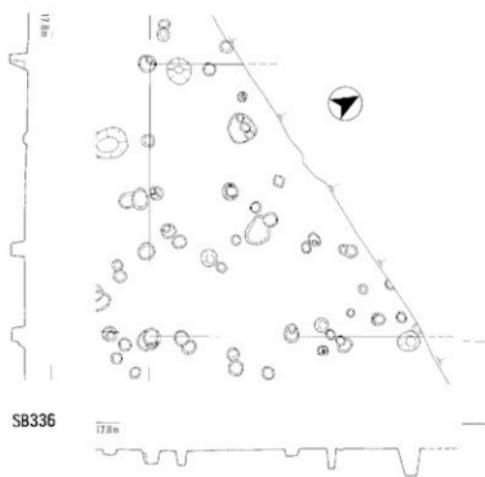
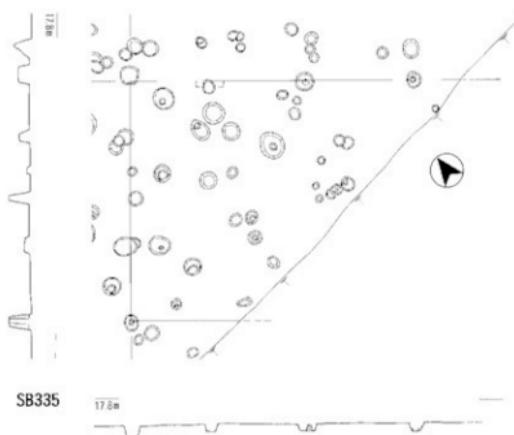
- (SK298, SK304)
- 1 SK298埋土 2 SY5/3 黄褐色砂質土。δ2~3mmの炭化物を中
心に含む。δ3mm前後の砂礫を少
量含む。
 - 2 SK298埋土 2 SY5/1 黄褐色砂質土。δ2mm前後の炭化物を極
少含む。種まり有。
 - 3 SK304埋土 2 SY4/2 暗褐色砂質土。δ5mm以下の砂礫を中
心に含む。種まり有。
 - 4 SK304埋土 2 SY5/1 黄褐色砂質土。δ2~3mmの炭化物を極
少含む。やや砂質有。種まり有。



第84図 S B 186・327・328・332(1 : 100)

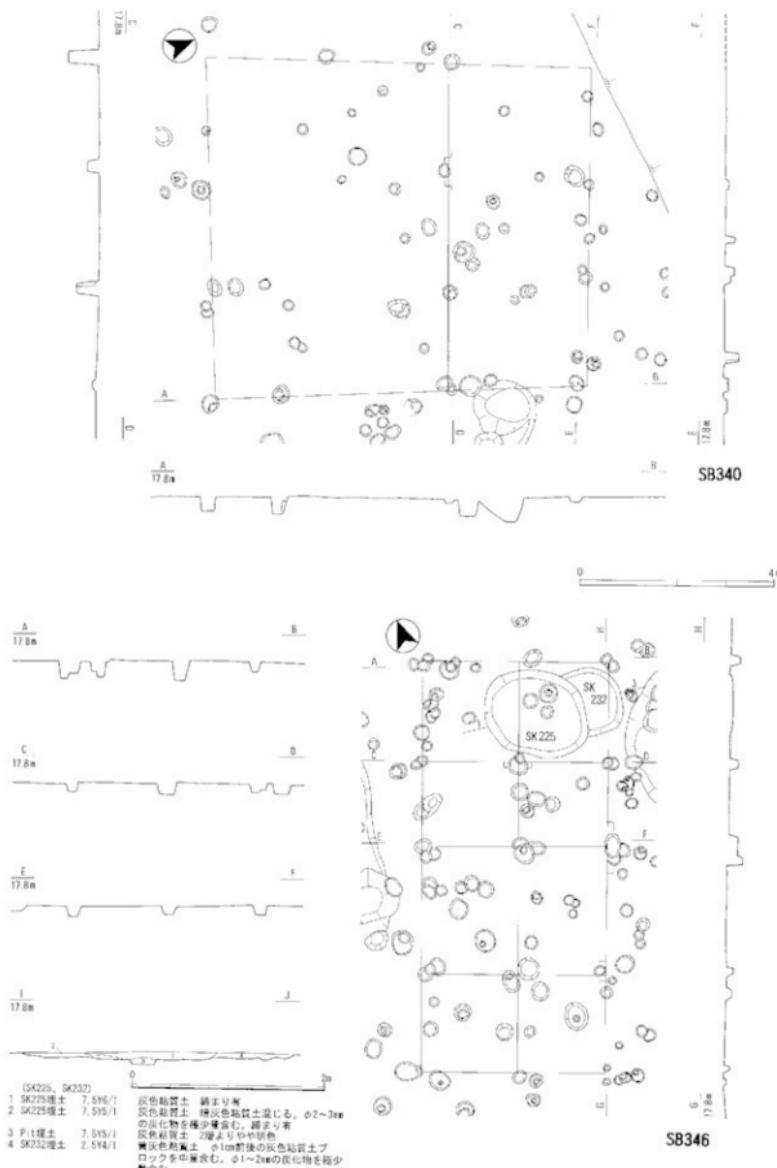


第85図 S B 331・337・338(1 : 100)



0 4m

第86図 S B 335・336(1 : 100)



第87図 S B 340・346(1:100、SK225=1:50)

重複関係：S B 338（中世Ⅲ）→S B 337（中世ⅢかIV）

柱穴から中世後期の常滑製品の片口鉢が出土しているので、中世Ⅲ期かIV期の遺構とした。

S B 338

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N23° E

面積：30.6m²

重複関係：S B 338（中世Ⅲ）→S B 337（中世ⅢかIV）

S B 338（中世Ⅲ）→S B 347（中世Ⅲ）

中世Ⅲ期の建物であるS B 347に切られるので、この時期の遺構とした。

S B 339

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行2間

建物方位：N25° E

面積：25.3m²

重複関係：なし

2間×2間の身舎の北に1間分の庇が付く建物と思われる。中世Ⅲ期・IV期の建物S B 148・183と方位が一致するので、中世Ⅲ期の遺構とした。

S B 340

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行3間、梁行2間

建物方位：N23° E

面積：56.5m²

重複関係：なし

比較的大規模な建物であるが、柱穴の残存状態が悪い。柱穴からの出土遺物はすべて古代の遺物であるが、中世Ⅲ期かIV期の建物S B 337と方位が一致するので、中世Ⅲ期かIV期の遺構とした。

S B 346

建物遺構：側柱建物

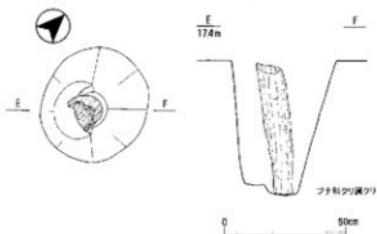
平面規模：桁行4間、梁行2間

建物方位：N22° E

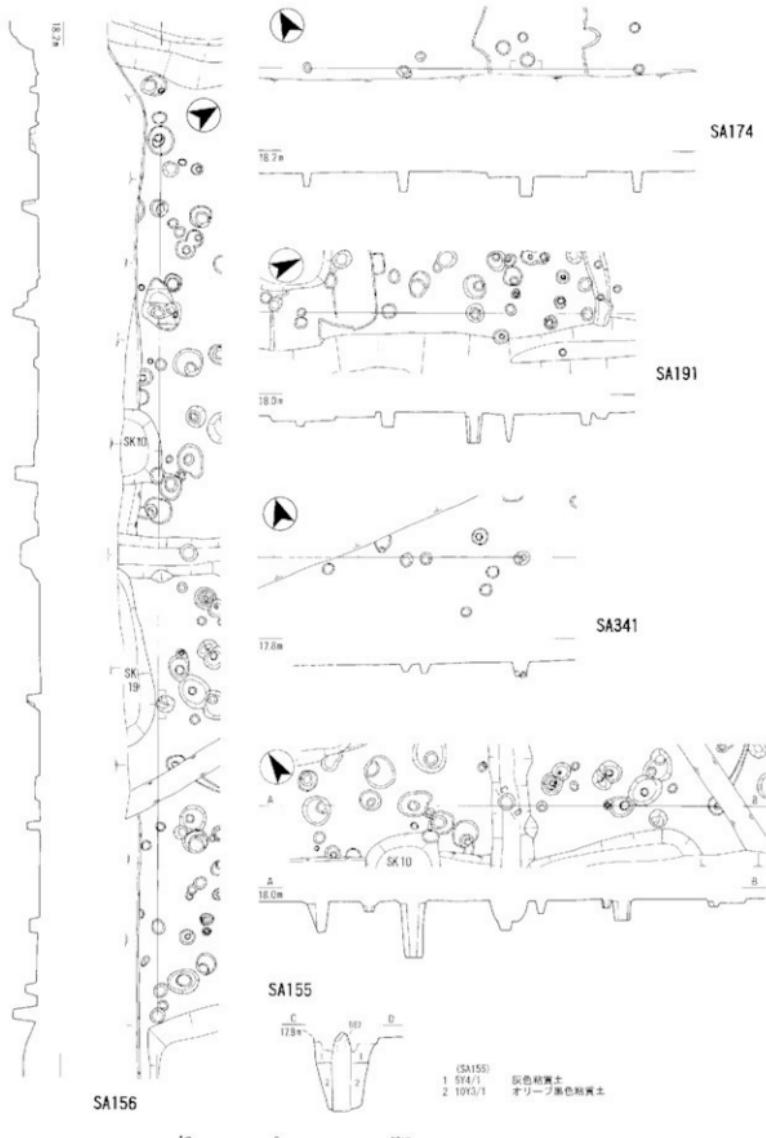
面積：31.7m²

重複関係：S B 334（中世Ⅰ）→S B 347（中世Ⅲ）

→S B 346（中世Ⅲ）→S B 335（中世ⅢかIV）



第88図 S B 339・347(1 : 100, Pit=1 : 20)



第89図 S A 155・156・174・191・341(1 : 100, Pit=1 : 20)

埋土に第11型式の常滑製品の片口鉢を含むSK 225・232は建物内土坑の可能性がある。

SK 347

建物遺構：側柱建物

平面規模：桁行2間、梁行1間

建物方位：N 9° E

面積：11.2m²

重複関係：SB 338（中世Ⅲ）→SB 347（中世Ⅲ）

SB 334（中世Ⅰ）→SB 347（中世Ⅲ）

→SB 346（中世Ⅲ）→SB 335（中世ⅢかⅣ）

多くの遺構と重複している。中世Ⅲ期の建物SB 346に切られ、柱穴から古瀬戸後Ⅲ期の鉄袖縁袖小皿が出土しているので中世Ⅲ期の遺構とした。

②柱列

この時期の柱列を5条確認した。これらのうちのいくつかは調査区外にのびる掘立柱建物の一部かもしれない。

SA 155

4間の柱列。柱穴は比較的大きい。中世Ⅱ期の溝SD 14を切る。埋土に大窯第3段階前半の天目茶碗を含むSK 19を建物内土坑とする掘立柱建物かもしれない。

SA 156

8間の柱列。中世Ⅱ期の溝SD 14を切る。前述のSK 19や、埋土に大窯第1段階の天目茶碗を含むSK 10を建物内土坑とする掘立柱建物かもしれない。

SA 174

4間の柱列。中世Ⅳ期の建物SB 189と方位が一致するので、同時に存在していた可能性がある。

SA 191

3間の柱列。重複関係も出土遺物もなく、所属時期を決め難いが、一応中世後期の遺構としておく。

SA 341

2間の柱列。一応柱列とした。

③土坑

SK 5

形状：長方形

規模：7.7×5.0m 深さ：40cm

重複関係：SK 5（中世Ⅳ）→SD 1（中世Ⅳ）

2基の長方形の土坑が重複している。埋土には、

様々な時期の遺物を含む。埋土中の最新遺物が大窯第4段階前半の瀬戸美濃製品の腰折皿であるの中世Ⅳ期の遺構とした。

SK 10

形状：不明

規模：2.0×0.9m以上 深さ：20cm

重複関係：なし

埋土には様々な時期の遺物を含む。埋土中の最新遺物が大窯第1段階の天目茶碗であるので、中世Ⅲ期の遺構とした。SA 156が調査区外にのびる建物ならば、この土坑が建物内土坑になる可能性がある。

SK 19

形状：不明

規模：3.5m以上×0.63m以上 深さ：43cm

重複関係：なし

埋土には中世前期からの遺物を含む。埋土中の最新遺物が大窯第3段階前半の天目茶碗であるので、中世Ⅳ期の遺構とした。

SK 20・23・26

[SK 20]

形状：梢円形？

規模：3.5×3.5m以上 深さ：45cm

[SK 23]

形状：方形

規模：4.0×2.8m 深さ：25cm

[SK 26]

形状：梢円形？

規模：2.7×2.2m以上 深さ50cm

重複関係：SK 20（中世Ⅳ）→SD 22（中世Ⅳ？）

SK 25（中世Ⅰ）→SK 24（中世Ⅰ）→

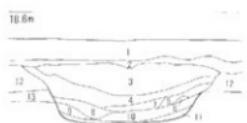
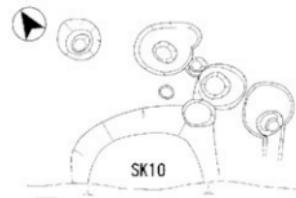
SK 23（中世Ⅳ）

SK 26（中世Ⅲ）→SK 23（中世Ⅳ）

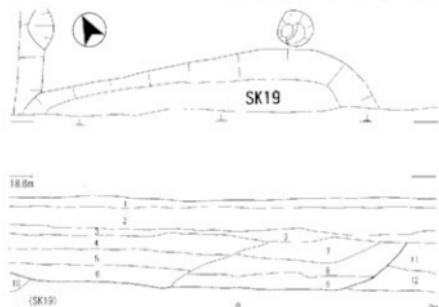
複雑に重複した土坑群。形状も深さも様々である。埋土中の最新の遺物は、SK 20が大窯第3か第4段階の天目茶碗、SK 23が大窯第1か第2段階の天目茶碗、SK 26が大窯第1段階の瀬戸美濃製品の擂鉢である。

SK 20とSD 22間に切り合いがあり、中世Ⅳ期としたSK 20が切られていることから、SD 22は中世Ⅳ期にも僅かながら存在していたとみれよう。

SK 45

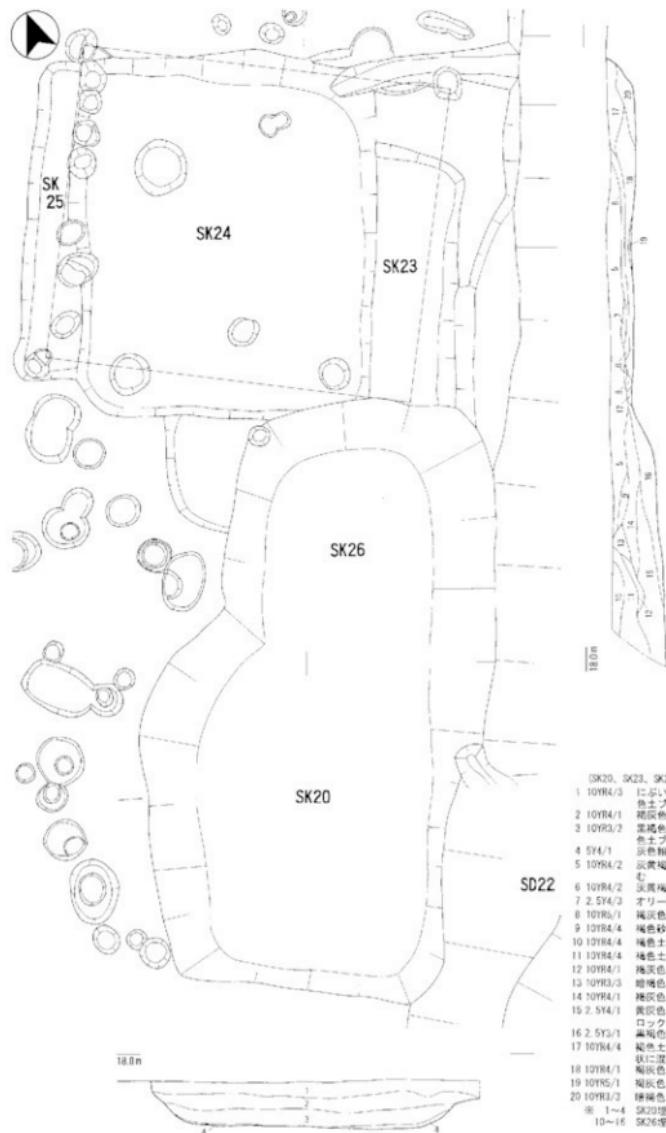


- | | | |
|----------|----------|---------------------------|
| (5) 挑 | 10Y8/2 | 灰黃褐色質實土 |
| 2. 球 | 5Y4/2 | 褐紫灰色質實土 |
| 3. 圓 | 10Y4/4 | 黃褐色質實土，含沙子和石子 |
| 2. 圓 | 2. 3Y4/1 | 黃色質實土，含沙子和石子 |
| | | 黃黃黃色質實土，含石子和塊狀物 |
| | | 含有沙子 |
| 5 SK10 土 | 10Y4/3 | 灰黃褐色細颗粒 |
| SK10 土 | 10Y4/3 | 灰黃褐色細颗粒 |
| 7 SK10 土 | 10Y4/1 | 無氣孔的土壤 |
| 8 SK10 土 | 10Y3/1 | 無氣孔的土壤 |
| 3 SK10 土 | 10Y3/3 | 灰黃褐色質實土 |
| 11 地山 | 10Y4/2 | 灰黃褐色土壤 |
| 12 黑壤土 | 10Y4/2 | 深黑色質實土，含沙子和石子 |
| 13 地山 | 10Y4/4 | 深黑色質實土，含沙子和石子，含礦物質多，含腐殖質多 |



- (SK45)
 1 7.5YR3/4 暖褐色土 褐灰色砂質土を含む。
 鉄分・マンガン粒を多く含む
 2 10YR4/2 反応褐色砂質土 鉄分を多く含む

第90図 SK 5(1:100)・10・19・45(1:50)



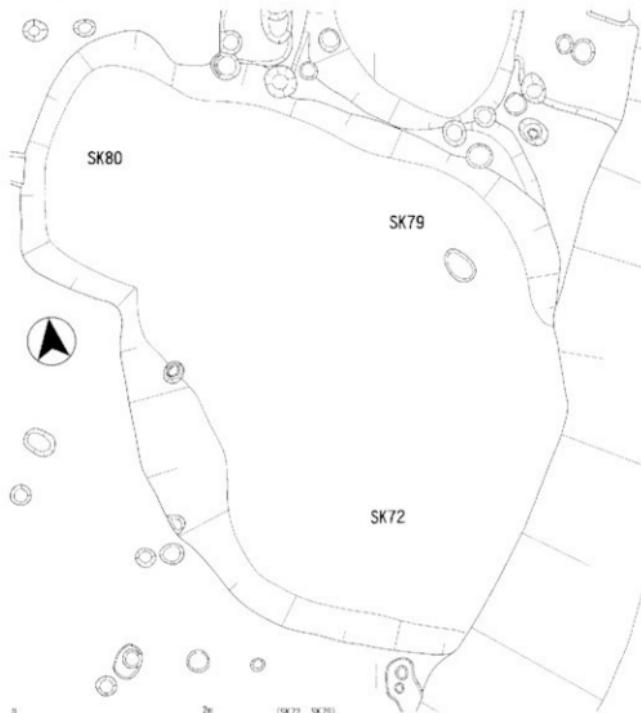
第91図 SK 20・23・26(1:50)



(SK61)
1 10YR4/3 に近い黄褐色土 マンガン粒を多く含む
2 7.314/1 灰色粘質土



- (SK70)
- 1 10YR8/3 泥質灰色砂質土
炭化物・鉄分を
多く含む
 - 2 2.5Y7/1 国白色砂質土
鉄分を多く含む
 - 3 2.5Y7/1 国白色砂質土
炭化物・鉄分を
多く含む
 - 4 2.5G6/1 オリーブ灰褐色
質土
 - 5 2.5G7/1 滅オリーブ粘質
土
 - 6 10B6/1 ★灰色粘質土



- (SK72, SK78)
- 1 SK72堆土 10YR4/3 に近い黄褐色土、鉄分・マンガン粒を多く含む
 - 2 SK72堆土 2.5Y4/2 灰色粘質土、鉄分を多く含む
 - 3 SK72堆土 10YR4/2 国黄色粘質土、φ2~5cm大粒黄色土ブロックを含む。φ1~3cmの縛を多く含む
 - 4 SK72堆土 7.5YR3/3 灰褐色粘質土、φ3~5cm大粒灰色土ブロックを含む
 - 5 SK72堆土 7.5YR3/3 灰褐色粘質土と10YR4/1細灰色土の混合土。φ1~3cmの縛を多く含む
 - 6 SK72堆土 10YR4/4 灰色砂質土
 - 7 SK72堆土 2.5Y4/2 淡灰黄色粘質土、φ5cmの大粒の褐色土ブロック・マンガン粒を多く含む
 - 8 SK72堆土 3Y4/1 灰色砂質土
 - 9 SK79堆土 10YR4/4 暗色土と10YR4/7灰黑色粘質土の混合土。マンガン粒を多く含む
 - 10 SK79堆土 2.5Y4/2 暗色土、暗灰色土粒子を多く含む
 - 11 SK79堆土 10YR4/4 暗色土、下部に細砂層有
 - 12 SK79堆土 2.5Y4/1 黃灰黑色粘質土と2.5Y4/1黄灰色砂の混合土

第92図 SK61・70・72・79(1 : 50)

形状：方形

規模：2.9×2.4m 深さ：18cm

重複関係：S D62（中世Ⅲ）→S K45（中世Ⅳ）

大溝 S D62が完全に埋没した後に掘削された土坑である。埋土中の最新遺物が大窯第3段階の天目茶碗であるので、中世Ⅳ期の遺構とした。

S K 6 1

形状：楕円形

規模：1.7×1.2m 深さ：28cm

重複関係：なし

埋土中の最新の遺物が古瀬戸後期から大窯初期の瀬戸美濃製品の擂鉢であるので、中世Ⅲ期の土坑とした。

S K 7 0

形状：方形

規模：1.6×1.5m 深さ：28cm

重複関係：S D62（中世Ⅲ）→S K70（中世Ⅳ）

大溝 S D62が完全に埋没したあとに掘削されている。埋土中の最新遺物が大窯第3段階前半の瀬戸美濃製品の擂鉢と第12型式の常滑製品の片口鉢であるので、中世Ⅳ期の遺構とした。

S K 7 2 • 7 9

[S K 7 2]

形状：不定形

規模：3.7×2.8m以上 深さ：35cm

[S K 7 9]

形状：不定形

規模：3.8m以上×1.8m以上 深さ：29cm

重複関係：S B193（中世Ⅰ）→S K79（中世Ⅲ）

S K80（中世Ⅰ）→S K91（中世Ⅰ）→

S K79（中世Ⅲ）→S D62（中世Ⅲ）→

S K72（中世Ⅲ）

両遺構とも埋土間の切り合いがあるものの、大溝 S D62と一連の遺構である可能性が高い。

S K72の埋土中の最新遺物は第12型式の山茶碗と大窯第1段階併行期の無釉の椀である。そのため、中世Ⅲ期の遺構とした。

S K79の埋土中の最新遺物は古瀬戸後Ⅳ期の瀬戸美濃製品の平椀である。そのため中世Ⅲ期の遺構とした。

S K 7 3

形状：方形

規模：1.4×1.3m 深さ：61cm

重複関係：なし

方形の深い土坑である。埋土中の最新の遺物は第10型式の片口鉢である。そのため中世Ⅲ期の遺構とした。中世Ⅲ期の遺構の中では古いものであろう。

S K 7 4 • 7 5 • 7 6 • 8 1

[S K 7 4]

形状：方形？

規模：3.1×2.8m 深さ：12cm

[S K 7 5]

形状：楕円形？

規模：3.7m以上×2.4m以上 深さ：26cm

[S K 7 6]

形状：方形？

規模：3.1m×2.7m 深さ：27cm

[S K 8 1]

形状：方形？

規模：2.6×1.0m以上 深さ：23cm

重複関係：S K103（中世Ⅰ）→S K76（中世Ⅳ）

→S K75（中世Ⅳ）→S K74（中世Ⅳ）

S K75（中世Ⅳ）→S K81（中世Ⅳ）

S E82（中世Ⅲ）→S K76（中世Ⅳ）

S E82（中世Ⅲ）→S K81（中世Ⅳ）

複雑に重複する土坑群。遺構の深さも似ており、同じような性格を持つものと思われる。

埋土中の最新の遺物は、S K74が大窯第3段階後半の瀬戸美濃製品の灰軸内禿、S K75が大窯第2段階の天目茶碗、S K76が古瀬戸後Ⅳ期から大窯第2段階の瀬戸美濃製品の擂鉢、S K81が登窯第3小窯の天目茶碗で、切り合い関係とも矛盾しない。すべて中世Ⅳ期の遺構である。

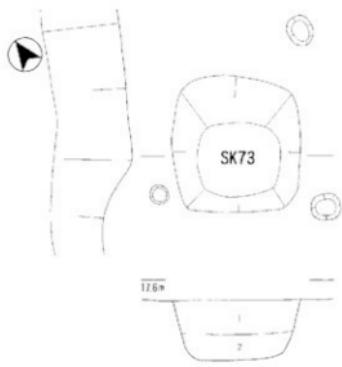
S K 9 2

形状：楕円形？

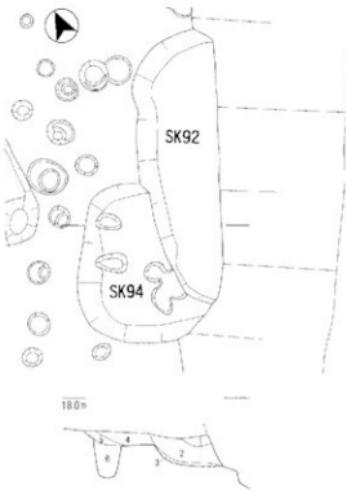
規模：2.8m以上×0.9m以上 深さ：30cm

重複関係：S K94（中世Ⅰ）→S K92（中世Ⅲ）→S D62

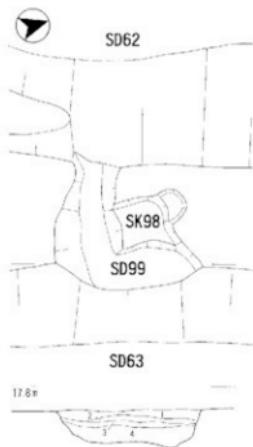
この遺構も埋土間の切り合いがあるものの大溝 S D62と一連の遺構である可能性がある。埋土中の最新遺物は古瀬戸後Ⅱ期かⅢ期の直線大皿である。そのため中世Ⅲ期の遺構とした。



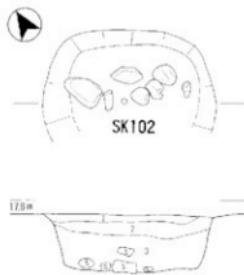
(SK73)
1 NS/
2 N4/
灰色砂質土 鉄分を含む
灰色粘質土



(SK92, SK94)
1 SK92堆土 10YR4/3 にぶい黄褐色土、マンガン粒を含む
褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土の混合土
2 SK92堆土 10YR4/4
3 SK92堆土 10YR4/1
4 SK94堆土 2.5Y4/3
5 SK94堆土 5Y4/2
6 P11堆土 2.5Y4/1
灰色砂質土
オリーブ褐色土、炭化物を含む
オリーブ色砂質土
黄灰色粘質土

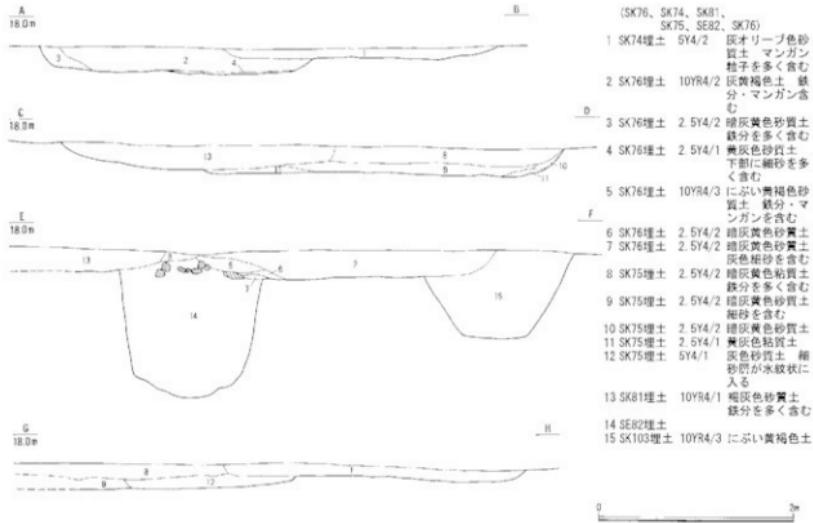
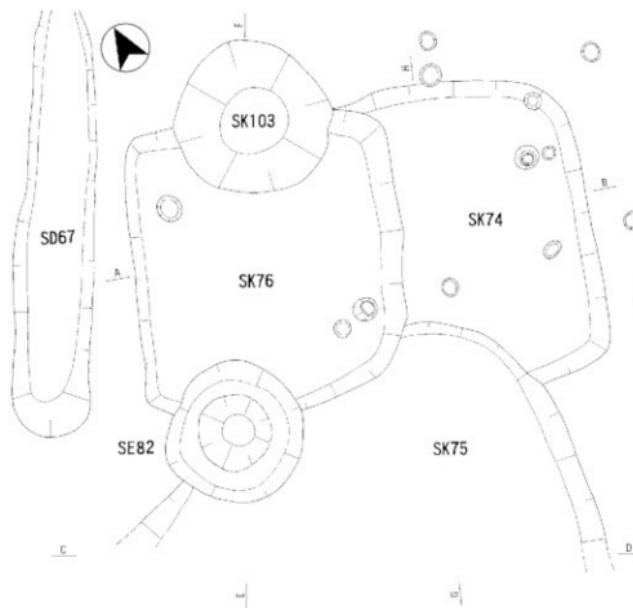


(SK98)
1 10YR4/2
2 10Y4/1
3 10Y4/2
4 2.5Y4/1
灰褐色砂質土 鉄分を多く含む
褐色土
灰褐色砂質土 粗砂を多く含む
黄灰色砂質土

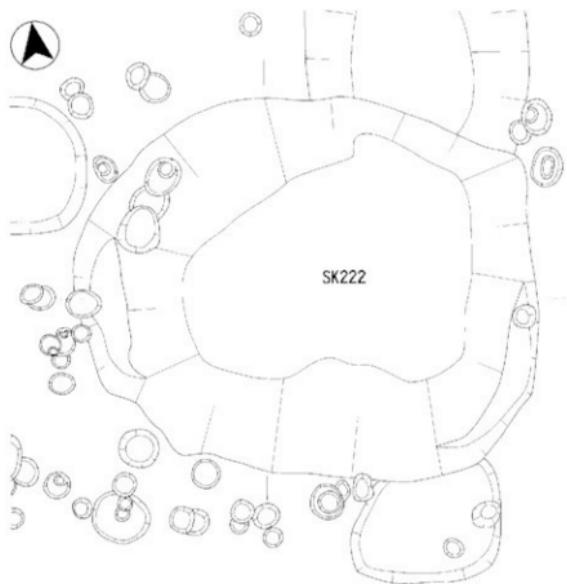


(SK102)
1 10YR4/4
2 5Y4/2
3 5Y3/2
褐色土
灰オリーブ色砂質土
オリーブ墨色粘質土 砂粒をやや多く含む
巨礫を含む

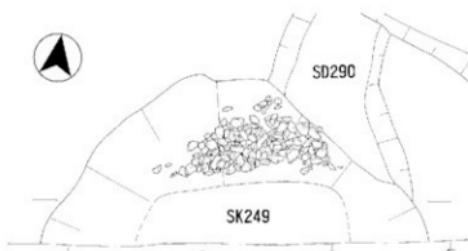
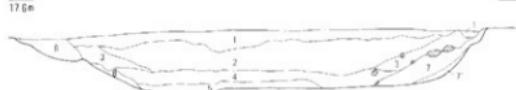
第93図 S K 73・92・98・102(1:50)



第94図 S K 74・75・76・81(1:50)

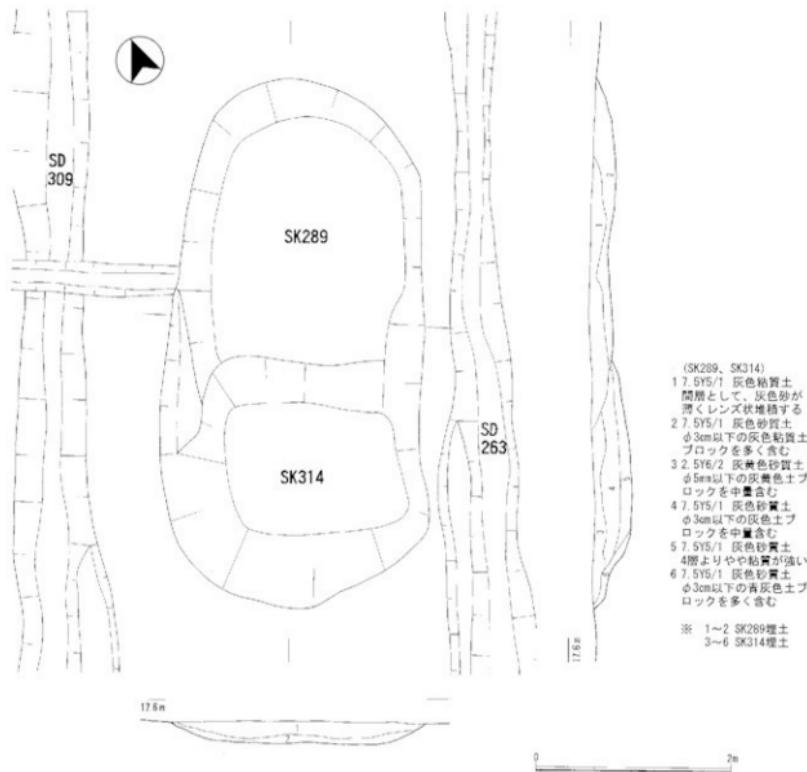


- (SK222)
- 1 2.SYS/2 開墾灰色粘質土
φ2mm以上の大礫化物種少量含む。
φ2mm以下の中礫少量含む。
 - 1' 2.SYS/1 灰色粘質土
 - 2 2.SY4/1 灰色灰色粘質土
φ1~φ4mm大粘土ブロック
多く含む。φ1~10cm板状少
量含む。
 - 3 7.SY4/1 灰色粘質土
 - 4 5YS/2 オリーブ褐色粘質土
部分的に砂質の強い開閉隙が
規則に深く走る。
 - 4' 7.SY4/1 灰色粘質土
4層より砂を多く含む
 - 5 10YS/1 灰色粘質土
 - 6 7.SY4/1 灰色粘質土
 - 7 7.SY3/2 オリーブ褐色粘質土
φ20mm以下の礫を多く含む
 - 7' 7.SY3/2 オリーブ褐色粘質土
礫をほとんど含まない
 - 8 2.SYS/1 灰色粘質土
下部にφ1~3cmの青灰色粘
質土ブロックを中量含む



- (SD290, SK249)
- 1 SD290埋土 2.SY4/1 黄灰色粘質土
φ3mm以上の大礫化物を少量含む
灰色砂質土。
 - 2 SK249埋土 5YS/1 φ2mm前後の礫層を中量含む。
φ2mm前後の炭化物を極少量
含む。
 - 3 SK249埋土 7.SY5/1 黄灰色砂質土
やや粘性者。φ1cm前後の礫
極少量含む。
 - 4 SK249埋土 5YS/2 灰色灰褐色粘質土
φ3mm前後の灰黄色粘土ブ
ロックを多く含む。φ1mm度
化物少量含む。
 - 5 SK249埋土 5Y4/1 灰色粘質土
φ2mm以下の植物遺体極少量
含む。φ30cm以下の礫を多
く含む。
 - 6 SK249埋土 5Y4/1 灰色粘質土
φ5mm前後の炭化物を極少量
含む。φ1cm以下の植物遺体
を極少量含む。

第95図 SK222・249(1:50)



第96図 SK262・289・314(1:50)



第98図 S D 1・9・22・31・35(1:50)

規模：3.8×2.6m 深さ：24cm

〔SK 3 1 4〕

形状：方形？

規模：2.6×2.5m以上 深さ：38cm

重複関係：SK 306（中世Ⅰ）→SD 275（中世Ⅰ）
→SD 309（中世Ⅰ）→SD 279（中世Ⅰ）
→SK 289（中世Ⅳ）

SK 314（中世Ⅳ？）→SK 289（中世Ⅳ）

埋土中の最新の遺物は、SK 289が大室第3段階前半の瀬戸美濃製品の鉄釉穂皿である。SK 314は時期決定の決め手となる遺物はないが、ほぼ隣接する時期の遺構と考え、両者とも中世Ⅳ期の遺構とした。

④溝・大溝・流路

多くの溝を検出している。特にSD 35・62は幅6m近い大規模なものである。また、SD 36・40・63のような屋敷地を巡る溝もある。

溝からは多くの遺物が出土している。特にSD 35や62などの大溝の出土遺物は大量で、時期幅も広い。出土遺物から一応の所属時期を決定したが、この時期はあくまでも溝の埋設時期で、これらの大溝は、掘削から完全に埋没するまでの年代が非常に長いと思われる。

SD 1

断面形状：箱状

長さ：22m以上 幅2.0m 深さ43～74cm

流れ：北→南

重複関係：SD 9（中世Ⅲ）→SD 1（中世Ⅳ）

SK 4（中世Ⅳ）→SD 1（中世Ⅳ）

SK 5（中世Ⅳ）→SD 1（中世Ⅳ）

調査区内に南北に掘削された区画溝。埋土の底近くには粘質土が、上部には砂質土が堆積する。断面観察でも、何度かの再掘削が行われているようである。出土遺物の時期には幅があるが、15世紀後半のものからが主体を占める。埋土中の最新の遺物は登窯第1か第2小期の擂鉢である。

SD 9

断面形状：U字状

長さ：20.3m 幅：1.5m 深さ：78cm

流れ：東→西

重複関係：SK 17（古代）→SD 9（中世Ⅲ）

SD 14（中世Ⅱ）→SD 9

SD 15（中世Ⅲ）→SD 9

SD 9→SD 1（中世Ⅳ）

東西に掘られた区画溝。西で北に直角に折れる可能性がある。東で途切れ、SD 22との間が土橋状の通路となる可能性がある。埋土は底近くに粘質土、上部に砂質土が堆積する。埋土中の最新の遺物は大室第1段階の瀬戸美濃製品の擂鉢であるが、大半の遺物が古代から中世前期のものであるので掘削の時期は少し遡るかもしれない。

SD 1 5

長さ：19.8m以上 幅1.0m 深さ：31cm

流れ：[北側]北→南、[南側]南→北

重複関係：SD 15（中世Ⅲ）→SD 9（中世Ⅲ）

SD 15→SK 16（中世Ⅲ）

SB 142（古代）→SD 15

SD 15→SB 151（中世ⅢかⅣ）

SD 15→SB 195（中世Ⅲ）

SD 9と直行する溝。SD 9との間には切り合いで観察できたものの、SD 9に向けて水が流れるようになっているので、SD 9と一連の溝である可能性が高い。埋土中の最新の遺物は第10型式新段階の常滑製品の片口鉢である。

SD 2 2・3 1

〔SD 2 2〕

断面形状：U字状

長さ：22.7m以上 幅：2.5～4.3m

深さ：64～140cm

流れ：北→南

〔SD 3 1〕

断面形状：V字状

長さ：13.2m以上 幅：0.5m 深さ96cm

流れ：北→南

重複関係：SK 20（中世Ⅳ）→SD 22（中世Ⅳ）

SK 34（古代）→SD 27（中世Ⅰ）

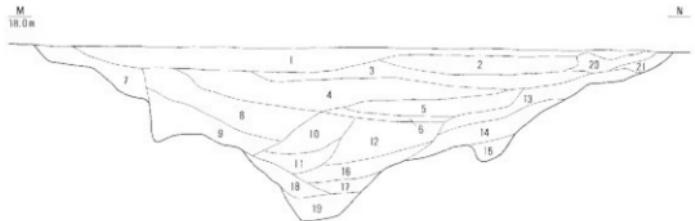
→SD 22

SK 34→SD 30（中世Ⅰ）→SD 31（中世Ⅳ）→SD 22

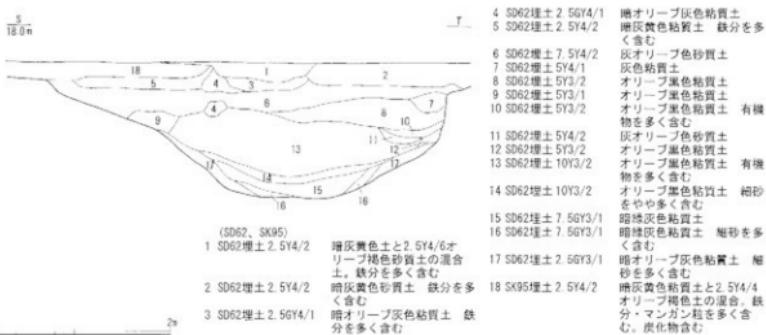
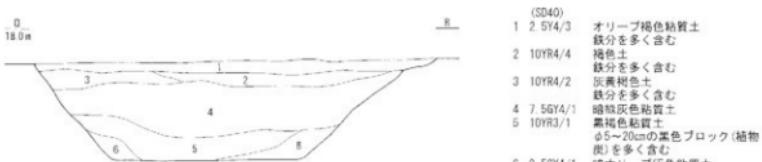
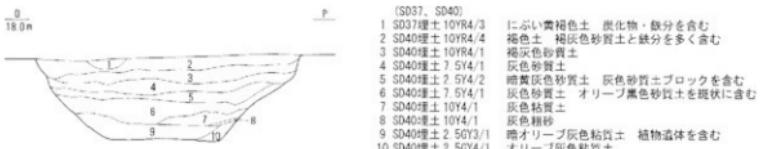
SK 24（中世Ⅰ）→SD 32（中世Ⅲ）

→SD 31→SD 22

南北に掘られた溝。遺構検出時には1条の溝とし



12 7.5Y4/1	灰色粗砂 φ10~20cm大の塊を多く含む
13 7.5Y4/1	灰色粘質土
14 7.5Y4/1	灰色粘質土と黄灰色粘質土の混合土。φ10cm大の塊、植物を含む
15 2.5GY3/1	暗オリーブ灰色粘質土 φ1~3cm大の塊を少量含む
16 10Y4/1	灰色砂 灰色粘質土を斑状に含む
17 2.5GY3/1	暗オリーブ灰色粘質土
18 2.5GY3/1	暗オリーブ灰色粘質土 灰色粗砂を多く含む
19 2.5GY3/1	暗オリーブ灰色粘質土 灰色粗砂を少量含む。貝片を少量含む
20 10Y4/1	褐色粘質土 鉄分を含む
21 10Y4/1	灰黃褐色砂質土 鉄分を含む



第99図 S.D35・37・40・62(1:50)

たが、掘削途中に2条の溝が重複していることがわかり、遺物などを分別した。SD22と31の間では、SD31が古く22が新しい。

SD22の土層断面を観察すると、北側では溝幅が狭く、砂質土が底近くまで堆積し、南側では溝幅が広く、埋土のかなり上まで粘質土がみられる。このことから溝は北から南に流れ、南側では漏水状態であった可能性が高い。南側の粘質土には植物遺体やハマグリ、ヒメタニシなどの貝殻、動物遺存体などが出土した。SD31の土層の状況もほぼ同様である。

埋土中の最新遺物は、SD22が大窯第4段階前半の瀬戸美濃製品の擂鉢、SD31が大窯第3段階前半の天目茶碗である。のことから両者とも中世IV期の遺構としたが、SD9との関係から、SD31の掘削はさらに遅る可能性が高い。

SD35

断面形状：皿状、一部U字状

長さ：23.0m以上 幅：3.4～5.8m

深さ：1～1.75m

流れ：北→南

重複関係：SD33（古代）→SD35（中世III）

最大幅5.8mの大溝。幅は広いものの、深さはあまりなく、傾斜も緩やかである。土層断面の観察から、数回の再掘削が行われている可能性が高い。

出土遺物の幅が非常に広く、古いものは第4型式の山茶碗から、新しいものは登窯第1か第2小窓の瀬戸美濃製品の鉄丸釉などである。また、SD35と対になると考えられる大溝SD62は中世III期までに埋没していた可能性が高い。これらのことから、この大溝の掘削時期は中世前期にまで遡り、中世III期までには機能を停止し、中世IV期にはほとんど埋没していたと考えられる。

埋土からは、牛角などの動物遺存体、アカニシなどの貝殻も出土している。

SD36・40・63

[SD36]

断面形状：皿状

長さ：44.5m以上 幅：1.4～3.2m

深さ：62～104cm

流れ：東→西

[SD40]

断面形状：箱状

長さ：18.5m以上 幅：2.7～3.5m

深さ：82～102cm

流れ：北→南

[SD63]

断面形状：箱状

長さ：21.0m以上 幅：2.0m

深さ：62～67cm

重複関係：SD62（中世III）→SD36（中世IV）

SD46（中世I）→SD40（中世IV）

→SD37（中世IV）

SD40（中世IV）→SK43（中世IV）

SD99（中世III）→SD63（中世IV）

SD85（中世I）→SD84→SD63

SK98（中世IV）→SD63（中世IV）

SB318（中世I）→SB324（中世I）

→SD63（中世IV）

中世IV期の屋敷地をめぐる区画溝。西側で途切れる部分があり、この部分が屋敷地の出入り口になると思われる。

埋土中の最新の遺物は、SD36が登窯第2小窓の瀬戸美濃製品の鉄絵皿、SD40が大窯第1段階の瀬戸美濃製品の擂鉢、SD63が大窯第4段階前半の天目茶碗・灰丸皿などである。また、SD63は大窯第3段階前半の遺物を埋土に含むSK98を切っている。このことから区画溝は近世初頭まで機能していたと考えられる。

SD62

断面形状：皿状

長さ：24.2m以上 幅：4.8～5.8m

深さ：71cm

流れ：北→南

重複関係：SK80（中世I）→SK91（中世I）→

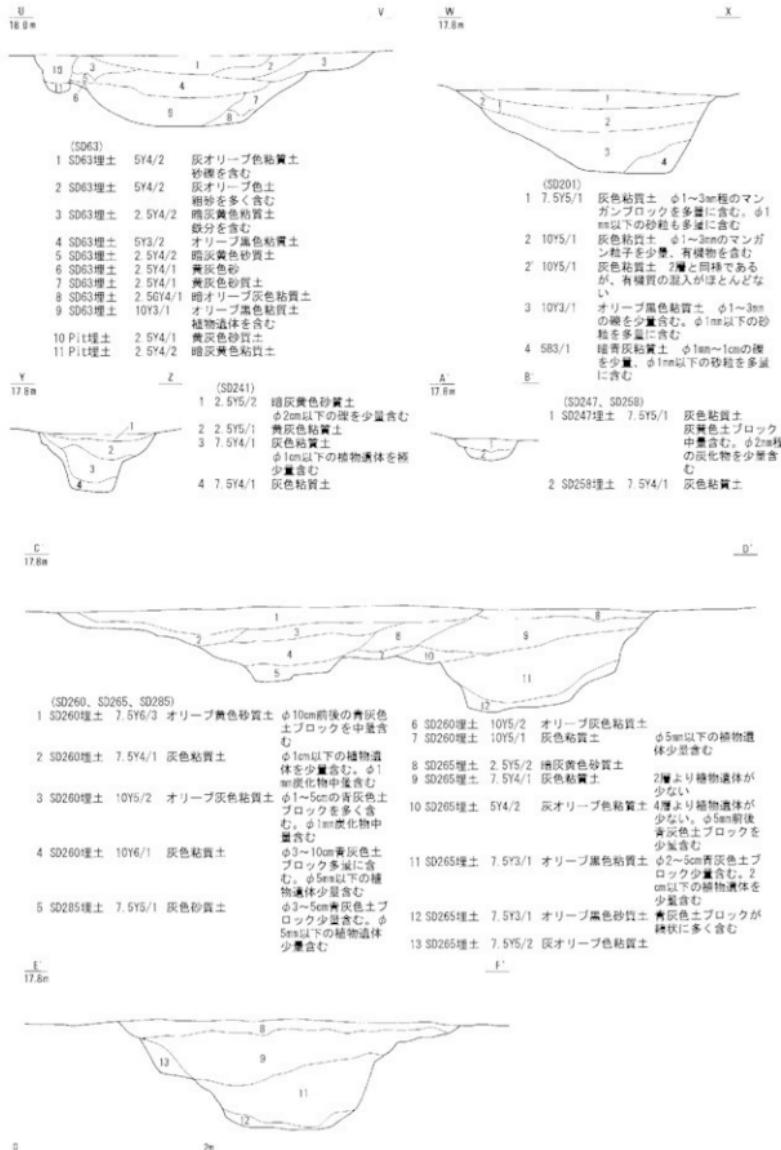
SK79（中世III）→SD62（中世III）→

SK72（中世III）

SK94（中世I）→SK92（中世III）→

SD62（中世III）

SD37（中世IV）→SD62（中世III）



第100図 S D 63・201・241・247・260・265・285(1: 50)

S D 62→S K 45 (中世IV)

S D 62→S K 70 (中世IV)

最大幅5.8mの大溝。前述したS D 35と対になる可能性がある。幅は広いものの、深さはあまりなく、傾斜も緩やかである。

出土遺物の幅が非常に広く、古いものは第4型式の山茶椀から、新しいものは大窯第4段階後半の天目茶椀までを含んでいる。量的には、出土遺物の大部分は第8型式までの山茶椀で、中世後期以降のものは僅かである。また、大窯第3段階後半の遺物を含むS K 70が大溝の埋土を切っている。これらのことから、この大溝の掘削時期は中世前期にまで遡り、中世Ⅲ期までにはほぼ機能を停止し、中世IV期にはほとんど埋没していたと考えられる。

埋土からは、牛や亀・スッポンなどの動物遺存体も出土している。

S D 2 0 1

断面形状：箱状

長さ：15.6m以上 幅：2.7m 深さ：83cm

流れ：北→南

重複関係：S D 204（古代）→S D 200（中世I）
→S D 201（中世III）→S D 206（中世III）

調査区東端にあるやや幅の広い溝。埋土中の最新の遺物が古瀬戸後IV期の鉄軸桶であるので、中世Ⅲ期の造構とした。

S D 2 4 1

断面形状：箱状

長さ：13.0m以上 幅：1.1m 深さ：58cm

流れ：北→南

重複関係：S K 249（中世IV）→S D 290（中世IV）
→S D 241（中世IV）

S D 250・315、265とともに、屋敷地の区画溝である可能性が高い。中世IV期の溝S D 290を切っているので、中世IV期の造構とした

S D 2 4 7

断面形状：U字状

幅：0.5m 深さ：12cm

重複関係：S D 258（中世II）→S D 247（中世III）

埋土中の最新の遺物が中世後期の常滑製品の片口鉢であり、中世II期の溝S D 258と重なるように掘削されているので、中世Ⅲ期の造構とした。

S D 2 6 5

断面形状：箱状

長さ：13.4m以上 幅：2.5~3.7m

深さ：110cm

流れ：南→北

重複関係：S D 265（中世IV）→S D 260・285
(中世IV)

S D 241、250・315とともに、屋敷地の区画溝である可能性が高い。

S D 2 6 0 ・ 2 6 4 ・ 2 8 5

断面形状：皿状

幅：1m 深さ：75cm

重複関係：S D 265（中世IV）→S D 260・264・
285（中世IV）

複雑に切りあう溝群。中世IV期の溝S D 265を切るため、中世IV期の造構とした。

S D 3 1 2

断面形状：U字状

長さ：16.0m以上 幅：1.6m 深さ：68cm

重複関係：S R 216（中世IV）→S D 312（中世IV）

中世IV期に埋没する流路S R 216を切るため、中世IV期の造構とした。

S R 2 1 6

断面形状：皿状

長さ：20.0m 幅：5.0m 深さ：84cm

流れ：南→北

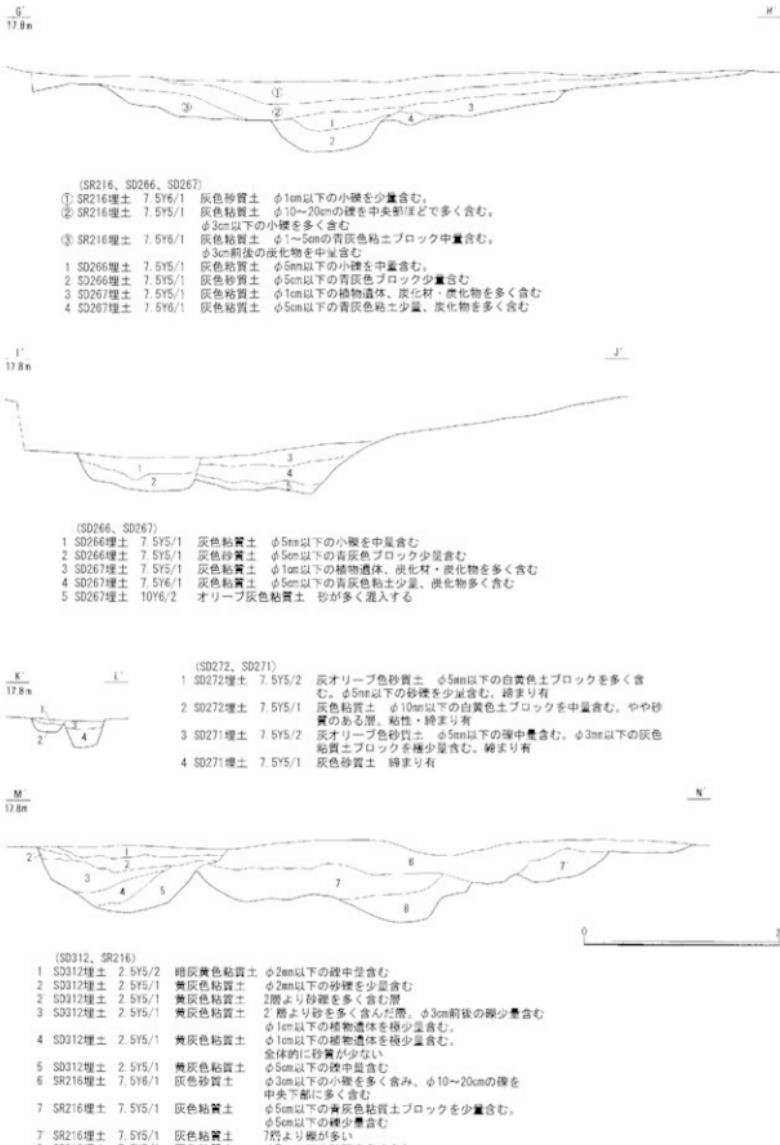
重複関係：S R 216（中世IV）→S D 312（中世IV）

蛇行しながら流れる流路。中世前期のS D 266・267も一連の造構と考えられる。多くの溝の流れが自然堤防の高所である北から、後背湿地である南に流れのに対し、この流路は自然堤防を横断して南から北に流れている。埋土出土の遺物は大量で、時期幅も広い。埋土中の最新の遺物は登窯第8小期の腰錆湯呑があるので、この時期まで流れがあったのかもしれない。

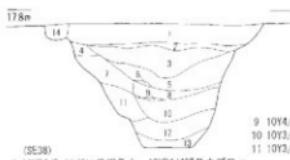
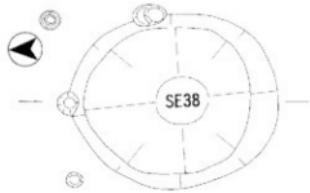
⑤井戸

中世後期の井戸は、10基ある。志知南浦遺跡ではこの時期になって、石組みの井戸が出現する。中世前期と同じく、素振りをしている井戸の中には部材を抜き取ったものも含まれる。

S E 3 8



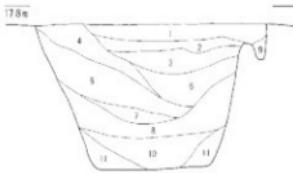
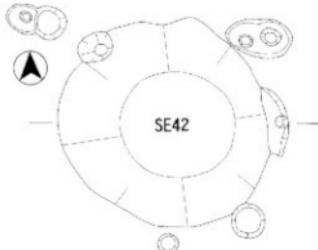
第101図 SD266・267・271・272・312, SR216(1:50)



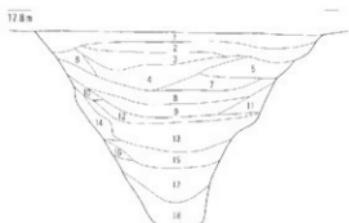
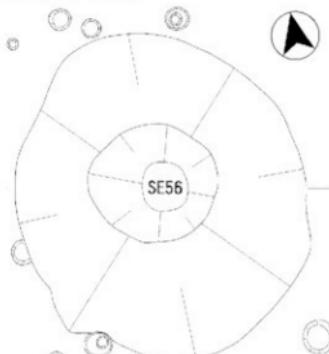
- (SE38)
1 10Y4/3 にぶい黄褐色土 10Y6/4褐色土ブロックが混じる。鉄分を含む
2 10Y4/4 棕色土と10Y6/4褐色砂質土の混合土
3 5Y4/1 黒オリーブ褐色砂質土
4 10Y4/4 棕色土と10Y4/4褐色砂質土の混合土
5 5Y4/1 深色粘質土
6 5Y4/1 黄褐色砂
7 7.5Y4/4 黄褐色砂質土
8 10Y7/1 オリーブ褐色粘質土

- 9 10Y4/1 黄褐色砂
10 10Y3/2 オリーブ黒色粘質土
11 10Y3/2 オリーブ褐色粘質土と5Y6/1褐色砂質土の混合土
12 10Y3/1 オリーブ褐色粘質土
13 10Y3/1 オリーブ褐色粘質土
17層より粘性増す
14 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土

図 1~13 SE38地土
14 Pt地土



- (SE42)
1 10Y4/3 にぶい黄褐色土 褐色土ブロックが混じる。
鉄分を多く含む
2 10Y4/4 棕色土と10Y4/4褐色砂質土の混合土
5Y6/1 黄褐色砂質土
3 7.5Y4/1 黄褐色砂質土
4 φ3~15mmの塊が発達
5 10Y3/1 オリーブ褐色粘質土 φ10~20mmの塊が発達する
6 5Y4/1 黄褐色粘質土 φ10mm以上の塊を含む
7 7.5Y4/1 反応粘質土
8 10Y3/1 オリーブ褐色粘質土
9 10Y4/3 黄褐色土
10 10Y4/1 黄褐色粘質土
11 7.5Y4/1 黄褐色粘質土



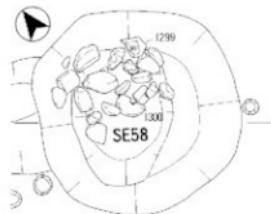
- (SE56)
1 7.5Y4/3 棕色土 マンガン結を多量に含む
2 10Y4/4 棕色土と10Y4/2深黄色砂質土の混合土、
鉄分を多く含む
3 10Y3/1 黑オリーブ褐色粘質土
4 5Y4/1 黑オリーブ褐色粘質土
5 9Y7/1 黑オリーブ褐色粘質土
6 7.5Y4/3 深褐色砂質土
7 2.5Y3/1 黑オリーブ深色砂質土
8 10Y3/1 オリーブ褐色粘質土
8 10Y3/1 オリーブ褐色粘質土
10 7.5Y4/1 黄褐色粘質土
11 10Y3/1 黄褐色粘質土
12 2.5Y3/1 黑オリーブ褐色粘質土
13 7.5Y4/1 黑オリーブ褐色粘質土
14 2.5Y3/1 黑オリーブ褐色粘質土
15 2.5Y3/1 黑オリーブ褐色粘質土
16 2.5Y4/1 黑オリーブ褐色砂質土
17 5Y3/1 黑オリーブ褐色粘質土
18 10Y3/1 オリーブ褐色粘質土

3層に分れる。2層より粘性有
8.5Y4/1 黑オリーブ褐色砂質土を少量含む
下部に厚さ1cm程の有機質を含む
8.5Y4/1 黄褐色、下部に有機質を含む
有機質を含む
暗影、植物を含む

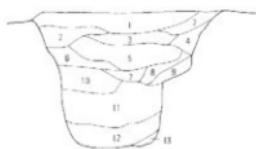
12層より褐色
鉄分を含む
下部に黒褐色土を含む



第102図 S E 38・42・56(1 : 50)

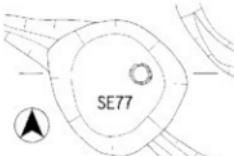


18.0m

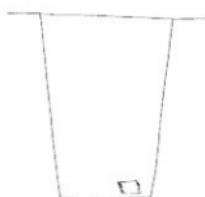


(SE58)

- 1 2.5Y4/1 黄灰色砂質土 鉄分を多く含む。炭化物をやや多く含む
 2 2.5Y4/1 黄灰色砂質土 緑色土ブロックを斑状に含む
 3 10Y4/1 緑灰色砂質土 炭化物を多く含む
 4 10Y4/4 緑色土、灰色砂質土ブロック・鉄分・マンガン結を含む
 5 10Y4/1 灰色砂質土 細砂を含む
 6 5層に類似する。5層より粘性有
 7 10Y3/1 オリーブ黒色粘質土
 8 10Y4/1 灰色砂質土
 9 2.5GY4/1 緑オリーブ灰色粘質土
 10 2.5GY4/1 緑オリーブ灰色粘質土 純砂をやや多く含む
 11 2.5GY3/1 緑オリーブ灰色粘質土, $\phi 5\text{mm}$ 大の
 暗オリーブ灰色粘質土ブロックを含
 12 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質土
 13 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色粘質土

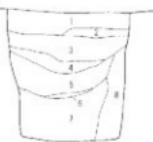


18.0m



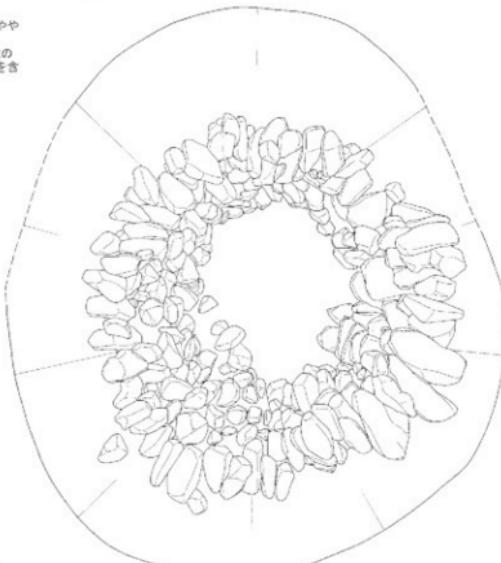
SE78

17.8m



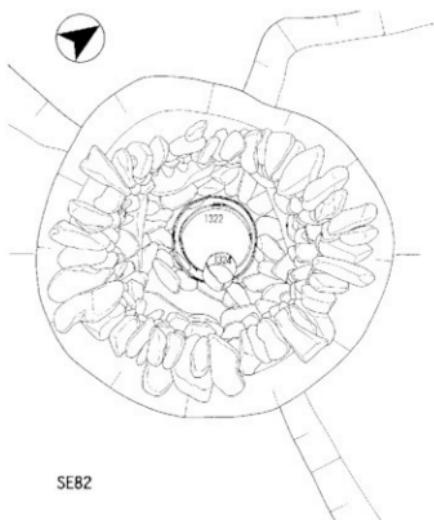
- (SE78)
 1 10Y4/3 にぶい黄褐色土
 褐色土ブロックが混じる
 2 7.5Y4/3 橙色土
 褐色砂質土を含む
 3 5Y4/1 灰色粘質土
 4 5Y3/1 オリーブ黒色砂質土
 5 10Y3/1 オリーブ黒色粘質土
 6 5Y3/2 オリーブ黒色粘質土
 植物遺体を多く含む
 7 10Y4/1 灰色粘質土
 8 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質土
 9 7層より締まり有

SE217

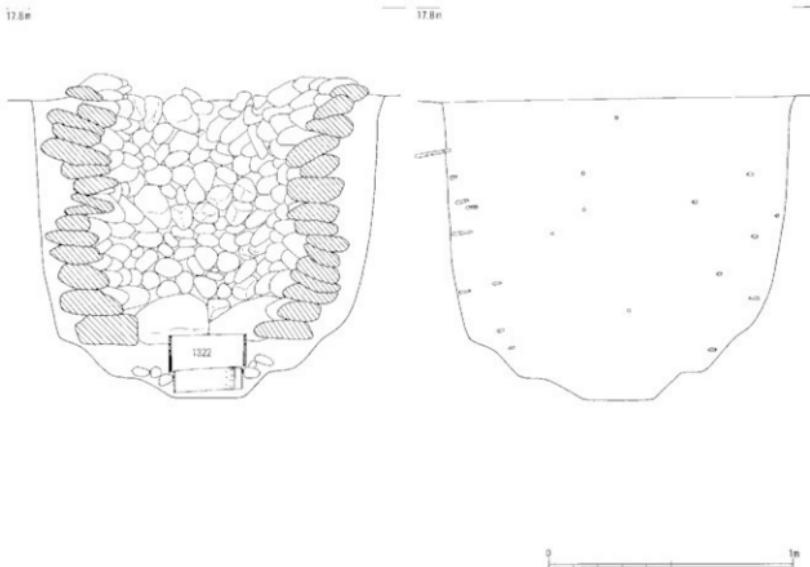


0 2m
 0 1m

第103図 S E 58・77・78(1:50)・217(1:20)



SE82



第104図 S E 82(1:20)

形態：素掘り

形状：円形

直径：2.0m 深さ：1.6m

重複関係：なし

埋土中の最新の遺物が、第10か11型式の常滑製品

の片口鉢であるので、中世Ⅲ期の遺構とした。

S E 4 2

形態：素掘り

掘形形状：円形

直径：2.4m 深さ：1.5m

重複関係：なし

埋土中の最新の遺物が、古瀬戸後IV期の鉄輪桶で

あるので、中世Ⅲ期の遺構とした。

S E 5 6

形態：素掘り

形状：円形

直径：3.0m 深さ：2.0m

重複関係：S B175 (中世Ⅱ) → S E56 (中世Ⅲ)

埋土中の最新の遺物は、古瀬戸後Ⅲ期の縁軸小皿

であるので、中世Ⅲ期の遺構とした。

S E 5 8

形態：素掘り

形状：円形

直径：1.9m 深さ：1.3m

重複関係：S D37 (中世Ⅳ) → S E58 (中世Ⅳ)

中世Ⅳ期の溝S D37を切り、埋土中の最新の遺物が大窯第3段階後半の捕鉢であるので、中世Ⅳ期の遺構とした。埋土中から礫や石臼、石仏が出土した。

S E 7 7

形態：曲物

形状：円形

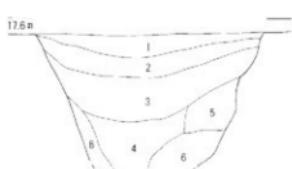
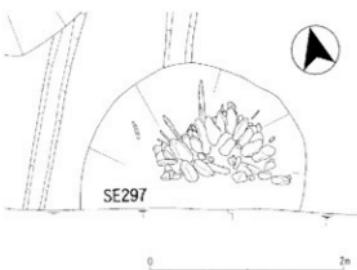
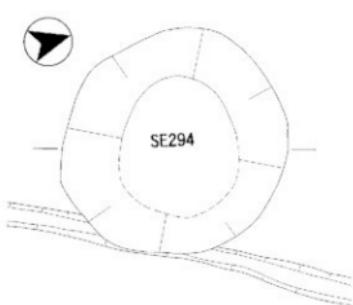
直径：1.3m 深さ：1.8m

重複関係：なし

井戸底から曲物が出土している。埋土中の最新の遺物が、古瀬戸後IV期の平椀であるので、中世Ⅲ期の遺構とした。

S E 7 8

形態：素掘り



- (SE294)
1 2.5Y5/3 黄褐色砂質土。φ5mm以下の灰化物少量。
φ1cm以下の灰黄色ブロック少量含む。
2 2.5Y5/3 黄褐色砂質土。φ15cm前後の砂粒少量。φ
10mm以下の灰黄色土ブロックを多く含む。
φ3mm以下の灰化物を少量含む。
3 7.5Y5/1 灰色粘質土
4 7.5Y4/1 灰色粘質土 φ5mm以下の青灰色土ブロック
5 中量含む
5 7.5Y5/1 灰色粘質土 φ15mm以下の青灰色土ブロック
を多量に含む
6 50Y6/1 オリーブ灰色粘質土

第105図 S E 294・297(1:50)



- (SX218)
- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 暗灰色粘質土 | φ2cm程の炭化ブロックを極微量に含む。燒土ブロックを少々含む。縛まり有。やや砂質混じり |
| 2 | 7 SY5/1 | 灰色粘質土 φ2cm程の炭化ブロックを極微量に含む。燒土ブロックを少々含む。縛まり有。やや砂質混じり |
| 3 | 7 SY5/1 | 灰色粘質土 同色土をまだらに含む。縛まり有。やや砂質混じり |
| 4 | SY3/2 | オリーブ墨色粘質土 φ1m以下の焼土ブロックを多量に含む。縛まりなし。やや砂質混じり |
| 5 | SY6/4 | オリーブ黒色粘質土 φ0.5~2cmの炭化物ブロックを多量に含む。φ1~2cmの小礫を含む。被熱により硬く焼き締まっている |
| 6 | SY4/1 | 灰色粘質土 |

第106図 SX218(1 : 10)

掘形形状：円形

直径：1.2m 深さ：1.3m

重複関係：S E 78（中世Ⅲ）→S D 37（中世Ⅳ）

埋土中の最新の遺物が、大窯第1段階の天目茶碗

であるので、中世Ⅲ期の遺構とした。

S E 8 2

形態：石組み+曲物

掘形形状：円形

掘形規模：1.5×1.3m

直径：0.7m 深さ：1.2m

重複関係：S E 82（中世Ⅲ）→S K 81（中世Ⅳ）

S E 82（中世Ⅲ）→S K 76（中世Ⅳ）

非常に残りがよい井戸である。底に2段の曲物を据え、その上に石を組んでいる。曲物・石材を除去すると、掘形から地山に杭が打ち込まれていた。石材を留めるための杭ではないかと考えられる。

S E 2 1 7

形態：石組み

掘形形状：梢円形

掘形規模：2.3×2.0m

直径：0.7m 深さ：不明

重複関係：S X 218（中世Ⅲ）→S E 217（中世Ⅲ）

志知南浦遺跡では比較的古い石組み井戸である。

埋土中の最新の遺物が、古瀬戸後IV期新段階の瀬戸

美濃製品の擂鉢であるので、中世Ⅲ期の遺構とした。

S E 2 9 4

形態：不明

掘形形状：円形

直径：2.4m 深さ：不明

重複関係：S D 300→S D 294（中世Ⅲ）

埋土中の最新の遺物が大窯第1段階の瀬戸美濃製

品の擂鉢であるので、中世Ⅲ期の遺構とした。

S E 2 9 7

形態：石組

掘形形状：円形

掘形規模：2.3m

直径：0.8m 深さ：不明

重複関係：S E 297（中世Ⅲ）→S D 299（中世Ⅲ）

→S D 302

崩落のため、十分な掘削ができなかった。埋土中の最新の遺物が、後II期の瀬戸美濃製品の折縁深皿

であるので、中世Ⅲ期の遺構とした。

⑥火葬穴

S X 2 1 8

規模：1.0×0.8m 深さ：23cm

方形の穴を掘り、火葬を行っている。側面の壁が被燃により赤変している。底近くから人骨・炭化物がまとまって出土し、布で包まれ、紐で綴じられた12枚の錢が出土した。

（2）遺物

①掘立柱建物・柱列関連遺物

(642～665・667)

642～651は掘立柱建物S B 140の建物内土坑SK 4から出土した。土師器羽釜（644）、瀬戸美濃製品の縁釉小皿（648）・天目茶碗（649）・擂鉢（650）、青磁碗（651）、白磁碗（645）がある。644は口縁部が内弯する。648は古瀬戸後IV期、649は大窯第1段階、SK 5出土の天目茶碗と接合できた。650は大窯第3～第4段階のものである。651は龍泉窯系のI類のものと思われる。古代の混入遺物には土師器椀（642）、灰釉陶器の椀（646）、中世前期の混入遺物には土師器皿（643）、陶器片口鉢（647）がある。646はK-14型式、647は第5型式のものである。

652～655はS B 148の建物内土坑SK 12から出土した。654は第10型式の常滑製品の壺。混入遺物には柱状高台のロクロ土師器（652）、K-14型式の灰釉陶器の段皿（653）がある。655は土鍤である。

656・657はS B 167に関連する遺物である。656は切羽。遺跡から出土する例は少ない。657は中世前期の混入遺物。渥美型第5型式の山茶碗である。

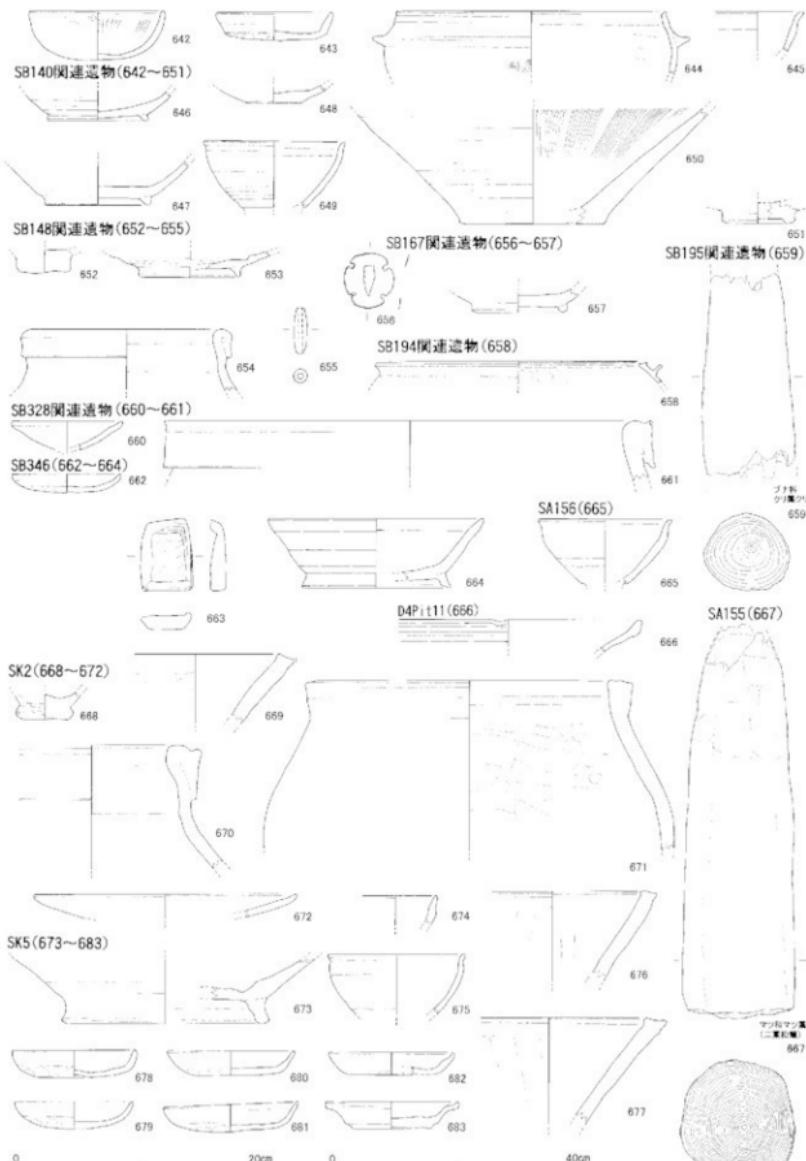
658はS B 194の柱穴から出土した。口縁端部に面を持ち、鈎が角張る。南伊勢系の羽釜と思われる。

659はS B 195の柱。断面は円形である。

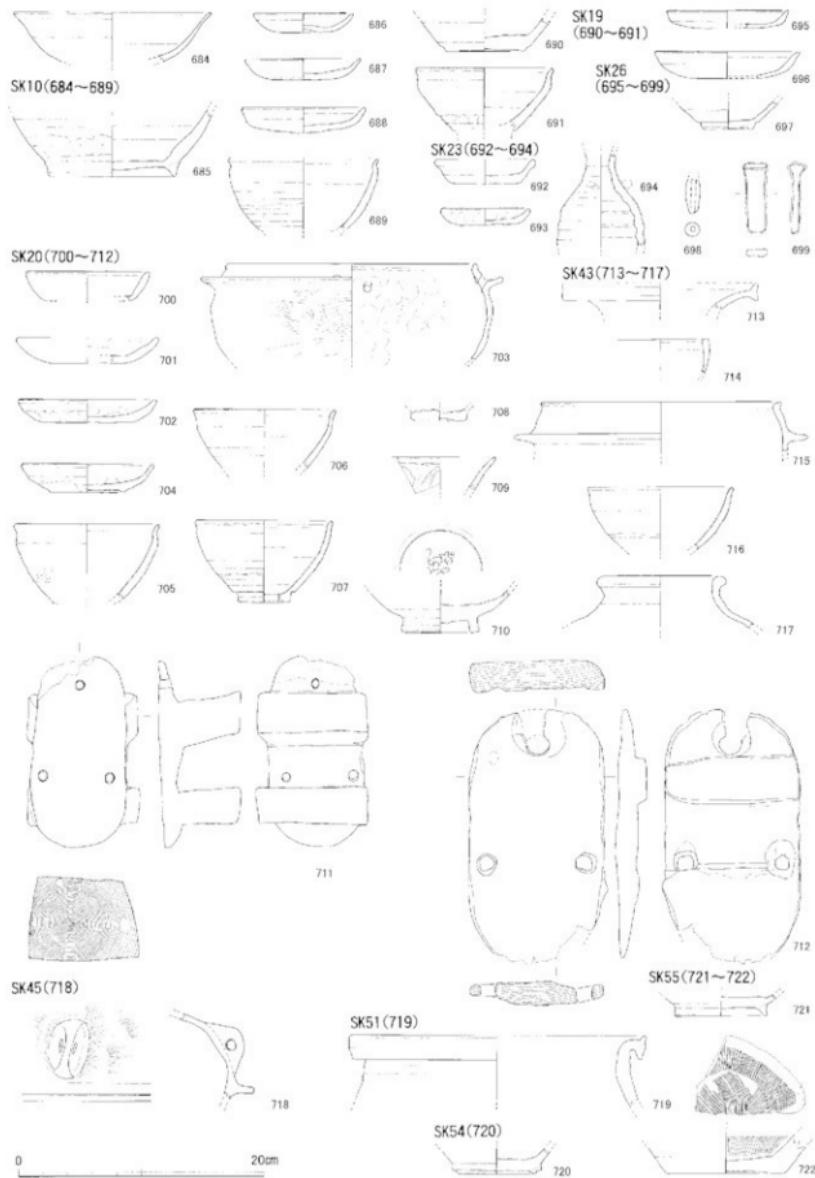
660・661はS B 328の建物内土坑SK 298から出土した。660は土師器小皿。京都系のものに近い。661は常滑製品の壺。第10型式の初頭のものである。

662～664はS B 346の柱穴から出土した。663は石製の硯である。664は混入遺物の土師器の椀。

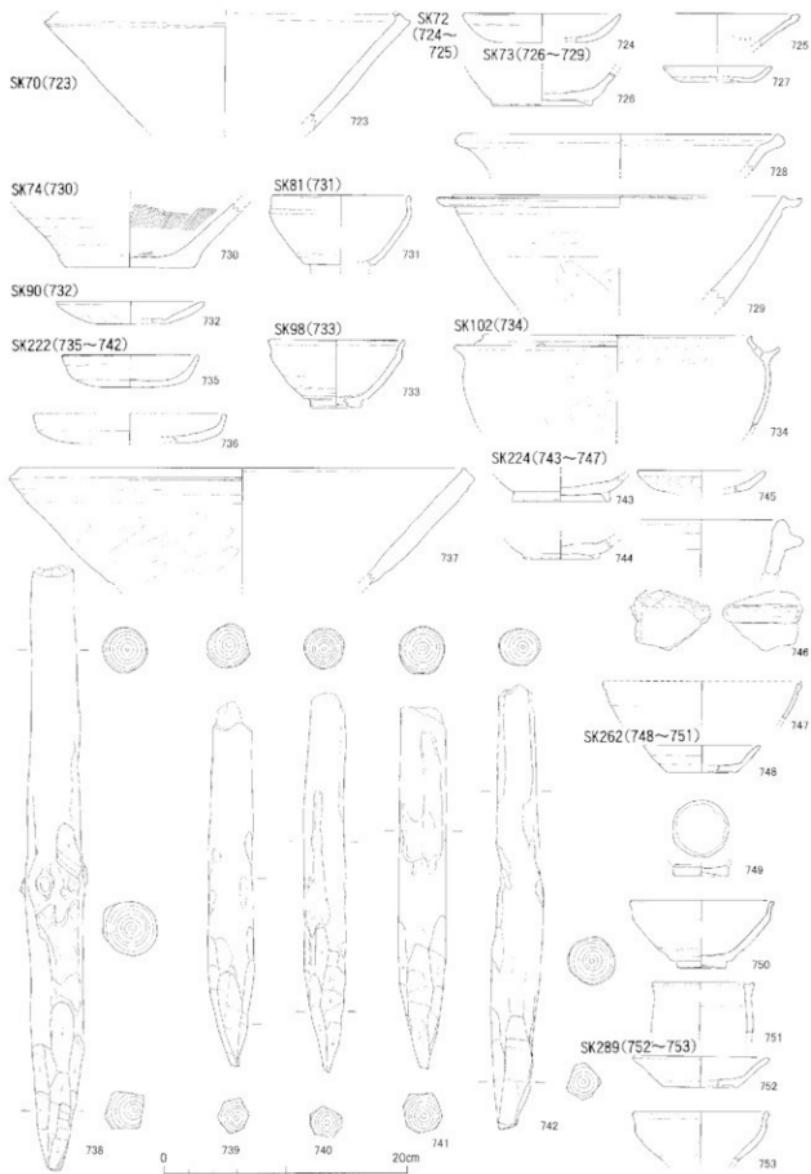
665はS A 156の柱穴掘形から出土した大窯第2段階の天目茶碗。667はS A 155の柱。



第107図 挖立柱建物・柱列・土坑出土遺物実測図(642～658・660～666・668～683=1:4、659・667=1:8)



第108図 土坑出土遺物実測図(1:4)



第109図 土坑出土遺物実測図(1:4)

②土坑出土遺物 (668~716・1151・1152)

668~671はSK_2から出土した。668は瀬戸美濃製品の仏龕具。大窯第1段階のものである。669~671は常滑製品。669は第9型式の片口鉢、670は第10型式新段階、671は第12型式の甕である。

672はSK_2から出土した土師器の皿。口縁部の小片であるが、口径が非常に大きい。

673~683はSK_5から出土した。瀬戸美濃製品には天目茶椀(674・675)、折縁皿(683)がある。674は古瀬戸後Ⅲ期、675は後Ⅳ期新段階、683は大窯第4段階前半のものである。676・677は常滑製品の片口鉢。第9型式のものである。678~682は土師器皿。

684~689はSK_10から出土した。土師器皿(686~688)はやや小径である。689は瀬戸美濃製品の天目茶椀。大窯第1段階のものである。684・685は混入遺物。684は尾張型第4段階の山茶椀、685は尾張型第6段階の片口鉢。685の産地は知多産か。

690・691はSK_19から出土した。691は瀬戸美濃製品の天目茶椀。大窯第3段階後半のものである。690は混入遺物。尾張型第9型式の山茶椀である。

692~694はSK_23から出土した。693は土師器皿。694は瀬戸美濃製品の花瓶。古瀬戸後Ⅳ期新段階のものである。692は混入遺物。尾張型第6型式の小皿である。

695~699はSK_26から出土した。697は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶椀。

713~717はSK_43から出土した。714は尾張系の土師器の内耳鍋。715は中北勢系の土師器羽釜。716・717は瀬戸美濃製品。716は大窯第1段階の天目茶椀、717は大窯製品の祖母懐壺。

718はSK_45から出土した土師器の茶釜。719はSK_51から出土した常滑製品。第6a型式の甕である。720はSK_54から出土した尾張型第6型式の山茶椀。719・720は混入遺物か。721・722はSK_55から出土した。722は大窯第3段階の擂鉢。721は混入遺物。尾張型第3段階の山茶椀。

723はSK_70から出土した常滑製品、第11か12型式の片口鉢。724・725はSK_72から出土した。725は古瀬戸後Ⅱ期の鉢皿。726~729はSK_73か

ら出土した。728は瀬戸美濃製品。古瀬戸中Ⅱ期の折縁深皿。729は尾張型第10型式の片口鉢。730はSK_74から出土した瀬戸美濃大窯第3段階の擂鉢。731はSK_81から出土した登窯第3小期の天目茶椀。732はSK_90から出土した土師器皿。733はSK_98から出土した瀬戸美濃大窯第3段階前半の天目茶椀。734はSK_102から出土した土師器の羽釜。内窓する短い口縁部を持つ。

743~747はSK_224から出土した。混入遺物が多い。743は涅美型第5型式、744は尾張型第6型式の山茶椀。746は滑石製の石鍋。747は白磁碗。II類かIII類のものと思われる。

748~751はSK_262から出土した。図示したものはすべて瀬戸美濃製品。748は大窯第2段階の稜皿、749は大窯第2段階、750は大窯第2段階後半の天目茶椀、751は大窯第1段階の口広有耳壺である。

752・753はSK_289から出土した。いずれも瀬戸美濃製品で、752は大窯第3段階前半の稜皿、753は大窯第2段階後半の天目茶椀。761はSK_225から出土した。常滑製品第11型式の片口鉢である。

SK_2_0出土遺物 (700~712)

土師器 (700~703) 700~702は土師器皿。700は小径で、立ち上りが強い。703は中北勢系の羽釜。口縁は内傾し、端部に緩やかな面を持つ。

陶器 (704~708) 704~708は瀬戸美濃製品。704は大窯第2段階の丸皿、705は古瀬戸後Ⅳ期新段階、706・707は大窯第1段階、708は大窯第2段階の天目茶椀。708は円板に転用されている。

磁器 (709・710) 709・710は龍泉窯系の青磁碗。709の外側には蓮弁があり、710は高台が高く、器壁が薄い。内面底部には花紋が刻まれる。

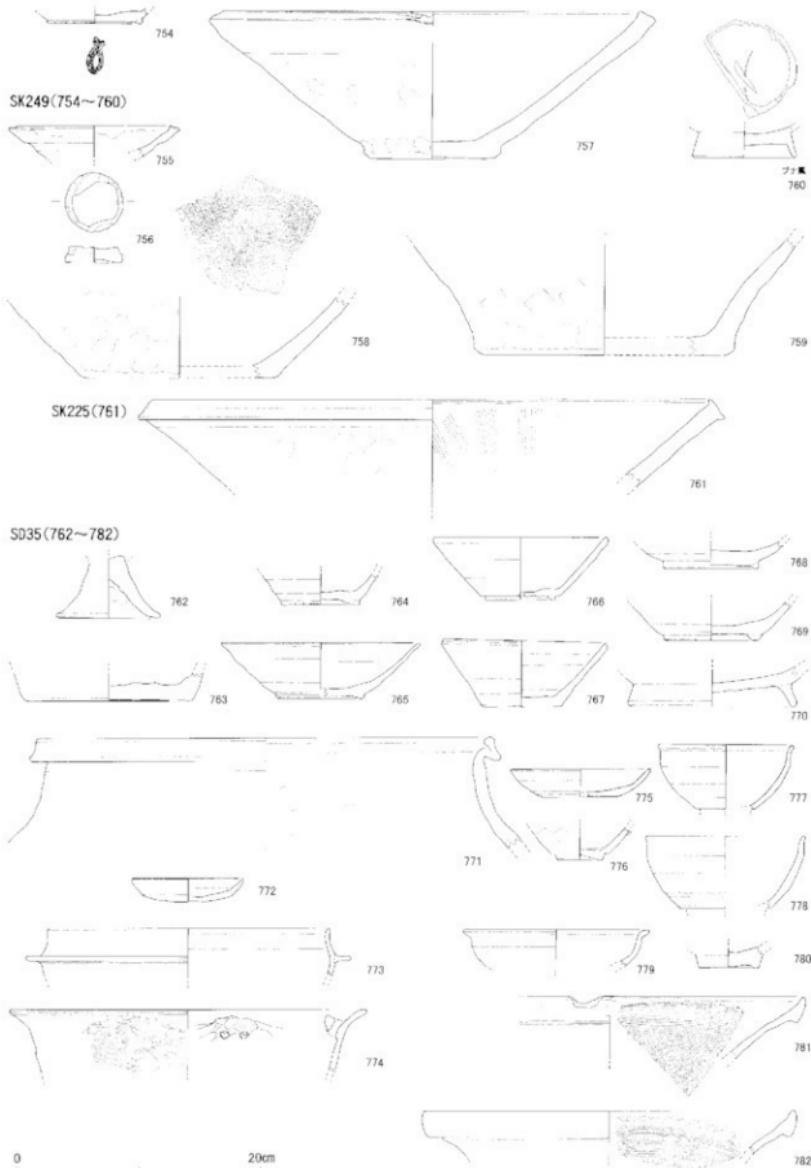
木製品 (711・712) 711・712は下駄。711は小型である。

SK_222出土遺物 (735~742)

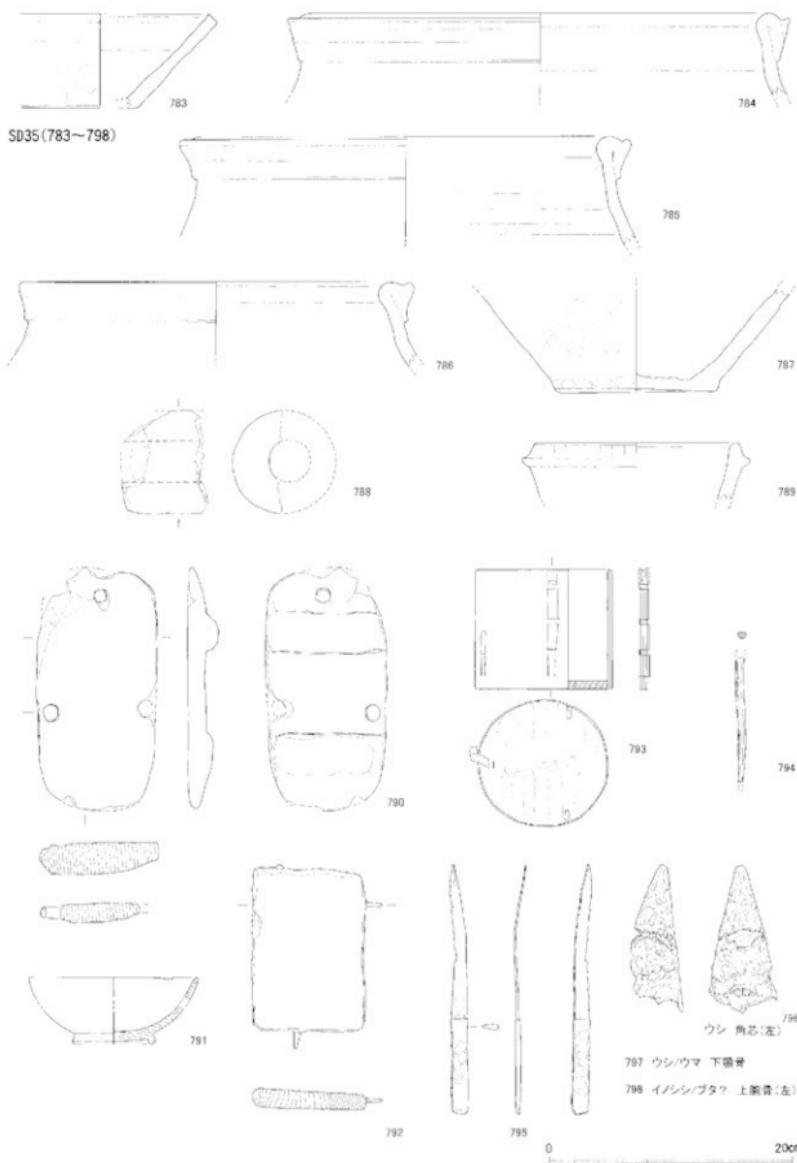
土師器 (735・736) いずれも混入遺物と思われる。

陶器 (737) 737は常滑製品の片口鉢。第11か12型式のものである。

木製品 (738~742) 738~742は杭。いずれも途中から折損しているが、材質や加工方法が似る。



第110図 土坑・大溝出土遺物実測図(1:4)



第111図 大溝出土遺物実測図(1:4)

S.K 2 4 9出土遺物（754～760・1151・1152）

混入遺物（1151） 1151は須恵器の壺。三つの足がつぶく。8世紀後半代のものか。

土師器（1152） 1152は中北勢系の羽釜。製作技法などには南伊勢系土師器の影響を強く受けている。

陶器（754～759） 755・756は瀬戸美濃製品。

755は古瀬戸後III期の鉢皿、756は大窯第3段階の天目茶椀。757～759は常滑製品。757は第9型式、758は第10か11型式の片口鉢。759は第10か11型式の壺。

木製品（760） 760は漆器椀。黒漆地のものである。内面底部には赤漆で絵？が描かれる。

③大溝出土遺物（762～868）

S.D 3 5出土遺物（762～798）

混入遺物（762・764～771・787） 中世III期にほぼ機能を終え、IV期に埋没する溝であるが、中世前期の遺物も多く出土している。ここでは中世前期の遺物は「混入遺物」として取り上げるが、大溝の掘削は中世前期にさかのぼる可能性が高い。

762は高杯の脚部。古墳時代のものか。764～769は山茶椀。尾張型第4型式（769）、渥美型第4型式（768）、尾張型第6型式（764・765）・第7型式（766）・第8型式（767）のものがある。770は渥美型第4型式の片口鉢、771・787は第6a～7型式の常滑製品の壺。

土師器（772～774） 772は土師器皿、773は中北勢系の土師器である。773は羽釜。口縁が直立気味で端部はとがり気味におわる。774は内耳鍋。

陶器（763・775～787） 763・775～782は瀬戸美濃製品。763は大窯第2か第3段階の徳利、775は大窯第2段階の丸皿。776～778は天目茶椀。776は古瀬戸後II期、777は後IV期新段階、778は大窯第1段階のものである。779は大窯第3段階後半か第4段階の小鉢、780は登窯第1か2小期の灰釉丸椀。781・782は擂鉢。いずれも大窯第2段階のものである。

783～787は常滑製品。783は第11か12型式の小型の片口鉢、784は第10型式、785・786は第10型式新相の壺。

木製品（790～794） 790は下駄。歯の磨耗が激しい。791は漆器の椀、792は板材。792の2方に

釘が刺さる。793は曲物。794は箸か。

金属製品（795） 795は小柄。曲がりながらも刃部まで残る。

動物遺存体（796～798） 796は牛角。797はウシもしくはウマの下顎骨、798はイノシシもしくはブタの上腕骨、詳細は第IV章に記す。

その他（788・789） 788は輪の羽口。789は滑石製の石鍋。

S.D 6 2出土遺物（799～840・842～868・914）

混入遺物（799～825） 中世III期までにほぼ機能を停止し、中世IV期に埋没する溝からの出土遺物であるが、中世前期の遺物も多く出土している。ここでは中世前期の遺物は「混入遺物」として取り上げるが、大溝の掘削は中世前期に遡る可能性が高い。

799～802は南伊勢系の土師器鍋。799は第1段階b型式、800・801は第1段階a型式のものである。802は第1段階の範疇に入ろうか、803は柱状高台のロクロ土師器。

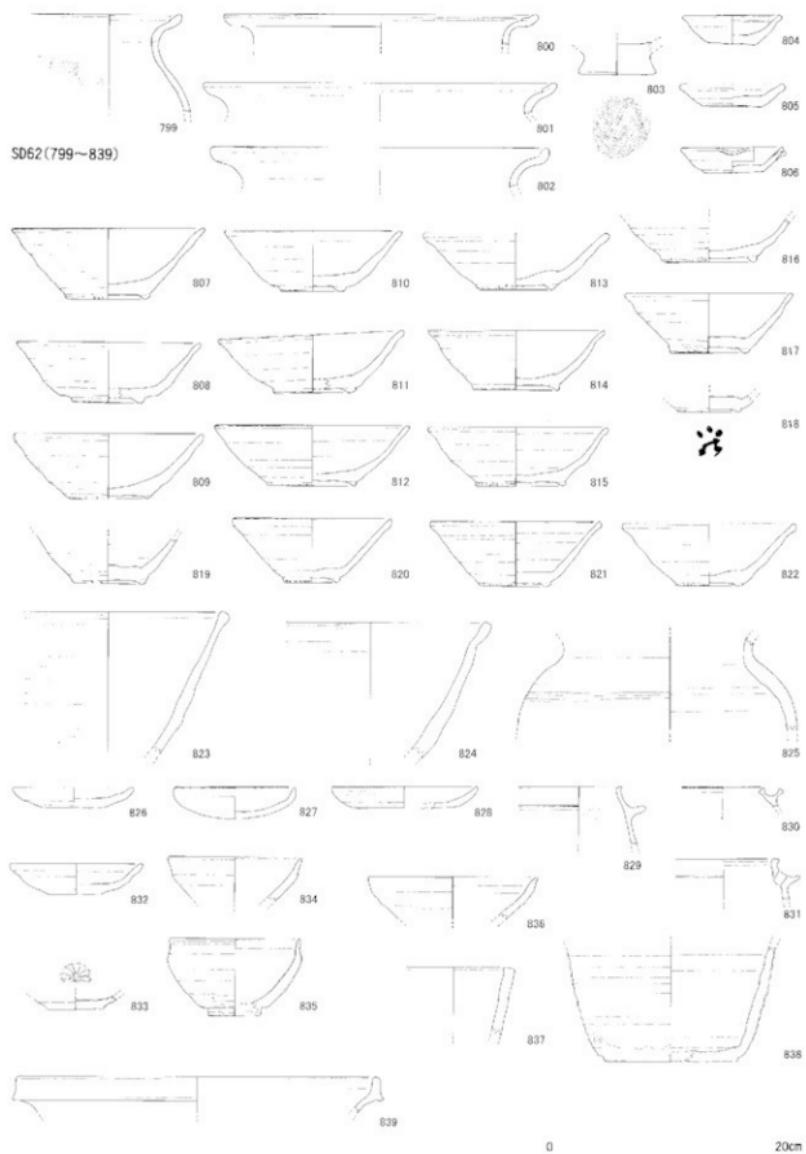
804～806は陶器小皿。804は渥美型第5型式、805・806は尾張型第6型式のものである。

807～822は山茶椀。尾張型第4段階（807）、尾張型第6型式（809・811～818）、渥美型第6型式（808・810）、尾張型第7型式（819～822）のものがある。818の底部外面には墨痕がある。823・824は片口鉢。いずれも第6型式併行期のものである。産地は知多か。825は壺。

土師器（826～831） 皿（826～828）は中世前期のものの可能性がある。羽釜（829～831）のうち、829・831は中北勢系、830は南伊勢系と思われる。

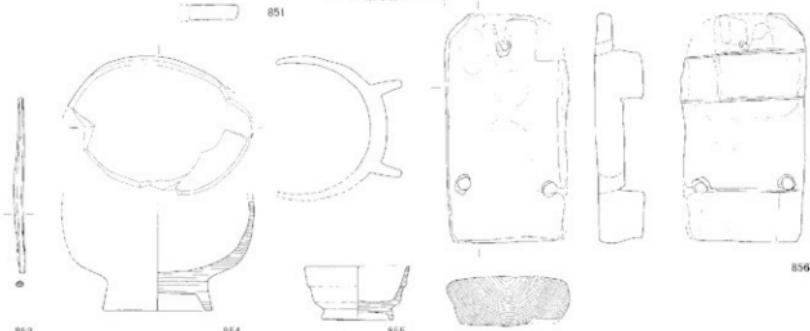
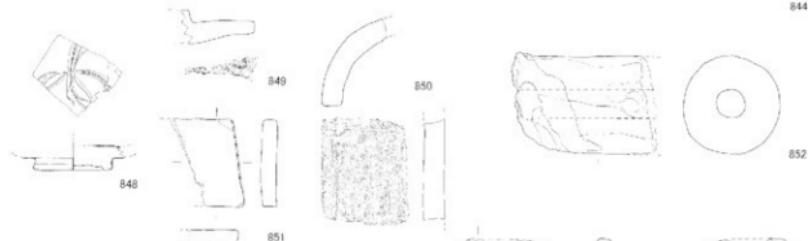
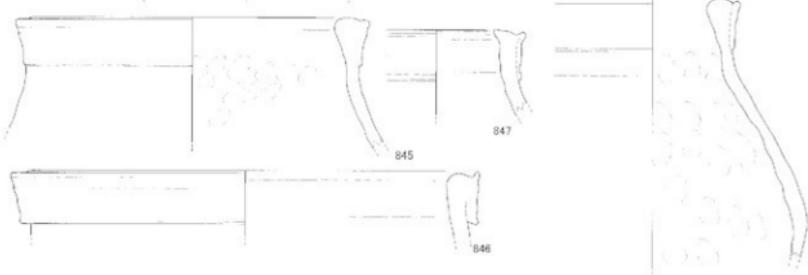
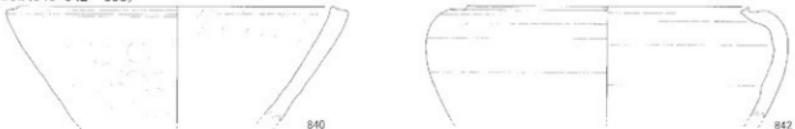
陶器（832～840・842～847・914） 832～839・914は瀬戸美濃製品。832は大窯第1段階の縁軸抜み皿、833は大窯第1段階か第2段階の灰釉端反皿か丸皿。834・835は天目茶椀。834は大窯第3段階、835は大窯第4段階後半のものである。836は古瀬戸後IV期新段階の平椀、837は古瀬戸後IかII期の大型筒形容器、838は古瀬戸後IV期新段階か大窯第1段階の口広有耳壺。839は大窯第3段階前半の、914は古瀬戸後IV期新段階の擂鉢。

840・842～846は常滑製品。840は第9型式の片口鉢。842は第12型式の火鉢か壺、843は第9型式的玉縁広口壺である。844～847は甕。第10型式



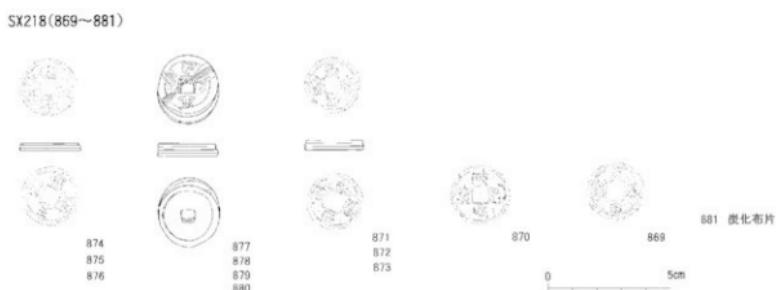
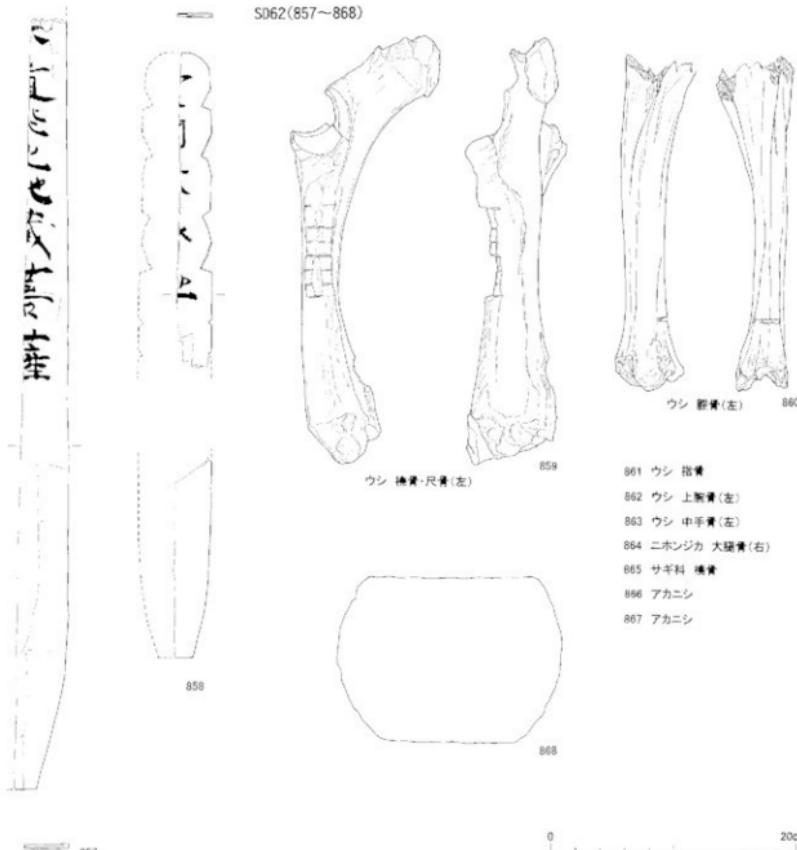
第112図 大溝出土遺物実測図(1:4)

SD62(840-842~856)



0 20cm

第113図 大溝出土遺物実測図(1:4)



第114図 大溝・火葬穴出土遺物実測図(857~860・868=1:4, 869~880=1:2)

(844・845)、第11型式(846)、第12型式(847)のものがある。

磁器 (848) 848は青磁の椀。内面底部に花紋が描かれる。

土製品 (849~852) 849・850は瓦。煙のかかり具合から、同一個体のものかもしれない。849の内面には布目とコピキ痕が残る。851は中世前期の渥美型の片口鉢を加工し、板状にしたもの。852は輪の羽口。

木製品 (853~858) 853は箸か。854・855は漆器椀、856は下駄。857・858は卒塔婆。857の文字、上部分は折損のため判読できないが下部分には「地蔵菩薩」と書かれる。内容から判断して「六道能化地蔵菩薩」の文言と思われる。858の文字は「空風火水地」と思われる。

動物遺存体 (859~867) 859はウシの橈骨と尺骨、860はウシの脛骨。このほか、ウシの指骨(861)・上腕骨(862)・中手骨(863)、ニホンシカの大脳骨(864)、サギ科の橈骨(865)、アカニシ(866・867)がある。

石製品 (868) 868は五輪塔の水輪。石材は花崗岩である。小型で、最大径の部分がやや上にある。

④**火葬穴出土遺物** (869~881)

SX218からは、12枚の錢貨が出土した。錢文は遺物観察表に記す。これらは紐状の繊維で縫じられ(877~880で確認)、さらに布(881)に包まれていたと思われる。

⑤**溝出土遺物** (882~913・915~1219)

溝出土遺物には混入が多く、埋没時以外のものも多く含まれる。遺物の中で最新のものを埋没期のものとし、より古い時期のものを「混入遺物」として報告する。

882~891はSD1から出土した。このうち882~886は混入遺物。882は灰釉陶器の椀。883・885・886は山茶椀。883は尾張型第3型式、885・886は尾張型第7型式のものである。885の体部外面の四方向には鳥などの絵画、底部外面には「十」、886の底部外面には「山」?の墨書がある。884は尾張型第7型式の陶器小皿。887~888は土師器皿。888は直線的に立ち上り、口縁端部のヨコナデが強い。889・890は瀬戸美濃製品。889は古瀬戸後IV

期新段階の天目茶椀、890は古瀬戸後IIIから後IV古段階の尊式花瓶。891は龍泉窯系の青磁椀。口縁端部が外反する。

892~897はSD9から出土した。892・894は古代の、893・896・897は中世前期の混入遺物。

898~910はSD15から出土した。898~909は混入遺物。902~905・908は山茶椀。いずれも尾張型第7型式のものである。905の底部外面には墨書がある。かな書きで明瞭ではあるものの判読できない。906・907は白磁皿。907は口禿皿。907はIX-1-aのものか。909は灰釉陶器の瓶類の体部、910は常滑製品の片口鉢。第10型式のものである。

911・912はSD37から出土した。911は中北勢系の茶釜、912は瀬戸美濃製品の祖母懐壺。大窯製品と思われる。913はSD44から出土した輪の羽口。915・916はSD247から出土した。915は土鍾、916は猿投産の須恵器甕。8世紀のものと思われる。917はSD260から出土した土師器の皿。中世前期の混入遺物か。918はSD271から出土した。渥美型第5型式の山茶椀。これも混入遺物と思われる。

1153・1154はSD250から出土した。1153は青磁の椀。内面底部に文様らしきものが残るが、明瞭ではない。1154は第11型式か12型式の常滑製品の片口鉢。外面に炭化物が付着する。

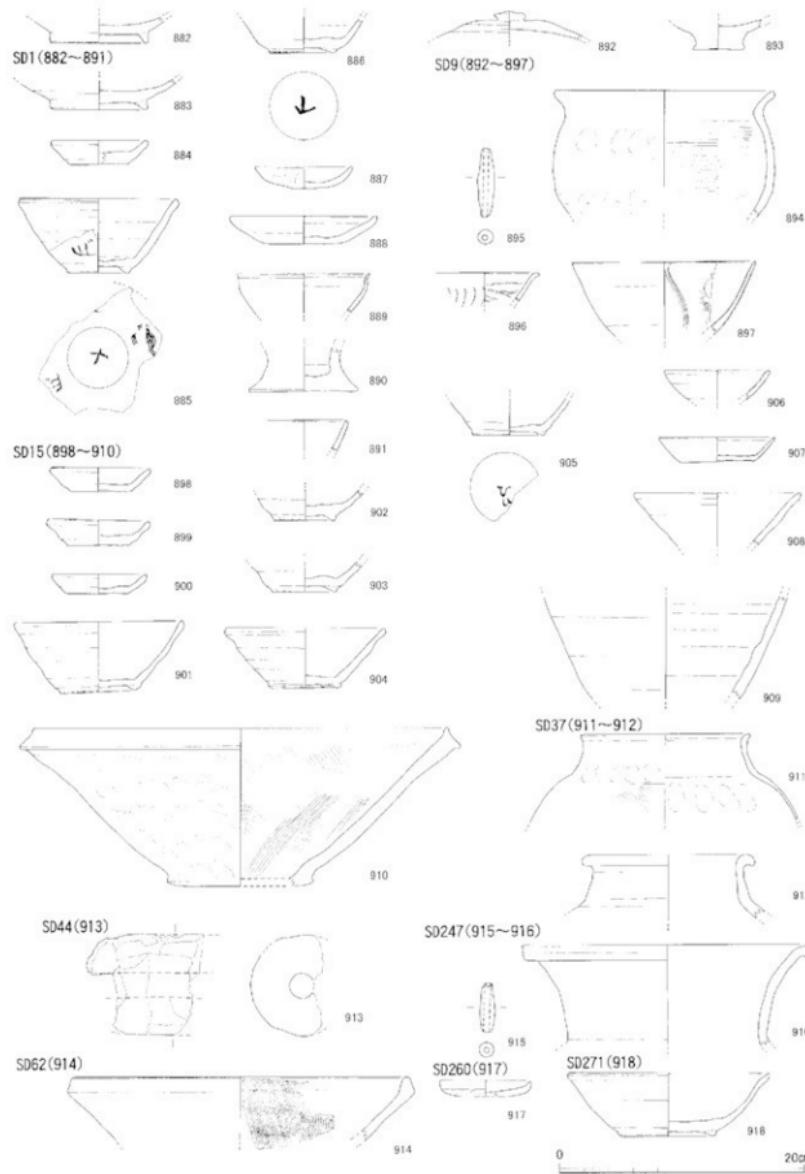
1155~1157はSD315から出土した。1155は尾張型第5型式、1156は尾張型第6型式の山茶椀。いずれも混入遺物と思われる。1157は古瀬戸後IV期新段階の天目茶椀。底部外面に「佛」の墨書がある。加工円板として転用されている。

SD22・31出土遺物 (919~969)

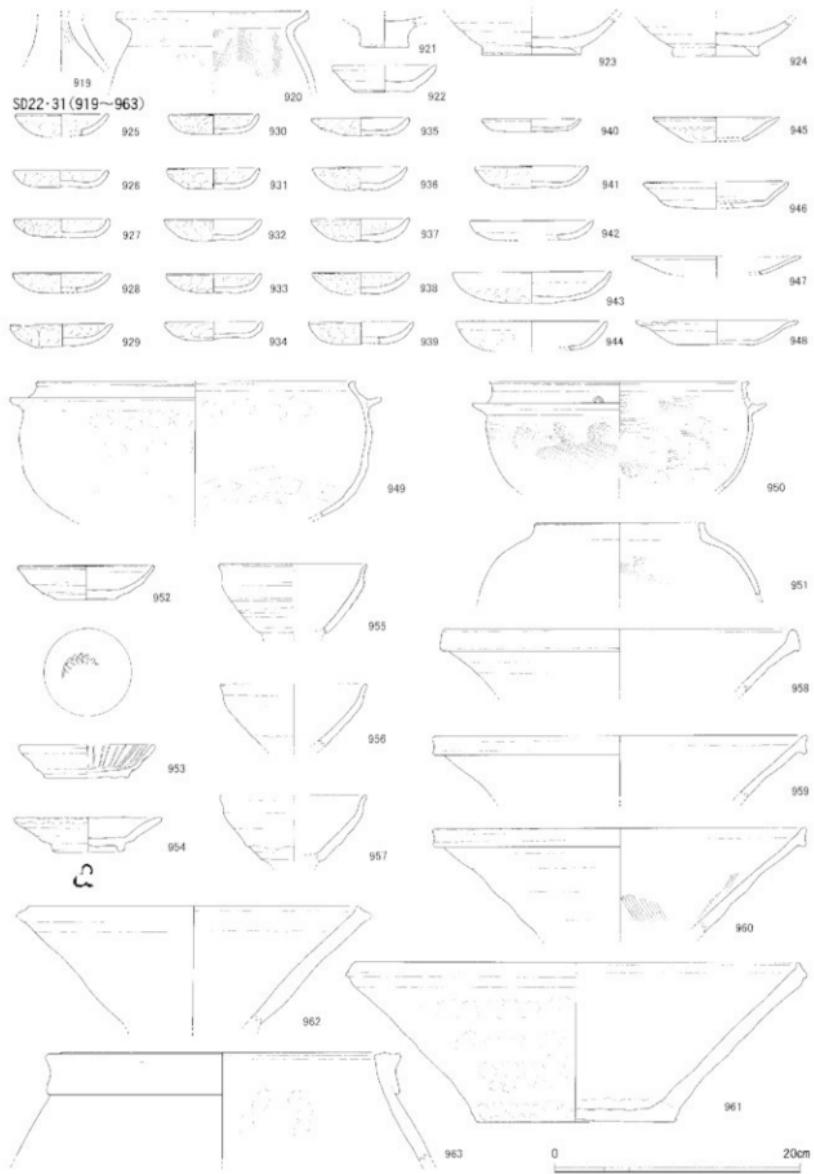
平行して掘削されたSD22・31から出土した遺物。遺構検出時には1条の溝としたが、掘削途中に2条の溝が重複していることがわかり、可能なものは遺物を分別した。混入遺物も多い。

混入遺物 (919~924) 919は土師器高杯の脚部。920は甕。古墳時代から古代のものと思われる。921は柱状高台のロクロ土師器。922は尾張型第6型式の陶器小皿。923・924は山茶椀。923は第3型式、924は渥美型第4型式のものである。

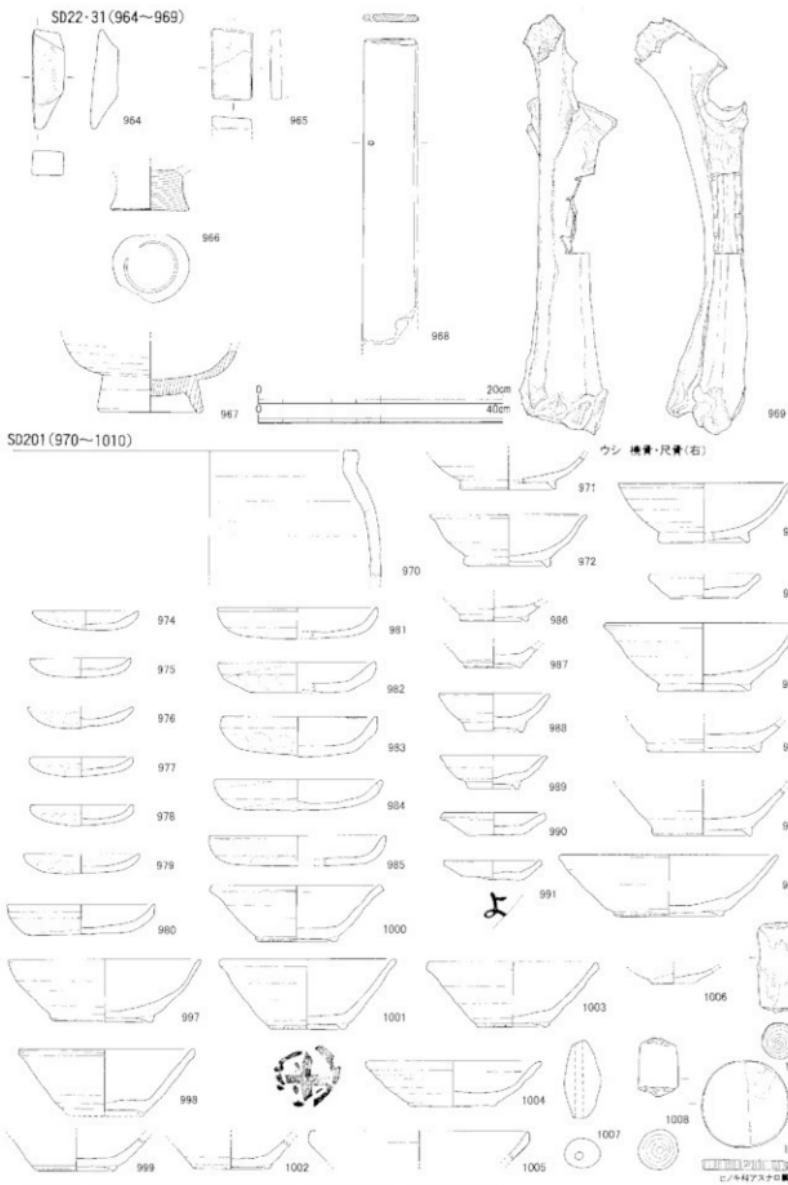
土師器 (925~951) 925~948は皿。丸く立ち上がり、口縁端部をヨコナデしない小皿(925~939)



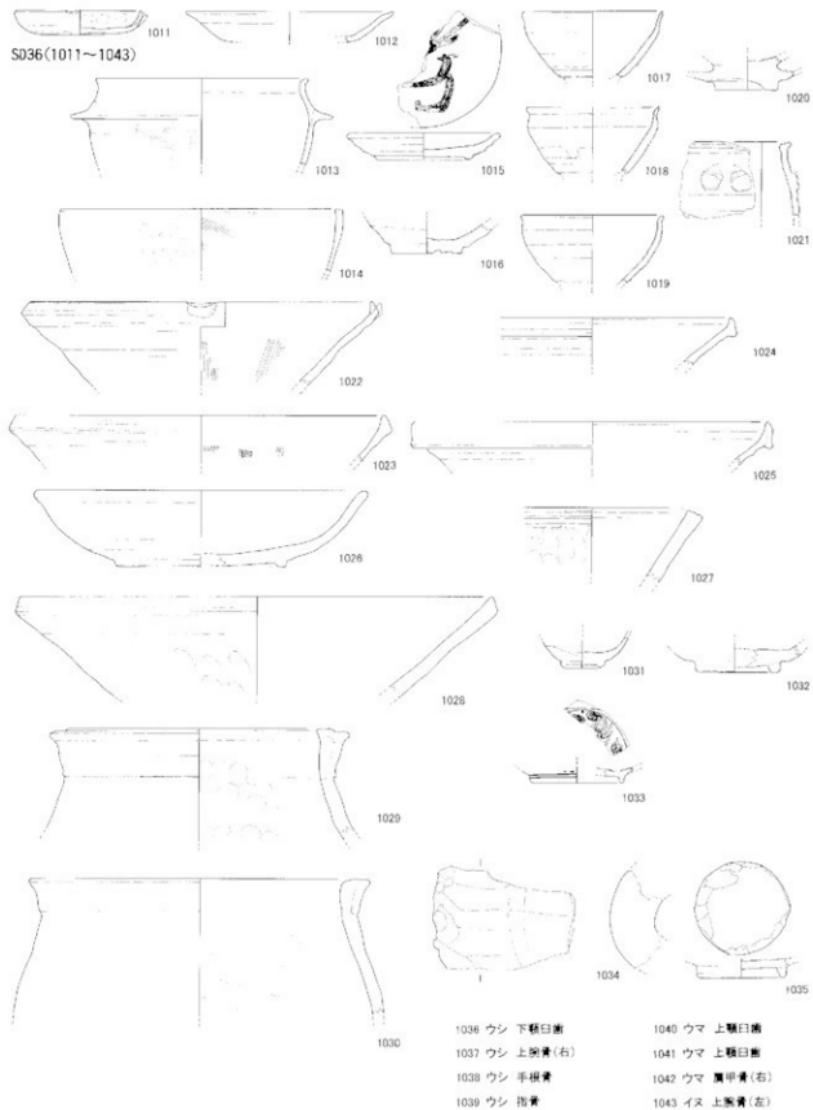
第115図 溝出土遺物実測図(1:4)



第116図 溝出土遺物実測図(1:4)



第117図 溝出土遺物実測図(964~1008・1010=1:4、1009=1:8)



0 20cm
第118図 大溝出土遺物実測図(1:4)

が主体を占める。他に立ち上がりが短いもの（940）、ゆるく立ち上がり、口縁端部にヨコナデが施されるもの（941～944）、直線的に立ち上がり、口縁端部のヨコナデが強いもの（945～948）がある。945～948は京都系土師器皿の影響を受けたものと思われる。

949～951は中北勢系の煮炊具。949は体部がやや扁平で、口縁端部の面取りが緩やかである。これに対して950の口縁端部は外側につまみ出される。951は茶釜。

陶器（952・953・955～963） 952・953、955～960は瀬戸美濃製品。952は尾張型第12型式の山茶椀。953は大窯第2段階前半の灰釉丸皿、955～957は天目茶椀。955・956は大窯第2段階、957は大窯第3段階前半のものである。958～960は擂鉢。958は大窯第3段階前半、959・960は大窯第2段階のものである。

961～963は常滑製品。961・962は片口鉢、961は第9型式、962は第11か12型式のものである。963は第11型式の甕。

磁器（954） 954は青磁の稜花皿。底部外面には朱描の花紋がある。割れ口には漆による補修痕跡がみられる。SK4出土の青磁稜花皿と接合できた。

石製品（964・965） いずれも細粒の砥石。

木製品（966～968） 966・967は漆器。966の高台は柱状になる。968は木札か。穿孔がみられる。

動物遺存体（969） 969はウシの橈骨・尺骨。第IV章に詳細を記す。

S.D.2.0.1出土遺物（970～1010）

中世Ⅲ期に埋没する溝からの出土遺物であるが、中世前期の遺物も多く出土している。ここでは中世前期以前の遺物は混入遺物として取り上げるが、溝の掘削が中世前期にさかのぼる可能性が高い。

970は須恵器。器種は不明である。971～973は灰釉陶器。971・973はO-53型式、972はH-72型式のものである。

974～985は土師器皿。大小の2法量がある。986～989は陶器小椀。尾張型第3型式（986）、混美型第4型式（987）、尾張型第4型式（988・989）のものがある。990～992は陶器小皿。尾張型第6型式（990・991）、尾張型第7型式（992）のもの

がある。991の底部外面には「上」の墨書がある。993～1003は山茶椀。尾張型第4型式（993）、第5型式（994～997）、第6型式（998～1002）、第7型式（1003）のものがある。1001の底部外面には「十」の墨書がある。1004はロクロ土師器の椀。1005・1006は白磁。1005は大型の椀か。1006は小皿。1007は土師質の土鍤である。

1008・1009は棒状の木製品。1010は円形の板。
S.D.3.6出土遺物（1011～1043、1114～1124）

S D 36・40・63は屋敷地を囲む一連の区画溝である。中世IV期とする時期（16世紀中葉～17世紀中葉）の末に埋没すると考えられる。

土師器（1011～1014） 1011・1012は皿。1011は丸く立ち上がる。1012は大ぶりで直線的に立ち上がり、口縁端部が外反する。京都系土師器皿の影響を受けたものと思われる。1013は中北勢系の羽釜。口縁端部の面取りがあまい。1014は尾張系の内耳鍋。

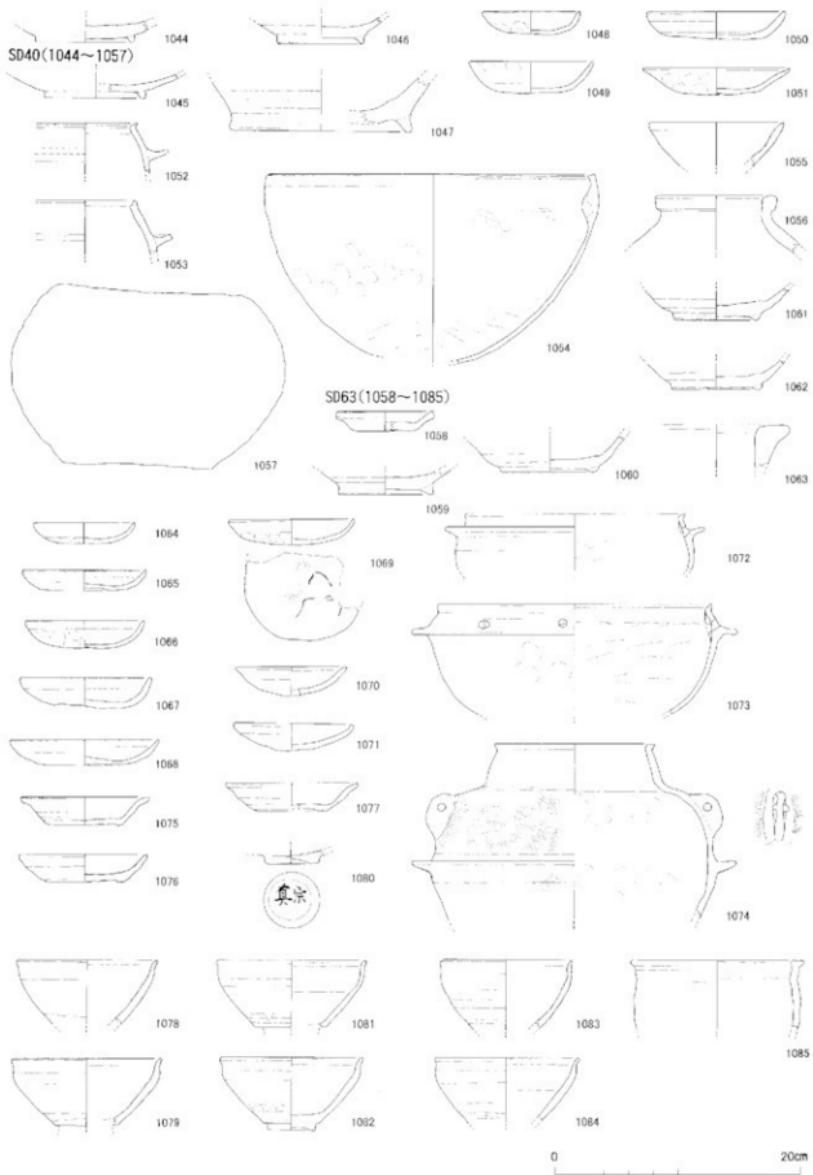
陶器（1015～1030） 1015～1026は瀬戸美濃製品。1015は登窯第2小期の鉄絵皿、1016は古瀬戸後IV期新段階の平椀である。1017～1019は天目茶椀。1017は大窯第1段階、1018は大窯第3段階前半、1019は大窯第3段階後半のものである。1020は古瀬戸後IV期新段階の仏龕具、1021は大窯第1段階の口広有耳壺である。1022～1025は擂鉢。1022・1023は古瀬戸後IV期新段階、1024は大窯第2段階、1025は大窯第3段階前半のものである。1026は登窯第1小期か2小期の大皿。瀬戸美濃製品では1015・1026あたりがSD36の最終時期のものであろう。

1027～1030は常滑製品。1027は第12型式、1028は第11型式か12型式の片口鉢、1029・1030は第12型式の甕である。

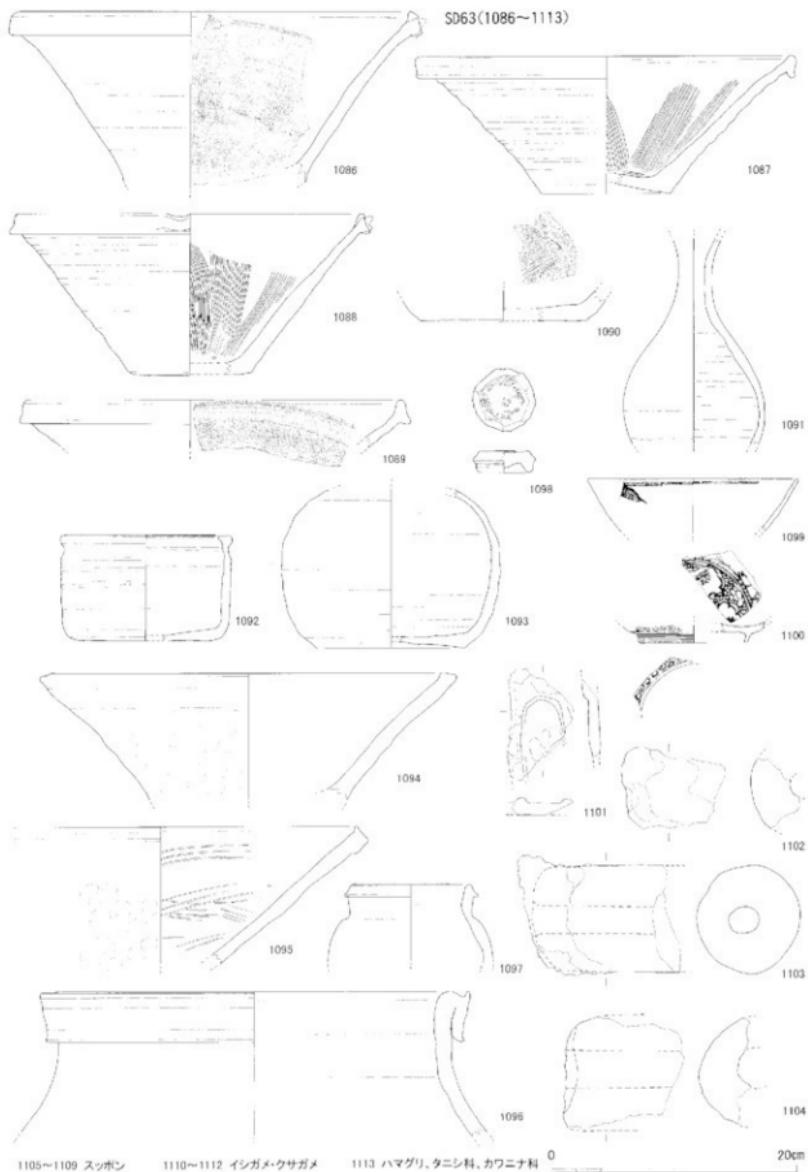
磁器（1031～1033） 1031は白磁の小型の椀、1032は龍泉窯系の青磁椀。底部の器壁が厚く、高台のけずりが浅い。1類のものと思われる。1033は染付の皿である。

土製品（1034・1035） 1034は輪の羽口、1035はH-72型式の灰釉を転用した加工円板。

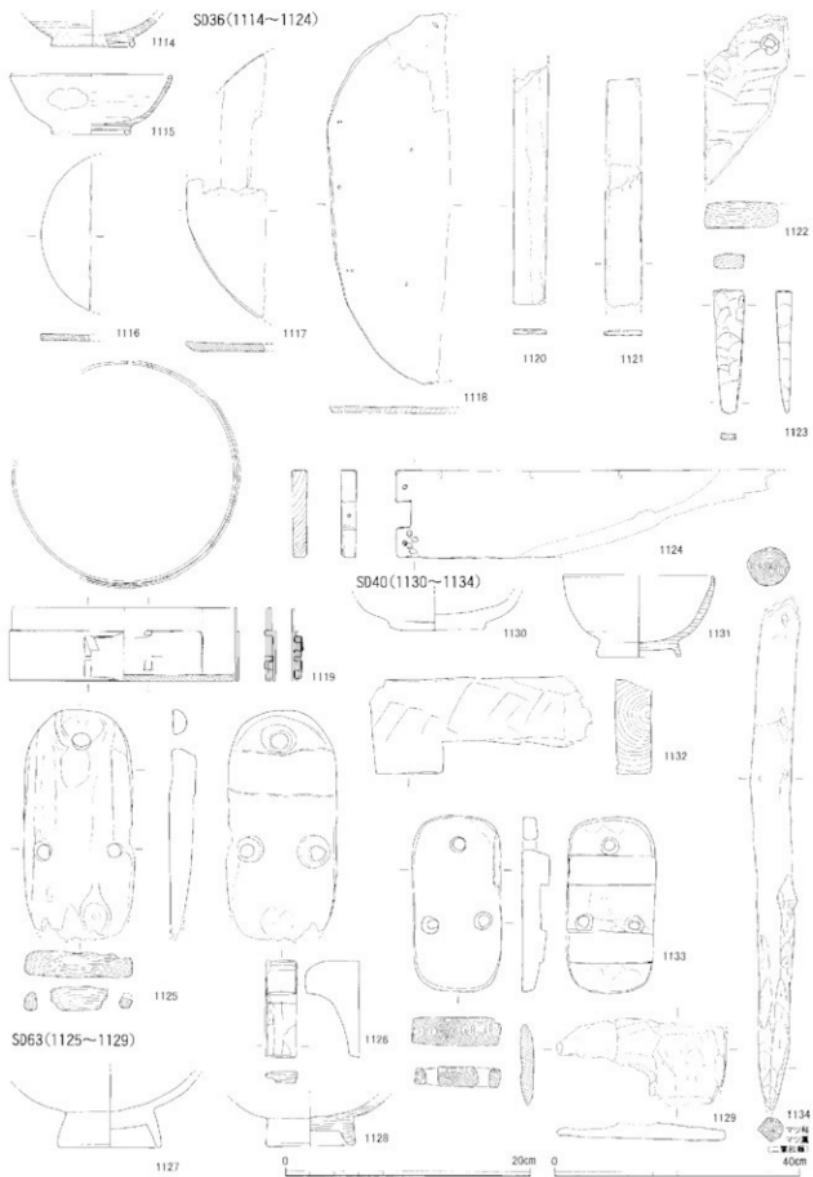
動物遺存体（1036～1043） 1036～1039はウシ、1040～1042はウマ、1043はイヌの骨である。第IV章に詳細を記す。



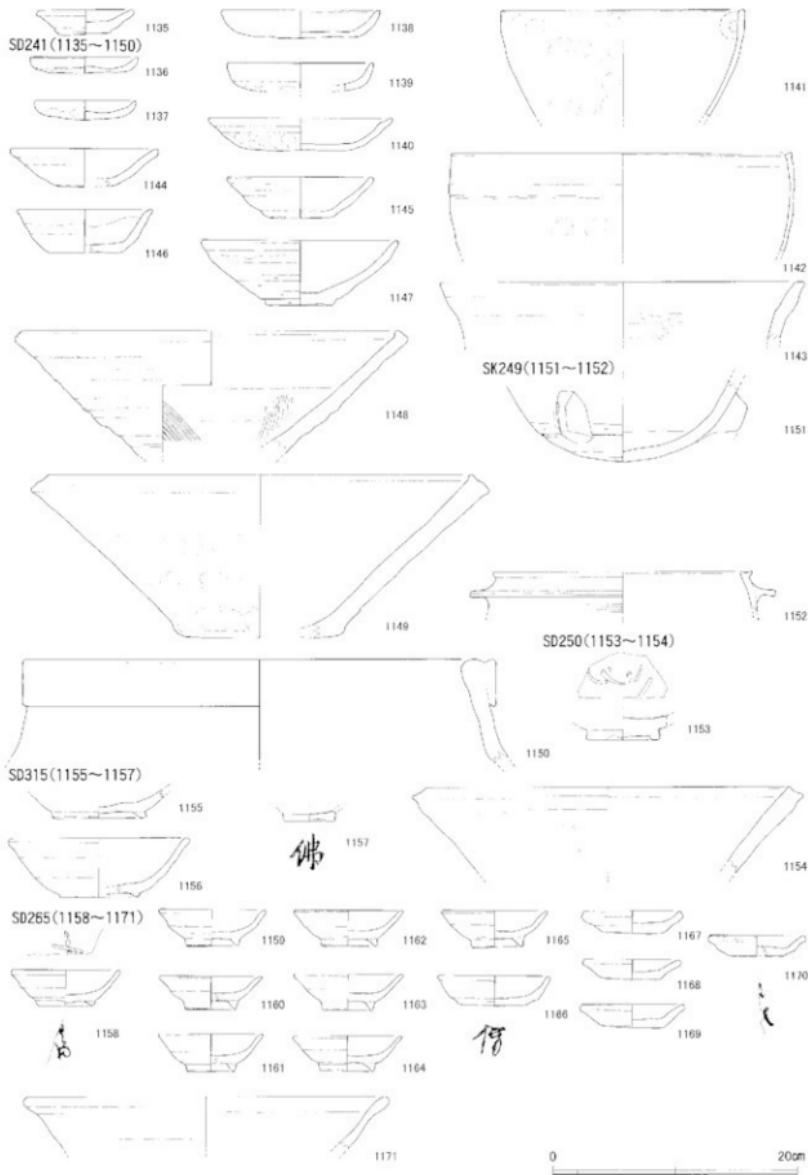
第119図 大溝出土遺物実測図(1:4)



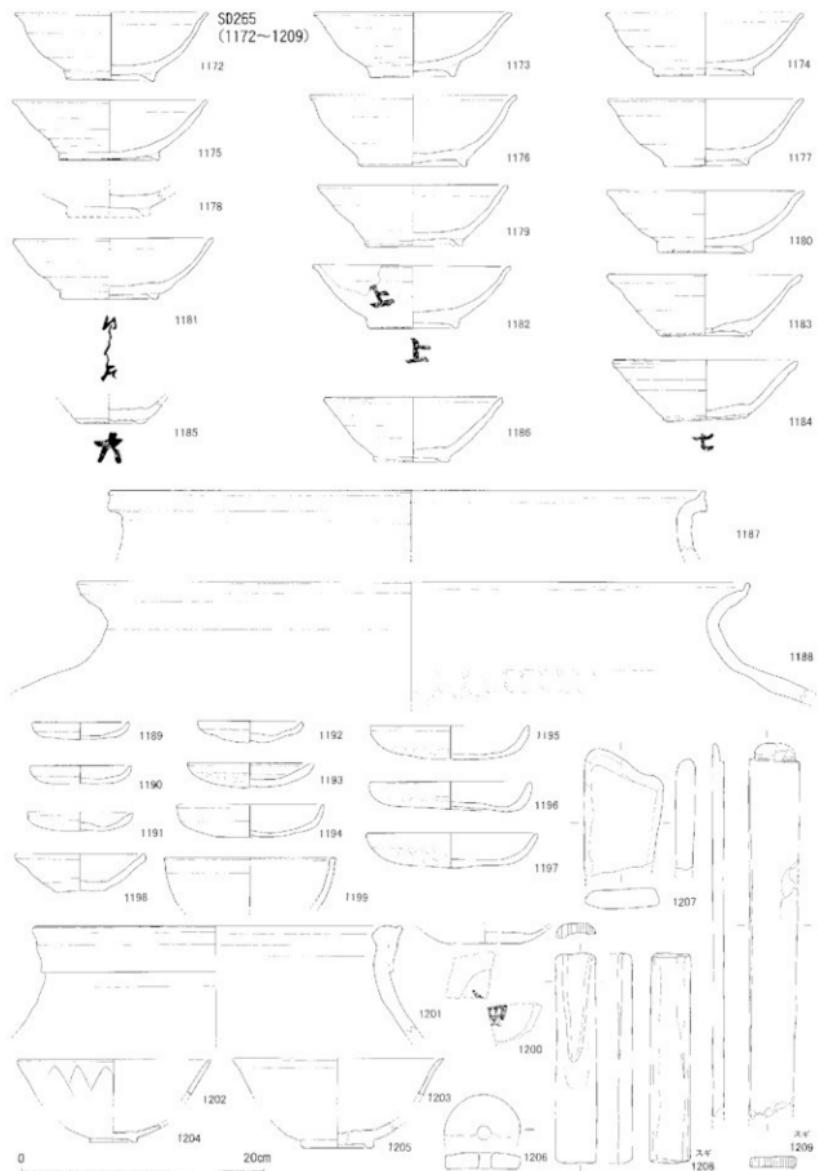
第120図 大溝出土遺物実測図(1:4)



第121図 大溝出土遺物実測図(1114~1133=1:4, 1134=1:8)



第122図 溝出土遺物実測図(1:4)



第123図 溝出土遺物実測図(1:4)

木製品（1114～1124） 1114・1115は漆椀。1115の外面には部分的に赤漆が塗られる。1116～1119は曲物、1120・1121は木札。1122は下駄の一部、1123は楔である。1124は板材。臍の部分に木釘が残る。

S D 4 Q 出土遺物（1044～1057）

混入遺物（1044～1047） 古代や中世前期の混入遺物が多い。1044はK-14型式の灰釉陶器の椀、1045は同型式の皿。1046は涅美型第5型式の山茶椀、1047は同型式の片口鉢。

土師器（1048～1054） 1048～1051は土師器皿。ゆるやかに立ち上がるるもの（1048～1050）、直線的に立ち上がるるもの（1051）がある。1051は京都系土師器皿の影響を受けたものか。1052・1053は中北勢系の羽釜。1052は口縁部が内窵し、口縁端部のヨコナデが強い。1053は器壁が厚く、鍔より上が長い。1054は尾張系の内耳鍋。ほぼ完形である。

陶器（1055・1056） 1055は瀬戸美濃古瀬戸後IV期古段階の仏龕具、SK43出土の仏龕具と接合できた。1056は常滑第10型式の玉縁口縁の壺。

石製品（1057） 1057は五輪塔の水輪。石材は花崗岩。ゆがみが大きい。

木製品（1130～1134） 1130は木製椀、1131は漆器椀。1132は加工のある板材。1133は小型の下駄、1134は杭。

S D 6 3 出土遺物（841・1058～1113・1125～1129）

混入遺物（1058～1063） 中世前期の混入遺物が多い。1058は陶器小皿で尾張型第6型式。1059～1062は山茶椀。涅美型第5型式（1059）、6型式（1060～1062）のもの。他には清郷型鍋（1063）がある。

土師器（1064～1074） 1064～1071は皿。1072～1074は中北勢系の煮炊具。1072・1073は口縁部が短く、口縁端部がつまみあげられる。1074は茶釜。

陶器（1075～1097） 1075～1093は瀬戸美濃製品。1075・1077は大窯第2段階の鉄釉稜皿、1076は大窯第4段階前半の灰釉丸皿。1078～1084は天目茶椀。1078は大窯第1段階、1079～1081は大窯第2段階、1082は大窯第2段階後半、1083～1084は大窯第3段階後半のものである。1085は大窯第1段階

の口広有耳壺。1080の底部外面には「宗真」の墨書きがある。

1086～1090は擂鉢。1086～1088は大窯第3段階前半、1089は大窯第3段階後半のものである。1091は大窯第3段階か4段階の徳利、1092は大窯第3段階前半の水指、1093は古瀬戸後IV期新段階の瓶。

841・1094～1097は常滑製品。841・1094・1095は第11か12型式の片口鉢。1095の内面には横方向の櫛目がある。1096は第10型式の甕、1097は第12型式の壺。

磁器（1098～1100） 1098は青磁椀。内面に花文がある。1099は染付の椀、1100は染付の皿。

石製品（1101） 1101は石製の硯。大型の硯の破片を再利用したものか。

土製品（1102～1104） いずれも輪の羽口。1104の片面には鉛物が付着する。

動物遺存体（1105～1113） 1105～1109はスッポン、1110～1112はヌマガメ科、1113はハマグリ。第IV章に詳細を述べる。

木製品（1125～1129） 1125は下駄。1126・1129には加工があるが用途は不明。1127・1128は漆器椀。

S D 2 4 1 出土遺物（1135～1150）

混入遺物（1135～1139） 中世IV期に埋没する溝から出土した遺物。中世前期の混入遺物も多い。1135は陶器小皿。1136～1139は中世前期の土師器皿。

土師器（1140～1142） 1140～1150が中世後期の遺物である。1140～1142は土師器。1140は中世後期の皿。口縁端部に強いヨコナデが施される。1141・1142は尾張系の内耳鍋。

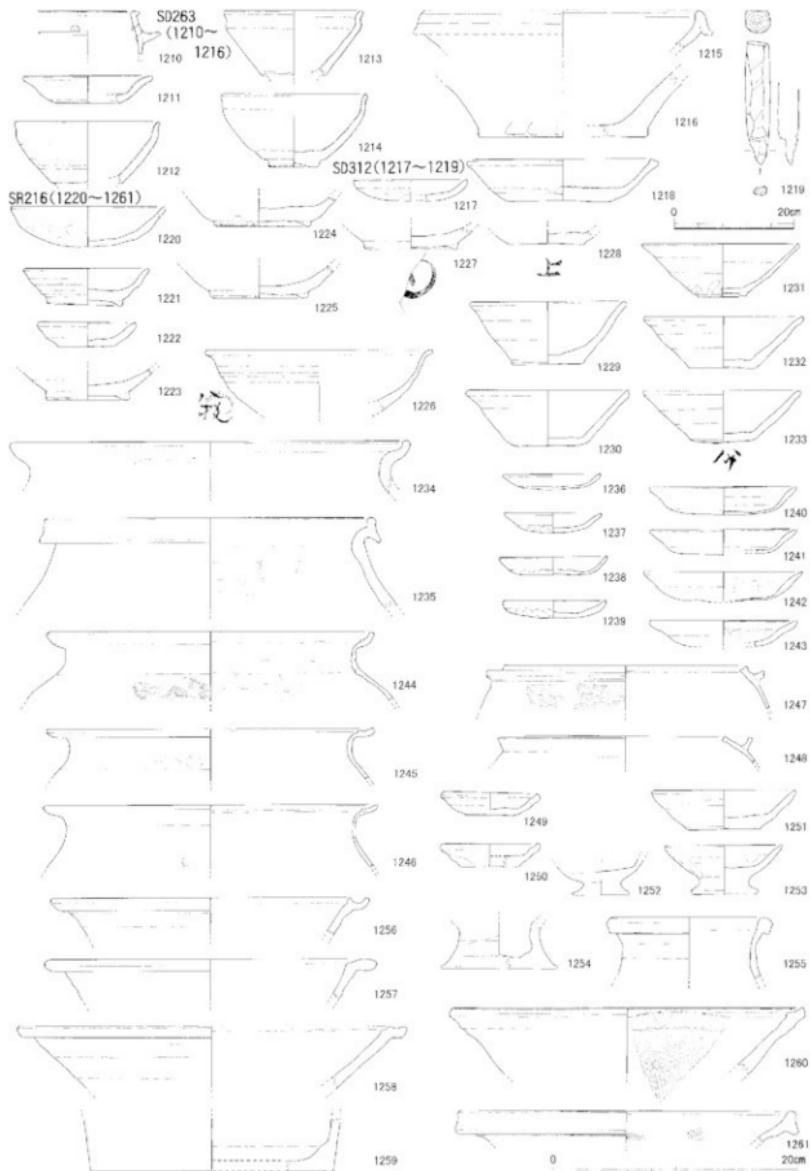
瓦質土器（1143） 1点のみある。口縁部が外に大きく開く。

陶器（1144～1150） 1144～1148は瀬戸美濃製品。1144・1145は尾張型第12型式の山茶椀。1145の内面底部には炭化物が付着する。1146は古瀬戸後II期の縁釉小皿、1147は古瀬戸後IV期新段階の平椀。1148古瀬戸後IV期新段階の擂鉢。

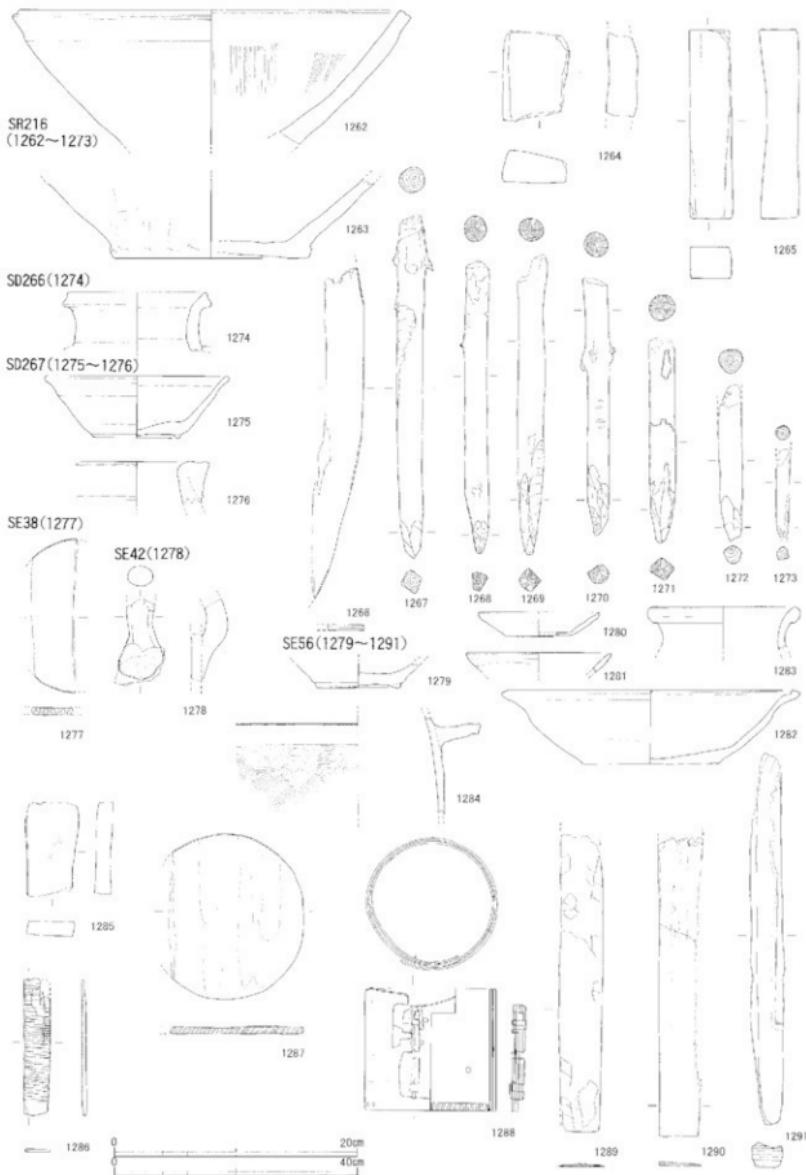
1149・1150は常滑製品。1149は第10型式の片口鉢、1150も第10型式の甕である。

S D 2 6 5 出土遺物（1158～1209）

混入遺物（1158～1188） 中世IV期に埋没する溝



第124図 溝・流路出土遺物実測図(1:4)



第125図 流路・溝・井戸出土遺物実測図(1262~1266・1274~1291=1:4、1267~1273=1:8)

S D 265から出土した遺物である。中世前期のものが多く、溝の掘削は中世前期に遡る可能性が高い。

1158～1165は陶器の小椀。1158・1159は渥美型第4型式、1160～1165は尾張型第4型式のものである。1158の底部外面の墨書は、1181の底部外面と同じ内容で、明瞭であるが判読が困難である。「くらう殿」とも読めるが、現時点では断定できない。1166～1170は陶器小皿。1166は渥美型第5型式、1167～1170は尾張型第6型式のものである。1166の底部外面には「蟹」、1170の底部外面にも墨書があるが、欠損のため判読できない。1171は尾張型第6型式の片口鉢。

1172～1186は山茶椀。1172は尾張型第3型式、1173～1177は尾張型第4型式、1178渥美型第5型式、1179～1182は尾張型第5型式、1183・1184は尾張型第6型式、1185・1186は尾張型第7型式のものである。1181の底部外面の墨書については前述のとおり。1182の体部と底部の外面には「上」、1184の底部外面には「七」、1185の底部外面には「大」か「六」の墨書がある。

1187・1188は常滑製品の甕。1187は第5型式、1188は第1b型式のものである。

土師器（1189～1197） 図示した土師器は皿のみである。このうち1189・1194～1197は中世前期のものである可能性がある。

陶器（1198～1201） 1198～1200は瀬戸美濃製品。1198は尾張型第12型式の山茶椀、1199は古瀬戸後I期かII期の灰釉鉢。1200は古瀬戸後I期の縁袖小皿である。底部に墨書があるが欠損のため判読できない。1201は第10型式新相の常滑製品の甕。

磁器（1202～1205） 1202・1203・1205は青磁の椀。いずれも龍泉窯系のものか。1202は蓮弁文がある。1204は白磁の皿。

土製品（1206） 1206は中央に孔がある円板。常滑製品を研磨して作られている。

石製品（1207） 1207は砥石。板状の石材が使われている。

木製品（1208・1209） 1208は鞘、1209は木札か。
S D 2 6 3 出土遺物（1210～1216）

1210は中北勢系の土師器羽釜。口縁端部が外側につまみ出される。穿孔がある。1211～1215は瀬戸

美濃製品。1211は大窯第2段階の鉄釉稜皿。1212～1214は天目茶碗。1212は大窯第1段階後半、1213は大窯第2段階後半、1214は大窯第3段階前半のものである。1215は大窯第3段階後半の擂鉢。1216は常滑製品の片口鉢。

S D 3 1 2 出土遺物（1217～1219）

1217は土師器の皿。1218は古瀬戸後I期の鉢皿。1219は杭である。

⑥流路出土遺物（1220～1276）

S R 2 1 6 出土遺物（1220～1273）

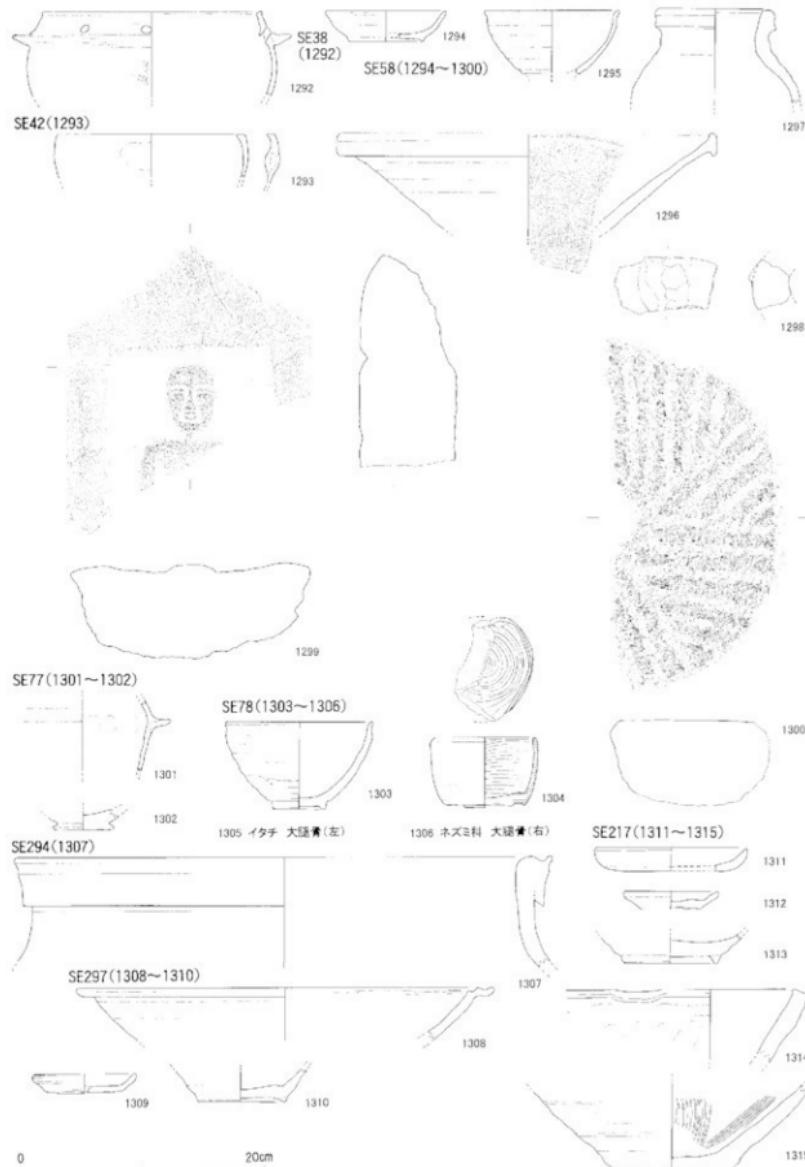
近世に埋没する流路出土の遺物。出土遺物の幅が広く、古代・中世・近世を通じて流れていたと考えられる。

土師器 1220は古代の杯。胎土が精良である。1236～1243は土師器皿。1237～1238は器壁が薄い小皿。1240～1243は器壁が薄く、直線的に立ち上がる。口縁部のヨコナデが強い。京都系の影響を受けたものと思われる。1239は中世前期の小皿。

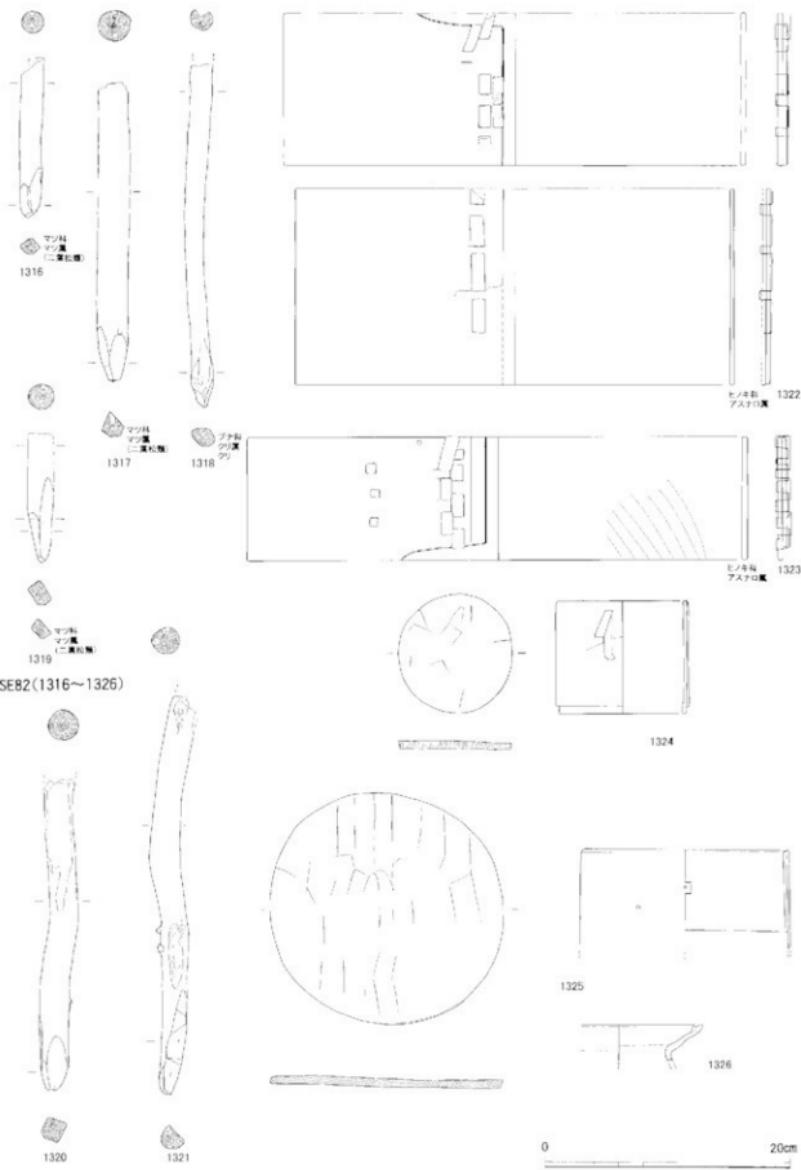
1244～1246は南伊勢系の土師器鍋。1244・1245は第3段階併行期、1246は第2～第3段階併行期のものと思われる。1247・1248は中北勢系の羽釜。南伊勢系の影響を非常に強く受け製作された一群の可能性がある。

陶器 1221は陶器の小椀。尾張型第3型式のものである。1222は陶器の小皿。尾張型第6型式のものである。1223～1233は山茶椀。尾張型第5型式（1223・1224・1227）、渥美型第5型式（1225・1226）、尾張型第6型式（1228・1229）、尾張型第9型式（1230）、尾張型第10型式（1232・1233）、東濃型大烟大洞新段階（1231）のものがある。1226の体部外面には「八枚」と花押、1227の底部外面には円と点の、1228の底部外面には「上」の、1233の底部外面には「丙」？の墨書がある。1234・1235は常滑製品。1234は第4型式、1235は第6a型式の甕である。

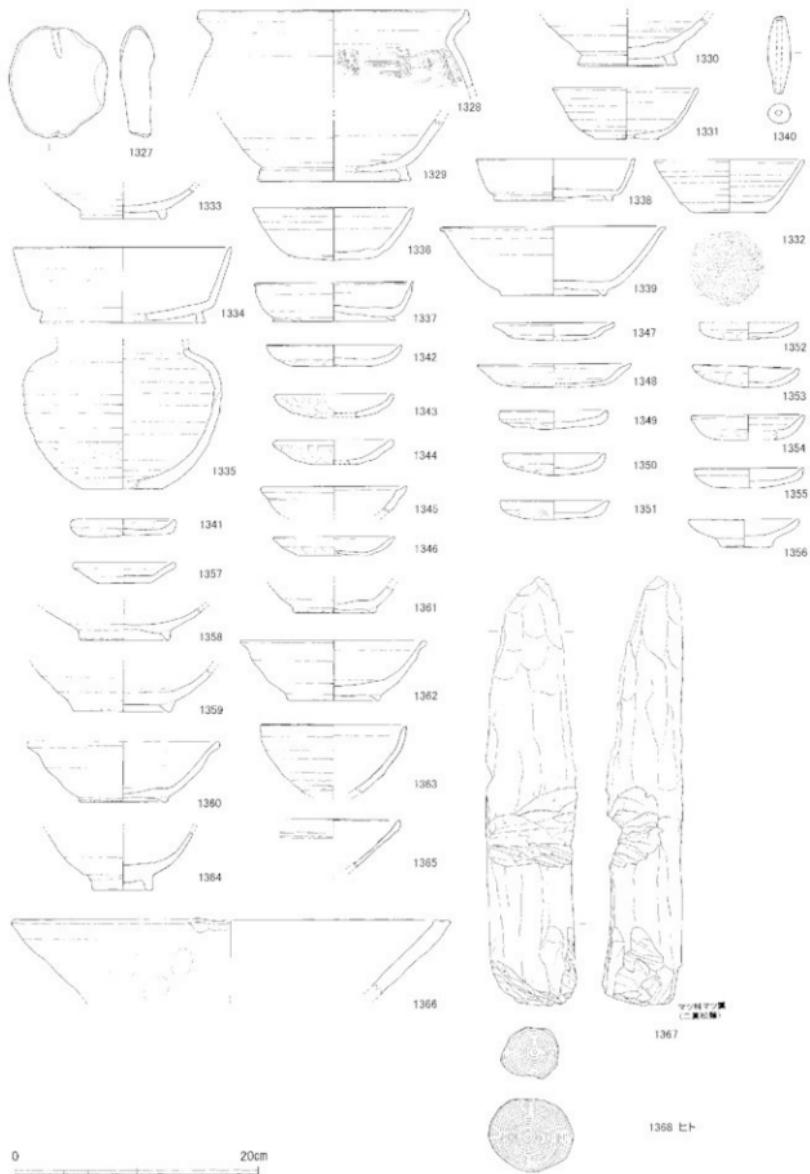
1249～1261は瀬戸美濃製品。1249・1250は古瀬戸後II期の折縁小皿、1251は古瀬戸後I期の縁袖小皿、1252・1253は仏供。1252は古瀬戸中I期かII期、1253は古瀬戸後III期かII期古段階のものである。1254は古瀬戸後I期かII期の尊式花瓶、1255は古瀬戸後III期かIV期古段階の灰釉四耳壺である。



第126図 井戸出土遺物実測図(1:4)



第127図 井戸出土遺物実測図(1:4)



第128図 柱穴・小穴出土遺物実測図(1:4)

1256は尾張型第10型式の片口鉢。1257・1258は折縁深皿。1257は古瀬戸後I期、1258は古瀬戸後II期のものである。1259は古瀬戸後I期かII期の大筒形容器。1260・1261は擂鉢。1260は古瀬戸後IV期新段階、1261は大窯第3段階後半のものである。

1262・1263は常滑製品。1262は第9型式の片口鉢、内面にハケメがある。1263は第6型式か第7型式の甕である。

石製品 1264・1265は砥石。1264の石材は凝灰岩、1265の石材は泥質凝灰岩である。

木製品 板材(1266)、杭(1267~1273)がある。

この他、S.R216と同一の造構と考えられるSD_266からは第5型式の常滑製品の甕(1274)が、SD_267からは尾張型第6型式の山茶椀(1275)、第10型式の常滑製品の甕(1276)が出土している。

⑦井戸出土遺物(1277~1326)

1277・1292はSE_38から出土した。1277は曲物の底板。1292は中北勢系の土師器羽釜。焼成前の穿孔がある。1278・1293はSE_42から出土した。古瀬戸後II期の桶の把手。1293は尾張系の内耳鍋。

1301・1302はSE_77から出土した。1301は中北勢系の土師器茶釜、1302は古瀬戸後IV期古段階の仏供。1303~1306はSE_78から出土した。1303は大窯第1段階の天目茶椀、1304は漆器椀。1304の内面には挽き痕が観察できる。1305・1306は動物遺存体。1305はイタチの大腿骨、1306はネズミ科の一種の大軸骨である。

1307はSE_294から出土した第9型式の常滑製品の甕。1308~1310はSE_297から出土した。1308は古瀬戸後II期の折縁深皿。1309・1310は尾張型第6型式の小皿と山茶椀。

1311~1315はSE_217から出土した。1311は中世前期の土師器皿、1312は尾張型第7型式の陶器小皿、1313は渥美型第5型式の山茶椀である。1314は第9型式の常滑製品の片口鉢、1315は古瀬戸後IV期新段階の擂鉢。

以下、比較的まとまっている井戸出土の遺物について記述する。

⑧SE_5_6出土遺物(1279~1291)

15世紀中葉に埋没する井戸SE_56から出土した遺物である。

土器類(1279~1284) 1279は尾張型第5型式の山茶椀、1280は土師器の小皿。直線的に立ち上り口縁部のヨコナデが強い。京都系の影響を受けたものと思われる。1281は古瀬戸後III期の縁軸小皿、1282は古瀬戸中IV期の折縁深皿。1283は第6a型式の常滑製品の甕。口縁部が玉縁状のものである。1284は南伊勢系の大型の羽釜。

石製品(1285) 1285は砥石。側面には細い溝状の擦痕がある。

木製品(1286~1291) 1286は漆器。片面に細く、直線的な溝が彫られ、漆が塗られている。1287・1288は曲物。1289・1290は板材、1291は部材。井戸の部材かどうかは不明である。

⑨SE_5_8出土遺物(1294~1300)

16世紀後葉に埋没する井戸SE_58から出土した遺物である。土器類は少ない。

土器類(1294~1297) 1294~1296は瀬戸美濃製品。1294は大窯第2段階の灰丸皿、1295は古瀬戸後IV期新段階の天目茶椀、1296は大窯第3段階後半の擂鉢である。1297は第11型式の常滑製品の甕である。

土製品(1298) 1298は輪の羽口。外面に鉛滓が付着する。

石製品(1299・1300) 1299は石仏。石材は緑色の砂岩である。上部が三角形で、前面を丁寧に仕上げ長方形の窓をあけ、仏を陽刻し、線で顔が彫られる。1300は花崗岩製の石臼。

⑩SE_8_2出土遺物(1316~1326)

木製品(1316~1325) 1316~1321は井戸の構築時に掘形外側に向けて打ち込まれた杭。直径2~3cmのしっかりしたものである。樹種は1316・1317・1319がマツ科マツ属、1318がブナ科クリ属クリである。1322~1325は曲物。側面が残っているものは、ケビキ痕が不明瞭なものが多い。

土器類(1326) 図示できた土器類は1326の南伊勢系の土師器鍋のみである。第3段階の範疇に含まれるものと考えられる。

⑪柱穴出土遺物(666・1327~1368・1705)

建物としてまとまらなかった柱穴や小穴から出土した遺物である。縄文時代から中世後期までのものを含む。

縄文時代（1327） 1327は切目石錘。縄文時代のものか。

古代（1328～1339） 1328は土師器の長胴甕。頸部が「く」字状に屈曲しあまり肥厚せずに口縁部にいたる。

1329・1330は須恵器の瓶類。1331・1332・1336は高台を持たない須恵器の杯。1331は9世紀前半代のものと思われる。1334・1337・1338は高台を持つ杯。1334は猿投産の8世紀後半のもの、1337は8世紀後半～9世紀初頭のもの、1338は美濃須衛産8世紀末～9世紀前半のものである。1335は須恵器の短頸甕。

灰釉陶器には皿（1333）と椀（1339）がある。1333はH-72型式、1339はK-14型式のものである。

中世（1341～1366・1705） 1341～1355は土師器の皿。1341・1349～1352・1355は中世前期、

1342～1348・1353・1354は中世後期のものである。1356はロクロ土師器の皿。

陶器には小皿（1357）、山茶椀（1358～1362）、瀬戸美濃製品（666・1363）、常滑製品（1366）がある。1357は尾張型第6型式、1358は尾張型第3型式、1359・1360・1362は尾張型第5型式、1361は尾張型第6型式のものである。666は大窯第一段階の播鉢、1363は古瀬戸後IV期古段階の天目茶椀。1366は第8型式の片口鉢。

磁器には青磁椀（1364）と白磁椀（1365）がある。1364の高台内、内面底部は無釉である。1365は器壁が薄く、口縁部が小さな玉縁になる椀。II類のものと思われる。

金属製品には小刀（1705）がある。ほぼ完形である。

その他、時期不明であるが、土錘（1340）、柱（1367）、人骨（1368）がある。
(竹田)

【参考文献】

中世の出土遺物の器種・型式・分類、年代観は下記の文献による。なお、古代の遺物の型式・分類・年代観については第3節に上げた。

※中北勢系土師器=伊藤裕偉「中世後期の中北勢系土師器群に関する発見」『研究紀要』第8号、三重県埋蔵文化財センター、1999年)、同「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」(『鍋と甕、そのデザイン』東海考古学フォーラム、1996年)。

※南伊勢系土師器=伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」(『Mie history』vol.1、1990年)、同「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」(『鍋と甕、そのデザイン』東海考古学フォーラム、1996年)。

※山茶椀=藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」(『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター、1994年)

※瀬戸美濃産陶器=藤澤良祐「中世瀬戸窯の動態」(『財瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第5編、1997年)、

同「瀬戸美濃大窯製品の再検討」(『財瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10編、2002年)

※尾張系内耳鍋=鈴木正貴「東海地方の内耳鍋・羽付鍋・釜」(『鍋と甕、そのデザイン』東海考古学フォーラム、1996年)

※常滑産陶器=赤羽一郎・中野晴久「生産地における編年について」(永原慶二編『常滑焼と中世社会』小学館、1995年)。

※貿易陶磁=横田賢次郎・森田勉「太宰府出土の輸入陶磁器について」(『九州歴史資料館研究論集』4、1978年)、森田勉「14世紀から16世紀の白磁の分類と編年」(『貿易陶磁研究』第2号、1982年)、小野正嚴「15・16世紀の染付椀・皿の分類とその時代」(『貿易陶磁研究』第2号、1982年)、同「出土陶磁よりみた15・16世紀における画期的素描」(『MUSEUM』No.416、1985年)。

なお、藤澤良祐氏・中野晴久氏・伊藤裕偉氏には遺物を実見していただき、指導を受けた。

②墨書きのある土器については、榎村寛之氏・小林秀氏に実見していただき、指導を受けた。

③瀧川和也氏の御教示を得た。

【注】

- ①動物遺存体については、松井章氏・丸山真史氏に実見していただき、指導を受けた。

5 包含層出土の遺物

①縄文時代の遺物（1369～1437）

1369は浮線網状文土器の浅鉢で、口縁部が内弯する。^①女鳥羽川式か離山式かにあたる。1370は深鉢で、口縁部に一条の突帯がつく。

1371はサヌカイト製の凹基無茎様である。1372～1375はサヌカイト製の石錐で、断面三角形ないしは菱形の細身棒状のものと、摘み状の頭部を持ち長い錐部を持つものがある。1376～1383は楔形石器で、1376～1379・1382・1383の石材は下呂石、1380・1381はサヌカイトである。1384～1414は剥片である。1384～1387・1389・1391・1393～1395・1398・1404・1407・1409～1412・1414の石材はサヌカイト、1388・1390・1405・1406はハイアロクラスタイト、1392・1396・1397・1399～1402・1403・1408・1413は下呂石、1403・1406はチャートである。1384はR.F.、1385～1388はU.F.である。1388・1390は石斧が剥片化したものと考えられる。1389は両極打法によつて敲打されているので楔形石器であろう。1391は片面が原礎面である。

1415・1416は磨石で、1415の石材は凝灰質泥岩、1416は安山岩である。1417・1418は凝灰質砂岩製の敲石、1419は花崗岩製の磨石であろうか。1420は砂岩製の穀器である。1421はハイアロクラスタイト製の穀器で、両極から敲打があり楔形石器的に使用されたと思われる。1422は泥質石灰岩製の穀石であろうか。中心部がちょうど掴みやすい。1423・1424は槌石である。1423の石材は砂岩、1424は凝灰質砂岩製である。小型のものと大型のものがある。

1425はホルンフェルス製の打製石斧で、分銅形のものである。1426～1429は磨製石斧。1426の石材は蛇紋岩、1427は凝灰質砂岩、1428は砂岩、1429は塩基製岩製である。1426は小型品で両刃、1427は両刃で東海系に多い乳棒状である。1428は基部2/3が残存し、磨り面があり、磨製石斧を破損後敲石として転用した可能性がある。

1430～1433はハイアロクラスタイト製の石斧である。1430は石材と形状から磨製石斧の未製品であろうか。1431～1433は磨製石斧の未製品で、いず

れも調整剥離から敲打段階、1433は研磨段階までである。

1434はホルンフェルス製の磨製石斧か石棒の破片であろう。1435は緑色片岩製で、頭が屈曲し石棒の破片であろう。1436は緑色岩製の岩板、1437はホルンフェルス製の砥石であろうか、片面を使用している。

②古代の遺物（1439～1479）

土師器 1439は高杯、1440は暗文土師器皿である。1441～1446は甕で、1441は古代のものではないかもしない。1443・1446は外面口縁部を強く横ナデしている。1466・1468は椀であろうか。

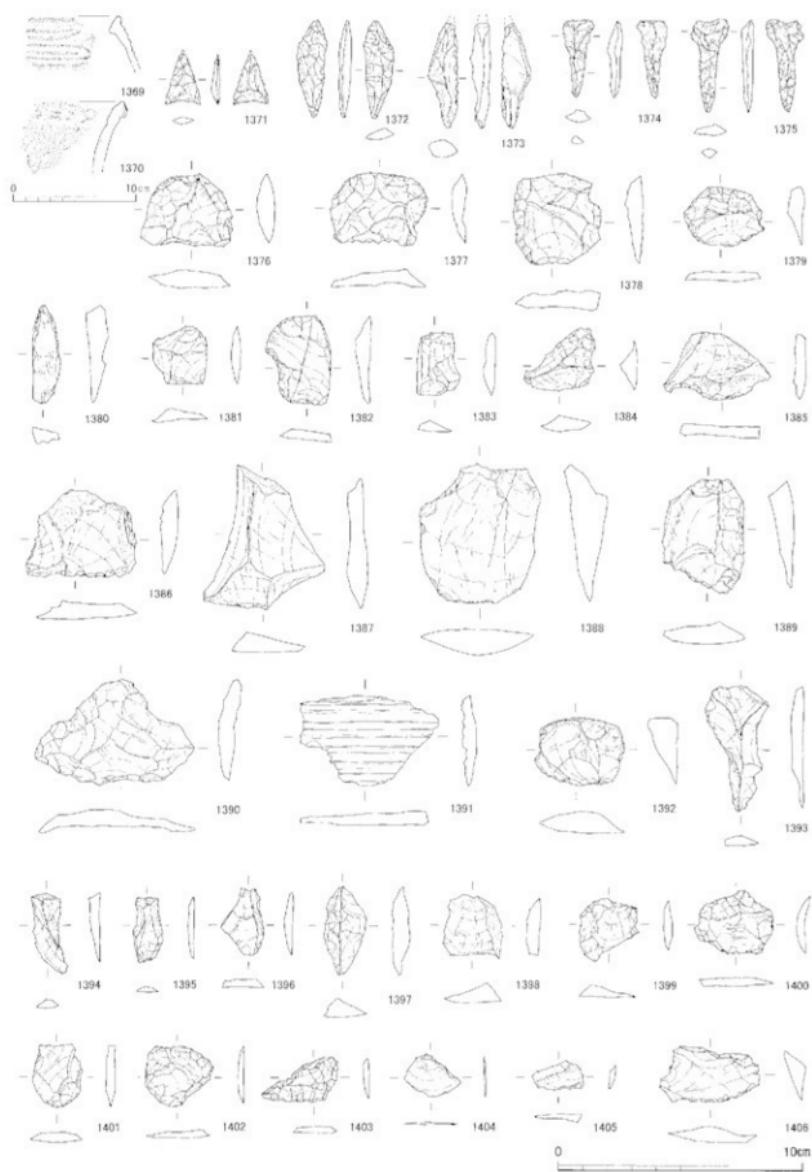
須恵器 1447・1448は高杯である。1447は有蓋で在地産の6世紀代、1448は7世紀のもの。1449～1452は杯蓋である。1449は猿投産で8世紀後半、1451の器形は美濃須衛産のものに似ているが、ぶ厚く胎土が異なるため在地産であろう。1453・1454は綠釉陶器皿、1455は綠釉陶器椀である。1456はクロコ土師器の椀であろうか。1457～1459は杯で、8世紀後半のもの。1460～1462は盤である。1460は7世紀頃であろうか、底部にヘラ記号がある。1461・1462は猿投産の8世紀後半のものである。1463～1465は杯で、いずれも器壁がぶ厚い。1463は8世紀前半のものである。1467は在地産の杯、1478は短須恵であろうか。1479は円面鏡で外面から内面へ透かしが作られている。

灰釉陶器 1469～1471は皿で、1469・1470はO-53型式、1471はK-14型式である。1472～1476は椀である。1472・1473はK-14型式、1474はK-90型式、1475・1476はO-53型式である。1473は底部に墨書があり、花押であろうか。1476も底部に墨書がある。1477はK-90型式の水注である。

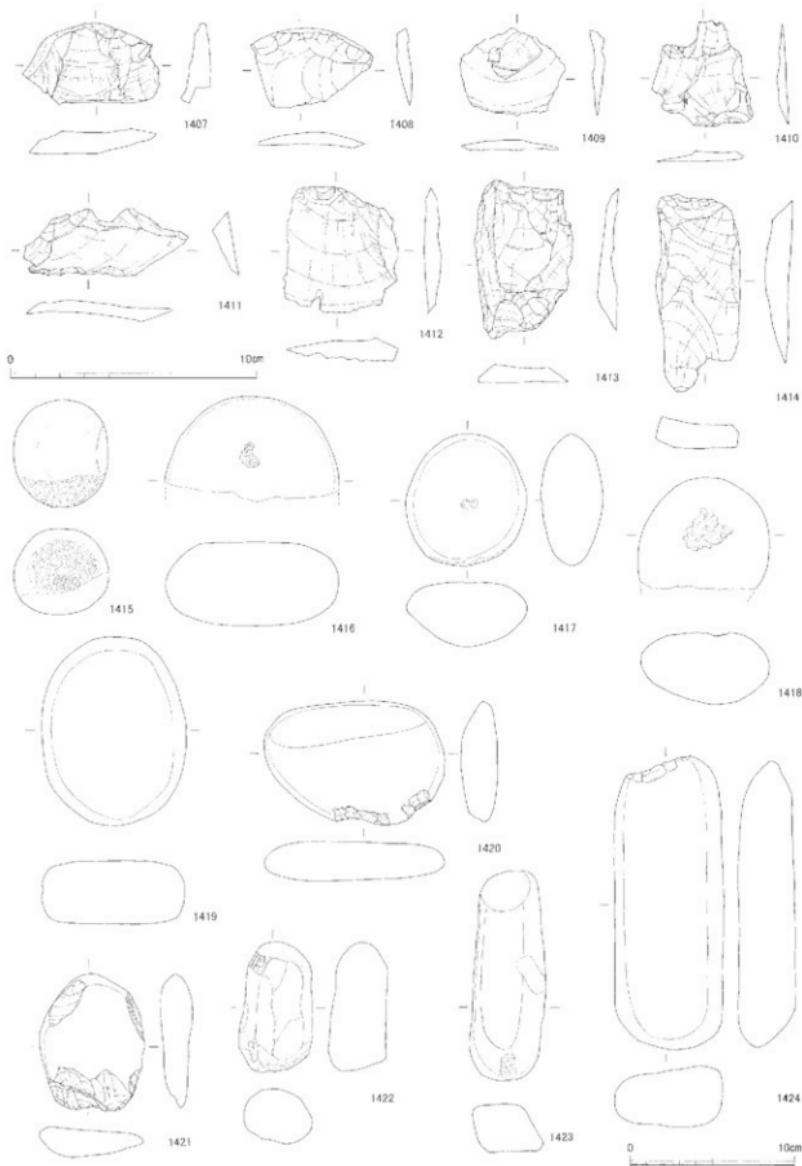
③中世の遺物（1480～1704）

土師器 皿（1481～1526）はほとんどが中世前期のものである。中世後期のものは1482・1483・1486・1501～1506あたりか。特に1505・1506は京都系土師器の影響を受けたものと思われる。

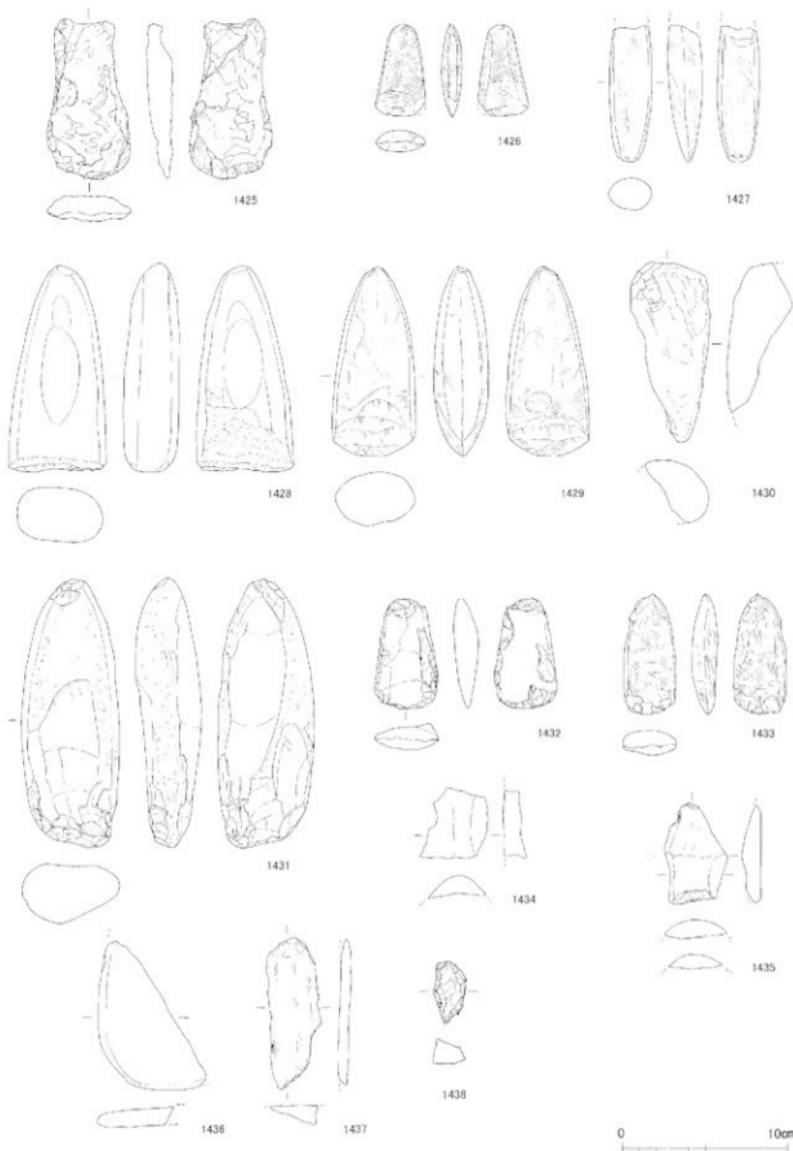
1527・1528は小椀のようなものになるか。1528



第129図 包含層出土遺物実測図(1369・1370=1:4, 1371~1406=1:2)

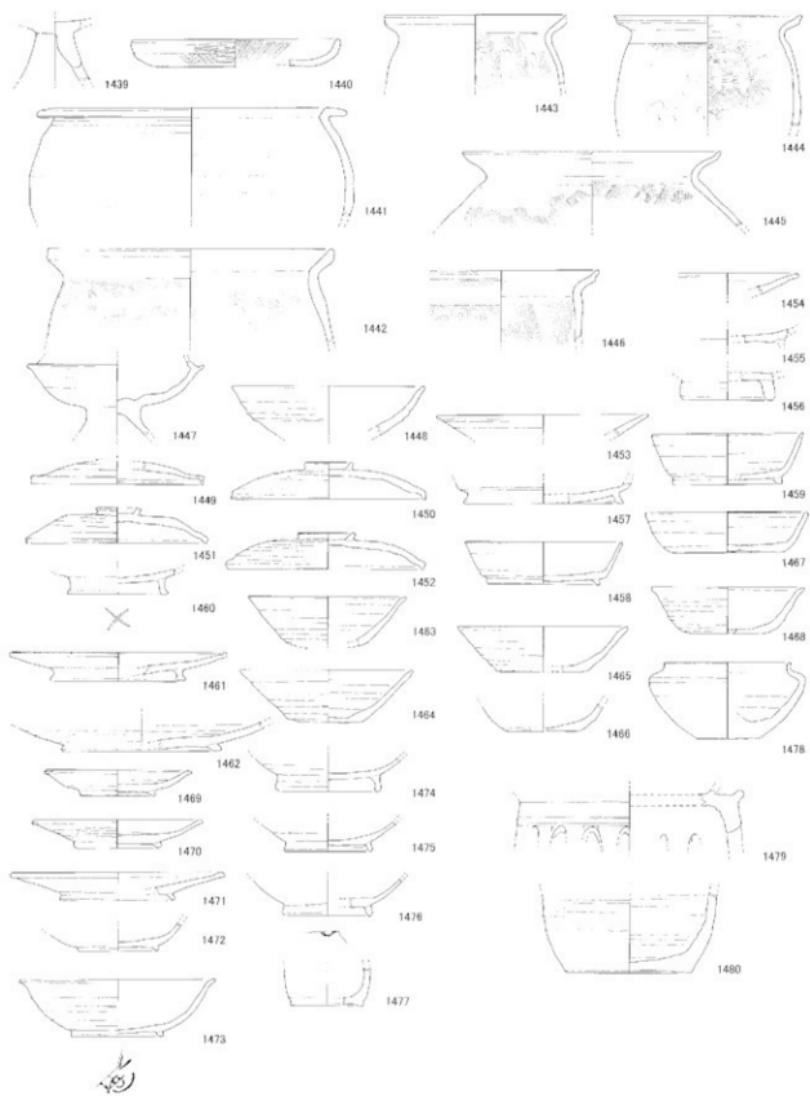


第130図 包含層出土遺物実測図(1407~1414=1:2, 1415~1424=1:3)



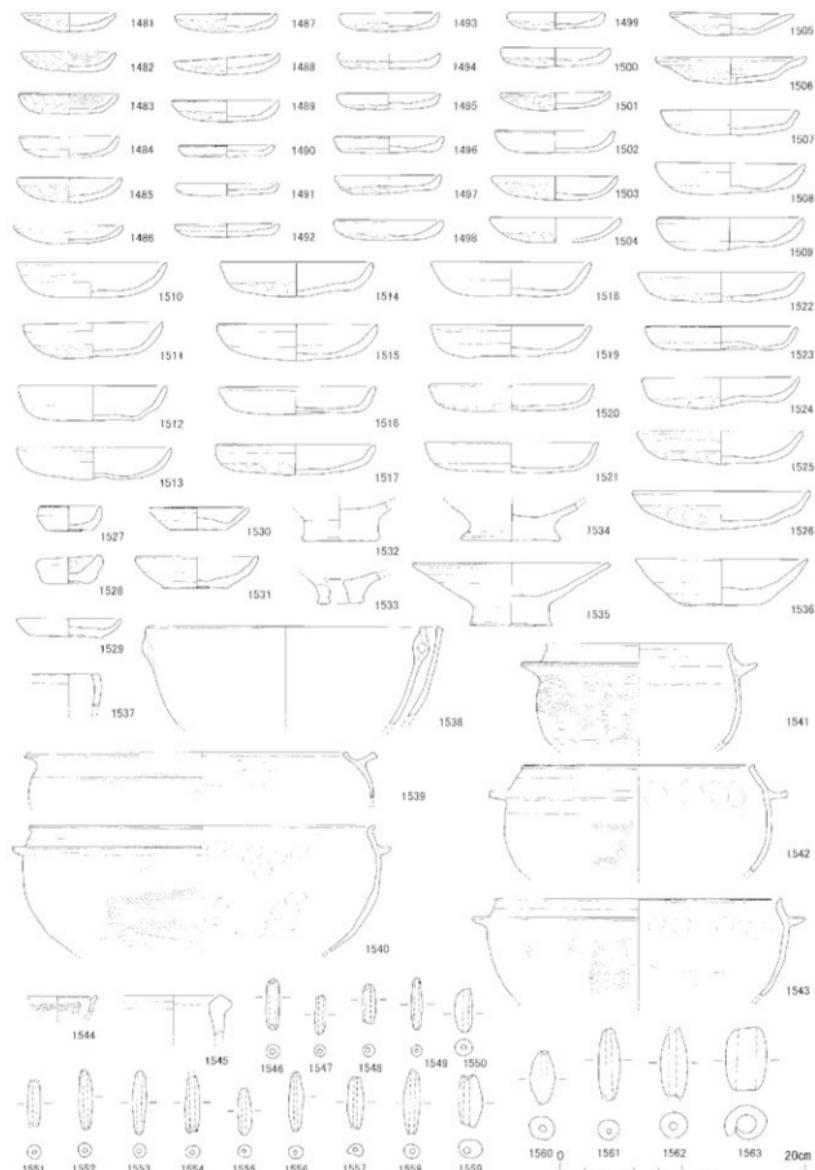
第131図 包含層出土遺物実測図(1:3)

0 10cm

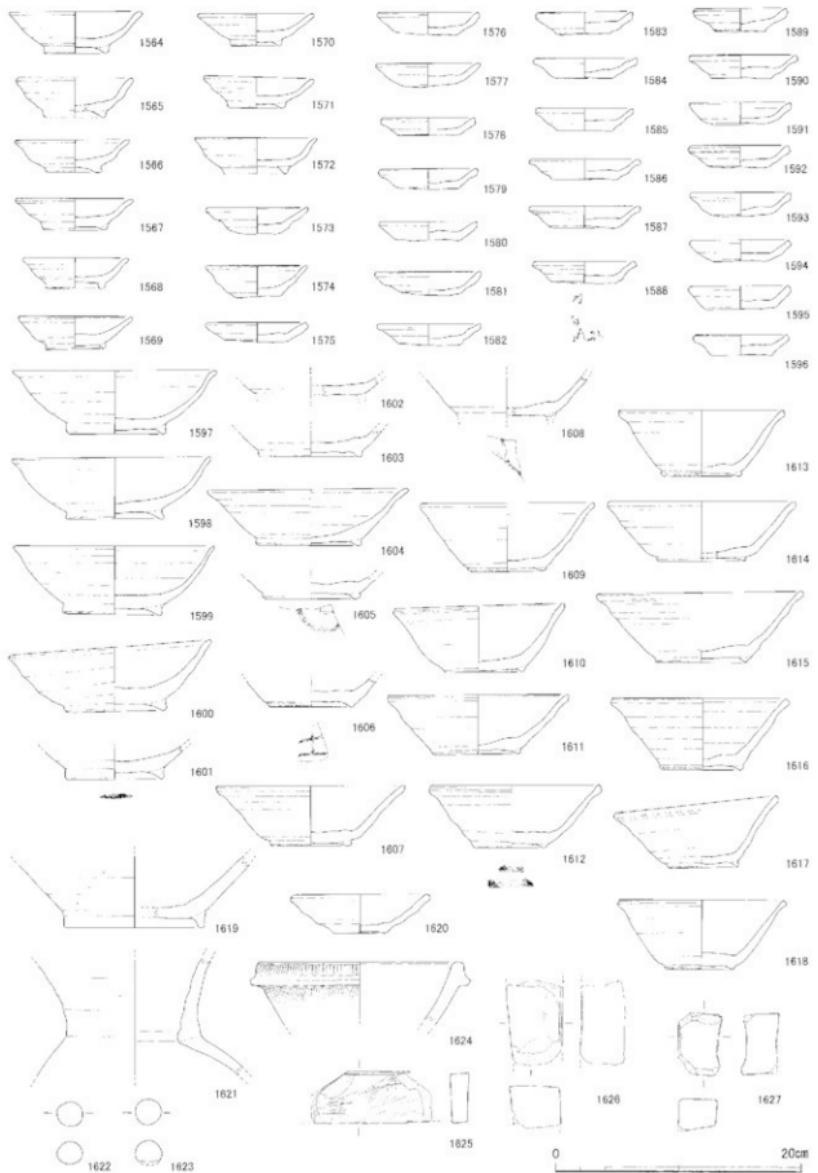


0 20cm

第132図 包含層出土遺物実測図(1:4)



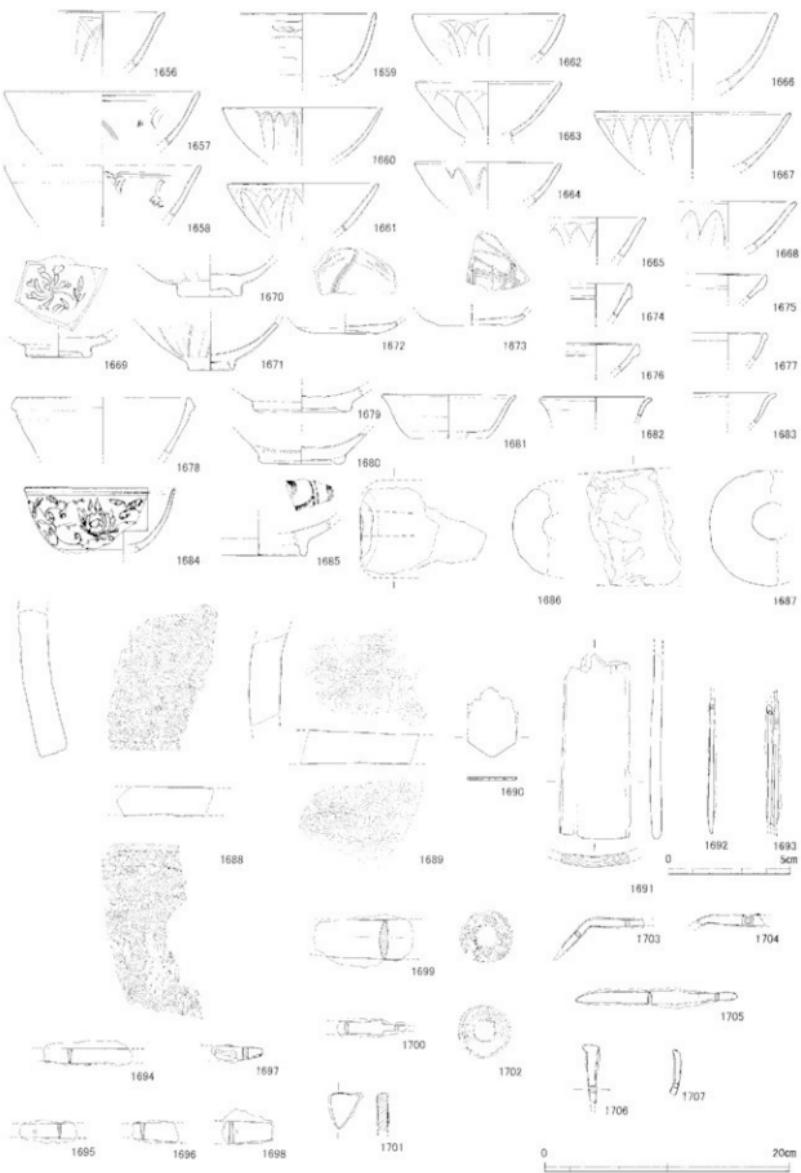
第133圖 包含層出土遺物實測圖(1:4)



第134図 包含層出土遺物実測図(1:4)



第135図 包含層出土遺物実測図(1:4)



第136図 包含層出土遺物実測図(1656~1691・1694~1701・1703~1707=1:4, 1692・1693・1702=1:2)

は中世のものではないのかもしれない。1529～1536はロクロ土師器。平底のもの（1529～1531、1536）と柱状高台のもの（1532～1535）のものがある。

煮炊具には、尾張系の内耳鍋（1537・1538）、羽釜は中北勢系のもの（1539～1543）である。1539は、製作技法などに南伊勢系土師器の影響を強く受けている。1545は清郷型の鍋。

瓦器・瓦質土器（1544） 1544は瓦器の椀。内面には細かな、外面には粗いミガキがある。

土製品（1546～1563） 1546～1563は土鍾。小型で細身のものから中型のものまである。1563は薄く伸ばした粘土板を巻き付けた状況がよくわかる。

その他（1438・1623） 1438は長石製の火打ち石である。1623は土師質の玉。用途は不明である。

陶器（1564～1622、1628～1655） 1564～1596は小椀・小皿。尾張型には第3型式（1564）、第4型式（1566～1572）、第5型式（1574）、第6型式（1575～1595）、第7型式（1596）、渥美型には第4型式（1565）、第5型式（1573）のものがある。1588の底部外面には墨痕があるが判読できない。

1597～1618は山茶椀。尾張型には第3型式（1597）、第4型式（1598～1601）、第5型式（1603・1604）、第6型式（1605～1615）、第7型式（1616～1618）、第12型式（1620）、渥美型には第5型式（1602）のものがある。1612の底部外面には不明瞭ながら「二」の墨書がある。1619は尾張型第6型式の片口鉢。1622は陶丸。1621は渥美産の広口瓶。

1480・1628～1648は瀬戸美濃製品。皿類（1628～1630）のうち1628は大窯第2段階の鉄釉縁皿、1629は大窯第3段階前半の鉄釉丸皿、1630は古瀬戸後I期の縁釉小皿。

天目茶椀（1631～1636）のうち、1631は古瀬戸後IV期新段階、1632は大窯第1段階、1633～1636は大窯第2段階のものである。

盤類（1637・1638）のうち、1637は古瀬戸後IV期新段階の御皿、1638は古瀬戸後II期の折縁深皿で

ある。捕鉢（1639・1640）のうち、1639は大窯第3段階か第4段階、1640は大窯第4段階のものである。

壺・瓶類（1480・1641・1643～1645）のうち、1480は古瀬戸後IV期新段階の口広有耳壺、1641は古瀬戸後II期かIII期の尊式花瓶、1643は古瀬戸後IV期の花瓶、1644は古瀬戸後II期か第IV期古段階の四耳壺である。1642は古瀬戸後IV期新段階の仏具、1645は古瀬戸前II期の四耳壺、1646は古瀬戸後IV期古段階の天目茶碗を転用した円板である。近世のものとしては、登窯第1小窯の志野織部徳利（1647）、19世紀代の椀（1648）などがある。

1650～1655は常滑製品。1650は第11型式か12型式の片口鉢、1651～1653は甕。1651は第6a型式、1652は第11型式、1653は第12型式のものである。1654・1655は壺。1654は第12型式、1655は第11型式のものである。

この他、肥前陶器の皿（1649）がある。

磁器（1656～1685） 1656～1673は青磁。椀には、外面に蓮弁文を施すもの（1656・1660～1668）、内面に草花文を施すもの（1657・1658）、外面に文様を施すもの（1659）がある。1669の内面底部には草花文が施されている。皿（1672・1673）はいずれも内面にヘラと柳による文様を施し、底部外面の釉をかき取っている。

1674～1683は白磁。椀（1674～1680）には口縁端部が玉縁状になるものが多い。皿（1681～1683）はいずれも端反皿である。

1684・1685は染付。1684は椀、1685は盤である。

土製品（1686～1689） 1686・1687は轍の羽口。

1688・1689は平瓦。

石製品（1624～1627） 1624は滑石製の石鍋。1625～1627は砥石である。1625は泥質灰岩、1626・1627は凝灰岩である。

木製品（1690・1691） 1690は用途不明の薄板、1691は桶の継板と思われる。

金属製品（1692～1704） 1694～1699は小刀の一部、1700は鉄鏃。1702は銅錢（銭文不明）。1703は鋲か。1704はキセルか。

（酒井、竹田）

【註】

① 矢野健一氏に実見のうえ、ご教示頂いた。

遺構 番号	小地区	時期	時期区分	長さ (m)	幅(m)	深さ (m)	面積 必要	前行(m)	後行(m)	建物面 積(m ²)	建物方 向	建物内 土基	調査關係 (古い→新しい)	備考	
SD1	D6, E + FS + G, G + B4 + 5, 15	中世後期	中世IV	22.05	2.0	0.43 ~0.74							SD9→SD10 SD4→SD1 SB139→SD2 SK5→SD2	北→南	
SK2	E + F3 + 4, 15	中世後期	中世IV												
SK3	E + F3 + 4, 15	中世後期	中世IV												
SK4	E + F3 + 4, D~ FS, D + E6	中世後期	中世IV												
SK5	F~H4 + S, G5	中世後期	中世IV	7.7	5.0	0.40							SB141(P12)→SK5→SD1		
SK6	E + F4 + 5	中世後期	中世I										SB138→SD6		
SK7	E + G3	中世後期													
SK8	I5	中世後期	中世I	1.9		0.75 ~0.84							SK8→SK11		
SD9	F6~8, G7~ 9, H9~10	中世後期	中世III	20.3	1.5	0.78							SK17→SD9 SD14→SD9 SD15→SD9 SD22→SD1	東→西 SD22は土基のためつながらない。	
SK10	I5 + 6	中世後期	中世III	0.95	2.0	0.20							SA1567		
SK11	I5 + 6	中世前期	中世I	3.2	3.2	0.33							SK8→SK11 SB154(HSP11)→SB152(HSP10)→ SK11→SD1 SK11→SB153(16P1) SK11→SB195(16P1 + P2)	SK11後段にSB195を建てる	
SK12	F~H5 + 6	中世後期	中世IV										SB148		
SK13	G + H6	中世後期	中世II										SB148 SK14→SD12 SK14→SD13→SD12		
SD14	E + FR + 8, G + H7 + 8, 16 + 7, 36	中世後期	中世II	22.55	1.2	0.46							SB157(HP1)→SD14 SB159(17P4)→SD14 SB162(17P4)→SD14 SB197(17P1)→SD14 SB196(GTP9 + 11, HTP7, ITP14) →SD14 SK18→SD14 SD27→SD14 SD14→SD9 SD14→SB155(HP8) SD14→SA156(HP7, JSP4) SD14→SB160(17P15)	北→南(SD9→合流) 南→北(SD9→合流) 標削は中世II期	
SD15	E + F7 + 8, G + H6 + 7, 16	中世後期	中世III	19.85	1.0	0.31							SD15→SD9 SD15→SK16 SB142(ETP7)→SD15 SD15→SD16 SD15→SB166	南→北(SD9→合流) 標削は中世I期	
SK16	E + J6 + 7	中世後期	中世IV										SB195	SD15→SK16	
SK17	E8 + 9	古代	古代										SK17→SD9		
SK18	J7 + 8, 87	中世前期	中世I										SB197	SK18→SD14 SK18→SD19 SK18→SB160 SK18→SB196	
SK19	K6 + 7	中世後期	中世IV	3.55	0.635	0.43							SA155 SA1567		
SK20	K + 18 + 9	中世後期	中世IV	3.55	0.5	0.45							SK20→SD22		
SD21	G6 + 10, B10	中世後期	中世I										SB146→SD21		
SD22	G11, H + 110 + 11, J + K9 + 10, L8 + 9	中世後期	中世IV	22.75	2.5	0.64 1.40							SK20→SD22 SK34→SD27→SD22 SK34→SD30→SD22 + 31 SK34→SD27→SD22 + 31	北→南 標削は中世III期	
SK23	J9 + 10	中世後期	中世IV	4.0	2.8	0.28								SK23→SK24→SK23	
SK24	J9, J9 + 10	中世後期	中世I	2.7	3.1	0.20							SB164	SK23→SK24→SK23	
SK25	J9, J9 + 10	中世後期	中世I	0.65	3.3	0.18							SB164	SK23→SK24→SK23	
SK26	J9 + 10	中世後期	中世III	2.7	2.25	0.90									
SD27	H7~9, I9~10	中世後期	中世I												
SK28	J7 + 8, 87	古代	古代												
SK29	J9	古代	古代												
SD30	H9, I9 + 10	中世後期	中世I												
SD31	G11, H + 110 + 11, J10	中世後期	中世IV	13.25	0.5	0.96							SD31(19P10)→SD27 SD31→SD27 SD27→SD14 SK34→SD27→SD22 + 31		
SD32	G12, H + 111 + 12, J11	中世後期	中世IV	10.05	0.6	0.3	~1.4	~0.3					SD33→SD22 SK34→SD30→SD22 + 31	標削は中世III期	
SK33	G + H10 + 11, J10	古代	古代											SD33→SD25	北→南
SD34	H12 + 13, I + J 11~15, K + 10 ~12, M10 + 11	中世後期	中世IV	23.05	3.4	1.0 ~5.8 1.75									北→南、大津。 標削は中世I期。 中が広いのは、大室前半まで? 後期末には小さな溝の入った可能性がある
SD35	H12 + 13, I + J 11~15, K + 10 ~12, M10 + 11	中世後期	中世IV	44.55	1.4	0.62 ~3.2	~1.04								
SD36	H13 + 14~18, K16 ~18, L18~20, M20 + 21	中世後期	中世IV										SD62→SD97	東→西	
SD37	J13~15, K12 + 13, 15~ 17, L12 + 17~ 21, M10 + 21	中世後期	中世IV					0.10					SD27→SE58 SK35→SD37 SE78→SD37 SD40→SD37 SD37→SD62 SD44→SK43→SD37		
SK38	S16	中世後期	中世IV	2.0	2.0	1.96									
SK39	S + M16	古跡	古跡											SK39→SB17(16P10)	

(跡区分) 関文: 関文。古代: 古代。中世I: ～山塙後期I型式。中世II: ～山塙後期II型式。中世III: ～山塙後期III型式。中世IV: 大室第I/日輪第I/日輪第II型式。古跡: 古跡。山塙後期I型式。中世I: 山塙後期I型式。中世II: 山塙後期II型式。中世III: 山塙後期III型式。中世IV: 大室第I/日輪第I/日輪第II型式。

第2表 遺構一覧表①

遺構 番号	小地区	時期	時期区分	長さ (m)	幅(さ) (m)	面積 (m ²)	開口部 位置	航行(な) 航行(な)	建物面 積(m ²)	建物方 向	建物内 寸法	新旧関係 (古い→新しい)	参考 SA, SB : 時期決定の根拠	
SD40	J14・J・K13・ 14, L12・13, M・ N11・M12・13	中世後期	中後Ⅳ	18.5	2.7 ~3.5	0.82 1.02						SK46→SD40 SD40→SD43 SD40→SK43	北→南	
SD41	J14・M17・18	中世後期	中後Ⅳ											
SD42	M17	中世後期	中後Ⅳ		2.4	1.47								
SD43	L12, M12・13	中世後期	中後Ⅳ									SD40→SK43 SD44→SK43→SD37		
SD44	M12・13・013・ 15	中世後期	中後Ⅳ									SD44→SK43→SD37		
SK45	R・P20・21	中世後期	中後Ⅳ	2.9	2.4	0.18						SD42→SK45		
SD45	J・K13・14	中世後期	中後Ⅳ									SK46→SD40		
SD47	L14・15	中世後期	中後Ⅳ											
SK48	J14	時期未定												
SD49	L15	中世後期	中後Ⅳ											
SD50	P20	中世後期	中後Ⅳ									SK62→SK59 SK51→SK57→SK54→SK51→SK50		
SK51	P19・20	中世後期	中後Ⅳ									SK91→SK57→SK54→SK51→SK50	切り合いで時期決定	
SD52	N20	中世後期	中後Ⅳ									SB192(N20P7)→SD52		
SK53	M・N19	中世後期	中後Ⅳ									SB178 SK53→SB179(M18P1)		
SK54	O・P19・20	中世後期	中後Ⅳ									SB180→SK54 SK51→SK57→SK54→SK51→SK50		
SK55	J・M15・16	中世後期	中後Ⅳ											
SK56	L18, M18・19	中世後期	中後Ⅳ	3.0	1.98	2.97						SB175(M18P1)→SK56		
SK57	J・P19	中世後期	中後Ⅳ									SK51→SK57→SK54→SK51→SK50		
SE58	L18	中世後期	中後Ⅳ	1.9	1.34	2.55						SD57→SE58		
SE59	N18	中世後期	中後Ⅳ	1.6	1.4	1.09						SD59→SE183(N18P0)		
60													次番 (SB59と同一遺構)	
SK61	M13・14	中世後期	中後Ⅳ	1.7	1.2	0.28								
SD62	M21・22, N・O20 ~22, P・Q19~ 21, R・S18~20	中世後期	中後Ⅳ	24.2	4.8 ~5.8	6.71						SK80→SK91→SK79→SD62→SK72 SK84→SD62→SD62 SK85→SK79 SD37→SD62 SD62→SK70	北→南 S203・62で一連の区画 削削は中世Ⅰ期 SD35は同じく15世紀ま で繼續していたが、16 世紀半ばには機能を終 止していた	
SD63	M22, N22, 23, O~ Q21・22, R~ S20・21	中世後期	中後Ⅳ	21.0	2.0	0.62 ~0.67						SD69→SD63 SD65→SD64→SD63 SK98→SD63 SB318(R22P1)→ SB324(R22P1)→SD63	南→北 S206・40・63で一連の 区画	
SK64	M14・15, N13・ 14	中世後期	中後Ⅳ											
SD65	N・O14	中世後期	中後Ⅳ											
SK66	S・O14・15	調査												
SD67	S16, O16・17	中世後期	中後Ⅳ											
SK68	O・P18・19	中世												
SD69	Q・R18	中世後期	中後Ⅳ											
SK70	R・S19	中世後期	中後Ⅳ	1.6	1.5	0.28						SD62→SK70	SD62埋没後に東洋製品 11か式型の遺構作られ る	
SK71	R18・19	中世後期	中後Ⅳ									SK46→SK71 SD62→SK71	SD62埋没後に作られる	
SK72	P・Q18~20	中世後期	中後Ⅳ	3.7	0.85	3.05						SK80→SK91→SK79→SD62→SK72		
SK73	O22・P3, P22	中世後期	中後Ⅳ	1.4	1.3	0.61						SK74→SK76→SK75→SK74		
SK74	O・P16・17	中世後期	中後Ⅳ	2.1	2.8	0.12						SK75→SK75→SK74		
SK75	O16・P16・17	中世後期	中後Ⅳ	3.75	2.45	0.26						SK103→SK76→SK75→SK74		
SK76	O16, P18・19	中世後期	中後Ⅳ	3.1	2.7	0.27						SK103→SK76→SK75→SK74		
SK77	M20	中世後期	中後Ⅳ	1.3	1.3	1.81						SK76→SK76		
SK78	M18	中世後期	中後Ⅳ	1.2	1.2	1.28								
SK79	P18・19	中世後期	中後Ⅳ	3.85	1.85	6.29						SK103→SK79		
SK80	O・P19・19	中世後期	中後Ⅳ	1.25	2.6	0.35						SK80→SK91→SK79→SD62→SK72		
SK81	P16・16	中世後期	中後Ⅳ	2.6	1.95	0.23						SK103→SK76→SK75→SK74		
SK82	O・P16	中世後期	中後Ⅳ	1.6	1.3	1.20						SD62→SK81 SD62→SK76		
SK83	Q・R24・25	中世後期	中後Ⅳ	1.9	1.6	1.95						SD322→SD83		
SD84	N23, O22・23	中世										SD65→SD64→SD63		
SD85	O23・24, P24・ 25	中世後期	中後Ⅳ									SD65→SD64→SD63	SD273と同一遺構	
SD86	O24・25	中世後期	中後Ⅳ											
87													次番 (SD273)と同一遺構	
SD88	P24・25	古代ア・古後ア												
SD89	P24・25	中世後期	中後Ⅳ									SD269→SD288→SD89(274)	SD274と同一遺構	
SD90	O・P19	中世後期	中後Ⅳ									SD269→SD330(P24P1)		
SK91	O・P19	中世後期	中後Ⅳ									SK105→SK90→SD83		
SK92	Q・R19	中世後期	中後Ⅳ	2.85	0.95	0.30						SK46→SK91→SK79→SD62→SK72		

(時期区分) 鐄文：鍔文、杏代：杏代、中後Ⅰ～山茶瓶型II型式、中後Ⅱ～山茶瓶型I型式～II型式、古薺芦中腹、中後Ⅲ：古薺芦後腹・大薺芦II回腹、中後Ⅳ：大薺芦II回腹～茎葉 [色々は鉴别別名表略]

第3表 遺構一覧表②

遺構 番号	小地区	時期	時期区分	長さ (m)	幅(m)	高さ (m)	開口面積	航行(m)	航行(m)	建物面 積(m ²)	建物方 向	建物内 土坑	新旧関係 (古い→新しい)	備考
S093 R + S21 + 22	近世から 江戸後期													SA, SB : 時期決定の根拠 引継ぎ土を切る。(西 壁は既存土層隔て西端 に立てる。)
SK104 W10 + 19	中世前期	中世Ⅰ	1.35	1.6	0.12								SK104→SK102→SD62	
SK105 S18 + 19	中世前期	中世Ⅱ			0.20								SK105→SK11	
SK106 S18	時期不明													上層回のみの土壙あり 各 (SK270と同一遺構)
97														
SK108 P21	中世前期	中世Ⅳ	1.5	0.85	0.40								SK108→SD63	
SK109 P21	中世前期	中世Ⅲ											SK109→SD63	
SK110 019	時期不明												SK110→SD179(M1971)	硬化面、 削り込みなし。
SK101 K15 + 16	中世?	中世Ⅱか 近世から 江戸後期	1.4	0.8	0.65								SK110→SD179(M1971)	
SK102 K17 + 18	中世後期	近世から 江戸後期	1.8	0.85	0.58								SK110→SK96→SD184	
SK103 W10 + 17	中世前期	中世Ⅰ			0.90								SK103→SK176→SK74	
SK104 J + K16	調査	調査	0.5	0.3										調査時の所見では、土 層堆积。
SK105 W11	調査	調査	0.6	0.5										
SK106 S15	調査	調査	0.5	0.6										
SK107 W10 + 16	調査	調査	0.7	0.6										
SK108 D + P19 + 20	調査	調査	0.6	0.5										
SK110 R18	調査	調査	0.7	0.5										
SK111 R19	調査	調査	0.5	0.5										調査時の所見では、土 層堆积。
SK112 N + 016	調査	調査	1.4	1.2										調査時の所見では、土 層堆积。
SK113 S14	調査	調査	0.3	0.3										
SK114 S14	調査	調査	0.3	0.2										
SK115 M + N18 - 19	調査	調査	4.0	4.0	1.10									
SK116 W10 + 16	調査	調査	1.9	1.4	0.40									
SK117 J + K15	調査	調査	0.4	0.4										
SK118 R15	調査	調査												右は水を受けていない 調査時の所見では、葉 根堆积。
SK119 R17	調査	調査												調査時の所見では、葉 根堆积。
SK120 S20	調査	調査	1.7	1.2	0.05									右は水を受けていない 調査時の所見では、葉 根堆积。
SK121 N20	調査	調査												右は水を受けていない 調査時の所見では、葉 根堆积。
SK122 N29	調査	調査												右は水を受けていない 調査時の所見では、葉 根堆积。
SK123 W10 + 20	調査	調査												右は水を受けていない 調査時の所見では、葉 根堆积。
SK124 L16	調査	調査	0.9	~1.2	0.20									
SK125 L + M13	調査	調査	1.0	0.6	~0.7	0.20								
SK126 N15	調査	調査	0.3	0.3										
127 W18	調査	調査												天井 (SK113と同一遺構)
128 W18	調査	調査												天井 (SK115と同一遺構)
SK129 D15	調査	調査	0.8	0.5										調査時の所見では、土 層堆积。
SK130 M + N13	調査	調査	0.8	0.4										調査時の所見では、土 層堆积。
SK131 N + 014	調査	調査	1.05	0.5										調査時の所見では、土 層堆积。
SK132 N14 + 15	調査	調査	1.05	0.8										調査時の所見では、土 層堆积。
SK133 W15	調査	調査												調査時の所見では、葉 根堆积。
SK134 D15 + P15	調査	調査												調査時の所見では、葉 根堆积。
SK135 W15	調査	調査												調査時の所見では、葉 根堆积。
SA126 D + 5	中世前期	中世Ⅰ				6.00				25				SB149と同一建物方向 (25°) 建物の判断
SB137 C + D3, D4	中世前期	中世Ⅰ	3.5×2	3.80±	3.20	12.16±	33							
SB138 D + E5	中世前期	中世Ⅰ	2×2	2.90	2.80	8.12	35							SB138→SK6 建物で判断
SB139 D + E3 + 4	中世前期	中世Ⅰ	2×2	5.20	3.80	19.76	43W							SB139→SK2 建物で判断
SB140 D6 + E4, E5, F5	中世後期	中世Ⅳ	2×1	6.20	3.20	19.84	30	SK4						SB140とSK4(5K)と時 期が同じため
SB141 EA, F3 + G4	古代	古代	2×1	3.95	2.90	11.46	38							SB141(P15)→SK2 + 5 SB142と同じ建物方 向
SB142 E7 + 8	古代	古代	2.5×2	3.00±	4.00	12.00±	37							SB142(5P77)→SK15. SB142(5T710)→SB143(5T711)→ SB144(5T715)
SB143 E6 + 7, F7	中世前期	中世Ⅰ	2×1	3.80	1.45	5.51	25							SB143(5T710)→SB143(5T711)→ SB144(5T715)
SB144 E6 + 7, F7	中世前期	中世Ⅰか II	2×1	4.50	1.80	8.10	29							SB144(5T710)→SB143(5T711)→ SB144(5T715)
SB145 F9 + 10, G10	中世前期	中世Ⅰ	3.5×2	4.10±	3.10	12.71±	39W							SB145 + 10同じ建物 方向
SB146 F10, G9 + 10	中世前期	中世Ⅰ	2×1	4.25	3.00	12.75	44W							SB146とG9 + 10同じ建 物方向 (43°W)
SB147 P5 + 6, G5 + 6	中世前期	中世Ⅰ	2×1	2.70	2.50	6.75	19							SB147(P5P9)→SB148(P5P9) SB147(G5P6)→SK12
SB148 P5, G5 + 6, 7, F9	中世後期	中世Ⅱ	3×3	5.25	4.95	25.99	25	SK13						SB148(G5P6)→F9P9 SB148(G5P6)→SK12
SB149 F6, G5 + 6, 7, H9	中世後期	中世Ⅰ	3×2	5.10	4.40	22.44	25							SB149(F6P7)→SK13 + SK12
SB150 H6, H5, 6, 15 + 古代	古代	古代	3×2	5.20	4.10	21.32	28							SB150(H6P7)→SK13 + SK12 SB150(H6P7)→SB151(16P19) SB150(H6P7)→SB152(16P19)

(区域別) 建物・礎文・古代・古代、中世Ⅰ～山茶葉第7型式、中世Ⅱ～山茶葉第6型式～9型式・古廻芦中間、中世Ⅲ・古廻芦後期～大窓第1段落、中世Ⅳ・大窓第2段落～推定 (色付は別表報告書)

第4表 遺構一覧表③

構造 等級	小地区	時期	時期区分	長さ (m)	幅(m)	深さ (m)	面 積×奥 行き(m)	建物面 積(m ²)	建物方 向	建物内 土蔵	新旧関係 (吉=「+」新規=「-」)		備考 SA, SB=時期区分の推移
											新規	既存	
SB151	BS・6	中世後期	中世畠舎 IV		4×1	5.65	1.50	8.48	32	SK160(16P2)→SB151(16P19)	SB161・194と同じ建物 方向(32°)		
SB152	BS, 15・6	中世前期	中世I		4×2	6.35	2.20	13.97	39	SB154(16P1)→SB152(16P15) SK11	SB154(16P11)→SB152(16P10)→ SK11	遺物で判断	
SB153	BS, 14・5, 5J	中世前期	中世I		3×2	5.00	2.30	11.50	33W	SK11→SB153(15P1)			
SB154	BS・6, 15・6	中世前期	中世I		3×3	6.40	3.50	22.40	5	SB154(16P11)→SB152(16P10)→ SK11			
SA155	JS・6, K7	中世後期	中世IV			8.15			33	SK19	SD14→SA155(16P8)		
SA156	JA, JS・6, K6・7	中世後期	中世畠舎 IV			18.90			31	SK197	SD14→SA156(16P7, 15P4) SK197の位置での切り合ひで 判断通り。なおかつ、 大きな柱の跡がある。	SA19を基礎に内蔵土蔵とする 建物の可能性あり。 小さな柱と大柱跡。 SK161と同じ建物方向 あり、うなぎの大きな 建物	
SB157	GT, HT・8	古代	古代		2×2	3.10	2.65	8.22	28	SB157(16P1)→SD14			
SB158	HT・8, 17・8	中世後期	中世畠		4×1	10.05	2.60	26.13	29	SB196(17P10)→SB158(17P12)	SB196の建替え・拡張 事。9		
SB159	IT・8, JT・8	中世前期	中世I		2×2	4.95	4.00	19.80	44	SK187(16P1)→SB159(16P1 · JT15)	SB197(17P1)→SB159(16P1 · JT15)		
SB160	IT・8, JE・7, KT	中世後期	中世II		3×2	5.80	6.05	35.09	39	SK188→SB160	SK188→SB160		
SB161	JT, JT	中世後期	中世畠		1×1	2.65	2.00	5.30	32	SB158→SB161(JT15)		遺物で判断	
SB162	HT, 16・7, JG・7	中世前期	中世I		3×3	5.95	5.20	30.94	22	SB162(17P4)→SD14		四方に柱跡? SK316・317とほぼ同じ 建物方向(22°)	
SB163	HS, 19・10	中世前期	中世I		3×1	5.50	2.10	11.55	43W	SB163(19P10)→SB27		建物内蔵土蔵と同様の 建物方向(43°W)	
SB164	JH, J9	中世前期	中世I		1×1	3.80	3.30	12.54	29	SK24	SK24→SK25	建物内蔵土蔵と同様の 建物方向(43°W)	
SB165	JH, K8	中世後期	中世畠舎 IV		1×1	3.25	3.00	9.75	35	SK166(K7P1)→SB165(K7P1)		SB166(K7P1)→SB165(K7P1)	
SB166	K7・8	中世前期	中世I		1.5×2	2.35S	3.10	7.295	10	SB166(K7P1)→SB165(K7P1)			
SB167	K13, L13 · M14	中世後期	中世IV		2×2	6.75	4.85	32.74	29	SK47	SB167(L15P2)→SB169(L15P1)	SB169と同じ建物方向 (23°)	
SB168	L14・15, M14 · 15	中世後期	中世畠		2×1	4.35	2.00	8.70	22			遺物で判断	
SB169	K15, L14・15	中世後期	中世IV		3×2	6.00	3.35	20.10	28	SB167(16P2)→SB169(L16P1) SB194(16P3)→SB169(L16P1) SB170(L16P1)	SB169と柱跡が同じ 同一時期か?	SB173・196・328と同じ 建物方向(28°)	
SB170	L15, M15, N15	中世後期	中世IV		3×1	6.80	2.30	15.64	26	SB170(L16P2)→SB170(L16P2) SB171(L16P9)→SB169(L16P9 · 9)→SB170(L16P9)	SB171(L16P9)→SB169(L16P9 · 9)→SB170(L16P9)	SB169と同じ建物方向 (21°)	
SB171	L15・16, M15 · 16 (一応) 中世後期	中世畠舎 IV			3×2	5.90	4.20	24.78	20	SB171(L16P9)→P11→ SB166(L16P9)→P11	SB169と同じ建物方向 (21°)	SB169と柱跡が同じ (28°)	
SB172	M15, N15・16	中世後期	中世畠		4×1	7.85	1.50	11.78	26	SB172(L16P9)→P11		遺物で判断	
SB173	N15, O15	中世後期	中世IV?		2×1	3.00	1.30	3.90	28			SB169と同じ建物方向 (28°)	
SA174	N13, O14・15	中世後期	中世畠舎 IV			6.80			29			SB169と同じ建物方向 (28°)	
SB175	L17・18, M17 · 18	中世前期	中世II		3×2	5.95	3.90	23.21	38	SB175(M18P1)→SE56		SB169と柱跡が同じ 同一時期か?	
SB176	L17, M17・18	中世前期	中世I		2×2	3.05	2.25	6.86	16			SB229・322と同じ建物 方向(17°)	
SB177	L17, M16 · 18, N17	中世前期	中世I II		3×2	5.00	3.00	15.00	29	SK39→SB177(M16P10)		遺物で判断	
SB178	M19, N19	中世前期	中世I		2×1	1.90	2.20	4.18	29	SK53		建物内蔵土蔵(SK53)と 時期が同じた	
SB179	N19・19, O19 · 20	中世前期	中世II		3×2	6.80	5.00	34.00	33W	SK53→SB179(M9P17) SK106→SB179(M9P11)		SB169と同じ建物方向 (34°)	
SB180	N19・20, O19 · 20	中世前期	中世II		2×2	4.90	4.50	22.05	34	SB180→SK54		遺物で判断	
SB181	N19・20, O19 · 20	中世前期	中世II		2×1	3.65	2.40	8.76	44			SB169と同じ建物方向 (44°)	
SB182	N17, N17 · N19, O19 ·18	中世後期	中世畠舎 IV		4×1	7.10	2.60	18.46	24			SB169と同じ建物方向 (44°)	
SB183	N18 · 19, O17 · 18 · 19	中世後期	中世畠舎 IV		3×2	7.10	4.00	28.40	25	SB166(017P1)→SB183(017P2) SK59→SB183(N18P6)		SB169と同じ建物方向 (44°)	
SB184	N18 · 19 · 18	中世後期	中世II		3×1	5.00	1.55	7.75	42W	SK109→SK96→SB184		遺物で判断	
SB185	N18, O17 · 18	中世前期	中世II		2×1	2.70	1.95	5.27	35	SB138と同様の建物 方向(35°)			
SB186	N17, O17 · 18	中世後期	中世II		2×2	2.50	2.30	5.75	42W	SB186(017P1)→ SB183(017P2)→P11		SB138と同様の建物 方向(35°)	
SB187	N17, O17 · 18, P18	中世前期	中世II			7.48			45			遺物で判断	
SB188	P17 · 18, Q17 · 18, R18	中世後期	中世II		2×2	3.00	2.00	6.00	39W			SB138と同様の建物 方向(35°)	
SB189	P17, Q17 · 18, R18	中世後期	中世IV		3×3.5	7.05	3.65S	25.75S	29	SK69		SB169と同様の建物 方向(35°)	
SB190	P17, Q17 · 18, R18	中世後期	中世IV		4×3.5	9.00	6.15S	55.35S	29			SB169と同様の建物 方向(35°)	
SA191	N20, O20	中世後期	中世畠舎 IV			5.95			25			SB146・183・339と同様の 建物方向(25°)	
SB192	N19, O19 · 20	中世前期	中世II		2×1	3.10	1.40	4.34	35W	SB192(N20P7)→SD62		SB153・179と同様の建 物方向(25°)	
SB193	N20, O19 · 20	中世前期	中世II		2×1	3.10	2.00	6.20	24	SK193→SK879		SB153・179と同様の建 物方向(25°)	
SB194	L16 · 17, M16 · 17	中世後期	中世畠舎 IV		3×1	6.45	2.80	18.06	32	SB194(L16P6)→SB169(L16P1)		遺物で判断	

【植物分类】裸子，裸子，光叶，光叶，中型！——小五蕊寄生形，由叶2——小五蕊寄生形或—0.5cm。木榈科中属，中型2，木榈科形株，十深裂1回裂，由叶2，十深裂2回裂，茎基无叶状茎叶而生须根。

第5表 遺構一覽表④

番号 番号	小地区	時期	時期区分	長さ (m)	幅 (m)	面積 (m ²)	面積 / 面積	前行 (m)	後行 (m)	建物面積 (m ²)	建物方 向	建物内 土坑	既往関係 (△:新しく△)	備考
SB195	I5, J5 ~ E, L5	中世後期	中後Ⅳ			2×2		4.65	2.80	13.02	22	SK16	SK11→SB195(I6P1+P2) SD15→SB195	SA, SB : 時期決定の根拠 SB11は後SB195を建て たと判断
SB196	G7, H7 ~ S, I7 ~ S	中世前期	中後 I			4×1		6.95	2.80	19.46	28		SB196(17P16)→SB158(17P12) SB196(G7P9+11, H7P7, I7P14) →SD14 SB196→SB196 SB196→SD27	SB158はSB196の建築 か、統轄か?
SB197	H7 ~ S, I7 ~ S	中世前期	中後 I			2×2		4.60	3.40	15.64	18	SK18	SB197(18P1)→SB159(18P1+ 17P11) SB197(H7P12)→SD14	建物内土坑(SK18)と同じ時期
SB198	BB, I7 ~ S ~ S	中世後期	中後Ⅳ			3×1		6.20	2.40	14.88	21			遺物で判断
200														
SD200	Q48 ~ G50 ~ S1	中世前期	中後 I	22.75	2.1	6.60 ~9.90						SD204→SD200→SD201→SD206	西→東	
SD201	S1, P50, Q49 ~ S0, R49, S50, S49 ~ S0	中世後期	中後Ⅳ	15.65	2.7	6.83						SD204→SD200→SD201→SD206	北→南	
SB202	Q47 ~ Q47	中世前期	中後 I	2.6	2.6	1.35								矢番
203														
NS5, NS3, FS2 ~ SD203, QS3, QS5, HS1 ~ QS2	古代	古代	12.75	3.1 ~5.0	1.20							SD204→SD209→SD201→SD206	北→南	
205														
SD206	Q46 ~ G48 ~ P48 ~ S2, QS2, QS3	中世後期	中後Ⅳ	20.95	0.5							SD204→SD209→SD201→SD206 SK211→SD206	矢番	
SD207	Q49, R49, S49 ~ W9	中世前期	中後 I	11.3	0.6									矢番
208														
210	R49	中世前後 古代 →												矢番 (所在不明)
SK211	Q53	古代												矢番
SK212	Q51	時代不明												矢番
213														
SK214		時期不明												矢番
SK215	Q48	中後 I												矢番
216														
FS33 ~ FS44, QS2 ~ QS4, K31 ~ SS3, SS1 ~ SS2, T31	中世後期	中後Ⅳ	20.05	5.0	9.94							SK216→SD312	南→北 細削(2)中世 I 期 SD266 + 267 + 一連の建 築	
SK217	Q43	中世後期	中後Ⅳ	2.3	2.0	—						SK218→SE217		
SK218	Q43	中世後期	中後 I	1.0	0.8	0.23						SK218→SE217		
SK219	P42 ~ P43	中世後期	中後 I	0.95	3.5	6.15 ~0.35								
SK220	P42	中世後期	中後 I											
SK221	P42	中世後期	中後 I											
SK222	P42 ~ P43	中世後期	中後Ⅳ	4.6	3.8	6.64						SK237→SK222 SK248→SA333(S43P11)→SK222	矢番 (当初120) SA346の建物内土坑 矢番 SA345の柱穴	
SK223	P43 ~ P44, QS43 ~ QS44	中世後期?	中後Ⅳ?											
SK224	P43	中世後期?	中後Ⅳ?											
SK225	P43	中世後期?	中後Ⅳ?											
SK226	P43	中世後期?	中後 I											
SK227	P43	中世後期?	中後 I											
SK228	P43	中世後期?	中後 I											
SK229	P43	中世後期?	中後 I									SK229→SK244		
SK230	P40	古代	古代	0.95	0.6	0.22						SK229→SK244		
SK231	P40	古代	古代	1.0	0.8	0.30						SK236→SK235		
SK232	P40	古代	古代	3.1	2.6	6.85						SK231→SK222		
SK233	P42	中世後期	中後 I											
SK234	P40 ~ 41, S40 ~ 41	古代部分古	古代?	2.35	1.7	0.15						SK246→SK245→SK233→SK259	SK245 + 259 + 同一遺構?	
SK235	T30	中世後期	中後 I									SD243→SK234		
SK236	S34	中世後期	中後 I									SK236→SK235		
SK237	S34	中世後期	中後 I									SK236→SK235		
SK238	S43	中世後期	中後 I									SK231→SK222		
SK239	S33, T33	中世後期?	中後 I											矢番
SK240	T40	中世後期	中後 I	2.9	2.9	—								
SK241	P42 ~ P43, QS42 ~ QS43	中世後期	中後Ⅳ	13.05	1.1	0.58						SK249→SD296→SD241	北→南 細削(2)中世粗削	
SK242	S33	中世後期	中後 I											
SD243	S34 ~ S34, T35	中世後期	中後 I											
SD244	S34	中世後期	中後 I											
SD245	S34	中世後期	中後 I											
SD246	S40	古代	古代	0.8	0.6	0.27						SD243→SK234		
SK247	S40	古代	古代	1.7	1.1	0.50						SK229→SK244		
SK248	S41, S41	古代部分	古代	0.5	0.5	0.12						SK246→SK245→SK233→SK259	SK233 + 259 + 同一遺構?	
SK249	S40, S40	古代	古代	1.1	1.0	0.10						SK246→SK245→SK233→SK259		
SK250	S40 ~ S41, QS40 ~ QS41	中世後期	中後 I	0.95	0.6	0.76						SK248→SA333(S43P11)→SK222		
SK251	S40 ~ S41, QS40 ~ QS41	中世後期	中後 I	10.05	2.1	21.10						SK249→SD296→SD241		
SK252	S44	中世後期	中後 I									SD246→SD269		
SK253	S43 ~ 143	古代?	古代?											
SK254	S43	中世後期	中後 I											
SK255	S43	中世後期	中後 I											
SK256	S43 ~ 143	古代?	古代?											
SK257	Q47 ~ 48, R47 ~ 48	中世後期	中後 II											
SK258	Q47 ~ 48	中世後期	中後 I											
SK259	Q41, R41	古代?	古代?	1.35	1.7	0.05						SD258→SD247		
SK260	P35 ~ P36, Q35 ~ Q36	中世後期	中後 IV									SK246→SK245→SK233→SK259	SK233 + 245 + 同一遺構?	
SK261	P36, P36	中世後期?	中後 I	2.0	1.6	0.12						SD266→SD260		
SK262	P36, P36	中世後期	中後 IV	2.6	2.4	0.13						SD246→SK261		
SK263	P36, P36	中世後期	中後 IV	2.6	2.4	0.13						SD270(097)→SD271(087)→SK262		

(区域別) 織文・國文・古代・古代・中世 I - 山茶樹型式 / 型式、中世 II - 山茶樹繩索型式 / 型式、古窓戸中間・中世 III - 古窓戸後居 - 大葉葉 / 型式、中世 IV - 大葉II / 四隅 - 大葉 / 色目 (色目は僅に報告書略)

第6表 遺構一覧表(5)

遺構番号	小地区	時期	時期区分	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	面積 (m ²)	軒高 (m)	棟高 (m)	建物面積 (m ²)	建物方向	建物内	新旧関係 (古い→新しい)	参考 SA, SB: 時期決定の根拠
SD263	P31, Q36~ R36, S30, T39~30	中世後期	中世Ⅳ											
SD264	P35~36, Q35~36	中世	中世Ⅳ											
SD265	P35~37, Q35~ 36, R35~36, S35	中世後期	中世Ⅳ	13.45	2.5	1.04								
SD266	P33~Q33	中世後期	中世Ⅱ	7.05	1.2	0.5								
SD267	P33~34, Q33~34	中世後期	中世Ⅱ	18.05	1.8	0.96								
SD268	Q48, R47~48	中世後期	中世Ⅰ	10.35	1.5	0.10								
SD269	P24~25	中世後期	中世Ⅰ	2.6	2.6	1.88								
SD270	P25~P26, P27~P26	中世後期	中世Ⅰ	2.3	2.1	1.94								
SD271	R25, Q28~ Q28, Q28	中世後期	中世Ⅲ		0.4	0.26								
SD272	P27~P28, Q28	中世後期?	中世Ⅲ?		0.3	0.12								
273														
274														
SD275	P26, Q26~ R29, R29	中世後期	中世Ⅰ?	11.7	0.3	0.15								
SD276	P29~P30	中世後期	中世Ⅰ?		1.4	0.35								
SD277	P29~P30	時期不明			1.75	0.45								
SD278	P29, Q29	中世後期	中世Ⅰ?											
SD279	Q29~30	中世後期	中世Ⅰ?	10.5	0.3	0.15								
SD280	Q25	中世後期	中世Ⅰ?	2.4	2.4	2.00								
SK281	R26~R26	時期不明												
SK282	R26~R25	中世後期	中世Ⅰ											
SK283	R27~Q27	中世後期	中世Ⅰ											
SK284	Q24~Q24	時期不明												
SD285	P26, Q25~36	中世後期	中世Ⅳ		1.9	0.75								
SD286	Q47, R46~47	中世後期	中世Ⅰ?											
287	P31	中世後期?	西?											
SD288	P25	中世後期	中世Ⅰ	1.2	0.9	1.10								
SK289	Q20, R29~30	中世後期	中世Ⅳ	2.8	2.6	6.24								
SD290	T37	中世後期	中世Ⅳ											
SK291	R29~R29	古代?	古代?											
SD292	544~45, 744~45	中世	中世											
293														
SD294	S26	中世後期	中世Ⅲ	2.4	2.3	—								
SD295	P51, Q50~51	中世後期	中世Ⅰ		2×2	4.40	3.20	14.08	17					
SD296	P41~43, Q41~ 43, R42	中世後期	中世Ⅰ		3×3	8.40	6.00	46.80	18					
SD297	S26~27, T26~27	中世後期	中世Ⅳ	2.3	—									
SK298	R24~25, S24~25	中世後期	中世Ⅳ											
SD299	R27~27, S27~27	中世後期	中世Ⅲ											
SD300	R27~27	時期不明												
SD301	R27~28	時期不明												
SD302	R26~27, S27	時期不明												
SD303	R27~28	時期不明												
SD304	R27~28	時期不明												
SD305	R29~29	時期不明												
SD306	R29~29	時期不明												
SD307	R29~29	時期不明												
SD308	R28~28	時期不明												
SD309	R28~28	時期不明												
SD310	R28~28	時期不明												
SD311	R28~28	時期不明												
SD312	R28~28	時期不明												
SD313	R28~28	時期不明												
SD314	R28~28	時期不明												
SD315	R28~28	時期不明												
SD316	R28~28	時期不明												
SD317	R27~28	時期不明												
SD318	R22~23	時期不明												
SD319	R22~23	時期不明												
SD320	R24~25	時期不明												
SD321	R26~26	時期不明												
SD322	R26~26	時期不明												
SD323	R26~26	時期不明												
SD324	R26~26	時期不明												
SD325	R26~26	時期不明												
SD326	R26~26	時期不明												
SD327	R26~26	時期不明												
SD328	R26~26	時期不明												
SD329	R26~26	時期不明												
SD330	R26~26	時期不明												
SD331	R26~26	時期不明												
SD332	R26~26	時期不明												
SD333	R26~26	時期不明												
SD334	R26~26	時期不明												
SD335	R26~26	時期不明												
SD336	R26~26	時期不明												
SD337	R26~26	時期不明												
SD338	R26~26	時期不明												
SD339	R26~26	時期不明												
SD340	R26~26	時期不明												
SD341	R26~26	時期不明												
SD342	R26~26	時期不明												
SD343	R26~26	時期不明												
SD344	R26~26	時期不明												
SD345	R26~26	時期不明												
SD346	R26~26	時期不明												
SD347	R26~26	時期不明												
SD348	R26~26	時期不明												
SD349	R26~26	時期不明												
SD350	R26~26	時期不明												
SD351	R26~26	時期不明												
SD352	R26~26	時期不明												
SD353	R26~26	時期不明												
SD354	R26~26	時期不明												
SD355	R26~26	時期不明												
SD356	R26~26	時期不明												
SD357	R26~26	時期不明												
SD358	R26~26	時期不明												
SD359	R26~26	時期不明												
SD360	R26~26	時期不明												
SD361	R26~26	時期不明												
SD362	R26~26	時期不明												
SD363	R26~26	時期不明												
SD364	R26~26	時期不明												
SD365	R26~26	時期不明												
SD366	R26~26	時期不明												
SD367	R26~26	時期不明												
SD368	R26~26	時期不明												
SD369	R26~26	時期不明												
SD370	R26~26	時期不明												
SD371	R26~26	時期不明												
SD372	R26~26	時期不明												
SD373	R26~26	時期不明												
SD374	R26~26	時期不明												
SD375	R26~26	時期不明												
SD376	R26~26	時期不明												
SD377	R26~26	時期不明												
SD378	R26~26	時期不明												
SD379	R26~26	時期不明												
SD380	R26~26	時期不明												
SD381	R26~26	時期不明												
SD382	R26~26	時期不明												
SD383	R26~26	時期不明												
SD384	R26~26	時期不明												
SD385	R26~26	時期不明												
SD386	R26~26	時期不明												
SD387	R26~26	時期不明												
SD388	R26~26	時期不明												
SD389	R26~26	時期不明												
SD390	R26~26	時期不明												
SD391	R26~26	時期不明												
SD392	R26~26	時期不明												
SD393	R26~26	時期不明												
SD394	R26~26	時期不明												
SD395	R26~26	時期不明												
SD396	R26~26	時期不明												
SD397	R26~26	時期不明												
SD398	R26~26	時期不明												
SD399	R26~26	時期不明												
SD400	R26~26	時期不明												
SD401	R26~26	時期不明												
SD402	R26~26	時期不明												
SD403	R26~26	時期不明												
SD404	R26~26	時期不明												
SD405	R26~26	時期不明												

番号	小地区	時期	時期区分	長さ (m)	幅 (m)	奥行き (m)	面積 (m ²)	前行 (m)	後行 (m)	建物面積 (m ²)	建物方向	建物内上級	新旧関係 (△:→新L:↓)	備考
SB321	P23, Q22・23	古代	古代			3×2	4.60	3.10	14.26	13				遺物で判断
SB322	Q23・24, R23・ 24	中世前期	中世 I			3×2	5.05	4.00	20.20	17	SB322→SE83			遺物で判断
SB323	Q24	古代	古代			3×2	4.05	3.25	13.16	7	SB323 (R22P1) →SB319 (E23P25)			遺物で判断
SB324	Q22・23, R21・ 22・23	中世前期	中世 I			2×2	5.70	2.95	16.82	18	SB324 (R22P1・O23P11) →SD63			遺物で判断
SB325	Q22・23, R22・ 23	古代	古代			2×2	4.55	2.85	12.97	7W				遺物で判断
SB326	R22・23・24	(一定)	中世前期	中世 I		3×1	4.95	1.45	7.18	11W	SB318 (R23P14) →SB326 (E23P13)			遺物で判断
SB327	Q23・24, R23・ 24, S24	中世後期	中世Ⅲか IV	4.5×2	4.20	17.64	35	9						遺物で判断
SB328	R24・25, S24・ 25	中世後期	中世Ⅲ			3.5×1	4.70	3.85	18.10	30	SK298 SK304			建物内上級 (SK298) と同 一時期 SB331 と同じ建物方向 (30°)
SB329	R25, S25	中世前期	中世 I			2×1	2.80	2.50	7.00	30				遺物で判断
SB330	P24・25	中世前期	中世 I			1×1	2.90	2.70	7.83	24	SE269 SB69 →SB330 (P24P1)			遺屋 (SE269) と時期が 同じ SB328 と同じ建物方向 (30°)
SB331	P23, Q25・26・ 27, R22・26・27	中世後期	中世Ⅲか IV			3×2	10.00	4.49	44.00	30				遺屋 (SE269) と時期が 同じ SB328 と同じ建物方向 (30°)
SB332	P24・25, Q24・ 25, R24・25	中世後期	中世Ⅲか IV			5×1	7.30	3.60	21.90	11	SE269 →SE289 →SB332 (P25P1)			
SA333	R43, S43, T43	中世前期	中世Ⅲか IV				5.95				21			SK248 →SA333 (S43P1) →SB322
SB334	R41・42, S41・ 42, T41・42	中世前期	中世 I			4×3.5	6.95	6.20	42.78	25	SB334 (R41P1) →S42P6 →93 → SB347 (S42P7) →SB346 (R41P9) → S42P10 →SB345 (R41P10) → SB344 (R41P11) →S42P6 →93 → SB347 (S42P7) →SB346 (R41P9) → S42P3・7・15 →SB333 (S41P14)			遺物で判断
SB335	S41・42, T41・ 42	中世後期	中世Ⅲか IV			3×3	5.80	4.90	28.42	38				遺物で判断
SB336	R40・41, Q40・ 41	中世後期	中世Ⅲか IV			2.5×3	5.30	5.50	29.15	31				遺物で判断
SB337	R40・41, R40・ 41	中世後期	中世Ⅲか IV			2×2	4.60	4.50	20.70	23	SB338 (R40P2) →SB337 (Q40P6)			遺物で判断
SB338	Q39・40・ 41, R40・41	中世後期	中世Ⅲ			3×2	6.80	4.50	30.60	23	SB338 (R40P2) →SB337 (Q40P6) SB338 (R41P27) →SB347 (R41P24)			遺物で判断
SB339	S39・40, T39・ 40	中世後期	中世Ⅲ			2×2	5.50	4.60	25.30	25				SB148・183 と同じ建物 方向 (27°)
SB340	P37・38, Q37・ 38・39	中世後期	中世Ⅲか IV			3×2	7.10	7.95	56.45	23				SB337 と同じ建物方向 (23°)
SA341	P38	中世後期	中世Ⅲか IV				2.00				19			SB340 と同じ建物方向 (23°)
SA342	R38・39	中世前期	中世 I				8.05				10	SB344 (R39P3) →SA342 (R39P2)		
SA343	P43	中世後期	中世 I				5.75				19			遺物で判断
SB344	P39・40, R39・ 41	中世前期	中世 I			3×1	7.65	3.00	22.95	26W	SB344 (R39P3) →SB345 (R40P11) → S40P10 SB344 (R39P3) →SA342 (R39P2)			
SB345	P41・42, Q40・ 41・42, R40・41	中世前期	中世 I			4×2	7.75	5.95	40.01	19	SB296 (Q41P1) →SB348 (Q41P11) SB344 (R39P3) →SB345 (R40P11) → S40P10 SB348 (R41P1) →SB345 (R41P29)			遺物で判断
SB346	P41, R41・ 42, S42	中世後期	中世Ⅲ			4×2	8.35	3.80	31.73	22	SB225 SK2327 SB344 (R41P10) →S42P6 →93 → SB344 (R41P10), S42P6 →93 → SB347 (S42P7) →SB346 (R41P9) → S42P3・7 →SB335 (S41P14)			
SB347	S41	中世後期	中世Ⅲ			2×1	3.50	3.20	11.20	9				遺物で判断
SB348	Q39・40・ 41, R40・41	中世前期	中世 I			1×2	5.25	4.35	22.84	18W	SB348 (R41P1) →SB345 (R41P29)			遺物で判断

[時期区分] 鐘文・鍾文、古代・古代、中世 I:～山茶梅型式、中世 II:～山茶梅型式～9型式、古瀬戸中路、中世 III:古瀬戸後路・大窯第1段階、中世 IV: 大窯第2段階～笠原 [各柱は復元報告図]

第8表 造構一覧表⑦

報告書号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・抜法などの特徴	出土	備考	色調	特記事項
1	130-01	調文土器	W11	SX105 深鉢	口径31.3 高さ41.5	口縁部 2/12	外：ナデ、ケズリ、沈線、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ	租	やや不良	にぶい黄褐色	
2	131-01	調文土器	O16	SX106 深鉢	口径32.0 高さ42.3	底部 12/12	外：ナデ、ケズリ、ハテメ、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ	やや租	やや不良	黒褐色、黒褐色	
3	334-01	調文土器	O15	SX107 —	—	口縁部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ	租	並	黄褐色	4と同一個体
4	132-01	調文土器	O16	SX107 深鉢	口径28.0	口縁部 10/12	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	租	やや良	黒褐色	3と同一個体
5	133-01	調文土器	O16	SX107 深鉢	底径7.6	底部 12/12	外：ナデ、ケズリ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	租	やや租	にぶい暗黃褐色	
6	334-02	調文土器	O16	SX108 深鉢	—	休部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ	租	やや不良	にぶい暗褐色	
7	134-01	調文土器	O16	SX108 深鉢	口径22.0 底径5.5 高さ60.0	底部 8/12	外：ナデ、ケズリ、ミガキ、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ、オサエ、ナデ、ヨコナデ	租	並	黄褐色 黄褐色 黄褐色	
8	340-02	調文土器	O16	SX108 深鉢	底径8.2	底部 12/12	外：ナデ 内：ナデ	租	やや租	にぶい暗褐色	
9	135-01	調文土器	O20	SX109 深鉢	口径42.5	口縁部 2/12	外：ケズリ、ミガキ、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ	租	並	にぶい黄褐色	
10	136-01	調文土器	P20	SX109 深鉢	口径40.6	口縁部 3/12	外：ケズリ、ミガキ、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ、オサエ、ヨコナデ	租	やや良	灰白色 黄褐色	
11	137-01	調文土器	P20	SX109 深鉢	口径30.6	口縁部 6/12	外：ケズリ、柔軟、突帯貼付 内：ナデ	租	良	灰白色、浅黃褐色	
12	335-01	調文土器	R18- 19	SX111 深鉢	口径32.0	口縁部 3/12	外：ナデ、柔軟、突帯貼付 内：ナデ、ミガキ	租	やや租	にぶい黄褐色	
13	145-01	調文土器	R19	SX111 深鉢	口径36.5	口縁部 3/12	外：ケズリ、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ	租	やや良	にぶい黄褐色 黒褐色	
14	141-01	調文土器	N15	SX113 深鉢	—	休部 1/12	外：ナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	租	並	にぶい暗褐色	
15	142-01	調文土器	O14	SX114 深鉢	底径6.6	底部 12/12	外：ナデ、ケズリ 内：ナデ	租	良	暗褐色 灰褐色	
16	153-01	調文土器	O15	SX129 深鉢	口径54.0	口縁部 8/12	外：ケズリ、ナデ、突帯貼付、ヨコナデ、キザミ 内：ナデ、ヨコナデ	やや租	良	灰褐色 黒	
17	152-01	調文土器	O15	SX129 深鉢	口径32.0 高さ38.7	口縁部 9/12	外：ケズリ、ナデ、柔軟、突帯貼付、ヨコナデ、キザミ 内：ナデ、ヨコナデ	租	並	にぶい黄褐色 黒褐色	
18	90-03	石製品 石斧	O15	SX129 —	—	1/2-1/3	—	—	—	—	ホルンブルルス 東海系刀型
19	129-06	調文土器	J16	SZ104 盤	口径22.8	口縁部 2/12	外：ケズリ、ミガキ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	租	並	黄褐色 褐褐色	
20	142-03	調文土器	R18	SZ110 深鉢	—	休部 1/12	外：ケズリ、突帯貼付 内：ナデ	租	良	灰白色、灰褐色	
21	144-02	調文土器	R18	SZ110 深鉢	—	休部 1/12	外：ナデ、突帯貼付 内：ナデ	租	良	黄褐色 黒褐色	
22	144-01	調文土器	O16	SZ112 深鉢	—	休部 1/12	外：ケズリ、ナデ、突帯貼付 内：ナデ	租	良	灰白色 浅黃褐色	23と同一個体
23	139-01	調文土器	O16	SZ112 深鉢	—	口縁部 1/12	外：ケズリ、柔軟、ナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ	やや租	良	灰白色	22と同一個体
24	139-02	調文土器	O16	SZ112 深鉢	—	口縁部 1/12	外：ケズリ、ナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ	租	並	にぶい黄褐色 白	
25	142-02	調文土器	O16	SZ112 深鉢	—	口縁部 1/12	外：柔軟、ナデ、突帯貼付 内：ナデ、オサエ、ヨコナデ	租	良	黑 にぶい黄褐色	
26	142-04	調文土器	N16	SZ112 深鉢	口径20.2	口縁部 3/12	外：柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内：柔軟、ナデ、ヨコナデ	租	良	灰褐色、褐灰色	27・28と同一個体
27	143-02	調文土器	O16	SZ112 深鉢	口径22.3	口縁部 2/12	外：柔軟、ナデ、突帯貼付 内：柔軟、ナデ、ヨコナデ	租	良	灰白色 黄褐色	26・28と同一個体
28	149-01	調文土器	N16	SZ112 深鉢	口径23.0	口縁部 2/12	外：ケズリ、ヨコナデ、突帯貼付 内：ケズリ、ヨコナデ	租	並	黄褐色 褐褐色	26・27と同一個体
29	140-02	調文土器	N16	SZ112 深鉢	—	口縁部 1/12	外：ケズリ、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ	租	並	灰白色 にぶい黄褐色	
30	144-03	調文土器	O16	SZ112 深鉢	—	口縁部 1/12	外：ナデ、突帯貼付 内：ナデ	租	良	灰白色 褐褐色	
31	143-04	調文土器	O16	SZ112 深鉢	—	口縁部 1/12	外：ナデ、突帯貼付 内：ナデ	租	良	灰白色 にぶい暗褐色	
32	143-01	調文土器	N16	SZ112 深鉢	—	口縁部 1/12	外：ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	租	良	灰白色、黒褐色 にぶい暗褐色	
33	149-02	調文土器	N19	SZ117 深鉢	—	口縁部 1/12	外：ナデ、柔軟 内：ナデ	租	良	灰褐色 黄褐色	
34	149-03	調文土器	N19	SZ117 深鉢	口径9.1	休部 3/12	外：ナデ、ミガキ 内：ナデ	やや租	良	褐褐色 黄褐色	27a7
35	339-01	調文土器	K15	SZ118 深鉢	—	口縁部 1/12	外：ナデ、突帯貼付 内：ナデ	やや租	良	にぶい暗褐色	
36	151-03	調文土器	Q15	SZ133 深鉢	—	口縁部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ	やや租	良	灰白色 にぶい暗褐色	
37	151-05	調文土器	O16	SZ134 深鉢	—	口縁部 1/12	外：柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ	やや租	良	にぶい暗褐色 黒褐色	
38	151-04	調文土器	P15	SZ134 深鉢	口径16.7	口縁部 2/12	外：ミガキ、ヨコナデ 内：ナデ、オサエ、ヨコナデ	やや租	やや良	にぶい暗褐色 灰褐色	
39	146-02	調文土器	N18	SZ115 深鉢	口径32.0	口縁部 2/12	外：柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ	租	良	にぶい黄褐色 灰白色	
40	146-01	調文土器	N19	SZ115 深鉢	口径31.0	口縁部 2/12	外：ケズリ、柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内：ナデ、ヨコナデ	やや租	良	明褐色、灰白色	

第9表 出土遺物観察表①

報告書番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(重量)(g)	残存度	調整・技法などの特徴		施主	機成	色調	特記事項	
							外:ケズリ、柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内:ナデ、ヨコナデ	外:ケズリ、柔軟、ナデ、突帯貼付 内:ナデ、オサエ					
43	147-01	縄文土器 深鉢	N18	SK115	—	口縁部 口1/2	外:ケズリ、柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内:ナデ、ヨコナデ	外:ケズリ、柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内:ナデ、ヨコナデ	租	良	明黄褐色 褐灰	根	
42	147-02	縄文土器 深鉢	N18	SK115	—	口縁部 口1/2	外:ケズリ、柔軟、ナデ、突帯貼付 内:ナデ、オサエ	外:ケズリ、柔軟、ナデ、突帯貼付 内:ナデ、オサエ	租	良	明黄褐色 褐灰	根	
43	148-02	縄文土器 深鉢	N18	SK115	口径23.2	口縁部 口1/2	外:ケズリ、柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内:オサエ	外:ケズリ、柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内:オサエ	租	良	浅黄褐色 褐灰	根	
44	148-04	縄文土器 深鉢	N18	SK115	—	口縁部 口1/2	外:ケズリ、柔軟、ナデ、突帯貼付 内:ナデ、オサエ	外:ケズリ、柔軟、ナデ、突帯貼付 内:ナデ、オサエ	租	良	浅黄褐色 褐灰	根	
45	148-01	縄文土器 深鉢	N18	SK115	口径18.5	口縁部 口1/2	外:ケズリ、柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内:ケズリ、ヨコナデ	外:ケズリ、柔軟、ヨコナデ、突帯貼付 内:ケズリ、ヨコナデ	租	良	浅黄褐色 褐灰	根	
46	151-01	縄文土器 深鉢	M18	SK115	—	口縁部 口1/2	外:柔軟、ナデ、突帯貼付、ヨコナデ、キザミ 内:ナデ、ヨコナデ	外:柔軟、ナデ、突帯貼付、ヨコナデ、キザミ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 租	良	灰白		
47	339-03	縄文土器 深鉢	M18	SK115	—	口縁部 口1/2	外:ナデ、ヨコナデ、突帯貼付 内:ナデ、ヨコナデ	外:ナデ、ヨコナデ、突帯貼付 内:ナデ、ヨコナデ	やや 租	良	灰白		
48	339-04	縄文土器 深鉢	M18	SK115	—	口縁部 口1/2	外:ナデ、ヨコナデ、突帯貼付 内:ナデ、ヨコナデ	外:ナデ、ヨコナデ、突帯貼付 内:ナデ、ヨコナデ	やや 租	良	灰黃		
49	147-03	縄文土器 深鉢	M18	SK115	—	口縁部 口1/2	外:ケズリ、ナデ、突帯貼付 内:ナデ、オサエ	外:ケズリ、ナデ、突帯貼付 内:ナデ、オサエ	租	良	灰黃褐色 褐黃		
50	340-01	縄文土器 深鉢	N18	SK115	—	口縁部 口1/2	外:ナデ、ヨコナデ、突帯貼付 内:ナデ、ヨコナデ	外:ナデ、ヨコナデ、突帯貼付 内:ナデ、ヨコナデ	やや 租	良	にぶい黃褐色 根		
51	146-05	縄文土器 深鉢	N18	SK115	—	口縁部 口1/2	外:ケズリ 内:ナデ、オサエ	外:ケズリ 内:ナデ、オサエ	租	良	黒褐色 にぶい黃褐色		
52	150-05	縄文土器 深鉢	M18	SK115	底径4.6	底面 6/12	外:ナデ、ケズリ 内:ナデ	外:ナデ、ケズリ 内:ナデ	租	やや 良	褐 灰		
53	150-04	縄文土器 深鉢	M18	SK115	底径8.0~ 8.8	底面 9/12	外:ナデ、ケズリ 内:ナデ	外:ナデ、ケズリ 内:ナデ	やや 租	良	浅黃褐色 にぶい黃褐色		
54	151-02	縄文土器 改鉢	M18	SK115	—	口縁部 口1/2	外:ミガキ、ヨコナデ 内:ミガキ、ヨコナデ	外:ミガキ、ヨコナデ 内:ミガキ、ヨコナデ	やや 租	良	灰黃褐色 にぶい黃褐色	補修孔	
55	339-02	縄文土器 深鉢	M15	SK116	—	口縁部 口1/2	外:ヨコナデ、突帯貼付 内:ヨコナデ	外:ヨコナデ、突帯貼付 内:ヨコナデ	やや 租	良	浅黃褐色 根		
56	146-04	縄文土器 深鉢	N20	SK120	—	口縁部 口1/2	外:ヨコナデ、突帯貼付 内:ヨコナデ	外:ヨコナデ、突帯貼付 内:ヨコナデ	租	良	灰白		
57	146-03	縄文土器 深鉢	N20	SK120	底径5.0	底面 7/12	外:ナデ、オサエ 内:ナデ	外:ナデ、オサエ 内:ナデ	租	良	にぶい黃褐色 根、褐灰		
58	148-03	縄文土器 深鉢	L16	SK124	—	口縁部 口1/2	外:ナデ、突帯貼付 内:ナデ	外:ナデ、突帯貼付 内:ナデ	租	良	にぶい黃褐色 にぶい黃褐色		
59	149-01	縄文土器 深鉢	L16	SK124	—	口縁部 口1/2	外:ミガキ 内:オサエ、ナデ	外:ミガキ 内:オサエ、ナデ	租	良	灰黃褐色 にぶい黃褐色		
60	150-03	縄文土器 深鉢	M13	SK125	—	口縁部 1/12	外:柔軟 内:ナデ	外:柔軟 内:ナデ	やや 租	良	にぶい赤褐色 根	明赤褐色	
61	150-01	縄文土器 深鉢	M13	SK125	底径6.9 ~7.3	底面 10/12	外:ナデ、ケズリ 内:ナデ	外:ナデ、ケズリ 内:ナデ	やや 租	良	黑褐色 根		
62	150-02	縄文土器 深鉢	L13	SK125	口径20.0	口縁部 2/12	外:ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	外:ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 租	やや 良	灰白 暗灰		
63	80-02	石製品 石器未製作品	O16	SZ112	—	長さ2.2 幅1.8 厚さ0.3 重量0.28	—	—	—	—	—	—	サヌカイト
64	80-03	石製品 石器未製作品?	O16	SZ112	—	長さ2.9 幅2.3 厚さ0.4 重さ3.68	—	—	—	—	—	—	サヌカイト
65	162-01	石製品 礫石	N19	SZ117 35X	—	長さ12.4 幅6.4 厚さ4.3 重量1.07	—	—	—	—	—	—	砂岩
66	162-02	石製品 礫器?	L17	SZ119	—	長さ16.6 幅9.2 厚さ4.9 重量(960)	—	—	—	—	—	—	粗質灰砂岩
67	103-01	石製品 石皿	N20	SZ121	—	長さ38.8 幅14.0 厚さ17.5 重量(?)	—	—	—	—	—	—	砂岩
68	99-01	石製品 最右(凹石)	N20	SZ122	—	長さ12.5 幅9.3 厚さ5.2 重量(250)	—	—	—	—	—	—	粗質灰砂岩 両面両側縫使用直跡
69	104-01	石製品 UF	M18	SK115	完形	長さ4.3 幅4.7 厚さ1.55 重量22.17	—	—	—	—	—	—	サヌカイト
70	104-02	石製品 剥片	M18	SK115	完形	長さ4.1 幅1.1 厚さ0.6 重量10.27	—	—	—	—	—	—	ホルンフェルス
71	104-05	石製品 複形石器	M18	SK115	—	長さ2.9 幅1.6 厚さ0.5 重量1.63	—	—	—	—	—	—	サヌカイト スボール(剥片)
72	104-03	石製品 剥片	M18	SK115	—	長さ2.5 幅1.25 厚さ0.3 重量0.7	—	—	—	—	—	—	サヌカイト
73	99-02	石製品 剥製石器	N18	SK115	—	長さ(9.1) 幅(5.1) 厚さ(3.6) 重量(250)	—	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイト 乳棒状

第10表 出土遺物観察表②

報告 番号	実測 番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調査・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
74	91-03	石製品 磨製石斧	M18	SK115	長さ 16.7 幅 5.9 厚さ 0.9 重量 860	完形	—	—	—	—	ハイアロクラスタイト 未製品
75	100-02	石製品 磨石	N18	SK115 4区	長さ (12.5) 幅 (6.1) 厚さ (6.1) 重量 (650)	—	—	—	—	—	縦灰質砂岩 片面使用
76	100-04	石製品 磨石片	N18	SK115	長さ (13.3) 幅 (6.0) 厚さ (2.0) 重量 (150)	—	—	—	—	—	縦灰質砂岩
77	98-01	石製品 敲石	N19	SK115 2区	長さ (7.5) 幅 (3.2) 厚さ (2.6) 重量 (80)	—	—	—	—	—	縦灰質砂岩
78	98-02	石製品 石皿片	N18	SK115 2区	長さ (12.2) 幅 (2.8) 厚さ (5.3) 重量 (150)	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイト
79	100-03	石製品 石皿か盤 石?	N18	SK115 3区	長さ (6.1) 幅 (7.7) 厚さ (5.6) 重量 (650)	—	—	—	—	—	縦灰質砂岩 片面使用
80	100-01	石製品 台石	N18	SK115 2区	長さ (10.2) 幅 (8.2) 厚さ 8.2 重量 1500	—	—	—	—	—	砂岩
81	98-01	石製品 器種不明	N18	SK115 3区	長さ (8.0) 幅 (5.5) 厚さ (1.9) 重量 (100)	—	—	—	—	—	砂岩
82	101-02	石製品 敲石?	M15	SK116	長さ (4.5) 幅 (3.4) 厚さ (3.8) 重量 (310)	—	—	—	—	—	縦灰質砂岩
83	97-01	石製品 石皿か砥 石	M15	SK116	長さ (20.4) 幅 (11.4) 厚さ (9.4) 重量 (250)	—	—	—	—	—	縦灰質砂岩
84	94-02	石材	M15	SK116	長さ (4.1) 幅 (7.6) 厚さ (3.1) 重量 (101.3)	—	—	—	—	—	チャート
85	94-01	石材	M15	SK116	長さ (12.0) 幅 (8.4) 厚さ (7.4) 重量 (360)	—	—	—	—	—	チャート
86	301-01	石製品 石刀	N20	SK120	刃部 3.6 柄部 3.9 柄頭部 2.1 柄尾部 2.3 重量 400	—	—	—	—	—	片麻岩
87	101-01	石製品 磨石?	N20	SK120	長さ 7.7 幅 5.5 厚さ 5.15 重量 370	—	—	—	—	—	砂岩
88	105-02	石製品 器?	L16	SK124	ほぼ完形	—	—	—	—	—	花崗岩
89	105-01	石製品 石皿	M16	Pit1	長さ 15.5 幅 14.8 厚さ 1.8 重量 1160	ほぼ完形	—	—	—	—	砂岩 片面使用 砾石として使用か
90	294-04	亂造器 長頸瓶	E8P1	SB142	直径 1.1 高さ 12/12	底部 ナデ 内: ロクロナデ	外: ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ヨコナデ 内: ロクロナデ	粗 良	灰褐色 灰白	—	破損 8世紀後半
91	190-01	土器器 瓶	Q40	SK229	口径21.0	口縁部 2/12	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	粗 良	灰白	—	—
92	280-07	亂造器 杯	Q40	SK229	—	—	外: ロクロナデ、ヘラ記号 内: ロクロナデ	やや 粗	黄灰、灰黃 にぶい青褐色	—	外面部ヘル記号
93	191-03	亂造器 杯	Q49	SK229	底径10.7 器高4.0	底部 3/12	外: ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	灰 灰	—	破損 8世紀前半
94	190-03	亂造器 杯	Q40	SK230	口径19.0 器高4.0	口縁部 5/12	外: ロクロナデ、ロクロケズリ 内: ロクロナデ	粗 良	浅黃褐色 灰白	—	—
95	190-02	亂造器 杯	Q40	SK230	口径14.8 器高4.4	口縁部 4/12	外: ロクロナデ、ナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	灰白 暗灰	—	—
96	192-03	亂造器 杯	Q39	SK231	直径7.1 器高2.8	底部 12/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや 粗	にぶい煙 灰	—	—
97	191-05	土器器 杯	Q39	SK231	口径11.6 器高3.3	口縁部 2/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: オサエ、ナデ、ヨコナデ	粗 良	灰白 灰黃	—	—
98	189-06	亂造器 杯	Q39	SK231	直径5.0 器高4.1	底部 7/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	粗 良	浅黃褐色 赤褐色	—	—
99	189-05	土器器 杯	Q39	SK231	口径12.9 器高4.0	口縁部 7/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	にぶい褐色 赤褐色、灰白	—	—
100	189-04	土器器 杯	Q39	SK231	口径20.2 器高4.5	口縁部 4/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	密 良	橙	—	—

第11表 出土遺物観察表③

報告書号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎝) 重量(㌘)	残存度	調整・技法などの特徴	始土	焼成	色調	特記事項
101	191-04	土師器 壺	Q39	SK231	口径14.8	口縁部 1/12	外：ケズリ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	術	良	灰白	
102	190-04	土師器 壺	Q39	SK231	—	口縁部 1/12弱	外：ヨコナデ、ケズリ 内：ヨコナデ、ハケメ	粗	不良	浅黄褐色 灰白、灰褐色	
103	192-02	土師器 壺	Q39	SK231	口径24.1	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	粗	良	灰白	にぶい擦
104	193-01	須恵器 壺	Q39	SK231	口径13.4 器高3.9	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、撫貼付、ナデ 内：ロクロナデ	術	良	灰	焼成 8世紀後半
105	193-02	須恵器 壺	Q39	SK231	口径17.8	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ	術	良	褐灰	焼成 NN-32
106	193-06	須恵器 壺	Q39	SK231	底径8.6 器高3.3	底盤部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ	術	良	灰	にぶい擦～ 8世紀後半
107	193-07	須恵器 壺	Q39	SK231	底径6.6	底盤部 12/12	外：ロクロナデ、底面系切 内：ロクロナデ	密	良	褐灰	8世紀後半
108	193-08	須恵器 壺	Q39	SK231	口径18.4	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	術	良	褐灰	焼成 8世紀後半
109	193-05	須恵器 壺	Q39	SK231	底径11.4 器高4.4	底盤部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	術	良	褐灰	焼成 8世紀後半
110	193-03	須恵器 杯	Q39	SK231	口径13.4 器高3.3	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、撫貼付、ナデ 内：ロクロナデ	術	良	灰	
111	191-01	須恵器 杯	Q39	SK231	口径11.9 器高3.3	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ヘラカリ	密	やや良	灰白	美濃須衛 8世紀前代
112	191-02	須恵器 盤	Q39	SK231	底径8.3	底盤部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ヨコナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰	焼成 9世紀前半
113	193-04	須恵器 盤	Q39	SK231	口径20.8	口縁部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰	
114	194-01	須恵器 盤	Q39	SK231	口径33.6	口縁部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	術	良	暗灰	焼成 8世紀後半
115	192-04	須恵器 長颈瓶	Q39	SK231	底径9.1	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ヨコナデ 内：ロクロナデ	密	良	黒褐色 灰	焼成 8世紀後半
116	194-02	須恵器 長颈瓶	Q39	SK231	底径5.9	底盤部 12/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ヨコナデ 内：ロクロナデ	術	良	灰	にびテ 焼成 8世紀後半
117	189-01	土製品 製塙土器	Q39	SK231	口径15.1 器高6.6	口縁部 1/12	外：オサエ、ナデ 内：ナデ	粗	やや良	浅黄褐色 志摩式	
118	189-03	土製品 製塙土器	Q39	SK231	口径17.0 器高6.5	口縁部 1/12	外：オサエ、ナデ 内：ナデ	粗	やや良	褐 浅黄褐色	志摩式
119	189-02	土製品 製塙土器	Q39	SK231	口径19.3 器高6.6	口縁部 1/12	外：オサエ、ナデ 内：ナデ	粗	やや良	褐 志摩式	
120	190-05	土製品 土鍋	Q39	SK231	長さ 3.7 幅 1.2 重さ 4.30	—	外：ナデ	密	良	浅黄褐色 灰白、灰	
121	190-06	土製品 土鍋	Q39	SK231	長さ 3.3 幅 1.3 重さ 5.25	—	外：ナデ	粗	良	灰白	
122	194-04	土製品 土鍋	Q39	SK231	残存長 4.3 幅 1.3 重さ 5.74	—	外：ナデ	術	良	灰白	
123	194-06	土製品 土鍋	Q39	SK231	残存長 4.9 幅 1.0 重さ 4.10	—	外：ナデ	密	良	灰白	
124	194-05	土製品 土鍋	Q39	SK231	残存長 5.3 幅 1.3 重さ 9.03	—	外：ナデ	術	良	灰白	
125	194-03	土製品 土鍋	Q39	SK231	長さ 5.7 幅 1.7 重さ 9.79	—	外：ナデ	術	良	灰白	
126	238-04	土師器 壺	E41	SK233	口径16.2 S41 (3)	口縁部 2/12	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、ナデ	密	良	淡赤褐色 灰白	
127	238-02	土師器 壺	E40- S41 (4)	SK233	口径16.0 S41 (4)	口縁部 2/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	密	不良	にぶい擦 灰白	
128	237-03	土師器 壺	E40- S41 (4)	SK245	口径5.0	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ハケメ	密	良	灰白 灰黃	
129	238-03	須恵器 壺	S41 (4)	SK233	底径7.7	底盤部 6/12	外：ロクロナデ、底面系切 内：ロクロナデ	密	良	浅黄褐色 灰白	
130	239-03	土師器 壺	E40- S41 (4)	SK233	口径23.8 S41 (3) ④	口縁部 1/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	良	浅黄褐色 成赤褐色	
131	243-02	須恵器 杯	Q40	SK244	底径11.8	底盤部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰、黄灰 灰黃褐色	
132	049-03	土師器 皿	H11	SD33	—	口縁部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	粗	不良	にぶい擦	風化化 調整不明瞭
133	049-02	土師器 皿	G12	SD33	口径16.0	口縁部 1/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	粗	不良	にぶい擦	風化化 調整不明瞭
134	048-03	土師器 皿	G12	SD33	—	口縁部 1/12	外：ナデ 内：ナデ	粗	良	淡赤褐色 灰黃褐色	風化化 調整不明瞭
135	049-04	須恵器 杯	H12	SD33	口径15.9	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ 内：ロクロナデ	密	不良	にぶい擦 内：ヘタ記号	
136	048-02	灰釉陶器 壺	H11	SD33	口径15.0 底径7.3	底盤部 6/12	外：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白	K-14

第12表 出土遺物観察表④

報告書番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎤) 重量(㌘)	残存度	調整・技法などの特徴	始土	焼成	色調	特記事項
137	048-04	土器 灰	H12	S003	口径17.9 底径13.0	3/12	外:ロクロナデ、ケヌリ、高台貼付、ヨコナデ 内:ロクロナデ	やや 不良	褐 浅黄褐	風化大 相	
138	048-01	直急器 灰	111	S003	頸部径13.0	頸部 6/12	外:ロクロナデ、タタキ 内:ロクロナデ、タタキ	やや 良	灰白	美濃須街 7世紀後葉~8世紀前半	
139	049-01	直急器 灰	R12	S003	口径18.7	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、摘み貼付、ナデ、タタキ 内:ロクロナデ、タタキ	密 良	灰白	美濃須街 7世紀後葉~8世紀前半	
140	252-06	土器 灰	Q52	S0204	口径12.8 器高:2	下層 4/12	外:マサエ、ヨコナデ 内:マサエ、ヨコナデ	やや 粗	灰白 灰白	不良	浅黄褐
141	261-05	土器 灰	R52	S0204	口径17.0	口縁部 3/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 粗	灰白 灰白	不良	にぶい黄褐 にぶい
142	253-05	土器 灰	Q50	S0204	口径11.4	口縁部 4/12	外:マサエ、ヨコナデ 内:マサエ、ヨコナデ	やや 密	灰白	良	灰白
143	252-05	土器 灰	R52	S0204	口径12.6 器高:8	中層 3/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:マサエ、ヨコナデ	やや 粗	灰白 灰白	不良	浅黄褐 明地灰
144	261-06	土器 灰	Q52	S0204	口径15.4	口縁部 3/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:マサエ、ヨコナデ	やや 粗	灰白 灰白	良	浅黄褐 黄褐
145	253-03	土器 灰	P53	S0204	口径6.6 器高:2.6	口縁部 4/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 粗	灰白 灰白	良	灰白 内面擦付着
146	250-07	土器 灰	P53	S0204	—	—	外:ナデ 内:ナデ	やや 粗	灰白 灰白	良	内面擦付着
147	257-01	短文土器 器	Q53	S0204	口径21.3 器高:5	口縁部 4/12	外:ケヌリ、ヨコナデ 内:ケヌリ、ヨコナデ、ミガキ	やや 密	良 にぶい	にぶい にぶい	黄褐
148	271-05	短文土器 器	R52	S0204	口径20.2	口縁部 1/12	外:ケヌリ、ヨコナデ 内:ケヌリ、ヨコナデ、ミガキ	密 良	灰白 灰白	良	極
149	251-04	土器 灰	R52	S0204	口径20.8 器高:3	口縁部 3/12	外:ケヌリ、ヨコナデ 内:ケヌリ、ヨコナデ	やや 粗	灰白 灰白	良	にぶい
150	253-02	黑色土器 灰	P53	S0204	口径15.0 器高:5.5	口縁部 3/12	外:ケヌリ、ヨコナデ、ミガキ 内:ナデ、ヨコナデ、ミガキ	やや 密	良 にぶい	にぶい 黄褐	黄褐
151	271-03	土器 灰	R52	S0204	口径20.0	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ハケヌ 内:ヨコナデ、ハケヌ	良	灰白 灰白	良	灰白 黄褐
152	253-04	土器 灰	Q52	S0204	口径22.2	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ハケヌ 内:ヨコナデ、ケヌリ、ハケヌ	やや 密	灰白 灰白	良	灰白 灰白
153	262-03	土器 灰	Q52	S0204	口径22.2	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ハケヌ 内:ヨコナデ、ハケヌ	やや 粗	灰白 灰白	良	にぶい
154	252-02	土器 灰	R52	S0204	口径23.0	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ハケヌ 内:ヨコナデ、ハケヌ	やや 密	灰白 灰白	良	灰白
155	262-04	土器 灰	Q52	S0204	口径16.1	口縁部 3/12	外:ヨコナデ、ハケヌ、ナデ 内:ヨコナデ、ハケヌ	やや 粗	良 灰白	にぶい 黄褐	黄褐
156	262-02	土器 灰	Q52	S0204	口径16.2	口縁部 5/12	外:ヨコナデ、ハケヌ、ケヌリ 内:ヨコナデ、ハケヌ、ナデ	やや 密	良 灰白	不良	褐灰
157	252-03	土器 灰	R52	S0204	口径16.0	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ハケヌ、ケヌリ 内:ヨコナデ、ハケヌ、ナデ	やや 粗	灰白 灰白	良	にぶい
158	252-01	土器 灰	R52	S0204	口径28.0	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ハケヌ 内:ヨコナデ、ハケヌ	やや 密	良 灰白	良	灰白
159	262-01	土器 灰	Q52	S0204	口径37.0	口縁部 2/12	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ハケヌ	やや 粗	良 灰	にぶい	相
160	254-01	直急器 杯	R51	S0204	口径19.7 器高:2	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ、摘贴付、ナデ 内:ロクロナデ	密 良	灰 灰	良	旗授 C-2~I-25
161	254-02	直急器 杯	R52	S0204	口径15.9 器高:3	下層 5/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ、摘贴付、ナデ 内:ロクロナデ	密 良	灰 灰	内面へら記号	旗授 C-2~I-25
162	264-01	直急器 杯	R51	S0204	口径18.0 器高:3	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ、摘贴付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 粗	赤灰 灰白	良	旗授 SN-32
163	264-00	直急器 杯	R51	S0204	口径19.0 器高:3	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ 内:ロクロナデ	やや 粗	良 灰白	内面に蝶付着	
164	267-05	直急器 杯	R51	S0204	口径13.4 器高:2	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ、摘贴付、ナデ 内:ロクロナデ	密 良	灰 紫灰	良	
165	267-06	直急器 杯	R51	S0204	口径13.6 器高:2	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ、摘贴付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 密	良 黄灰	良	旗授 O-10
166	270-02	直急器 杯	Q51	S0204	口径13.2 器高:5	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ、摘贴付、ナデ 内:ロクロナデ	密 良	灰 灰	良	外面墨書 旗授 8世紀後半
167	251-06	直急器 杯	R52	S0204	口径18.6 器高:1	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ、摘贴付、ナデ 内:ロクロナデ	密 良	灰 灰	良	旗授 O-10
168	254-03	直急器 杯	Q52	S0204	口径16.4 器高:5	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ、摘贴付、ナデ 内:ロクロナデ	密 良	灰白 灰白	良	
169	259-02	直急器 杯	Q53	S0204	口径14.0 器高:6	口縁部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ、摘贴付、ナデ 内:ロクロナデ	密 良	灰白 灰白	良	
170	255-05	直急器 杯	Q53	S0204	口径16.0 —	—	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ 内:ロクロナデ	密 良	灰 灰	良	外面墨書
171	255-02	直急器 杯	Q53	S0204	口径4.6 器高:3	口縁部 5/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ、摘贴付、ナデ 内:ロクロナデ	密 良	灰 灰	良	外面墨書「戊口」
172	250-01	直急器 杯	R52	S0204	口径14.0 器高:3	口縁部 10/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ 内:ロクロナデ	密 良	灰白 灰白	良	外面墨書「場道口十 通」
173	384-01	直急器 杯	P53	S0204	—	—	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密 良	にぶい 相	良	内面擦付着
174	264-06	直急器 杯	P53	S0204	口径12.2 器高:9	口縁部 5/12	外:ロクロケヌリ、ヘタキリ、ナデ 内:ロクロナデ	密 良	灰白 灰白	良	旗授 I-41
175	270-05	直急器 杯	Q52	S0204	口径51.0 器高:3.8	下層 3/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ 内:ロクロナデ	密 良	灰 灰	良	旗授 8世紀後半
176	265-02	直急器 杯	Q52	S0204	口径12.1 器高:9	口縁部 5/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ 内:ロクロナデ	密 良	灰 灰	良	旗授 8世紀後半
177	254-06	直急器 杯	Q52	S0204	口径12.8 器高:6.2	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロケヌリ 内:ロクロナデ	密 良	灰 灰	良	旗授 O-10

第13表 出土遺物觀察表⑤

報告書番号	東測面番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㌘)	残存度	調整・技法などの特徴	始土	填成	色調	特記事項
178	264-04	須恵器 杯	P52	S2204 上層	口径11.5 器高4.2	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	にぶい橙 灰褐色	遺授 8世紀後半
179	257-02	須恵器 杯	P52	S2204 中層	口径11.6 器高4.0	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰褐色	
180	255-01	須恵器 盤	P53	S2204 下層	口径21.4 器高3.0	口縁部 3/12	外:ロクロケズリ、高台貼付、ヨコナデ、ロクロ ナデ 内:ロクロナデ	密	良	褐色 灰	表面外面墨書き「教」 遺授 8世紀後半
181	271-02	須恵器 盤	P52	S2204 中層	底径9.4 器高4.2	底部 4/12	外:ロクロケズリ、高台貼付、ヨコナデ、ロクロ ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰黃褐色 にぶい黄褐色	遺授 8世紀後半
182	254-08	須恵器 盤	P52	S2204 中層	底径9.2 器高3.0	底部 9/12	外:ロクロケズリ、高台貼付、ヨコナデ、ロクロ ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	遺授 IG-78
183	270-01	須恵器 杯	P53	S2204	底径9.4 器高4.0	底部 8/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	赤灰 にぶい橙	遺授 8世紀後半
184	261-07	須恵器 杯	P52	S2204 中層	底径10.8 器高4.0	底部 7/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰黃褐色	遺授 8世紀後半
185	267-01	須恵器 杯	P51	S2204 上層	口径17.1 器高4.4	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰	遺授 8世紀後半
186	271-01	須恵器 杯	P52	S2204 中層	底径16.1 器高4.0	底部 2/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	褐色 にぶい橙	8世紀後半
187	270-03	須恵器 杯	P52	S2204 下層確認	底径13.5 器高1.0	底部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	褐色 にぶい黄褐色	遺授 8世紀後半
188	251-03	須恵器 杯	P52	S2204 中層	底径14.0 器高4.8	底部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰	遺授 8世紀後半
189	256-03	須恵器 杯	P52	S2204 下層確認	底径12.2 器高3.0	底部 7/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰	外面底部墨書き「依」 美濃県御 8世紀後半～9世紀前葉
190	265-01	須恵器 杯	P52	S2204 中層	底径15.7 器高3.0	底部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰	
191	270-04	須恵器 杯	P52	S2204 下層確認	口径19.2 器高3.0	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	
192	266-04	須恵器 杯	P52	S2204 上層	底径13.5 器高2.6	底部 7/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	浅黃褐色 にぶい橙	内面へラ記号「十」
193	265-04	須恵器 杯	P52	S2204 上層	底径12.0 器高2.8	口縁部 5/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ 内:ロクロナデ	やや密	良	浅黃褐色 灰	NN-32
194	250-02	須恵器 杯	P52	S2204 中層	底径14.0 器高3.3	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	外面底部墨書き「居」
195	261-04	須恵器 杯	P52	S2204 上層	底径15.0 器高3.0	底部 9/12	外:ロクロナデ、底部糸切 内:ロクロナデ	密	良	にぶい橙	
196	267-05	須恵器 杯	P52	S2204 上層	底径14.8 器高3.0	口縁部 3/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰黃褐色 灰赤	
197	375-03	須恵器 杯	P52	S2204 中層	底径10.2 器高3.3	口縁部 11/12	外:ロクロケズリ、ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	黒褐色	内外面漆防着
198	266-05	須恵器 杯	P52	S2204	口径11.5 器高3.2	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、底部糸切 内:ロクロナデ	密	良	にぶい橙 灰褐色	遺授 9世紀前半
199	266-03	須恵器 杯	P51	S2204 上層	底径11.7 器高3.9	底部 7/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白	美濃県御 8世紀前半
200	259-03	須恵器 杯	P52	S2204 中層	底径13.0 器高3.7	底部 12/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰	9世紀前半
201	265-06	須恵器 杯	P53	S2204 下層	底径15.5 器高3.0	底部 5/12	外:ロクロナデ、ヘラキナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	外面底部墨書き 美濃県御8世紀後半～9世紀
202	265-05	須恵器 杯	P52	S2204 上層	底径13.0 器高3.8	口縁部 6/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白	美濃県御 9世紀前半
203	267-02	須恵器 杯	P52	S2204 上層	底径13.7 器高3.3	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ 内:ロクロナデ	やや密	良	灰白	美濃県御 9世紀前半
204	261-01	須恵器 杯	P52	S2204 上層	底径16.0 器高3.0	底部 10/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	美濃県御 9世紀前半
205	265-06	須恵器 杯	P52	S2204 上層	底径15.0 器高3.7	底部 12/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	外:須恵器墨書き「勝」 内:須恵器 9世紀
206	256-04	須恵器 杯	P52	S2204 上層	底径13.8 器高3.8	底部 4/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	外:須恵器 9世紀
207	255-03	須恵器 杯	P53	S2204 中層	底径16.2 器高3.5	底部 12/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰	外:須恵器墨書き「次太」 美濃県御 9世紀
208	252-04	須恵器 杯	P52	S2204 中層	底径13.0 器高3.8	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ、ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	浅黃褐色	
209	264-03	須恵器 杯	P52	S2204 中層	底径14.0 器高3.9	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ、ナデ 内:ロクロナデ	やや密	良	にぶい橙 褐色	
210	271-04	須恵器 杯	P52	S2204 下層	底径15.4 器高3.5	口縁部 5/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	9世紀後半～10世紀
211	250-03	須恵器 杯	P53	S2204 中層	底径6.6 器高3.0	底部 3/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白 にぶい黃褐色	外面底部墨書き
212	255-04	須恵器 杯	P53	S2204 中層	底径6.8 器高3.9	底部 12/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰黃褐色	内面墨書き「你本」
213	250-04	須恵器 杯	P53	S2204 下層	底径12.6 器高4.1	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、底部糸切 内:ロクロナデ	やや密	良	灰黃褐色 灰黃褐色	内面底部墨書き「口竹」
214	256-01	須恵器 杯	P53	S2204 中層	底径14.0 器高3.0	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、ヘラケズリ、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	にぶい黃褐色 灰黃褐色	内面底部墨書き
215	256-06	須恵器 杯	P52	S2204 中層	底径6.5 器高4.1	底部 3/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	内面底部墨書き 美濃県御 9世紀前半
216	266-03	灰陶胸器 皿	P52	S2204 上層	底径15.5 器高2.4	底部 10/12	外:ロクロナデ、底部糸切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	K-14
217	254-04	灰陶胸器 皿	P51	S2204 上層	口径15.0 器高3.0	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、底部糸切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白 灰黃褐色	K-90

第14表 出土遺物観察表⑥

報告書番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎝) 重量(㌘)	残存度	調整・技法などの特徴	出土	焼成	色調	特記事項
218	266-02	灰釉陶器	R52	S2024 上層	口径15.7 高さ4.2	口縁部 10/12	外:ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	K-14
219	266-01	灰釉陶器	P53	S2024 上層	底径3.3 高さ3.0	底部 12/12	外:ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ、施釉	やや 密	良	灰白	K-90
220	250-05	灰釉陶器	P53	S2024 上層	底径7.5	底部 7/12	外:ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	外面底部墨書き「田太」 K-90
221	266-02	灰釉陶器	R52	S2024 上層	口径17.4	口縁部 8/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰	
222	280-02	灰陶器	Q52	S2024 下層確認	口径9.4	口縁部 11/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰黄 灰黄	8世紀後半
223	259-05	灰陶器	R52	S2024 上層	体径12.0 高さ6.0	底部 12/12	外:ロクロケズリ、ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	焼成 8世紀後半
224	259-04	灰陶器	R52	S2024 下層	底径4.1 高さ1.1	底部 12/12	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ	密	良	灰白	焼成 9世紀前半
225	267-04	灰陶器	R51	S2024 上層	口径11.8	口縁部 12/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや 密	良	灰 灰	焼成 8世紀後半
226	261-02	灰釉陶器	R52	S2024 長頸瓶	口径7.6	口縁部 8/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	褐灰 灰	焼成 8世紀後半
227	253-06	灰釉陶器	Q53	S2024 中層	口径6.0	口縁部 2/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	黄灰	焼成 8世紀後半
228	261-03	灰釉陶器	P53	S2024 長頸瓶	口径6.0	口縁部 2/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰	焼成 8世紀後半
229	253-01	灰釉陶器	Q52	S2024 中層	底径7.1	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ヨコ ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰	焼成 8世紀後半
230	263-01	灰釉陶器	P53	S2024 上層	底径8.0	底部 2/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ヨコ ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰	焼成 0-10
231	251-02	灰釉陶器	R52	S2024 長頸瓶	底径8.2	底部 2/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや 粗	良	灰 オリーブ黒	焼成 8世紀後半
232	258-04	灰釉陶器	R52	S2024 上層	底径8.1	底部 12/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ヨコ ナデ 内:ロクロナデ	やや 密	良	褐灰 灰白	焼成 8世紀後半
233	266-01	灰陶器	R52	S2024 下層	体径20.0	体部 5/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ヨコ ナデ 内:ロクロナデ	やや 密	良	灰白 灰	8世紀後半
234	258-03	灰釉陶器	R52	S2024 中層	底径17.6	底部 5/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ヨコ ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	K-90
235	251-01	灰陶器	P53	S2024 上層	-	-	外:ロクロナデ、耳貼付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	焼成 0-10
236	258-02	灰陶器	P53	S2024 上層	口径15.6	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、タタキ 内:ロクロナデ	やや 密	良	灰白 灰	焼成 7世紀末
237	258-01	灰陶器	P53	S2024 上層	口径17.0	口縁部 4/12	外:ロクロナデ、タタキ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	9世紀前半
238	268-03	灰陶器	R51	S2024 上層	口径26.5	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、沈鬱、刷突 内:ロクロナデ	やや 密	良	灰白	7世紀末
239	251-05	土製品	R52	S2024 下層確認	口径14.6 高さ1.2	口縁部 2/12	外:オサエ、ナデ 内:ナデ	粗	良	褐、淡赤褐 淡橙	志摩式
240	271-06	土製品	R52	S2024 中層	口径17.2	口縁部 1/12	外:オサエ、ナデ 内:ナデ	密	良	にぶい褐色	志摩式
241	257-04	土製品	R52	S2024 上層	底径17.0	底部 2/12	外:オサエ、ナデ 内:ナデ	やや 粗	良	褐色 にぶい褐色	志摩式
242	270-07	土製品	Q52	S2024 中層	-	-	外:オサエ、ナデ 内:ナデ	やや 粗	良	にぶい褐色 灰褐色	志摩式
243	270-06	土製品	Q52	S2024 上層	底径16.0 高さ6.7	底部 1/12	外:オサエ、ナデ 内:ナデ	やや 粗	良	にぶい褐色 褐色	志摩式
244	254-07	灰陶器	R51	S2024 上層	-	-	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	黑褐色 灰黃褐色	焼成 8世紀後半
245	257-03	土製品	Q53	S2024 中層	残存長4.4 幅1.2 厚さ0.8	-	外:ナデ 内:ナデ	やや 密	良	にぶい褐色 にぶい黄褐色	
246	281-08	土製品	Q53	S2024 中層	残存径7.6	-	外:ナデ	やや 粗	良	灰白	
247	281-09	土製品	R52	S2024 中層	残存径7.0	-	外:ナデ	やや 粗	良	灰白 灰オリーブ	
248	269-01	土製品	R51	S2024 上層	残存長16.2 最大幅2.8	-	外:ナデ、有目 内:ナデ、有目	やや 密	良	灰	
249	154-01	銅製品 鎗	Q53	S2024 上層	長3.0 幅1.4 厚0.8	-	-	-	-	-	添付着
250	371-04	木製品 机	Q52	S2024	残存長21.6 幅4.9	-	-	-	-	-	-
251	372-01	木製品 机	R52	S2024 下層確認	残存長47.5 幅6.5	-	-	-	-	-	-
252	371-01	木製品 机	Q52	S2024	残存長51.5 幅9.2	-	-	-	-	-	-
253	371-01	木製品 机	S2024		残存長42.0 幅9.6	-	-	-	-	-	-
254	370-02	木製品 机	S2024		残存長42.4 幅7.5	-	-	-	-	-	-
255	371-02	木製品 机	Q52	S2024	残存長56.1 幅7.5	-	-	-	-	-	-

第15表 出土遺物観察表⑦

報告番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(cm) 重量(g)	残存度	調整・括法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項	
256	263-02	石製品 石有	R52	S2004 上層	長さ13.8 重さ760	—	—	—	—	—	砂岩	
257	269-01	石製品 石無	R52	S2004 上層	長さ24.1 重さ1900	—	—	—	—	—	砂岩	
258	350-01	木製品 柱	D491 3件	S8129 3件	直径約53.7 径高比7.7	—	—	—	—	—	ナメ科クリ属	
259	373-01	木製品 柱	F41P1 3件	S8296 3件	直径約41.0 幅(14.0)	—	—	—	—	—	—	
260	026-02	青磁 桶	J9	S824	口径15.8	口縁部 2/12	外：クロコナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	やや 良	灰白	—	—	
261	025-04	陶器 小皿	M19	S853	底径5.3 器高2.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ	やや 良	灰白	—	漫美型第5型式	
262	025-05	白磁 桶	M19	S853	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	やや 良	灰白	—	—	
263	027-03	土師器 鍋	O19	S857	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや 粗	灰白	—	南伊勢系	
264	029-04	陶器 小皿	O19	S891	口径7.0 器高2.1	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ	やや 良	灰白	—	尾張型第6型式	
265	029-06	土師器 皿	O19	S891	口径5.5 器高2.0	口縁部 10/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 密	灰白	にぶい 良	成形櫻	
266	029-05	陶器 山茶碗	P19	S891	底径6.4	底部 5/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	やや 良	灰白	—	尾張型第6型式	
267	029-03	陶器 山茶碗	P19	S891	底径7.0	底部 10/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	やや 良	灰白	—	尾張型第5型式	
268	079-04	鉄製品 大刀鍔	O19	S891	最大長3.9 最短7.35	—	—	—	—	—	—	
269	293-01	土師器 鍋	1791 16往復 板	S8196	口径23.0	口縁部 6/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	灰黄櫻	南伊勢系	
270	341-03	陶器 山茶碗	Q24P1	S8319	底径7.2	底部 9/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	やや 密	灰白	—	尾張型第5型式	
271	283-04	土師器 小皿	P11	S8345	口径8.4 器高1.7	口縁部 9/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	良	灰黄 灰灰	—	
272	281-04	土師器 小皿	P11	S8345	口径6.6	口縁部 器高1.6	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	にぶい 櫻	—	
273	279-03	陶器 山茶碗	P41	S8345	口径15.2 器高5.5	口縁部 P129	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	やや 粗	灰白	—	尾張型第6型式	
274	336-04	陶器 小皿	P40	S8348	口径7.8	口縁部 器高6.6	外：ロクロナデ、底部系切	やや 密	灰白	—	尾張型第7型式	
275	281-06	陶器 小皿	P49	S8342	口径8.0	口縁部 P12	外：ロクロナデ、底部系切	やや 粗	灰	—	尾張型第6型式	
276	337-02	土師器 鍋	P43	S8343	—	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや 密	良	灰白	—	—	
277	018-05	土師器 小皿	E4	S86	口径7.0 器高1.5	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ 内：ナデ	やや 密	良	にぶい 櫻	—	
278	018-04	土師器 小皿	E4	S86	口径10.8 器高1.8	口縁部 2/12	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	良	にぶい 櫻	—	
279	017-07	陶器 小皿	16	S811	口径7.9 器高1.8	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ	やや 粗	灰白	外面部墨書き「三」	尾張型第6型式	
280	019-09	陶器 山茶碗	16	S811	底径5.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	やや 密	灰白	底面部墨書き 尾張型第6型式(櫻)	—	
281	019-08	陶器 山茶碗	15	S811	底径7.8	底部 4/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	やや 密	灰白	底面部墨書き 尾張型第5型式	—	
282	021-04	白磁 皿	18	S818	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	—	
283	021-02	陶器 山茶碗	18	S818	底径7.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	密	良	灰白	尾張型第5型式	
284	021-01	陶器 山茶碗	18	S818	底径7.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	密	良	灰白	漫美型第5型式	
285	021-01	陶器 山茶碗	17	S818	口径16.1 器高5.7	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	密	良	灰白	漫美型第5型式	
286	020-01	陶器 片口鉢	17	S818	底径15.2	底部 1/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	やや 密	良	灰白	尾張型第5型式	
287	021-05	白磁 皿	17	S818	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	—	
288	021-07	土製品 土器	17	S818	重量3.4	—	外：ナデ	やや 密	不良	洪帝櫻	両端や少損	
289	021-06	土製品 埴塗土器	18	S818	重量5.13	—	—	やや 不良	にぶい 洪帝櫻	知多式 表面剥離のため調整不明	—	
290	025-01	陶器 山茶碗	J11	S846	口径16.8 器高3.4	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白	尾張型第3型式	—
291	030-01	陶器 山茶碗	016	S8103	底径7.5	底部 2/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台付、ナデ	密	良	灰白	漫美型第4型式	—
292	249-07	土師器 小皿	P42	S8219	口径8.6 器高1.0	口縁部 3/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	良	權	—	—
293	241-06	*上師器 皿	P42	S8219	底径4.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、底部系切	密	良	にぶい 洪帝櫻	—	—
294	241-05	陶器 小皿	P42	S8219	底径4.9 器高1.5	底部 12/12	外：ロクロナデ、底部系切	やや 密	良	灰	尾張型第6型式	—
295	241-02	上師器 鍋	P42	S8219	口径7.2	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや 密	良	にぶい 黃櫻	浦郷型	—

第16表 出土遺物観察表⑧

報告 番号	実測 番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
296	241-04	陶器 山茶輪	P42	SK219	底径7.5 5/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	術	良	灰白	圓美型第5型式	
297	241-03	山茶輪	P42	SK219	口径7.4 器高5.6 5/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	術	良	灰白	尾張型第5型式	
298	243-03	陶器 山茶輪	Q42	SK228	底径7.1 9/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	圓美型第6型式	
299	249-05	土罐器 鼎	S34	SK236	口径12.8 器高2.8 11/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 術	不良	灰白	にふい黄橙	
300	249-03	土罐器 鼎	S34	SK236	口径14.3 器高2.1 1/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	良	粗	灰白	浅黄橙	
301	249-04	土罐器 鼎	S36	SK236	-	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	粗	心今	灰白	清都型	
302	241-01	陶器 鼎	S34	SK236	底径19.0 2/12	外:エラチナデ、ケズリ 内:ロクロナデ	術	良	灰白	常滑製品 5~6型式	
303	249-06	青磁 鉢	S34	SK236	底径6.3 12/12	外:ロクロナデ、削出高台、印刷、施釉 内:ロクロナデ、施釉	術	良	灰白	内面「金玉滿堂」印刷有り	
304	234-03	陶器 山茶輪 小皿	B43	SK237	底径5.1 器高3.8 3/12	外:ロクロナデ、底部斜切 内:ロクロナデ	術	良	灰白	尾張型第6型式	
305	242-01	土罐器 鼎	S35	SK242	口径12.0 器高4.4 5/12	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	術	やや 不良	にふい黄橙		
306	242-02	陶器 山茶輪	S35	SK242	底径7.8 1/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	粗	良	灰白	圓美型第5型式	
307	243-04	土罐器 鉢	Q27	SK306	-	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	粗	良	浅黄橙	南伊勢系	
308	230-07	土罐器 小皿	B48	SK256	口径5.0 器高3.6 9/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	術	不良	灰白	明磯灰	
309	231-05	土罐器 小皿	B48	SK256	口径3.3 器高2.0 12/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	術	良	にふい煙		
310	231-04	土罐器 小皿	Q48	SK256	口径3.9 器高3.9 11/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	術	良	にふい煙 にふい黄橙		
311	230-03	土罐器 小皿	R47	SK256	口径5.5 器高3.6 9/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	術	不良	にふい黄橙		
312	230-04	土罐器 小皿	R47	SK256	口径5.4 器高3.9 11/12	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	術	良	にふい黄橙		
313	231-02	土罐器 小皿	Q48	SK256	口径4.4 器高3.8 1/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	術	不良	灰白		
314	231-03	土罐器 小皿	Q48	SK256	口径5.9 器高4.6 11/12	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	術	やや 不良	灰白		
315	230-05	土罐器 小皿	R47	SK256	口径12.6 器高2.8 6/12	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	術	やや 不良	粗		
316	230-06	土罐器 小皿	Q48	SK256	口径13.2 器高2.9 4/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	術	良	粗		
317	230-08	*?土罐器 小皿	R48	SK256	底径5.0 12/12	外:ロクロナデ、底部斜切 内:ロクロナデ	心今 粗	やや 不良	灰白 灰		
318	249-02	陶器 山茶輪	R48	SK256	口径6.1 器高2.0 10/12	外:ロクロナデ、底部斜切 内:ロクロナデ	術	良	灰白	外面底部削巻「二」 尾張型第4型式	
319	230-02	陶器 山茶輪	R47	SK256	口径14.0 器高9.0 10/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第4型式	
320	230-01	陶器 山茶輪	Q48	SK256	口径15.4 器高9.0 2/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第7型式 (鶴戸)	
321	231-01	土罐器 鉢	Q48	SK256	口径22.4 1/12	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや 粗	不良	灰赤 灰白	南伊勢系	
322	034-05	肌壺 鉢	F8	SD14	底径14.0 器高6.7 5/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰赤 灰	施塗 H31紀後半	
323	034-02	陶器 小皿	J6	SD14	口径7.5 器高2.1 9/12	外:ロクロナデ、底部斜切 内:ロクロナデ	術	良	灰白	尾張型第6型式	
324	036-03	陶器 山茶輪	F8	SD14	底径7.4 4/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 密	良	灰白	尾張型第3型式	
325	036-02	陶器 山茶輪	F8	SD14	底径7.3 12/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第5型式	
326	034-03	陶器 山茶輪	F8	SD14	底径5.5 12/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	術	良	灰白	尾張型第6型式	
327	034-01	陶器 山茶輪	J6	SD14	底径5.6 12/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	術	良	灰白	尾張型第7型式 (鶴戸)	
328	034-04	陶器 山茶輪	E8	SD14	口径13.6 器高6.6 10/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	密	やや 良	灰白	高台剥離 尾張型第7型式 (鶴戸)	
329	035-03	陶器 山茶輪	G8	SD14	口径12.2 器高5.0 12/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	術	良	灰白	尾張型第7型式 (鶴戸)	
330	035-02	陶器 山茶輪	G8	SD14	口径13.2 器高5.6 8/12	外:ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	術	良	灰白	尾張型第7型式 (鶴戸)	
331	035-01	陶器 山茶輪	F8	SD14	口径14.0 器高4.7 4/12	外:ロクロナデ、底部斜切 内:ロクロナデ	術	良	灰白	尾張型第8型式 (鶴戸)	
332	034-04	陶器 口片鉢	F8	SD14	底径12.0 器高3/12	外:ロクロナデ、ケズリ、底面斜切、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	術	良	灰白	尾張型第6型式ぐらいい	
333	036-06	陶器 水注	F8	SD14	口径5.7 4/12	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	術	良	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸前中期	
334	038-05	青磁 鉢	F8	SD14	-	外:ロクロナデ、印刷、施釉 内:ロクロナデ、施釉	術	良	灰白		
335	039-01	須恵器 酒盃	G10	SD21	口径10.2 器高2.8 1/12	外:ロクロナデ、底部斜切、施釉貼付、ナデ 内:ロクロナデ	術	良	赤灰	施役 SN-32	
336	039-02	須恵器 杯	G9	SD21	底径10.0 3/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	術	良	青灰 灰		

第17表 出土遺物觀察表⑨

報告 番号	実測 番号	器種等	小地 区	遺構名	法量 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
337	045-05	乳頭器 蓋	H10	S027	口径13.7	口縁部 1/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白		
338	046-01	乳頭器 蓋	H8	S027	—	口縁部 1/12	外: ヨコナデ、ハケヌ 内: ヨコナデ、ハケヌ	やや 良	黄 褐色		
339	046-02	上部器 蓋	H10	S027	—	口縁部 1/12	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	やや 良	黄 褐色	南伊勢系	
340	046-06	陶器 山茶桜	H10	S027	口径13.8	口縁部 3/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第7・8型式	
341	046-05	陶器 片口鉢	H10	S027	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式(知多)	
342	046-04	陶器 片口鉢	H8	S027	口径20.2 器高2.1	口縁部 4/12	外: ロクロナデ、ケメリ、底面系切、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式(常滑)	
343	046-03	土製品 輪	H10	S027	最大径3.3 幅1.2 重最1.47	—	外: ナデ	やや 粗	灰白		
344	244-02	陶器 山茶桜	P25	S085	底径8.7 高さ9.9	底部 4/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
345	188-08	土師器 蓋	O49	S0207	口径13.4	口縁部 4/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ	不 良	ぶい櫻		
346	188-05	白磁 蓋	Q49	S0207	底径6.6	底部 6/12	外: ロクロナデ、削出高台、施釉	良	灰白		
347	217-07	土師器 小皿	B47	S0286	口径8.3	口縁部 6/12	外: ナデ	良	灰白		
348	217-05	土師器 小皿	B47	S0286	口径8.3	口縁部 6/12	外: ナデ	良	ぶい櫻		
349	217-06	土師器 小皿	B47	S0286	口径8.5	口縁部 6/12	外: ナデ	良	浅黃褐色		
350	214-06	土師器 蓋	B47	S0286	口径12.2	口縁部 5/12	外: ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 不良	ぶい櫻		
351	215-01	土師器 蓋	B47	S0286	口径12.1	口縁部 2/12	外: ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	良	浅黃褐色		
352	214-07	土師器 蓋	B47	S0286	口径12.8	口縁部 3/12	外: ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	不 良	ぶい櫻 にぶい櫻		
353	217-04	陶器 蓋	R47	S0286	口径2.2	口縁部 3/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	粗	灰白	尾張型第6型式	
354	217-03	陶器 小皿	R47	S0286	口径6.2	口縁部 12/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	良	灰白	尾張型第6型式	
355	217-02	陶器 小皿	R47	S0286	口径6.1	口縁部 12/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	良	灰白	尾張型第6型式	
356	274-02	陶器 山茶桜	R47	S0286	底径7.2	底盤 5/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
357	216-02	陶器 山茶桜	S47	S0286	底径7.4	底盤 12/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
358	274-01	陶器 山茶桜	R47	S0286	底径6.6	底盤 12/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	良	灰白	外面部裏墨 尾張型第6型式	
359	216-01	陶器 山茶桜	S47	S0286	口径15.2	口縁部 3/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナ 内: ヨコナデ	やや 良	灰白	内面部裏墨 尾張型第6型式	
360	275-03	陶器 山茶桜	R47	S0286	底径7.0	底盤 12/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
361	178-03	土師器 蓋	P53	S0200	口径18.8	口縁部 6層下 器高3.1	外: ヨコナデ、ミガキ、ケズリ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	にぶい櫻 明麗反		
362	181-04	乳頭器 蓋	Q53	S0200	口径14.2	口縁部 3/12	外: ロクロナデ、ロクロケズリ 内: ロクロナデ	不 良	黄灰 にぶい黄褐色	施役 8世紀後半	
363	178-04	乳頭器 蓋	Q52	S0200	口径14.0	口縁部 7/12	外: ヨコナデ、ロクロケズリ、ナ 内: ロクロナデ	や 粗	灰		
364	178-02	乳頭器 蓋	P53	S0200	口径14.1	口縁部 2/12	外: ヨコナデ、ロクロケズリ、施貼付、ナ 内: ロクロナデ	や 粗	灰白 黄灰	美濃須衛 9世紀前半	
365	181-03	乳頭器 蓋	Q53	S0200	口径14.6	口縁部 1/12	外: ヨコナデ、ロクロケズリ 内: ロクロナデ	や 粗	灰白 灰		
366	178-01	乳頭器 蓋	Q53	S0200	口径13.8	口縁部 4-5層 器高3.1	外: ロクロナデ、ロクロケズリ 内: ロクロナデ	や 粗	灰		
367	178-06	乳頭器 杯	Q53	S0200	底径6.2	底盤 3/12	外: ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	や 粗	灰		
368	180-02	乳頭器 杯	P53	S0200	底径14.5	底盤 7/12	外: ロクロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	良	灰 灰-灰	8世紀後半	
369	247-03	乳頭器 杯	P53	S0200	口径14.6	底盤 4/12	外: ロクロナデ、ロクロケズリ 内: ロクロナデ	良	灰 灰	底盤外面部裏墨 施役 8世紀後半	
370	180-03	乳頭器 杯	P52	S0200	底径14.8	底盤 9/12	外: ロクロナデ、ロクロケズリ 内: ロクロナデ	良	尾灰	施役 8世紀後半	
371	248-03	乳頭器 杯	Q53	S0200	底径10.4	底盤 6/12	外: ヨコナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	良	黄灰	底盤外面部裏墨「丸」9 施役 0-10	
372	247-04	乳頭器 杯	Q52	S0200	底径6.7	底盤 12/12	外: ヨコナデ、ヘラキリ、ケズリ 内: ロクロナデ	良	灰	底盤外面部裏墨「三」 美濃須衛 9世紀前半	
373	280-06	乳頭器 杯	P50*	S0200	底径6.0	底盤 5/12	外: ヨコナデ、ヘラキリ、ケズリ 内: ロクロナデ	良	灰白		
374	248-01	乳頭器 杯	Q53	S0200	底径6.5	底盤 9/12	外: ロクロナデ、ヘラキリ、ケズリ 内: ロクロナデ	良	灰白	底盤外面部裏墨「東」9 施役 9世紀前半	
375	181-01	乳頭器 杯	P53	S0200	底径12.0	底盤 3/12	外: ヨコナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	良	灰	施役 NN-32	
376	247-02	灰釉陶器 杯	P52	S0200	底径7.6	底盤 12/12	外: ヨコナデ、底部系切、高台貼付、ナ 内: ロクロナデ	良	灰白	底盤外面部裏墨「板所」 K-90	

第18表 出土遺物観察表⑩

報告 番号	実測 番号	器種名	小地 区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
377	247-01	灰釉陶器	P50- S1	S2000 3-4層	底面 直径7.2 厚さ 5.12	底面 外：ロクロナラ、底部系切、高台貼付、ナデ、施釉 内：ロクロナラ	密 良	灰白	米濃 ±72件		
378	247-05	灰釉陶器	Q52	S2000 3-4層	底径7.0 厚さ 2.12	底面 外：ロクロナラ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナラ	密 良	灰白	底部外面部墨書き「東」? 「0-53」		
379	248-02	亂應器	Q53	S2000 4-5層	底径6.5 厚さ 4.12	底面 外：ロクロナラ、ヘラキリ、ケズリ 内：ロクロナラ	密 良	にぶい 緑	底部外面部墨書き「何」?		
380	181-02	亂應器	Q53	S2000 5層	口徑27.4 厚さ 1.13	口縁部 外：ロクロナラ、比較的キザミ 内：ロクロナラ	やや 密 良	灰白 暗灰黃	焼成 7世紀末		
381	182-02	亂應器	P53	S2000 脚付盤 6層下	脚部径6.5 厚さ 12.12	脚部 外：ロクロナラ、ロクロケズリ 内：ロクロナラ	やや 密 良	灰 ±7-灰			
382	182-01	亂應器	Q52	S2000 3-4層	底径6.0 厚さ 12.12	底面 外：ロクロナラ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内：ロクロナラ	やや 粗 良	灰	焼成 8世紀後半		
383	182-04	土製品 製埴土器	P53	S2000	口徑18.1 厚さ 1.12	口縁部 外：オサエ、ナデ 内：ナデ	粗 並	にぶい 緑	志摩式		
384	182-03	土製品 製埴土器	P+Q53	S2000 2層	口徑16.0 厚さ 1.12	口縁部 外：オサエ、ナデ 内：ナデ	粗 並	明赤褐色 にぶい 緑	志摩式		
385	378-04	木製品 大きり板	Q50- S1	S2000 3-4層	残存長14.4 最大幅3.4	—	—	—	—	—	ズギ
386	379-02	木製品	Q50- S1	S2000 3-4層	残存長11.5 最大幅5.4	—	—	—	—	—	
387	377-04	木製品 曲物	P53	S2000	最大径17.5 厚さ 0.9	—	—	—	—	—	ズギ
388	374-01	木製品 下駄	P51	S2000	長さ17.1 厚み0.7	—	—	—	—	—	ヒノキ
389	378-01	木製品 舟釣	P52	S2000 2層	残存長20.6 最大幅3.3	—	—	—	—	—	
390	378-02	木製品 舟釣	P51	S2000 3層	残存長32.1 最大幅3.5	—	—	—	—	—	ズギ
391	175-07	土師器 小皿	O49	S2000	口徑6.0 器高さ 9.4	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	密 不良	灰白			
392	176-07	土師器 小皿	O48	S2000	口徑6.7 器高さ 2.2	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	やや 密 良	にぶい 黄褐色			
393	177-04	土師器 小皿	O48	S2000	口徑6.0 器高さ 4.6	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	やや 密 良	にぶい 黄褐色			
394	176-06	土師器 小皿	O48	S2000	口徑6.2 器高さ 4.4	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	やや 密 良	浅黄褐色			
395	175-06	土師器 小皿	O48	S2000	口徑6.0 器高さ 2.2	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	密 良	浅黄褐色			
396	178-07	土師器 小皿	P50- S1	S2000 3-4層	口徑6.5 器高さ 6.6	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	密 良	にぶい 緑			
397	175-03	土師器 皿	O48	S2000	口徑12.6 厚さ 3.12	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	密 良	にぶい 緑			
398	175-05	土師器	O48	S2000	口徑12.0 厚さ 3.12	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	やや 密 良	浅黄褐色 灰白			
399	175-01	土師器	O48	S2000	口徑12.7 厚さ 6.12	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	密 良	浅黄褐色			
400	175-02	土師器	O48	S2000	口徑13.8 厚さ 2.4	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	密 良	浅黄褐色			
401	177-03	土師器	O48	S2000	口徑12.6 厚さ 2.12	口縁部 外：オサエ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	やや 密 良	にぶい 緑			
402	177-01	土師器	O48	S2000	口徑12.9 厚さ 2.1	口縁部 外：オサエ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	やや 密 良	にぶい 緑			
403	175-04	土師器	O48	S2000	口徑13.3 厚さ 1.12	口縁部 外：オサエ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	やや 密 不良	浅黄褐色 淡褐色			
404	177-02	土師器	O48	S2000	口徑13.7 厚さ 6.12	口縁部 外：オサエ、ナデ、ヨコナラ 内：ナデ、ヨコナラ	やや 密 良	にぶい 緑			
405	177-06	土師器	O48	S2000	口徑26.3 厚さ 1.12	口縁部 外：オサエ、ナデ、ハケメ、ヨコナラ 内：オサエ、ナデ、ハケメ、ヨコナラ	やや 粗 不良	にぶい 黄褐色 雨伊勢系			
406	175-08	土師器	O48	S2000	—	外：ヨコナラ 内：ヨコナラ	粗 良	にぶい 緑	清瀬型		
407	177-05	*土師器	O48	S2000	底径6.9 厚さ 3.12	外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	やや 密 不良	にぶい 緑	ロクロ成形 焼成後穿孔		
408	179-06	土製品 土鍋	P50- S1	S2000 3-4層	残存長4.1 最大幅1.3 重量 6.00	外：ナデ	密 良	にぶい 黄褐色 にぶい 緑			
409	174-05	陶器 小椀	O48	S2000	底径5.4 器高さ 8.4	底部 外：ロクロナラ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナラ	やや 良	灰白	尾張型第4型式		
410	179-05	陶器 小椀	P51	S2000	底径4.0 器高さ 2.2	底部 外：ロクロナラ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナラ	やや 良	灰白	尾張型第4型式		
411	180-04	陶器 小皿	P52	S2000	口徑6.0 器高さ 2.3	口縁部 外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	やや 密 良	灰白	尾張型第5型式		
412	180-05	陶器 小皿	O48	S2000	底径5.0 器高さ 1.5	底部 外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	やや 粗 良	±7-灰 灰白	尾張型第6型式		
413	176-04	陶器 小皿	O48	S2000	底径5.3 器高さ 1.5	底部 外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	やや 密 良	灰白	尾張型第6型式		
414	176-03	陶器 小皿	O48	S2000	口徑5.7 器高さ 3.8	口縁部 外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	やや 密 良	灰白	尾張型第6型式		
415	174-08	陶器 小皿	O49	S2000	底径5.6 器高さ 8.8	底部 外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	やや 粗 良	灰白	尾張型第6型式		
416	174-06	陶器 小皿	O49	S2000	口徑5.9 器高さ 1.8	口縁部 外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	やや 良	灰白	尾張型第6型式		

第19表 出土遺物観察表⑪

報告 番号	実測 番号	器種等	小地 区	遺構名	法量 重量 (g)	残存度	調整・抜法などの特徴		始土	焼成	色調	特記事項
417	174-04	陶器 小皿	Q48	S0200	口径8.0 器高1.7	口縁部 外：ロクロナダ、底面系切 内：ロクロナダ			粗	良	灰白	尾張型第6型式
418	174-07	陶器 小皿	Q49	S0200	口径8.3 器高1.6	口縁部 外：ロクロナダ、底面系切 内：ロクロナダ			粗	良	灰白	尾張型第6型式
419	176-05	陶器 小皿	Q48	S0200	直径5.8 器高1.5	底面 外：ロクロナダ、底面系切 内：ロクロナダ			やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式
420	180-01	陶器 山茶碗	Q50	S0200	口径6.3 器高1.6	底面 外：ロクロナダ、底面系切、高台貼付、ナヅ 内：ロクロナダ			やや 粗	良	灰黄 黄灰	尾張型第3型式
421	174-02	陶器 山茶碗	Q48	S0200	直径7.9 器高1.2	底面 外：ロクロナダ、底面系切、高台貼付、ナヅ 内：ロクロナダ			粗	良	灰白	尾張型第6型式
422	178-05	陶器 山茶碗	Q48	S0200	直径7.0 器高1.5	底面 外：ロクロナダ、底面系切、高台貼付、ナヅ 内：ロクロナダ			やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式
423	246-02	陶器 山茶碗	Q48	S0200	直径7.2 器高1.4	底面 外：ロクロナダ、底面系切、高台貼付、ナヅ 内：ロクロナダ			やや 粗	良	灰白	外面部黒墨 尾張型第6型式
424	179-04	陶器 山茶碗	Q48	S0200	直径6.8 器高1.6	底面 外：ロクロナダ、底面系切、高台貼付、ナヅ 内：ロクロナダ			やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式
425	179-01	陶器 山茶碗	Q48	S0200	直径5.6 器高1.5	底面 外：ロクロナダ、底面系切、高台貼付、ナヅ 内：ロクロナダ			粗	良	灰白	尾張型第6型式
426	246-01	陶器 山茶碗	Q48	S0200	直径6.7 6巻 器高5.8	底面 外：ロクロナダ、底面系切、高台貼付、ナヅ 内：ロクロナダ			やや 粗	良	灰白	外面部黒墨 尾張型第6型式
427	179-02	陶器 山茶碗	Q48	S0200	口径15.7 器高4.8	口縁部 外：ロクロナダ、底面系切、高台貼付、ナヅ 内：ロクロナダ			やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式
428	179-03	陶器 山茶碗	Q48	S0200	直径5.0 器高5.5	底面 外：ロクロナダ、底面系切、高台貼付、ナヅ 内：ロクロナダ			やや 粗	良	黄灰 灰白	尾張型第6型式
429	246-03	陶器 山茶碗	Q48	S0200	直径7.0 3/12	底面 外：ロクロナダ、底面系切、高台貼付、ナヅ 内：ロクロナダ			やや 粗	良	灰白	外面部黒墨 尾張型第6型式
430	174-01	陶器 片口鉢	Q48	S0200	—	口縁部 外：ロクロナダ、ケズリ 内：ロクロナダ			やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式
431	174-03	陶器 片口鉢	Q48	S0200	直径16.8 2/12	底面 外：ロクロナダ、ケズリ、底面系切、高台貼付、ナ 内：ロクロナダ			粗	良	灰白	尾張型第6型式
432	246-04	須恵器 灰釉陶器	Q48	S0200	—	—			粗	良	灰	外面部黒墨「九方」?
433	248-01	土師器 4-5巻	Q53	S0200	—	—	外：オサエ、ナヅ 内：オサエ		粗	やや 良	黄灰	外面部黒墨
434	175-09	青磁器	Q48	S0200	口径16.0 1/12	口縁部 外：ロクロナダ、印刷、施釉 内：ロクロナダ			粗	良	灰白	尾張型第6型式
435	226-04	土師器 小皿	E48	S0268	口径8.5 器高1.25	底面 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	不良	にぶい櫻	
436	226-03	土師器 小皿	Q47	S0268	口径8.7 器高1.8	底面 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	やや 良	にぶい櫻	
437	229-06	土師器 小皿	Q48	S0268	口径7.8 器高1.3	底面 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	やや 良	にぶい櫻	
438	229-03	土師器 小皿	Q48	S0268	口径8.4 器高1.2	底面 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	良	にぶい櫻	
439	229-05	土師器 小皿	Q48	S0268	口径8.3 器高1.2	底面 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	良	にぶい櫻	
440	229-02	土師器 小皿	Q48	S0268	口径8.9 器高1.7	底面 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	やや 良	灰白	
441	229-04	土師器 小皿	Q48	S0268	口径8.6 器高1.7	底面 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	やや 良	灰褐色 不均	にぶい櫻
442	229-07	土師器 小皿	Q48	S0268	口径8.2 器高1.3	底面 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	良	にぶい櫻 桜	
443	235-05	土師器 小皿	S47	S0268	口径5.3 器高1.6	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	良	にぶい櫻	
444	233-04	土師器 小皿	S47	S0268	口径5.0 器高1.4	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	良	にぶい櫻	
445	215-04	土師器 小皿	R48	S0268	口径5.6 器高1.7	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			やや 粗	良	浅黄褐色	
446	215-05	土師器 小皿	Q48	S0268	口径5.4 器高1.6	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			やや 粗	良	にぶい櫻	
447	215-03	土師器 小皿	Q48	S0268	口径5.4 器高1.5	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			やや 粗	やや 良	にぶい櫻	
448	215-07	土師器 小皿	Q48	S0268	口径5.7 器高1.4	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			やや 粗	良	浅黄褐色	
449	215-06	土師器 小皿	Q48	S0268	口径5.8 器高1.6	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	良	にぶい櫻	
450	228-04	土師器 皿	Q48	S0268	口径12.8 器高4.1	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	やや 良	にぶい黄褐色	
451	228-01	土師器 皿	Q48	S0268	口径12.9 器高2.7	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	良	にぶい黄褐色	
452	229-01	土師器 皿	Q48	S0268	口径12.0 2/12	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	やや 良	にぶい黄褐色	
453	226-07	土師器 皿	Q48	S0268	口径13.0 器高3.0	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	やや 良	にぶい黄褐色	
454	228-05	土師器 皿	Q48	S0268	口径12.9 器高2.0	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	やや 不良	にぶい黄褐色	
455	228-02	土師器 皿	Q48	S0268	口径12.9 器高2.5	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	良	浅黄褐色	
456	228-06	土師器 皿	Q48	S0268	口径12.8 器高2.7	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	良	にぶい黄褐色	
457	228-08	土師器 皿	Q48	S0268	口径13.0 2/12	口縁部 外：オサエ、ナヅ、ヨコナダ 内：ナヅ、ヨコナダ			粗	良	にぶい黄褐色	

第20表 出土遺物観察表⑫

報告書号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
458	231-06	土師器 皿	Q48	S2068	口径12.1 器高2.5	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	にぶい橙	
459	229-07	土師器 皿	Q48	S2068	口径11.7 器高2.9	口縁部 4/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	にぶい橙	
460	229-03	土師器 皿	Q48	S2068	口径13.2 器高3.1	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	にぶい橙	
461	226-02	土師器 皿	Q47	S2068	口径12.4 器高2.6	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	にぶい黄橙	
462	226-01	土師器 皿	Q48	S2068	口径13.3 器高2.7	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	やや灰	
463	232-03	土師器 皿	Q47	S2068	口径12.7 器高2.9	口縁部 6/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥 粗	不良	灰白	
464	232-01	土師器 皿	Q47	S2068	口径13.1 器高2.8	口縁部 9/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥 粗	不良	にぶい	
465	233-01	土師器 皿	Q47	S2068	口径12.9 器高3.0	口縁部 12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	にぶい	
466	233-02	土師器 皿	Q47	S2068	口径13.1 器高2.7	口縁部 8/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥 粗	良	にぶい	
467	226-02	土師器 皿	Q47	S2068	口径12.8 器高2.9	口縁部 11/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	にぶい	黒
468	232-04	土師器 皿	Q47	S2068	口径12.8 器高3.3	口縁部 11/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥 粗	不良	にぶい黄橙	
469	233-03	土師器 皿	Q47	S2068	口径13.1 器高2.7	口縁部 4/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	やや 良	にぶい	
470	214-03	土師器 皿	Q48	S2068	口径12.9 器高2.9	口縁部 5/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	浅黄橙	
471	214-04	土師器 皿	Q48	S2068	口径12.3 器高2.5	口縁部 12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	極 浅黄橙	
472	214-05	土師器 皿	Q48	S2068	口径12.6 器高2.3	口縁部 8/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥 粗	良	浅黄橙 にぶい	
473	215-02	土師器 皿	E48	S2068	口径11.5 器高2.8	口縁部 2/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	極 浅黄橙	
474	226-05	陶器 小皿	Q47	S2068	底径5.8 器高6.5	底部 6/12	外：ロクロナダ、底部承切 内：ロクロナダ	泥 粗	良	灰白	尾張型第6式
475	226-08	陶器 小皿	Q47	S2068	底径6.6 器高5.5	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	尾張型第6式
476	227-02	陶器 小皿	Q48	S2068	底径5.3 器高6.7	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	尾張型第6式
477	227-01	陶器 小皿	Q48	S2068	底径5.5 器高5.5	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	尾張型第7式
478	274-04	陶器 小皿	Q48	S2068	口径4.4 器高3.8	口縁部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	外面底部墨書き「一」 尾張型第6式
479	226-06	陶器 山茶碗	Q47	S2068	底径6.8 器高6.6	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥 粗	良	灰白	尾張型第6式
480	227-06	陶器 山茶碗	Q48	S2068	底径6.1 器高6.5	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥 粗	良	灰白	尾張型第6式(灘 ^{アシ})
481	227-03	陶器 山茶碗	Q48	S2068	底径6.0 器高6.6	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	尾張型第6式(灘 ^{アシ})
482	227-04	陶器 山茶碗	Q48	S2068	口径13.8 器高6.6	口縁部 4/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥 粗	良	灰白	尾張型第6式(灘 ^{アシ})
483	227-05	陶器 山茶碗	Q48	S2068	底径6.7 器高6.2	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥 粗	良	灰白	尾張型第7式(灘 ^{アシ})
484	274-03	陶器 山茶碗	Q48	S2068	口径13.3 器高6.3	口縁部 3/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	尾張型第7式(灘 ^{アシ})
485	232-05	陶器 山茶碗	S47	S2068	口径14.7 器高6.5	口縁部 5/11	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	尾張型第6式(灘 ^{アシ})
486	249-01	陶器 山茶碗	S47	S2068	口径13.3 器高6.2	口縁部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	外面底部墨書き「一」 尾張型第7式(灘 ^{アシ})
487	233-06	陶器 山茶碗	S47	S2068	底径6.0 器高6.0	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	尾張型第7式(灘 ^{アシ})
488	214-01	陶器 山茶碗	Q48	S2068	口径15.0 器高6.3	口縁部 4/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥 粗	良	黄灰	尾張型第6式
489	274-06	陶器 山茶碗	E48	S2068	底径6.8 器高6.8	底部 11/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	外面底部墨書き「一」 尾張型第6式
490	214-02	陶器 山茶碗	Q48	S2068	底径5.8 器高6.0	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥 粗	良	灰白	尾張型第6式(灘 ^{アシ})
491	274-05	陶器 山茶碗	Q48	S2068	底径6.2 器高4.9	底部 5/12	外：ロクロナダ、底部承切,高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	泥 粗	良	灰白	外面底部墨書き「廿」 尾張型第6式(灘 ^{アシ})
492	229-08	土師器 皿	Q48	S2068	口径25.0 器高6.2	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥 粗	良	灰黄褐色	滑脂
493	231-08	青磁 皿	Q48	S2068	口径13.4 器高1.8	口縁部 2/12	外：ロクロナダ、山口利,施釉 内：ロクロナダ	泥	良	灰	
494	231-07	青磁 皿	Q48	S2068	口径14.5 器高2.0	口縁部 1/12	外：ロクロナダ、山口利,施釉 内：ロクロナダ	泥	良	灰白	
495	005-07	土師器 皿	N18	S559	底径8.0 器高6.6	口縁部 2/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥 粗	良	浅黄褐色 灰白	
496	005-05	土師器 皿	N19	S559	底径8.2 器高6.8	口縁部 11/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥 粗	良	浅黄褐色 にぶい	
497	005-06	土師器 皿	N18	S559	底径8.0 器高6.0	口縁部 10/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	泥	良	浅黄褐色 灰白	
498	006-04	陶器 小皿	N18	S559	底径7.3 器高2.0	口縁部 12/12	外：ロクロナダ、底部承切 内：ロクロナダ	泥 粗	良	灰白	外面底部墨書き「定」 尾張型第5式

第21表 出土遺物観察表⑩

報告番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎝) 重量(g)	残存度	調査・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
499	004-06	陶器 山茶柄	N18	SE59	底径7.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白	尾張型第5型式
500	004-04	陶器 山茶柄	N18	SE59	底径7.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白	尾張型第5型式
501	005-09	陶器 山茶柄	N18	SE59	底径8.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	底部焼成後穿孔 尾張型第5型式
502	004-05	陶器 山茶柄	N18	SE59	底径8.6	底部 6/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第5型式
503	004-01	陶器 山茶柄	N18	SE59	底径7.4 跡径4.7	底部 12/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第5型式
504	004-03	陶器 山茶柄	N18	SE59	底径7.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式
505	004-02	陶器 山茶柄	N18	SE59	底径7.0	底部 12/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式
506	007-01	陶器 櫻	N8	SE59	—	休部 1/12	外：タタキ、ナデ 内：ナデ	密	良	灰 黄灰	007-01~009-02同一個体 常滑製品1b型式
506	007-02	陶器 櫻	N8	SE59	—	休部 1/12	外：タタキ、ナデ 内：ナデ	密	良	灰 黄灰	007-01~009-02同一個体 常滑製品1b型式
506	007-03	陶器 櫻	N18	SE59	—	休部 1/12	外：タタキ、ナデ 内：ナデ	密	良	灰 黄灰	007-01~009-02同一個体 常滑製品1b型式
506	008-01	陶器 櫻	N18	SE59	—	休部 1/12	外：タタキ、ナデ 内：ナデ	密	良	灰 黄灰	007-01~009-02同一個体 常滑製品1b型式
506	008-02	陶器 櫻	N18	SE59	—	休部 1/12	外：タタキ、ナデ 内：ナデ	密	良	灰 黄灰	007-01~009-02同一個体 常滑製品1b型式
506	009-01	陶器 櫻	N18	SE59	—	休部 1/12	外：タタキ、ナデ 内：ナデ	密	良	灰 黄灰	007-01~009-02同一個体 常滑製品1b型式
506	009-02	陶器 櫻	N18	SE59	—	休部 1/12	外：タタキ、ナデ 内：ナデ	密	良	灰 黄灰	007-01~009-02同一個体 常滑製品1b型式
507	317-01	木製品 板紙	N18	SE59	残存長14.8 幅10.6	—	—	—	—	—	—
508	317-03	木製品 板紙	N18	SE59	残存長17.2 幅9.5	—	—	—	—	—	—
509	317-02	木製品 板紙	N18	SE59	残存長14.3 幅5.1	—	—	—	—	—	—
510	318-01	木製品 板紙	N18	SE59	残存長23.7 幅8.6	—	—	—	—	—	—
511	318-02	木製品 板紙	N18	SE59	残存長26.9 幅6.7	—	—	—	—	—	—
512	348-01	木製品 曲物	N18	SE59	口径43.0 跡径30.4	—	—	—	—	—	—
513	347-01	木製品 曲物	N18	SE59	口径40.0 残存高21.4	—	—	—	—	—	—
514	382-01	木製品 横枝	R24	SE83	長5.66.8 幅10.5	完存	—	—	—	—	—
515	382-03	木製品 横枝	R24	SE83	長5.66.5 幅10.5	完存	—	—	—	—	—
516	382-02	木製品 横枝	R24	SE83	長5.66.5 幅9.5	完存	—	—	—	—	—
517	382-04	木製品 横枝	R24	SE83	長5.66.4 幅10.5	完存	—	—	—	スギ	—
518	346-01	木製品 横枝	R24	SE83	残存長42.7 幅5.5	—	—	—	—	—	ヒノキ科アヌラ属
519	346-04	木製品 板材	R24	SE83	長5.23.8 幅9.5	—	—	—	—	—	ヒノキ科アヌラ属
520	346-03	木製品 横枝	R24	SE83	残存長14.8 幅6.0	—	—	—	—	—	ヒノキ科アヌラ属
521	346-03	木製品 横枝	R24	SE83	残存長16.5 幅6.6	—	—	—	—	—	ナナ科シイ属
522	349-01	木製品 面材	R24	SE83	口径51.0 高さ25.5	—	—	—	—	—	ヒノキ科アヌラ属
523	365-01	木製品 横枝	P47	SE202	長さ89.5 幅8.8	完存	—	—	—	スギ	—
524	366-02	木製品 繩线	P47	SE202	長さ91.1 直径25.0	完存	—	—	—	スギ	—
525	366-01	木製品 横枝	P47	SE202	長さ89.1 最大幅28.8	完存	—	—	—	スギ	—
526	365-02	木製品 横枝	P47	SE202	長さ88.7 口径幅27.9	完存	—	—	—	スギ	—
527	366-03	木製品 横枝	P47	SE202	長さ90.3 最大幅28.5	完存	—	—	—	スギ	—
528	365-01	木製品 板材	P47	SE202	口径長101 幅7.4	—	—	—	—	—	—
529	367-01	木製品 板紙	P47	SE202	口径長60.0 幅28.0	—	—	—	—	—	スギ
530	366-04	木製品 板材	P47	SE202	長さ45.8 残存幅3.2	—	—	—	—	—	—
531	368-01	木製品 板紙	P47	SE202	残存長130.8 幅25.5	—	—	—	—	—	スギ
532	369-01	木製品 板紙	P47	SE202	残存長132.5 幅31.0	—	—	—	—	—	スギ
533	377-01	木製品 曲物	Q25	SE280	最大径13.7 厚0.7	—	—	—	—	—	ヒノキ科アヌラ属

第22表 出土遺物観察表④

報告 番号	実測 番号	器種等	小地 区	遺構名	法量 重量 (cm) (g)	残存度	調査・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
534	361-01	木製品 曲物		SE280	口径47 器高3.0	—	—	—	—	—	ヒノキ科アヌラ属
535	362-02	木製品	P25	SE270	口径長44.3 器高3.0	—	—	—	—	—	
536	364-03	木製品	P25	SE270	口径長56.5 器高3.0	—	—	—	—	—	
537	364-02	木製品 櫛柄	P25	SE270	長38.6 幅10.8	—	—	—	—	—	スギ
538	363-02	木製品 櫛柄	P25	SE270	長289.0 幅6.0	—	—	—	—	—	スギ
539	364-01	木製品 櫛柄	P25	SE270	長288.3 幅11.5	—	—	—	—	—	スギ
540	363-03	木製品	P25	SE270	長268.0 幅6.0	—	—	—	—	—	スギ
541	363-01	木製品 櫛柄	P25	SE270	長288.5 幅5.5	—	—	—	—	—	スギ
542	362-01	木製品 曲物		SE288	口径36.0 器高25.0	—	—	—	—	—	スギ
543	381-01	木製品 曲物	P25	SE270	口径44.0 器高30.0	—	—	—	—	—	ヒノキ科アヌラ属
544	377-03	木製品 曲物	P25	SE270	最大径13.3 厚0.8	完存	—	—	—	—	ヒノキ科アヌラ属
545	013-01	土師器 鍋	R24	SE83	—	口縁部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	浅黄褐 にぶい黄褐	南伊勢系
546	011-05	土師器 小皿	R24	SE83	口径5.1 器高1.3	口縁部 3/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	粗	良	灰黄褐 灰黄	
547	013-02	陶器 小皿	R24	SE83	口径5.6 器高1.6	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、底部承切 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第6型式
548	011-03	陶器 小皿	R25	SE83	底径5.0 器高1.5	底面 3/12	外：ロクロナデ、底部承切 内：ロクロナデ	やや 粗	真	灰	尾張型第6型式
549	010-03	陶器 小皿	R25	SE83	底径4.5 器高1.6	底面 12/12	外：ロクロナデ、底部承切 内：ロクロナデ	粗	真	灰白	尾張型第6型式(廻戸)
550	013-04	陶器 小皿	R24	SE83	口径5.6 器高1.7	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、底部承切 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第6型式
551	013-03	陶器 小皿	R24	SE83	口径5.0 器高1.7	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、底部承切 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第7型式
552	012-01	陶器 口銘	R25	SE83	—	底面 1/12	外：ロクロナデ、ケメリ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	粗	良	灰 黄灰	尾張型第6型式
553	010-02	陶器 山茶碗	R24	SE83	底径5.3 器高3.0	底面 6/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第6型式(廻戸)
554	012-05	陶器 山茶碗	R24	SE83	底径6.0 —8.0	底面 8/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	底部外墨書き 尾張型第6型式(廻戸)
555	012-04	陶器 山茶碗	R24	SE83	底径6.6 器高3.0	底面 12/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	粗	良	灰白 黄灰	底部外墨書き 尾張型第6型式(廻戸)
556	010-04	陶器 山茶碗	R24	SE83	底径7.2 器高3.0	底面 5/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	良	黄灰	底部外墨書き 尾張型第6型式(廻戸)
557	013-05	陶器 山茶碗	R25	SE83	底径6.4 器高3.0	底面 3/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	底部外墨書き(○) 尾張型第6型式(廻戸)
558	010-01	陶器 山茶碗	Q25	SE83	口径13.5 器高5.0	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第7型式(廻戸)
559	010-05	陶器 山茶碗	Q25	SE83	底径5.8 器高3.0	底面 12/12	外：ロクロナデ、底部承切 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第8型式(廻戸) 呑みあり
560	012-02	陶器 山茶碗	R24	SE83	底径5.7 器高3.0	底面 6/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	底部外墨書き「井」 尾張型第6型式
561	011-01	陶器 甕	N8	SE83	—	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：オサエ、ロクロナデ	やや 粗	良	灰赤	滑津製品 7.5φ型式
562	011-06	青磁 甕	R25	SE83	底径4.8 器高3.0	底面 12/12	外：ロクロナデ、削高高台、施釉 内：ロクロナデ、施釉	粗	良	灰	
563	012-03	青磁 甕	Q24	SE83	底径5.0 器高3.0	底面 3/12	外：ロクロナデ、削高高台、施釉 内：ロクロナデ、施釉	粗	良	灰白	
564	187-04	灰釉陶器	P47	SE202	底径7.8 器高3.0	底面 2/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	百代寺
565	188-06	土師器 皿	P47	SE202	口径13.0 器高2.0	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	良	浅黄褐	
566	188-07	土師器 皿	P47	SE202	口径15.0 器高2.0	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	良	浅黄褐 にぶい壇	
567	188-02	陶器 山茶碗	Q47	SE202	底径7.5 器高4.0	底面 4/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	粗	やや 不良	深米型第5型式	
568	188-03	陶器 山茶碗	P47	SE202	底径6.3 器高6.0	底面 6/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式
569	188-03	陶器 山茶碗	P47	SE202	底径7.1 器高3.0	底面 3/12	外：ロクロナデ、底部承切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式
570	279-02	陶器 山茶碗	P47	SE202	—	外：底部承切 内：ロクロナデ	粗	良	灰白		
571	224-06	土師器 皿	T90	SE240	口径12.6 器高2.3	口縁部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	粗	良	にぶい壇	
572	375-02	木製品 漆桶	T90	SE240	口径15.0 器高3.0	口縁部 3/12	—	—	—	—	トナキ
573	224-04	陶器 小皿	T90	SE240	底径5.0 器高1.7	底面 9/12	外：ロクロナデ、底部承切 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第6型式

第23表 出土遺物観察表⑤

報告書番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎝) 重量(㌘)	残存度	調整・技法などの特徴		始土	焼成	色調	特記事項	
							外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	内:ロクロナヂ、施釉					
574	224-03	陶器	T40	SE240	口径8.8 高さ1.7	口縁部 1/2	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	尾張型第6型式		
575	341-01	施釉陶器	T40	SE240	中幅 上縁	—	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	黄灰	13世紀代		
576	224-07	青磁 碗	T40	SE240	上縁 1/2	口縁部 1/2	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ、施釉	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	灰白			
577	216-06	陶器	P25	SE270	底径8.0	底面 1層	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	尾張型第6型式		
578	216-04	陶器 山茶碗	P25	SE270	底径7.5	底面 1層	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	尾張型第6型式		
579	216-05	陶器	P25	SE270	底径7.5	底面 1層	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	尾張型第6型式		
580	216-07	陶器 山茶碗	P25	SE270	底径8.0	底面 4層	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	尾張型第6型式		
581	224-01	土師器 山茶碗	Q25	SE280	口径21.0	口縁部 1層	外:オサエ、ナヂ、ヨコナヂ 内:ナヂ、ヨコナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 良	浅黃褐色 にぶら・擦	南伊勢系		
582	225-06	陶器 山茶碗	Q25	SE280	底径7.6	底面 7層	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白 灰オリーブ	尾張型第3型式 灰オリーブ		
583	225-05	陶器 山茶碗	Q25	SE280	底径8.0	底面 2層	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰	霧美型第5型式		
584	225-02	陶器 山茶碗	Q25	SE280	底径8.0	底面 4層	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	尾張型第6型式		
585	217-01	石製品 砾石	SE288	長さ16.6 曲面物	重量470	—	—	—	—	—	—	安山区	
586	216-03	陶器 山茶碗	P25	SE288	口径15.5 高さ4.9	口縁部 1/2	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 良	灰白	尾張型第5型式		
587	278-02	陶器 山茶碗	P25	SE288	口径15.5 高さ5.0	口縁部 1/2	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	底部外面墨書き 尾張型第7型式(廻戸)		
588	278-03	陶器 山茶碗	P25	SE288	底径7.0	底面 5層	外:ロクロナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切、高台貼付、ナヂ 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	底部・体外面墨書き 尾張型第6型式(廻戸)		
589	360-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長131.2 幅43.4	—	—	—	—	—	—	ヒノキ科アスナロ属	
590	358-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長107.2 幅29.0	—	—	—	—	—	—		
591	330-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長40.0 幅27.2	—	—	—	—	—	—		
592	328-01	木製品 板状	R25	SE83	残存長38.4 幅25.5	—	—	—	—	—	—		
593	355-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長106.8 幅16.3	—	—	—	—	—	—	スギ	
594	352-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長111.7 幅34.5	—	—	—	—	—	—		
595	354-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長118.0 幅24.5	—	—	—	—	—	—		
596	359-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長124.8 幅44.1	—	—	—	—	—	—		
597	356-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長101.5 幅32.8	—	—	—	—	—	—	スギ	
598	359-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長28.5 幅29.0	—	—	—	—	—	—	ヒノキ科アスナロ属	
599	355-02	木製品 板状	R24	SE83	残存長43.5 幅19.5	—	—	—	—	—	—	スギ	
600	351-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長103.6 幅38.4	—	—	—	—	—	—		
601	353-01	木製品 板状	R24	SE83	残存長112.7 幅32.5	—	—	—	—	—	—		
602	221-02	土師器 鍋	P24	SE269	口径22.0	口縁部 1-2層	外:ナヂ、ヨコナヂ 内:ナヂ、ヨコナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	南伊勢系		
603	221-03	土師器 鍋	P24	SE269	口径19.9	口縁部 1-2層	外:オサエ、ナヂ、ヨコナヂ 内:ナヂ、ヨコナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	南伊勢系		
604	221-01	土師器 鍋	P24	SE269	口径30.0	口縁部 3層	外:オサエ、ナヂ、ヨコナヂ 内:ナヂ、ヨコナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白	南伊勢系		
605	222-01	土師器 鍋	P24	SE269	口径21.0	口縁部 4層	外:ナヂ、ヨコナヂ 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 粗	灰白 灰黄褐色	南伊勢系		
606	222-04	*土師器 鍋	P24	SE269	底径6.3	底面 3層	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	灰白 にぶら・擦			
607	220-03	陶器 小鉢	P24	SE269	底径4.6	底面 3層	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	灰白	尾張型第4型式		
608	220-02	陶器 小鉢	P24	SE269	底径4.4	底面 2層	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	灰白	尾張型第4型式		
609	220-05	陶器 小鉢	P24	SE269	底径4.3	底面 2層	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	灰白	尾張型第5型式		
610	220-06	陶器 小鉢	P24	SE269	底径4.3	底面 2層	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	灰白	霧美型第5型式		
611	220-04	陶器 小鉢	P24	SE269	底径4.8	底面 2層	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	灰白	霧美型第5型式		
612	220-07	陶器 小鉢	P24	SE269	底径4.4	底面 3層	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	灰白	霧美型第5型式		
613	220-08	陶器 小鉢	P24	SE269	底径4.4	底面 3層	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	灰	尾張型第5型式		
614	219-06	陶器 山茶碗	P25	SE269	底径8.1	底面 3層	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	外:ロクロナヂ、底部系切 内:ロクロナヂ	やや 良	灰白	霧美型第5型式		

第24表 出土遺物観察表⑩

報告書番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎝) 重量(g)	残存度	調査・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
615	221-04	土師器	P24	SE269	—	口縁部 P25 1-2層	外: ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	粗	やや 不良	灰褐色 にぶい煙	滑鄭型
616	218-04	陶器	P24	SE269	口径15.5 器高さ2	口縁部 P25 3層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第4型式	
617	219-07	陶器	P24	SE269	底径4.4	底部 P25 3層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
618	219-05	陶器	P24	SE269	底径4.1	底部 P25 3層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
619	218-07	陶器	P24	SE269	口径15.9	口縁部 P25 3層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
620	218-03	陶器	P24	SE269	口径16.2 器高さ2	口縁部 P25 3層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
621	219-05	陶器	P24	SE269	底径4.1	底部 P25 1-2層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
622	279-01	陶器	P24	SE269	底径6.0	底部 P25 4層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
623	278-01	陶器	P24	SE269	底径9.0	底部 P25 3-4層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	体部外部面 尾張型第5型式	
624	219-02	陶器	P24	SE269	底径4.4	底部 P25 1-2層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
625	219-03	陶器	P24	SE269	口径15.6 器高さ3.0	口縁部 P25 1-2層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
626	219-04	陶器	P24	SE269	底径5.1	底部 P25 3層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
627	218-06	陶器	P24	SE269	底径5.5	底部 P25 3層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
628	218-02	陶器	P24	SE269	底径6.6 器高さ3.8	底部 P25 3層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
629	222-05	陶器	P24	SE269	口径14.1	口縁部 P25 1-2層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
630	229-01	陶器	P25	SE269	底径6.1	底部 P25 3層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
631	218-01	陶器	P24	SE269	底径6.6 器高さ4.5	底部 P25 2層	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
632	219-01	陶器 片口鉢	P24	SE269	底径12.2	底部 P25 3層	外: ロクロナデ、ケヌリ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白 黄	尾張型第5型式	
633	222-02	白磁 瓶	P25	SE269	断ち割り	口縁部 P25 1-2層	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	やや 良	灰白		
634	220-09	白磁 瓶	P24	SE269	口径14.4	口縁部 P25 2層	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	やや 良	灰白		
635	222-03	白磁 瓶	P24	SE269	高台径7.2	高台部 P25 2層	外: ロクロナデ、削出高台、施釉 内: ロクロナデ、施釉、施釉	やや 良	灰白		
636	376-01	土師器 枝角(左)	P25	SE269	最大径2.8 枝角径6.5	—	—	—	—	—	—
637	129-02	陶器	15	S38	口径4.4 器高さ3.9	口縁部 P25 4/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
638	129-04	陶器 山茶輪	15	S38	底径7.0	底部 P25 3/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第3型式	
639	129-01	陶器	15	S38	口径13.5 器高さ4.4	口縁部 P25 12/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	粗	並	灰白	尾張型第7型式
640	129-03	陶器 山茶輪	15	S38	口径12.6 器高さ5.5	口縁部 P25 2/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第7型式(離)	
641	129-05	陶器 山茶輪	M18	S341	口径13.1 器高さ4.9	口縁部 P25 3/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第9型式(離)	
642	016-04	土師器 輪	E5	S84	口径11.1 器高さ4.1	口縁部 P25 2/12	外: ナデ、ハケメ、ヨコナデ 内: ナデ、ハケメ、ヨコナデ	やや 良	灰白	黒	
643	016-03	土師器 皿	E5	S84	口径9.5 器高さ2.3	口縁部 P25 10/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ、鉢貼付、ハケメ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 良	灰白		
644	015-01	土師器 笠釜	E5	S84	口径21.9	口縁部 P25 2/12	外: ナデ、ヨコナデ、鉢貼付、ハケメ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 良	灰黃褐色 にぶい煙	中北勢系	
645	016-06	白磁 瓶	G4	S84	—	口縁部 P25 1/12	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	やや 良	灰白		
646	016-02	灰釉陶器	F5	S84	底径8.2	底部 P25 3/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	K-14	
647	016-01	陶器 片口鉢	E5	S84	底径8.6	底部 P25 9/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	濃美型小尾張型第5型式	
648	290-04	陶器 緑釉小皿	G4	S84	底径4.3	底部 P25 7/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	瀬戸美濃製品 吉瀬窯IV期	
649	015-03	陶器 天日茶輪	GH4	S84-5	口径11.4	口縁部 P25 7/12	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	やや 良	灰白	SK5出土遺物と接合 瀬戸美濃製品大窯第1段階	
650	015-02	陶器 楕円	E5	S84	底径12.0	底部 P25 4/12	外: ロクロナデ、底部系切、施釉 内: ロクロナデ、クメ、施釉	やや 良	浅黃褐色	瀬戸美濃製品 大窯第2-4段階	
651	016-05	青磁 蓋	G4	S84	底径6.0	底部 P25 2/12	外: ロクロナデ、削出高台 内: ロクロナデ、施釉	やや 良	灰白		
652	029-04	土師器 皿	GS	SK12	底径3.9	底部 P25 1/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや 良	煙	柱状高台	
653	029-02	灰釉陶器	GS	SK12	底径8.0	底部 P25 2/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ、施釉	やや 良	灰白	K-14	
654	295-06	陶器 蓋	G6	SK12	口径17.2	口縁部 P25 1/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	やや 良	にぶい煙	瀬戸濃美製品 10型式	

第25表 出土遺物觀察表⑩

報告番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法面量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	出土	焼成	色調	特記事項
605	020-03	土師品 土器	F5	SK12	径1.1 重さ3.84	完存	外: ナデ	やや 粗	やや 不良	浅黄橙	
606	079-06	陶製品 鉢形	L14P1t1	SB167	最大長4.5 最大幅4.0	SB167	—	—	—	—	
607	025-02	陶器 山系鏡	L15	SK47	底径7.0	底部 12/12	外: ロクロナデ、底部糸切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第5型式
608	296-05	土師器 羽釜	W16P1t7	SB194	口徑21.0	口縁部 2/12	外: ナデ、ヨコナデ、鈎貼付 内: オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 不良	灰白	南伊勢系
609	350-02	木製品 柱	16P1t3	SB195	残存長37.7 幅1.6	—	—	—	—	—	ブナ科クリ属クリ
610	240-02	土師器 小皿	R24	SK298	口徑7.0	口縁部 3/12	外: ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	粗	やや 不良	にぶい 明麗灰	
611	249-01	陶器 甕	S24	SK298	口徑39.8	口縁部 1/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	良	灰 赤灰	常滑製品 10型式
612	281-02	土師器 小皿	R42	SB346	口徑8.9 高さ1.5	口縁部 9/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	粗	良	にぶい 根	
613	282-03	石製品 硯	R42	SB346	長さ5.8 幅4.2	—	—	—	—	—	燧灰質硯
614	280-05	土師器 楕円	S42	SB346	底径12.1 高さ5.7	底部 2/12	外: ロクロナデ、ヨコナデ、高台貼付 内: ロクロナデ	やや 粗	良	にぶい 根	
615	293-03	陶器 天日蒸陶 鏡形	JSP114	SA156	口徑11.0	口縁部 1/12	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	粗	良	灰白	瀬戸美濃製品 大窯第2段階
616	295-02	陶器 鏡形	DHP111	SA155	—	—	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	やや 粗	良	灰灰	瀬戸美濃製品 大窯第1段階
617	357-02	木製品 柱	JEP118	SA155	残存長4.9 幅1.6	—	—	—	—	—	マツ科マツ属(二葉松節)
618	014-03	陶器 仏龕具	F4	SK2	底径3.7	底部 12/12	外: ロクロナデ、底部糸切、施釉 内: ロクロナデ	粗	良	浅黄橙	瀬戸美濃製品 人頭第1段階
619	290-01	陶器 片口鉢	E3	SK2	—	—	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	粗	良	にぶい 黄根	常滑製品 9型式
620	014-02	陶器 甕	E4	SK2	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ、ロクロナデ	粗	良	灰	常滑製品 10型式
621	014-01	陶器 甕	E3	SK2	口徑26.8	口縁部 2/12	外: ロクロナデ 内: オサエ、ロクロナデ	やや 粗	良	にぶい 黄根	常滑製品
622	300-02	土師器 小皿	E3	SK2	口徑21.4	口縁部 1/12	外: ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 不良	灰黄褐 (2型A)	
623	017-01	陶器 片口鉢	G3	SK5	底径15.6	底部 3/12	外: ロクロナデ、底部糸切、高台贴付、ヨコナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第3B-4型式
624	017-06	陶器 天日蒸陶	H4	SK5	—	口縁部 1/12	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	粗	良	灰白	瀬戸美濃製品 古窯戸後留期
625	017-03	陶器 天日蒸陶	H4	SK5	口徑11.0	口縁部 2/12	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	粗	良	灰白	瀬戸美濃製品 古窯戸後留期新段階
626	299-02	陶器 片口鉢	F4	SK5	—	—	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	粗	良	にぶい 根	常滑製品 9型式
627	299-03	陶器 片口鉢	F4	SK5	上層	—	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	良	にぶい	常滑製品 9型式
628	018-03	土師器 里	H4	SK5	口徑10.0 下層	口縁部 7/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	浅黄橙	
629	018-02	土師器 里	F4	SK5	上層	口縁部 7/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	にぶい 根	
630	017-05	土師器 里	G3	SK5	口徑10.3 高さ2.0	口縁部 6/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	浅黄橙	
631	017-04	土師器 里	G3	SK5	口徑10.0 高さ2.0	口縁部 7/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	浅黄橙	
632	018-01	土師器 里	G3	SK5	口徑10.1 高さ1.4	口縁部 4/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	浅黄橙	
633	017-02	陶器 折縁皿	H4	SK5	底径6.4 高さ2.2	底部 4/12	外: ロクロナデ、削出高台、施釉 内: ロクロナデ	粗	良	灰白	瀬戸美濃製品 大窯第4段階前半
634	014-04	陶器 山系鏡	J6	SK10	口徑16.0	口縁部 2/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第4型式
635	015-05	陶器 片口鉢	J6	SK10	底径 10.0	底部 3/12	外: ロクロナデ、ケズリ、底部糸切、高台貼付、ナ デ 内: ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式(知多)
636	019-02	土師器 里	J5	SK10	口徑8.0 高さ1.5	口縁部 2/12	外: オサエ、ナデ 内: ナデ、ヨコナデ	粗	やや 不良	灰白	
637	019-01	土師器 里	J5	SK10	口徑9.4 高さ1.8	口縁部 3/12	外: オサエ、ナデ 内: ナデ、ヨコナデ	粗	やや 良	浅黄橙	
638	019-03	土師器 里	J5	SK10	口徑10.0 高さ2.0	口縁部 3/12	外: オサエ、ナデ 内: ナデ、ヨコナデ	粗	やや 不良	浅黄橙	
639	019-06	陶器 天日蒸陶	J6	SK10	口徑12.0	口縁部 4/12	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	粗	良	灰赤	瀬戸美濃製品 大窯第1段階
640	021-09	陶器 山系鏡	K7	SK19	底径6.3	底部 3/12	外: ロクロナデ、底部糸切 内: ロクロナデ	やや 粗	不良	灰白	尾張型第9型式
641	021-08	陶器 天日蒸陶	K7	SK19	口徑11.0	口縁部 4/12	外: ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内: ロクロナデ	粗	良	灰白	瀬戸美濃製品 大窯第3段階前半
642	024-04	陶器 小皿	J9	SK23	口徑8.0 高さ2.0	口縁部 3/12	外: ロクロナデ、底部糸切	粗	良	灰白	尾張型第6型式
643	024-05	土師器 里	J9	SK23	口徑7.0 高さ1.4	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	粗	良	灰白	
644	026-01	陶器 陶瓶	J9	SK23	瓶底 6/12	瓶底 6/12	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ	粗	良	灰白	瀬戸美濃製品 古窯戸後留期新段階

第26表 出土遺物観察表⑩

報告書番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法蓋(cm) 重量(g)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
695	299-07	土師器 小皿	K9	SK26	口徑10.0	口縁部 1/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	不良	浅黄橙	
696	026-05	土師器 皿	K9	SK26	口徑11.8	口縁部 2/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	浅黄橙	
697	025-04	陶器 天日茶碗	K9	SK26	底径4.0	底部 12/12	外:ロクロナデ、削出高台、施釉 内:ロクロナデ、施釉	やや 密	良	浅黄橙	庵戸美濃製品 古窯戸後四期新設附
698	026-03	土製品 土器	K9	SK26	残存長2.8 重量31	—	外:ナデ	密	良	灰白	
699	079-05	鉄製品 鉄製	K9	SK26	最大幅5.65 最大幅1.7	—	—	—	—	—	
700	299-03	土師器 皿	K9	SK20	口徑10.0	口縁部 3/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	灰白		
701	023-02	土師器 皿	K9	SK20	口徑11.3 重量2.1	口縁部 4/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	不良	灰白	内面油煙付か?
702	022-06	土師器 皿	K9	SK20	口徑11.1 重量1.9	口縁部 3/12	外:オチニ、ナデ、ヨコナデ 内:オチニ、ナデ、ヨコナデ	やや 密	不良	灰白	
703	023-01	土師器 剥落	K9	SK20	口徑20.2	口縁部 4/12	外:ナデ、ヨコナデ、削貼付、ハケメ、ケズリ、穿孔 内:オチニ、ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰黄	中北勢系
704	022-04	陶器 丸皿	K9	SK20	口徑10.4 重量2.3	口縁部 6/12	外:ロクロナデ、削出高台、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	庵戸美濃製品 大窯第2段階
705	292-02	陶器 天日茶碗	K8	SK20	口徑11.6	口縁部 6/12	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	
706	022-03	陶器 天日茶碗	K9	SK20	口徑11.6	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	やや 密	良	灰白	庵戸美濃製品 大窯第1段階
707	022-01	陶器 天日茶碗	K9	SK20	口徑11.0 重量6.7	口縁部 10/12	外:ロクロナデ、削出高台、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	庵戸美濃製品 大窯第1段階
708	022-08	陶器 天日茶碗	K9	SK20	底径4.2	底部 12/12	外:削出高台 内:削出高台	密	良	灰白	庵戸美濃製品 大窯第2段階
709	022-07	青磁 碗	K9	SK20	—	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	
710	022-05	青磁 碗	K9	SK20	底径6.2	底部 6/12	外:ロクロナデ、削出高台、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	庵戸美濃製品 大窯第1段階
711	303-01	木製品 下駄	K9	SK20	残存長15.4 厚6.6	—	—	—	—	—	
712	304-01	木製品 下駄	K9	SK20	最大長20.5 厚6.5	—	—	—	—	—	
713	298-03	灰釉陶器 広口壺	M13	SK43	口徑16.1	口縁部 1/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	
714	299-08	土師器 内耳鍋	M12	SK43	—	—	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	悪	黒褐色	尾張系
715	024-01	土師器 羽釜	M12	SK43	口徑19.6	口縁部 1/12	外:ナデ、ヨコナデ、削貼付 内:オチニ、ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	にぶい黄褐色	中北勢系
716	024-06	陶器 天日茶碗	M13	SK43	口徑11.6	口縁部 2/12	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	庵戸美濃製品 大窯第1段階
717	024-03	陶器 粗挽懸垂	M12	SK43	口徑9.8	口縁部 12/12	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰黃褐色	庵戸美濃製品 大窯
718	026-04	土師器 茶葉	P21	SK45	—	脚部 1/12	外:ナデ、ハイメ、削貼付 内:オチニ、ナデ	粗	良	にぶい黄褐色	
719	024-02	陶器 甕	021	SK51	口徑23.8	口縁部 2/12	外:ロクロナデ 内:ナデ、ロクロナデ	やや 密	良	褐灰	常滑製品 6a型式 外:自然色
720	025-03	陶器 山系柄	P19	SK54	底径6.0	底部 12/12	外:ロクロナデ、底部名条、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第3型式
721	027-01	陶器 山系柄	L16	SK55	口徑7.4	底部 4/12	外:ロクロナデ、底部名条、高台貼付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	尾張型第3型式
722	027-01	陶器 椎輪	K16	SK55	底径9.4	底部 6/12	外:ロクロナデ、底部名条、施釉 内:ナデ、クシメ、施釉	密	良	浅黄橙 褐色	庵戸美濃製品 大窯第3段階
723	028-01	陶器 片口跡	K19	SK70	口徑29.2	口縁部 2/12	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや 密	良	浅黄橙 褐色	常滑製品 11a-12型式
724	027-05	土師器 皿	P19	SK72	口徑12.9 重量2.3	口縁部 2/12	外:オチニ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	浅黄橙 褐色	
725	287-01	陶器 茶葉	P19	SK72	—	—	外:ロクロナデ、施釉 内:ナデ、ヨコナデ	密	良	灰白	庵戸美濃製品 古窯戸中期
726	028-04	陶器 山系柄	022	SK73	底径8.1	底部 3/12	外:ロクロナデ、削貼付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 密	良	灰白 灰褐色	尾張型第3型式
727	028-03	土師器 羽釜	022	SK73	口徑8.8	口縁部 6/12	外:オチニ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰白 褐色	
728	291-04	陶器 茶葉	022	SK73	底径27.0	口縁部 1/12	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	庵戸美濃製品 古窯戸中期
729	028-02	土師器 皿	P22	SK73	—	—	外:ロクロナデ、ケズリ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰白 灰褐色	尾張型第10型式(廻り)
730	029-01	陶器 椎輪	017	SK74	底径10.0	底部 6/12	外:ロクロナデ、底部名条、施釉 内:ロクロナデ、クシメ、施釉	やや 密	良	灰白 暗赤褐色	庵戸美濃製品 大窯第3段階
731	027-06	陶器 天日茶碗	P16	SK81	口徑11.0	口縁部 5/12	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	庵戸美濃製品 登臨第3小期ぐらいい
732	029-02	土師器 皿	019	SK90	口徑11.8 重量1.8	口縁部 1/12	外:オチニ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰白	
733	030-02	陶器 天日茶碗	P21	SK98	口徑11.0 重量2.6	口縁部 3/12	外:ロクロナデ、削出高台、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	明赤褐色 浅黄橙	庵戸美濃製品 大窯第3段階前半
734	030-03	土師器 羽釜	K-117	SK102	口徑22.0	口縁部 4/12	外:ナデ、ヨコナデ、削貼付、ハケメ、ケズリ、穿孔 内:オチニ、ナデ、ヨコナデ	密	良	灰黃 にぶい黄褐色	中北勢系 外:保付着
735	234-06	土師器 皿	S-B43	SK222	口徑11.2 重量2.6	口縁部 1/12	外:オチニ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	密	良	にぶい褐色	

第27表 出土遺物観察表⑩

報告番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm)	重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
736	234-07	土師器 皿	R-543	SK222 土層2	口径15.7 2/12	—	口縁部 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	やや 不良	にぶい黄褐色	淡赤褐色	
737	235-01	陶器 片口鉢	S43	SK222	口径38.0 3/12	—	口縁部 内:ロクロナデ	やや 密	良	暗、灰褐色	常滑製品 11か12型式	
738	383-02	木製品 杭	R42*	SK222	残存長10.9 径3.5	—	—	—	—	—	—	
739	380-02	木製品 杭	R42*	SK222	残存長10.9 径4.0	—	—	—	—	—	—	
740	380-03	木製品 杭	R42*	SK222	残存長31.5 径3.5	—	—	—	—	—	—	
741	380-01	木製品 杭	R42*	SK222	残存長30.0 径3.5	—	—	—	—	—	—	
742	383-01	木製品 杭	R42*	SK222	残存長36.5 径4.0	—	—	—	—	—	—	
743	234-01	陶器 山茶樹	Q44	SK224	高台8.0 6/12	—	外:ロクロナデ、底部糸切、高台縁付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	擬美型? 第5型式	
744	234-02	陶器 山茶樹	R44	SK224	高台径6.2 12/12	—	外:ロクロナデ、底部糸切、高台縁付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 密	良	灰白	尾張型第6型式	
745	234-05	土師器 小皿	P43	SK224	口径10.6 6/12	—	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	やや	にぶい黄褐色	—	
746	235-02	石製品 鍋	P43	SK224	重さ66.24g 1/12	—	外:研磨、研磨 内:削出、研磨	—	—	—	滑石	
747	234-04	白磁 碗	P43	SK224 土層2	口径16.2 2/12	—	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	やや	灰白	—	
748	242-07	陶器 梗豆皿	P26	SK262	口径9.6 29.42.2 4/12	—	外:ロクロナデ、削出高台、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	にぶい黄褐色	瀬戸美濃製品 大室第2段階	
749	242-03	陶器 梗豆皿	P26	SK262	底径5.5 12/12	—	外:削出高台 内:ロクロナデ、施釉	密	良	褐灰	瀬戸美濃製品 大室第2段階	
750	237-01	陶器 大日茶樹	P26	SK262	底径6.0 6/12	—	外:ロクロナデ、ロクロゼリ、削出高台、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	にぶい黄褐色	瀬戸美濃製品 大室第2段階後半	
751	242-06	陶器 茶器の広 有耳壺	P26	SK262	口径13.1 1/12	—	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	やや 密	良	灰白	瀬戸美濃製品 大室第1段階	
752	242-04	陶器 梗豆皿	Q30	SK289	底径7.8 1/12	—	外:ロクロナデ、削出高台、施釉 内:ロクロナデ、施釉	粗	良	灰褐色	瀬戸美濃製品 大室第1段階前半	
753	242-05	陶器 梗豆皿	Q30	SK289	口径11.2 1/12	—	外:ロクロナデ、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰褐色	瀬戸美濃製品 大室第1段階前半	
754	249-05	陶器 大日茶樹	T36*	SK249	底径7.8 3/5層	—	外:ロクロナデ、底部糸切、高台縁付、ナデ 内:ロクロナデ、施釉	やや 密	良	灰白	白瀬戸外輪青 尾張型第6型式	
755	239-04	陶器 茶器	T36*	SK249	口径14.0 2/12	—	外:ロクロナデ、底部糸切、施釉 内:ロクロナデ、施釉、削出、即日 削出	密	良	浅黃褐色	瀬戸美濃製品 古瀬戸後日附	
756	238-05	陶器 大日茶樹	T37	SK249	底径6.7 5層	—	外:削出高台 内:ロクロナデ、施釉	やや 密	良	灰褐色	瀬戸美濃製品 大室第3段階前半	
757	238-01	陶器 片口鉢	T37	SK249	底径11.2 3-5層	—	外:オサエ、ロクロナデ、底部糸切 内:ロクロナデ、施釉	やや 粗	良	褐色	瀬戸美濃製品 明治期	
758	239-02	陶器 片口鉢	T37	SK249	底径16.0 5層	—	外:オサエ、ロクロナデ、底部糸切、施釉 内:ロクロナデ	やや 密	良	灰褐色	瀬戸美濃製品 19か20型式	
759	239-01	陶器 梗豆	T37	SK249	底径21.4 1層	—	外:オサエナデ 内:ナデ	やや 粗	良	にぶい褐色	瀬戸美濃製品 19か20型式	
760	375-01	木製品 漆桶	T36	SK249	底径8.4 5層	—	—	—	—	—	ヅナ萬	
761	243-01	陶器 片口鉢	R42	SK225	口径48.0 1/12	—	外:ロクロナデ、ハタメ 内:ロクロナデ	粗	良	にぶい黄褐色	常滑製品 11型式	
762	052-03	土師器 高杯	I13	SS035	脚無部径3.0 下層	—	外:ナデ、ヨコナデ 内:ビヨリメ、ヨコナデ	密	良	灰褐色	黄褐色	
763	290-06	陶器 肥利	K11	SS035	底径13.4 上層	—	外:ロクロナデ、底部糸切、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	灰白	瀬戸美濃製品 大室第2か3段階	
764	051-05	陶器 山茶樹	I13	SS035	底径6.2 4/12	—	外:ロクロナデ、底部糸切、高台縁付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	尾張型第6型式	
765	051-01	陶器 山茶樹	K12	SS035	底径7.1 下層	—	外:ロクロナデ、底部糸切、高台縁付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	尾張型第6型式	
766	054-03	陶器 山茶樹	M11	SS035	口径14.2 岩高6.5 4/12	—	外:ロクロナデ、底部糸切、高台縁付、ナデ 内:ロクロナデ	粗	良	灰白	尾張型第7型式(瀬戸)	
767	050-01	陶器 山茶樹	H12	SS035	底径5.3 岩高5.3 12/12	—	外:ロクロナデ、底部糸切、高台縁付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 密	良	灰白	尾張型第8型式(瀬戸)	
768	051-04	陶器 山茶樹	K12	SS035	底径7.9 上層	—	外:ロクロナデ、底部糸切、高台縁付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰褐色	擬美型? 第4型式	
769	051-03	陶器 山茶樹	K12	SS035	底径7.8 上層	—	外:ロクロナデ、底部糸切、高台縁付、ナデ 内:ロクロナデ	密	良	灰白	尾張型第4型式	
770	054-02	陶器 片口鉢	L11	SS035	底径13.2 下層	—	外:ロクロナデ、底部糸切、高台縁付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 密	良	にぶい黄褐色	擬美型第4型式	
771	052-02	陶器 梗豆	L11	SS035	口径37.0 上層	—	外:ロクロナデ 内:工具ナデ、ロクロナデ	やや 密	良	灰褐色	常滑製品 6a型式	
772	051-02	土師器 皿	H12	SS035	口径9.0 下層	—	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	密	良	橙	—	
773	300-01	土師器 羽釜	I13	SS035	口径23.2 1/12	—	外:オサエ、ヨコナデ、潤貼付 内:ナデ、ナデ、ナデ	やや 密	良	にぶい黄褐色	中北勢系	
774	053-03	土師器 内耳鉢	H12	SS035	口径29.0 2/12	—	外:ナデ、ヨコナデ、ハケメ 内:ナサエ、ナデ、ヨコナデ、耳貼付	密	良	にぶい橙	尾張系 煤甕看	
775	050-02	陶器 丸皿	K11	SS035	口径11.5 上層	—	外:ロクロナデ、削出高台、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	褐	瀬戸美濃製品 大室第2段階	
776	051-07	陶器 天日茶樹	I13	SS035	底径3.6 6/12	—	外:ロクロナデ、削出高台、施釉 内:ロクロナデ、施釉	密	良	暗褐色	瀬戸美濃製品 古瀬戸後日附	

第28表 出土遺物観察表②

報告 番号	実測 番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調査・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
777	050-04	陶器 天日矢瓶	H13	S035	口径11.0 3/12	口縁部 外: ロクロナデ、クロケズリ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	やや 良	暗赤褐色	廻戸瓦製品 古廻戸第IV段新断面		
778	051-08	陶器 人面矢瓶	H12	S035	口径13.0 2/12	口縁部 外: ロクロナデ、クロケズリ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	やや 良	赤灰	廻戸瓦製品 人面矢瓶		
779	051-06	陶器 海苔	J13	S035	口径15.0 2/12	口縁部 外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	やや 良	にぶい黄	廻戸瓦製品 大張第3段 削平半寸第4段削平		
780	299-05	陶器 煎茶丸碗	H12	S035	底径4.9 10/12	底面 外: 斜削高台 内: ロクロナデ、施釉	やや 良	灰白	廻戸瓦製品 煎茶丸碗		
781	053-02	陶器 煙鉢	H13	S035	— 12/12	口縁部 外: ロクロナデ、クロケズリ、施釉 内: ロクロナデ、クロケズリ、施釉	やや 良	暗灰	782と組合 廻戸瓦製品 大張第3段		
782	291-02	陶器 煙鉢	H13	S035	口径20.4 1/12	口縁部 外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、クロケズリ、施釉	やや 良	にぶい黄褐色	781と組合 大張第3段		
783	297-02	陶器 片口鉢	M11	S035	— 1/12	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	やや 良	明赤褐色	常滑製品 11か12型式		
784	291-01	陶器 甕	H13	S035	口径41.6 1/12	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	やや 良	にぶい緑	常滑製品 10型式		
785	052-01	陶器 甕	L11	S035	口径37.0 2/12	口縁部 外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	やや 良	赤褐色 赤橙	常滑製品 10型式		
786	289-02	陶器 甕	L11	S035	口径32.5 1/12	口縁部 外: ロクロナデ 内: オサエ、ロクロナデ	やや 良	赤褐色 暗赤褐色	常滑製品 10型式		
787	053-01	陶器 甕	K11	S035	底径13.0 上縁 8/12	底部 外: オサエ、ナデ 内: ナデ	やや 良	灰褐色 暗褐色	常滑製品 6.0-7.0型式		
788	299-01	土製品 輪羽口 鉢	L11	S035	径8.5 —	外: ナデ	やや 良	灰白	常滑製品 6.0-7.0型式		
789	050-03	土製品 輪羽口 鉢	H12	S035	口径16.7 2/12	口縁部 外: 斜削、研磨 内: 斜削、研磨	やや 良	にぶい黄褐色	滑石		
790	307-01	木製品 下駄	K11	S035	長さ20.0 厚さ6 —	—	—	—	—	—	
791	305-05	木製品 漆椀	H13	S035	口径14.0 底径5.5 4/12	底面 外: ロクロナデ	—	—	—	—	
792	308-01	木製品 板材	H12	S035	長さ13.5 下縁 厚さ6 —	—	—	—	—	—	
793	306-01	木製品 曲物	H12	S035	口径11.4 底径9 —	—	—	—	—	—	
794	305-04	木製品 箸	H13	S035	残存長10.5 幅0.7 —	—	—	—	—	—	
795	079-07	鉄製品 小柄	L11	S035	最大長26.5 上縁 —	—	—	—	—	—	
796	342-02	骨芯(左)	I13	S035	残存長12.2 下縁 —	—	—	—	—	—	
797	??/?	下顎骨	L12	S035	— 下縁 —	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
798	??/?	上腕骨 (左)	I13	S035	— 下縁 —	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
799	064-05	土師器	D21	S062	— 口縁部 1/12	外: オサエ、ナデ、ハケメ、ヨコナデ 内: オサエ、ナデ、ヨコナデ	粗	やや 良	黒褐色 褐色	南伊勢系	
800	066-02	土師器	Q20	S062	口径25.6 下縁 1/12	口縁部 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	やや 良	にぶい 灰褐色	南伊勢系		
801	286-01	土師器	Q20	S062	口径29.2 下縁 1/12	口縁部 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	やや 粗	やや 良	灰白	南伊勢系	
802	066-01	土師器	R20	S062	口径27.7 下縁 2/12	口縁部 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	やや 粗	やや 良	灰黃褐色 灰	南伊勢系	
803	061-03	*?土師器	P21	S062	底径5.9 5/12	外: ロクロナデ、底削系切 内: ロクロナデ	やや 粗	不良	灰白	柱状高台	
804	065-05	陶器 山茶碗	Q20	S062	口径5.8 底部5.5 9/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	麗美型? 第5型式		
805	060-04	陶器 山茶碗	O21	S062	口径5.4 底部5.9 12/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切 内: ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式	
806	061-04	陶器 山茶碗	P21	S062	口径5.2 底部5.2 12/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切 内: ロクロナデ	良	良	灰白	尾張型第6型式	
807	065-04	陶器 山茶碗	R20	S062	底径5.0 底部5.5 9/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第4型式		
808	066-06	陶器 山茶碗	Q20	S062	口径5.8 底部5.5 4/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	麗美型第6型式		
809	059-01	陶器 山茶碗	P21	S062	口径5.8 底部5.3 6/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式	
810	066-05	陶器 山茶碗	Q20	S062	口径5.4 底部5.0 3/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	麗美型第6型式		
811	059-05	陶器 山茶碗	O21	S062	口径5.8 底部4.8 5/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式		
812	062-02	陶器 山茶碗	P20	S062	底径5.2 底部5.0 5/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式	
813	059-02	陶器 山茶碗	P21	S062	底径5.8 底部5.9 12/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰	尾張型第6型式		
814	066-04	陶器 山茶碗	Q20	S062	口径4.6 底部4.9 5/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	良	灰白	尾張型第6型式	
815	062-03	陶器 山茶碗	O21	S062	底径5.2 底部5.0 6/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	良	灰 黄灰	尾張型第6型式	
816	059-04	陶器 山茶碗	N22	S062	底径5.3 底部5.0 12/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式		
817	059-03	陶器 山茶碗	O21	S062	口径3.4 底部4.9 9/12	口縁部 外: ロクロナデ、底削系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式		

第29表 出土遺物観察表②

報告 番号	実測 番号	器種等	小地 区	遺構名	法量 重量 (kg)	残存度	調整・抜法などの特徴		胎土	焼成	色調	特記事項
							外：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	外：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ				
818	333-03	陶器 山茶碗	021	S062	底径5.2 高さ4.8	底面 12/12	外：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 良	灰白	外山底部埋蔵 第6型式		
819	063-04	陶器 山茶碗	019	S062	底径6.0 高さ5.3	底面 1/12	外：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	良	灰白	尾張型第7型式（廻戸）		
820	062-04	陶器 山茶碗	021	S062	底径4.8 高さ4.8	底面 4/12	外：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第7型式（廻戸）		
821	062-01	陶器 山茶碗	Q29	S062	底径5.3 高さ5.3	底面 12/12	外：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第7型式		
822	066-03	陶器 山茶碗	Q29	S062	口径14.1 器高5.1	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ、底面系切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第7型式（廻戸）		
823	065-03	陶器 口片鉢	Q29	S062	— 下巻	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、ケズリ	やや 良	灰白	尾張型第4型式执行（知多）		
824	065-02	陶器 口片鉢	021	S062	— 下巻	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式（知多）		
825	064-01	陶器 壺	021	S062	頸部横径13.8 上巻	頸部 12/12	外：ロクロナデ、旋輪 内：ロクロナデ	やや 良	灰白			
826	065-05	土師器 壺	N21	S062	口径8.8 器高6.3	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ヨコナデ	やや 良	にい・黄褐色 黒褐色			
827	063-02	土師器 壺	022	S062	口径10.0 器高2.6	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 良	黒褐色 にい・褐色			
828	284-04	土師器 羽釜	W21	S062	口径12.1 器高1.7	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 良	褐灰			
829	064-02	土師器 羽釜	Q29	S062	— —	口縁部 1/12	外：オサエ、ヨコナデ、調粘付 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 良	にい・褐色 外：煤付带	中北斎系 伊勢系		
830	284-06	土師器 羽釜	020	S062	— —	口縁部 1/12	外：オサエ、ヨコナデ、調粘付 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 良	灰白	南伊勢系		
831	064-03	土師器 羽釜	022	S062	— —	口縁部 1/12	外：オサエ、ヨコナデ、調粘付、穿孔 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	良	にい・褐色	中北斎系 外：煤付带		
832	063-01	陶器 絆付接ぎ	P21	S062	底径4.5 器高2.5	底面 12/12	外：ロクロナデ、底面系切、施輪 内：ロクロナデ、施輪	良	にい・褐色 灰白	廻戸美濃製品 大窯第1段階		
833	061-02	陶器 灰付端反 並か丸足	M22	S062	底径4.2 高さ4.0	底面 1/12	外：ロクロナデ、削出高台、施輪 内：ロクロナデ、施輪	良	灰白	廻戸美濃製品 大窯第1か2段階		
834	063-03	陶器 天日茶碗	N21	S062	口径18.0 器高6.0	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、施輪 内：ロクロナデ、施輪	良	にい・褐色 灰白	廻戸美濃製品 大窯第3段階		
835	060-02	陶器 天日茶碗	N22	S062	口径10.6 器高6.4	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケツリ、施輪 内：ロクロナデ、施輪	良	灰白	廻戸美濃製品 大窯第4段階後半		
836	063-05	陶器 平柄	N21	S062	口径14.0 高さ14.0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、施輪 内：ロクロナデ、施輪	良	灰白	廻戸美濃製品 古窯戸第IV期新段階		
837	291-05	陶器大型 筒形容器	N22	S062	— —	外：ロクロナデ、施輪 内：ロクロナデ	良	灰白	廻戸美濃製品 古窯戸第I・II・III期			
838	060-03	陶器口広 有耳瓦	P29	S062	底径10.6 高さ8.0	底面 6/12	外：ロクロナデ、底面系切、施輪 内：ロクロナデ	やや 良	灰白 灰白	廻戸美濃製品 古窯戸後IV期 新段階から大窯第1段階		
839	288-03	陶器 縹体	021	S062	口径31.0 下巻	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施輪 内：ロクロナデ、施輪	良	浅黄褐色	廻戸美濃製品 大窯第3段階前半		
840	070-01	陶器 片口鉢	Q29	S062	口径25.8 —	口縁部 3/12	外：オサエ、工具アラ、ヨコナデ 内：オサエ、ヨコナデ	やや 良	橙 赤褐色	濃津製品 9年型		
841	287-03	陶器 口片鉢	Q21	S063	口径36.0 —	口縁部 3/12	外：オサエ、ケズリ、ヨコナデ 内：オサエ、ヨコナデ	やや 良	橙 11年型2式	濃津製品 11年型2式		
842	070-02	陶器 大鉢	P22	S062	口径23.0 —	口縁部 4/12	外：工具ナダ、ヨコナデ 内：工具ナダ、ヨコナデ	良	灰白	濃津製品 12型式		
843	287-04	陶器 玉	021	S062	口径19.0 下巻	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、施輪 内：ロクロナデ、施輪	やや 良	灰白	濃津製品 9年型		
844	071-01	陶器 壺	021	S062	— —	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：オサエ	良	にい・赤褐色 灰白	濃津製品 10型式		
845	288-05	陶器 壺	M21	S062	口径28.8 下巻	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：オサエ	良	にい・赤褐色	濃津製品 10型式		
846	289-01	陶器 壺	M21	S062	口径38.2 上巻	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	良	暗灰	濃津製品 11型式		
847	287-06	陶器 壺	N22	S062	— —	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	良	灰白	濃津製品 12型式			
848	059-06	青磁 碗	N21	S062	底径6.0 高さ4.8	底面 12/12	外：ロクロナデ、削出高台、施輪 内：ロクロナデ、施輪	良	灰白			
849	064-04	土製品 瓦	N21	S062	残存長6.2 厚1.6	口縁部 1/12	外：ナデ 内：ナデ	やや 良	灰黃 暗灰			
850	060-01	土製品 瓦	Q21	S062	残存長8.1 厚1.6	口縁部少 内：布目	外：ナデ 内：布目	不良	暗灰 灰白			
851	333-04	陶器	021	S062	長7.1 厚1.2	—	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	良	灰白	片口鉢を加工		
852	061-01	土製品 輪羽口	N22	S062	— —	外：ナデ	粗	やや 不良	灰黃			
853	318-03	木製品 箸	N21	S062	長さ14.3 幅6.8	—	—	—	—	—		
854	320-01	木製品 漆杓	N22	S062	底径6.7 ~9.0	—	—	—	—	—		
855	323-02	木製品 漆杓	Q19	S062	底径7.0	—	—	—	—	—		
856	319-01	木製品 下駄	M21	S062	長さ18.7 厚4.0	—	—	—	—	—		
857	345-01	木製品 草塔婆	P22	S062	底径63.1 残存高4.1	—	—	—	—	—	六道面地蘿苔蔭	
858	345-02	木製品 草塔婆	Q22	S062	残存長42.3 上巻	—	—	—	—	—	草塔婆水地	

第30表 出土遺物観察表②

報告 番号	実測 番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調査・技法などの特徴	紹土	焼成	色調	特記事項
659	344-01	骨 穀骨・ 尺骨(左)	P21	S062	残存長38.3	—	—	—	—	—	
660	342-01	骨 穎骨(左)	P21	S062	残存長27.7	—	—	—	—	—	
661	骨 穎骨	P20	S062	下層	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
662	骨 上腕骨 (左)	P21	S062	—	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
663	骨 中手骨 (左)	P21	S062	—	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
664	骨 大腿骨 (右)	P21	S062	—	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
665	骨 骨	M22	S062	—	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
666	骨 骨	Q20	S062	下層	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
667	骨 骨	Q20 021	S062 下層	—	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
668	197-01	石製品 五輪塔	Q19	S062	最大長18.8 最大幅18.3	—	—	—	—	—	木輪 花崗岩
669	155-01	鏡	Q43	S3218 No. 1	—	—	—	—	—	—	皇宋通宝
670	155-02	鏡	Q43	S3218 No. 2	—	—	—	—	—	—	政和通宝
671	155-03	鏡	Q43	S3218 No. 3~5	—	—	—	—	—	—	治平通宝 熙寧元宝
672	155-04	鏡	Q43	S3218 No. 6~8	—	—	—	—	—	—	元祐通宝 天禧通宝
673	155-05	鏡	Q43	S3218 No. 9~ 12	—	—	—	—	—	—	皇宋通宝
681	布	Q44	S3218	—	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
682	031-03	灰陶衛器	E6	S01	底径8.0	底部 内: ロクロナラ 外: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナラ	密	並	灰白 灰黄	
683	031-01	陶器 山茶碗	F5	S01	底径7.7	底部 内: ロクロナラ 外: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナラ	密	並	灰白	尾張型第3型式
684	032-03	陶器 小皿	I4	S01	口径7.8 器高2.0	口縁部 内: ロクロナラ 器底: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切 内: ロクロナラ	やや 粗	良	灰白	尾張型第7型式
685	031-04	陶器 山茶碗	F6	S01	底径4.9 器高4.0	底部 内: ロクロナラ 外: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切 内: ロクロナラ	やや 粗	良	灰白	底部外周黒帯「十」字形外側面・施墨 尾張型第7型式
686	032-05	陶器 山茶碗	I4	S01	底径5.4	底部 内: ロクロナラ 外: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナラ	やや 粗	並	灰白	底部外周黒帯「十」字形外側面・施墨 尾張型第7型式
687	031-02	土師器	E6	S01	口径8.0 器高2.0	口縁部 内: ロクロナラ 器底: ロクロナラ	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	粗	やや 不良	灰白 灰黄	
688	032-04	土師器	I4	S01	口径12.0 器高3.3	口縁部 内: ロクロナラ 器底: ロクロナラ	外: オサエ、ナデ、ヨコナラ 内: ヨコナラ	やや 粗	やや 良	灰白	
689	298-04	陶器 天目茶碗	F5	S01	口径10.8	口縁部 内: ロクロナラ 外: ロクロナラ	外: ロクロナラ、施墨 内: ロクロナラ	密	良	にふり・埋	廻戸美濃製品 古瀬戸後IV期新段階
690	032-01	陶器 尊式花瓶	I4	S01	底径8.8	底部 内: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切、施墨 内: ロクロナラ	やや 粗	良	灰白	廻戸美濃製品 古瀬戸後III~IV期古段階
691	032-02	青磁 瓶	I4	S01	—	口縁部 内: ロクロナラ	外: ロクロナラ、施墨 内: ロクロナラ	密	良	灰白	
692	033-02	灰陶器	G7	S09	最大長2.6 幅 蓋高	蓋 内: ロクロナラ、ロクロケズリ、貼付ナデ、ナデ 外: ロクロナラ	外: ロクロナラ、ロクロケズリ、貼付ナデ、ナデ 内: ロクロナラ	やや 密	良	にふり・赤褐色	
693	033-03	土師器 蓋	F7	S09	底径4.0	底部 内: ロクロナラ 外: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切 内: ロクロナラ	粗	やや 不良	浅黃褐色	柱状高台
694	033-01	土師器 甕	F6	S09	口径18.0	口縁部 内: ヨコナラデ、ヨケズリ 3/12	外: ヨコナラデ、ハケメ 内: ヨコナラデ、ハケメ	やや 粗	不良	浅黃褐色	風化大
695	033-05	土製品 土壠	G7	S09	最大長5.7 幅 重さ5	— 内: ナデ	外: ナデ 内: ナデ	やや 粗	やや 良	灰白 にふり・埋	
696	033-04	白磁 瓶	F7	S09	—	口縁部 内: ロクロナラ、施墨、施輪 1/12	外: ロクロナラ、施墨、施輪 内: ロクロナラ、施墨、施輪	密	良	灰白	
697	031-05	青磁 瓶	F7	S09	口径15.0	口縁部 内: ロクロナラ 2/12	外: ロクロナラ、施墨、施輪 内: ロクロナラ	密	良	灰白	
698	038-03	陶器 小皿	H6	S015	底径5.0 器高2.0	底部 内: ロクロナラ 外: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切 内: ロクロナラ	粗	良	灰白	尾張型第6型式
699	038-02	陶器 小皿	H6	S015	底径5.0 器高2.0	底部 内: ロクロナラ 外: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切 内: ロクロナラ	粗	良	灰白	尾張型第6型式
700	037-04	陶器 小皿	G7	S015	口径5.6 器高1.6	口縁部 内: ロクロナラ 8/12	外: ロクロナラ、底部系切 内: ロクロナラ	やや 粗	良	灰白	尾張型第7型式
701	036-01	陶器 山茶碗	G7	S015	口径12.5 器高2.7	口縁部 内: ロクロナラ 12/12	外: ロクロナラ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナラ	粗	良	灰白	尾張型第6型式(廻戸)
702	038-01	陶器 山茶碗	H6	S015	底径5.0	底部 内: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナラ	やや 粗	良	灰白	尾張型第7型式(廻戸)
703	038-04	陶器 山茶碗	G7	S015	底径5.0	底部 内: ロクロナラ	外: ロクロナラ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナラ	粗	良	灰白	尾張型第7型式(廻戸)

第31表 出土遺物観察表22

報告 番号	実測 番号	器種等	小地 区	遺構名	法量 重量 (cm) (g)	残存度	調整・技法などの特徴		胎土	焼成	色調	特記事項
							外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ				
904 036-05	陶器 山茶碗	F7	SD15	底径5.2 器高4.9	底部 8/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや 粗	良 良	灰白	尾張型第7型式(瀬戸)		
905 038-06	陶器 山茶碗	G7	SD15	底径5.8 器高5.8	底部 8/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	良 粗	良 良	灰白	底部外面部墨 尾張型第7型式(瀬戸)		
906 037-03	白磁 皿	G7	SD15	口径8.4	口縁部 2/12	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、施釉	著 粗	良 良	灰白			
907 037-02	白磁 器皿	G7	SD15	底径5.8 器高2.0	底部 4/12	外: ロクロナデ、ロコケズア、施釉 内: ロクロナデ、施釉	著 粗	良 良	灰白			
908 036-04	陶器 山茶碗	G7	SD15	口径13.4	口縁部 3/12	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ	粗 粗	良 良	灰白	尾張型第7.5-8型式		
909 035-05	灰釉陶 皿	E8	SD15	—	—	内: ロクロナデ、施釉	著 粗	良 良	灰白			
910 037-01	陶器 片口鉢	E8	SD15	口径36.0 器高12.9	口縁部 4/12	外: ハケヌ、オサヌ、ヨコナデ 内: ハケヌ、ヨコナデ	やや 粗	良 良	にぶい にぶい赤施 青滑製品			
911 050-01	土師器 蓋釜	L18	S007	口径15.8	口縁部 4/12	外: オサヌ、ナデ、ヨコナデ 内: オサヌ、ハケヌ、ヨコナデ	やや 粗	良 良	青 青	中北勢系		
912 054-04	陶器 豆舟彌尊	L17	S007	口径13.0	口縁部 2/12	外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、ナデ	著 粗	良 良	にぶい赤施 灰黄施	瀬戸美濃製品 大窯		
913 061-05	土製品 櫛羽口	N23	SD44	径3.3	—	外: ナデ	粗 粗	やや 不良	灰黃 にぶい	櫛		
914 291-03	陶器 櫛鉢	N21	SD62	口径27.5	口縁部 1/12側	外: ロクロナデ、施釉 内: ロクロナデ、クシメ、施釉	著 粗	良 良	にぶい にぶい黄橙	瀬戸美濃製品 吉澤窯後IV期新段階		
915 237-09	土製品 土鍋	S44	S0247	長さ1.0 重さ0.74	—	外: ナデ	やや 粗	やや 不良	にぶい にぶい黄橙			
916 236-01	須恵器 壺	R-544	S0247	口径3.6	口縁部 2/12	外: ロクロナデ 内: ロクロナデ	著 粗	良 良	灰	施役 8世紀後半		
917 244-06	土師器 皿	Q26	SD260	口径5.5 下幅	口縁部 1/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	著 粗	やや 良	にぶい にぶい	施		
918 244-01	陶器 山茶碗	P27+ 28	S0271	底径5.9 高杯	底部 9/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	著 粗	良 良	灰白 灰	瀬美型第5型式		
919 047-03	土師器 高杯	H10	S031	脚瓶形脚4.0	脚瓶形 12/12	外: ナデ 内: ピヨリヌ、ナデ	やや 粗	やや 良	灰白 灰			
920 047-02	土師器 甕	H11	S031	口径15.4	口縁部 1/12	外: ヨコナデ、ハケヌ 内: ヨコナデ、ハケヌ	やや 粗	やや 良	灰白 灰			
921 045-01	±土師器 皿	J10	S022	底径4.0	底部 6/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや 粗	良 良	灰白 黽灰	柱状高台		
922 047-06	陶器 小皿	I10	S031	口径8.3 下幅	口縁部 4/12	外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	著 粗	良 良	灰白	尾張型第6型式		
923 043-05	陶器 山茶碗	L10	S022	底径8.1	底部 8/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	著 粗	良 良	灰白	瀬美型?第3型式		
924 043-04	陶器 山茶碗	L10	S022	底径7.2	底部 4/12	外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	著 粗	良 良	灰白	瀬美型第4型式ぐらいい		
925 041-02	土師器 小皿	K10	S022	口径7.4 器高4.9	口縁部 4/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
926 040-08	土師器 小皿	K10	S022	口径7.4 器高4.4	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
927 040-04	土師器 小皿	K10	S022	口径7.6 器高1.6	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
928 040-02	土師器 小皿	K10	S022	口径7.8 器高1.7	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
929 040-07	土師器 小皿	K10	S022	口径8.2 器高1.7	口縁部 8/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
930 041-04	土師器 小皿	K10	S022	口径7.5 器高1.6	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
931 041-03	土師器 小皿	K10	S022	口径7.4 器高1.7	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
932 040-01	土師器 小皿	K10	S022	口径7.8 器高1.8	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
933 039-06	土師器 小皿	K10	S022	口径7.7 器高1.5	口縁部 9/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	粗	不良	灰白			
934 040-05	土師器 小皿	K10	S022	口径7.8 器高1.4	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
935 039-04	土師器 小皿	K10	S022	口径7.9 器高1.5	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白→黄灰			
936 039-07	土師器 小皿	K10	S022	口径7.8 器高1.8	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
937 039-05	土師器 小皿	K10	S022	口径7.9 器高1.7	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
938 040-03	土師器 小皿	K10	S022	口径7.7 器高1.8	口縁部 12/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
939 040-06	土師器 小皿	K10	S022	口径8.4 器高1.8	口縁部 4/12	外: オサエ、ナデ 内: オサエ、ナデ	やや 粗	不良	灰白			
940 043-01	土師器 皿	K10	S022	底径5.4 器高1.0	底部 3/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	著 粗	不良	黄灰 灰			
941 043-03	土師器 皿	K10	S022	口径9.2 器高2.6	口縁部 6/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	著 粗	やや 不良	灰白	瀬美型 灰白		
942 043-02	土師器 皿	I10	S022	口径10.0 器高1.6	口縁部 6/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	著 粗	やや 不良	灰白			
943 299-02	土師器 皿	I11	S022	口径13.0 器高2.5	口縁部 2/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 不良	灰白 黽灰			
944 047-04	土師器 皿	I10	S031	口径12.3 器高2.3	口縁部 2/12	外: オサエ、ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	灰白			

第32表 出土遺物観察表④

報告書番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎝) 重量(㌘)	残存度	調査・技法などの特徴	出土	焼成	色調	特記事項
945	041-01	土師器	K10	S522	口径10.3 器高2.05	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 密	不良	灰白	京都系
946	299-04	土師器	J10	S522	口径12.0 下崩	口縁部 2/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰白	
947	299-06	土師器	J10	S522	口径14.0 下崩	口縁部 2/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰白	
948	047-05	土師器	J10	S501	口径13.2 下崩	口縁部 3/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰白	
949	044-02	土師器	L10	S522	口径20.0 下崩	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、タヌリ、ヨコナデ、跨貼付 内：オサエ、ナデ、タヌリ、ヨコナデ	やや 密	灰灰、灰白 灰黄	中化物系 中化物系 外：横行着	
950	041-01	土師器	I11	S502	口径11.2 下崩	口縁部 3/12	外：オサエ、タヌリ、ヨコナデ、跨貼付、タケメ、穿孔 内：ナデ、タヌリ、タケメ、タヌリ、ヨコナデ	やや 密	良	灰黄褐	中化物系 外：横行着
951	045-04	土師器	I9	S502	口径13.9 下崩	口縁部 2/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰褐	中化物系
952	043-06	陶器	I10	S502	口径11.0 下崩	底部 8/12	外：ロクロナデ、底部高台、施釉 内：ロクロナデ、底部 外：ロクロナデ、底部高台、施釉	良	灰白	灰灰	瓶底未焼成品 尾張型第12型式
953	042-02	陶器	I10	S502	口径6.6 下崩	底部 8/12	外：ロクロナデ、底部高台、施釉 内：ロクロナデ、底部 外：ロクロナデ、底部高台、施釉	良	灰	灰	瓶底未焼成品 大雲型2段階前半
954	045-03	青磁	J10	S5022	口径1.7 G4 櫻花皿	口縁部 8/12	外：ロクロナデ、底部高台、施釉 内：ロクロナデ、底部 外：ロクロナデ、底部高台、施釉	良	灰白	灰灰	S5022上とSKAII上の遺物が 合併してきた。
955	043-07	陶器	I10	S522	口径12.0 下崩	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、底部高台、施釉 内：ロクロナデ、底部 外：ロクロナデ、底部高台、施釉	良	灰	灰白	瓶底未焼成品 大雲型2段階
956	048-08	陶器	J10	S501	口径11.8 下崩	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロケツリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉 外：ロクロナデ、底部高台、施釉	良	灰白	灰褐	瓶底未焼成品 大雲型2段階
957	047-07	陶器	J10	S501	口径11.9 下崩	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、底部高台、施釉 内：ロクロナデ、底部 外：ロクロナデ、底部高台、施釉	良	灰白	灰	瓶底未焼成品 大雲型3段階前半
958	288-04	陶器	I11	S502	口径29.6 下崩	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉 外：ロクロナデ、施釉	良	灰黄褐	灰灰	瓶底未焼成品 大雲型3段階前半
959	288-02	陶器	J10	S502	口径31.0 下崩	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉 外：ロクロナデ、施釉	良	灰	灰白	瓶底未焼成品 大雲型2段階
960	041-07	陶器	J10	S501	口径30.4 下崩	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉 外：ロクロナデ、施釉	やや 粗	良	灰黄褐	瓶底未焼成品 大雲型2段階
961	042-01	陶器	I10	S502	口径36.0 下崩	底部 6/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 粗	良	灰白	瓶底未焼成品 大雲型2段階
962	297-01	陶器	I22	S502	口径27.0 下崩	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 粗	良	褐灰	常滑製品 9型式ぐらいい
963	289-03	陶器	I11	S502	口径29.2 下崩	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：オサエ、ロクロナデ	やや 密	良	褐灰	11B-12型式
964	039-03	石製品	G11	S502	—	—	—	—	—	—	配質巣灰岩
965	045-02	石製品	K10	S502	—	—	—	—	—	—	砾岩
966	305-03	木製品	K10	S502	直径6.4 漆桶	底部 10/12	—	—	—	—	
967	305-02	木製品	J10	S502	直径8.4 漆桶	底部 12/12	—	—	—	—	
968	305-01	木製品	I10	S502	残存長25.0 木札?	下崩 幅4.5	—	—	—	—	
969	343-01	骨	K10	S502	残存長34.6 尺骨(右)	下崩 幅4.5	—	—	—	—	
970	187-01	瓦製器	P51	S50201	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ、タタキ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	やや	にぶい赤褐	
971	183-05	灰被器	P51	S50201	直径7.9 上崩	底部 7/12	外：ロクロナデ、底部高台、高台粘付、ナデ 内：ナデ、ヨコナデ	良	灰白	0-53	
972	183-04	灰被器	P51	S50201	直径7.2 上崩	底部 12/12	外：ロクロナデ、底部高台、高台粘付、ナデ 内：ロクロナデ、底部 外：ロクロナデ、底部高台、粘付	良	灰白	8-72	
973	183-03	灰被器	P51	S50201	直径7.6 上崩	底部 5/12	外：ロクロナデ、底部高台、高台粘付、ナデ 内：ロクロナデ、底部 外：ロクロナデ、底部高台、粘付	良	灰白	0-53	
974	186-03	土師器	E49- 小豆	S50201	口径6.0 下崩	口縁部 4/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや	にぶい黄褐		
975	186-02	土師器	E49	S50201	口径2.2 上崩	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや	良	にぶい黄褐	
976	186-04	土師器	E49	S50201	口径6.0 上崩	口縁部 7/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや	良	にぶい黄褐	
977	186-06	土師器	Q50	S50201	口径4.4 2層	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや	良	にぶい黄褐	
978	186-07	土師器	Q50	S50201	口径4.4 2層	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや	良	にぶい黄褐	
979	186-05	土師器	P51	S50201	口径4.0 下崩	口縁部 11/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	良	良	にぶい黄褐	
980	185-05	土師器	P50	S50201	口径12.0 上崩	口縁部 12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	良	良	にぶい黄褐	
981	185-07	土師器	P51	S50201	口径13.2 下崩	口縁部 12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	良	良	にぶい黄褐	
982	185-09	土師器	R49	S50201	口径13.0 上崩	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや	良	にぶい黄褐	
983	185-08	土師器	R49-	S50201	口径12.9 下崩	口縁部 7/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	良	良	にぶい黄褐	
984	185-06	土師器	R50	S50201	口径13.8 下崩	口縁部 6/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや	良	にぶい黄褐	
985	186-01	土師器	R49-	S50201	口径14.4 下崩	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや	良	浅黄褐 にぶい	

第33表 出土遺物觀察表◎

報告 番号	実測 番号	器種等	小地 区	遺構名	法量 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴		始土	焼成	色調	特記事項
986	183-07	陶器	E69	S3201	底径5.6 上層	底部 12/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	密	良	灰白		尾張型第3型式
987	185-04	陶器	F51	S3201	底径4.4 上層	底部 12/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	やや 密	良	灰白		濃大型第4型式
988	185-01	陶器	G50	S3201	底径4.7 上層	底部 12/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	密	良	灰黃		尾張型第4型式
989	184-04	陶器	G19-	S3201	口径8.7 上層	口縁部 12/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	密	良	灰白		尾張型第4型式
990	184-05	陶器	E50	S3201	底径5.0 下層	底部 12/12	外：クロナツ、底部系切 内：クロナツ	粗	良	灰白		尾張型第6型式
991	249-06	陶器	F51	S3201	口径6.3 上層	口縁部 5/12	外：クロナツ、底部系切 内：クロナツ	やや 密	良	灰白	外面底面墨書き「上」	尾張型第6型式
992	185-02	陶器	E49	S3201	底径5.9 上層	底部 9/12	外：クロナツ、底部系切 内：クロナツ	やや 密	良	にぬ・褐 灰白		尾張型第7型式（離戸）
993	184-03	陶器	G19-	S3201	口径6.3 下層	口縁部 9/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	密	良	灰白		尾張型第4型式
994	188-01	陶器	F50	S3201	底径9.3 3層	底部 内：クロナツ	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	やや 密	良	灰白		尾張型第5型式
995	184-07	陶器	E49-	S3201	底径5.2 下層	底部 4/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	やや 密	良	灰白		尾張型第5型式
996	183-01	陶器	F50	S3201	底径5.1 茶茶高	底部 6/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	密	良	灰白		尾張型第5型式
997	183-02	陶器	G50	S3201	底径5.5 茶茶高	底部 12/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	やや 密	良	灰白		尾張型第5型式
998	176-02	陶器	G50	S3201	口径14.5 茶茶高	口縁部 11/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	やや 密	良	灰白		尾張型第6型式
999	183-06	陶器	F51	S3201	底径6.8 上層	底部 11/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	やや 密	良	灰白		尾張型第6型式
1000	187-02	陶器	F50	S3201	口径4.2 茶茶高	口縁部 12/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	やや 密	良	灰白		尾張型第6型式
1001	249-04	陶器	G50	S3201	底径5.5 茶茶高	底部 1-2層 5.7	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	やや 密	良	灰白	外面底面墨書き「十」	尾張型第6型式
1002	184-06	陶器	E49-	S3201	底径6.6 茶茶高	底部 4/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	やや 密	良	灰白		尾張型第6型式
1003	176-01	陶器	G50	S3201	口径4.3 茶茶高	口縁部 12/12	外：クロナツ、底部系切、高台貼付、ナデ 内：クロナツ	やや 密	良	灰白		尾張型第7型式（離戸）
1004	184-02	土器・土器	G19-	S3201	底径5.0 刷毛・柄 7.7	底部 12/12	外：クロナツ、底部系切 内：クロナツ	やや 不良	良	浅黃		
1005	184-01	白磁	G49-	S3201	口径18.0 刷毛	口縁部 1/12	外：クロナツ、施釉 内：クロナツ、施釉	密	良	灰白		
1006	185-03	白磁	F50	S3201	底径3.6 小皿	底部 4/12	外：クロナツ、ロクロケツリ、施釉	密	良	灰白		
1007	186-08	土製品	F51	S3201	長さ6.4 土鉢	下層	外：ナデ	密	良	灰白		
1008	379-05	木製品	E69	S3201	長さ4.8 上層	内：ナデ		—	—	—	—	
1009	379-05	木製品	P51	S3201	長さ14.8 下層	内：ナデ		—	—	—	—	
1010	377-02	木製品	P51	S3201	厚さ7.0 下層	内：ナデ		—	—	—	ヒノキ科アスナロ属	
1011	056-04	土器	I14	S3201	口径10.1 下層	口縁部 1-2層 1.9	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	良	浅黄緑		
1012	286-04	土器	I14	S3201	口径17.0 下層	口縁部 1-2層	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	良	灰白		
1013	056-01	土器	K16	S3201	口径17.2 刷毛	外：ナデ、ヨコナデ、鶴貼付、ハケメ、穿孔 内：ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰白 黒褐色		中北勢系	
1014	285-03	土器	K17	S3206	口径23.1 内耳隠	外：ナデ、ヨコナデ、ハタメ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 密	良	灰白 褐灰		尾張系	
1015	055-04	陶器	I13	S3206	口径12.0 帆船	外：クロナツ、削出高台、輪縫 内：クロナツ、帆船	やや 密	良	灰白 浅黄		瀬戸美濃製品	
1016	286-03	陶器	K17	S3206	底径5.5 下層	底部 4/12	外：クロナツ、帆船	密	良	灰白		登壇第2段階
1017	055-03	陶器	I13	S3206	口径11.4 大日系陶	外：クロナツ、ロクロケツリ、施釉 内：クロナツ、施釉	やや 密	良	ぶい・黄緑		瀬戸美濃製品	
1018	299-05	陶器	L19	S3206	口径10.8 大日系陶	外：クロナツ、ロクロケツリ、施釉 内：クロナツ、施釉	密	良	ぶい・褐		瀬戸美濃製品	
1019	056-02	陶器	I14	S3206	口径11.6 大日系陶	外：クロナツ、施釉 内：クロナツ、施釉	密	良	灰白		大窯第12段階前半	
1020	055-05	陶器	I14	S3206	底径5.1 下層	底部 4/12	外：クロナツ、削出高台、施釉 内：クロナツ、施釉	密	良	灰白		大窯第12段階前半
1021	056-05	陶器	I13	S3206	— 有耳壺	口縁部 1-2層	外：クロナツ、削出付、施釉 内：クロナツ、施釉	密	良	褐褐色		大窯第12段階後半
1022	284-03	陶器	J15	S3206	口径29.1 壺体	外：クロナツ、施釉 内：クロナツ、施釉	密	良	浅黄緑		大窯第12段階後半	
1023	284-02	陶器	K17	S3206	口径31.2 壺体	外：クロナツ、施釉 内：クロナツ、施釉	密	良	灰白		瀬戸美濃製品	
1024	297-04	陶器	J16	S3206	—	口縁部 1/12	外：クロナツ、施釉 内：クロナツ、クシメ、施釉	密	良	灰白		瀬戸美濃製品
1025	298-02	陶器	L19	S3206	口径29.8 壺体	口縁部 1/12	外：クロナツ、施釉 内：クロナツ、施釉	密	良	暗赤褐色		瀬戸美濃製品
1026	285-01	陶器	J15	S3206	底径13.9 大皿	底部 2/12	外：クロナツ、削出高台、施釉 内：クロナツ	密	良	灰白		瀬戸美濃製品 登壇第1心小窓

第34表 出土遺物観察表

報告 番号	測量 番号	器種等	小地 区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
1627	297-03	陶器 片口鉢	L19	S206	—	口縁部 1/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	灰白	常滑製品 12型式
1628	284-01	陶器 片口鉢	K17	S205	口径36.4 下層	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	良	煙 黄褐色	常滑製品 11か12型式
1629	298-01	陶器 片口鉢	L19	S206	口径24.4 下層	口縁部 1/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	良	褐灰 灰褐色	常滑製品 12型式
1630	054-01	陶器 片口鉢	L19	S206	口径27.6 下層	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：工具ナギ、ヨコナデ	やや 粗	良	灰白 赤灰	常滑製品 12型式
1631	056-03	陶器 片口鉢	E14	S206	底径3.8 下層	底部 12/12	外：オクロナデ、高台面付、施釉 内：オクロナデ、施釉	粗	良	灰白	
1632	054-05	陶器 片口鉢	L18	S206	直径6.4 下層	底部 3/12	外：オクロナデ、高台面付、施釉 内：オクロナデ、施釉	粗	良	灰	
1633	285-06	陶器 片口鉢	J15	S206	底径7.6 下層	底部 3/12	外：オクロナデ、高台面付、施釉 内：オクロナデ、施釉	粗	良	灰白	
1634	286-05	土製品 輪羽口	J15	S206	復元輪8.5 下層	—	外：ナデ	やや 粗	やや 良	灰 灰白	
1635	055-02	陶器 加工円盤	J16	S206	底径6.7 底部	底部 12/12	外：オクロナデ、底部糸切、高台貼付、ヨコナデ 内：オクロナデ	やや 粗	良	灰白	灰釉陶器碗(II-72)を加工
1636	—	陶器 下腹臼骨	J15	S206	— 下層	—	—	粗	良	—	遺物写真のみ
1637	—	陶器 上胸骨 (右)	J15	S206	— 下層	—	—	粗	良	—	遺物写真のみ
1638	—	陶器 手根骨	J14	S206	—	—	—	粗	良	—	遺物写真のみ
1639	—	陶器 指骨	J15	S206	—	—	—	粗	良	—	遺物写真のみ
1640	—	陶器 上額臼歯	J14	S206	—	—	—	粗	良	—	遺物写真のみ
1641	—	陶器 上額臼歯	J14	S206	— 下層	—	—	粗	良	—	遺物写真のみ
1642	—	陶器 肩甲骨 (右)	J15	S206	— 下層	—	—	粗	良	—	遺物写真のみ
1643	—	陶器 上腕骨 (左)	J15	S206	— 下層	—	—	粗	良	—	遺物写真のみ
1644	058-04	灰釉陶器 片口鉢	L13	SD40	底径7.8 下層	底部 6/12	外：オクロナデ、底部糸切、高台貼付、ナデ 内：オクロナデ	やや 粗	良	灰白	K-14
1645	058-03	灰釉陶器 片口鉢	K14	SD40	底径6.0 下層	底部 2/12	外：オクロナデ、底部糸切、高台貼付、ナデ 内：オクロナデ、施釉	粗	良	灰白	K-14
1646	058-02	陶器 山茶碗	M12	SD40	底径6.9 上層	底部 3/12	外：オクロナデ、底部糸切、高台貼付、ナデ 内：オクロナデ	粗	良	灰白	麗美型第5型式
1647	058-01	陶器 片口鉢	M12	SD40	底径14.6 上層	底部 2/12	外：オクロナデ、天火入、底部糸切、高台貼付、ナデ 内：オクロナデ	やや 粗	良	灰白	麗美型第5型式
1648	057-05	土師器 下層	L13	SD40	口径8.3 下層	口縁部 9/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	粗	やや 良	浅黃褐色	
1649	057-03	土師器 上層	M12	SD40	口径10.5 上層	口縁部 9/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	浅黃褐色	京都系
1650	057-02	土師器 上層	M12	SD40	口径11.2 上層	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	灰白	
1651	057-04	土師器 上層	M12	SD40	口径10.9 器高2.1	口縁部 1/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	灰白	
1652	333-02	土師器 器蓋	M12	SD40	— 上層	—	外：ナデ、ヨコナデ、鋲附付 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	—	中北勢系
1653	333-01	土師器 器蓋	M12	SD40	— 上層	—	外：ナデ、ヨコナデ、鋲附付 内：ナデ、ヨコナデ	やや 粗	やや 良	にぶい黄褐色	中北勢系
1654	057-01	土師器 内耳鉢	L13	SD40	口径26.5 内耳鉢	口縁部 11/12	外：オサエ、ナデ、ケヌリ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ケヌリ、ハケヌリ、ヨコナデ、耳 筋付	やや 粗	やや 良	暗灰、黒 暗灰	尾張系
1655	284-05	陶器 伝嗣貝	M12	SD40	口径11.1 M15	口縁部 1/12	外：オクロナデ、施釉 内：オクロナデ、施釉	粗	良	灰白	SK43出土遺物と接合できる 瀬戸美濃製後IV期古墳段階
1656	285-05	陶器 玉 棘口器蓋	L12	SD40	口径10.0 下層	口縁部 2/12	外：オクロナデ、施釉 内：オクロナデ、施釉	粗	良	灰黃褐色	常滑製品 10型式
1657	106-01	土製品 五輪塔	SD40	—	最大14.7 最大高22.2	—	—	粗	良	—	木輪 花崗岩
1658	072-03	陶器 小皿	O22	S203	口径7.5 器高1.6	口縁部 5/12	外：オクロナデ、底部糸切 内：オクロナデ	やや 粗	やや 良	灰白	尾張型第6型式(加多)
1659	078-03	陶器 山茶碗	Q21	S203	底径7.7 内	底部 3/12	外：オクロナデ、底部糸切、高台貼付、ナデ 内：オクロナデ	やや 粗	良	灰白	麗美型第5型式
1660	072-02	陶器 山茶碗	P22	S203	底径7.5 内	底部 6/12	外：オクロナデ、底部糸切、高台貼付、ナデ 内：オクロナデ	やや 粗	やや 良	灰白	麗美型第6型式
1661	067-02	陶器 山茶碗	N22	S203	底径6.9 内	底部 12/12	外：オクロナデ、底部糸切、高台貼付、ナデ 内：オクロナデ	粗	良	灰白	麗美型第6型式
1662	067-01	陶器 山茶碗	N22	S203	底径7.0 内	底部 9/12	外：オクロナデ、底部糸切、高台貼付、ナデ 内：オクロナデ	粗	良	灰白	麗美型第6型式
1663	075-02	土師器 鉢	O22	S203	—	口縁部 1/12	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	粗	やや 良	暗灰 にぶい褐色	清都型
1664	077-05	土師器 皿	N23	S203	口径2.8 器高1.7	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	粗	良	灰白	
1665	067-06	土師器 皿	N22	S203	口径10.0 器高1.7	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	粗	やや 良	にぶい黄 灰黃	

第35表 出土遺物観察表②

報告 番号	実測 番号	器種等	小地 区	遺構名	法量 重量 (g)	残存度	調査・括法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
1066 075-03	土師器 皿	022	S063	口径8.5 底径2.3	口縁部 8/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 良	やや 灰白	にぶい黄櫂		
1067 067-03	土師器 皿	022	S063	口径10.6 底径2.3	口縁部 9/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 良	灰白	にぶい櫻		
1068 067-04	土師器 皿	N22	S063	口径12.0 底径2.1	口縁部 11/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密 良	にぶい黄櫂			
1069 077-04	土師器 皿	E21	S063	口径10.0 底径2.0	口縁部 10/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 良	にぶい黄櫂	外面部墨書き		
1070 067-05	土師器 皿	N23	S063	口径9.0 底径2.3	口縁部 2/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 不良	にぶい黄櫂	にぶい黄櫂		
1071 077-06	土師器 皿	N23	S063	口径8.4 底径2.2	口縁部 4/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 密	灰白	灰黄櫂		
1072 286-02	土師器 刮削器	022	S063	口径8.0 底径2.3	口縁部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ、鷺貼付、穿孔 内：ナデ、ヨコナデ	やや 良	浅黄櫂 にぶい櫻	中北斎系		
1073 075-01	土師器 刮削器	P21	S063	口径2.3 底径2.3	口縁部 6/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ、鷺貼付、穿孔 内：ナデ、ヨコナデ	やや 良	にぶい櫻	中北斎系 外：保村若		
1074 077-01	土師器 蒸釜	022	S063	口径13.0	口縁部 1/12	外：ナデ、ハケメ、ヨコナデ、鷺貼付 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 良	明麗灰	中北斎系		
1075 074-02	陶器 鉄粘接皿	P22	S063	底径5.5 底径2.3	底部 9/12	外：ロクロナデ、削出高台、施釉	密 良	灰白	内面部所トチング 施戸美濃製品大原第2段階		
1076 076-04	陶器 灰丸丸	P21	S063	底径6.0 底径2.3	底部 12/12	外：ロクロナデ、削出高台、施釉	やや 良	灰白	施戸美濃製品 大原第1段階尚手		
1077 074-03	陶器 鉄粘接皿	P22	S063	口径10.6 底径2.3	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、削出高台、施釉	密 良	灰白	内面部所トチング 施戸美濃製品大原第2段階		
1078 292-04	陶器 天日茶碗	N23	S063	口径11.7	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、ロクロタズミ、施釉	密 良	灰白	施戸美濃製品 大原第1段階		
1079 076-02	陶器 天日茶碗	G21	S063	口径12.0	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、削出高台、施釉	やや 良	灰白	施戸美濃製品 大原第2段階		
1080 076-05	陶器 天日茶碗	N23	S063	口径4.4	底部 12/12	外：ロクロナデ、削出高台、施釉	やや 良	灰白	底部外面部墨書き「江眞」 施戸美濃製品大原第2段階		
1081 067-07	陶器 天日茶碗	022	S063	口径12.0	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、削出高台、施釉	密 良	にぶい赤場	大原第3段階		
1082 068-01	陶器 天日茶碗	022	S063	底径5.8 底径8.8	底部 12/12	外：ロクロナデ、削出高台、施釉	密 良	にぶい櫻	施戸美濃製品 大原第3段階隨後半		
1083 076-03	陶器 天日茶碗	G21	S063	口径9.4	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロタズミ、施釉	密 良	浅黄櫂	施戸美濃製品 大原第3段階隨後半		
1084 068-02	陶器 天日茶碗	G21	S063	口径11.6	口縁部 9/12	外：ロクロナデ、ロクロタズミ、施釉	密 良	褐灰	施戸美濃製品 大原第3段階隨後半		
1085 285-04	陶器口仄 有耳壺	022	S063	口径14.2	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉	密 良	灰黄櫂	施戸美濃製品 大原第3段階		
1086 292-01	陶器 揉撲	E21	S063	口径33.6	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、底部系切、施釉	密 良	にぶい黄櫂	施戸美濃製品 大原第3段階隨後半		
1087 073-01	陶器 揉撲	P21	S063	口径30.6 容器11.2	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、底部系切、施釉	やや 良	灰白 赤灰	施戸美濃製品 大原第3段階隨後半		
1088 076-01	陶器 揉撲	P21他	S063	底径10.0 容器13.2	底部 3/12	外：ロクロナデ、施釉	やや 良	褐灰 浅黄櫂	施戸美濃製品 大原第3段階隨後半		
1089 288-01	陶器 揉撲	N23	S063	口径32.0	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、施釉	密 良	にぶい黄櫂	施戸美濃製品 大原第3段階		
1090 292-02	陶器 揉撲	E21	S063	底径13.8	底部 2/12	外：ロクロナデ、底部系切、施釉	密 良	にぶい黄櫂	施戸美濃製品 大原第3段階隨後半		
1091 074-01	陶器 利他	P21	S063	頸部2.8	頸部 12/12	外：ロクロナデ、施釉	密 良	灰白	施戸美濃製品 大原第3段階		
1092 069-02	陶器 水指	N23	S063	口径13.0	口縁部 6/12	外：ロクロナデ、底部系切、施釉	密 良	灰白	施戸美濃製品 大原第3段階隨後半		
1093 069-01	陶器 瓶	022	S063	底部12.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、底部系切、施釉	密 良	灰白	施戸美濃製品 古窯「江原新段階」		
1094 072-01	陶器 口跡	P20	S063	口径32.1	口縁部 6/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 良	褐灰 にぶい櫻	常滑製品 11.5×12式		
1095 068-03	陶器 口跡	N23	S063	—	口縁部 1/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 良	にぶい赤場 にぶい黄櫂	常滑製品 11.5×12式		
1096 069-03	陶器 瓶	N23	S063	口径35.0	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロタズミ、ヨコナデ 内：ロクロナデ	やや 良	灰	常滑製品 10型式		
1097 073-02	陶器 瓶	P21	S063	口径9.6	口縁部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	粗 やや 良	褐灰 灰	常滑製品 12型式		
1098 077-02	青磁 瓶	E23	S063	底径4.4 高さ1.8	—	外：ロクロナデ、削出高台、施釉	密 良	灰白	常滑製品 11.5×12式		
1099 073-03	青磁 瓶	P22	S063	口径17.2	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉	密 良	灰白	常滑製品 10型式		
1100 285-07	青磁 瓶	E21	S063	底径9.0	底部 1/12	外：ロクロナデ、削出高台、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密 良	灰白	常滑製品 12型式		
1101 077-03	石製品 硯	G21	S063	最大径9.1 幅5.1 厚0.95～1.9	—	—	—	—	—	硯	
1102 286-06	土製品 輪羽口	P21	S063	残存径6.5	—	外：ナデ	やや 粗	灰白			
1103 078-01	土製品 輪羽口	G21	S063	残存長11.6 径8.8	—	外：ナデ	粗 良	にぶい黄櫂 黄灰			
1104 078-02	土製品 輪羽口	G21	S063	残存長9.5	—	外：ナデ	粗 良	灰黄 黑			
1105 カラボン	N23	S063	—	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ	
1106 カラボン	N23	S063	—	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ	

第36表 出土遺物観察表

報告 番号	実測 番号	器種等	小地 区	遺構名	法量 重量 (cm g)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
1107		石器	N23	S063	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
1108		石器	N23	S063	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
1109		石器	N23	S063	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
1110		石器	N23	S063	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
1111		石器	N23	S063	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
1112		石器	N23	S063	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
1113		石器	N23	S063	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
1114	308-02	木製品 漆椀	L14	S026	底径6.6 下層	—	—	—	—	—	—
1115	309-01	木製品 漆椀	L14	S026	底径6.4 25高4.9	底部 6/12	—	—	—	—	—
1116	311-02	木製品 曲物	L14	S026	残存径12.5 下層	厚0.6	—	—	—	—	—
1117	311-03	木製品 曲物	L14	S026	残存径21.6 下層	厚0.7	—	—	—	—	—
1118	311-04	木製品 曲物	L14	S026	残存径30.3 下層	厚0.5	—	—	—	—	—
1119	310-01	木製品 曲物	L14	S026	口径18.4 下層	器高6.0	—	—	—	—	—
1120	312-02	木製品 木札	L18	S026	残存長19.5 幅0.8	—	—	—	—	—	—
1121	311-01	木製品 木札	L14	S026	残存長18.6 幅0.6	—	—	—	—	—	—
1122	312-03	木製品 下駄	M20	S026	残存長13.9 幅1.2	—	—	—	—	—	—
1123	308-03	木製品 櫛	L14	S026	残存長10.0 幅0.7	最厚1.1	—	—	—	—	—
1124	312-01	木製品 板材	J15	S026	残存長31.2 幅0.1	—	—	—	—	—	—
1125	321-01	木製品 下駄	O22	S063	長さ19.0 幅1.9	—	—	—	—	—	—
1126	322-01	木製品	R21	S063	長5.7.9 最厚2.5	—	—	—	—	—	—
1127	320-03	木製品 漆椀	N22	S063	底径7.5 ~8.5	—	—	—	—	—	—
1128	320-02	木製品 漆椀	P21	S063	底径7.0	—	—	—	—	—	—
1129	322-02	木製品	R21	S063	長さ15.8 最大幅6.8	—	—	—	—	—	—
1130	313-02	木製品 漆椀	M12	S040	底径7.6 下層	—	—	—	—	—	—
1131	314-02	木製品	M12	S040	底径6.6 器高6.7	9/12	—	—	—	—	—
1132	313-01	木製品	K13	S040	残存長18.3 下層	幅0.7	—	—	—	—	—
1133	314-01	木製品 下駄	M12	S040	長さ14.3 幅2.2	—	—	—	—	—	—
1134	357-01	木製品 器	K11	S040	残存長84.3 —	—	—	—	—	—	マツ科マツ属 (二葉松類)
1135	204-03	陶器	S36	S0241	底径4.6 器高2.0	底部 内: ロクロナデ, 施釉系切 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	—	—
1136	205-05	土師器 内耳罐	S35	S0241	G16径8.8 下層	口縁部 器高3.4	外: オサエ, ナデ, ヨコナデ 内: ナデ, ヨコナデ	良	浅黄緑	—	—
1137	205-04	土師器 内耳罐	S35	S0241	G16径5.3 下層	口縁部 器高3.4	外: オサエ, ナデ, ヨコナデ 内: ナデ, ヨコナデ	良	浅黄緑	—	—
1138	205-03	土師器 内耳罐	S35	S0241	G16径12.9 下層	口縁部 器高2.3	外: オサエ, ナデ, ヨコナデ 内: ナデ, ヨコナデ	やや 良	に点々 密	に点々 密	—
1139	205-06	土師器 内耳罐	S35	S0241	G16径12.0 下層	口縁部 器高2.0	外: オサエ, ナデ, ヨコナデ 内: ナデ, ヨコナデ	やや 良	に点々 密	に点々 密	—
1140	204-04	土師器 内耳罐	T37	S0241	G16径5.1 上層	口縁部 器高2.7	外: オサエ, ナデ, ヨコナデ 内: ナデ, ヨコナデ	やや 良	灰白	尾張型第12型式	—
1141	204-02	土師器 内耳罐	T37	S0241	G16径20.0 上層	口縁部 器高2.12	外: オサエ, ナデ, ヨコナデ 内: ナデ, ヨコナデ, 耳貼付	やや 良	黒灰 灰褐色	尾張系	—
1142	282-01	土師器 内耳罐	T37	S0241	G16径28.0 1層	口縁部 器高1.12	外: オサエ, ナデ, ヨコナデ 内: ナデ, ヨコナデ	やや 良	黒灰 に点々 密	尾張系	—
1143	205-02	瓦質土器	T37	S0241	G16径29.9 下層	口縁部 器高1.12	外: ヨコナデ 内: ナデ, ヨコナデ, ミガキ	やや 良	灰	—	—
1144	209-06	陶器 山茶碗	T38	S0241	G16径12.1 上層	口縁部 器高3.1 2/12	外: ロクロナデ, 施釉系切 内: ロクロナデ	良	灰白	尾張型第12型式	—
1145	209-05	陶器 山茶碗	S36	S0241	底径5.2 器高3.4	底部 内: ロクロナデ, 施釉系切 内: ロクロナデ	やや 良	灰白	内面底部灰化物付 尾張型第12型式	—	—
1146	209-04	陶器 綠釉小瓶	S35	S0241	底径6.0 器高3.55	底部 内: ロクロナデ, 施釉系切, 施釉 内: ロクロナデ, 施釉	良	灰白	瓶戸美濃製品 古瓶戸後Ⅱ期	—	—
1147	204-05	陶器 平碗	S36	S0241	底径5.5 器高5.3	底部 内: ロクロナデ, 施釉	やや 良	灰白	瓶戸美濃製品 古瓶戸後Ⅳ期新段階	—	—

第37表 出土遺物観察表29

報告 番号	実測 番号	器種等	小地 区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
1148	204-01	陶器 口鉢	S36	S0241 上層	口径32.0	口縁部 4/12	外: 口クロナデ、施釉 内: 口クロナデ、クシメ、施釉	やや 粗	良	灰	棚戸美濃製品 古棚戸後4期新段階
1149	205-01	陶器 口鉢	S36	S0241 中層	口径3.4	口縁部 2/12	外: オリーブ、工具ナメ、ナメ、ヨコナデ 内: 口クロナデ、ヨコナデ	良	良	灰	にぶい赤褐色 常滑製品 10型式
1150	206-01	陶器 甕	T38	S0241 南壁寄り	口径38.6	口縁部 1/12	外: 口クロナデ 内: 口クロナデ	良	良	灰	常滑製品 10型式
1151	236-04	須恵器 壺	T36	S0249 37	-	-	外: 口クロナデ、ロクロケズリ、脚貼付、ナデ 内: 口クロナデ	良	灰白	8世紀後半	
1152	236-02	土師器 羽釜	T36	S0249 37	口径21.5	口縁部 1/12	外: ナデ、ヨコナデ、ハケメ、脚貼付 内: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	良	黒褐	中北勢系
1153	236-06	青磁 碗	P44	S0250 下層	底径6.1	底部 3/12	内: 口クロナデ、施釉	良	黄灰		
1154	236-03	陶器 口鉢	P44	S0250 下層	口径32.0	口縁部 3/12	外: 口クロナデ、ヨコナデ 内: 口クロナデ、ヨコナデ	良	良	褐	常滑製品 11±12型式
1155	244-05	陶器 山茶碗	S44	S0315 中層	底径3.3	底部 3/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	良	灰白	尾張型第5型式	
1156	244-04	陶器 山茶碗	B44	S0315 上層	口径14.8 器高4.8	口縁部 1/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	良	灰白	尾張型第6型式	
1157	269-03	陶器 加工円盤	S44	S0315 下層	底径4.2	底部 12/12	外: 所出高台 内: 口クロナデ、施釉	良	灰白	外面部墨書き「横」 棚戸美濃製品天系瓶(古棚戸後4期新段階) 加工	
1158	276-04	陶器 小鉢	E36	S0265 2層	底径4.8 器高2.9	底部 8/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白		
1159	211-01	陶器 小鉢	Q36	S0265 4層	底径4.3 器高2.9	底部 11/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第4型式	
1160	211-07	陶器 小鉢	Q36	S0265 4層	底径4.1 器高2.7	口縁部 4/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第4型式	
1161	211-06	陶器 小鉢	Q36	S0265 4層	底径3.9 器高3.1	口縁部 5/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第4型式	
1162	211-02	陶器 小鉢	Q36	S0265 4層	底径3.6 器高2.9	口縁部 8/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第4型式	
1163	211-04	陶器 小鉢	Q36	S0265 4層	底径3.1 器高2.9	口縁部 6/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第4型式	
1164	211-05	陶器 小鉢	Q36	S0265 4層	底径3.4 器高2.8	口縁部 10/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第4型式	
1165	211-03	陶器 小鉢	Q36	S0265 4層	底径3.2 器高3.0	口縁部 10/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第4型式	
1166	276-03	陶器 小皿	Q36	S0265 2-4層	底径3.5 器高2.4	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切 内: 口クロナデ	良	灰白	底部外面墨書き「横」 尾張型第5型式	
1167	211-08	陶器 小皿	Q36	S0265 4層	底径3.8 器高1.8	口縁部 4/12	外: 口クロナデ、底部系切 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第6型式	
1168	210-07	陶器 小皿	E35	S0265 2層	底径3.6 器高2.6	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第6型式	
1169	210-06	陶器 小皿	P36	S0265 37	口径6.6 器高1.9	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第6型式	
1170	275-01	陶器 小皿	E35	S0265 2層	底径5.5 器高1.7	底部 5/12	外: 口クロナデ、底部系切 内: 口クロナデ	良	灰白	外面底部墨書き 尾張型第6型式	
1171	296-02	陶器 片口鉢	E35	S0265 下層	口径30.0	口縁部 2/12	外: 口クロナデ 内: 口クロナデ	良	灰白	尾張型第6型式(知多)	
1172	209-01	陶器 山茶碗	E35	S0265 2層	口径15.7 器高5.5	口縁部 9/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰	尾張型第3型式	
1173	210-02	陶器 山茶碗	Q36	S0265 4層	底径7.0 器高5.3	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	良	灰	尾張型第4型式	
1174	209-06	陶器 山茶碗	Q36	S0265 4層	底径6.8 器高5.1	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第4型式	
1175	209-03	陶器 山茶碗	E35	S0265 2層	口径15.9 器高5.5	口縁部 11/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第4型式	
1176	209-02	陶器 山茶碗	E35	S0265 4層	口径16.9 器高6.8	口縁部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第4型式	
1177	210-01	陶器 山茶碗	Q36	S0265 4層	底径7.0 器高6.5	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	良	黄灰	尾張型第4型式	
1178	275-02	陶器 山茶碗	E35	S0265 2層	-	-	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	良	灰白	尾張型第5型式	
1179	209-04	陶器 山茶碗	Q36	S0265 4層	底径7.9 器高6.5	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰黄	尾張型第5型式	
1180	210-03	陶器 山茶碗	Q36	S0265 4層	底径7.3 器高6.5	底部 6/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	良	灰白	尾張型第5型式	
1181	276-01	陶器 山茶碗	Q36	S0265 4層	底径6.0 器高4.9	底部 9/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	底部外面墨書き「くらう 殿」? 尾張型第5型式	
1182	276-02	陶器 山茶碗	Q36	S0265 4層	底径7.3 器高6.5	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	良	灰白	底部外面墨書き「三」 尾張型第5型式	
1183	210-04	陶器 山茶碗	S35	S0265 2-3層	底径7.8 器高4.9	底部 5/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第6型式	
1184	277-01	陶器 山茶碗	E35	S0265 2層	底径7.0 器高4.8	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	粗	灰白	底部外面墨書き「七」 尾張型第6型式	
1185	276-05	陶器 山茶碗	E35	S0265 2層	底径5.6	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	良	灰白	底部外面墨書き「六」 「か」 尾張型第7型式	
1186	209-05	陶器 山茶碗	P36	S0265 37	底径6.2 器高5.5	底部 12/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第7型式	
1187	213-03	陶器 甕	E36	S0265 2層	口径50.0	口縁部 1/12	外: 口クロナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	灰白	常滑製品 第6型式	

第38表 出土遺物観察表③

報告書 番号	実測 番号	器種等	小地区	直横名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	出土	傳成	色調	特記事項
1188	213-01	陶器 甕	P35～ P37	S2065	口径55.0 口幅5.0 高さ.4	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：オサエ、ナデ、ロクロナデ 外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	粗	良	灰白	常滑製品 第15型式
1189	208-02	土師器 小皿	Q35	S2065	口径6.0 口幅4.4 高さ.4	口縁部 6/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	著	やや 良	灰白	
1190	208-01	土師器 小皿	Q35	S2065	口径6.4 口幅4.4 高さ.45	口縁部 6/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	著	やや 良	にぶい黄橙	
1191	207-01	土師器 小皿	P25～ P37	S2065	口径6.4 口幅6.4 高さ.5	口縁部 6/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	著	やや 良	にぶい黄橙	
1192	208-03	土師器 小皿	Q36	S2065	口径6.7 口幅6.7 高さ.7	口縁部 6/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	著	やや 良	にぶい黄橙	
1193	207-06	土師器 小皿	Q36	S2065	口径6.4 口幅6.4 高さ.9	口縁部 5/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	著	やや 良	灰白	
1194	207-05	土師器 皿	E36	S2065	口径12.1 口幅2.6 高さ.2	口縁部 4/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	著	やや 良	灰黃	
1195	207-03	土師器 皿	E36	S2065	口径13.4 口幅2.4 高さ.2	口縁部 9/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	著	良	にぶい暗 浅黄橙	
1196	207-04	土師器 皿	E36	S2065	口径13.4 口幅2.4 高さ.2	口縁部 9/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	著	やや 良	にぶい暗 浅黄橙	
1197	207-02	土師器 皿	P36～ E35	S2065	口径14.0 口幅2.7 高さ.7	口縁部 10/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	著	やや 良	にぶい暗 浅黄橙	
1198	210-05	陶器 山基壺	Q35～ 西側	S2065	底径5.2 器高3.0	底部 10/12	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、底部 内：ロクロナデ、底部	やや 著	良	灰白	尾張型第12型式
1199	212-08	陶器 灰鉢鉢	P36	S2065	口径6.0	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉 外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	著	良	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸後1期Ⅱ期
1200	227-04	陶器 碌者小皿	E35	S2065	底径6.0 2層	底部 5/12	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ 外：ロクロナデ、底部 内：ロクロナデ	著	やや 良	底部黒青　瀬戸美濃製品 古瀬戸後1期	
1201	213-02	陶器 甕	E35	S2065	口径30.3 1・2層	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ 外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	著	やや 良	灰	常滑製品 10型式
1202	212-07	青磁 碗	Q36	S2065	口径18.4 下唇	口縁部 1/12前	外：ロクロナデ、印刷、施釉 内：ロクロナデ、施釉 外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	著	良	灰白	
1203	212-06	青磁 碗	E35	S2065	口径17.2 4層	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉 外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	著	良	灰白	
1204	212-03	白磁 皿	Q36	S2065	底径4.0	底部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉 外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	著	良	灰白	
1205	212-04	青磁 碗	Q36	S2065	底径6.0 東側	底部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	著	良	灰白	
1206	212-09	土製品 円板	Q35～ 西側	S2065	残存径6.2 厚さ.3	—	外：研磨	やや 粗	良	灰	常滑製品を転用
1207	213-04	石製品 硯石	Q36	S2065	残存長10.2 4層	—	—	—	—	—	
1208	379-04	木製品 鞘	Q36	S2065	長さ17.3 幅さ.4	—	—	—	—	—	スギ
1209	379-01	木製品 木札	Q36	S2065	残存長31.0 4層	—	—	—	—	—	スギ
1210	237-08	土師器 釜蓋	S30	S2063	—	口縁部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ、鋲貼付、穿孔 内：ナデ、ヨコナデ	やや 著	良	灰	中北勢系
1211	237-06	陶器 灰鉢	Q31	S2063	口径10.6	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	やや 著	良	にぶい黄 瀬戸美濃製品 大室第2段階	
1212	237-05	陶器 天目系瓶	E31	S2063	口径11.8	口縁部 4/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	著	良	灰白	瀬戸美濃製品 大室第1段階後半
1213	237-07	陶器 天目系瓶	E31	S2063	口径11.4	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	著	良	灰白	瀬戸美濃製品 大室第2段階後半
1214	237-02	陶器 天目系瓶	T29	S2063	口径4.2	口縁部 12/12	外：ロクロナデ、削高台面、施釉 内：ロクロナデ、施釉	著	良	浅黄橙	瀬戸美濃製品 天目系瓶削高台面
1215	237-04	陶器 瓶	Q31	S2063	口径23.0	口縁部 1/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	著	良	灰黃	瀬戸美濃製品 天目系瓶削高台面前半
1216	236-05	陶器 片口鉢	E31	S2063	底径14.0	底部 3/12	外：ナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや 著	良	にぶい暗 にぶい暗	常滑製品 大室第3段階後半
1217	203-03	土師器 小皿	H32	S2012	口径9.3	口縁部 3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 著	やや 不良	灰白	
1218	201-01	陶器 鉢	T31～ 32	S2012	口径15.7 下唇 S2012	器高3.5 下唇	外：ロクロナデ、底部系切、施釉 内：ロクロナデ、施釉、即日	著	良	—	SH216とS2012が接合 瀬戸美濃製品 古瀬戸後1期
1219	370-03	木製品 机	E32	S2012	長さ20.3 幅4.0	—	—	—	—	—	
1220	200-03	土師器 杯	E33	S2012	口径12.2 下唇	口縁部 6/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	著	並	にぶい暗 根	
1221	197-01	陶器 小椀	T32	S2012	底径6.2 下唇	器高3.1 11/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台贴付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 著	良	灰白	尾張型第3型式
1222	199-02	陶器 小皿	P33	S2012	口径6.0 器高2.1	底部 12/12	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ	やや 著	良	灰白	尾張型第6型式
1223	197-02	陶器 山茶碗	T32	S2012	底径6.9	底部 2/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台贴付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 著	良	灰白	尾張型第5型式
1224	196-05	陶器 山茶碗	S32	S2012	底径7.9	底部 5/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台贴付、ナデ 内：ロクロナデ	著	良	灰白	尾張型第5型式
1225	196-06	陶器 山茶碗	T32	S2012	底径8.0	底部 5/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台贴付、ナデ 内：ロクロナデ	著	良	灰白	霧美型？第5型式
1226	277-03	陶器 山茶碗	E33	S2012	口径18.6	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや 著	良	灰白 灰	体部外側墨書き 花押　霧美型第5型式
1227	275-05	陶器 山茶碗	T32	S2012	底径7.6	底部 4/12	外：ロクロナデ、底部系切、高台贴付、ナデ 内：ロクロナデ	粗	良	灰白	底部外側墨書き 尾張型第5型式

第39表 出土遺物観察表⑤

報告書番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(重量)(cm)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項	
1228	275-04	陶器 山系鏡	S32	S8216	底径6.1 上層	底部 10/12	外：ロクロナラ、底部系切、高台粘付、ナラ 内：ロクロナラ	やや 密	灰白	底部外側黒帯「上」 尾張型第6型式		
1229	196-04	陶器 山系鏡	K38	S8216	底径6.0 下層 器高6.1	底部 5/12	外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	やや 密	灰白	高台剥離 尾張型第6型式（廻戻）		
1230	196-03	陶器 山系鏡	T31	S8216	口径13.4 下層 器高6.6	口縁25 7/12	外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	やや 粗	灰白	尾張型第9型式（廻戻）		
1231	198-03	陶器 山系鏡	S31	S8216	口径13.1 下層 器高6.4	口縁25 6/12	外：ロクロナラ、底部系切、高台粘付、ナラ 内：ロクロナラ	密	灰白	S8216とS8012下層が接合 火焔状鉄錆		
1232	195-04	陶器 山系鏡	S31	S8216	口径13.3 下層 器高6.2	口縁部 10/12	外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	やや 密	灰白	尾張型第10型式（廻戻）		
1233	277-02	陶器 山系鏡	S31	S8216	底径5.2 下層 器高6.0	底部 12/12	外：ロクロナラ、底部系切 内：ロクロナラ	粗	灰白 にぶい 黄橙	底部外側黒帯「内」？ 尾張型第10型式（廻戻）		
1234	195-03	陶器 離	S31	S8216	口径3.7 下層	口縁部 1/12	外：ロクロナラ 内：ロクロナラ	密	灰白	常滑製品 4型式		
1235	195-02	陶器 離	Q32	S8216	口径27.8 下層	口縁部 2/12	外：ロクロナラ 内：ロクロナラ	やや 粗	灰白	常滑製品 6a型式		
1236	198-05	土師器 小豆	S31	S8216	口径8.0 下層	口縁部 4/12	外：オサエ、ナラ、ヨコナラ 内：ナラ、ヨコナラ	やや 粗	灰白			
1237	198-04	土師器 小豆	S31	S8216	口径8.0 下層 器高1.6	口縁部 3/12	外：オサエ、ナラ、ヨコナラ 内：ナラ、ヨコナラ	やや 粗	灰白			
1238	200-05	土師器 小豆	S31	S8216	口径9.0 下層	口縁部 6/12	外：オサエ、ナラ、ヨコナラ 内：ナラ、ヨコナラ	密	並	橙		
1239	200-06	土師器 小豆	Q33	S8216	口径8.5 上層 器高1.4	口縁部 8/12	外：オサエ、ナラ、ヨコナラ 内：ナラ、ヨコナラ	密	並	橙		
1240	199-04	土師器 小豆	S31	S8216	口径12.0 下層 器高2.3	口縁部 3/12	外：ナラ、ヨコナラ 内：ナラ、ヨコナラ	やや 粗	灰黃			
1241	199-03	土師器 小豆	S31	S8216	口径12.2 下層	口縁部 3/12	外：ナラ、ヨコナラ 内：ナラ、ヨコナラ	密	並	灰白		
1242	199-05	土師器 小豆	S31	S8216	口径13.0 上層	口縁部 12/12	外：オサエ、ナラ、ヨコナラ 内：オサエ、ナラ、ヨコナラ	やや 粗	灰白			
1243	200-04	土師器 小豆	S32	S8216	口径12.2 上層	口縁部 4/12	外：オサエ、ナラ、ヨコナラ 内：オサエ、ナラ、ヨコナラ	密	並	灰白		
1244	198-02	土師器 銚	S31	S8216	口径26.4 上層	口縁部 1/12	外：オサエ、ナラ、ハケメ、ヨコナラ 内：ナラ、ハケメ、ケズリ、ヨコナラ	密	並	灰黃	南伊勢系	
1245	195-01	土師器 銚	S31	S8216	口径26.7 下層	口縁部 2/12	外：ヨコナラ 内：ナラ、ヨコナラ	やや 密	並	灰白	南伊勢系	
1246	198-01	土師器 銚	S31	S8216	口径27.0 下層	口縁部 2/12	外：ナラ、ハケメ、ヨコナラ 内：ナラ、ヨコナラ	やや 密	並	にぶい 黄橙	南伊勢系	
1247	200-01	土師器 羽足	S32	S8216	口径20.0 上層	口縁部 2/12	外：ナラ、ヨコナラ、ハケメ、羽足付 内：ナラ、ヨコナラ	密	並	灰黃	中北勢系	
1248	200-02	土師器 羽足	S31	S8216	口径18.0 上層	口縁部 17/12	外：ナラ、ヨコナラ、鷺貼付 内：ナラ、ヨコナラ	やや 粗	灰黃	中北勢系		
1249	202-04	陶器 茎縁小皿	S32	S8216	底径4.5 下層 器高1.9	底部 12/12	外：ロクロナラ、底部系切、施釉 内：ロクロナラ、施釉	密	良	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸1期	
1250	202-05	陶器 茎縁小皿	Q33	S8216	口径5.2 上層 器高1.8	口縁部 4/12	外：ロクロナラ、底部系切、施釉 内：ロクロナラ、施釉	密	良	灰黃	瀬戸美濃製品 古瀬戸1期	
1251	201-02	陶器 茎縁小皿	R32	S8216	口径11.9 上層 器高3.2	口縁部 2/12	外：ロクロナラ、底部系切、施釉 内：ロクロナラ、施釉	密	にぶい 黄橙	瀬戸美濃製品 古瀬戸1期		
1252	281-07	陶器 茎	S32	S8216	底径4.8 下層	底部 12/12	外：ロクロナラ、底部系切、施釉 内：ロクロナラ、施釉	やや 密	良	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸1か2期	
1253	281-04	陶器 片口鉢	S32	S8216	底径5.6 上層 器高4.0	底部 12/12	外：ロクロナラ、底部系切、施釉 内：ロクロナラ、施釉	密	良	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸1期	
1254	281-03	陶器 等式花瓶	T32	S8216	底径9.4 下層	底部 3/12	外：ロクロナラ、底部系切、施釉 内：ロクロナラ	密	良	にぶい 黄橙	瀬戸美濃製品 古瀬戸1か2期	
1255	281-05	陶器 片輪	P33	S8216	口径13.6 上層	口縁部 2/12	外：ロクロナラ、施釉 内：ロクロナラ、施釉	密	良	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸後田山V4期古段階	
1256	196-02	陶器 片口鉢	S31	S8216	口径26.0 下層	口縁部 1/12	外：ロクロナラ 内：ロクロナラ	やや 密	良	灰白	尾張型第10型式（廻戻）	
1257	282-03	陶器 斧縁深皿	S32	S8216	口径27.0 上層	口縁部 1/12	外：ロクロナラ、施釉 内：ロクロナラ、施釉	密	良	灰黃	瀬戸美濃製品 古瀬戸1期	
1258	283-01	陶器 斧縁深皿	T30	S8216	口径32.0 下層 S3012	口縁部 1/12	外：ロクロナラ、施釉 内：ロクロナラ、施釉	密	良	灰白	S8216下層とS8012上層が 接合、瀬戸美濃製品 古瀬戸1期	
1259	283-02	陶器 大型 筒形容器	S32	S8216	底径20.0 上層	底部 1/12	外：ロクロナラ、底部系切、施釉 内：ロクロナラ、施釉	密	良	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸1期	
1260	282-02	陶器 横鉢	T32	S8216	口径29.0 上層	口縁部 1/12	外：ロクロナラ、施釉 内：ロクロナラ、施釉	密	良	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸1期	
1261	282-01	陶器 横鉢	P33	S8216	口径28.0 上層	口縁部 1/12	外：ロクロナラ、施釉 内：ロクロナラ、施釉	密	良	灰黃	瀬戸美濃製品 大窯第3段階後半	
1262	199-01	陶器 片口鉢	S32	S8216	口径32.4 上層	口縁部 3/12	外：ロクロナラ、ハケメ、ヨコナラ 内：ロクロナラ、ヨコナラ	密	にぶい 橙	常滑製品 9型式		
1263	196-01	陶器 片口鉢	S31	S8216	底径16.4 32	底部 2/12	外：ロクロナラ、ナラ 内：ロクロナラ	やや 密	灰白 にぶい 赤	常滑製品 6a-7型式		
1264	93-03	石製品 砕石	S32	S8216	残存長7.4 下層	—	—	—	—	—	鐵器	
1265	203-04	石製品 砕石	S31	S8216	長さ15.4 下層	底部 —	—	—	—	—	瓦質變形	
1266	378-03	木製品 板材	Q33	S8216	残存長27.5 下層	底部 —	—	—	—	—	—	
1267	371-03	木製品 机	T32	S8216	残存長56.0 上層	底部 4.3	—	—	—	—	—	

第40表 出土遺物観察表②

報告書番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎝) 重量(g)	残存度	調査・技法などの特徴	出土	備考	色調	特記事項
1288	372-02	木製品 机	P33	S2216	残存長47.8 幅5.5	—	—	—	—	—	—
1289	372-03	木製品 机	T32	S2216	残存長49.0 幅5.5	—	—	—	—	—	—
1270	372-04	木製品 机	I32	S2216	残存長42.6 最大幅3.8	—	—	—	—	—	—
1271	372-05	木製品 机	T32	S2216	残存長33.3 幅5.5	—	—	—	—	—	—
1272	370-04	木製品 机	T32	S2216	残存長25.4 幅5.8	—	—	—	—	—	—
1273	379-03	木製品 机	P33	S2216	残存長14.8 幅2.3	—	—	—	—	—	—
1274	212-02	陶器 壺	Q33	S20266	口径12.2 2層	口縁部 1/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや 良	灰褐色 灰赤	常滑製品 5型式	—
1275	212-01	陶器 山茶碗	Q33	S20267	直径7.1 器高5.1	底部7.1 2層	外：ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 良	褐色 褐色	尾張型第6型式	—
1276	212-05	陶器 壺	Q33	S20267	—	—	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	灰褐色	常滑製品 10型式	—
1277	309-02	木製品 舟物	N16	S228	最大幅12.6 厚0.6	—	—	—	—	—	—
1278	299-07	陶器 壺	M17	S242	—	—	外：ナデ、施釉 内：ナデ、施釉	密	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸後四期	—
1279	005-04	陶器 山茶碗	M18	S256	直径6.8	底部 3/12	外：ロクロナデ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	—
1280	006-03	土蔵器 小皿	M18	S256	口径7.8 器高5.9	口縁部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 良	灰白	—	—
1281	292-02	陶器 抹角小皿	M18	S256	口径12.0 2/12	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸後中期	—
1282	005-01	陶器 竹林深皿	M18	S256	直径11.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、底部斜切、施釉 内：ロクロナデ、施釉	粗	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸中Ⅳ期	—
1283	005-03	陶器 壺	M18	S256	口径11.6	口縁部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	褐色、灰褐色 にぶい褐色	常滑製品 6a型式	—
1284	006-01	土蔵器 鉢皿	M18	S256	—	跨径 1/12	外：ナデ、ハケメ、跨貼付 内：ナデ	やや 粗	灰白 灰褐色	南伊勢系	—
1285	006-02	石製品 砾石	M18	S256	最大幅4.3 下層	—	—	—	—	—	—
1286	316-04	木製品 漆器	M18	S256	長さ11.2 下層	—	—	—	—	—	—
1287	315-02	木製品 曲物	M18	S256	径13.5 中層	—	—	—	—	—	—
1288	315-01	木製品 曲物	M18	S256	口径10.8 器高10.8	—	—	—	—	—	—
1289	316-02	木製品 板材	M18	S256	残存長24.2 幅3.5	—	—	—	—	—	—
1290	316-03	木製品 板材	M18	S256	残存長24.4 幅3.3	—	—	—	—	—	—
1291	316-01	木製品 部材	M18	S256	長さ30.5 最大幅2.5	—	—	—	—	—	—
1292	001-01	土蔵器 糞釜	N16	S238	口径17.9	口縁部 2/12	外：ナデ、ヨコナデ、ハケメ、跨貼付、穿孔 内：ナデ、ヨコナデ	やや 密	にぶい黄褐色 灰黃褐色	北中勢系 機成前穿孔 外：煤付着	—
1293	001-02	土蔵器 糞釜	M17	S242	口径15.3	口縁部 1/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ、耳貼付	やや 密	灰白	尾張系 外：煤付着	—
1294	001-04	陶器 糞釜	L17	S258	口径9.9 器高2.5	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、削出高台、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	灰白	瀬戸美濃製品 大室第2段階	—
1295	001-05	陶器 天日糞桶	L17	S258	口径10.9	口縁部 3/12	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	浅黄褐色 にぶい褐色	古瀬戸後Ⅳ期新段階	—
1296	001-03	陶器 糞桶	L17	S258	口径30.6	口縁部 2/12	外：ロクロナデ、クレム、施釉 内：ロクロナデ、施釉	やや 密	浅黄褐色 にぶい褐色	瀬戸美濃製品 大室第3段階後半	—
1297	001-06	陶器 糞釜	L17	S258	口径8.8	口縁部 3/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	赤灰	常滑製品 11型式	—
1298	292-05	土製品 縫羽口	L17	S258	残存径4.0	—	外：ナデ	やや 粗	灰白、灰褐色	砂岩	—
1299	002-01	石製品 石臼	L18	S258	残存長23.0 残存幅19.5	—	外：内掻き 内：敲打、研磨	—	—	—	—
1300	003-01	石製品 石臼	L18	S258	残存径29.0 厚7.0	—	—	—	—	花崗岩	—
1301	011-02	土蔵器 糞釜	M20	S277	—	口縁部 1/12	外：ナデ、跨貼付 内：オサヘルア	やや 密	灰 褐色	中北勢系	—
1302	011-04	陶器 糞釜	M20	S277	直径5.0	底部 6/12	外：ロクロナデ、底部斜切 内：ロクロナデ	密	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	瀬戸美濃製品 古瀬戸後Ⅳ期古段階	—
1303	013-06	陶器 天日糞桶	L18	S278	口径11.8 器高7.1	口縁部 5/12	外：ロクロナデ、削出高台、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	灰白	瀬戸美濃製品 大室第3段階	—
1304	323-01	木製品 漆椀	L18	S278	口径8.8 器高6.6	口縁部 5/12	—	—	—	—	内部挽き板
1305	—	—	L18	S278	—	—	—	—	—	—	遺物可写のみ
1306	—	—	L18	S278	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
1307	223-01	陶器 壺	S26	S2294	口径44.0 上層	口縁部 2/12	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや 粗	灰白	常滑製品 9型式	—

第41表 出土遺物観察表③

報告番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	釉	焼成	色調	特記事項
1308 223-04	陶器 削線深皿	S27	SE297 右組中	口径34.2 石組中	口縁部 1/12弱	外: 口クロナデ、施釉 内: 口クロナデ、施釉	密	良	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸後日曜	
1309 223-03	陶器 小皿	S27	SE297 下組	口径6.6 器高1.55	口縁部 1/12	外: 口クロナデ、底部系切 内: 口クロナデ	密	良	灰白	尾張型第6型式	
1310 223-02	陶器 山系椀	S27	SE297 下組	底径1.2 器高1.2	底部 3/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 密	良	灰白	尾張型第6型式	
1311 225-04	土師器 盤	Q43	SE217 (上部 右組)	口径12.6 3/12	口縁部 3/12	外: ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	密	やや 良	浅黄褐		
1312 224-06	陶器 小皿	Q43	SE217 (右組内) 器高1.4	底径5.0 6/12	底部 6/12	外: 口クロナデ、底部系切 内: 口クロナデ	やや 密	良	灰白	尾張型第7型式	
1313 225-03	陶器 山系椀	Q43	SE217 (上部 右組外)	底径7.9 6/12	底部 6/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 密	良	灰白	瀬戸美濃型式	
1314 225-01	陶器 片口鉢	O43	SE217 右組内	—	口縁部 1/12	外: ナデ、ヨコナデ 内: ナデ、ヨコナデ	密	良	橙	青浦製品 95型式	
1315 224-02	陶器 盤	Q43	SE217 右組内	底径9.8 6/12	底部 6/12	外: 口クロナデ、底部系切、施釉 内: 口クロナデ、クシメ、施釉	やや 密	良	褐灰 灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸後日曜新段階	
1316 332-02	木製品 机	P-016	SE90構築 右組	残存長13.0 幅1.8	—	—	—	—	—	—	マツ科マツ属 (二葉松類)
1317 331-03	木製品 机	P-016	SE90構築 右組	残存長24.6 幅1.8	—	—	—	—	—	—	マツ科マツ属 (二葉松類)
1318 332-01	木製品 机	P-016	SE90構築 右組	残存長28.1 幅1.7	—	—	—	—	—	—	マツ科クリ属クリ
1319 332-03	木製品 机	P-016	SE90構築 右組	残存長10.5 幅1.7	—	—	—	—	—	—	マツ科マツ属 (二葉松類)
1320 331-02	木製品 机	P-016	SE90構築 右組	残存長25.5 幅1.7	—	—	—	—	—	—	マツ科マツ属 (二葉松類)
1321 331-01	木製品 机	P-016	SE90構築 右組	残存長32.6 幅1.5	—	—	—	—	—	—	ヒノキ科アスナロ属
1322 324-01	木製品 曲物	O16	SE82	口径38.0 器高12.5	—	—	—	—	—	—	ヒノキ科アスナロ属
1323 325-01	木製品 曲物	O16	SE82	口径41.0 器高10.2	—	—	—	—	—	—	ヒノキ科アスナロ属
1324 327-01	木製品 曲物	O-P16	SE82	口径11.0 器高9.2	—	—	—	—	—	—	ヒノキ科アスナロ属
1325 326-01	木製品 曲物	O-P16	SE82	口径17.2	—	—	—	—	—	—	ヒノキ科アスナロ属
1326 287-02	土師器 鏡	P-016	SE82	—	口縁部 1/12弱	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	密	並	灰	南伊勢系	
1327 283-01	石製品 石鏡	Q42	P17	長さ9.1 重量280.0	—	—	—	—	—	—	砂岩
1328 338-01	土師器 甕	S39	P110	口径21.8	口縁部 4/12	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ハケメ	やや 粗	やや 不良	にぶい橙		
1329 337-03	須恵器 瓶	S39	P16-7 P1	底径12.4	底部 4/12	外: 口クロナデ、ヘタキリ、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	密	良	灰		
1330 336-05	須恵器 瓶	Q40	P19	底径8.2	底部 8/12	外: 口クロナデ、ヘタキリ、高台貼付、ナデ	やや 密	良	灰		
1331 336-06	須恵器 杯	Q40	P16	底径5.2	底部 5/12	外: 口クロナデ、底部系切	密	良	褐灰	振扱 9世紀前半	
1332 337-05	須恵器 杯	S40	P10	底径5.8	底部 5/12	外: 口クロナデ、底部系切	密	やや 不良	黄 良		
1333 338-02	灰釉陶器 皿	S41	P18	底径4.4	底部 9/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ	密	良	灰白	H-72	
1334 283-08	須恵器 杯	S41	P15	口径17.8	口縁部 4/12	外: 口クロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ	密	良	灰白	振扱 8世紀後半	
1335 337-04	須恵器 短頸壺	S40	P17-20	底径4.4	底部 6/12	外: 口クロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰		
1336 294-03	須恵器 杯	96	P118	口径13.1	口縁部 6/12	外: 口クロナデ、ロクロケズリ	やや 密	良	灰白		
1337 293-05	須恵器 杯	J6	P11	底径10.0	底部 4/12	外: 口クロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	良	灰白	8世紀後半～9世紀初頭	
1338 283-07	須恵器 杯	S40	P13	底径9.7	底部 12/12	外: 口クロナデ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	密	良	灰	美濃須衛 8世紀末～9世紀前半	
1339 294-01	灰釉陶器 瓶	G10	P11	底径6.6	底部 6/12	外: 口クロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: 口クロナデ	やや 粗	良	灰白 灰オーラー	K-14	
1340 336-03	土製品 上蓋	Q40	P14	長 34.3 幅 14.1	—	外: ナデ	密	良	にぶい橙		
1341 281-01	土師器 皿	R40	P118	口径6.0	口縁部 12/12	外: ナデ、ヨコナデ、ヨコナデ	密	良	にぶい橙		
1342 293-04	土師器 小皿	96	P13	口径11.0	口縁部 1/12	外: ナデ、ヨコナデ、ヨコナデ	やや 不良	灰白 褐灰			
1343 295-04	土師器 小皿	97	P12	口径6.8	口縁部 4/12	外: ナデ、ヨコナデ	やや 粗	良	浅黄褐		
1344 294-05	土師器 小皿	97	P12	口径6.9	口縁部 2/12	外: ナデ、ヨコナデ、ヨコナデ	密	やや	浅黄褐		
1345 294-06	土師器 皿	97	P12	口径12.0	口縁部 1/12	外: ナデ、ヨコナデ	密	やや 良	浅黄褐 にぶい橙		
1346 295-05	土師器 小皿	15	P11	口径9.9	口縁部 2/12	外: ナデ、ヨコナデ、ヨコナデ	密	やや 良	浅黄褐		
1347 295-03	土師器 小皿	97	P11	口径10.0	口縁部 3/12	外: ナデ、ヨコナデ	密	良	浅黄褐		

第42表 出土遺物観察表33

報告書番号	測量番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎝) 重量(g)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
1348	296-04	土師器	L13	P1+2 柱瓶	口径12.6 高さ1.9	口縁部 内:ナデ、ヨコナデ	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 良	やや 良	にぶい橙	
1349	281-05	土師器	P43	P1+1	口径8.9 高さ1.5	口縁部 内:ナデ、ヨコナデ	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 良	やや 良	にぶい橙	
1350	283-06	土師器	P41	P1+6	口径8.4 高さ1.4	口縁部 内:ナデ、ヨコナデ	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 良	やや 良	灰白	
1351	283-03	土師器	P41	P1+6	口径9.9 高さ1.5	口縁部 内:ナデ、ヨコナデ	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 良	やや 良	にぶい橙	
1352	283-02	土師器	P28	P1+2	口径8.2 高さ1.4	口縁部 内:ナデ、ヨコナデ	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 良	やや 良	にぶい黄橙	
1353	281-03	土師器	P42	P1+3	口径8.7 高さ1.7	口縁部 内:ナデ、ヨコナデ	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 良	やや 良	明褐色 にぶい橙	
1354	296-03	土師器	R18	P1+5 柱瓶	口径9.4 高さ1.2	口縁部 内:ナデ、ヨコナデ	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 密	やや 良	灰	
1355	338-03	土師器	P42	P1+6	口径8.8 高さ1.7	口縁部 内:ナデ、ヨコナデ	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 良	やや 良	浅黄褐	
1356	283-05	土師器	Q39	P1+1	口径8.2 高さ2.3	口縁部 内:ナデ、ヨコナデ	外:ロクロナデ、底部希切 内:ロクロナデ	やや 良	灰黄 黄灰		
1357	337-01	陶器	Q41	P1+2	底径8.0 高さ2.6	底部 内:ナデ、ヨコナデ	外:ロクロナデ、底部希切 内:ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
1358	296-02	陶器	Q18	P1+6 柱瓶	底径7.4 高さ6.2	底部 内:ロクロナデ	外:ロクロナデ、底部希切、高台付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第3型式	
1359	336-01	陶器	Q39	P1+1	底径7.8 高さ7.8	底部 内:ロクロナデ	外:ロクロナデ、底部希切、高台付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 良	灰黄	尾張型第5型式	
1360	336-02	陶器	Q37	P1+1	底径6.6 高さ5.0	底部 内:ロクロナデ	外:ロクロナデ、底部希切、高台付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 粗	灰白	尾張型第5型式	
1361	272-06	陶器	Q47	包含層 山茶樹	底径6.8 高さ5.8	底部 内:ロクロナデ	外:ロクロナデ、底部希切、高台付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第6型式	
1362	296-01	陶器	R23	P1+23 柱瓶	底径7.6 高さ9.2	底部 内:ロクロナデ	外:ロクロナデ、底部希切、高台付、ナデ 内:ロクロナデ	やや 良	灰白	尾張型第5型式	
1363	293-02	陶器	18	P1+2 柱瓶	口径12.0 高さ2.2	口縁部 内:ロクロナデ	外:ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内:ロクロナデ	やや 良	灰白	瀬戸美濃製品 古瀬戸後IV段古段階	
1364	294-02	青磁	桜	P1+2 柱瓶	底径5.0 高さ5.0	底部 内:ロクロナデ	外:ロクロナデ、削出高台、施釉	やや 粗	淡黄		
1365	296-06	白磁	Q22	P1+3	—	口縁部 内:ロクロナデ	外:ロクロナデ、施釉	やや 良	灰白		
1366	295-01	陶器	J6	P1+8 柱瓶	口径36.0 高さ1.2	口縁部 内:ロクロナデ	外:オサエ、ナデ、ヨコナデ 内:ナデ、ヨコナデ	やや 粗	にぶい赤系	常滑製品 8型式	
1367	357-03	木製品	M15	P1+4 柱杖	残存長70.0 直径14.0	—	—	—	—	マツ科マツ属(二葉松類)	
1368	—	—	D4	P1+1	—	—	—	—	—	—	遺物写真のみ
1369	126-05	織文土器	O18	包含層 (J)	—	口縁部 内:ナデ	外:ケズリ、ミガキ 内:ナデ	やや 密	にぶい黄 根		
1370	124-04	織文土器	N13	包含層 (J)	—	口縁部 内:ナデ	外:刺突、ナデ 内:ナデ	粗	やや 良	灰白 にぶい黄	
1371	80-01	石器	K17	包含層 (J)	長さ 2.05 幅 1.4 厚さ 0.3 重量 0.68	—	—	—	—	—	サヌカイト 凹基無茎
1372	81-01	石器	N13	包含層 (J)	長さ 3.9 幅 1.2 厚さ 0.5 重量 2.12	—	—	—	—	—	サヌカイト
1373	81-02	石器	L18	包含層 (J)	長さ 4.3 幅 1.2 厚さ 0.5 重量 0.93	—	—	—	—	—	サヌカイト
1374	80-04	石器	N13	包含層 (J)	長さ 3.15 幅 1.25 厚さ 0.6 重量 1.44	—	—	—	—	—	サヌカイト
1375	80-05	石器	M13	包含層 (J)	長さ 3.8 幅 1.6 厚さ 0.5 重量 0.96	—	—	—	—	—	サヌカイト
1376	84-03	楔形石器	J15	包含層 (J)	長さ 2.9 幅 3.8 厚さ 0.7 重量 9.05	—	—	—	—	—	下呂石
1377	84-02	楔形石器	J15	包含層 (J)	長さ 4.0 幅 1.7 厚さ 0.7 重量 6.38	—	—	—	—	—	下呂石
1378	84-01	楔形石器	J15	包含層 (J)	長さ 3.7 幅 3.6 厚さ 0.85 重量 10.32	—	—	—	—	—	下呂石
1379	81-04	楔形石器	J15	包含層 (J)	長さ 2.4 幅 3.3 厚さ 0.7 重量 4.38	—	—	—	—	—	下呂石
1380	96-05	楔形石器	N15	包含層 (J)	長さ 4 幅 3.1 厚さ 0.9 重量 3.59	—	—	—	—	—	サヌカイト スボール

第43表 出土遺物観察表⑤

報告番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(cm kg)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
1381	81-03	楔形石器	W13	包含層 (J)	長さ 2.4 幅 2.2 厚さ 0.6 重量 2.89	—	—	—	—	—	サスカイト
1382	81-05	楔形石器	J15	包含層 (J)	長さ 3.65 幅 2.7 厚さ 0.65 重量 6.43	—	—	—	—	—	下呂石
1383	96-08	楔形石器	P18	包含層 (J)	長さ 2.5 幅 1.7 厚さ 0.5 重量 2.91	—	—	—	—	—	下呂石
1384	88-01	UF	W15	包含層 (J)	長さ 2.55 幅 2.9 厚さ 0.7 重量 3.12	—	—	—	—	—	サスカイト
1385	88-04	UF	O17	包含層 (J)	長さ 2.8 幅 4.4 厚さ 0.6 重量 7.66	—	—	—	—	—	サスカイト
1386	88-03	UF	L15	包含層 (J)	長さ 3.5 幅 4.5 厚さ 0.8 重量 12.28	—	—	—	—	—	サスカイト
1387	88-02	UF	N13	包含層 (J)	長さ 5.8 幅 9.0 厚さ 0.8 重量 29.68	—	—	—	—	—	サスカイト
1388	96-01	UF	O18	包含層 (J)	長さ 5.7 幅 4.9 厚さ 1.1 重量 45.1	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイト
1389	85-03	剥片	L15	包含層 (J)	長さ 3.4 幅 4.7 厚さ 1.1 重量 15.43	—	—	—	—	—	サスカイト 両極打法
1390	104-06	剥片	N12	包含層 (J)	長さ 4.5 幅 6.5 厚さ 0.95 重量 22.83	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイト 右斧闇連
1391	104-04	剥片	L15	包含層 (J)	長さ 5.7 幅 5.7 厚さ 0.6 重量 12.25	—	—	—	—	—	サスカイト 原縁面あり
1392	89-05	剥片	K15	包含層 (J)	長さ 2.8 幅 7.7 厚さ 1.2 重量 10.61	—	—	—	—	—	下呂石
1393	89-02	剥片	N15	包含層 (J)	長さ 5.1 幅 2.65 厚さ 0.5 重量 4.42	—	—	—	—	—	サスカイト
1394	89-01	剥片	L14	包含層 (J)	長さ 3.3 幅 4.4 厚さ 1.4 重量 1.34	—	—	—	—	—	サスカイト
1395	96-06	剥片	O15	包含層 (J)	長さ 2.7 幅 1.3 厚さ 0.2 重量 0.91	—	—	—	—	—	サスカイト
1396	89-03	剥片	K15	包含層 (J)	長さ 2.7 幅 1.8 厚さ 0.35 重量 0.48	—	—	—	—	—	下呂石
1397	96-03	剥片	R17	包含層 (J)	長さ 3.6 幅 1.8 厚さ 0.8 重量 2.97	—	—	—	—	—	下呂石
1398	96-10	剥片	R18	包含層 (J)	長さ 2.7 幅 2.4 厚さ 0.8 重量 4.41	—	—	—	—	—	サスカイト
1399	87-02	剥片	L15	包含層 (J)	長さ 2.5 幅 5.5 厚さ 0.5 重量 2.34	—	—	—	—	—	下呂石
1400	84-04	剥片	J15	包含層 (J)	長さ 2.6 幅 3.2 厚さ 0.5 重量 3.11	—	—	—	—	—	下呂石
1401	87-03	剥片	L15	包含層 (J)	長さ 2.5 幅 2.1 厚さ 0.4 重量 2.23	—	—	—	—	—	下呂石
1402	84-05	剥片	J15	包含層 (J)	長さ 2.5 幅 2.9 厚さ 0.25 重量 2.32	—	—	—	—	—	下呂石
1403	87-05	剥片	N15	包含層 (J)	長さ 1.85 幅 3.2 厚さ 0.3 重量 1.54	—	—	—	—	—	チャート

第44表 出土遺物観察表⑤

報告書号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(cm 重量(g))	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
1404	87-04	剥片	L15	包含層 (J)	長さ 1.75 幅 2.4 厚さ 1.0 重量 0.58	—	—	—	—	—	サヌカイト
1405	96-04	剥片	M17	包含層 (J)	長さ 1.2 幅 2.1 厚さ 0.85 重量 0.81	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイト
1406	96-09	剥片	R18	包含層 (J)	長さ 2.3 幅 4.1 厚さ 0.9 重量 6.52	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイト
1407	89-04	剥片	M14	包含層 (J)	長さ 3.3 幅 5.6 厚さ 1.2 重量 19.47	—	—	—	—	—	サヌカイト
1408	85-02	剥片	J15	包含層 (J)	長さ 2.0 幅 4.0 厚さ 0.6 重量 10.1	—	—	—	—	—	下呂石
1409	86-03	剥片	L15	包含層 (J)	長さ 3.5 幅 4.3 厚さ 0.6 重量 8.55	—	—	—	—	—	サヌカイト
1410	87-01	剥片	L15	包含層 (J)	長さ 4.3 幅 4.2 厚さ 0.5 重量 7.07	—	—	—	—	—	サヌカイト
1411	96-07	剥片	O15	包含層 (J)	長さ 2.75 幅 6.7 厚さ 1.1 重量 12.89	—	—	—	—	—	サヌカイト
1412	86-02	剥片	L15	包含層 (J)	長さ 5.1 幅 4.7 厚さ 0.9 重量 24.05	—	—	—	—	—	サヌカイト
1413	85-01	剥片	J15	包含層 (J)	長さ 6.4 幅 4.1 厚さ 0.9 重量 23.92	—	—	—	—	—	下呂石
1414	86-01	剥片	L15	包含層 (J)	長さ 8.0 幅 3.5 厚さ 1.3 重量 40.59	—	—	—	—	—	サヌカイト
1415	124-01	磨石	K13	包含層 (J)	長さ 6.7 幅 5.8 厚さ 5.3	—	—	—	—	—	褐色質泥岩
1416	97-02	磨石	O15	包含層 (J)	長さ (6.5) 幅 10.7 厚さ 5.1 重量 500	—	—	—	—	—	安山岩 表面風化化
1417	95-01	敲石	N18	包含層 (J)	長さ 8.1 幅 7.5 厚さ 4 重量 300	—	—	—	—	—	褐色質砂岩
1418	97-03	敲石	R18	包含層 (J)	長さ (7.0) 幅 8.2 厚さ 4.5 重量 350	—	—	—	—	—	褐色質砂岩
1419	197-04	磨石	S32	SR216	長さ 11.8 幅 8.9 厚さ 6 重量 710	—	—	—	—	—	花崗岩
1420	93-03	礫器	M17	包含層 (J)	長さ 7.8 幅 11.2 厚さ 2.4 重量 290	—	—	—	—	—	砂岩
1421	93-02	礫器	N16	包含層 (J)	長さ 8.5 幅 6.5 厚さ 2 重量 155.54	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイト 梗的に使用
1422	93-01	敲石?	L17	包含層 (J)	長さ 8.1 幅 6.6 厚さ 3.6 重量 217.5	—	—	—	—	—	泥質石灰岩
1423	98-03	敲石	K17	SK101	長さ 12.8 幅 4.5 厚さ 3 重量 700	—	—	—	—	—	砂岩
1424	92-02	敲石	N16	包含層 (J)	長さ 18.3 幅 6.7 厚さ 4 重量 840	—	—	—	—	—	褐色質砂岩
1425	82-01	打製石斧	K14	包含層 (J)	長さ 10.1 幅 5.2 厚さ 1.6 重量 99.12	—	—	—	—	—	ホルンフェルス
1426	90-01	磨製石斧	M18	包含層 (J)	長さ 5.7 幅 3.1 厚さ 1.3 重量 32.36	—	—	—	—	—	蛇紋岩 小型

第45表 出土遺物観察表③

報告 番号	実測 番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調査・技法などの特徴	出土	集成	色調	特記事項
1427	90-02	磨製石斧	019	包含層 (J)	長さ 幅 厚さ 重量 (69.74)	—	—	—	—	—	凝灰岩 東系 刃部
1428	91-02	磨製石斧	W16	包含層 (J)	長さ 幅 厚さ 重量 (46.4)	—	—	—	—	—	砂岩 上部2/3残存 断面に軸用
1429	90-04	磨製石斧	N15	包含層 (J)	長さ 幅 厚さ 重量 (300)	—	—	—	—	—	塗基製岩
1430	95-02	磨製石斧	018	包含層 (J)	長さ (5.0) 幅 厚さ (4.1) 重量 (234.8)	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイル 未製品?
1431	92-01	磨製石斧	017	包含層 (J)	長さ 幅 厚さ 重量 (610)	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイル 未製品
1432	83-01	磨製石斧	014	包含層 (J)	長さ 幅 厚さ 重量 (52.54)	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイル 未製品
1433	91-01	磨製石斧	M18	包含層 (J)	長さ 幅 厚さ 重量 (58.57)	—	—	—	—	—	ハイアロクラスタイル 未製品・小型
1434	93-04	磨製石 斧?	R24	包含層 (J)	長さ 幅 厚さ 重量 (30.22)	—	—	—	—	—	ホルンフェルス
1435	83-02	石棒?	M13	包含層 (J)	長さ 幅 厚さ 重量 (32.29)	—	—	—	—	—	緑色片岩
1436	104-07	石板?	M13	包含層 (J)	長さ 幅 厚さ 重量 (108.5)	—	—	—	—	—	緑色岩
1437	96-02	砾石?	017	包含層 (J)	長さ 幅 厚さ 重量 (12.0)	—	—	—	—	—	ホルンフェルス
1438	296-07	火打石	—	包含層	長さ 幅 厚さ 重量 (12.22)	—	—	—	—	—	長石
1439	122-05	土師器	K14	包含層	脚台部3.0	外:土ナデ 内:ナデ	やや 粗	やや 良	茂黄櫻	—	—
1440	120-03	土師器	110	包含層	口径17.1	内:ヨコナデ、ミガキ 外:ヨコナデ、ミガキ	密 並	根 根	暗文士器	—	—
1441	167-03	土師器	R42	包含層	口径25.2	内:ヨコナデ、工具ナデ 外:ヨコナデ、工具ナデ	密	良	灰黄褐	滑成型か	—
1442	167-02	土師器	Q39	包含層	口径23.4	内:ヨコナデ、ハケメ 外:ヨコナデ、ハケメ	やや 密	やや 良	浅黄櫻	—	—
1443	157-02	土師器	R47	包含層	口径14.8	内:ヨコナデ、ナデ 外:ヨコナデ、ハケメ、ナデ	やや 密	やや 良	淡櫻	—	—
1444	245-02	土師器	Q41	包含層	口径15.5	内:ヨコナデ、ケズリ、ハケメ 外:ヨコナデ、ハケメ	やや 粗	やや 良	淡自	—	—
1445	116-01	土師器	16	包含層	口径21.0	内:ヨコナデ、ハケメ 外:ヨコナデ、ハケメ	やや 密	やや 良	灰白	—	—
1446	109-01	土師器	—	包含層	—	内:ヨコナデ、ハケメ 外:ヨコナデ、ハケメ	やや 密	やや 良	灰白	—	—
1447	108-02	汲水器	—	包含層	杯受部 高杯	外:ヨクロナデ 内:ヨクロナデ	やや 密	やや 良	灰白	6世紀代	—
1448	108-05	汲水器	—	包含層	口径 高杯	外:ヨクロナデ 内:ヨクロナデ	やや 粗	やや 良	灰	7世紀代	—
1449	173-03	汲水器	R25	包含層	口径14.0	内:ヨクロナデ、ヨクロケズリ 外:ヨクロナデ、ヨクロケズリ	やや 密	良	褐色	後	8世紀後半
1450	156-01	土師器	S50	陶輪部	口径15.9	外:ヨクロナデ、ヨクロケズリ、施輪付、ナデ 内:ヨクロナデ 外:ヨクロナデ	やや 軟	やや 良	浅黄	—	—
1451	120-01	土師器	G9	包含層	口径14.8	内:ヨクロナデ 外:ヨクロナデ	やや 密	良	灰	—	—
1452	122-02	土師器	G12	包含層	口径15.9	内:ヨクロナデ 外:ヨクロナデ	やや 密	不良	灰白 灰白	—	—
1453	163-08	縫紉陶器	T36	包含層	口径17.4	内:ヨクロナデ、ヨクロケズリ、施輪 外:ヨクロナデ、ヨクロケズリ、施輪	やや 密	良	にぶい黄櫻 灰白	—	—
1454	117-05	縫紉陶器	F8	包含層	—	内:ヨクロナデ、施輪 外:ヨクロナデ、施輪	密	良	暗オーリーブ	—	—
1455	114-06	縫紉陶器	G7	包含層	底径 高杯	底径小片 内:ヨクロナデ、施輪 外:ヨクロナデ、施輪	密	良	淡黄櫻	—	—
1456	166-06	ヨロ土師器	S42	包含層	底径7.4	底 外:ヨクロナデ、高台貼付、ナデ 内:ナデ	やや 密	やや 不良	にぶい にぶい	—	—
1457	114-08	汲水器	H7	包含層	底径13.0	内:ヨクロナデ、ヨクロケズリ、高台貼付、ナデ 外:ヨクロナデ	密	良	にぶい黄櫻	8世紀後半	—
1458	156-07	汲水器	P41	包含層	底径2.2 器高3.5	内:ヨクロナデ 外:ヨクロナデ	密	良	灰	8世紀後半	—

第46表 出土遺物観察表⑧

報告 番号	測量 番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・抹消などの特徴	釉土	填成	色調	特記事項
1459	117-03	吸水器	J8	包含層	底径3.9 高さ4.1	底部 3/12	外：ロクロナダ、ロクロケズリ、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ、	密	良	灰白	8世紀後半
1460	123-09	吸水器	W13	包含層	底径3.9 高さ4.1	底部 6/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ、ロクロケズリ	やや 密	灰	灰白	外面底部へラ記号
1461	280-03	吸水器	S38	包含層	底径1.0 高さ2.4	底部 5/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ、ロクロケズリ	密	良	褐色 灰黃褐色	施設 8世紀前半
1462	118-04	吸水器	18	包含層	底径2.5 高さ2.5	底部 3/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ、ロクロケズリ	密	良	灰 灰白	施設 8世紀前半
1463	115-01	吸水器	16	包含層	口径12.8 高さ2.8	口縁部 2/12	外：ロクロナダ 内：ロクロナダ	密	良	灰 灰白	8世紀前半
1464	118-02	吸水器	18	包含層	底径3.9 高さ3.3	底部 12/12	外：ロクロナダ、ロクロケズリ 内：ロクロナダ	密	やや 不良	灰 灰白	にぶい黄褐色
1465	109-04	吸水器	杯	包含層	口径13.8 高さ7.7	口縁部 2/12	外：ロクロナダ、底部斜切 内：ロクロナダ	やや 粗	良	褐色 灰	にぶい褐色
1466	109-03	土師器	桶	包含層	底径5.8 高さ6.8	底部 4/12	外：ナダ 内：ナダ	密	良	灰	灰褐色
1467	114-05	吸水器	F7	包含層	口径13.2 高さ3.3	口縁部 6/12	外：ロクロナダ、ヘラキリ 内：ロクロナダ	密	良	灰	
1468	158-05	土師器	P40	包含層	底径6.0 高さ6.8	底部 6/12	外：ロクロナダ、底部斜切 内：ロクロナダ	やや 密	やや 不良	淡褐色 灰黃褐色	
1469	169-03	灰釉陶器	P40	北壁	底径2.2 高さ1.1	底部 10/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ、施設	密	良	灰白	0-53
1470	171-03	灰釉陶器	S40	包含層	底径2.1 高さ3.3	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ、施設	密	良	灰白	0-53
1471	122-03	灰釉陶器	K15	包含層	底径2.3 高さ3.3	底部 2/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ、施設	密	良	灰白	施設 K-14
1472	123-07	灰釉陶器	L13	包含層	底径4.4 高さ4.4	底部 12/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	密	良	灰白	施設 K-14
1473	272-01	灰釉陶器	P53	包含層 柵区東壁 (側溝)	口径16.0 高さ4.6	口縁部 6/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	密	良	灰白	外面底部墨書き K-14
1474	245-01	灰釉陶器	P48	包含層	底径8.6 高さ6.0	底部 3/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	密	良	灰白	8-90
1475	188-04	灰釉陶器	R40	包含層	底径7.2 高さ5.5	底部 6/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	密	良	灰白	0-53
1476	272-02	灰釉陶器	P52	包含層	底径7.4 高さ6.0	底部 2/12	外：ロクロナダ、底部斜切、高台貼付、ナデ 内：ロクロナダ	密	良	灰白	外面底部墨書き 0-53
1477	122-04	灰釉陶器	K14	包含層	底径5.7 高さ5.7	底部 4/12	外：ロクロナダ、底部斜切 内：ロクロナダ	密	良	灰白	施設 8-90
1478	280-01	吸水器	Q39	包含層	底径6.6 高さ6.2	底部 7/12	外：ロクロナダ、ロクロケズリ 内：ロクロナダ	やや 粗	良	褐色 灰褐色	
1479	113-02	吸水器	H6	包含層	- 高さ6.0	- 7/12	外：ロクロナダ、沈殿 内：ロクロケズリ	やや 粗	良	褐色 灰褐色	
1480	113-01	陶器口広 耳有耳	包含層 一筋		底径10.0 高さ6.2	底部 6/12	外：ロクロナダ、底部斜切、施釉 内：ロクロナダ	やや 密	良	淡黃、褐 灰黃褐色	廻戸美濃製品 古窯戸後IV 新段階附小室第1段階
1481	166-03	土師器	S49	包含層	口径5.6 高さ5.5	口縁部 6/12	外：オサエ、ヨコナダ 内：オサエ、ヨコナダ	密	並	褐色	
1482	120-05	土師器	K10	包含層	底径5.7 高さ5.7	底部 10/12	外：オサエ、ナダ 内：ナダ	密	良	灰白	内：織維当底？
1483	120-02	土師器	K9	包含層	底径5.0 高さ5.7	底部 9/12	外：オサエ、ナダ 内：ナダ	密	並	灰白	内：織維当底？
1484	166-02	土師器	Q47	包含層	口径5.0 高さ5.7	口縁部 6/12	外：オサエ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	良	褐色 灰白	浅黃褐色
1485	156-06	土師器	P40～ 42	東・西断面 一筋	口径5.5 高さ2.0	口縁部 8/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	良	褐色 灰白	浅黃褐色
1486	166-04	土師器	R42	包含層	口径5.9 高さ5.5	口縁部 8/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	良	灰白	浅黃褐色
1487	157-03	土師器	R69	包含層	口径5.3 高さ5.5	口縁部 12/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ	密	良	灰白	浅黃褐色
1488	166-06	土師器	R40	包含層	口径5.6 高さ4.4	口縁部 12/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	良	灰白	にぶい褐色
1489	160-05	土師器	S49	包含層	口径5.8 高さ4.8	口縁部 10/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	やや 不良	灰白	にぶい褐色
1490	117-02	土師器	G8	包含層	口径5.7 高さ5.0	口縁部 5/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	良	褐色 灰	にぶい褐色
1491	157-05	土師器	R40	包含層	口径5.3 高さ5.0	口縁部 6/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	良	灰白	浅黃褐色
1492	157-08	土師器	R41	包含層	口径5.5 高さ4.1	口縁部 3/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	やや 不良	灰白	浅黃褐色
1493	157-04	土師器	S41	包含層	口径5.1 高さ4.5	口縁部 12/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	やや 不良	灰白	にぶい褐色
1494	156-08	土師器	S48	包含層	口径5.3 高さ4.3	口縁部 6/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	良	褐色 灰白	浅黃褐色
1495	156-04	土師器	P44	北壁 側溝	口径4.4 高さ3.3	口縁部 5/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	良	灰白	にぶい褐色
1496	166-01	土師器	S40	包含層	口径5.0 高さ4.4	口縁部 12/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	やや 良	褐色 灰白	浅黃褐色
1497	156-03	土師器	S46	南壁 側溝	口径5.7 高さ4.6	口縁部 12/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	良	灰白	にぶい褐色
1498	157-06	土師器	S40	包含層	口径5.0 高さ4.6	口縁部 6/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	密	良	褐色 灰白	浅黃褐色

第47表 出土遺物観察表③

報告 番号	実測 番号	器種等	小地区	遺構名	法量 重量 (g)	残存度	調査・復元などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
1599	159-02	土師器 小皿	P42	包含層	口径7.9 器高1.5	12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	良	にぶい橙	
1500	159-01	土師器 小皿	S49	包含層	口径9.0 器高1.6	12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	やや 不柔	浅黄褐色 にぶい橙	
1501	156-09	土師器 小皿	Q49	包含層	口径6.9 器高1.5	12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	良	浅黄褐色 灰白	
1502	157-07	土師器 皿	O30	下層部	口径8.8 器高1.8	3/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	不良	灰白	
1503	129-02	土師器 皿	R24	包含層	口径10.1 器高2.0	8/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	良	浅黄褐色 にぶい黄褐色	
1504	169-02	土師器 皿	Q48	包含層	口径10.8 器高1.8	4/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	良	浅黄褐色 灰白	
1505	129-04	土師器 皿	K10	包含層	口径10.2 器高1.9	9/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	並	灰白	
1506	124-05	土師器 皿	N16	包含層	口径12.3 器高2.3	4/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	やや 良	にぶい黄褐色	
1507	128-01	土師器 皿	Q24	包含層	口径11.0 器高2.0	10/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	良	浅黄褐色 灰白	
1508	158-02	土師器 皿	Q48	包含層	口径12.3 器高2.4	9/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	やや 良	淡橙 灰白	
1509	156-02	土師器 皿	S46	南壁 側面	口径12.0 器高2.7	8/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	やや 良	橙	
1510	159-09	土師器 皿	R47	包含層	口径12.3 器高2.9	12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	やや	にぶい橙 外面に素地接合痕残る	
1511	159-04	土師器 皿	Q47	包含層	口径11.3 器高3.0	8/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	良	にぶい橙	
1512	159-08	土師器 皿	R47	包含層	口径12.0 器高2.9	9/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	やや	にぶい橙	
1513	169-01	土師器 皿	Q47	包含層	口径12.5 器高2.6	11/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	並	にぶい橙	
1514	160-02	土師器 皿	R47	包含層	口径12.4 器高2.8	12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	やや 不良	にぶい橙	
1515	160-01	土師器 皿	R47	包含層	口径13.0 器高3.0	12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	良	にぶい橙 褪色	
1516	167-01	土師器 皿	T45~ S53	南壁 側面	口径12.8 器高2.3	12/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	やや	にぶい橙 不良	
1517	160-04	土師器 皿	S39	包含層	口径13.0 器高2.8	11/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	やや 不良	灰白	
1518	159-06	土師器 皿	R47	包含層	口径13.1 器高2.8	4/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	良	浅黄褐色	
1519	159-07	土師器 皿	R48	包含層	口径13.2 器高2.7	11/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	やや	浅黄褐色	
1520	158-01	土師器 皿	R41	包含層	口径13.4 器高2.2	7/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	やや	灰白	
1521	169-02	土師器 皿	R47	包含層	口径14.1 器高2.5	11/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	並	浅黄褐色	
1522	159-05	土師器 皿	Q47	包含層	口径13.7 器高2.9	3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	やや 良	にぶい黄褐色	
1523	158-03	土師器 皿	R49	包含層	口径12.4 器高1.9	6/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	やや	淡橙	
1524	160-03	土師器 皿	R49	包含層	口径12.9 器高2.3	6/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	やや	にぶい橙	
1525	159-03	土師器 皿	Q46	包含層	口径13.7 器高2.7	4/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	やや	浅黄褐色 外面に素地接合痕残る	
1526	156-05	土師器 皿	R49~ 42	表土師 前一格	口径14.6 器高3.2	3/12	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	柔軟	やや	浅黄褐色	
1527	128-05	土師器 小瓶	R25	包含層	口径6.9 器高2.0	4/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	良	にぶい橙 浅黄褐色、灰	
1528	158-04	土師器 皿	R39	包含層	口径6.4 器高2.1	12/12	外：オサエ、ナデ 内：ナド	柔軟	良	橙 浅黄褐色	
1529	156-06	*#土師器 皿	S43	包含層	口径6.4 器高1.5	7/12	外：ロクロナデ、底面系切 内：ナド	やや 柔軟	良	浅黄褐色	
1530	158-07	*#土師器 皿	P42	包含層	底径8.1 器高2.0	12/12	外：ロクロナデ、底面系切 内：ナド	やや 柔軟	良	浅黄褐色 にぶい橙	
1531	128-03	*#土師器 皿	R24	包含層	底径6.0 器高2.6	8/12	外：ロクロナデ、底面系切 内：ロクロナデ	やや 柔軟	良	にぶい黄褐色 褐色、灰白	
1532	114-07	*#土師器 皿	G7	包含層	底径6.1 器高2.4	5/12	外：ロクロナデ、ロクロケツリ、高台貼付、ヨコナデ 内：ナド	柔軟	やや 良	暗灰 浅黄褐色	柱状高台
1533	115-06	*#土師器 皿	A7	包含層	底径3.8 器高1.5	12/12	外：ロクロナデ、底面系切 内：ナド	やや 柔軟	良	にぶい橙 浅黄褐色	柱状高台
1534	109-06	*#土師器 皿	底部8.0 一筋	包含層	底径8.0 器高1.5	12/12	外：ロクロナデ、底面系切 内：ナド	やや 柔軟	良	にぶい橙 柱状高台	
1535	109-05	*#土師器 皿	底部8.4 一筋	包含層	底径8.4 器高1.8	8/12	外：ロクロナデ、底面系切 内：ナド	やや 柔軟	良	浅黄褐色	柱状高台
1536	287-05	*#土師器 皿	BB	包含層	底径6.0 器高3.8	5/12	外：ロクロナデ、底面系切 内：ロクロナデ	柔軟	良	褐灰 にぶい黄褐色	
1537	288-08	土師器 内耳鍋	T37	包含層	—	—	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	良	灰白 にぶい黄褐色	尾張系
1538	157-01	土師器 内耳鍋	I05	包含層	口径2.8 器高2.0	3/12	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナド、ヨコナデ、耳貼付	柔軟	良	灰白 浅黄褐色	尾張系
1539	206-03	土師器 羽釜	T38	南壁 取り	口径2.8 器高2.0	2/12	外：ナデ、ヨコナデ、ハタケ、鰐貼付 内：ナデ、ヨコナデ	やや 柔軟	良	にぶい黄褐色 中北勢系	

第48表 出土遺物観察表④

報告書号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎝) 重量(㌘)	残存度	調整・技法などの特徴	胎土	焼成	色調	特記事項
1540	127-03	土師器 鉢皿	P21	包含層	口径28.0 口縁部 5/12	口縁部 外: ナデ、ヨコナデ、ハケメ、ケズリ、跨貼付 内: ナデ、ヨコナデ	密 やや良	橙		中北勢系	
1541	127-04	土師器 鉢皿	S20	包含層	口径15.0 口縁部 2/12	口縁部 外: ナデ、ヨコナデ、ハケメ、跨貼付 内: ナデ、ヨコナデ	密 やや良	浅黄褐 黄灰		中北勢系	
1542	112-01	土師器 鉢皿		包含層 一組	口径19.0 口縁部 3/12	口縁部 外: ナデ、ヨコナデ、ハケメ、跨貼付 内: オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや粗 良	灰白		中北勢系 外: 保村着	
1543	118-01	土師器 鉢皿	K8	包含層	口径23.4 口縁部 2/12	口縁部 外: ナデ、ヨコナデ、ハケメ、跨貼付 内: オサエ、ナデ、ヨコナデ	やや密 良	灰白 褐灰		中北勢系	
1544	280-04	瓦器 陶	R47	包含層	— —	— — 外: ナデ、ミガキ 内: ナデ、ミガキ	密 良	灰			
1545	117-01	土師器 鉢皿	H8	包含層	— — 口縁部 1/12	口縁部 外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	粗 良	灰 にぶい・橙 褐		漸進型	
1546	172-07	土師品	S40	包含層	長5.1 重巣量: 0.7	— 外: ナデ	密 やや良	灰白 にぶい・橙			
1547	245-03	土師品	Q41	包含層 壁面	長5.1 重巣量: 0.55	— 外: ナデ	密 良	灰白			
1548	125-08	土師品	N20	包含層	長5.3 重巣量: 0.00	— 外: ナデ	やや密 良	黄灰 灰白			
1549	170-01	土師品	P53	包含層	長5.2 重巣量: 2	— 外: ナデ	密 並	灰 にぶい・黄褐			
1550	119-03	土師品	E8	包含層	長5.5 重巣量: 6.9	— 外: ナデ	やや粗 良	灰白			
1551	121-03	土製品	H10	包含層	残存長5.9 重巣量: 5.3	— 外: ナデ	やや粗 並	灰白			
1552	172-06	土製品	S36	包含層	長5.0 重巣量: 5.0	— 外: ナデ 内: ナデ	やや密 並	明黄褐 黄灰			
1553	113-04	土製品	E16	包含層	長5.2 重巣量: 9.7	— 外: ナデ	やや粗 良	灰白			
1554	170-07	土製品	R46	包含層	残存長 重巣量: 7.4	— 外: ナデ	やや密 並	灰白			
1555	128-09	土製品	Q24	包含層	長5.8 重巣量: 5.8	— 外: ナデ	やや粗 良	灰白			
1556	172-06	土製品	P30	包含層	長5.4 重巣量: 5.1	— 外: ナデ 内: ナデ	やや密 並	浅黄褐 灰赤			
1557	114-04	土製品	17	包含層	残存長4.3 重巣量: 3.7	— 外: ナデ	密 並	灰白			
1558	119-04	土製品	18	包含層	長5.2 重巣量: 2.3	— 外: ナデ	やや粗 良	灰白			
1559	170-05	土製品	R51	包含層	長5.3 重巣量: 11.28	— 外: ナデ	やや密 並	灰白			
1560	170-04	土製品	R53	東壁	長5.4 重巣量: 14.92	— 外: ナデ	やや密 並	浅黄褐			
1561	129-01	土製品	K14	包含層	長5.9 重巣量: 15.57	— 外: ナデ	やや粗 良	浅黄褐 褐灰			
1562	170-06	土製品	R47	包含層	残存長5.6 幅2.2	— 外: ナデ	やや密 並	灰白 灰			
1563	112-06	土製品	E8	包含層	長5.1 重巣量: 43.40	— 外: ナデ	やや粗 良	灰白			
1564	165-01	陶器 小鉢	Q26	包含層	口径10.8 器高: 0 12/12	口縁部 外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや粗 良	灰白		内面ベンガラ付着 尾張型第3式	
1565	111-01	陶器 小鉢		包含層	底径5.0 器高: 2 4/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや良	灰白 にぶい・橙		美型第4式	
1566	173-04	陶器 小鉢	Q24	包含層	底径5.6 器高: 6 6/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや良	灰白		尾張型第4式	
1567	164-10	陶器 小鉢	R38	包含層	底径5.2 器高: 6 6/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	密 良	灰白		尾張型第4式	
1568	163-03	陶器 小鉢		表土、調査区全般	口径6.6 器高: 6 3/12	口縁部 外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや良	灰白		尾張型第4式	
1569	125-05	陶器 小鉢	O21	包含層	底径7.9 器高: 7 7/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	密 良	灰黃		尾張型第4式	
1570	165-04	陶器 小鉢	P37	包含層	底径5.2 器高: 6 7/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	密 良	灰白		尾張型第4式	
1571	163-03	陶器 小鉢	R33	南壁 裏面	底径5.0 器高: 6 6/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	密 良	灰白		尾張型第4式	
1572	173-03	陶器 小鉢	P34	包含層	底径5.2 器高: 6 6/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切、高台貼付、ナデ 内: ロクロナデ	やや粗 良	灰白		尾張型第4式	
1573	125-05	陶器 小鉢	R19	包含層	底径5.3 器高: 2 12/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	密 良	灰白		尾張型第5式	
1574	125-01	陶器 小鉢	P34	包含層	口径5.0 器高: 6 12/12	口縁部 外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	密 良	灰白		尾張型第5式	
1575	164-09	陶器 小鉢	Q48	包含層	底径5.0 器高: 7 9/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや密 良	灰黃		尾張型第6式	
1576	162-08	陶器 小鉢	Q48	包含層	底径5.0 器高: 9 12/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや粗 良	灰白		尾張型第6式	
1577	164-06	陶器 小鉢	P42	包含層	底径5.7 器高: 0 12/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや粗 良	灰白		尾張型第6式	
1578	164-06	陶器 小鉢	P42	包含層	底径5.0 器高: 5 10/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや粗 良	灰白		尾張型第6式	
1579	162-06	陶器 小鉢	P40~ 42	裏土削離 一組	底径5.0 器高: 7 12/12	底部 外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや粗 良	灰白		尾張型第6式	
1580	164-03	陶器 小鉢	P42	包含層	口径5.0 器高: 6 12/12	口縁部 外: ロクロナデ、底部系切 内: ロクロナデ	やや粗 良	灰白		尾張型第6式	

第49表 出土遺物観察表④

報告 番号	実測 番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴		地土	情成	色調	特記事項
1581	164-04	陶器 小皿	P41	包含層	口径8.6 底径2.0 厚さ0.8	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1582	162-05	陶器 小皿	O49	包含層	口径8.6 底径2.0 厚さ0.8	口縁部 1/2 器底 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1583	164-01	陶器 小皿	S40	包含層	底径8.5 厚さ1.0	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1584	273-02	陶器 小皿	R40	包含層	口径8.6 底径2.0 厚さ0.8	口縁部 1/2 器底 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1585	165-05	陶器 小皿	T39	包含層	口径8.6 底径1.9 厚さ0.8	口縁部 1/2 器底 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1586	162-07	陶器 小皿	P40	北壁	口径8.6 底径1.7 厚さ0.8	底盤部 1/2 器底 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1587	163-04	陶器 小皿	T30	南壁	口径8.6 底径1.8 厚さ0.8	口縁部 1/2 器底 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1588	275-06	陶器 小皿	新7 調友区 全城	底七 底盆	口径8.6 底径2.0 厚さ0.8	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		外面に墨書き 尾張型第6式
1589	165-02	陶器 小皿	R40	包含層	底径4.4 底径1.9 厚さ0.8	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1590	165-03	陶器 小皿	Q48	包含層	底径5.0 底径1.9	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1591	166-05	陶器 小皿	S40	包含層	口径8.6 底径1.8 厚さ0.8	口縁部 1/2 器底 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1592	164-07	陶器 小皿	R47	包含層	底径5.1 底径1.9	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1593	163-01	陶器 小皿	Q48	包含層	口径8.6 底径2.0 厚さ0.8	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1594	164-08	陶器 小皿	R47	包含層	口径8.5 底径1.8	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1595	164-02	陶器 小皿	R41	包含層	口径8.5 底径1.9	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1596	108-03	陶器 小皿	土表 一括	底盆	口径8.0 底径1.8	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切 内：ロクロナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第7式
1597	171-02	陶器 山茶樹	T42	包含層	底径8.0 底径2.0 厚さ0.8	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第3式
1598	162-01	陶器 山茶樹	R50	包含層	口径16.2 底径5.1	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白 褐		尾張型第4式
1599	171-03	陶器 山茶樹	T39	包含層	底径8.1 底径2.0	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第4式
1600	170-01	陶器 山茶樹	S41	包含層	底径8.3 底径2.0	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第4式
1601	272-05	陶器 山茶樹	Q43	包含層	底径8.0 底径2.0	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰		尾張型第4式
1602	273-03	陶器 山茶樹	37/7	包含層	-	-	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰		舞美型第5式
1603	273-04	陶器 山茶樹	44/7	包含層	底径8.5 底径2.0 厚さ0.8	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第5式
1604	173-02	陶器 山茶樹	T40	包含層	底径8.6 底径4.6	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第5式
1605	272-04	陶器 山茶樹	Q27	包含層	底径8.0	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1606	273-06	陶器 山茶樹	467/7	包含層	底径6.7 底径3.2	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1607	162-02	陶器 山茶樹	O49	包含層	口径15.4 底径4.9	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1608	273-01	陶器 山茶樹	Q25	包含層	-	-	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1609	166-07	陶器 山茶樹	R47	包含層	底径6.3 P.7 底径5.6	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰		尾張型第6式
1610	165-07	陶器 山茶樹	Q48	包含層	底径6.7 P.2 底径5.6	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1611	165-06	陶器 山茶樹	Q48	包含層	口径16.8 底径4.9	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1612	272-03	陶器 山茶樹	Q49	包含層	底径6.0 底径4.1	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		外面底面黒墨「二」 尾張型第6式
1613	273-05	陶器 山茶樹	487/7	包含層	底径6.7 底径5.4 厚さ0.8 南壁	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1614	244-03	陶器 山茶樹	R44	包含層	口径15.6 底径4.9	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1615	162-04	陶器 山茶樹	N48	北壁 側溝	底径6.7 底径5.8	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第6式
1616	118-01	陶器 山茶樹	G9	包含層	底径6.5 底径5.5	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第7式
1617	109-07	陶器 山茶樹	包含層	口径15.2 底径5.~ 厚さ0.8	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第7式 (廻戻)	
1618	162-03	陶器 山茶樹	S49	包含層	口径13.9 底径5.5 厚さ0.8	口縁部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰白		尾張型第7式 (廻戻)
1619	108-04	陶器 山茶樹	土表 口片鉢	底径11.1	底盤部 1/2	外：ケズリ、底面系切,高台貼付,ナデ		砂や 粗	灰		尾張型第6式 (知多)	
1620	111-04	陶器 山茶樹	包含層	底径4.2 底径3.1	底盤部 1/2	外：ロクロナデ、底部系切		砂や 粗	灰白		尾張型第12式	

第50表 出土遺物観察表④

報告書号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量(㎤) 重量(㌘)	残存度	調整・技法などの特徴	出土	備考	色調	特記事項
1621 065-01	陶器	Q20 D21	S062下層	頸部径11.2 12/12	頭部 外：ロクロナダ 内：ロクロナダ	密 良 灰白	深美				
1622 126-07	陶器 陶丸	R23	包含層	最大径2.1 重量12.0	元存	外：ナダ	密 良 深黄褐色 黒褐色				
1623 172-09	土製品 土玉	T41	包含層	長2.1 重量7.1	—	外：ナダ	密 良 灰白				
1624 117-07	石製品 鏡	F8	包含層	—	口縁部 1/12	外：削出、研磨 内：削出、研磨	—	—	—	滑石	
1625 121-10	石製品 鏡石	L10 L10-76	包含層	残存径9.9 幅4.2	—	—	—	—	—	—	泥質變灰岩
1626 110-11	石製品 鏡石	P46	包含層	残存径7.0 幅4.5	—	—	—	—	—	—	硬灰岩
1627 169-09	石製品	P46	包含層	—	—	—	—	—	—	—	硬灰岩
1628 169-04	陶器 鉢輪接頭	P32	北壁 底脚	口径10.0 高さ6.0	1/3層部 3/12	外：ロクロナダ、削出高台、施釉 内：ロクロナダ、施釉	やや 粗 良 灰白	戸戸美濃製品 大室第2段階			
1629 171-04	陶器 陶輪丸頭	Q31	包含層	底径5.5 高さ6.6	底部 3/12	外：ロクロナダ、削出高台 内：ロクロナダ、削出高台	やや 密 良 灰白	戸戸美濃製品 大室第3段階の前半			
1630 129-08	陶器 縁付小皿	N16	包含層	口径11.1 高さ4.3	1/3層部 3/12	外：ロクロナダ、底部斜切、底部斜行、ヨコナダ 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白	戸戸美濃製品 古漸戸後期			
1631 125-06	陶器	M21	包含層	口径5.8 高さ5.0	底部 12/12	外：ロクロナダ、削出高台、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 にふい黄褐色	戸戸美濃製品 天日茶碗			
1632 112-04	陶器 天日茶碗	H5	包含層	口径11.4 一柄	1/3層部 3/12	外：ロクロナダ、ロコロケズリ、施釉 内：ロクロナダ、ロコロケズリ、施釉	やや 密 良 灰白	戸戸美濃製品 天日茶碗			
1633 109-08	陶器 天日茶碗	—	包含層	口径11.9 一柄	1/3層部 2/12	外：ロクロナダ、ロコロケズリ、施釉 内：ロクロナダ、施釉	やや 密 良 灰白 灰褐色	戸戸美濃製品 天日茶碗			
1634 113-03	陶器 天日茶碗	—	包含層	口径5.0 高さ5.0	底部 12/12	外：ロクロナダ、削出高台、施釉 内：ロクロナダ、施釉	やや 密 良 精赤褐色	戸戸美濃製品 天日茶碗			
1635 121-06	陶器 天日茶碗	R9	包含層	口径12.0 高さ5.0	1/3層部 3/12	外：ロクロナダ、ロコロケズリ、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白	戸戸美濃製品 天日茶碗			
1636 125-07	陶器 天日茶碗	R20	包含層	底径4.6 高さ5.0	底部 12/12	外：ロクロナダ、削出高台 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰褐色	戸戸美濃製品 天日茶碗			
1637 173-06	陶器 鉢皿	P26	包含層	口径18.0 高さ5.0	1/3層部 1/12	外：ロクロナダ、底部斜切、施釉 内：ロクロナダ、施釉、削目	やや 密 良 灰褐色 にふい梗	戸戸美濃製品 古漸戸後期新段階			
1638 341-04	陶器 折線深皿	煮土、調 査区一括	包含層	口径24.6 高さ5.0	1/3層部 1/12	外：ロクロナダ、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白	戸戸美濃製品 古漸戸後期			
1639 111-01	陶器 鉢皿	—	包含層	底径12.2 高さ5.0	1/3層部 4/12	外：ロクロナダ、底部斜切、施釉 内：ロクロナダ、クレム、施釉	やや 密 良 浅黄褐色	戸戸美濃製品 大室第3から4段階			
1640 127-01	陶器 鉢皿	M21	包含層	口径31.0 高さ5.0	1/3層部 2/12	外：ロクロナダ、底部斜切、施釉 内：ロクロナダ、クレム、施釉	やや 密 良 灰褐色	戸戸美濃製品 大室第3段階			
1641 126-02	陶器 尊式花瓶	R19	包含層	底径5.9 高さ6.0	底部 6/12	外：ロクロナダ、底部斜切、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白	戸戸美濃製品 古漸戸後期Ⅱ中期			
1642 126-08	陶器 仏頭具	R20	包含層	底径5.3 高さ5.0	底部 11/12	外：ロクロナダ、削出高台、施釉 内：ロクロナダ、施釉	やや 密 良	戸戸美濃製品 古漸戸後期新段階			
1643 126-01	陶器 花瓶	M21	包含層	頸部径5.1 高さ6.0	頸部 6/12	外：ロクロナダ、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良	戸戸美濃製品 古漸戸後期			
1644 124-03	陶器 四耳壺	J18	包含層	—	耳部 1/12側	外：ロクロナダ、耳部斜行、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白	戸戸美濃製品 古漸戸後期			
1645 117-01	陶器 四耳壺	K8	包含層	口径8.8 高さ8.0	1/3層部 8/12	外：ロクロナダ、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰黃褐色	戸戸美濃製品 古漸戸後期			
1646 169-07	陶器 加工用内板	P46	包含層	径5.0 高さ5.0	元存 3/12	削出高台 外：ロクロナダ、施釉	やや 良 黑褐色	戸戸美濃製品 天日茶碗(古 漸戸後期IV吉古段階)加工			
1647 112-05	陶器 德利	—	包含層	—	—	外：ロクロナダ、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白 ぼー黒	志野郷部 登録第1小類			
1648 110-05	陶器 鉢	—	包含層	—	1/3層部 1/12	外：ロクロナダ、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白	戸戸美野 19世紀			
1649 110-04	陶器 皿	煮土 —	包含層	底径7.3 高さ5.0	底部 1/12	外：ロクロナダ、削出高台、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白	肥前窯			
1650 282-02	陶器	P31	包含層	口径34.4 高さ10.0	1/3層部 3/12	外：オサエ、ナダ、ヨコナダ 内：ナダ、ヨコナダ	やや 粗 にふい梗	常滑製品 片口鉢			
1651 168-01	陶器 甕	R42	包含層	口径53.0 高さ5.0	1/3層部 1/12	外：ロクロナダ 内：ロクロナダ	密 良 灰	常滑製品 6a型式			
1652 108-01	陶器 甕	—	包含層	口径30.6 高さ5.0	1/3層部 2/12	外：ロクロナダ 内：ロクロナダ	やや 粗 にふい梗	常滑製品 11型式			
1653 126-01	陶器 甕	Q20	包含層	—	1/3層部 1/12	外：ロクロナダ 内：ロクロナダ	やや 粗 にふい梗	常滑製品 12型式			
1654 126-04	陶器 甕	P21	包含層	口径10.9 高さ5.0	1/3層部 3/12	外：ロクロナダ 内：ロクロナダ	やや 粗 にふい梗	常滑製品 常滑製品			
1655 122-01	陶器	J14	包含層	口径15.7 高さ5.0	1/3層部 3/12	外：ロクロナダ 内：ロクロナダ	やや 粗 にふい梗	常滑製品 常滑製品			
1656 110-09	青磁 甕	—	包含層	—	1/3層部 1/12	外：ロクロナダ、印刷、施釉 内：ロクロナダ、印刷、施釉	やや 良 灰白	常滑製品 11型式			
1657 161-04	青磁 甕	P49	包含層	口径16.0 高さ5.0	1/3層部 1/12	外：ロクロナダ、印刷、施釉 内：ロクロナダ、印刷、施釉	密 良 灰白				
1658 161-03	青磁 甕	P42	包含層	口径16.0 高さ5.0	1/3層部 1/12	外：ロクロナダ、印刷、施釉 内：ロクロナダ、印刷、施釉	密 良 灰白				
1659 125-04	青磁 甕	N22	包含層	—	1/3層部 1/12	外：ロクロナダ、印刷、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白				
1660 163-07	青磁 甕	S40	包含層	口径13.1 高さ5.0	1/3層部 1/12	外：ロクロナダ、印刷、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白				
1661 163-06	青磁 甕	S40	包含層	口径12.4 高さ5.0	1/3層部 3/12	外：ロクロナダ、印刷、施釉 内：ロクロナダ、施釉	密 良 灰白				

第51表 出土遺物観察表④

報告番号	実測番号	器種等	小地区	遺構名	法量 (cm) 重量 (g)	残存度	調整・技法などの特徴	出土	備考	色調	特記事項
1662	163-05	青磁 例	Q33 Q34	包含層 下層部	口径12.6	D縁部 2/12	外: ロクロナヂ、印刷、施釉 内: ロクロナヂ、印刷、施釉	術 良	灰白		
1663	117-08	青磁 例	78	包含層	—	D縁部 1/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、印刷、施釉	術 良	灰白		
1664	110-07	青磁 例	表土 新作土	口径11.8	D縁部 2/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、印刷、施釉	密 良	灰白			
1665	128-06	青磁 例	R24	包含層	—	D縁部 1/12	外: ロクロナヂ、印刷、施釉 内: ロクロナヂ、印刷、施釉	密 良	明緑灰		
1666	113-03	青磁 例	96	包含層	—	D縁部 1/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、印刷、施釉	密 良	灰白		
1667	115-03	青磁 例	17	包含層	口径6.0	D縁部 2/12	外: ロクロナヂ、印刷、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	密 良	村ア黄		
1668	115-04	青磁 例	16	包含層	—	D縁部 1/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、印刷、施釉	密 良	村ア黄		
1669	115-05	青磁 例	67	包含層	底径5.5	D底部 12/12	外: ロクロナヂ、ロクロケズリ、施釉 内: ロクロナヂ、印刷、施釉	術 良	明緑灰		
1670	161-02	青磁 例	542	包含層	底径5.4	D底部 12/12	外: ロクロナヂ、削出高台、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	術 良	灰		
1671	161-01	青磁 例	P43	包含層	底径5.0	D底部 12/12	外: ロクロナヂ、削出高台、印刷、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	密 良	灰白		
1672	161-05	青磁 例	Q48	包含層	底径5.0	D底部 9/12	外: ロクロナヂ、ロクロケズリ、施釉 内: ロクロナヂ、印刷、施釉	密 良	灰白		
1673	161-06	青磁 例	Q48	包含層	底径5.5	D底部 3/12	外: ロクロナヂ、ロクロケズリ、施釉 内: ロクロナヂ、印刷、施釉	密 良	灰		
1674	128-08	白磁 例	025	包含層	—	D縁部 1/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	術 良	灰白		
1675	125-05	白磁 例	M19	包含層	—	D縁部 1/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	術 良	灰白		
1676	121-07	白磁 例	19	包含層	—	D縁部 1/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	術 良	灰白		
1677	121-05	白磁 例	J9	包含層	—	D縁部 1/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	術 良	灰白		
1678	110-06	白磁 例	表土 一柄	口径14.1	D縁部 1/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	術 良	灰白			
1679	129-04	白磁 例	R24	包含層	底径8.0	D底部 2/12	外: ロクロナヂ、削出高台、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	やや 良	灰白		
1680	111-03	白磁 例	包含層 一柄	底径7.0 一柄	D底部 9/12	外: ロクロナヂ、削出高台、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	やや 良	灰白			
1681	115-02	白磁 端反瓦	J6	包含層	底径3.0 器高6.3	D底部 3/12	外: ロクロナヂ、ロクロケズリ、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	密 良	淡黄		
1682	111-06	白磁 端反瓦	64	包含層	口径8.8	D縁部 2/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	やや 良	灰白		
1683	111-05	白磁 端反瓦	包含層	—	D縁部 1/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	密 良	灰白			
1684	121-09	染付 桺	110	包含層	口径12.6	D縁部 4/12	外: ロクロナヂ、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	術 良	白		
1685	341-02	染付 桺	T40	包含層 雨垂	—	D縁部 —	外: ロクロナヂ、削出高台、施釉 内: ロクロナヂ、施釉	術 良	灰白		
1686	127-04	土製品 輪羽口	R19	包含層	残存7.0	—	外: ナデ	やや 粗	灰 白		
1687	129-06	土製品 輪羽口	J10	包含層	径9.5	—	外: ナデ	粗 並	黃灰 にふく黄櫻		
1688	116-02	土製品 瓦	17	包含層	残存長8.0 厚2.3	—	外: ケズリ 内: 布目	やや 密	灰 白		
1689	119-01	土製品 瓦	18	包含層	残存長9.6 厚2.5	—	外: ナデ 内: 布目	やや 密	灰 白		
1690	302-02	木製品 板	016	包含層	残存長5.6	—	—	—	—	—	—
1691	302-01	木製品 板	111	包含層	残存長5.5 厚2.5	—	—	—	—	—	—
1692	079-02	鉄製品	89	包含層 No.1	最大高5.5 最大幅1.5	—	—	—	—	—	—
1693	079-03	鉄製品	K9	包含層 No.2	最大高5.15 最大幅1.5	—	—	—	—	—	—
1694	385-01	鉄製品 小刀	Q26	包含層	残存長7.2	—	—	—	—	—	—
1695	385-05	鉄製品 小刀	P19	包含層	残存長4.8	—	—	—	—	—	—
1696	385-05	鉄製品 小刀	Q23	包含層	残存長3.8	—	—	—	—	—	—
1697	385-07	鉄製品 小刀	14	包含層	残存長4.2	—	—	—	—	—	—
1698	385-04	鉄製品 小刀	M19	包含層	残存長4.0	—	—	—	—	—	—
1699	385-02	鉄製品 小刀	K12	包含層	残存長8.1	—	—	—	—	—	—
1700	385-03	鉄製品 板	N20	包含層	残存長5.6	—	—	—	—	—	—
1701	385-06	鉄製品 板	Q23	包含層	残存長2.9	—	—	—	—	—	—
1702	385-14	鉄 製品	Q26	包含層	—	—	—	—	—	—	—
1703	385-09	鉄製品 板	K14	包含層	残存長6.8	—	—	—	—	—	—
1704	385-10	鉄製品 板	R23	包含層	残存長5.5	—	—	—	—	—	—
1705	385-13	鉄製品 板	P11	柱頭	残存長13.1	—	—	—	—	—	—
1706	385-11	鉄製品 板	SB175	—	残存長4.7	—	—	—	—	—	—
1707	385-12	鉄製品 板	SE39	—	残存長3.8	—	—	—	—	—	—

第52表 出土遺物觀察表

IV 自然科学分析

1 志知南浦遺跡から出土した動物遺存体

丸山真史（京都大学大学院人間・環境学研究科）

松井章（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター）

（1）概要

志知南浦遺跡は、伊勢湾に注ぎ込む員弁川の河口を直線距離で約8km廻った南岸に位置する、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。当遺跡は員弁川が運ぶ土砂の堆積によって形成された沖積地に立地しており、集落の敷地を区画する溝の埋土は湿地環境にあり、動物遺存体が保存されたと考えられる。低湿地遺跡から出土する動物遺存体は、ビビアナイト（藍鉄鉱）が析出して骨の表面が粗めていることが多いが、本資料はビビアナイトの析出がほとんど無く、保存状態に恵まれたため、解体や加工の痕跡を観察することが可能である。完形品あるいは骨端部が良好に保存されている個体は、最大長、骨端部最大幅などの計測を行い、本文中に記載する（註）。

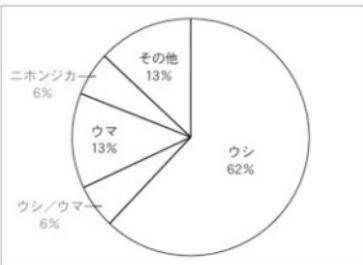
動物遺存体が出土した溝の年代は、出土する土師器や山茶碗などから推定でき、それぞれ造構の時期はSE202、SE269、SE280が中世Ⅰ期、SD35、SD62、SE78、SD312が中世Ⅲ期、SD

22、SD31、SD36、SE38、SD40、SD63が中世Ⅳ期とされる（第53表）。出土した動物遺存体は、破片点数にして184点以上を数え、そのうち182点の種類や部位が同定できた。その内訳は、貝類が142点で全体の約8割弱を占め、ついで哺乳類30点、爬虫類9点、鳥類1点と続く。今回、同定にあたった貝類と爬虫類は出土した資料の一部であるため、数量的な比較はできないが、同定できた資料のみ数量を記載し、それ以外は種類と出土した造構について記載する。哺乳類は、家畜のウシとウマが約8割を占め、ニホンジカ、イヌ、イタチ、ネズミ科などが少量ずつ出土する（第137図）。

手元に搬入された動物遺存体のうち、アカニシ8点、ニホンジカの枝角1点、ウシの四肢骨3点に解体あるいは加工の痕跡が見られる。また、ハマグリ9点とアカニシ3点の殻の内面には黒色の炭化物が付着している。

時期区分	年 代	遺 構
中世Ⅰ期	12世紀前半 ～13世紀中葉	SE202・SE269・SE280
中世Ⅱ期	13世紀中葉 ～14世紀第3四半期	—
中世Ⅲ期	14世紀第4四半期 ～15世紀第3四半期	SD35・SD62・SE78・ SD312
中世Ⅳ期	15世紀第4四半期 ～17世紀第3四半期	SD22・SD31・SD36・ SE38・SD40・SD63

第53表 遺構の年代



（2）種類別の特徴

A 貝類 タニシ科

SD63から2点が出土している。本科にはナガタニシ、オオタニシ、マルタニシが含まれるが、オオ

タニシまたはマルタニシに近似する。オオタニシ、マルタニシは、いずれも淡水域に生息する。

カワニナ科

S D63から1点のみ出土している。本科には、カワニナやチリメンカワニナなどが含まれ、主として流れのある淡水域に生息する。

アカニシ

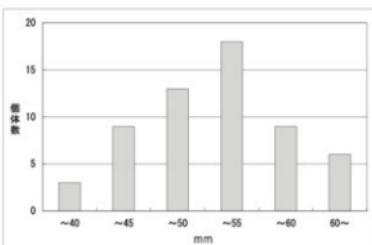
S D62から11点(866・867)が出土しており、そのうち8点はほぼ完存し、小さくても殻高85.0mm以上の個体ばかりである。この8点は殻口の上方左側に穴が穿たれ(本章第3項参照)、そのうち3点は殻口内面に黒色の炭化物が付着している。これらのはかS D31、S D36、S D40、S E38、S E202からも出土している。本種は、水深30mより浅い砂泥底に生息する。三重県内では赤堀城でも出土している(本田1986)。

イシガイ科

S D263から1点が出土している。主として、淡水域の砂礫底や小砂礫底に生息する。

ハマグリ

S D63から左殻74点、右殻56点、計130点(1113)が出土している。これらのうち9点は、殻の内面に炭化した黒色物が付着している。計測できた58点の殻高は、最小で34.2mm、最大で65.7mmを測り、平均が50.7mmとなり50.0mmから55.0mmに集中する(第138図)。これらの他にS D22、S D31、S D36、S E280からも出土している。本種は潮間帯下部から水深20mの内湾の砂泥底に生息する。



第138図 ハマグリ殻高分布

B 爬虫類

スッポン

S D62から、背甲の肋骨板1点(右1)が出土している。S D63から、背甲の肋骨板9点(左1右8)(1105・1106・1107・1108・1109)と椎骨板3点、腹甲板3点が出土している。肋骨板のうち3点は同一個体であり、第6から第8肋骨板が結合している。このほかに肋骨板3点と椎骨板3点が同一個体で、第1から第3肋骨板と椎骨板が結合している。これらの大きさは、背甲板最大長が約20cmの個体と比較して、やや大きな個体から一回り大きな個体である。S D62から、細片を含む腹甲板あるいは背甲板も出土している。

ヌマガメ科

日本に在来する淡水産の種類であるイシガメもしくはクサガメである。S D63から、腹甲板が11点(1110・1111・1112)出土している。これらは同一個体で、喉甲板と上腹骨板と内腹骨板とが結合している。このほかの2点(左1右1)は下腹骨板である。S D31、S D40、S D62、N15Pit3(柱癩)からも細片を含む腹甲板あるいは背甲板が出土している。

C 鳥類

サギ科

S D62から、棲骨が1点(左)(865)出土している。本科には、シラサギ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギなどが含まれるが、大きさからアオサギもしくはダイサギと考えられる。遠位端最大幅(B d)は12.3mmを測る。

D 哺乳類

イヌ

S D36から、上腕骨が1点(左)(1043)出土している。遠位端最大幅(B d)は28.2mmを測り、長谷部言人(1952)の分類では中小級に相当し、中近世の遺跡から一般的に出土する大きさである。

イタチ

S E78から、大腿骨1点(左)(1305)が出土している。最大長(G L)が50.8mm、近位端最大幅(B p)が11.1mm、遠位端最大幅(B d)が9.5mmを測る。

ウマ

S D36から肩甲骨1点（右）（1042）、上顎臼歯が顎骨から遊離した状態で3点（左2右1）（1040・1041）、計4点が出土している。肩甲骨の最大関節突起幅（G L P）は80.5mmを測る。臼歯の左1点と右1点（1040）は咬耗が開始する前の若い個体である。

ウシ

本種は、哺乳類の中で最も多く出土した種類である。S D22から橈骨と尺骨が融合した状態で1点（右）（969）出土している。橈骨の内側は鋸によつて切り込みが入れられ、その後に部材が割り取られている（第3項参照）。S D35から角芯1点（左）（796）が出土している。前頭骨の角突起の基部付近で頭蓋骨から切り離され、角芯の中央部には切れ込みが入れられている（第3項参照）。S D36から、指骨4点（基節骨1、中節骨2、末節骨1）（1039）、手根骨2点（左右不明）（1038）、下顎臼歯が顎骨から遊離した状態で1点（左右不明）（1036）、上腕骨1点（右）（1037）、中手骨1点（右）、計9点が出土している。これらのうち、中手骨、基節骨、中節骨1点、末節骨は同一個体である（第55表）。手根骨2点も同一個体の可能性がある。上腕骨の遠位端前位部には、切傷が見られる（第3項参照）。S D62から指骨3点（基節骨2、中節骨1）（861）、上腕骨1点（左）（862）、橈骨と尺骨が融合した状態で1点（左）（859）、中手骨1点（左）（863）、脛骨1点（左）（860）、足根骨1点（左）、計8点が出土している。基節骨1点と中節骨は同一個体である。橈骨はS D22出土の橈骨と同様の加工痕が見られ、脛骨にも鋸による切り込みが見られる（第3項参照）。

S D22出土の橈骨は最大長（G L）279.6mmを測

り、体高120cmから125cmと推定される。S D62出土の橈骨は最大長（G L）276.9mm、上腕骨は遠位端最大幅（B d）84.8mmを測り、それぞれ体高115cmから120cm、120cmから125cmと推定される。

ウシ/ウマ

S D35から下顎骨と思われる破片1点（左右不明）（797）が出土している。S D36から部位不明の破片が1点出土しており、大きさからウシあるいはウマと考えられる。

イノシシ/ブタ？

上腕骨が1点（左）（798）出土している。イノシシ（ブタ）に近似するが、骨幹部のみが出土していることから、ニホンジカとの区別も困難である。『古事記』や『日本書紀』には「猪甘津」、「猪削野」といった猪の副育を表す記載がある。『続日本紀』に聖武天皇の天平4年7月「丁未詔 和賀畿内百姓私畜猪四十頭 放於山野 令遂性命」とあり、ブタを飼っていた可能性の指摘がある（加茂1976、鶴方1982）。中世にもブタが存在した可能性が考えられるが、本資料でイノシシとブタを区別することは困難である。

ニホンジカ

S D62から大腿骨1点（右）（864）が出土している。S E269から枝角1点（左）（636）が出土している。枝角は、第2分枝部が切断され、角幹には加工痕が見られる（第3項参照）。本資料は、頭蓋骨から自然に脱落した落角である。

ネズミ科

S E78から大腿骨1点（右）（1306）が出土している。最大長が38.2mm、最大近位端幅が8.4mm、最大遠位端幅7.4mmを測り、大型のクマネズミ属の可能性がある。

（3）加工痕および解体痕

S D62から出土したアカニシ8点（866・867）は、殻口の上部左側に穴が穿たれており、殻口外唇部も破損している（写真6～8）。殻口外唇部には、発掘後の破損である可能性があるものも含まれるが、破損の状況が類似している。中近世遺跡から出土する穴を穿たれたアカニシについて、穴に網を通してタコ巣として利用すること、バーブル腺を原料

とする染料（貝紫）に利用すること、棒をさして器として利用すること、身を取り出すための穴などの報告がある。池田研は、大阪城跡から出土したアカニシの破損状態を分類し、文献史料に記される料理法と考えあわせて、殻口外唇部の破損は蓋を取るために、穿孔は身を取り出すために貝柱を切断する時に生じた痕跡であることを指摘している（池田2006）。

同様の穿孔は、鎌倉時代の長谷小路周辺遺跡（宗臺・宗臺編1994）、室町時代後期（戦国期）の河股城跡（山崎2002）から出土したアカニシにも見られる。

S D36から出土したウシの上腕骨（1037）の遠位端内側に、少なくとも23箇所の切傷が見られる（写真5左下）。この付近は上腕骨と橈・尺骨とを結ぶ韌帯が付着する部分である。韌帯を断ち切ることで効率的に上腕骨と橈・尺骨を切り離した解体痕と考えられる。あるいは筋肉と骨を結ぶ腱が切断されたのかもしれない。韌帯や腱の切断は、動物解体の経験に基づく解剖学的知識を有する人々によって解体されたことを示唆する。この上腕骨は骨幹部が螺旋状に破損しており、解体して筋肉を取り外してから間もない生骨の状態で打削られたと考えられる。当地あるいは周辺において解体作業が行われたのであろう。神奈川県鎌倉市の藏屋敷遺跡では、鎌倉時代の二ホンジカの上腕骨や大腿骨が骨端部直下あるいは骨幹部中央で打削られており、骨髓の利用が指摘されている（金子1984）。兵庫県尼崎市の大物遺跡では、鎌倉時代、室町時代の二ホンジカの脛骨が近位端から骨幹部に向かって内部の海綿質を抉った痕跡があり、これも骨髓の利用を示す（丸山・藤澤・松井2005）。中世の骨髓利用に関する知見は少ないが、本資料も骨髓を摘出するために打削ったと考えて良いだろう。

S E269から出土した二ホンジカの枝角（636）は落角であり、第二分枝が鋸によって切断されている。ほかに研磨されたと思われる痕跡が、角座上部から角幹の先端部付近までの角幹前面、角幹後面、第一分枝部の3箇所に見られる。研磨の様態を知るために顕微鏡で観察したところ、①角の長軸方向と垂直に、間隔が粗く深い溝、②同じく角の長軸方向と垂直に、間隔が密で浅い無数の溝が見られる。角幹後位面には①、②のほか、③長軸方向に、間隔が密で、直線的な浅い溝が無数に見られる。それぞれの切り合い関係から①、②、③の順番で作業が行われており、②と③は同じ器種の工具が使用されたと推測される。①については、部分的には鑿のような工具を用いた粗削りの痕跡という可能性もある。中世遺跡から出土する二ホンジカの枝角は、分枝部や角

幹を目的に応じた大きさに鋸で切断してから、製品に加工するのが一般的である。このような加工品は他に類例を見ず機能や用途は分からない。また、上述の①、②、③に見る痕跡が、加工によるのか使用による結果なのかは明らかではない。

S D35から出土したウシの角芯（796）は、中央部外側に長軸と垂直方向に刃物による切り込みが見られる。切り込まれた切断面は、破損や摩滅しており整っておらず、鋸による切り込みか、鉈や斧様の道具による切り込みか、明らかでない。

S D22とS D62から出土したウシの橈骨（969・859）は、骨幹中央から近位の内側が、正中方向とは垂直に鋸によって切り込みが連続的に入れられ、その後に素材を割り取っている（写真5上2点）。S D62出土の橈骨から挽削られた部材は4個で、U字形の断面を呈するが、部材自体は出土していない。S D22出土の橈骨から挽き削られた部材は6個で、切り込みが浅くU字形を呈せず、半円形の断面を呈する。やはりこの部材も出土していないが、挽削った部材の内面を削り抜いて、U字形に成形されたと推測される。これらの橈骨は骨角器を製作するために、必要な部分だけ切り出した後、不要となった廃材である。挽削られた破損面の観察によって、U字形素材の挽削り工程の復元を試みたが、現段階では明確な手順を示すには至らない。同様の素材の挽削りは、宮城県仙台市の今泉城跡（高橋1983）、東京都葛飾区の葛西城址（金子1975）、神奈川県鎌倉市の長谷小路周辺遺跡（宗臺・宗臺編1994）や由比ヶ浜4-6-9地点（斎木編1994）などから出土したウシ、ウマの橈骨、脛骨、中手骨、中足骨などに見られる。おそらく、同様の技法によってU字形素材が連続して挽削られたと考えられる。

S D62から出土したウシの脛骨（860）遠位部にも、鋸による切り込みが見られる（写真5右）。長谷小路周辺遺跡では、ウシの脛骨からもU字形の部材が挽削られている（宗臺・宗臺編1994）。大阪市住友銅吹所跡では、近世のウシ、ウマの脛骨の近位端と遠位端が鋸で切断され、骨幹部だけを分割して竿秤の棹、櫛払い、簪を製作している（久保1998）。本資料では、切り込みが1箇所だけで上記のどちらとも区別することができない。

(4) 時期による変遷

中世Ⅰ期とⅡ期の遺構は少なく、動物遺存体の出土も低調である。中世Ⅰ期ではSE269から加工痕の見られる鹿角、SE202からアカニシ、SE280からハマグリが出土しているのみである(第140図)。SE269のすぐ南側に複数棟の建物跡が検出されており、鹿角の加工と関連する建物と推測される。中世Ⅱ期は動物遺存体の出土がない。

中世Ⅲ期、Ⅳ期になると、溝や建物、井戸などの遺構が増加し、動物遺存体も種類、量ともに増加する。中世Ⅲ期は、動物遺存体の出土する遺構が調査区の中央西寄りに集中する(第141図)。SD35、SD62、SE78から廃材を含む動物骨が出土している。ほかに殻が穿孔されたアカニシも出土している。SD35とSD62で区画される敷地に建物跡が検出されており、骨角器製作と関連する建物と推測される。

中世Ⅳ期は、Ⅲ期から継続するように、ほぼ同じ位置に動物遺存体が出土した遺構が集中する。SD

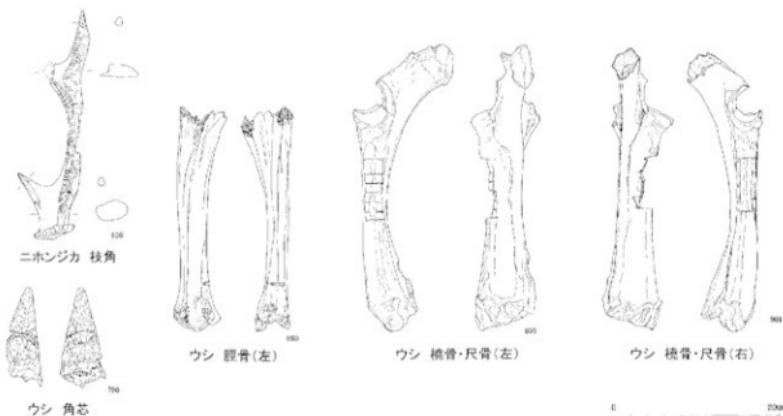
22、SD31、SD36、SD63、SD263、SE38から解体痕や廃材を含む動物骨が出土している(第142図)。SD63からは、哺乳類の出土がなく、ハマグリ、タニシ科、カワニナ科、イシガイ科といった貝類とスッポン、カメ類といった爬虫類に限定される。SD36、SD40、SD63などで区画される敷地と、SD22、SD31などで区画される敷地には、建物跡が検出されており、これらの建物も骨角器製作との関連が想定される。

中世Ⅰ、Ⅱ期からⅢ、Ⅳ期にかけて、遺構の增加とともに動物遺存体も増している。Ⅰ期の鹿角が加工された骨角器なのか、使用された痕跡であるのかも判断できないため、当該期の骨角器の製作については保留としたい。しかし、Ⅲ期からⅣ期には、骨角器の製作に携わる職能民が当地に定住していたと考えられる。

(5) 志知南浦遺跡における中世の動物利用

鎌倉時代(中世Ⅰ期・Ⅱ期)には、動物遺存体の出土は少なく、井戸から鹿角とハマグリが出土して

いるだけである。鹿角は加工あるいは使用痕が見られるが、機能や用途は明らかでない。室町時代



第139図 動物遺存体実測図(1:6)

中世Ⅰ期

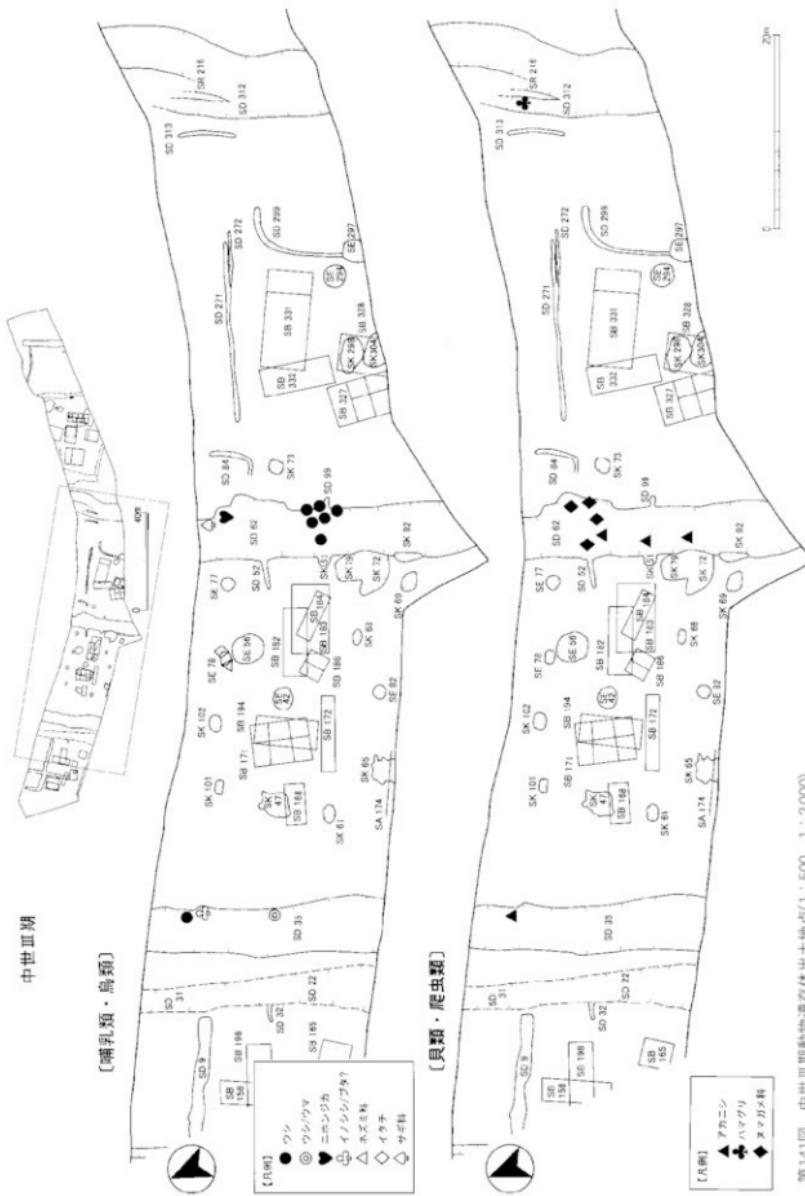
[哺乳類]



第140図 中世Ⅰ期動物遺存体出土地点(1:500、1:2,000)

中世中期

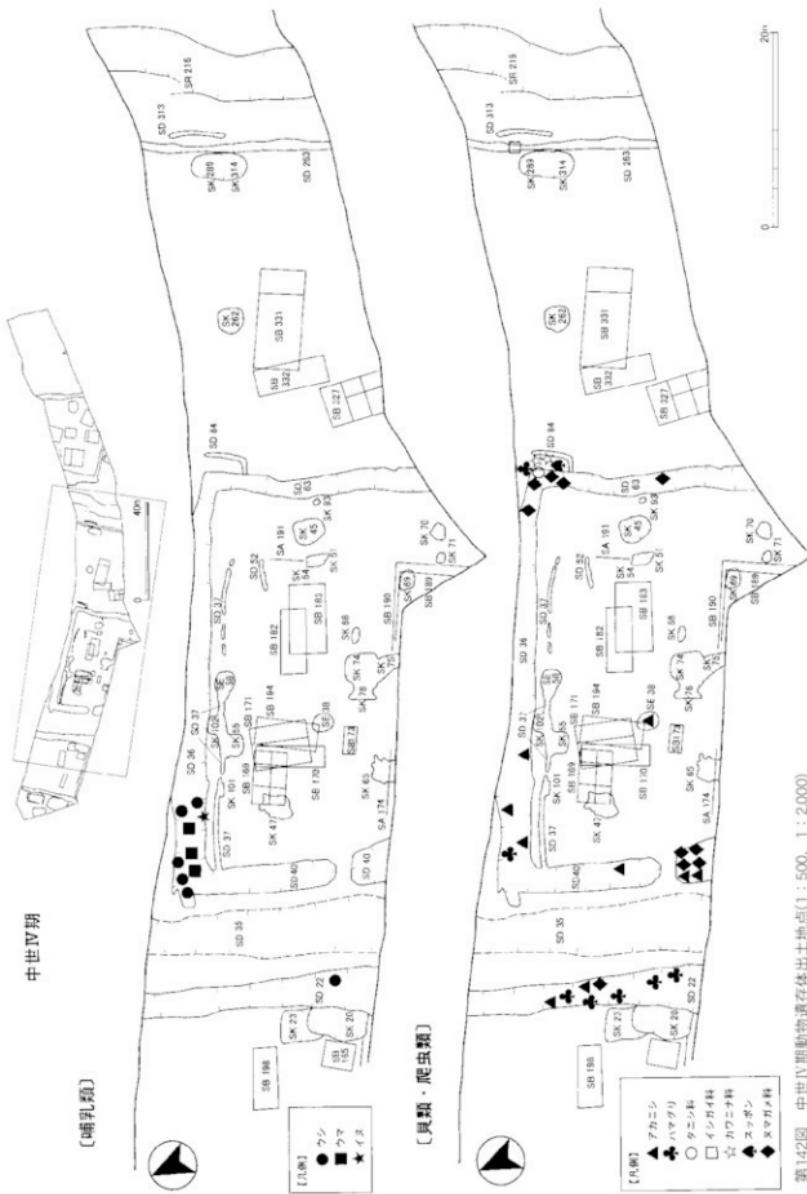
[哺乳類・鳥類]



第141図 中世Ⅲ期動物遺存体出土地点(1 : 500、1 : 2,000)

中世纪

〔哺乳類〕



第142図 中世IV期動物遺存体出土地点(1:500、1:2,000)

(中世Ⅲ期・Ⅳ期)になると、調査区北西部に溝で区画される屋敷地内に建物が築かれ、井戸が掘られる。

区画溝からタニシ科、カワニナ科、イシガイ科といった淡水産の貝類が出土しており、員弁川、あるいはこの溝に生息していたと考えられる。溝に生息していたのであれば、溝には一定の水流があったと推測される。これら淡水産貝類が食料となっていたかは、出土量が少なく分からず。ほぼ完存しているアカニシは、殻口左上部や殻口外唇部が打割られており、この破損にはいくつかの要因が考えられるが、ともかく身は食用となったであろう。ハマグリも江戸時代の『東海道中膝栗毛』の桑名の焼きハマグリのように、この地方で著名である。スッポンやカメもまた員弁川や溝、付近の沼沢地などに生息していたのである。これらに解体や受熱の痕跡は見られないが、食用となった可能性が高い。イタチやネズミは建物に住みつき、人間によって駆除され、廃絶した井戸に投棄されたのだろう。サギ、イノシシ(ブタ)、ニホンジカが食料になったと考えられるほか、イヌも狩猟犬や番犬としてだけでなく、食料にもなっていた可能性がある。中近世の社会に肉食が深く根を下ろしていたことは、近年の文献史学でも積極的に論じられ(塚本1983、原田1994)、次いで筆者らが発掘資料をもとに実証をしてきた(松井1994、丸山・藤澤・松井2005)。

ウシの上腕骨に見られる解体痕は、肉をとるため、骨に筋肉が付着する韌帯もしくは腱を切断し、経験上の解剖学的知識を有する者が解体に従事したと考えられる。また、骨幹部が螺旋状に破損していることから、解体の際か、間もなく打割ったと考えられ、当地あるいは周辺で解体作業が行われたのである。また、ウマの臼歯や肩甲骨といった骨角器の素材にならない部位や、同一個体のウシの中手骨と指骨が出土していることは、付近で牛馬の解体が行われた可能性を高める。挽削られたウシの橈骨は、骨角器の製作にともなって生じる廢材であり、溝や井戸に廃棄されていることから、骨角器の部材の挽削りは当地で行われたと考えて良いだろう。また、切り込みのあるウシの角芯が出土しており、これも骨角器の素材と考えられる。福島県川俣町の河販城跡(高橋2002)、大阪府堺市の堺環濠都市遺跡(松井

1997)、広島県尾道市の尾道遺跡(尾道市教育委員会1978)などの遺跡から、浅い切り込みのある角芯が出土している。これらは角芯を切り開いて角鞘を抜き出した痕跡であり、角鞘は熱を加えながら削つて平らにすると、鼈甲に似た素材を得ることができ、『和漢三才図鑑』には「偽鼈甲」と記されている(松井1997)。住友銅吹所跡から出土した中世末から近世初期の牛馬骨の報告で久保(1998)が指摘したように、牛馬の解体作業と骨角器の素材の抜き出し、素材から完成品の製作までが当該地で行われたのか、それとも骨角器の素材となる部分だけを搬入したのか、骨角器製作の中間作業だけを行っていたのかは、骨角器製作の分業化の歴史を知る上で重要である。当遺跡では、製品そのものや未製品が出土していないため、素材の切り出しと製品加工が分業化していた可能性がある。しかしながら、ここでは資料数が少ないとから、その可能性を指摘するにとどまる。

中世Ⅲ期からⅣ期に継続して、建物を取り囲む溝と敷地内の井戸に加工された動物骨の出土が集中することは、骨角器製作に携わる職能民が世代を重ねて、特定の場所を工房として利用していたと考えられる。当地には、骨角器の製作に携わる職能民が、室町時代には定住していたと言える。鎌倉の中世遺跡などと同様に、牛馬骨からU字形の素材を挽削る手法が見られ、室町時代には東日本で牛馬骨を利用した骨角器製作が普及していたのだろう。U字形の素材の用途は、未だ詳らかではないが、甲府の伝統工芸である印伝革の伝世品として展示されている袋物の縫具に、U字型の部品が使われている。このことから、中近世に盛んに用いられた袋物の口を締める部品に加工された可能性を指摘したい。もちろん、この部材の用途を袋物の縫合具だけに限定する必要はなく、武具や日用品のさまざまな部品として使われた可能性もある。中世の骨角器は鹿の枝角や中手骨、中足骨を素材とするのが一般的であり(丸山・松井2006)、特に、近畿地方では牛馬骨を多用した骨角器製作は近世初期まで見られない(久保1998)。近畿地方の中世遺跡では、牛馬骨が溝や土坑にまとめて投棄されている例が珍しくなく、近世になると身分制強化の一環として駄牛馬処理集団の集約化が

國られ、從来、商品価値がなかった骨などの資源が斃牛馬処理の活発化により、まとめて投棄することが少なくなると考えられている（松井2004）。中世における牛馬骨の利用は、関東地方から東海地方までの東日本の特徴であることが指摘できる。

中世には、武具や馬具に牛、馬、鹿の皮革や骨角が利用され、特に戦乱の時代となった室町時代後半には皮革、骨角器の生産が盛んになっていたと推測される。当遺跡一帯には志知城や島田城などの山城が築かれており、武具や馬具の生産が推し進められていたかもしれない。皮革は原皮を鞣してはじめて製品となり、鞣しには大量の水を使用する。当地は員弁川河畔に位置し、水を十分に利用できる環境にある。解体痕が見られる資料をはじめ動物骨全体の出土量が少ないが、武具や馬具の素材となる皮革製作が行われていた可能性がある。大阪府貝塚市の東遺跡や兵庫県芦屋市の若宮遺跡など河川の後背湿地に位置する中世遺跡でも、土坑や溝から牛馬骨が出土し、斃牛馬処理や皮革製作が行われた遺跡と考えられている（松井2004）。鎌倉では長谷小路周辺遺跡や由比ヶ浜南遺跡といった浜地において、皮革生産の可能性が指摘されている（宗臺・宗臺1994、西本・鞆澤ほか2001）。

ここで注目されるのは、鎌倉の長谷小路周辺遺跡の動物利用、特に加工痕のある動物遺存体の様相が類似していることである。長谷小路周辺遺跡では、

動物の解体や骨角器素材の切り出しと、骨角器の製作とが分業化していたこと、皮革を製作していた可能性が指摘されている（宗臺・宗臺1994）。当遺跡における動物遺存体の出土量は乏しいが、骨角器製作の分業化や皮革製作の可能性を指摘しておく。もう一点注目されるのは、当遺跡が員弁川と遺跡南方の丘陵北側に推定される、八風街道という河川を利用する海路と陸路の交差地点に所在し、他所から運ばれ解体された骨を1次加工する職能民が居住し、尾張などの消費地へ舟で運搬するような性格を有する可能性が指摘されていることである（服部2005）。前述のように、解体は骨角器の素材として使用しない部位などが含まれることから、遺跡近辺で行われたと考えられる。しかし、交通の要所であることは、骨角器の生産をめぐり当遺跡の果たした役割を考える上で重要であろう。

骨角器の製作は行わないが、斃牛馬処理、骨角器素材の切り出し、皮革製作を担うという、東日本の牛馬資源を利用する集団形態の一つとして位置づけられるのではないだろうか。但し、鎌倉の中世遺跡とは異なり集団の規模は小さかったと考えられる。当地では、牛馬骨の出土量が少ないとことや、一定の建物の周囲を巡る区画溝から出土していることから、集落単位で操業していたとは考えられない。建物1棟で操業されるだけの規模で、骨の加工に従事した職能民もそれほど多くなかったであろう。

（6）まとめ

動物遺存体の出土は中世Ⅰ期、Ⅱ期には低調であるが、Ⅲ期、Ⅳ期になると増加する。Ⅰ期には骨角器製作が行われていたかどうか分からないが、Ⅲ期からⅣ期には斃牛馬処理と骨角器素材の挽割りが行われている。中世における牛馬骨の利用は東日本の特徴であると同時に、U字形部材の挽割り技法は東日本で普及していたと考えられ、当遺跡に居住する人々は、皮革の製作も行っていた可能性が指摘できる。このような生産活動は、溝で区画された敷地で工房が操業されており、調査区内でも中央西寄りに位置する建物に限定されるだろう。当遺跡では、斃牛馬処理、つまり、動物の解体、骨角器素材の切り出し、皮革の製作を担った人々は一定の場所で世代

を重ね、工房を操業したと考えられる。

淡水貝類は食用となったものかは分からぬが、ハマグリやアカニシ、カメ、スッポンなど爬虫類は食料となったのであろう。しかし、海産貝類はこの2種類に限られており、中近世遺跡からしばしば出土するバイ、サザエ、アワビなどは出土していない。出土量は少ないが、サギ類、イノシシ（ブタ）、ニホンジカ、イヌも食用となった可能性があり、中世社会における肉食について時期や地域性についても検討していく必要があるだろう。

中世の動物利用における研究は、鎌倉の各遺跡や草戸千軒町遺跡など、資料の充実した遺跡を中心に論じられてきた。当遺跡における動物遺存体の出土

は、どのような動物を利用したのか明らかにするだけでなく、牛馬素材の利用に見られる地域性や骨角器の製作過程、肉食など、中世における動物資源の利用について知見が得られる。今後、地域的にこう

いった動物資源の利用を解明していくば、日本列島における中世の動物利用をさらに詳しく明らかにすることができるだろう。

【註】

鳥類と哺乳類の計測はDriesch (1976) に、ウシとウマの推定体高は西中川 (1991) による。

【参考文献】

- 鈴方貞亮1982『改定日本古代家畜史』有明書房、pp.451-526
- 池田研2006「大阪城跡（03-1・OKS 99）出土の貝類」『大阪城址Ⅲ』（財）大阪府文化財センター、pp.543-552
- 尾道市教育委員会1978『尾道』尾道市教育委員会
- 加茂儀一1976『日本畜産史』食肉・乳醸篇 法政大学出版、pp.123-124
- 金子浩昌1975『葛西城址Ⅳ・V区濠出土の動物遺体』『青戸・葛西城址調査報告Ⅲ』葛飾区・葛西城址調査会、pp.197-263
- 金子浩昌1984『蔵屋敷遺跡出土の動物遺体』『蔵屋敷遺跡』鎌倉駅舎改築にかかる遺跡調査会、pp.239-251
- 久保和士1998『住友銅次所出土の動物遺体』『住友銅次所跡発掘調査報告』大阪市文化財協会、pp.339-377
- 斎木秀雄編1994『由比ヶ浜4・6・9地点発掘調査報告書』由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団
- 宗臺秀明・宗臺富貴子編1994『長谷小路周辺遺跡由比ヶ浜三丁目二二八・二二九番外（No.二三六）』長谷小路周辺遺跡発掘調査団
- 高橋理1983『今泉城跡出土の動物遺存体』『今泉城跡』仙台市教育委員会、pp.208-210
- 高橋主次2002『II a 区の遺構と遺物』『河股城跡発掘調査報告書』福島県北建設事務所・福島県伊達郡川俣町教育委員会、pp.154
- 塚本学1983『生類をめぐる政治・元禄のフォークロア』平凡社
- 西中川駿編1991『古代遺跡出土骨から見たわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究』平成2年度文部省科学研究費補助金（一般研究B）研究成果報告
- 西本豊弘・鶴澤和宏・太田敦子・姉崎智子・種泉岳二
2001『由比ヶ浜南遺跡出土の動物遺体』『由比ヶ浜南遺跡』第2分冊・分析編 I 由比ヶ浜南遺跡発掘調査団、pp.241-267
- 長谷部言人1952『犬骨』『吉湖貝塚』文化庁、pp.146-150
- 服部芳人2005『桑名市志知南浦遺跡出土の加工骨』『研究紀要』第14号 三重県埋蔵文化財センター、pp.77-80
- 原田信男1994『歴史の中の米と肉』平凡社
- 本田裕助1986『貝類遺体鑑定結果』『赤堀城跡』四日市市教育委員会、pp.79-83
- 松井章1994『草戸千軒町遺跡第36次調査出土の動物遺存体』『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅱ』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所、pp.343-346
- 松井章1997『堺環濠都市遺跡（SKT78地点）出土の動物遺存体』『堺市文化財調査概要報告』第61集 堺市教育委員会、pp.31-38
- 松井章2004『近世初頭における駄牛馬処理システムの変容』『文化の多様性と比較考古学』考古学研究会50周年記念論集 考古学研究会、pp.407-416
- 丸山真史・藤澤珠織・松井章2005『大物遺跡出土の人骨および脊椎動物遺存体について』『尼崎市埋蔵文化財調査年報平成7年度（6）』尼崎市教育委員会、pp.31-59
- 丸山真史・松井章2006『動物資源の利用と変遷』『鎌倉時代の考古学』高志書院、pp.281-292
- 山崎京美2002『河股城跡I・II a 区出土動物遺存体の同定』『河股城跡発掘調査報告書』第4分冊 福島県北建設事務所・福島県伊達郡川俣町教育委員会、pp.1-6
- Angela von den Driesch1976 *A GUIDE TO THE MEASUREMENT OF ANIMAL BONES FROM ARCHAEOLOGICAL SITES* Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Harvard University

軟體動物門 Mollusca
 腹足綱 Gastropoda
 中腹足目 Mesogastropoda
 タニシ科 Viviparidae
 タニシ科の一種 Viviparidae gen. et sp. indet.
 カワニナ科 Pleuroceridae
 カワニナ科の一種 Pleuroceridae gen. et sp. indet.
 新腹足目 Neogastropoda
 アッキガイ科 Muricidae
 アカニシ Rupana venosa
 爪足綱 Bivalvia
 古翼歯目 Palaeoheterodontia
 イシガイ科 Unionidae
 イシガイ科の一種 unionidae gen. et sp. indet.
 マルスダレガイ目 Veneroida
 マルスダレガイ科 Veneridae
 ハマグリ Meretrix luxoria

脊椎動物門 Vertebrata
 爬虫綱 Reptilia
 カメ目 Chelonia
 スッポン科 Trionychidae
 スッポン Trionyx sinensis
 スマガメ科 Bataguridae
 スマガメ科の一種 Bataguridae gen. et sp. indet.

鳥綱 Aves
 コウノトリ目 Ciconiformes
 サギ科 Ardeidae
 サギ科の一種 Ardeidae gen. et sp. indet.
 哺乳綱 Mammalia
 食肉目 Carnivora
 イヌ科 Canidae
 イヌ Canis familiaris
 イタチ科 Mustelidae
 イタチ Mustela itatsi
 奇蹄目 Perissodactyla
 ウマ科 Equidae
 ウマ Equus caballus
 偶蹄目 Artiodactyla
 ウシ科 Bovidae
 ウシ Bos Taurus
 イノシシ科 Suidae
 イノシシ Sus scrofa
 シカ科 Cervidae
 ニホンジカ Cervus nippon
 翔毛目 Rodentia
 ネズミ科 Muridae
 ネズミ科の一種 Muridae gen. et sp. indet.

第54表 種名表

遺構	小分類	下頸骨		肩甲骨		上腕骨		桡骨・尺骨		中手骨		手根骨		大脛骨		胫骨		足根骨		指骨		遊離歯		角		不明		計		
		-	右	-	右	-	左	-	右	-	左	-	右	-	左	-	右	-	左	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD22	ウシ																													1
SD35	イノシシ/ブタ?			1																										1
	ウシ																													1
	ウシ/ウマ	1																												1
SD36	イス			1																										1
	ウシ				1																									9
	ウシ/ウマ																													1
	ウマ	1																												4
SD62	ウシ			1		1		1											1	1	3									8
SE269	ニホンジカ																													1
SE78	ニホンジカ																		1	1									1	
	イタチ																													1
	ネズミ科																													1

第55表 哺乳類の部位別集計表



写真5 ウシ

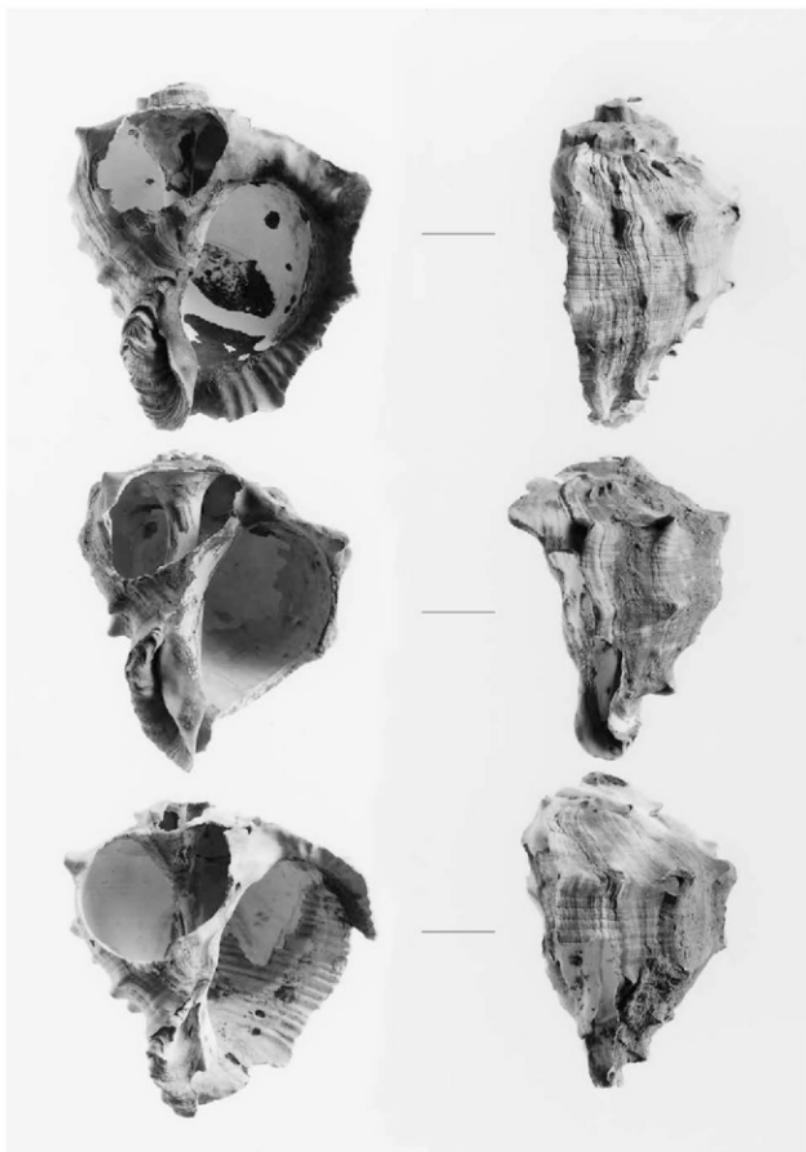


写真6 アカニシ①

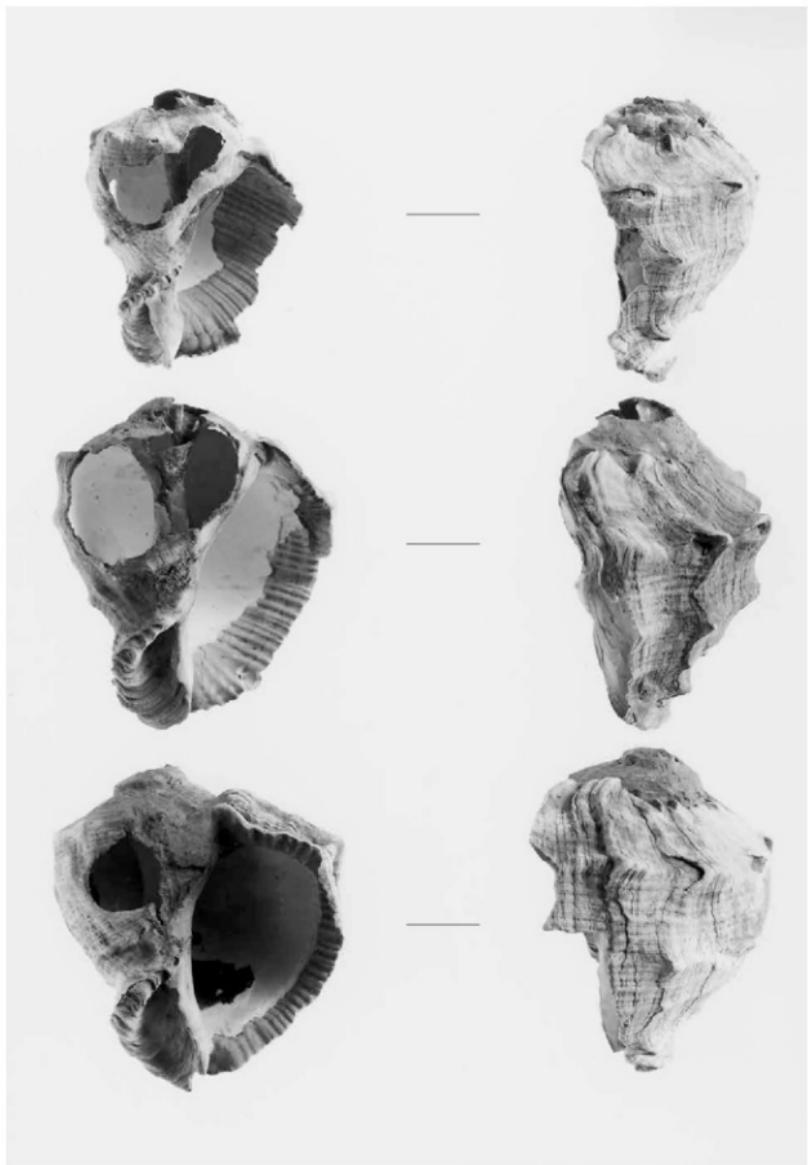


写真7 アカニシ②

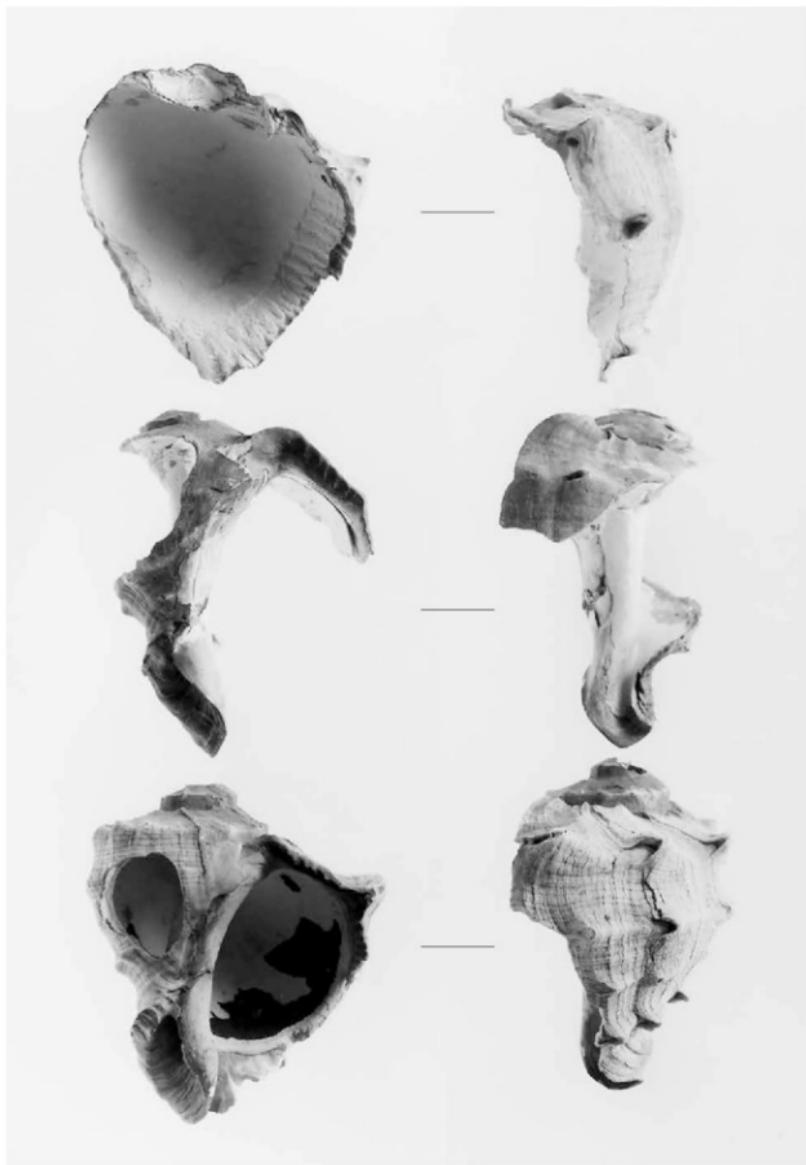


写真8 アカニシ③

2 炭化布片の調査と強化処置

高妻洋成（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター）

(1) はじめに

志知南浦遺跡から出土した炭化布片（881）に対して、肉眼観察、実体顕微鏡観察ならびにフーリエ変換赤外分光分析による調査をおこなった。また、

炭化により脆弱化した布片の強化処置をおこなった。以下にその結果について報告する。

(2) 調査項目

①肉眼観察ならびに実体顕微鏡観察

炭化布片の表裏両面に対して肉眼観察ならびに実体顕微鏡観察をおこない、その形態的な特徴（織密度、撚糸方向）を調査した。実体顕微鏡観察は、ライカ製実体顕微鏡MZ APOを用い、観察倍率8倍から80倍の範囲でおこなった。必要に応じて実体顕微鏡に附属するCCDカメラを用いてデジタル画像を取得した。

②フーリエ変換赤外分光分析

布片はかなり脆弱化しており、かなりの炭化を生じているものと思われる。しかしながら、現状で残

存している部分について赤外分光分析をおこなうことで、絹、獸毛などの動物起源の繊維であるか、あるいは麻などの植物起源の繊維であるかを判定できる可能性もある。炭化布片から脱落している破片をフーリエ変換赤外分光分析に供した。分析は顕微測光法にておこなった。すなわち、供試片を鏡面上でプレスして薄膜とし、顕微鏡下で分析領域を定めて分析をおこなった。分析には島津製作所製赤外顕微鏡ユニット付フーリエ変換赤外分光光度計 SHIMADZU IRPrestige-21/ AIM-8800を用いた。

(3) 調査結果

①観察結果

炭化布片は織り構造を残しているものの、かなり脆くなっていた。片面には、木炭と思われる破片および鉄さびが付着している（写真9a）。付着している木炭の破片はきわめて小さいこと、また一部のサンプリングをした場合、炭化布片そのものを破壊してしまう恐れがあることから、樹種を特定することは不可能であった。

織物組織は、一般に平織、綾織および緯子織の三原組織に大まかに分類することができる。このうち、平織は経糸と緯糸が交互に1本ずつ交錯するよう（2を単位として）織られたものである。これに対し、綾織は3を単位として織られたものであり、緯子織は5ないし7を単位とする。実体顕微鏡による観察から、この布片は平織の構造を有していることが明らかとなつたが、経糸、緯糸の区別は困難であった。織物組織が認められる部分について、織密度を測定したところ、写真9の横方向で約17本/cm、

縦方向で約20本/cmを計測した。

織維を束ねて糸とする際に、撚りをかけることが多いが、この撚りのかけ方には大別して片撚りと諸撚りの2つがある。片撚りは1束の繊維を撚つただけのもので、諸撚りは片撚りの糸を2ないし3本束ね、片撚りとは逆の撚りをかけて1本の糸を作るものである。

実体顕微鏡による観察から、炭化布の糸はS螺旋の撚りがかけられていることがわかるが、片撚りであるか諸撚りであるかは判然とはしなかつた。なお、糸の太さは約0.3から0.4 mmである。

②フーリエ変換赤外分光分析による繊維種の推定

フーリエ変換赤外分光分析により得られた炭化布の吸収スペクトルを第143図に示す。特徴的な吸収としては、756、800、920、1016、1116、1437、1635、3628 cm⁻¹の明瞭な鋭い吸収、3400 cm⁻¹のプロードな吸収、および893、1380、2945、3530、



写真9 志知南浦遺跡出土炭化布片

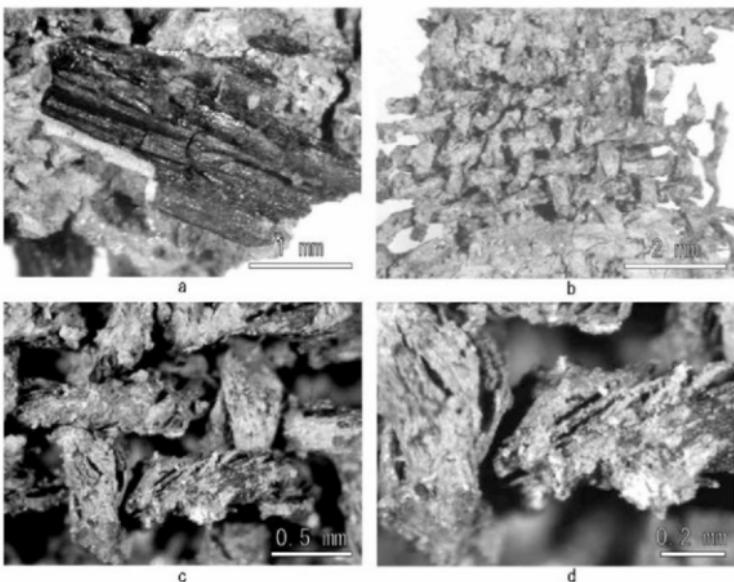


写真10 炭化布片の実体顕微鏡写真

- a : 炭化布片に付着している木炭
- b : 平織の織物組織
- c : 平織の織物組織（拡大）
- d : 糸の撚り方向（S螺旋。片撚りか諸撚りかは不明）

3700 cm^{-1} の弱いショルダー状の吸収が認められる。この吸収スペクトルからは炭化布の繊維の種類を同定することは困難である。

佐藤は出土綿繊維の赤外スペクトルについて、劣化分解の度合いが進行するにしたがってアミドIとアミドIIの吸収帶強度がそれぞれ次第に弱くなること、1000 cm^{-1} 付近の幅広い吸収帶の強度が増大していくことを報告している¹⁰)。今回得られたスペクトルは佐藤が報告している藤ノ木古墳出土綿繊維のうち、石棺内において棺底部にあった太刀に付着し

ていた綿繊維のスペクトルと類似したプロフィールを示している。すなわち、1635 cm^{-1} の吸収がアミドIとアミドIIが弱くなったものであり、1016および1116 cm^{-1} の吸収が1000 cm^{-1} 付近において分子量の小さい分解生成物により増大したものとみることができる。この類似性に着目するならば、炭化布の繊維の種類が綿である可能性を指摘することができよう。しかしながら、この結果をもって綿であるということを即断することは不可能であり、今後、さらに詳細な分析調査をおこなう必要がある。

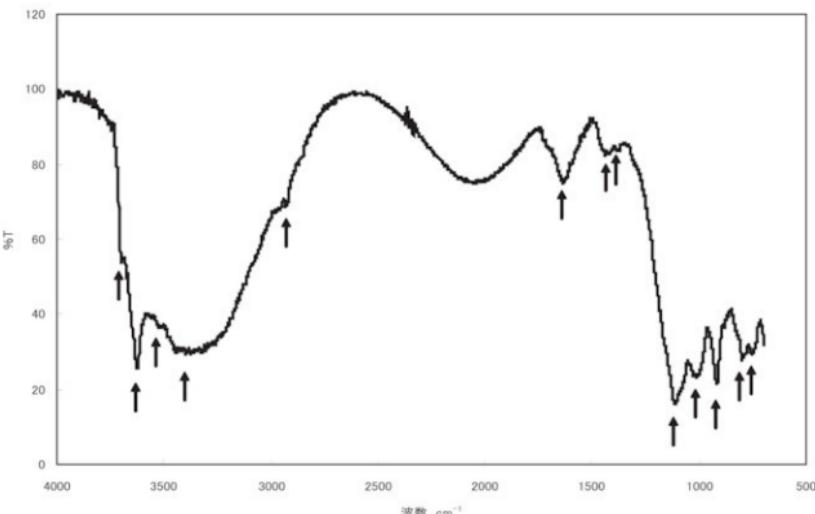
(4) 強化処置

炭化布はきわめて脆弱化しており、移動、調査・研究、および展示などにおいて崩壊が進行する恐れがあったため、強化処置を実施することにした。強化処置には、アセトンにアクリル樹脂（商品名：バラロイドB-72）を溶かして調製した3%w/v濃度溶液を用いた。

炭化布をナイロンシート上に静置し、実体顕微鏡

下で面相筆を用いて静かにアクリル樹脂溶液を浸透させた後、乾燥をおこなった。この処置を5回繰り返した。

この強化処置により、移動の度に生じていた損壊・細片化を防止できる程度に強度を付与することができたが、取り扱いには依然として注意が必要である。



第143図 炭化布の赤外線吸収スペクトル
分析は奈良文化財研究所客員研究員・佐藤昌憲による

(5) まとめ

出土した炭化布の調査から、この布が平織の織物組織を有することが明らかとなった。用いられている糸は太さ約0.3から0.4 mmであり、S螺旋で撚られている。撚り方が片撚りであるのか諸撚りであるのかは不明である。

フーリエ変換赤外分光分析の結果から、この布片の織維の種類は綿である可能性を指摘することがで

きるが、今後さらなる詳細な分析調査をおこなう必要がある。

脆弱化していた炭化布をアクリル樹脂を用いて強化処置し、移動などには耐えうる強度を付与できた。しかしながら、今後とも取り扱いには留意する必要がある。

【註】

佐藤昌憲:「第3章第4節 跛微赤外分光法—出土織維の科学ー」、『綿文化財の世界—伝統文化・技術と保存科学ー』(独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編／監修佐藤昌憲)、角川学芸出版、pp.145-155 (2005年)

3 志知南浦遺跡出土鎔帶の分析

井上美知子 ((財)元興寺文化財研究所)

(1) はじめに

志知南浦遺跡から出土した鎔帶(249)本体および黒色付着物に対して、顕微鏡観察、および蛍光X

線分析・赤外線分析をおこなった。以下にその結果について報告する。

(2) 調査・分析方法

・エネルギー分散型蛍光X線分析装置(XRF)(七イコーアンスツルメンツ㈱製SEA5230)

試料の微小領域にX線を照射し、その際に試料から放出される各元素に固有の蛍光X線を検出することにより元素を同定する。

測定条件：モリブデン管球使用・コリメータサイズを1.8mmとして管電圧45kV 大気圧で300秒照射した。

・フーリエ変換型赤外分光光度計(F T - I R)

(日本電子㈱製J I R - 6 0 0 0)

赤外線を試料に照射することにより得られる、分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定する。

測定条件：KBr鉛剤法(試料をKBr(臭化カリウム)と混合、圧縮し鉛剤を作製して行う分析法)
分解能4cm⁻¹、検出器TGS

・実体顕微鏡(ライカ(株)MZ16)

(3) 結果と考察

元素分析箇所を写真①～⑥に示した。

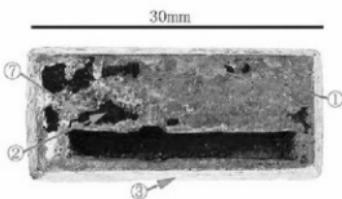


写真11 鎔帶上面および側面のXRF分析箇所



写真12 鎔帶下面のXRF分析箇所

	検出元素		
①鎔帶上面	Cu(銅)Pb(鉛)	As(ヒ素) Ag(銀) Sn(スズ) Sb(アンチモン)	鉄(Fe)
②鎔帶上面の黒色箇所	CuPb	As,Ag,Sn,Sb	Mn(マンガン) Fe
③鎔帶側面	CuPb	As,Ag,Sn,Sb	Fe
④鎔帶下面中央	CuPb	As,Ag,Sn,Sb	Fe
⑤鎔帶下面・地金露出箇所	CuPb	As,Ag,Sn,Sb	Au(金)Hg(水銀) Fe
⑥鎔帶下面・紙の部分	CuPb	As,Ag,Sn,Sb	Au Fe

第56表 鎔帶のXRF分析結果

1) 銅帶本体の含有元素

銅帶は、長方形の穴を穿った金具（写真11：上面）と、鉛で留められた長方形の板状金具（写真12：下面）からなる。XRFによる元素分析の結果を蛍光X線分析データ①～⑥に示した。上面、下面共に主要元素は銅、鉛であるが微量元素としてヒ素、銀、スズ、アンチモンを含む。これらの元素は、主要元素に由来する成分と考えられる。また、鉄は土壤に由来する成分と考えられる。

下面中央のサビ層が厚い部分では金は検出されなかったが、部分的に金属光沢を有する箇所で金と微量の水銀、鉛部分では金が検出された。

以上の結果、銅帶の下面金具は鍍金または箔が張られていた可能性が高いと考えられる。

2) 黒色付着物質の成分分析

上面、側面、溝の縁、鉛に黒色物質が部分的に付着していた。XRFによる元素分析の結果、マンガンが検出されたがピーク強度が弱く二酸化マンガン（黒）による呈色と判断することはできなかった（蛍光X線分析データ②）。

写真12の⑦から黒色付着物をごく微量採取しFT-IRで分析を行なった結果、有機物の吸収ピークがみられた（第144図）。典型的な漆のパターンとは異なっていたが、不純物や混入物等の影響を考慮すると、黒色付着物は漆を含んでいる可能性が高いと考えられる。

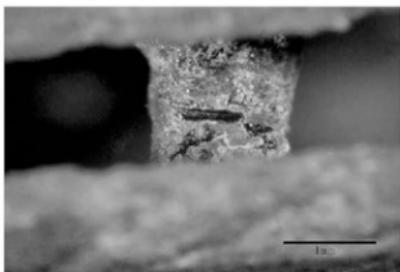
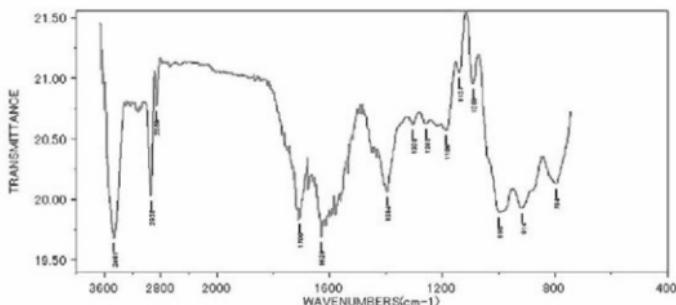


写真13 鉛の黒色付着物



主知南浦遺跡 No.6 カタイ 黒色付着物

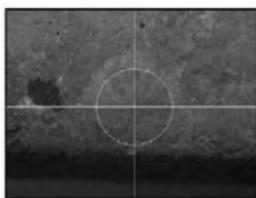
RESOL	:	4 cm ⁻¹	3461.64	19.68	1089.60	20.98
SCANS	:	100	2935.16	20.03	998.96	19.90
AMPGAIN	:	>8	2859.65	20.78	914.10	19.93
P. INT	:	2 cm ⁻¹	1706.71	19.84	794.54	20.13
BEAM	:	single	1829.57	19.69		
S SPEED	:	TGS	1394.30	20.07		
S. NUMBER	:	0	1303.66	20.62		
M DATE	:	1/25/06	1255.45	20.63		
			1188.02	20.57		
			1137.61	21.05		

第144図 黒色付着物のFT-IRスペクトル

蛍光X線分析データ

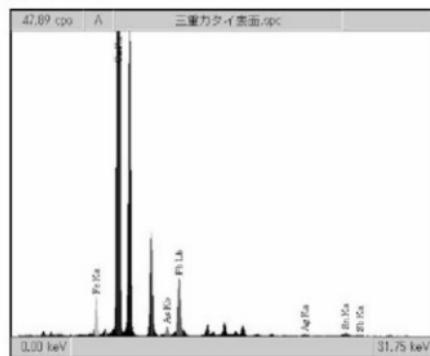
①鉄帶上面

[試料像]



視野: [X Y] 6.60 4.95 (mm)

[スペクトル]



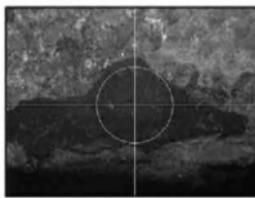
[結果]

Z	元素	元素名	ライン	A (cps)	R O I (keV)
26	Fe	鉄	K α	52.345	6.23~ 6.57
29	Cu	銅	K α	2770.056	7.86~ 8.22
33	As	ヒ素	K β	16.493	11.52~11.93
47	Ag	銀	K α	3.982	21.84~22.36
50	Sn	スズ	K α	7.126	24.92~25.47
51	Sb	アンチモン	K α	2.989	25.99~26.55
82	Pb	鉛	L β	109.944	12.42~12.84

蛍光X線分析データ

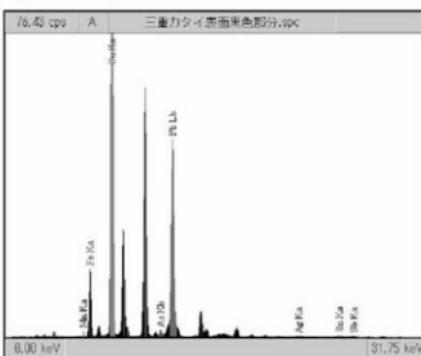
②鉄帶上面黒色部分

[試料像]



視野: [X Y] 6.60 4.95 (mm)

[スペクトル]



[結果]

Z	元素	元素名	ライン	A (cps)	R O I (keV)
25	Mn	マンガン	K α	13.798	5.73~ 6.06
26	Fe	鉄	K α	148.272	6.23~ 6.57
29	Cu	銅	K α	1467.663	7.86~ 8.22
33	As	ヒ素	K β	22.125	11.52~11.93
47	Ag	銀	K α	4.686	21.84~22.36
50	Sn	スズ	K α	8.862	24.92~25.47
51	Sb	アンチモン	K α	3.650	25.99~26.55
82	Pb	鉛	L β	553.217	12.42~12.84

蛍光X線分析データ

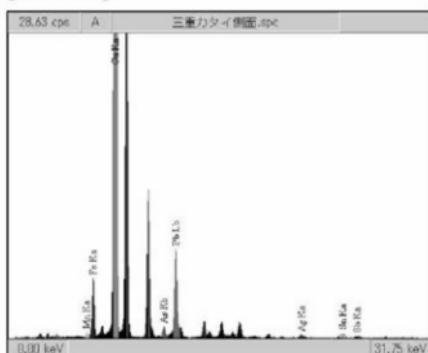
③鉛帯側面

〔試料像〕



視野: [X Y] 6.60 4.95 (mm)

〔スペクトル〕



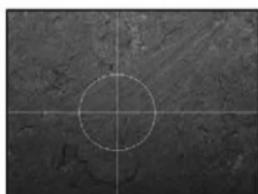
〔結果〕

Z	元素	元素名	ライン	A (cps)	R O I (keV)
25	Mn	マンガン	K α	5.396	5.73~6.06
26	Fe	鉄	K α	50.222	6.23~6.57
29	Cu	銅	K α	2393.984	7.86~8.22
33	As	ヒ素	K β	12.081	11.52~11.93
47	Ag	銀	K α	4.461	21.84~22.36
50	Sn	スズ	K α	8.270	24.92~25.47
51	Sb	アンチモン	K α	3.174	25.99~26.65
82	Pb	鉛	L β	93.811	12.42~12.84

蛍光X線分析データ

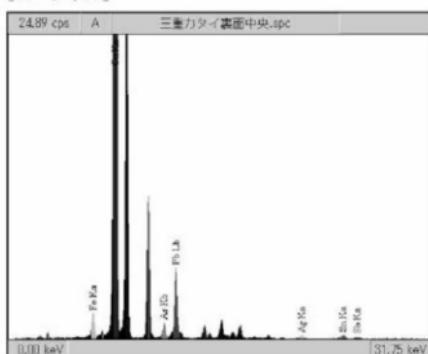
④鉛帯下面中央部分

〔試料像〕



視野: [X Y] 6.60 4.95 (mm)

〔スペクトル〕

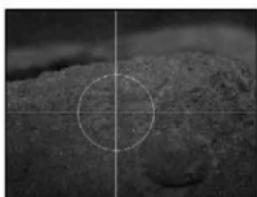


〔結果〕

Z	元素	元素名	ライン	A (cps)	R O I (keV)
26	Fe	鉄	K α	21.784	6.23~6.57
29	Cu	銅	K α	2392.757	7.86~8.22
33	As	ヒ素	K β	14.934	11.52~11.93
50	Sn	スズ	K α	5.228	24.92~25.47
51	Sb	アンチモン	K α	2.407	25.99~26.65
47	Ag	銀	K α	3.786	21.84~22.36
82	Pb	鉛	L β	64.973	12.42~12.84

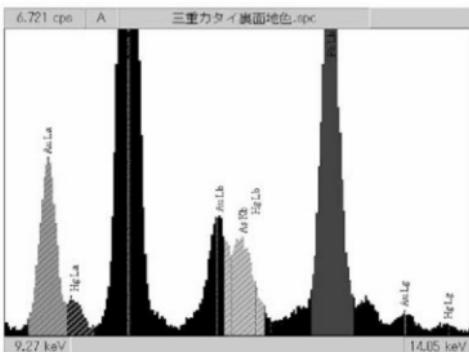
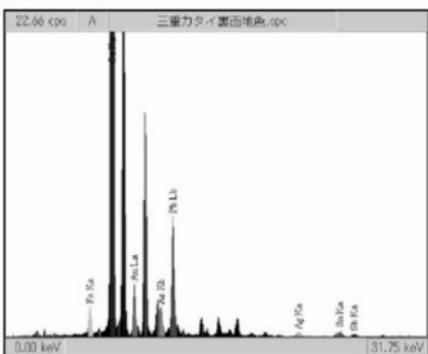
蛍光X線分析データ
⑤鈎帶下面地金露出部分

[試料像]



視野: [X Y] 6.60 4.95 (mm)

[スペクトル]



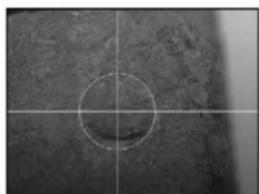
[結果]

Z	元素	元素名	ライン	A (cps)	R O I (keV)
26	Fe	鉄	K α	21.913	6.23- 6.57
29	Cu	銅	K α	2203.457	7.86- 8.22
33	As	砒素	K β	34.305	11.52-11.93
47	Ag	銀	K α	5.138	21.84-22.36
50	Sn	スズ	K α	7.074	24.92-25.47
51	Sb	アンチモン	K α	2.621	25.99-26.55
79	Au	金	L α	40.607	9.51- 9.90
80	Hg	水銀	L α	14.886	9.79-10.17
82	Pb	鉛	L β	96.030	12.42-12.84

蛍光X線分析データ

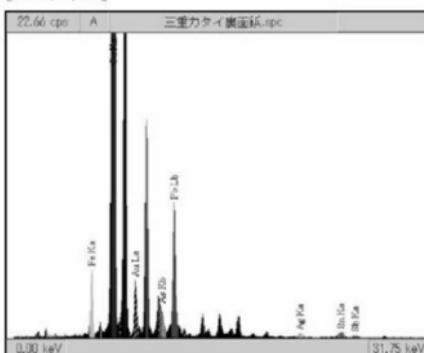
⑥鉛帶下面紙部分

[試料像]



視野: [X Y] 6.60 - 4.95 (mm)

[スペクトル]



[結果]

Z	元素	元素名	ライン	A (cps)	R O I (keV)
26	Fe	鉄	K α	46,060	6,23 - 6,57
29	Cu	銅	K α	2551,027	7,86 - 8,22
33	As	ヒ素	K β	36,463	11,52 - 11,93
47	Ag	銀	K α	5,866	21,84 - 22,36
50	Sn	スズ	K α	7,758	24,92 - 25,47
51	Sb	アンチモン	K α	3,193	25,99 - 26,55
79	Au	金	L α	44,776	9,51 - 9,90
82	Pb	鉛	L β	111,554	12,42 - 12,84

V 結語

1 遺構の変遷

縄文時代晚期（五貫森式～馬見塚式期）（第145図）

この時期には土器棺墓9基が集中してみられる。

周囲には同時期の土坑や集石・土器溜りがある。土器棺墓に使用されている土器にはあまり時期差はない、比較的短期間に墓域が形成されている。同様の例としては、愛知県牛牧遺跡などがある。^①

その後、弥生時代から古墳時代に関しては、ごく少數の遺物が出土するものの遺構は存在しなくなる。

古代（8～10世紀）（第145図）

8世紀後半になり、建物群が形成される。建物群の間には空閑地が存在していた可能性が高い。東端には溝SD204があり、この場所で墨書き土器を投棄していた可能性が高い。

発掘調査では10世紀代の遺物も出土しているので、中世前期まではほぼ断絶なく集落が営まれていた可能性が高い。

中世Ⅰ期（11～13世紀）（第146図）

掘立柱建物・土坑・溝・戸井などが広域に展開する時期である。この時期の掘立柱建物は42棟以上ある。

発掘調査区の西部にある2条の大溝SD35・62はこの時期に掘削された可能性が高い。この大溝は、幅3.4～5.8m、深さ0.7～1.75mの大規模なものである。津市雲出島貴遺跡では、ほぼ同時期の居館跡が検出されているが、居館中心部の周囲にも大規模な溝が掘削されている。SD35・62の掘削がこの時期

にまで遡るとすれば、これらの大溝が居館周辺の付帯施設であった可能性も生じる。

中世Ⅱ期（14世紀）（第146図）

遺構数が一時的に減少する。ただし中世Ⅰ期の掘立柱建物としている遺構にはこの時期にまで下るもののが含まれていると思われる。

中世Ⅲ期（15世紀～16世紀前葉）（第147図）

再び遺構数が増加する。ただしほとんどの掘立柱建物はⅢ期とⅣ期の岐別ができなかった。この時期に大溝SD35・62は依然として機能しているが、規模を小さくしている可能性が高いと思われる。発掘調査区の東側では区画溝も掘削されていた可能性がある。

中世Ⅳ期（16世紀中葉～17世紀中葉）（第147図）

発掘調査区の全域に溝で区画した屋敷地群が形成される。大溝SD35・62はほとんどが埋まり、小溝程度のものであったと思われる。SD35の埋没後、溝SD22と大溝SD40の間は道路であった可能性が高い。その東側の屋敷地は、発掘調査区内では最も整った屋敷地で道路に向けて開口部（出入口）を持っている。屋敷地の北・東側の区画溝からは獸骨が多数出土している。獸骨の中には加工痕跡があるものがあり、屋敷地内で牛馬の解体や骨の加工が行われている可能性が高い。この時期の遺構群は17世紀中葉まで存続していたと考えられる。（竹田）

2 縄文時代の調査成果

（1）縄文時代晚期の墓域について

志知南浦遺跡の発掘調査では、縄文時代晚期五貫森式～馬見塚式期の土器棺墓、土坑、土器溜り、集石、焼土を確認した。この時期の墓制については、これまでにも多くの議論があり、大規模な墓域が居住域とは別に形成される事例が多いことが指摘されている。今回の発掘調査でも、土器棺墓を9基検出し、住居が確認されていないことから、発掘調査区内外は居住域とは分離した墓域のようにも見える。しかし一方で墓以外の要素（焼土や土坑、土器溜りな

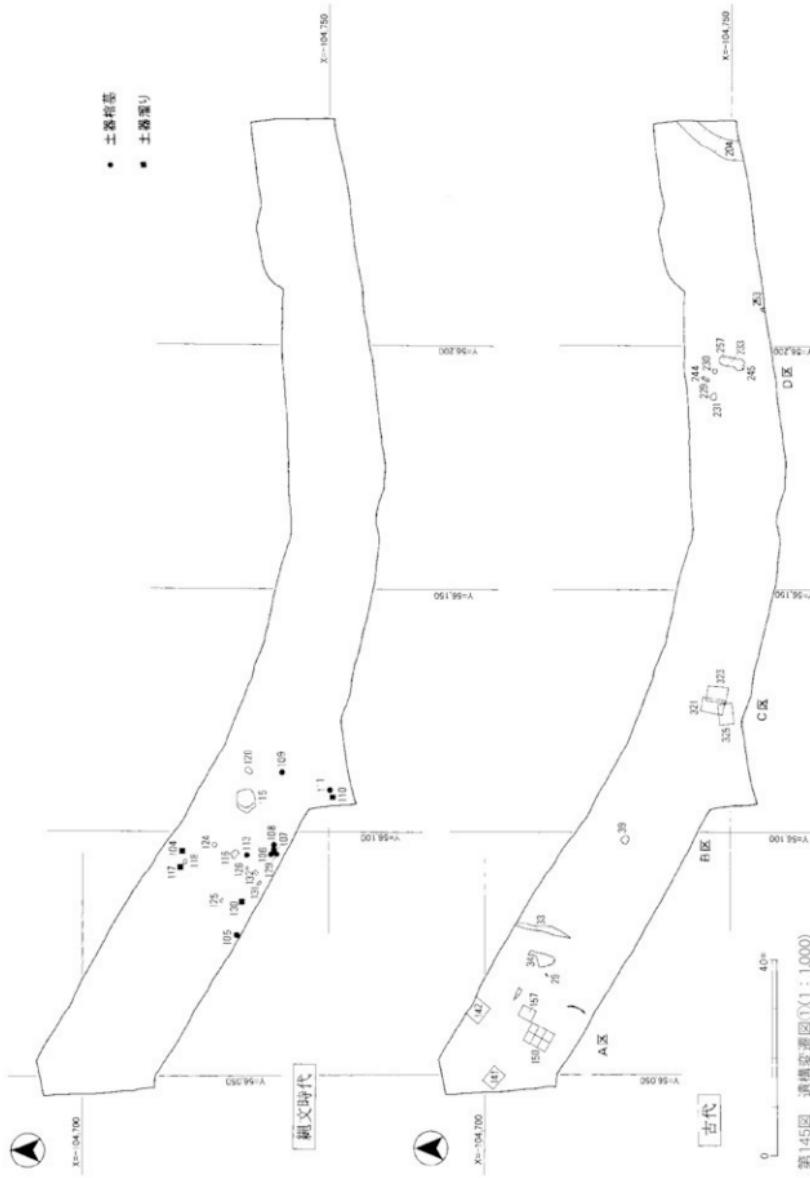
ど）も検出されている。本稿では遺構の検出状況や出土遺物の組成などをもとに、志知南浦遺跡の縄文時代晚期の墓域と居住域について検討する。

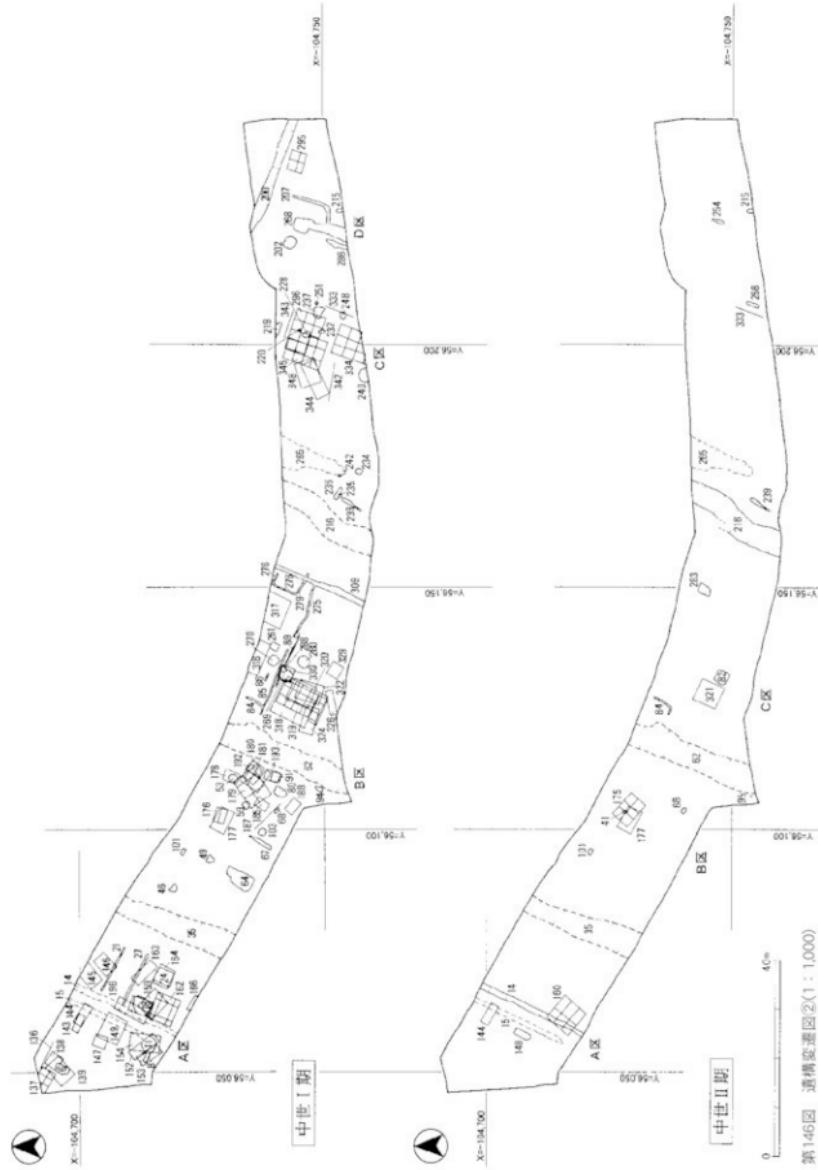
（A）土器棺墓

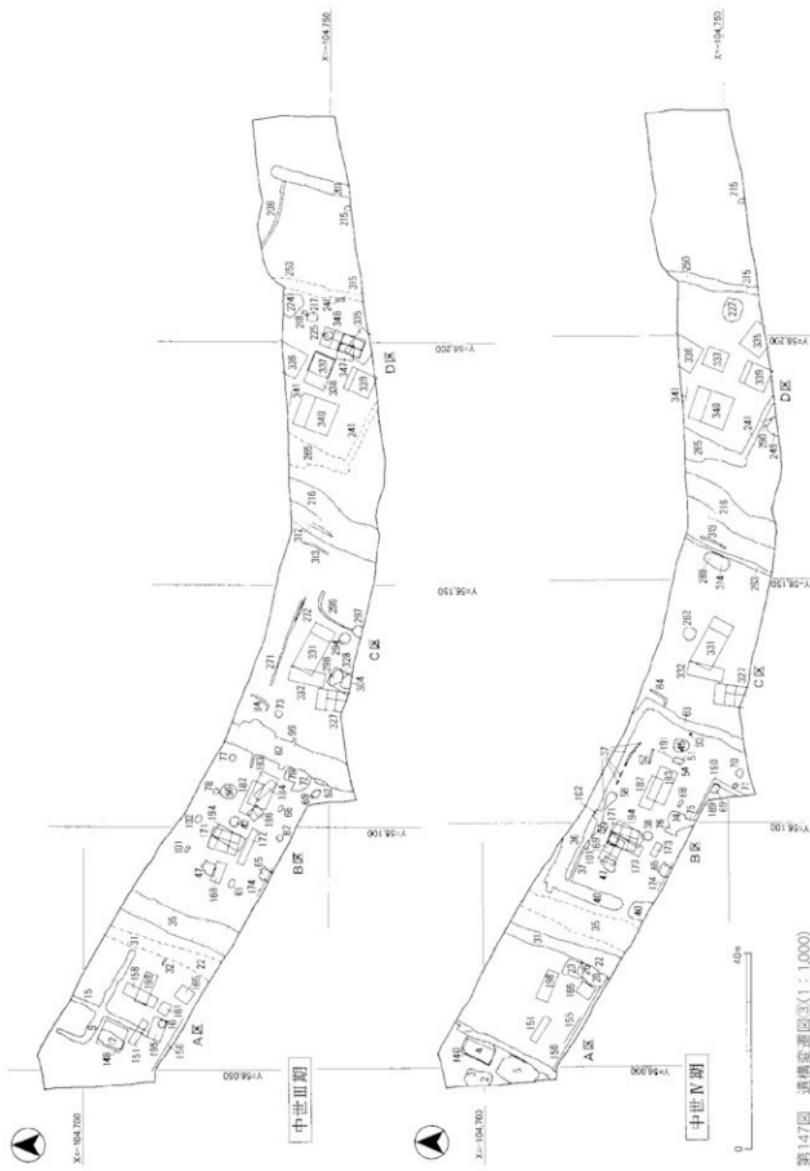
9基確認した。土器棺墓は調査区南半部に集中し、少なくともこの範囲には墓域が確認できる。

（B）焼土

住居跡は確認出来なかったが1ヶ所の焼土を検出した。焼土SF126は浅い土坑状のもので、内側が







第147図 遺構変遷図③(1 : 1,000)

被熱していることから、地床炉の可能性がある。焼土の周辺に住居跡が存在した可能性もある。

(C) 土坑

7 基確認した。円形、楕円形、不整形のものがある。この中には墓が含まれている可能性がある。土坑SK115は、遺物の出土状況から廐棄土坑と考えられるもの、その他のものも含めると、墓以外にもさまざまな性格の土坑が存在する可能性がある。

(D) 柱穴、小穴

調査区内では、多数の柱穴、小穴を確認した。これららの柱穴や小穴が、平地式住居の一部かどうかを検討する。

現在、三重県内での平地式住居の確認例は、いなべ市宮山遺跡の一例のみである。^⑤そこでは、環状ないしは多角形に配列する柱穴の存在から縄文時代晚期の平地式住居を認定している。

志知南浦遺跡では、環状あるいは多角形に並ぶ小穴は少数で、平地式住居の存在を確認することは困難である。しかし、土器棺墓^⑥ですら掘形が確認できなかったことを考えると、浅い掘り込みと小規模な柱穴からなる平地式住居が存在していた可能性も保留しておきたい。

(2) 伊勢湾西岸における土器棺墓の様相

発掘調査の結果、土器棺墓9基を確認した。土器棺墓については前田清彦氏の分類があり、それによると伊勢地方の突帶文Ⅰ期（西之山式～五貫森式期）においては「ⅡC類」（合口棺）が主体であるとされている。^⑦しかし近年、伊勢湾西岸では、土器棺墓の資料が増加している。本稿では、伊勢湾西岸で出土した土器棺墓を集め、その傾向を探っていきたい。

(A) 埋葬形態の分類と事例

傾向を探るために、それぞれの遺跡における土器棺の埋設状況や土器の使用状況から埋設形態を分類する。分類については、中村健二氏・前田清彦氏・川添和暁氏の成果を参考とした。また、土器棺墓の中心的位置を占める個体を棺身、それを覆う個体を棺蓋とする。

・土器埋設状況による分類

I 立位

II 横位（斜位を含む）

・棺を形成する土器の個体数および構成による分類

(E) 石器の組成

出土した土器は、縄文時代晩期に限られ、石器も同時期のものと考えられる。石器は、剥片が大半を占め、磨製石斧、敲石等伐採・加工工具や調理具と考えられる石器も多数出土している。また、石錐の未製品も1点出土している。石器の組成からも、墓以外の要素が含まれている可能性が上げられる。

(F) まとめ

以上、5項目から墓域と居住域の形成について検討してきた。墓域の存在は確実であるが、居住域に関しては、その存在を明確に示すことは出来なかつた。しかし、廐棄土坑や副葬品とは考えにくい種類の石器の出土など、発掘調査区内には墓以外の要素がかなり存在する。

中村健二氏は、晩期の墓地のあり方として、居住の近くに位置するものと分離して存在するものがあると指摘している。^⑧小瀬学氏は中期から後期の小規模の集落については、竪穴住居（居住空間）から意識できる範囲内に土坑墓・埋設土器などの墓的な造構が配置されると指摘している。志知南浦遺跡でも居住域が墓域の直近あるいは一部重複して存在していた可能性がある。

（酒井）

A 土器が単独であると考えられるもの、いわゆる單棺。

B 単独と考えられる土器と土器片の組み合わせのもの。单棺+土器片（蓋）。

C 2個体の土器の口縁部を合わせたもの。いわゆる合口棺。

D 2個体の土器の口縁部を合わせたものと土器片を組み合わせたもの。合口棺+土器片。

伊勢湾西岸の土器棺墓検出例を踏まえつつ、概況を述べる。各遺跡の詳細については、第148図を参照されたい。

I類

志知南浦遺跡SX113・114、中谷遺跡SX106が該当する。中谷遺跡SX106は、上部を欠損しているため断定はできないが、馬見塚式期の深鉢を棺身として垂直状態で据え、棺蓋の深鉢を被せている。

志知南浦遺跡SX113・114は、いずれも上部構

造は不明だが、底部と体部下半が残存する。

II A類

10遺跡27例が確認されている。所属時期は、概ね元刈谷式～馬見塚式期である。同じ遺跡で II B・C類のものがみつかることもある。

小谷赤坂遺跡 S X492や志知南浦遺跡 S X105・106がこれに該当する。小谷赤坂遺跡 S X492では石の埋置が確認できる。

II B類

伊勢湾西岸では8遺跡10例が確認されている。II B類は、II A類と共に検出される例が多い。時期は元刈谷式～馬見塚式期である。志知南浦遺跡では、S X111がこれに該当する。

II C類

8遺跡15例が確認できる。II C類は、他の分類のものと混在せず単独で検出されることが多い。時期は、西之山式～馬見塚式期である。

志知南浦遺跡 S X107・129がこれに該当する。

II D類

志知南浦遺跡 S X109、大原堀遺跡 S X43が該当する。志知南浦遺跡 S X109は、底部が欠損した2個体の深鉢（9・10）を棺身とし、別の深鉢（11）の半身を逆位に置いて閉塞している。

大原堀遺跡 S X43は、深鉢の底部を棺身とし、浅鉢で閉塞している。いずれも、閉塞している器種が異なるものの、底部の残存していない深鉢を棺身としている。所属時期はいずれも、西之山式～五貫森式期である。

(B) 土器棺墓群の様相

以上、伊勢湾西岸での土器棺墓を通覧し、分類を行ったが、それらの傾向は以下のとおりである。

① I類（立位）とできるものは3例しかなく、II類つまり横位の埋設が主流となる。

② II類（横位）の中では、II A類が最も多く、II C類、II B類がこれに続く。前田氏の分析以後の資料の増加により、伊勢湾西岸ではII A類（單棺・横位）が主体を占めることが確認できる。ただし、II B・II C類のものもかなりの数にのぼっており、II A類のみが突出して多いわけではない。

③ 土器棺墓の時期は、II A・B類が元刈谷式～馬見塚式期に、II C・D類は西之山式～五貫森式期である。II C・D類は、II A・II B類より後出するようである。

④ II D類は、今のところ志知南浦遺跡と大原堀遺跡のみで確認されている。伊勢湾西岸以外の東海・関西地方でも報告されていない。
(酒井)

3 古代の調査成果

(1) 古代の屋敷地と周辺の景観

発掘調査区には、概ね2群の古代（8世紀～10世紀）の建物群が存在する。また、建物が全くなく、土坑のみが存在する部分もある。

A区 2ヶ所ある建物群のうちの西側の建物群を中心とした区画。8世紀後半の屋敷地と評価できる。

建物はN37°38' Eの方位を持つ一群（a群=S B141・142）とN28° Eの一群（b群=S B150・157）に分かれる。b群とした2棟の掘立柱建物は非常に近接しており、同時に存在していたのではなく、時期差がある可能性が高い。a群・b群は、とともに柱穴から8世紀後半の須恵器が出土しているが、前後関係は不明である。

またb群の掘立柱建物は、中世の掘立柱建物の方角とほぼ一致していることが注目できる。b群が存在した時期には、建物方位に関する何らかの意識が

存在していた可能性がある。

B区 A区からC区までの約60mの空閑地。古代の遺構の可能性があるのはSK39のみである。

C区 A区から80mほど離れた区画。この区画も屋敷地と評価できる。

内部には平面形の似た3棟の建物（c群=S B321・323・325）が重複する。建物は3間×2間の小規模なものであるが、複数時期にわたる安定した屋敷地と評価できようか。ただし、c群の建物群はa・b群の建物群と比較すると、①方位の規則性があり感じられない。②柱穴が円形で小ぶりである。などの傾向があり、a・b群よりは後出するもののように思える。

D区 C区から約60m離れた地点の土坑群。SK229・230・231・233・244・245・246・259

分類	例図	特徴	類例	前田 分類	中村 分類	川添 分類
I		・立位	・志知南浦遺跡SX113,SX114 ・中谷遺跡SX106	I類		I類1 (立位)
A		SX106	・横位 ・単棺	II A類	A	I類1 (横位)
B		SX111	・横位 ・単棺 ・土器片を組合わせる	II B類	D E F	I類2 (横位)
II						
C		SX107	・横位 ・合口棺	II C類	G	II類1
D		SX109	・横位 ・合口棺 ・土器片を組合わせる			II類3

第148図 土器棺墓分類(案)

の8基の土坑が集中する。土坑の性格は不明であるが、埋土から志摩式製塙土器や灰釉陶器が出土しており、A区の建物群より時期が下るものである可能性が高い。そうなるとD区は、A区・C区が屋敷地であった時期には空閑地であった可能性が高い。

東限 調査区の東端部で検出したSD204は、古代集落の東限を画すものかもしれない。埋土からは多くの墨書き土器や鉢帶が出土している。

まとめ 志知南浦遺跡における古代の土地利用を概観してきたが、この時代の集落について以下のようなことが言える。第一は、古代の集落が、屋敷地とその間の空閑地という要素から成り立っていた可能性が高いことが指摘できる。

第二は、古代に形成された地割が、基本的に中世以後の屋敷地にも踏襲されるものであったことである。先にあげたA～D区は、中世の屋敷地の単位とほぼ一致する。出土遺物からは断続しているように見える古代と中世の遺構群は、少なくとも土地の規制においては連続性を持っていた可能性がある。

第三は8世紀後半と思われる建物群の中に中世の掘立柱建物と同一の方位を持つ一群が存在していることである。松阪市打田遺跡などでは、古代の掘立柱建物群と表層条里の方位が全く異なり、表層条里の方位と一致するのは中世前期の掘立柱建物群であることが明らかにされている。しかし、松阪市筋違⁹

(2) 古代土器の搬入状況について

発掘調査では8世紀後半を中心に、10世紀頃までの建物群が確認された。本稿では遺跡内に搬入された土器・陶器等の傾向を確認したい。

①土師器

煮炊具 伊勢型とされる甕・長胴甕が多い。甕は、外面体部下半にヘラケズリを施すものが主体を占める。また平底で、体部外面の全体にヘラケズリを施すもの（101）がある。

供膳具 精製のものと粗製のものがある。量的には粗製の椀は少ない。精製のものの中にはやや古いもののものある（100）が、奈良時代後期のものが多い。

②須恵器

須恵器には猿投産のもの、美濃須衛産のもの、產地不明のものがある。全体の比率は猿投産が4割、美濃須衛産が1割程度で、残りの約半分を產地不明の

遺跡では、8世紀代の掘立柱建物群が表層条里の方向と一致し、条里地割の施工が古代にまでさかのぼる可能性が報告されている。¹⁰ 当遺跡の例は条里地割とは一致していないが、中世まで受け継がれる建物方位の萌芽がすでに8世紀後半にみられる可能性をしめすものであろう。

志知南浦遺跡では、各時代で様々な方位の建物が存在する。しかしこの中で、時代を越えて共通する方位のものがあることは注目できる。これがどのような要素によって規定されているのかは、周辺の発掘調査例も含め検討していく必要性がある。

第四には発掘調査区東端の大溝SD204の存在とそこからの出土遺物の問題である。この溝からは、墨書きのあるものを含む8世紀前半～10世紀前半の大量の土器とともに、硯、銅製漆塗りの鉢帶、志摩式・知多式などの製塙土器、輪の羽口が出土している。墨書きの内容については後述するが、遺跡周辺には、有力者層が存在し、金属製品の加工が行われていたことが想定できる。

ただし既述のように、発掘調査区ではそれほど確立した建物は確認できておらず、発掘調査で確認した建物群と、SD204出土遺物から見た有力者層や金属加工工人的存在は大きく矛盾する。これらに関連する遺構は、発掘調査区外に広がっているものと理解したい。

（竹田）

ものが占める。產地不明のものは在地産のものが含まれると思われ、員弁川流域に窯跡が存在する可能性がある。特に杯蓋の中には、口縁端部を丸くおさめる（169・171）傾向をもつ一群が存在し、このような技法が在地産の特徴になるのかもしれない。

また、須恵器の製作技法でありながら、酸化焰焼成のものが一定量存在する（95・98・99）。量的に少ない土師器の粗製椀を補完するものかもしれない。

ほかに、灰釉陶器が盛んに流通するようになる9世紀後半になっても、須恵器が多く搬入されることも特徴としてあげられる。

③灰釉陶器

灰釉陶器はK-14型式のものから搬入され始める。器種には皿、碗、広口壺、水注があり、量的に

はK-14型式のものが最も多い。

④ 緑釉陶器

早い段階から意識して選別を行ったにも関わらず、緑釉陶器の数は非常に少ない。報告書未掲載の

ものを含めても10点程度であると思われる。

⑤ 製塙土器

製塙土器には志摩式のものと知多式のものがある。量的には志摩式のものが多い。

(酒井)

4 中世の調査成果

(1) 志知南浦遺跡における中世集落の動態

11世紀の空白期をはさんで、12世紀後葉から13世紀初頭になると、安定して屋敷地が営まれるようになる。この状況は、断続的ながら17世紀中葉まで続く。本節では、中世を通じた屋敷地の変遷を検討する。(第146・147図)

① 中世Ⅰ期(11世紀～13世紀)

出土遺物は12世紀前半からのものが見られるが、建物群が明瞭に把握できるのは12世紀後葉から13世紀になってからである。また、中世Ⅰ期の終わりころには、大溝SD35・62・265などが掘削される。中世後期に続く集落の基本的構造が形成される。

この時期の屋敷地は、4ヶ所確認できる。それぞれの区画の状況を見していくことにする。

A区 発掘調査区内に4ヶ所ある建物群のうち、最も西にある一群。18棟の建物からなるが、これらの建物は建物方位から、N18～19度Eの方位を持つa群(SB147・197)、N43～44度Eの方位を持つb群(SB139・159・163)、N22～25度Eの方位を持つc群(SB162・149・143)、N28～29度Eの方位を持つd群(SB137・164・144)、N38度Eの方位を持つe群(SB138)、N39度Wの方位を持つf群(SB152・145・146)の6群に分けることができる。柱穴の切り合いかから各群の前後関係は、a→b→c→dと想定できるが、柱穴出土遺物から時期差を見出すことはできない。概ね条里方向に沿う建物が古側で、条里方向に沿わない建物が新相と理解できようか。

発掘調査区内には、卓越した規模の建物は確認できない。井戸も存在しない。S X 8は13世紀中葉の土葬墓である。いわゆる屋敷墓かもしれない。

B区 A区から30m程東にある建物群。大溝SD62の掘削により分断されているので2つの建物群のようにも見える。20棟の建物群からなるが、これらの建物はN18～19度Eの方位を持つa群(SB176・

324・322)、N43～44度Eの方位を持つb群(SB181)、N22～25度Eの方位を持つc群(SB193・288・316・317)、N28～29度Eの方位を持つd群(SB177・178・318・319・329)、N34～35度Eの方位を持つe群(SB185・180)、N39度Wの方位を持つf群(SB188)の6群に分けることができる。各群の前後関係はA区と同じである。

卓越する規模を持つSB316・317がc群の主屋、同じくSB318・319がd群の主屋と考えられる。区画の東側には、井戸(SE269・270・280)があり、周辺には小溝(SD84・85・89・275・276・278・279・309)が掘削されている。

C区 B区から35m程東にある建物群。SB344・348を除き、すべての建物がN18～19度Nの方位を持つ(a群)。前後関係はわからないが、SB296・334・345など比較的大型の建物が安定して造営される。主屋の周辺には、井戸(SE240)がある。

中世の貿易陶磁は、この区画内で最も多く出土している。大型掘立柱建物柱の造営と併せ、この屋敷地が中世Ⅰ期における集落の中心であったことを示すものと考えられる。

D区 C区の東には、溝SD200・207・268などに区画された小型の建物SB295が単独で存在する。この建物が独立したものか、東や南に展開する屋敷地の一部であるのかはわからない。

SD268の東には井戸(SE202)がある。この時期のほかの井戸が主屋近くにつくられるのに対し、井戸SE202だけはC区とD区の境にある。共同井戸になるのかもしれない。

② 中世Ⅱ期(14世紀)

14世紀には、出土遺物が極端に減り、遺構も確認しにくくなる。中世Ⅰ期としている建物の中には、この時期になるものも含まれていると考えられる。

A区 確認できる建物はSB144の1棟のみである。

S B144は中世I期の建物としたが、この時期に下る可能性もある。屋敷地の東には中世I期末に掘削された大溝S D35がある。

B区 大溝S D35とSD62の間の屋敷地。確認できる建物はS B175の1棟のみである。S B177は中世I期の建物としたが、この時期に下る可能性もある。S X41はこの時期の墓かもしれない。

C区 大溝S D62と流路S R216の間の屋敷地。確認できる建物はS B321の1棟のみである。これより東では建物は確認できない。

③中世III期（15世紀～16世紀前葉）

15世紀前半には、大溝や流路により区画された屋敷地が形成される。発掘調査区内には4つの屋敷地が並ぶ。この中ではB区がやや優位の屋敷地と思われるが、C区・D区と隔絶したものではない。

A区 大溝S D35の西側の屋敷地。7棟ある建物のうち、S B151・198・165は中世IV期までくだる可能性がある。比較的規模が大きく、建物内土坑を持つ建物（S B148・195）と桁行が長く梁行が1間の建物（S B151・158・198）、小規模な建物（S B161・165）の三種類の建物のセットになろうか。

B区 大溝S D35とSD62の間の屋敷地。9棟ある建物のうち、S B170・171・194・182・183は中世IV期までくだる可能性がある。比較的規模の大きい南北棟（S B171）、東西棟（S B182・183）と桁行が長く、梁行が1間の建物（S B170・194・172・184）、小規模な建物（S B168）のセットになろうか。屋敷地の東側には井戸（S E42・56・77・78・82）がある。大溝S D35・62はこの時期の末にほぼ機能を停止する。

C区 大溝S D62と流路S R216の間の屋敷地。4棟ある建物のうち、S B327・331・332の3棟は中世IV期までくだる可能性がある。この屋敷地の建物は比較的規模が大きい。屋敷地の中央付近には井戸（S E294・297）がある。

D区 S R216とSD201の間の屋敷地。9棟ある建物のうち、S B340・335・336・337・339の5棟は中世IV期まで下る可能性がある。この屋敷地の建物も比較的規模が大きい。屋敷地の東側には井戸（S E217）がある。この時期の末には屋敷地を囲む区画溝（S D241・250・265）が掘削された可能

性がある。S X218はこの時期の火葬穴である。建物と火葬穴が同時存在する可能性が低いならば、火葬穴は屋敷地に先行するものと考えられる。

④中世IV期（16世紀中葉～17世紀中葉）

16世紀中葉には、大溝S D35・62が機能を停止し、屋敷地を巡る区画溝が掘削される。中世III期には屋敷地間の格差はそれほど見出せなかったが、この時期になると、B区とD区の屋敷地が優勢になる。この時期の終期は、区画溝の出土遺物から17世紀中葉になると思われる。かつて大溝S D35があった部分は道路になるようである。

A区 溝SD31から西の屋敷地。4棟ある建物のうち、S B151・198・165は中世III期に遡る可能性がある。SD1を境に東西に二分される。西側には建物内土坑を持つS B140比較的大型の土坑（SK2・3・5）などがある。東側には桁行が長く梁行が1間の建物（S B151・198）、小規模建物（S B165）、土坑群（SK20・26・23）がある。最南端にある柱列（SA156）は大型の建物の一部になる可能性がある。

B区 大溝S D40・63に囲まれた屋敷地。4つある屋敷地で最も卓越した造構を持つ。井戸があるのもこの屋敷地のみである。

大溝SD40の西側には屋敷地への入口がある。6棟ある建物のうち、S B170・171・194・182・183は中世III期に遡る可能性がある。屋敷地の北西部・北東部に建物が集中する。最南端にある柱列SA189・190は大型の建物の一部になる可能性が高い。そうなるとこの部分に主屋があったことになる。井戸（S E38・58）は屋敷地の中央北よりにある。

C区 明確な区画溝は見られない。あえて言えば東側の溝SD263か。3棟ある建物（S B327・331・332）はすべて中世III期に遡る可能性がある。そうなると中世IV期には屋敷地は廃絶していたことになる。

D区 溝SD241・250・265に囲まれた屋敷地。5棟ある建物のほとんどは、中世III期に遡る可能性もあるが、多くはIV期のものと思われる。S B340は屋敷地の主屋になろうか。

⑤まとめ

発掘調査区内で中世集落が営まれるのは12世紀後

葉以降である。11世紀から12世紀中葉までは遺物の出土は認められるものの、建物との関係がはつきりしない。

12世紀後葉から13世紀の屋敷地は4ヶ所確認できる。このうちB区・C区とした屋敷地はほかに比べて卓越している。特にC区は、安定して大型の掘立柱建物が建てられ、貿易陶磁もこの地点から多く出土していることから、集落の中心であった可能性が高い。建物群にやや遅れる形で、大溝SD35やSD62が掘削され、建物の方位もそれに規制されるようになる。中世後期につながる集落の基本的構造はこの時期に形成される。

第II章でも述べたが、文献史学からは、平景清（実は藤原氏）や藤原实重などの一族は、員弁川流域とくに志知・中上付近に居住していたという説が提示されている³⁹。特に藤原实重の『作善日記』には「しづのみとう」（志知の御堂）が登場する。

志知南浦遺跡の建物の多くは藤原实重が活動していた13世紀前半頃のものである。また、志知南浦遺跡内には寺社に関連する地名が多く残され、発掘調査でも寺院の存在を思わせる「僧」などの文字が記された陶器（1166）が出土している。今回の発掘調査地点を含む遺跡内に、藤原实重の居宅あるいはその信仰を受けた「志知の御堂」が存在していた可能性は極めて高い。

14世紀になると、調査区内では建物が激減する。

（2）中世土器・陶磁器類の搬入状況

①中世前期

土師器 土師器の中で多数を占めるのは皿・小皿である。煮炊具のほとんどは南伊勢系の鍋で、清郷型の鍋が少量搬入される。

ただしこれは当該時期の遺物量の減少による「見かけ」上の減少である可能性が高い。この時期には、大溝SD35、SD62、流路SR216に区画された3ヶ所の屋敷地が確認できる。

15世紀から16世紀前葉には、流路SR216の東にも屋敷地が広がる。この時期の屋敷地間にはそれほどの格差はなく、4つの屋敷地が並立する時期ととらえられる。この時期のものにも、法名と思われる「宗真」、「佛」などの文字がある天目茶碗（1080・1157）、仏前具や仏供（668・1020・1055・1252・1253・1302）、木製卒塔婆（657・658）が出土している。この時期にも「志知の御堂」に関連した寺院は、発掘調査区を含む遺跡内で存続していた可能性が高い。

16世紀中葉になると大溝SD35、SD62は埋没し、SD35の部分は道路になる。この時期の4つの屋敷地のうち、B区・D区には区画溝が巡る。A区・C区では建物が小規模あるいは散在的になり屋敷地間の格差が生じる。井戸もB区のみにしか確認できない。B区の屋敷地には、第IV章で述べた骨製品の生産が行われており、B区の居住者はその技術により集落内の地位を上昇させた可能性が高い。

17世紀中葉以降は、発掘調査区内には建物がみられなくなる。この時期には水田開発により、集落が廃絶したと考えられる。

（竹田）

	3型式	4型式	5型式	6型式	7型式	8型式	9型式	10型式	11型式	12型式	器種別合計	
尾張型	山茶碗	9	14	33	90	28	5	3	2	0	4	188
	小碗・小皿	4	18	6	65	8						101
	片口鉢			2	10				2			14
	小計	13	32	41	165	36	5	3	4	0	4	303
渥美型	山茶碗	3	19	7								29
	小碗・小皿	5	7	1								13
	片口鉢	1	2									3
	小計	0	9	28	8	0	0	0	0	0	0	45
型式合計	13	41	69	173	36	5	3	4	0	4	348	

第57表 山茶碗時期別・産地別集計表

入され続ける。産地は尾張のものが多いが、渥美型のものも一定量存在する。特に第5型式では、尾張型と渥美型の比率は41:28であり、時期によっては渥美型山茶椀も多く搬入されていたことが確認できる。

この他陶器では、常滑製品の壺・甕、古瀬戸の水注、四耳壺が搬入される。ただし高級品は伝世品として後世に持ち込まれた可能性もある。

貿易陶磁 貿易陶磁も一定量搬入される。多くは青磁や白磁の碗・皿であるが、褐釉陶器(575)なども確認できる。褐釉陶器の出土は伊勢国内では非常に稀である。

②中世後期

土師器 基本的な器種構成は皿・小皿と煮炊具であるが、皿・小皿の比率はあまり高くない。皿・小皿には様々な形態のものがあり、複数の産地から遺跡内に搬入されていた可能性が高い。このような傾向は四日市市伊坂城跡でも確認できる。

煮炊具では、中北勢系の羽釜、茶釜がほとんどを占め、尾張系の内耳鍋が少量搬入される。羽釜の中で特筆できるのは、南伊勢系の土師器製作技法の影響を非常に強く受けた一群が存在することである。特に1152・1247・1248は、口縁端部や脚のシャープさなどに南伊勢系の土師器の特徴を兼ね備えており胎土でかろうじて中北勢で生産されたものと判断できるものであった。このような羽釜は赤堀城跡な

(3) 濑戸美濃製品の搬入状況

三重県内のいくつかの中世後期の遺跡では、瀬戸美濃製品の出土量の推移から、瀬戸美濃製品の搬入状況と遺跡の消長を検討している。志知南浦遺跡でも同様な検討を進めてみたい。

①量的傾向

まず搬入量であるが、志知南浦遺跡の瀬戸美濃製品の出土量は0.142点/m²である。同時代の西ヶ広遺跡(朝明郡)の0.012点/m²、伊坂城跡(朝明郡)の0.059点/m²、大会遺跡(鈴鹿郡)の0.005点/m²、三寺地内遺跡群(鈴鹿郡)の0.017点/m²と比較すると、志知南浦遺跡では桁違いの量の瀬戸美濃製品が搬入されているといえる。

次に搬入の時期的な推移を見るため、志知南浦遺跡を含む中世後期の遺跡の瀬戸美濃製品搬入状況を

どでも確認されており、中北勢系土師器成立に関わる重要な資料として把握できる。

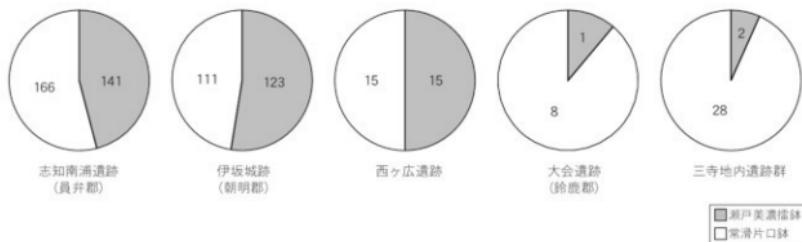
陶器 濑戸美濃製品の搬入状況については、別項で述べるので、ここでは他の産地の陶器との関連のみについて触れる。中世後期の陶器は、ほぼすべてが瀬戸美濃製品が常滑製品で、信楽製品は全く出土しなかった。第149図は常滑製品の片口鉢と瀬戸美濃製品の捕鉢の比率を示したものである。遺跡数、試料数ともそれほど多くないので結論を出すのは早計かもしれないが、伊勢国の中では志知南浦遺跡(員弁郡)や伊坂城跡、西ヶ広遺跡(朝明郡)では両者の比率がほぼ半分、やや南の大会遺跡や三寺地内遺跡群(鈴鹿郡)では常滑片口鉢が瀬戸美濃捕鉢を圧倒するという傾向を確認することができる。ただし、南伊勢では再び瀬戸美濃捕鉢の量が増加するという例も確認されており、両者の比率は、単純に生産地との距離だけから出るものではないことも書き添えておきたい。

貿易陶磁 この時代の貿易陶磁はさほど多いとはいえない。特に染付けは、染付けに関しては遺物選別の時点から意識して作業を行ったにもかかわらず、報告書掲載遺物はわずか5点であり、未掲載遺物を含めても10点未満である。このような出土数は16世紀の遺跡としてはきわめて少ない部類に入る。

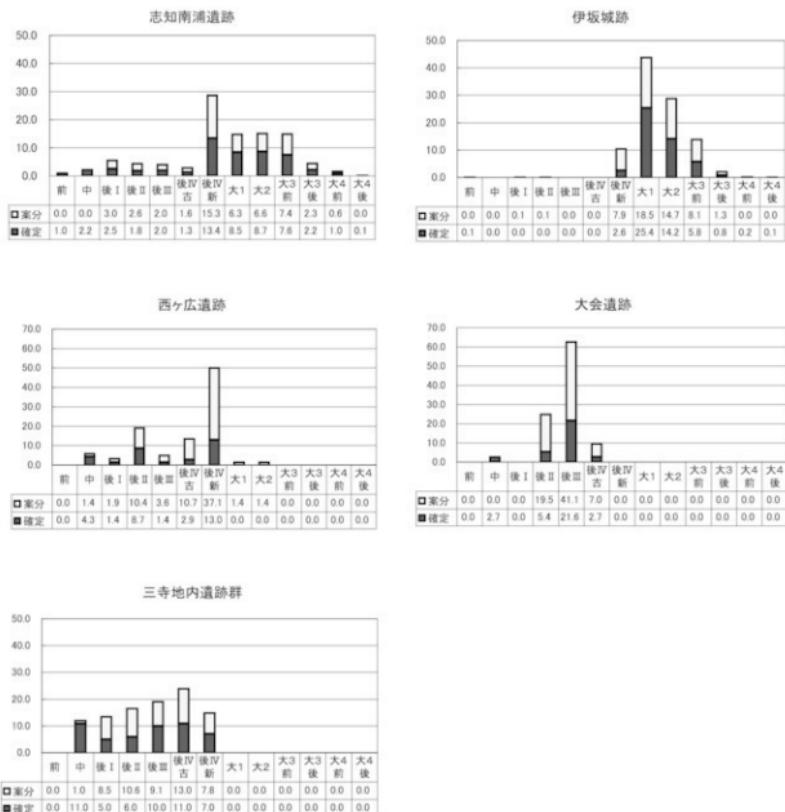
(竹田)

第150図で示した。これをみると、西ヶ広遺跡(朝明郡)、大会遺跡・三寺遺跡群(鈴鹿郡)のように古瀬戸後IV期新段階から大窯第1段階の時期(15世紀後半~16世紀初頭)を境に瀬戸美濃製品が搬入されなくなる遺跡(廃絶する遺跡)と、伊坂城跡(朝明郡)のようにその時期を境に瀬戸美濃製品が搬入されはじめる遺跡(勃興する遺跡)があるのに対し、志知南浦遺跡では古瀬戸前期から大窯末まで、途切れることなく瀬戸美濃製品の搬入が続く。本章の3の項で述べた遺構の変遷からみると、搬入割合の違いが遺跡の盛衰と相関関係にあるとは言がたい。搬入の割合は、むしろ瀬戸美濃製品の生産量や流通量により変化することを考える必要がある。

志知南浦遺跡では、大窯3段階後半期に瀬戸美濃



第149図 鉢の産地別比率



第150図 濱戸美濃製品搬入状況

製品の搬入量が大きく減少する。この現象は伊坂城跡でも確認することができる。藤澤良祐氏は、大窯第3段階後半を瀬戸美濃製品流通の大きな画期とし、この時期を境に生産地から京都への流通経路が伊勢道ルートから、中山道ルートに変化している。²⁵⁾織豊期に廃絶していく伊坂城跡などの城館だけでなく、その後も集落が継続する志知南浦遺跡でも同様の傾向があることは、藤澤氏の指摘する流通経路の変化を示している可能性がある。

②質的傾向

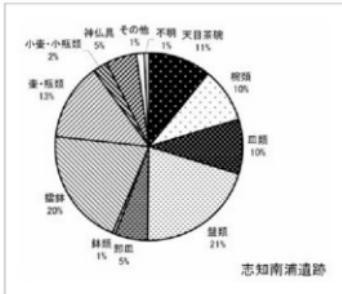
瀬戸美濃製品うち、特に古瀬戸製品のみを抜き出

(4) 志知南浦遺跡の墨書き土器・陶器

発掘調査では、文字あるいは記号を書いた土器・陶器（いわゆる墨書き土器）が多く出土している。時期別の内訳は、文字が判読できるものだけで、古代18点、中世前期27点、中世後期3点である。

本稿では時期をおってその変遷を検討したい。

(1) 古代

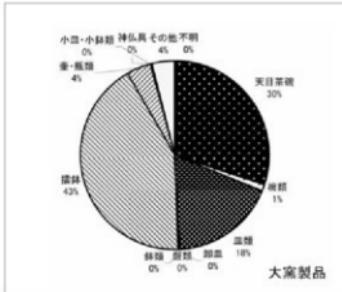
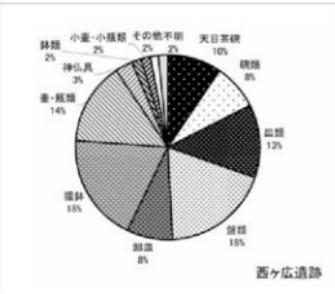


第151図 古瀬戸製品器種別割合

し、器種別の割合を表したのが第151図である。ほぼ同じ時期の遺跡では、北畠氏館跡や西ヶ広遺跡でも器種別の割合が示されているが、志知南浦遺跡と北畠氏館跡の器種別の割合はそれほど変わらない。その中で気づく点といえば、「神仏具」とした花瓶・香炉・筒形容器・仏供・仏龕具などの割合がわずかに高いことである。これらすべてが「仏具」といえるかどうかは慎重にならざるを得ないが、寺院関係の墨書きや遺物の存在とあわせると、これらの出土により、発掘調査区が寺院の一角落である可能性はより高まると考えられる。

（竹田）

墨書き土器で判読できたものは18点ある。出土地点は発掘調査区の東端、すべて溝SD200もしくはSD204である。感覚的なものであるが、文字は達筆なものが多い。内面や体部に墨書きを施すものが目立つ。SD204からは8世紀後半の硯や銅帯が出土している。



第152図 大窯製品器種別割合

墨書は、すべて漢字で、二文字以上のものが多く含まれる（10点）。内容は、「畠」・「新所」・「田太」など農業あるいは税を想起させるもの、「門」・「居」など場所を表すもの、「東」など方角をあらわすもの（「戎口」もこの範疇に含まれるか）、「跡口十」・「勝口」・「弥市本」など吉祥句とも思われるもの（あるいは「田太」もこの範疇に含まれるか）がある。

（2）中世前期

墨書土器は27点出土した。発掘調査では最も多くの墨書土器が出土した時期である。すべて山茶椀あるいは陶器小椀・小皿への墨書である。型式は4型式のものが1点、5型式のものが6点、6型式のものが17点、7型式のものが4点ある。出土地点は全城に及ぶが、東半部に多く出土する。古代のものとくらべると、文字を書き慣れていないような印象を受ける。

墨書は「**匁ん匁な**」？（587）、「くらう殿」？（1158・1181）以外は漢字で、ほとんどが一字である。内容は、「二」（318・489・1612）・「六」？（1185）・「七」（1184）・「八枚」（1226）・「十」（554・623・885・1001）・「廿」（491・555・560）などの数詞が目立つ。中世前期の遺跡で漢数字を記した墨書土器は、伊勢市二見町

（5）志知南浦遺跡の中世井戸

今回の発掘調査では、18基の中世の井戸を検出した。埋土中の遺物から、中世Ⅰ期（11～13世紀）に廃絶するもの7基、中世Ⅱ期（14世紀）に廃絶するものが1基、中世Ⅲ期（15世紀～16世紀前葉）に廃絶するものが9基、中世Ⅳ期（16世紀中葉～17世紀中葉）に廃絶するものが1基ある。ただし井戸という構造の性格から、掘削から廃絶までの期間はかなり長いと思われ、所属時期が逆転しているものも含まれると思われる。

①研究史

井戸に関しての研究には宇野隆夫氏の「井戸考」[◎]がある。宇野氏は発掘調査で確認された井戸を全国規模で分析し、時期的な変遷を明らかにしたものである。県内では水谷豊氏と笠井賛治氏の論文がある。水谷氏は発掘調査で検出した井戸を集成し、その変遷を示し、笠井氏は伊賀国内の古代から中世の井戸

安義寺跡でも多く出土している。ただし志知南浦遺跡出土のものは、明瞭に漢数字と言えるものは少なく、記号と思えるものが多い。

588と885の体部には樹木・鳥・帆掛け舟？の絵が描かれる。同様のものは玉城町岩出遺跡群からも出土している。ほかに花押様のものが2点（1226・358）ある。

また山茶椀と陶器小椀あるいは小皿に同一の墨書があるもの（「くらう殿」？=1158と1181、「定」=498と426）がある。

1158と1181は判読が困難であったがひとまず「くらう殿」とした。このうち「殿」の字についてはほぼ間違いないと思われ、「殿」と呼称される人物が存在していたことを示す。1166には「僧」の墨書があるが、これは寺院の存在を想起させる。

（3）中世後期

墨書土器は激減し、わずか3点の出土にとどまる。ただしこの時期には、三重県全体で墨書土器が減少するので、志知南浦遺跡での3点は多く出土する例ともいえる。これらのうち注目すべきは、「佛」や僧侶の名前を思わせる「宗真」という墨書である。前代の「僧」墨書も含め、この地が寺院とかかわる場であったことを示すものであろうか。（竹田）

I類 素掘井戸

を集成したうえで、それらを以下のように分類し、古代の方形木組から中世後期の円形石組への流れを明らかにしている。

I類 素掘井戸

- ・ I A類=平面形が方形または長方形のもの。
- ・ I B類=平面形が円形を呈するもの。

II類 木組（製）の井戸

- ・ II A a類=横板を方形に組み合わせて井戸側としたもの。
- ・ II A b類=縦板を方形に組み合わせて井戸側としたもの。
- ・ II B a類=湾曲した縦板を円形に組み合わせて井戸側としたもの。
- ・ II B b類=曲物を積み上げて井戸側としたもの。
- ・ II B c類=一本の丸太を削りぬき、井戸側としたもの。

Ⅲ類 石組の井戸

- ・Ⅲ A類=平面形が方形を呈するもの。
- ・Ⅲ B a類=円筒形に石組を行い、井戸側とするもの。
- ・Ⅲ B b i類=井戸底の径が小さくなり水溜を設けるもので、水溜の部分が木製のもの。
- ・Ⅲ B b ii類=井戸底の径が小さくなり水溜を設けるもので、水溜の部分が木製のもの。

本項でも笠井分類をもとに、志知南浦遺跡の井戸について考察を加えたい。

②中世前期の井戸

中世前期の井戸は8基（I期7基、II期1基）確認した。このうち井戸底まで未掘で、状況を明らかにし得ないものが2例（SE202、240）ある。

井戸底まで掘削され、全容が明らかになっている6例（SE59、83、269、270、280、288）について検討する。

形態 6例のうち、素掘井戸は3例（SE269、280、288）ある。平面形はすべて円形である（笠井I B類）。残る3例はすべて縦板を方形に組み井戸側としている（笠井II A b類）。素掘、木組にかかわらず、井戸底に曲物を据えるものが多い（SE59、83、270、280、288）。

部材の抜取 SE59は掘形より一回り大きな穴が掘られ、その穴の底近くから上の縦板が残存していない。土層断面の記録がないのが残念であるが、この部分は井戸の部材の抜取穴である可能性が高い。

その他 井戸底まで未掘ではあるが、SE240の土層断面には、垂直方向の細長い砂層がみられる。津市六大火跡の13世紀末葉から14世紀初頭の井戸では、廃絶に伴う「息抜き筒」が確認されている。本遺跡のSE240にも同様の息抜き筒があった可能性を提示しておく。

屋敷地内の位置 本章第4節で設定した屋敷地のうち、I期で井戸があるのは2ヶ所、II期で井戸があるのは1ヶ所のみである。そのうちの多くは大規模な建物の近くにある。

③中世後期の井戸

中世後期の井戸は10基（III期8基、IV期2基）確認した。このうち井戸底まで未掘で、状況を明らかにし得ないものが1例（SE294）ある。

井戸底まで掘削し、全容が明らかになっている9例（SE38、42、56、58、77、78、82、217、297）について検討する。

形態 9例のうち、素掘井戸は6例（SE38、42、56、58、77、78）ある。平面形はすべて円形である（笠井I B類）。残る3例はすべて石組（笠井III B類）である。このうちの1例は井戸底の径を小さくして曲物の水溜を設けている（笠井III B b ii類）。

部材の抜取 中世前期のように、部材の抜取が確認できるものはない。石材の抜取と再利用は視野に入れておく必要がある。

その他 SE82は掘形掘削後、石組構築前もしくは構築中に基盤層にむけて木杭（1316～1321）を打ち込んでいる。木杭はマツ材のものが多いが、マツ材の杭は井戸以外の造構からも出土（1134など）しており、マツ材の杭を選択して使用しているのかどうかは確認できない。SE297にも同様の杭がみられる。

屋敷地内の位置 本章第4節で取り上げた屋敷地のうち、III期で井戸があるのは3ヶ所、IV期で井戸があるのは1ヶ所のみである。

④まとめ

今回の発掘調査で確認した井戸からは以下のようなことが言えよう。

第一は素掘の井戸が中世の前期・後期に問わず多く存在するということがあげられる。志知南浦遺跡で検出した素掘井戸はすべて平面が円形のもの（笠井I B類）であった。笠井氏の伊賀国での集成でも、平面形が方形の素掘井戸（笠井I A類）は古代に多く（古代3例、近世1例）、円形の素掘井戸は中世に多い（古代2例、中世6例）という傾向が示されている。志知南浦遺跡の素掘井戸でも、同じような傾向があることが確認できる。

第二は、志知南浦遺跡の中世前期では、素掘井戸以外には、縦板を方形に組み井戸側（笠井II A b類）とし、底に曲物を据えるものが一般的ということがあげられる。笠井氏の集成では中世前期には様々な形態の井戸が出現する。しかし志知南浦遺跡ではII A b類のみしかみられず、この形態のものが志知南浦遺跡の中世前期の井戸を代表するものと位置づけられる。

第三は、石組井戸が中世後期にならないと出現しないことがあげられる。笠井氏の集成では、伊賀国では石組井戸は平安時代末には出現し、13世紀には普遍化すると指摘されているが、志知南浦遺跡では石組井戸の採用時期は若干下るようである。

第四は、S E 59でみられたような部材の抜取と再利用が確実に存在することがあげられる。井戸の内には安全面の配慮から底まで掘削せず、上部のみで井戸の構造を判断している場合がある。しかし井戸の上部の埋土のうちのいくつかは抜取穴のもので、上部に木組や石組がないからといって素掘井戸との判断を下すことは早計であることを指摘しておく。

第五は、S E 240や六大A遺跡にみられた「息抜き筒」や、S E 82・297にあったような基盤層に打ち込まれた杭の存在である。これらは確認できる例が少なく、基盤層への杭の打ち込みが何のためにな

されていたのかは現時点では不明と言わざるを得ない。今後の類例の増加により、それらの課題が解決できることに期待したい。

第六は、屋敷地での井戸の有無、建物との関係に時期的な変遷があることである。中世前期には、屋敷地の大規模な建物の近くに造られるが、中世後期には建物との関係が希薄になる。これは井戸の性格に変化が生じたことを示している可能性がある。

中世Ⅲ期には井戸は3つの屋敷地に存在するが、Ⅳ期になると1つの屋敷地にしかみられなくなる。本章第4節では、中世Ⅲ期には屋敷地間の格差はそれほど顕著でなかったが、中世Ⅳ期になると屋敷地間に格差が生じることを示した。Ⅳ期に井戸が存在するのは最も卓越すると考えられる屋敷地であり、井戸の有無からも屋敷地間の格差を窺うことが可能である。
(竹田)

(6) 井戸 S E 5 8出土の石仏について

志知南浦遺跡の中世後期の井戸 S E 5 8からは、砂岩製の石仏（1299）が出土している。この石仏とほぼ同系のものが、伊坂城跡（四日市市伊坂町）で

も出土している。発掘調査での出土例は、この2つであるが、旧朝明郡（四日市市北部）・員弁郡（いなべ市・桑名市西部）・桑名郡（桑名市・木曾岬町）



第153図 石仏実測図(1:4)

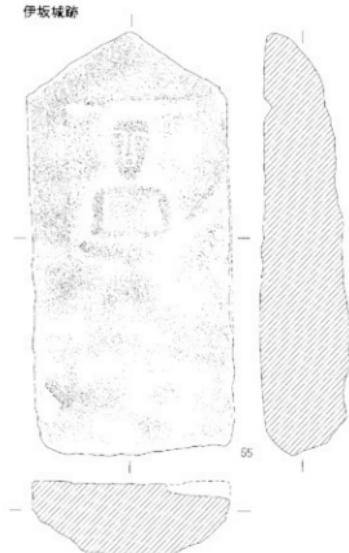




写真14 蓮敬寺前石仏



写真15 八幡神社境内



写真16 八幡神社境内



写真17 阿下喜石仏



写真18 阿下喜石仏



写真19 阿下喜石仏



写真20 飯倉石仏



写真21 飯倉石仏

にはほぼ同形の石仏が広く分布している。現在のところ、紀年銘のものは確認されておらず、所属時期が明らかでなかった。そこで本遺跡の石仏とその共伴遺物をもとに、所属時期を検討してみたい。

志知南浦遺跡例 志知南浦遺跡出土の石仏（1299）は、中世後期の井戸（S E58）から出土した。青緑色の、細粒で硬質の砂岩を板状に割って作製されている。上部を三角形に尖らせ、表面を丁寧に仕上げ、浅く長方形に彫り込んで内部に像を陽刻する。像は肩が張り、目・鼻・口や腕が線刻される。（第153図）同一遺構からは、瀬戸美濃製品（1294～1296）、常滑製品（1297）、石臼（1300）が出土している。細片も含めた最新の遺物は、大室第3段階後半の擂鉢（1296）である。藤澤良祐氏の瀬戸美濃製品の編年によると、井戸の埋没時期の上限は1570年代後半から1580年代末と考えられる。

伊坂城跡例 伊坂城跡出土のもの（伊坂城跡報告書55）は、城跡内の屋敷地3内に遺物包含層から出土した。志知南浦例は上半部のみしか残存していないが、伊坂城跡例はほぼ完形で、全体の形状や像容がわかる。志知南浦例とくらべると、やや幅が狭いが、石材・製作技法は志知南浦例と同一である。像は上半部にのみ彫られ、下半部には何も彫られていない。仏は坐像で、体の正面で合掌している。（第153図）

伊坂城跡例は、遺物包含層からの出土例であり、厳密な所属時期は明らかにはできないが、17世紀には屋敷地は廃絶していたとみられ、石仏はそれ以前のものである可能性が高い。

周辺の諸例 志知南浦遺跡に隣接する蓮華寺前の小祠には、数基の五輪塔とともに石仏1基が祀られる（写真14）。上部がコンクリートで固められているが、志知南浦例、伊坂城跡例と同系のものである。

伊坂城跡に近い四日市市平津町の八幡神社境内の小祠内には、石仏2基が祀られている。このうちの1基（写真15）は志知南浦・伊坂城跡例と同系のものである。同じ祠内には異系統の石仏（写真16）もある。

員弁川上流のいなべ市北勢町阿下喜の「米藤」前には、数基の五輪塔とともに3基の石仏が祀られる。このうちの2基（写真17・18）は志知南浦・伊坂城跡例と同系である。周囲には2尊が彫られているもの（写真19）もある。

さらに上流のいなべ市北勢町飯倉の小祠内にも、石造地蔵菩薩坐像、五輪塔などとともに、2基の石仏が祀られる（写真20・21）。これらも志知南浦・伊坂城跡例と同系のものである。

まとめ 北伊勢の各地に志知南浦遺跡出土のものと同系の石仏が分布することを明らかにできた。それとともに、今回の発掘調査成果により、その所属時期の一端を16世紀末におくことができるることを確認することができた。これまでの調査は、いなべ市・桑名市・四日市市の一部のみであり、今後の調査により紀年銘をもつ資料が発見される可能性が残っている。調査が進み、より詳細な分布状況や所属年代を決定できる資料が確認できることに期待したい。

（竹田）

【註】

- ①『牛牧遺跡』財团法人愛知県教育サービスセンター、愛知県埋蔵文化財センター、2001年
- ②矢野健一『非縦状集落地城』（『季刊考古学』第69号 雄山閣出版株式会社、1999年）
- ③『宮山遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、1999年
- ④ただし、土器棺墓の中には、掘形が存在しないものもある。
- ⑤中村健二「墓性の変遷」（『関西の绳文墓地－葬り葬られた関西绳文入－ 発表要旨集』関西绳文文化研究会、2000年）
- ⑥『山添遺跡（第3次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2003年
- ⑦前田清彦「土器棺墓から見た伊勢湾周辺地域の墓性」（『突帯文土器から柔痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における绳文文化的解体と弥生文化の始まり－』第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会突帯文土器研究会、1993年）
- ⑧『丸野・中谷遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2003年

1993年

- ⑨中村健二「土器棺墓よりみた近畿地方绳文晚期後半の地城色について」（『滋賀考古』第10号 滋賀考古学会、1993年）
- ⑩前掲註⑦と同じ。
- ⑪川添和曉「棺の構造からみた绳文晚期葬送研究について－近畿・東海・中部高地・北陸地方を中心に－」（『関西绳文時代の墓葬・墓地と生業』関西绳文論集1』関西绳文文化研究会、2003年）
- ⑫ここでは、正立しているものの立位として扱う。
- ⑬前田清彦氏の分類I A・I B類に該当する。
- ⑭前田清彦「土器棺墓から見た伊勢湾周辺地域の墓性」（『突帯文土器から柔痕文土器へ－伊勢湾周辺地域における绳文文化的解体と弥生文化の始まり－』第1回東海考古学フォーラム豊橋大会実行委員会突帯文土器研究会、1993年）
- ⑮『丸野・中谷遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2003年

- ⑨『天花寺丘陵内遺跡群（第8次）、総括～天花寺丘陵発掘調査報告 VI』三重県埋蔵文化財センター、2005年
※『関西の鍍文墓地 資料集』にて類例を探したが、確認できなかった。
- ⑩福田哲也「佐東市阿形町・岡本町周辺の条里造構について」（『Mie history』vol.7 三重歴史文化研究会、1994年）
- ⑪『前進遺跡発掘調査報告 第2分冊』三重県埋蔵文化財センター、2005年
- ⑫城ヶ谷和広「東海地方の古代煮炊具の様相と諸問題」（『鍋と甕 そのデザイン』東海考古学フォーラム、1996年）
- ⑬員弁町に奴女里福古窯跡出土の須恵器の中には、褐色を呈するものが存在する。
小笠文裕「員弁郡奴女里福古窯跡出土須恵器－大安町郷土資料館所有的遺物－」『一般国道475号東海環状自動車道埋蔵文化財発掘調査概報 II』三重県埋蔵文化財センター、1996年
- ⑭堀越光伸「藤原実重難感」（『三重県史研究』第7号、1991年）、田中伸一「藤原実重の素性と信仰」（『研究紀要』第1号、四日市市立博物館、1993年）、石神教親「『作善日記』からみた多度」（『三重県史研究』第18号 三重県、2003年）
- ⑮『伊坂城跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2003年
『西ヶ広遺跡（第3・4次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2006年
『大会遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2007年
『三寺地内遺跡群発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2006年
⑯前掲註印と同じ。
- ⑰ただし北畠氏館跡では、1.044点/m²という出土量である。
- ⑱藤澤真祐「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通－研究の現状と課題－」（『昭和・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品 資料集』（但）瀬戸市埋蔵文化財センター、2001年）
- ⑲宇野隆夫「井戸考」（『史林』65巻第5号、1982年）
- ⑳水谷豊「石組井戸と木組井戸－一三重県内の資料からみたその使い分け－」（『研究紀要』第8号、三重県埋蔵文化財センター、1999年）
- ㉑笠井賀治「伊賀地域の古代・中世の井戸についての覚書」（『伊賀市文化財年報2』伊賀市教育委員会、2006年）。
- ㉒『六大A遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2002年
- ㉓『伊坂城跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2003年
- ㉔石材については、愛知県埋蔵文化財センター堀木真美子氏のご教示を得た。

写 真 図 版



調査前風景（北から）



調査区遠景（西から）

写真図版2



調査区遠景（東から）



調査区遠景（北から）

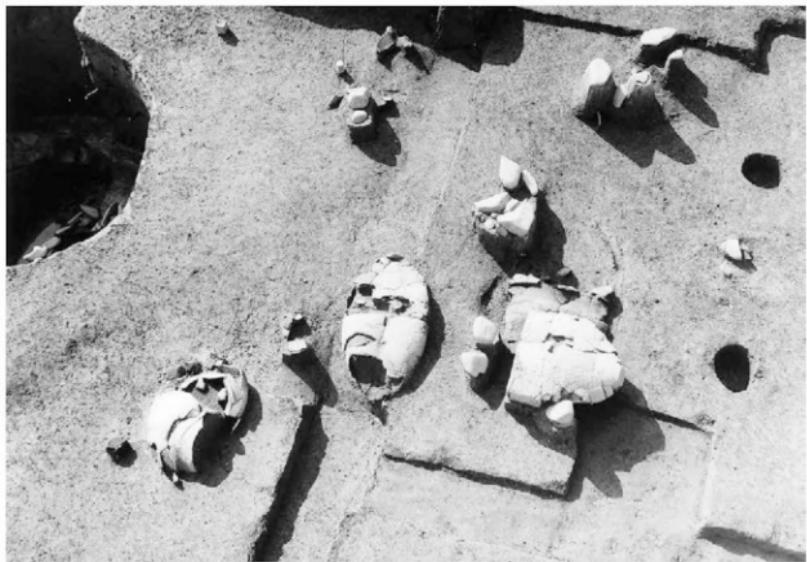


調査区遠景（西から）

写真図版4



調査区遠景（北西から）



土器棺墓集中（SX106・107・108・129）（北から）

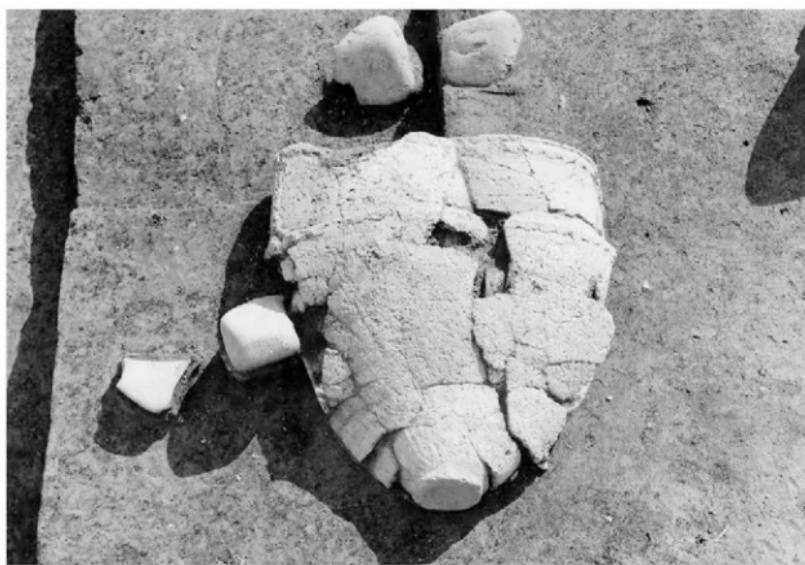


土器棺墓集中（SX106・107）（西から）

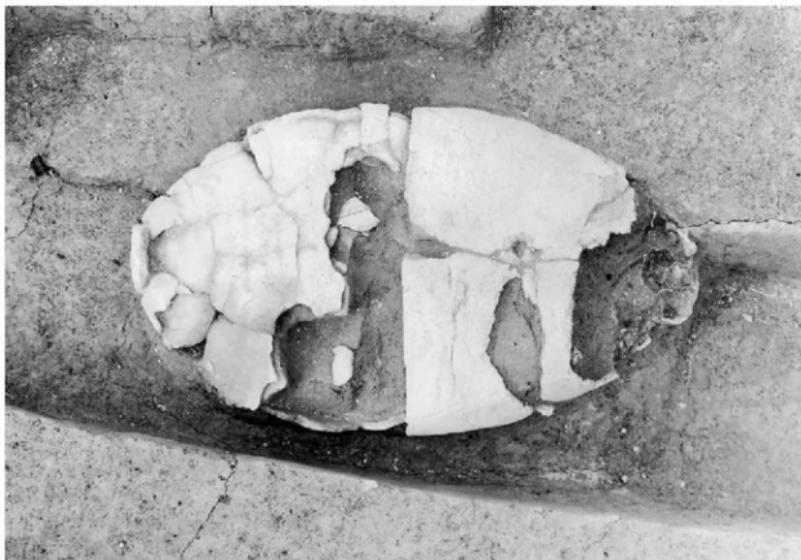
写真図版6



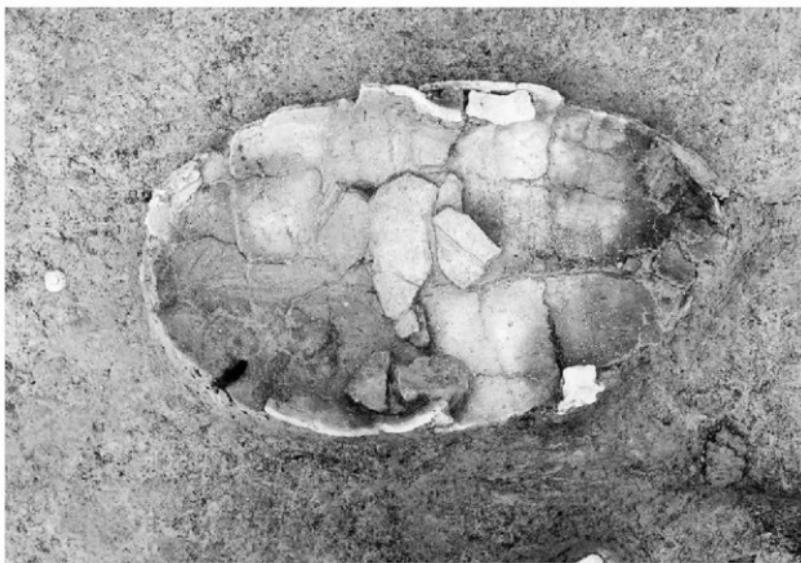
S X 105 (東から)



S X 106

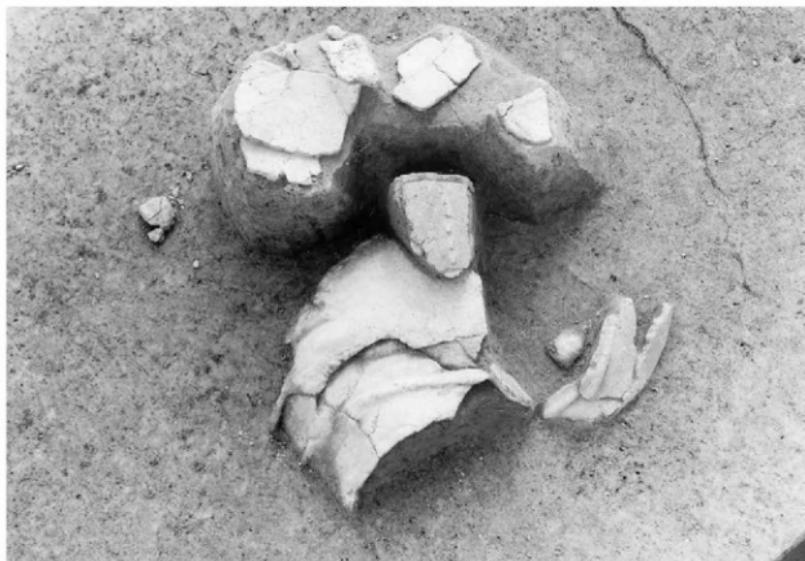


S X 107 (東から)



S X 107 (東から)

写真図版8



SX108 (西から)



SX108 (西から)

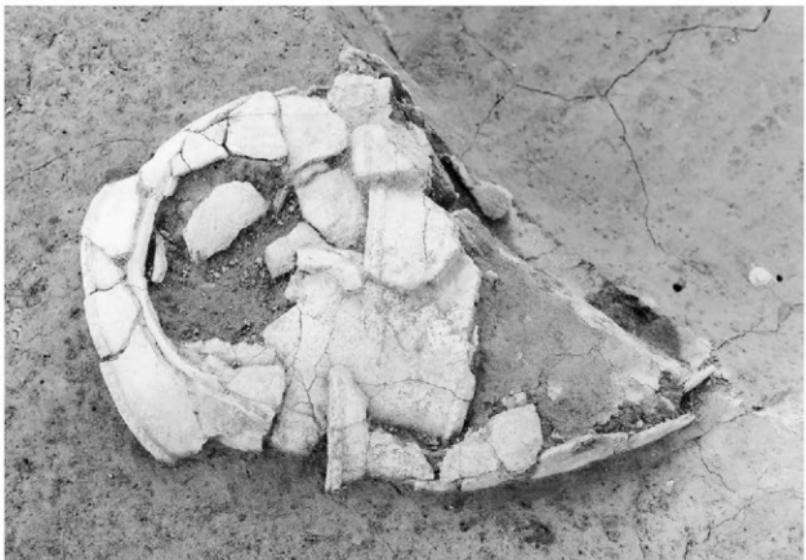


S X 111 (北から)

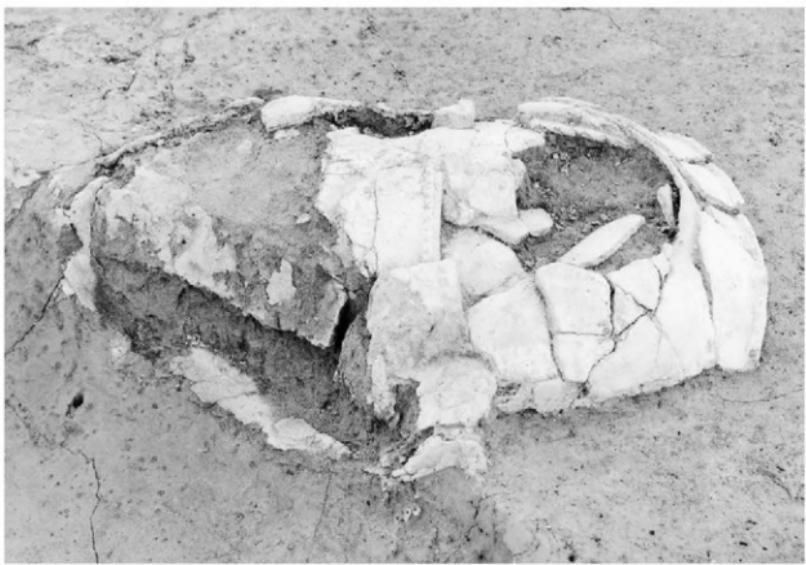


S X 111 (南から)

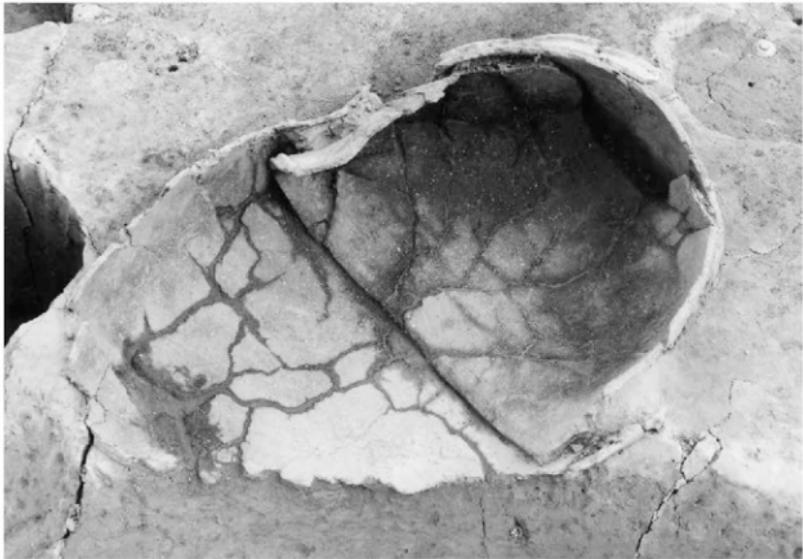
写真図版10



S X 109 (東から)



S X 109 (南から)



S X 109埋土除去状況（西から）



S X 109深鉢倒立状況（西から）

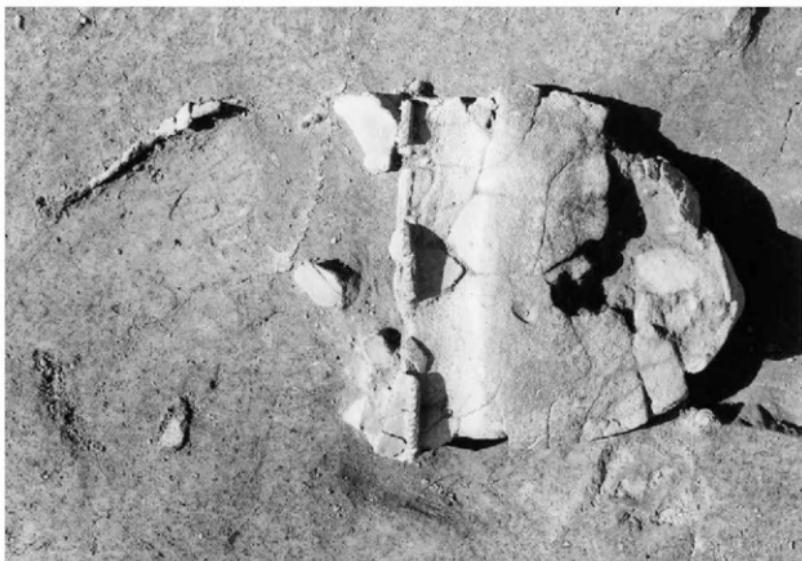
写真図版12



S X 113 (西から)



S X 114 (西から)



S X 129 (西から)



S X 129 (西から)

写真図版14



S Z 130 (南から)



S K 115 (東から)



S K 120 (東から)



S K 120石刀 (86) 出土状況 (北から)

写真図版 16



S K 124 (南から)



S K 231 (西から)



区画全景



区画全景（南から）

写真図版18



区画全景（東から）



区画全景（東から）

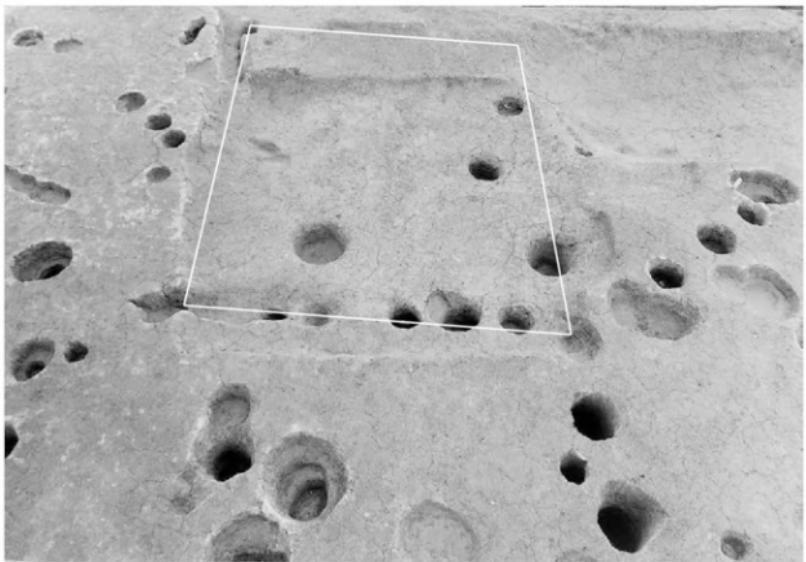


区画全景（西から）



山茶瓶出土状況（1600）（北から）

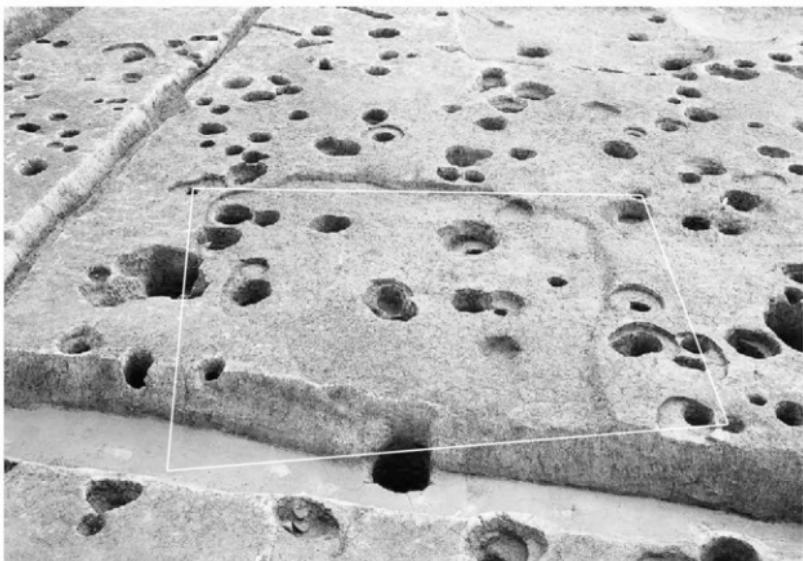
写真図版20



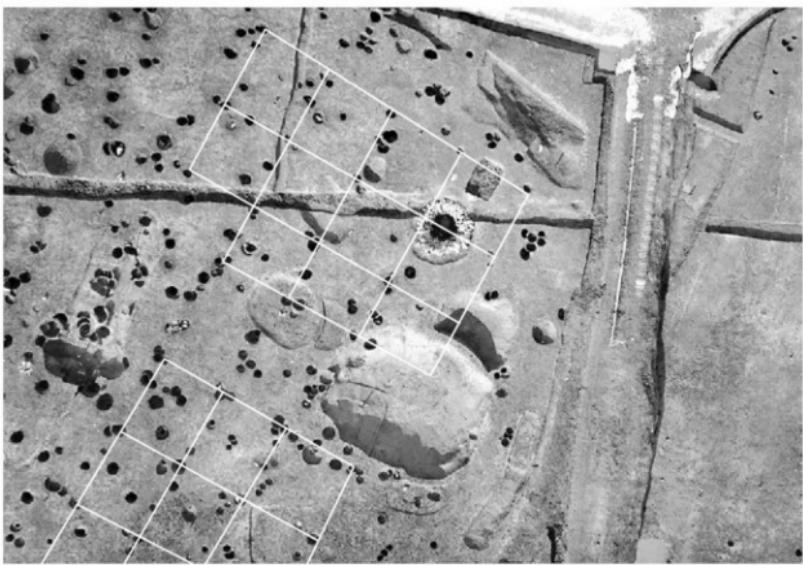
S B 164、S K 24・25 (西から)



S K 91 (南から)



S B 196、S K 18（西から）



S B 296・334

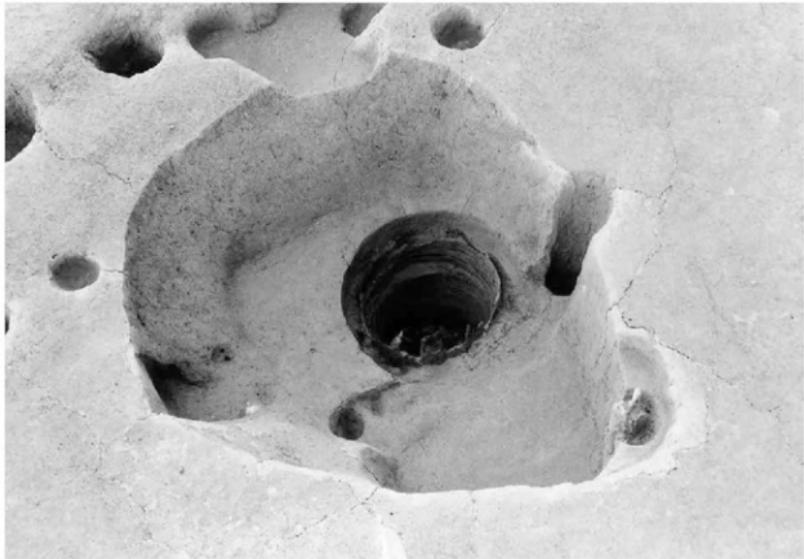
写真図版22



S E 59 (西から)



S E 59 (南から)



S E 59 (北東から)



S E 83 (南から)

写真図版24



S E 83 (東から)



S E 83 (東から)



S E 83 (南から)

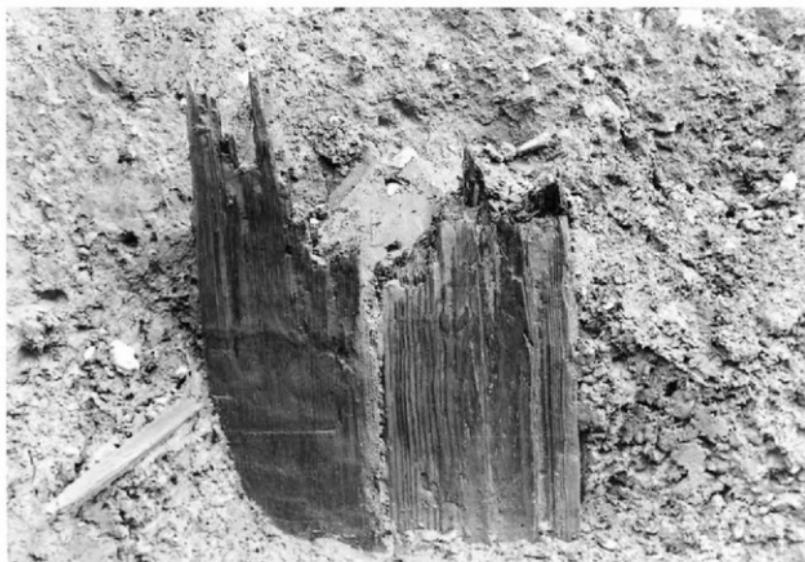


S E 83 (南から)

写真図版26



S E 83 (南から)



S E 202 (西から)



S E 269・288 (北から)



S E 269鹿角 (636) 出土状況

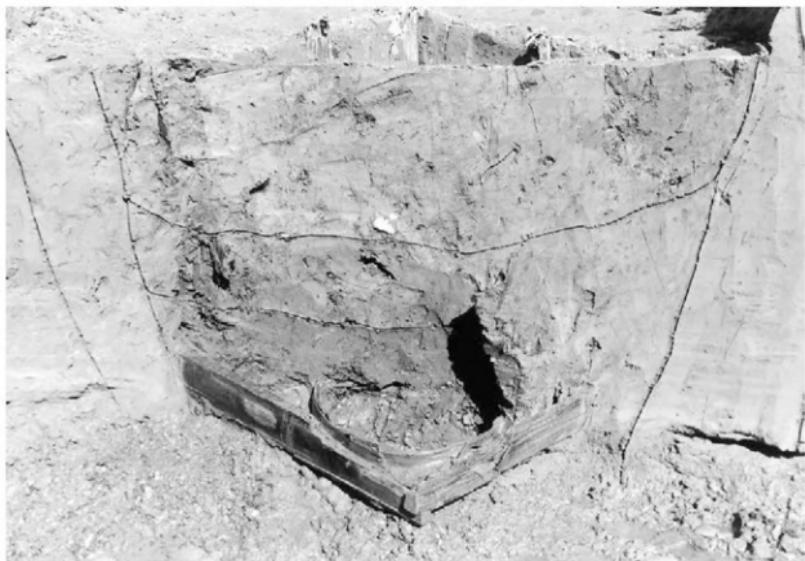
写真図版28



S E 288遺物出土状況 (542・586・588)



S E 288曲物 (542) 出土状況 (南から)



S E 270 (南から)



S E 270 (南から)

写真図版30



S D 268出土状況 (443・444・463～466・486) (南から)



S X 8 (639) (南から)

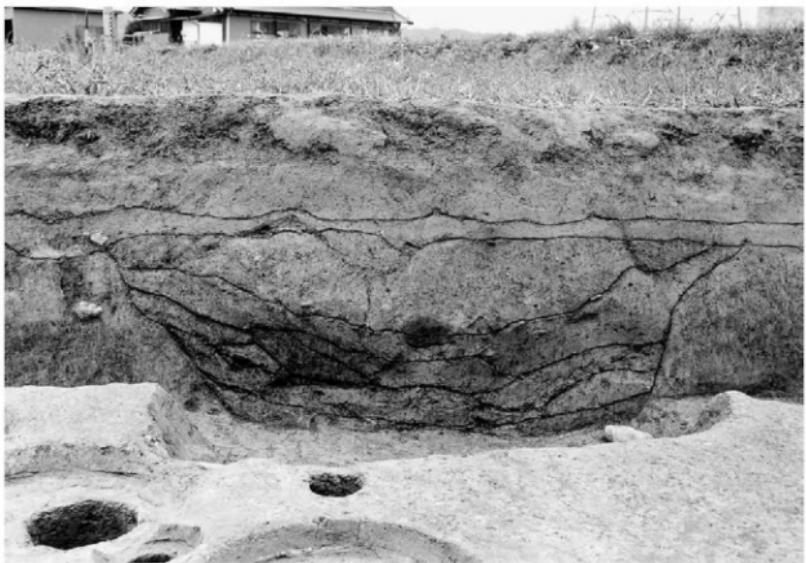


S.B.140、SK.4 (東から)



S.B.148、SK.12・13 (北から)

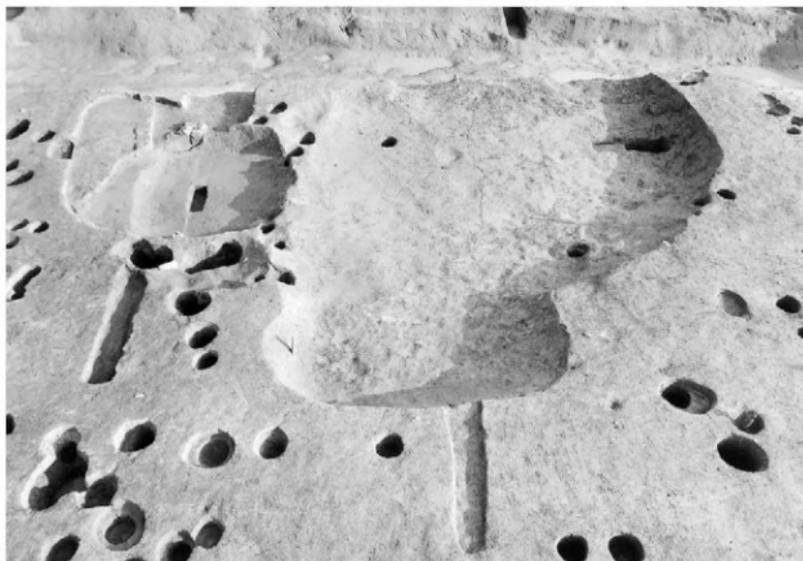
写真図版32



S K 10土層断面（北東から）



S K 20下駄（711）出土状況（南から）



S K72・79 (西から)



S K249 (北から)

写真図版34



SD 1土層断面（北から）



SD 22遺物出土状況（南から）



中世後期屋敷地（北西から）



S D 40（南から）

写真図版36



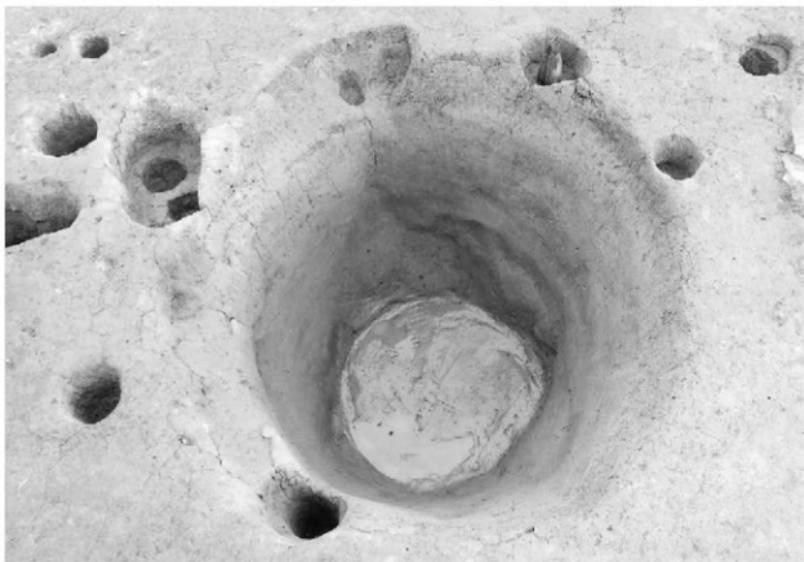
S D 35曲物 (793) 出土状況 (西から)



S D 40出土状況 (西から)



S E 38 (西から)



S E 42 (東から)

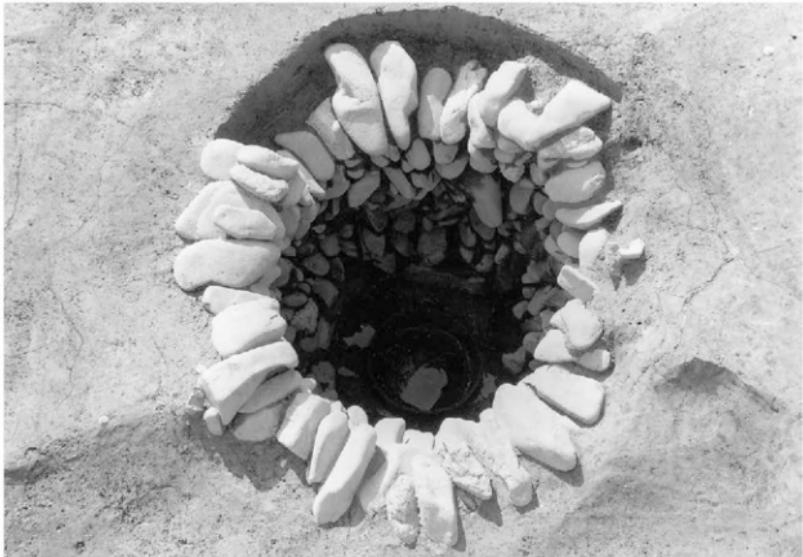
写真図版38



S E 56 (東から)



S E 58 (西から)



S E 82 (北から)



S E 82 (東から)

写真図版40



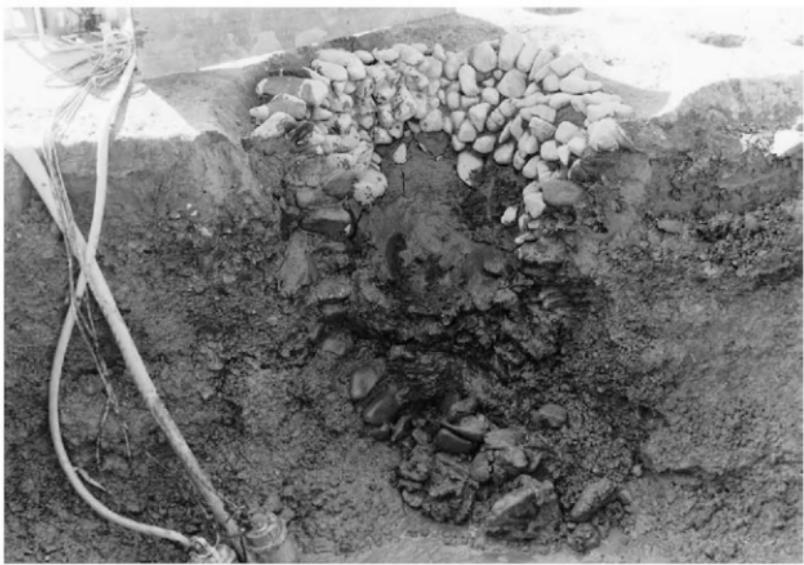
S E 82 (西から)



S E 82付近 (南から)

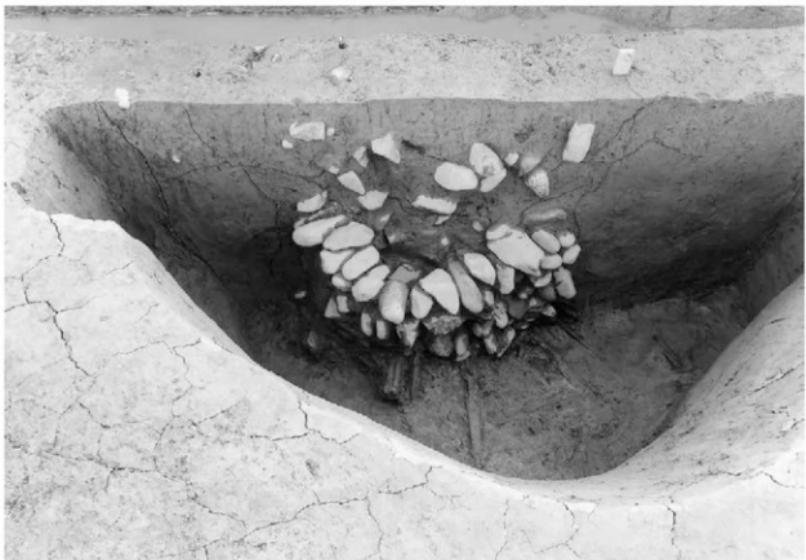


SE 217 (北から)



SE 217 (北から)

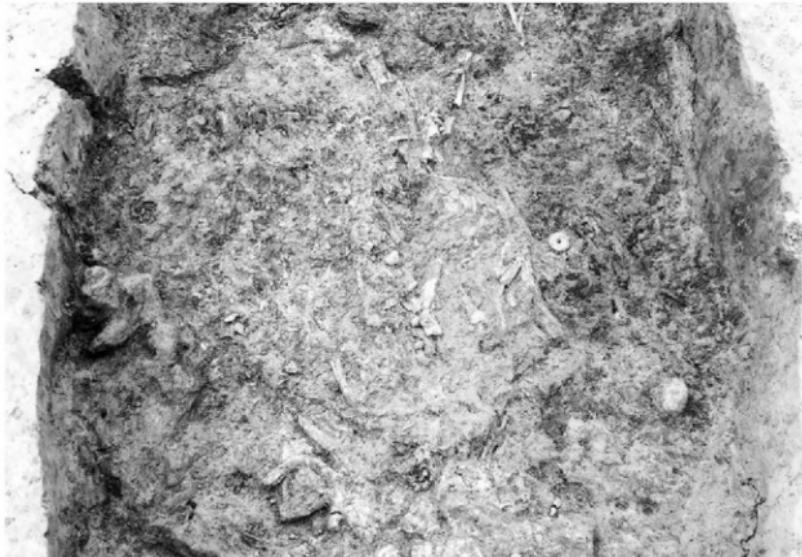
写真図版42



S E 297 (東から)



S X 218 (西から)



S X218 (北から)



S X218銭貨取り上げ後（南から） 炭化布片（881）が見える

写真図版44



1



2



4



5

出土遺物①



7



10



13



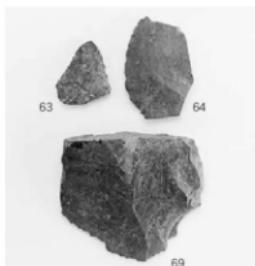
16

出土遺物②

写真図版46

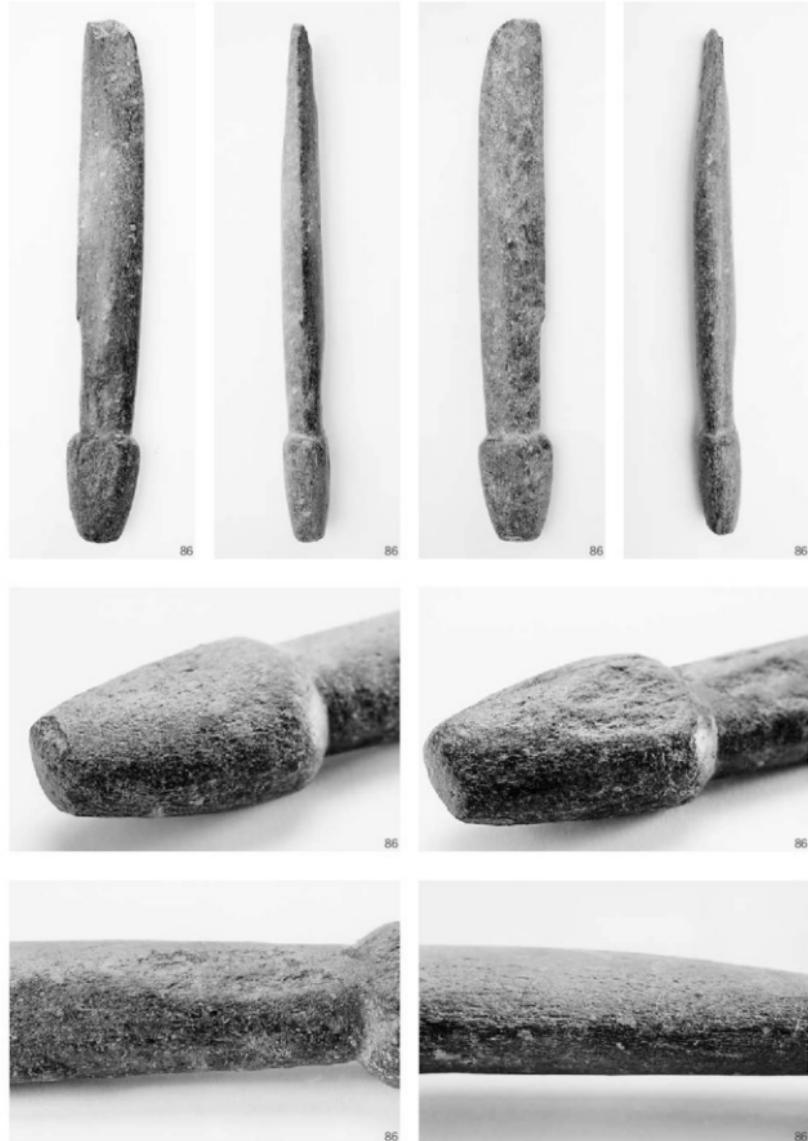


出土遺物③



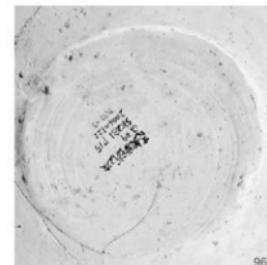
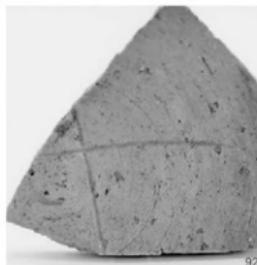
出土遺物④

写真図版48



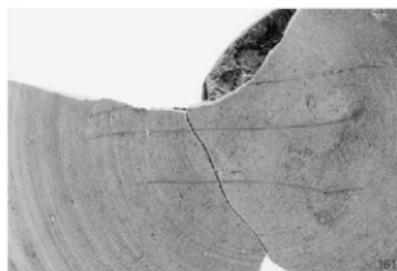
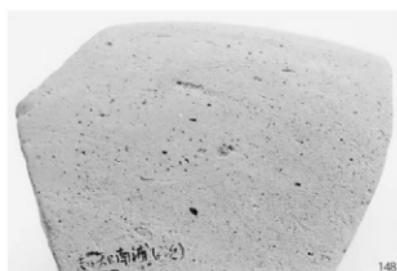
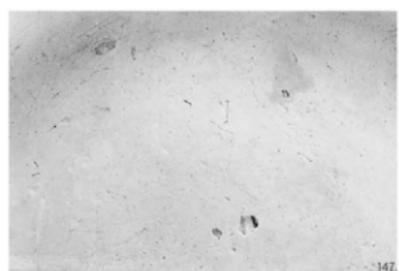
出土遺物⑤

写真図版49



出土遺物⑥

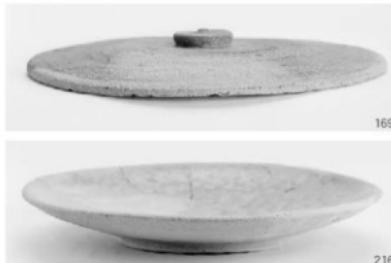
写真図版50



出土遺物⑦



163



169



216



173



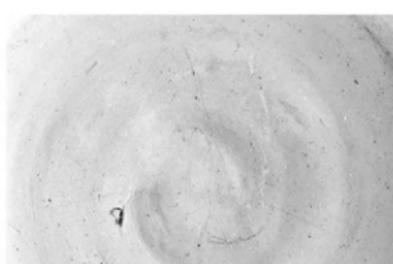
174



177



183



192



195

出土遺物⑧

写真図版52



197



199



200



202



208



212



218



219

出土遺物⑨



223



224



235



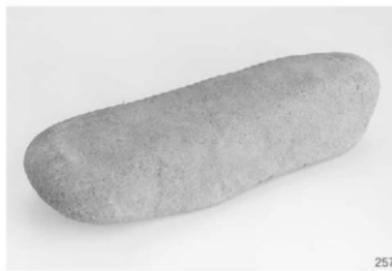
244



246



247



257



249



249

出土遺物⑩

写真図版54



268



290



303



307



312



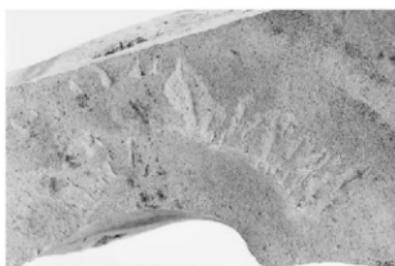
314



319

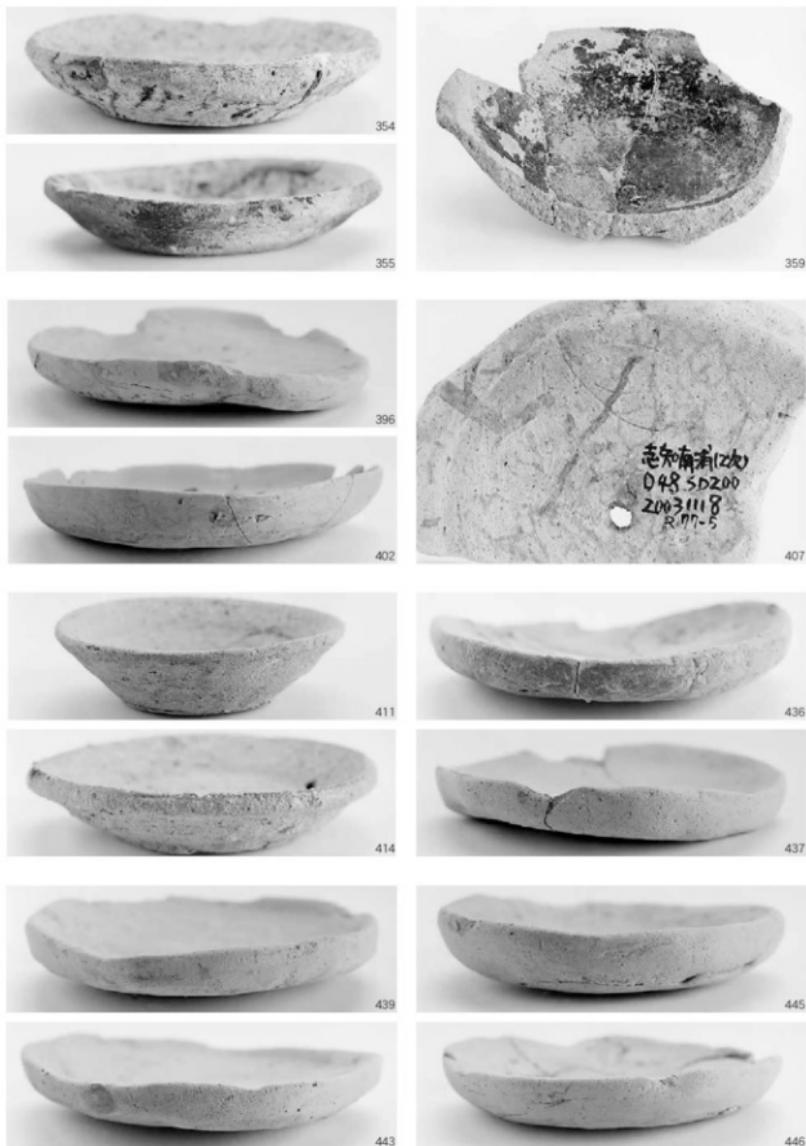


328



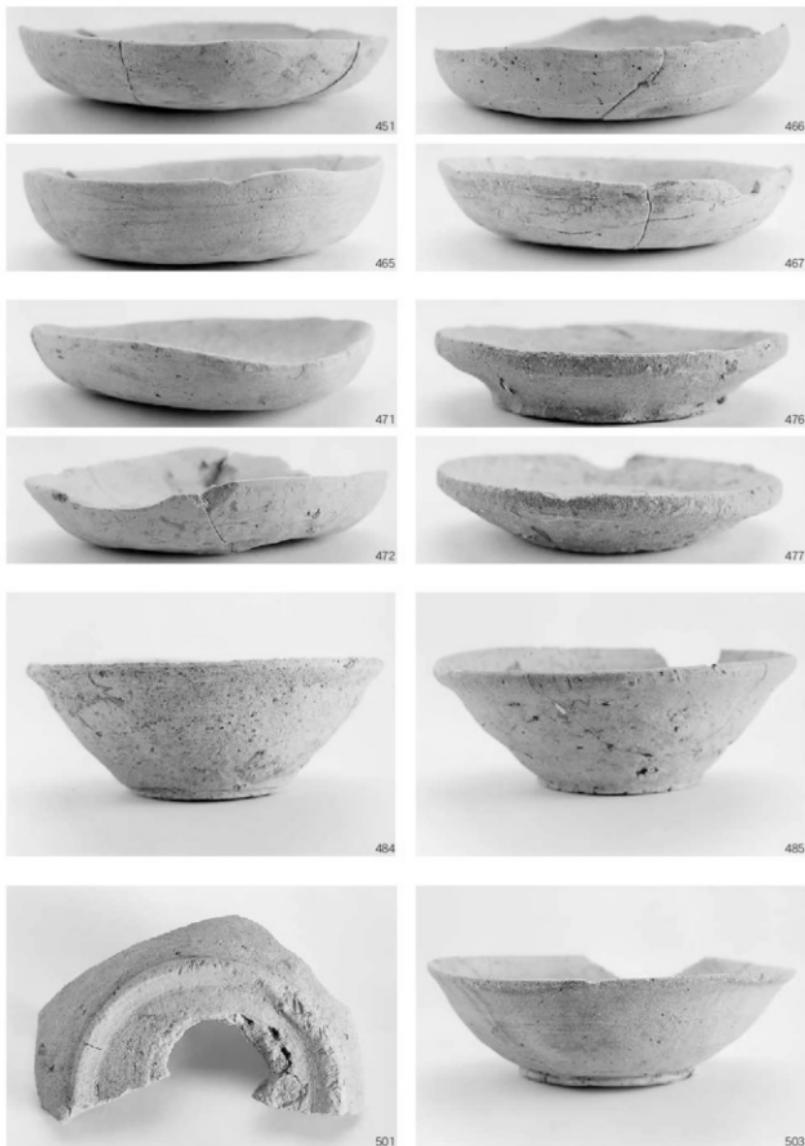
346

出土遺物①

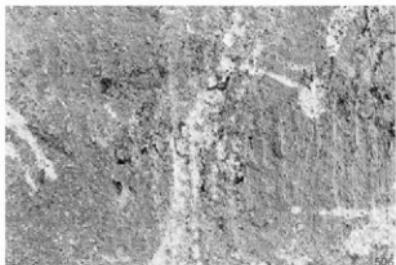


出土遺物⑫

写真図版56

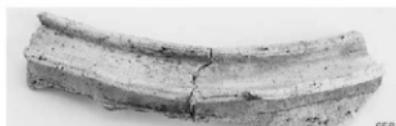
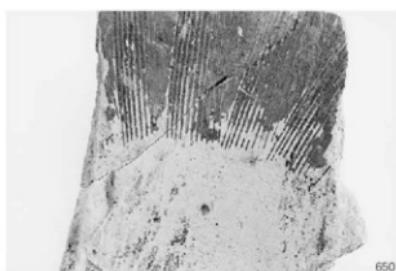
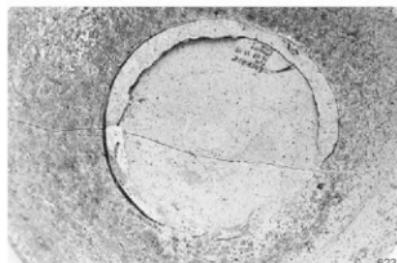


出土遺物⑬

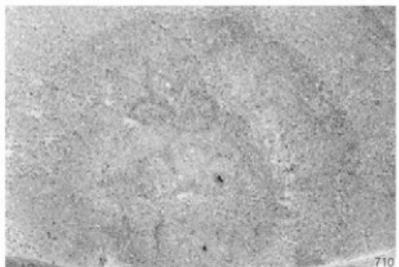


出土遺物④

写真図版58



出土遺物⑯



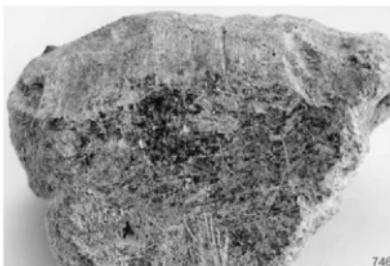
710



718



730



746



774



787



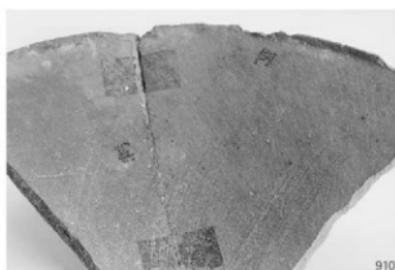
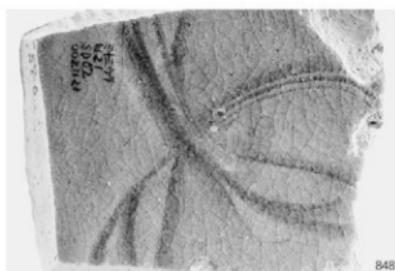
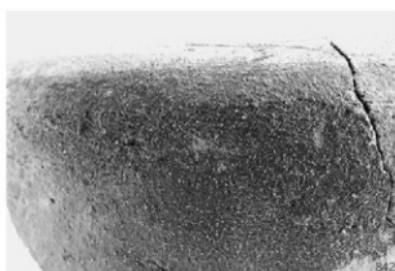
788



789

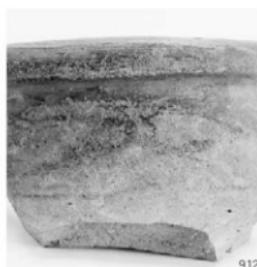
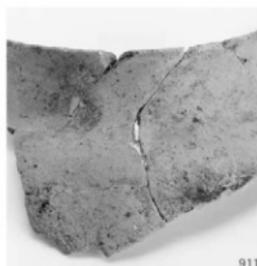
出土遺物⑯

写真図版60



出土遺物⑪

写真図版61



出土遺物⑩

写真図版62



930



937



931



938



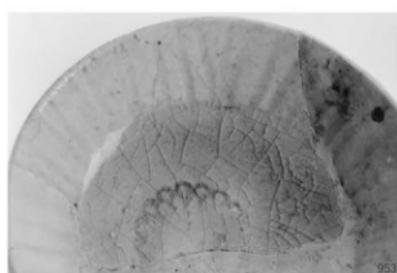
950



952



953



953



954

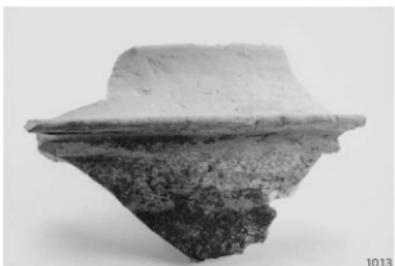


961

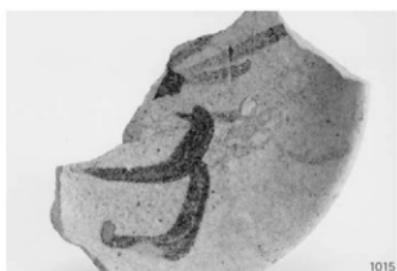
出土遺物⑩



964



1013



1015



1020



1033



1054



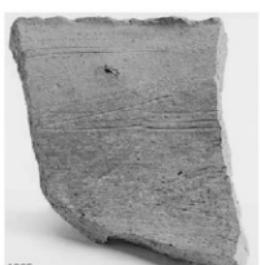
1057



1073

出土遺物②

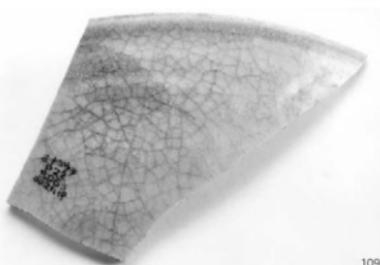
写真図版64



出土遺物②



1093



1099



1100



1101



1103



1104



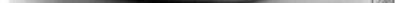
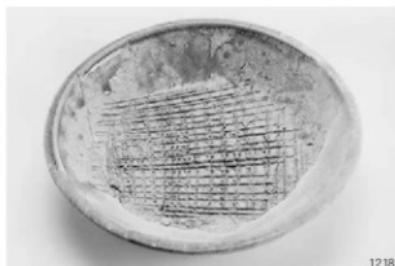
1198



1206

出土遺物②

写真図版66



出土遺物23



1262



1265



1278



1303



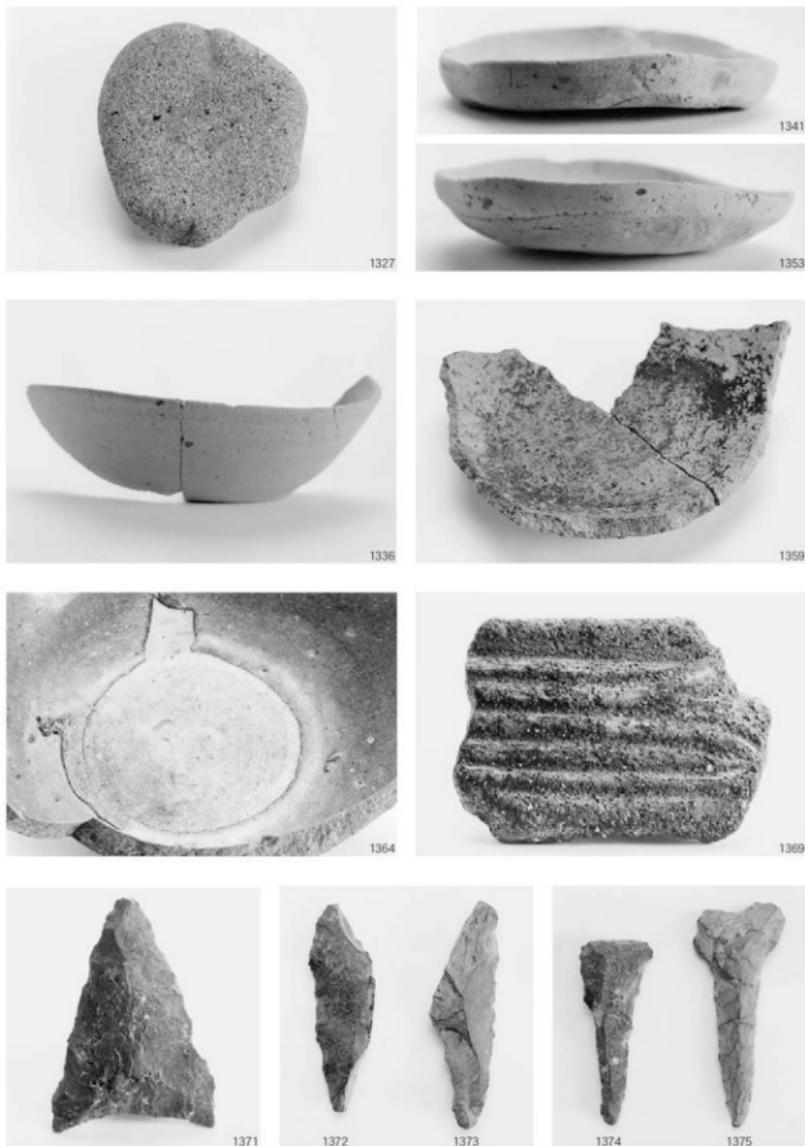
1299



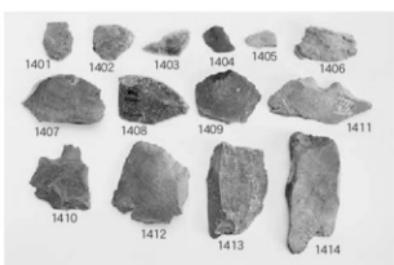
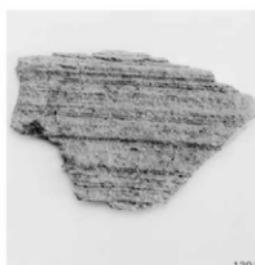
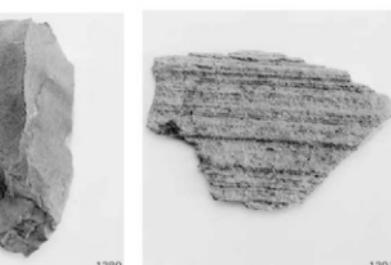
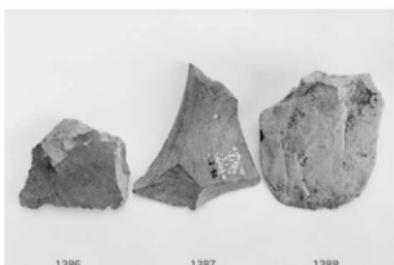
1300

出土遺物28

写真図版68



出土遺物②



出土遺物②

写真図版70



出土遺物⑦

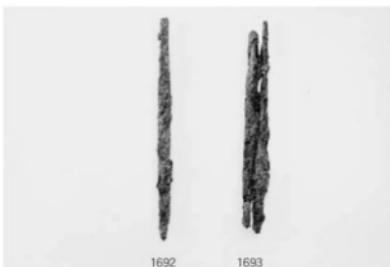
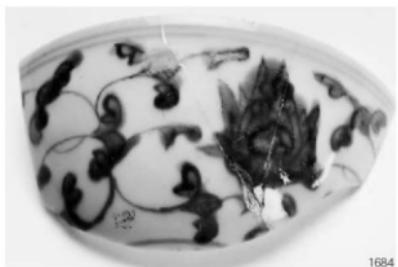
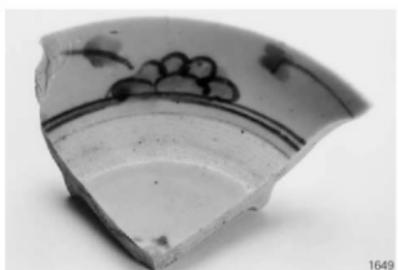


出土遺物28

写真図版72

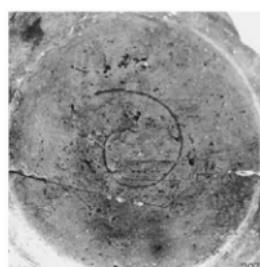
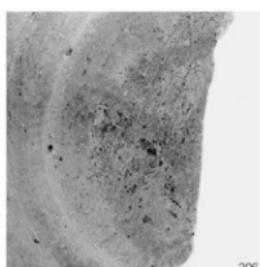
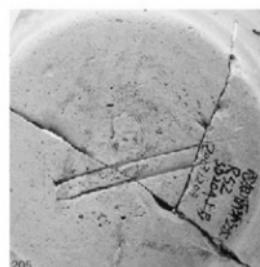
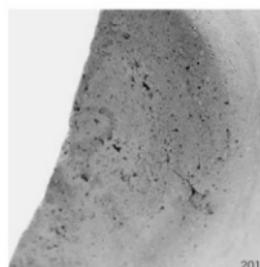
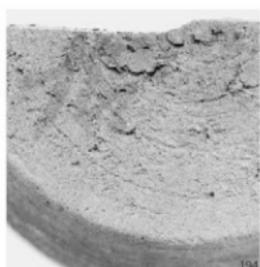
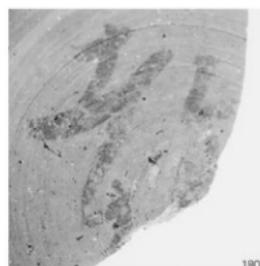
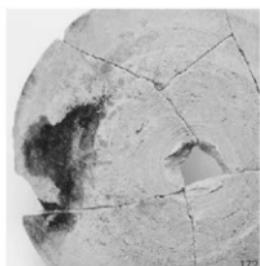
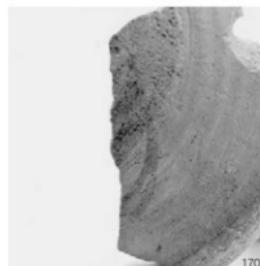
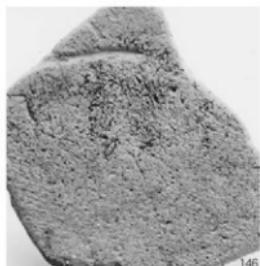


出土遺物29

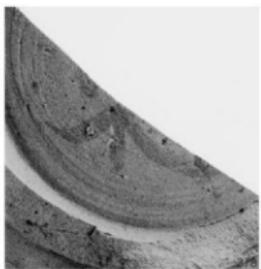
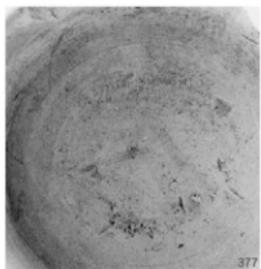
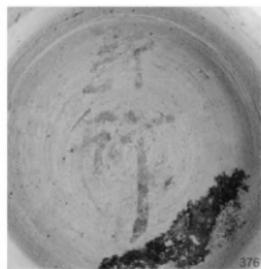
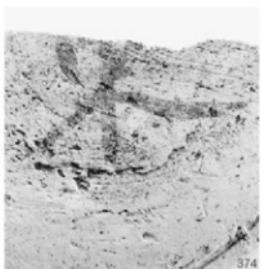
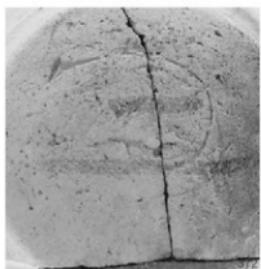
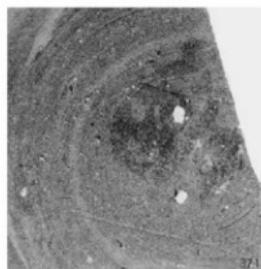
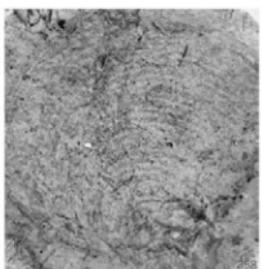
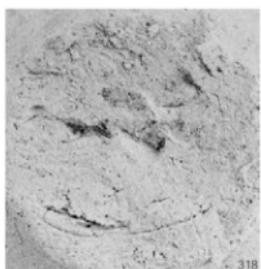
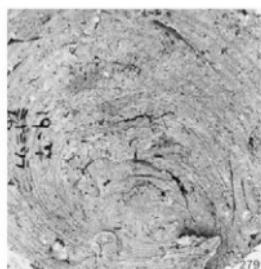
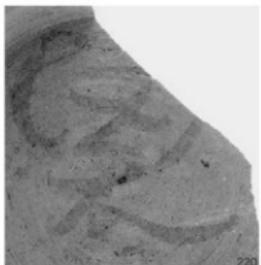
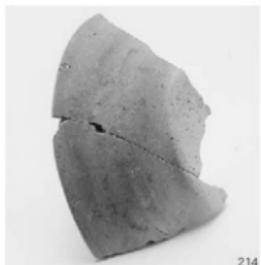
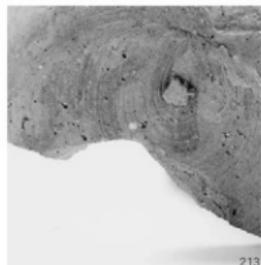


出土遺物⑩

写真図版74

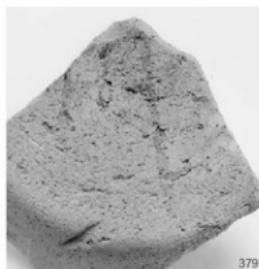


出土遺物③

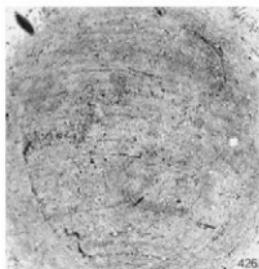


出土遺物

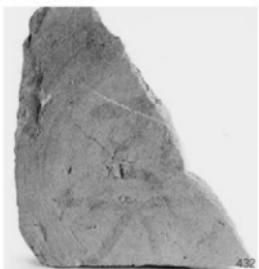
写真図版76



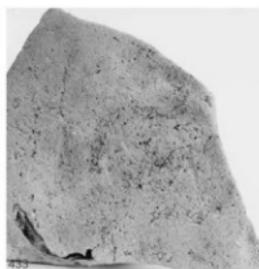
379



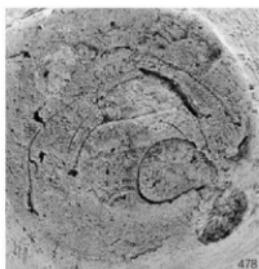
426



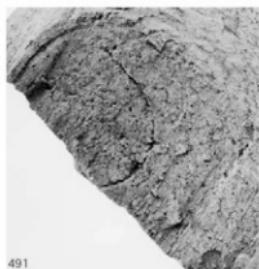
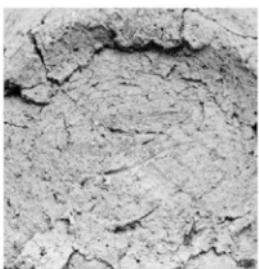
432



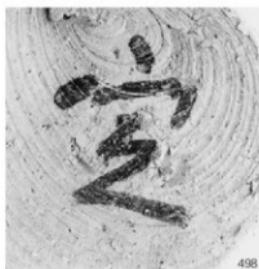
493



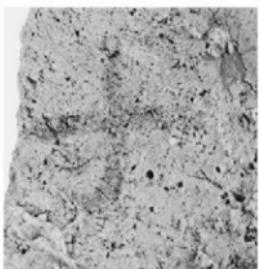
478



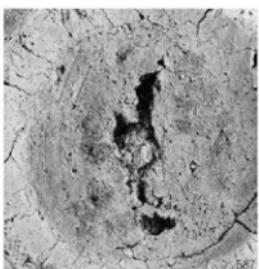
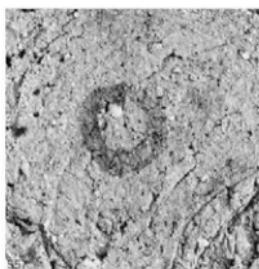
491



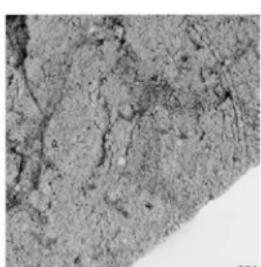
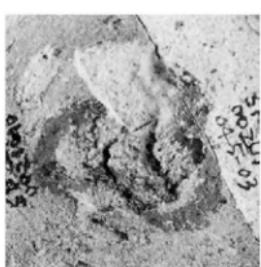
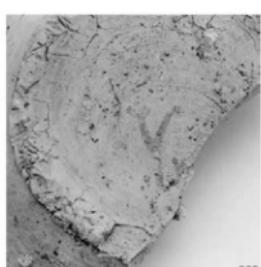
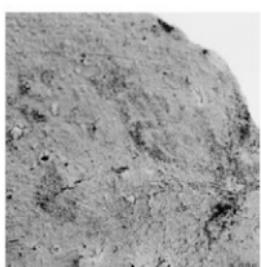
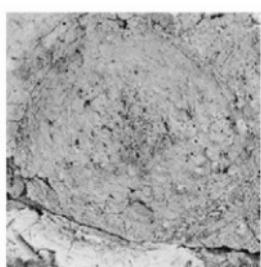
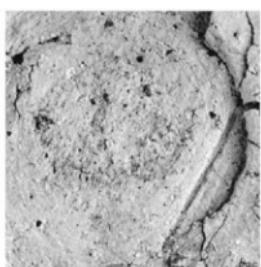
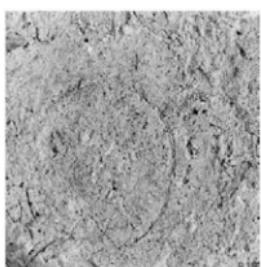
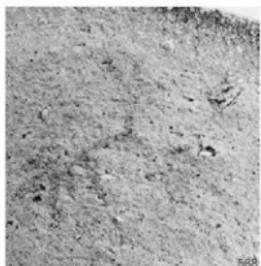
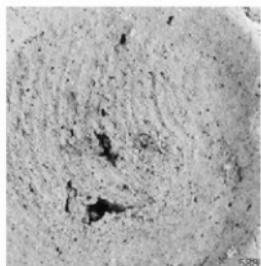
498



出土遺物33

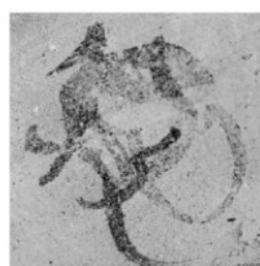
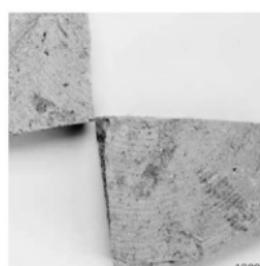
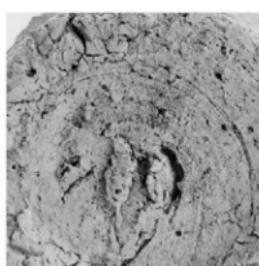
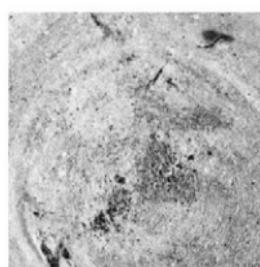
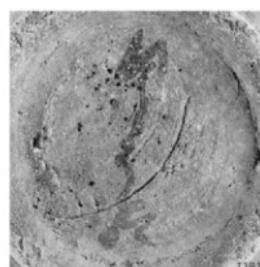
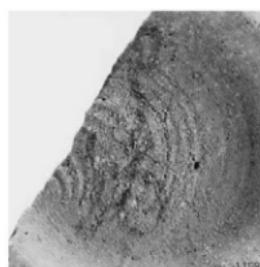
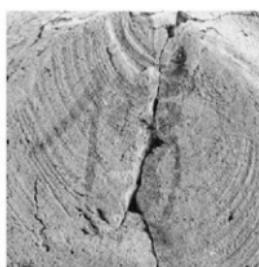
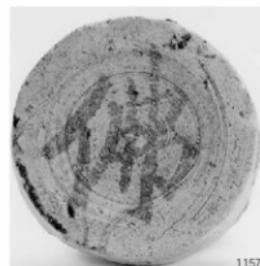
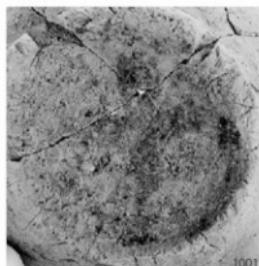


587

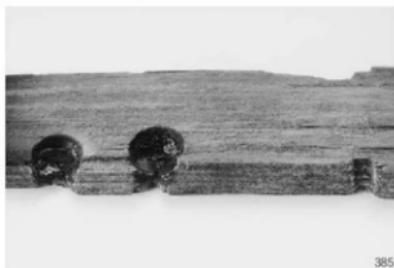
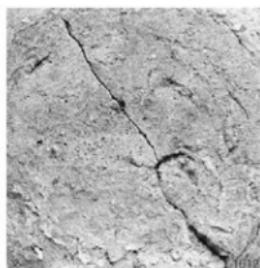
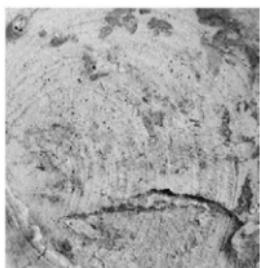
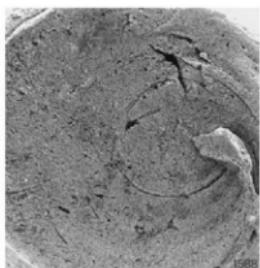
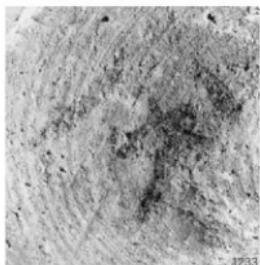
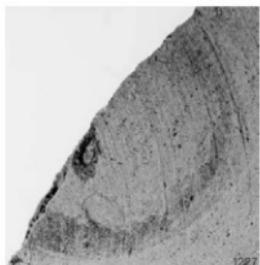


出土遺物77

写真図版78



出土遺物35



385



388



390



514

出土遺物39

写真図版80



512



522



515



517



523



529



534

出土遺物③



出土遺物38

写真図版82



537



538



540



541



541



593



542



590

出土遺物⑩



594



595



600



601



792



1367

出土遺物

写真図版84



599



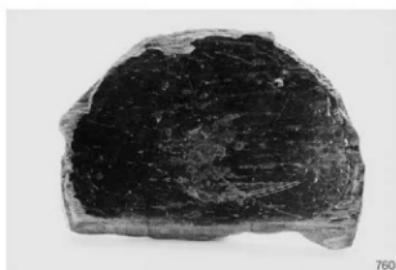
667



711



712



760



790



793



793



794



853

出土遺物④



出土遺物

写真図版86



1124



1125



1126



1127



1131



1132



1133



1208

出土遺物43



1209



1286



1304



1304



1319

1316

1317

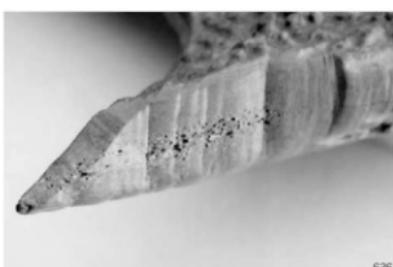
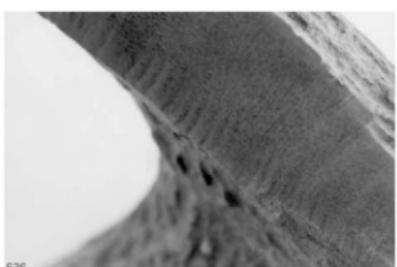
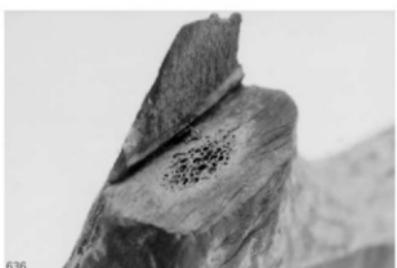
1318

1320

1321

出土遺物44

写真図版88



動物遺存体① (ニホンジカ)



動物遺存体② (ウシ)

写真図版90



860



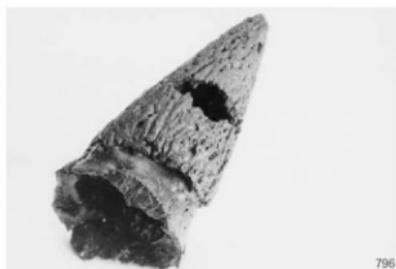
860



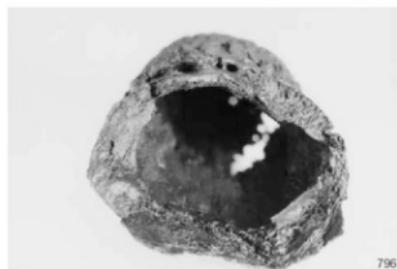
860



860



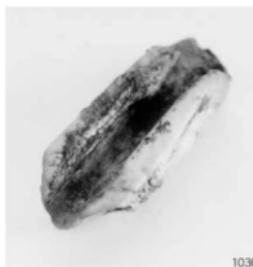
796



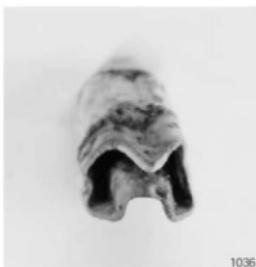
796



1036

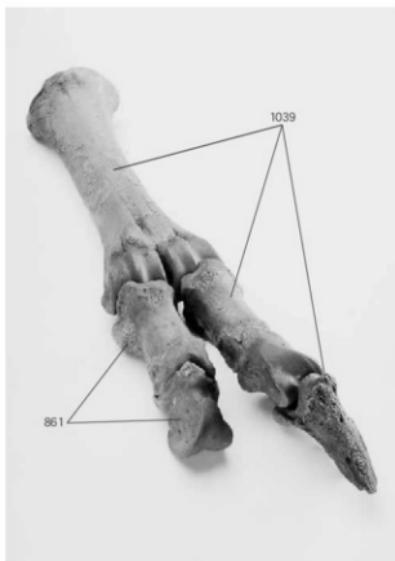
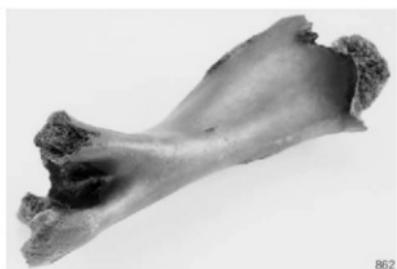


1036



1036

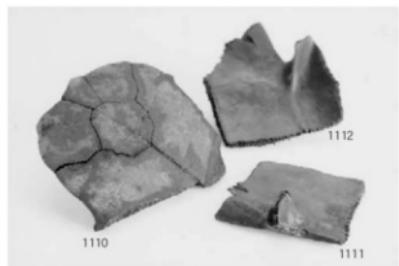
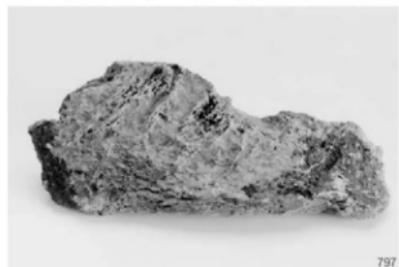
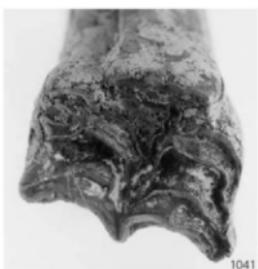
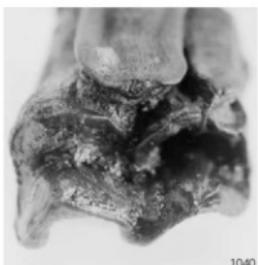
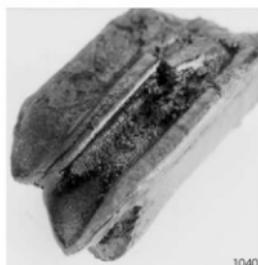
動物遺存体③ (ウシ)



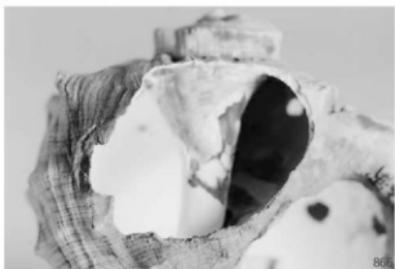
動物遺存体④（ウシ）



写真図版92



動物遺存体⑤ (ウマ、爬虫類)



動物遺存体⑥ (鳥類、哺乳類、貝類)

写真図版94



道路完成後（西から）



道路完成後（東から）

報 告 書 抄 錄

三重県埋蔵文化財調査報告288

志知南浦遺跡発掘調査報告

2008(平成20)年3月

編集発行 三重県埋蔵文化財センター

印刷 株式会社アイブレーン
